The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	連歌の発想 ： 連想語彙用例辞典と、そのネットワークの解析
Author(s)	山田, 奨治; 岩井, 茂樹
Citation	日文研叢書. 2006, 38
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23357
rights	Copyright ©2006 by the International Research Center for Japanese Studies
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

日文研叢書38

連歌の発想

連想語彙用例辞典と、そのネットワークの解析

山田奨治・岩井茂樹 編著

国際日本文化研究センター

連歌の発想

連想語彙用例辞典と、そのネットワークの解析

山田奨治・岩井茂樹　編著

国際日本文化研究センター

Imagination of Renga

Lexical Association Example Dictionary, and Analysis of that Network

Copyright ©2006 by the International Research Center for Japanese Studies
3-2 Oeyama-cho, Goryo, Nishikyo-ku, Kyoto 610-1192, Japan
Tel.075-335-2222 Fax.075-335-2091 http://www.nichibun.ac.jp/

NICHIBUNKEN JAPANESE STUDIES SERIES (日文研叢書), No. 38 (2006)
ISSN 1346-6585
Printed by SOUBUNDO

謝辞

本書は、平成一六～一八年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究Ａ「前近代日本の諸概念を対象にした知識発見のためのマイニング資源の開発」（代表者・山田奨治）の補助を受けて実施した研究の成果の一部である。日文研「連歌データベース」「俳諧データベース」の基になるデータを作成された、奈良工業高等専門学校の勢田勝郭教授に感謝申し上げます。

目次

謝辞

第一章　連歌・俳諧データベースからの知識発見 (1)

1-1　検索から発見へ (1)

1-2　先行研究 (3)

1-3　研究の対象と手法 (5)

1-4　成果の概要 (10)

注 (13)

第二章　連歌・俳諧DBより抽出した連想語彙ネットワークの解析 (21)

はじめに

2-1　連想語彙ネットワークの全体像 (21)

2-2　抽出率の変化 (24)

2-3　連想語彙ネットワーク図の変化 (26)

2-4　「ほととぎす」のイメージ (29)

2-5　「ほととぎす」余滴 (42)

2-6　まとめ (44)

注 (45)

連想語彙用例辞典

凡例・目次・索引

第一章　連歌・俳諧データベースからの知識発見

1－1　検索から発見へ

人文学を取り巻く情報環境は、ここ一〇年のあいだに大きく変わった。インターネットの普及とパソコンの高機能・低価格化が、その大きな原動力だったことはいうまでもない。しかしハード・ソフト両面が発達したことよりも、さらに重要な進歩がここ一〇年のあいだに成し遂げられた。それは、コンテンツ面の整備、とくに人文学資料の全文データ化が盛んになってきたことである。

全文データとは、その文献にある文字すべてを文字入力してデータ化したものをいう。版面をスキャナやデジカメで画像入力しただけのものは、全文データとはいわない。

版面の画像データと全文データのあいだには、データを利用する際の利便性の面で大きな差が生じる。画像データの場合は、そこに書かれてあることを、最終的には目視で読み取る必要がある。あるいは光学式自動文字読み取り（ＯＣＲ）の技術で処理できる範囲で文字データ化する方法もあるが、人文学資料によくあるような旧字体や手書きの文字にＯＣＲ技術を適用することは、現時点では困難である。

画像データに対する検索は、一般的には画像タイトルやキーワードなど、画像に付加された文字情報に対して行われる。したがって、タイトルやキーワードとして拾われなかった文字列に対して、検索を行うことはできない。

一方で、全文データの場合は、タイトルやキーワードをあえて付ける必要はない。その文献に登場するすべての文字列に対して、検索をかけることができるからである。この点が、文献資料の画像データしかない場合と、全文データ化されている場合の、大きな違いである。

コンピュータによる情報検索ができるようになってから、人文学研究が大きく進展したことに、異論を挟むひとはいないだろう。いまや、ＯＰＡＣ（Online Public Access Catalogの略。コンピュータの端末を利用してアクセスし、オンラインで検索することができる目録のこと）やＷＥＢＣＡＴ（全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベースを、インターネットで検索できるシステムのこと）などの文献データベースを検索することなしに、人文学研究を行うことは、不可能に近い。

しかし万能のように思える情報検索にも弱点はある。コンピュータはその文字にあてられたコード番号が異なると別の文字とみなし

てしまう。そのため、表記のゆらぎや漢字の異体字が出てきた場合に、望む検索結果が得られないことがある。たとえば、「デジタル」と検索語を入れると「ディジタル」とはマッチしなくなる。あるいは、将軍や幕府を意味する「柳営」と検索語をいれて、検索結果に「柳營」も含めたい場合には、「営」と「營」が異体字であるという知識を、あらかじめ検索システムに仕組んでおかなくてはならない。

表記のゆらぎや異体字の問題のほかに、情報検索にはあまり意識されない大きな弱点がある。それは、どのような語を入れたら望む結果が得られるかの先験的な知識が、利用者に備わっていることが大前提になっていることである。つまり、自分が調べたい対象についてあいまいな知識しかなく、何を検索したらいいのかわからないような利用者にとっては、情報検索システムはあまり役に立たない。

実際に人文学研究者が情報検索する場面を想像してみよう。対象についてのじゅうぶんな知識を備えた専門家が、自分の専門についての情報を検索する場面は、もちろんある。そんな場合には、既存の情報検索システムはこのうえなく有用だろう。しかし、対象についての知識がじゅうぶんでない学生や、あるいは専門外のことをしらべようとする研究者もまた、豊富なデータベースを有効に活用したい。そのような利用者は、まずその分野についての基礎的な知識を身につけてから情報検索システムを利用せよ、というべきだろうか。

ある分野の専門家が、大量のデータから新しい知識を発見しようとする場合を考えてみよう。未知のことを調べようというのだから、いったい何が鍵になることばなのかはわからない。そのような場合、専門家は知識のない素人と、ほとんどおなじ立場に立たされる。つまり、新知識の発見のためには、たんなる情報検索を超えた仕組みが要請されるのだ。

これから望まれるのは、大量データから新しい知識を発見しようとした場合に、いかにコンピュータが人間の思考を手助けできるか、なのである。

さて、文字情報に対してコンピュータで知識発見を手助けするためには、全文データを入手できることが前提となる。人文学研究の使用に耐える全文データの草分けとしては、一九七〇年代からデータ作成がはじまったプロジェクト・グーテンベルクが有名である。著作権が切れた古典作品や歴史的な文書を中心に、二〇〇六年六月時点で一八、〇〇〇作品の全文データがあり、インターネットを経由して無料でダウンロードできる。

日本国内では、一九八〇年代はじめ頃から個人ベースで古典・近代文学の全文データを作る仕事がはじまった。そうして個人で作ったデータを、当時普及しはじめていたパソコン通信を使って公開する動きがあった。それがプロジェクト・グーテンベルクに匹敵するような大きなうねりになるには、一九九七年からはじまった青空文

庫の登場を待たねばならなかった。青空文庫には日本文学を中心に、二〇〇六年六月時点で五、〇〇〇作品を超える全文データが収められている。

プロジェクト・グーテンベルクや青空文庫は、学術利用だけが目的ではなく、著作権切れの作品を共有の文化財として無料で利用できるようにすることを狙っている。学術目的で作成された全文データでは、「源氏物語」諸本の入力作業が早くからなされている。国文学研究史料館から公開されている岩波古典文学大系の全文データも、利用制限はあるものの、人文学研究者にとっては貴重なものになっている。

商業ベースで作成されたものでは、角川書店の『新編国歌大観』のすべてを収めたＣＤ－ＲＯＭ（一九九六年）が記念碑的な労作といえよう。それに先立ち発売された、『八代集』ＣＤ－ＲＯＭ（一九九五年）や、その後発売された『平安遺文』（一九九八年）、『吾妻鏡・玉葉』のＣＤ－ＲＯＭ（一九九九年）がこれに並ぶものと位置づけられる。

人文学データベースとしての重要性の点では、『読売新聞』『朝日新聞』『太陽』のＣＤ－ＲＯＭや、国立国会図書館から公開されている「近代デジタルライブラリー」に言及しないわけにはいかない。しかしながら、これらはいずれも文書の画像データベースであり、目次や見出しなど極めて限定的な項目しかテキストデータ化されていないので、本書で論じているような知識発見の用途には使いづらい。

本書では、知識発見のための全文データとして国際日本文化研究センターから公開されている「連歌データベース」と「俳諧データベース」を用いる（以後、連歌・俳諧ＤＢと略す）。このデータベースは、連歌研究者の勢田勝郭（かつひろ）氏が永年にわたって蓄積し、日文研に寄贈されたデータを公開しているものである。永禄以前（連歌師宗養が没した一五六三年まで）の現存する連歌作品のすべて、および永禄以後一七世紀末までの主要な連歌（一九七、二二八件）と、蕉門俳諧までの一七世紀末までの主要な俳諧作品（二五、六五二件）の全文がデータベース化されている。とくに連歌については、その規模とデータの正確さの点において、他に類例のない貴重なデータベースである。

本書では、この連歌・俳諧ＤＢを解析対象とし、知識発見の方法を駆使して連想関係にある語を抽出し、用例に基づく連想語彙用例辞典を作成するとともに、特徴的な語についてその概念変遷について詳しい検討を加える。

１－２　先行研究

全文データを分析するには、大量の日本語を処理できるコンピュー

タ環境が必要である。そのような能力を備えたパソコンが安価になってきたのは一九九〇年代なかばころで、そのころから日本で人文学の全文データを分析する研究が出はじめた。

人文学分野の全文データを使った数量的な研究の日本での草分けは、統計学者の村上征勝らが行った『日蓮遺文』の分析や、『源氏物語』（全五四帖）全文データの分析がある。村上らは、池田亀鑑編『源氏物語大成』に品詞情報をつけた全文データを分析し、名詞と助動詞の出現率の点で「宇治十帖」と称される一〇帖が、他の四四帖と異なる傾向を持つことを示した。「宇治十帖」は紫式部の作ではないという説を補強する材料を提供したわけである。(1)

『源氏物語』の分析をするために、村上らは品詞情報を加えた全文データをまさに手作りで作成した。そのデータはすでに市販されており、作成に膨大な手間暇をかけたものであるにもかかわらず、一〇、〇〇〇円を切る値段でそれを購入することができる。作成したデータを独占的に使用したり、高い値段で販売したりするのではなく、研究者が気楽に買える価格に抑えるか、あるいは無料で公開することが、研究の発展のために重要であることはいうまでもなかろう。

特筆すべきは、情報科学者の竹田正幸と国文学者の福田智子らが『新編国歌大観』ＣＤ―ＲＯＭに収録された全文データを使って行った、一連の知識発見の共同研究である。彼らの成果は、全文データに対して知識発見的な手法を適用することで、人文学上の具体的な発見にまで結びつけた、日本で最初の研究と位置づけられよう。

先に述べた村上らの『源氏物語』の研究は、いわば従来、人文学においても指摘されていた仮説を、統計という別の言語を使ってより精密に表現することに成功したものといえる。人文学にも統計が有効なことを実証的に示した先駆的な研究のひとつと位置づけられる。しかし、同時に統計という「言語」のトレーニングを受けていない人文学者たちにとっては、必ずしもわかりやすい研究ではなかったように思われる。その点で、竹田らの研究は用例の発見という、人文学者がふだん行っていることを、知識発見の手法により成し遂げたという意味で、その有効性がより広く受け入れられうるだろう。

竹田らの手法は、ふたつの和歌のあいだの類似性を数値化し、ある基準でみたときの「似た歌」のペアを『新編国歌大観』にある約四五〇、〇〇〇首のなかから抽出して、その類似ペアがもつ和歌研究のうえでの意義を精査したことに特徴がある。かりに四五〇、〇〇〇首から二首を取り出した場合、その組み合わせの数は百億とおりを超える。竹田らの手法の特徴は、いわば天文学的な数の調査対象のなかから、何らかの知見に結びつきうる可能性のある候補を人力のおよぶ数だけ取り出し、専門家が検討を加えたことにあった。

この手法により竹田らは、『後撰和歌集』（九五一年勅命）に収められた藤原兼輔（八七七～九三三）の歌「人の親の　心は闇に　あ

らねども　子を思ふ道に　まどひぬるかな」の類似歌に、『古今和歌集』（九〇五序）にある清原深養父（ふかやぶ）の「人を思う　心は雁に　あらねども　雲居にのみも　なきわたるかな」があることを発見した。この引用関係は、既存のどの注釈書にも指摘されていないものだった。

従来の解釈では、兼輔の歌は子を思う親の一途な心情をすなおに表現したものと理解されていた。しかし『古今和歌集』にその本歌とみられる歌がみつかったことで、兼輔の歌は恋心を親心に置きかえた、技巧的な替え歌だったともみることができる。[2] コンピュータによる知識発見的な手法により、和歌にあらたな解釈を与えることができたのである。

いうまでもなく、『新編国歌大観』のＣＤ－ＲＯＭが発売されたことが、竹田らの研究を可能にした。人文学の全文データが世に出ることで、そこから新たな研究の可能性が拓かれることをも、彼らの研究は示している。

しかしながら、同ＣＤ－ＲＯＭに収められた全文データと附属の検索システムは、そのままでは知識発見の用には足りないものだったこともまた、事実である。その最大の理由は、全文データが独自の形式に変換されてＣＤ－ＲＯＭに入っているため、附属の検索システムを介さずにデータにアクセスすることが、技術者でなければできないようになっていることである。

全文データが想定外の目的に利用されることを抑止するための、販売側の対策なのであろうが、こういった措置が、販売側の想定を超えた高度な研究利用の芽をも摘むことになっている。竹田らは同ＣＤ－ＲＯＭのデータ形式を解析し、そこから全文データを取り出したうえで独自の校正を施し、データの誤謬を修正したうえでこの研究に使用した。願わくは、研究者がそういった余計な労力を使わずに済むよう、ワープロやテキスト・エディタでファイルを開けばデータが読めるような、平易なデータ形式で公開されることが理想である。

連歌を対象にしたものでは、連歌・俳諧ＤＢの基になっているデータの作成者でもある勢田勝郭による研究がある。[3] 勢田はパーソナル・コンピュータが普及しはじめた一九七〇年代から、コンピュータを連歌研究に応用する試みを先駆的に進めた。主としてパソコンの検索機能と統計を用いて、連歌表現の時代変化を計量的・実証的に行った。連歌の研究者人口が少なく、また専門外にはあまり注目されてこなかった研究であるけれども、その精緻な研究手法からは学ぶべき点が多い。

１－３　研究の対象と手法

連歌と俳諧は、中世から近世にかけて盛んに行われた文芸である。

両者は、文学の世界にとどまらず、絵画、芸能などにも大きな影響を与えていることが、先学の研究によって縷々指摘されてきた。例えば、小西甚一や島津忠夫は能楽との関係について、鶴崎裕雄や島津新は絵画との関わりを、熊倉功夫、伊地知鉄男は茶道との関係を指摘している。[4] しかしながら、それらの研究は確かに多くの示唆を与えてはくれるものの、実際には必ずしも実証的とは言えないものもあり、同時代に興隆していた文芸、もしくはよく似た空間や様式で行われていた芸能といったことだけで関係づけられているような恣意的な論も少なくない。

とはいえ、連歌や俳諧には「式目」とよばれる複雑なルールがあり、その世界を理解することはそれほど容易ではない。したがって、ある特定のジャンルで連歌や俳諧の影響が指摘されたとしても、その連歌・俳諧の世界とはどんなものか、その全体像がはっきりしないまま論じられてきたというのが実状である。これが、従来の研究が恣意的であるとみなされてもしかたのない決定的な要因であった。極言するなら、連歌や俳諧は何だか難しそうなルールに規定されており、そのルールに従って関連性のある語句が鎖のように連続していく文芸、といった理解だけで論じられてきたのである。

しかし、最もシンプルに考えれば、連歌や俳諧というのは、ある句（前句とする）に対し、次の句（付句とする）に前句にある単語や意味と関連する語彙を配して、発想を次々と展開していくゲームであるといえる。したがって、基本的に前句と付句の間には、必ず何らかの連想関係が成立していなければならない。この付け方を連歌では付合（あるいは付様）という。この付合の関係にある語をうまく抽出できれば、連歌・俳諧における連想語彙用例辞典を作成することができる。

次に、連歌・俳諧ＤＢから知識発見の手法により連想語彙を抽出した手法について述べる。

基本的なアイデアは、「前句・付句に含まれる語が共通である用例が複数発見できた場合、それらの語は何らかの連想関係があるかもしれない」というものである。そのような用例を手作業で網羅的にみつける作業は、作業量が膨大過ぎて、とうてい人力では不可能である。そこで、用例発見という人力がおよばない部分をコンピュータで支援させることにした。そして、異本の判断や古典語彙の分解など、現在の情報技術では難しい部分と処理プログラムの開発に、研究者の労力を集中させた。

日文研から公開されている連歌・俳諧ＤＢには、それぞれの連歌集・俳諧集について作品集名、作成年月日、作品区分、句番号、そして句が入っている。各項目の説明は、つぎのとおりである。

〈作品集名〉

通用のものは、その呼称を用いている。作品名が不明な場合は、作者名、成立年代、成立事情などから判断し、最適と思われる名を

付けている。

〈作成年月日〉

その連歌・俳諧が行われた年月日が入っている。連歌の「付句集」「発句集」、俳諧の「付句」「発句」は、その書物が発行された年になっている。

〈作品区分〉

連歌は、「千句」「百韻」（千句残欠を含む）「大山祇神社法楽連歌」「三物類」「付句集」「発句集」に区分されている。俳諧は、「連句」「発句」「付句」「三物」に区分されている。それぞれの説明は、つぎのとおりである。

▼連歌

【千　句】百韻を一〇回行ったもの。全部で一、〇〇〇句となるが、時に追加として数首が加えられることがある。

【百　韻】正式な連歌の形式、百韻で一巻と称する。

【大山祇神社法楽連歌】国指定重要文化財（昭和四七年指定）。神仏の徳を称えるために 奉納された連歌集。中世の文安二年（一四五五）から江戸期の寛文一一年（一六七一）までの約三〇〇年間、二八〇巻に及ぶ。道後湯築城主河野氏から庶民までに及ぶ連歌資料。

【三物類】百韻などの連歌作品から、優れた三句単位の付合を取り出し集めたもの。

【付句集】百韻などの連歌作品から、優れた二句単位の付合を取り出し集めたもの。有名なものに『菟玖波集』や『新撰菟玖波集』がある。

【発句集】連歌作品の発句だけを集めたもの。

▼俳諧

【連　句】俳諧の連歌のこと。三六句、四四句、五〇句、一〇〇句などの形式がある。

【発　句】俳諧の連歌における発句のみを分離、蒐集したもの。

【付　句】連歌の俳諧作品から、優れた二句単位の付合を取り出し集めたもの。連歌の【付句集】と同じ形式。

【三　物】連歌の俳諧作品から、優れた三句単位の付合を取り出し集めたもの。連歌の【三物類】と同じ形式。

〈句番号〉

連歌における「百韻」、「千句」、俳諧における「連句」など連続して一巻をなしているものは、一巻ごとに連続して番号を付してある。連歌における「三物類」や「付句」、俳諧における「付句」、「三物」には、連続で番号を付したものもあるが、付句（二句単位）、あるいは三物（三句単位）で番号を付したものもあり、作品によって番号の付与方法は異なる。

〈句〉

句はすべてひらがなで入力されており、五字、または七字単位で

区切られている。ただし、俳諧の一部の作品には、ひらがなの他に漢字入力を併記したものがある。また俳諧の一部の作品には、作者も記載されていることがあるが、多くの作品では作者名の入力は行われていない。

連歌・俳諧ＤＢの、このようなデータを加工し、表１－１のような形式の処理用基データを作成した。そのデータ構成は、「作品集名」「作品名」「作成年月日（和暦）」「作成年（西暦）」「句番号」「句」の六種類の項目からなる。「句」はひらがなで表記され、五・七の文字の区切りにハイフンが挿入されている。作成手順の概略は、つぎのとおりである。

【手順】

①連歌・俳諧ＤＢから五・七文字を抽出し、その出現度数を数える。これを「五・七出現度数」と呼ぶことにする。ゲタ文字が含まれる句は、この時点で除く。

②すべての五・七文字について、それが出現する句の付句に登場する五・七文字の出現度数を数える。これを「付句五・七出現度数」と呼ぶことにする。

③「付句五・七出現度数」が二以上ある五・七文字のペアを抽出する。

④それに該当する前句・付句の全体を取り出し、異本を手作業で削除する。

⑤残った五・七文字を手作業で語彙分解し、連想関係の妥当性を確認・修正する。そうして抽出された五・七文字を「連想語」、語彙分解したものを「連想語彙」とする。

手順①により取り出された五・七文字は、二三二、五四七種類で、その上位五〇件は、つぎのようになる。

ほととぎす（807）　なりぬらむ（457）　あさほらけ（316）　のこるらむ（315）　くさまくら（309）　あきのかせ（297）　うくひすの（274）　ひとのこころの（258）　いかかせむ（246）　こころにて（239）　ゆふまくれ（239）　よはのつき（238）　かへるらむ（237）　はなさきて（233）　かりまくら（231）　あらはれて（229）　あきふけて（213）　やまさくら（212）　かはるよのなか（209）　ものおもひ（208）　おもふらむ（204）　ときりす（200）　はなさかり（193）　あきのつき（191）　いかならむ（189）　うつろひて（188）　はなのかけ（188）　くさのいほ（181）　あさかすみ（180）　あきかせに（176）　やまほととぎす（176）　しつかにて（173）　ふるさとに（172）　いかはかり（171）　かねなりて（163）　ふるさとの（163）　わするらむ（163）　あきのくれ（159）　あきのそら（159）　ありあけに（158）　かすむらむ（157）　たひのそら（157）　ふけぬらむ

(156)　ふくかせに（154）　ちきりにて（152）　いそくらむ
(148)　はなちりて（148）　いたつらに（145）　かせふきて
(144)　からころも（144）　しつかなる（144）　つきをみて
(144)（括弧内は度数）

つぎに手順②③の結果、「付句五・七出現度数」は、つぎのような形で七、七二二ペアが得られた。リストの読み方は、たとえば第一行目は、「あかしかた」を含む句は五六あり、そのうち前句に「あかしかた」、付句に「ちとりなくこゑ」を含むペアは二あることを示している。

あかしかた（56）　ちとりなくこゑ（2）
あかしかた（56）　をかこえのみち（2）
あかしかた（56）　をかへのあきの（2）
あかしのなみの（5）　おこなひに（2）
あかしのなみの（5）　かねなりて（2）
あかしのなみの（5）　たえぬむときの（2）
あかすたまくら（4）　ちちははも（2）
あかすたまくら（4）　やつこにて（2）
あかつきききし（2）　ほととぎす（2）
あかつきききし（2）　ゆくへわすれぬ（2）
あかつきの（102）　あはちやま（2）
あかつきの（102）　いくかへるさに（2）
あかつきの（102）　うはそくの（2）
あかつきの（102）　うらむらむ（2）
あかつきの（102）　きぬきぬに（2）
あかつきの（102）　きぬきぬのそて（2）
あかつきの（102）　こころにて（2）
あかつきの（102）　さるのこゑ（2）
あかつきの（102）　つきおちて（2）
あかつきの（102）　つきそうき（2）
あかつきの（102）　ねさめして（2）
あかつきの（102）　みはそれなから（2）
あかつきの（102）　ゆめさめて（2）
あかつきの（102）　わかるらむ（2）
あかつきの（102）　をしかなく（2）

手順④⑤で異本の削除と連想関係の妥当性の確認をした結果、連想語を含む前句・付句のペアが二、八五六対残った。

こういった作業の結果、抽出されたものの一例を見ておこう。たとえば、『永禄年間百韻二八巻』にある「さらてたに　つきによなよな　あかしかた　まくらにあきの　ちとりなくこゑ」と『天正年

間百韻五七巻』にある「わひつつも　うらなれけりな　あかしかた
　まくらにちかし　ちとりなくこゑ」とでは、前句の「あかしかた」（明石潟）と付句の「ちとりなくこゑ」（千鳥鳴く声）が共通する。このように複数の用例があるものは、何らかの定型的な連想関係にある語彙を含む可能性が高いことは容易に推察できよう。

　このようにして抽出されたすべての連想語彙候補について、連想関係の妥当性を目視によりチェックし、必要に応じて修正を加えた。前述の例では、「明石潟」の連想語は「枕に千鳥鳴く声」となる。さらにこれらの連想語から名詞、動詞、形容詞、形容動詞を取り出し、連想語彙に分解した。例えば「枕に千鳥鳴く声」は、「まくら」「ちどり」「なく」「こえ」に分解される。

1－4　成果の概要

　こうした抽出作業を行った結果、取り出された連想語彙を概観しておこう。

　まず、取り出された語彙のほとんどが連歌ＤＢからの連想関係であり、俳諧ＤＢからのものは三二例しかなかった。これは、俳諧ＤＢに収録されている用例の範囲では、五・七文字の単位でみた場合、連想関係をうまく抽出できないことを意味している。したがって、連想語彙用例辞典からは、俳諧からの用例を除去することにした。最終的に、連想語彙は、前句・付句のペア二、八二四対から抽出された六七七語になった。この結果はそのまま、連歌・俳諧の連想語彙用例辞典にもなる。連想語彙を見出し語にして、辞典に編集し直したものを、巻末に添付した。

　俳諧ＤＢからの抽出例がほとんどなかったことについては、次のようなことが考えられる。まずは、句数が少なすぎることである。先にも述べたように、連歌が永禄以前（連歌師宗養が没した一五六三年まで）の現存する連歌作品のすべて、および永禄以後一七世紀末までの主要な連歌（一九七、二二八件）を収載しているのに対し、俳諧は蕉門俳諧までの一七世紀末までの主要な俳諧作品（二五、六五二件）しか収載されていない。つまり、連歌ＤＢの約八分の一の句数しかない。さらに、残念なことに、俳諧ＤＢは一六四〇～一七〇〇年という短い期間の句しか収載されていないという事実がある（それもほとんどが蕉門俳諧のデータである）。これも連歌が約四〇〇年間の句を採録しているのとは、大きな違いである。すなわち、俳諧ＤＢは数の少なさと収載期間の短さが、抽出例の少なさに大きく影響している。当時の俳諧は貞門俳諧（松永貞徳（一五七一～一六五三）を中心とした俳諧）、談林俳諧（西山宗因（一六〇五～一六八二）を中心とした俳諧）から、松尾芭蕉（一六四四～一六九四）を中心とした蕉門俳諧への移行期であり、俳諧史の中でも最も変化の激しかった時期である。ここに抽出例が少なかったことは文学史

的な観点から見ても十分に首肯できる結果であるといえよう。もし、一六四〇年以前のデータと、一七〇〇年以降のデータが大量にあれば、多くの抽出例を見いだせる可能性は十分にある。

また、俳諧が俗語を使用してよいことも、抽出例が少なかった一要因であろう。連歌が歌言葉、雅語によって作られるのに対し、俗語を用いるのが俳諧の特徴の一つである。ということは、これまで和歌や連歌で使われなかった語彙を用い、そこに俳諧味を見出そうとするのは、当然のことであろう。この二点、つまり俳諧DBの句数の少なさと採録期間の短さ、そして俳諧が俗語を使用する文芸であること、が俳諧DBからの抽出例が少なかった最大の理由であると考えられる。

さて、このようにして用例を基にした連想語彙用例辞典が作られたわけであるが、旧来の縁語辞典類に収録されている語と比較して、どの程度異同があるものになっているのだろうか。もし旧来の縁語集に指摘のない連想語が拾われているのならば、それはこの研究の成果だといえよう。

そこで、連想語彙用例辞典に拾われた語が、旧来の縁語集に収載されているか否かについて調べてみた。調べた対象は、『連歌合壁集』(一四七六年奥書)、『宗長歌話』(一四八〇年成立)『連歌作法』(一四八九年奥書)、『せわ焼草』(一六五六年刊)、『便船集』(一六六九年成立)、『初本結』(一六六二年上梓)、『俳諧類船集』(一六七六年成立)の七種類の縁語集である。その結果を表1－2に示した。ここからわかるように、旧来の縁語集に指摘のない連想語彙が多数含まれているのがわかる。より精密な分析のためには、この研究から浮かび上がった連想語彙のすべてを同様にチェックする必要性があるが、多大な労力を要するので行っていない。しかし、表1－2をみれば、従来の縁語集にない連想語彙を指摘できていることはまちがいない。

つぎに、抽出された六三〇語の連想語彙の出現頻度を出し、頻度の降順に並べた。その結果の上位五〇語を示したものが、つぎのリストである。括弧内には出現度数と『古事類苑』[5]の索引に従い部類分けした結果を示した。例えば、(天)とあれば『古事類苑』の「天部」に記載があることを意味する。索引に項目がないものは(—)とした。

つき(313、天)　ほととぎす(311、動物)　あき(302、歳時)　やま(266、地)　こえ(264、天・人)　かぜ(261、天)　はな(198、植物)　はる(180、歳時)　うぐいす(166、動物)　なく(156、—)　よる(147、歳時)　ひと(147、人)　かすみ(138、天)　くれ(123、—)　かげ(121、—)　そら(111、天)　みち(110、地)　いち(110、—)　くさ(109、植物)　まくら(103、器用)　そで(102、服飾)　まつ(101、植物)　つゆ(97、

天）　かえる（94、―）　ふね（92、器用）　かり（92、動物）
こころ（91、人）　ありあけ（90、歳時）　なみ（86、地）　あさ（86、歳時）　ゆう（82、歳時）　よ（80、―）　かね（78、宗教）　くも（76、天）　おと（72、―）　ゆめ（70、人）　ころも（68、服飾）　おもう（68、―）　みず（63、―）　なか（63、―）　ふるさと（61、―）　ゆき（59、天）　なる（57、―）　ふく（56、―）　にち（55、歳時）　ふける（53、―）　いりあい（53、歳時）　むれ（52、―）　ふる（52、―）　した（52、―）

つぎに、抽出された連想語彙の変化を、年代別に追ってみよう。時代区分は、連歌ＤＢ上での句数のバランスと連歌史上の画期とを考え合わせて、つぎの五期に分類した。[6] ただし、「付句集」と「三物」は作句年ではなく本の出版年しかわからないので、除いてある。また、作句年のわからない句も分析の対象外にしてある。

第一期：　一四五〇年以前（飯尾宗祇以前）　一七、六四一句
第二期：　一四五一～一五〇二年（宗祇の活躍期）　六八、〇四八句
第三期：　一五〇三～一五六三年（谷宗養の活躍期）　六四、四三七句
第四期：　一五六四～一六〇二年（里村紹巴の活躍期）　一九、三七五句
第五期：　一六〇三年以後（紹巴以後）　二五、六四一句

この時代区分と抽出句数については、次章に再録し、若干の考察を加えることにする（第二章、２・１）。

抽出された連想語彙を出現度数が高い順に、各期上位二〇語を抜き出したのが、表１―３である。これをみれば、「つき」のように定座[7]のあるものは、やはり各期とも上位にきていることがわかる。なかでも特徴的な動きをしているのが、「ほととぎす」である。第一期で「ほととぎす」は、度数九で二五位だった。それが第二期には六位になり、第三期以後は一位を占めるようになっている。

どうやら「ほととぎす」は第二期以後、連歌の連想語彙として頻繁に用いられるようになったようだ。このことを、連歌ＤＢに含まれる各期の総句数に占める、「ほととぎす」の語を含む句数の割合で確認しておこう。その結果が表１―４である。これによると、やはり第二期以後に、「ほととぎす」の語が急激に用いられるようになっている様子がみてとれる。

こういった「ほととぎす」の変化は、連歌に特有なことだったのだろうか。そこで疑問になるのは、和歌における「ほととぎす」に同様の変化があったかということである。

日文研からは、やはり勢田氏が作成し寄贈された「和歌データベース」もまた公開されている。和歌ＤＢには、七〇〇年代から一五〇

〇年代までの勅撰和歌集（全二一集）のすべてと、『万葉集』をはじめ『夫木和歌集』などの私撰集、および主要な私家集の和歌が二八、〇一八首収録されている。この和歌ＤＢを利用して、各期の和歌に占める「ほととぎす」を含む歌の数を数え、割合を比較してみた。

その結果が表１－５である。和歌の場合「ほととぎす」の歌は、第三期に割合がやや減少するものの、いずれの期でもほぼ二％代で一定している。出現率は連歌の場合よりもはるかに高いが、年代による出現率の変動はさほどみられない。したがって、「ほととぎす」を取り巻く連想関係の変化は、和歌ではみられず連歌に特有な現象だったことが発見できた。

「ほととぎす」に関するより詳細な分析は次章で行うことにして、最後にこの手法の限界と課題点について述べておく。

最大の欠点は、連想関係を五・七文字の単位でしか拾えていないことにある。連想関係を持つ語は、二文字や三文字といった短い文字列である場合も、もちろんありえる。しかしながら、短い文字列について同様の手法を試みようとすると、自動抽出される連想語の候補が爆発的に増えてしまい、人間が手作業で確認作業をすることが事実上、不可能になってしまう。現状では、最短で五文字の単位に抑えることで、かろうじて人力がおよぶ範囲に候補を絞り込むことができている。この欠点を克服するためには、句の漢字化か、あるいは形態素解析をしておくことが必要になる。しかし、これもまた膨大な作業を要することであるので、現状では望むべくもない。

もうひとつの欠点は、あくまでも文字列上の一致でしか連想関係をみていないことにある。連歌の付合では、違うことばを使っていても、その底流にある付合の心はおなじであるという場合も、ふんだんにあろう。そのような連想関係を抽出することもまた、現状では人間のセンスに頼るしかない。

こういった課題点を考えると、この手法で抽出された連想語彙は網羅的なものでは決してない。連歌・俳諧ＤＢのなかには、未だ抽出されていない未知の連想語彙が山のように残っていると考えるべきである。しかしながら、たとえ取りこぼしがあったとしても、未知の連想語彙を新たに発見し得たことの価値には変わりはあるまい。さらに連歌の連想関係における「ほととぎす」の時代的変化を見出し、深く考察すべき課題を発見し得たこともまた重要である。

以上のことを小括とし、次章の考察に論をつなぐことにする。

注

(1) 村上征勝『文化を計る』、朝倉書店、二〇〇二年一二月

(2) 竹田正幸、福田智子「類似歌を探せ　デジタル国文学の新展開」『日経サイエンス』二〇〇二年五月号、一一八～一二五頁

(3) 勢田勝郭『連歌の新研究　索引編（宗祇の部）』『同　索引編（肖柏・宗

長の部)』『同　論考編』『同　索引編（七賢の部）』、桜楓社、一九九二～九五年

(4) 能楽については、小西甚一『能楽論研究』（塙選書、昭和三六年四月）、島津忠夫『能と連歌』（和泉書院、平成二年三月）などに指摘がある。絵画との関係については、鶴崎裕雄「連歌師の絵心―連歌と水墨山水画、特に瀟湘八景図について―」『芸能史研究』第四三号（芸能史研究会、昭和四八年一〇月）や島尾新「連歌的世界の図像学―室町時代の『尽し』風屏風を例に」（板倉聖哲編『講座日本美術史』第二巻、東京大学出版会、平成一七年五月所収）などがある。また能や歌舞伎、茶道などとの関係については、「特集　連歌と能・狂言と―中近世の集団的演劇性」（『国文学　解釈と教材の研究』第四三巻一四号、学燈社、平成一〇年一二月）所収の諸論稿があるが、この中に茶道との関係を論じた熊倉功夫「茶の湯の連歌的性格」がある。茶道との関係を述べたものには他に、伊地知鉄男「中世的芸能の性格―たとえば連歌と茶湯について」（『伊地知鉄男著作集』Ⅱ、汲古書院、平成八年一一月所収）がある。

(5) 『古事類苑』は、明治二九年から大正三年にかけて刊行された日本最大の百科史料事典である。歴代の制度、文物、社会百般の事項を天・歳時・地・神祇などの三〇部門に分類し、そこには慶応三年以前の基本的な文献から各項に関わる史料が採録されている。

(6) 福井久蔵『連歌への道』（『福井久蔵著作選集』、国書刊行会、昭和五六年二月）、木藤才蔵「連歌Ⅱ」（和歌文学会編『和歌文学講座』第三巻（歌壇・歌合・連歌）、桜楓社、昭和四七年七月）などを参考にした。ただし、ここでは基データ数を鑑みて連歌全体の時代区分ではなく、連歌の隆盛期から衰退期、もしくは室町期の時代を新たに区分しなおした形となった。ちなみに、ここで設定した時代区分をまたぐ可能性がある句をもつ付句集（たとえば『新撰菟玖波集』など）は除外し、データの処理を行った。なお参考のため、各連歌師の生没年を記しておくと、飯尾宗祇（一四二一～一五〇二）、谷宗養（一五二六～一五六二）、里村紹巴（？～一六〇二）である。

(7) 定座とは、決められた景物が必ず読みこまれる位置をさす。例えば、歌仙（三六句で一巻）では花を二つ、月を三つ詠むことになっている。月の場合、初折表の五句目、裏の八句目あたり、名残の折の表一一句目あたりが定座となる。花の場合は、初折裏の一一句目、名残の折の裏五回目がそれに当たる。ちなみに、連歌では懐紙を二つ折にしたものを百韻は四枚、歌仙は二枚というように使い、一枚の表裏に記す句数を定めている。一枚目の懐紙を一の折または初折（しょおり）とし、二枚目の懐紙を二の折、三枚目の懐紙を三の折と呼ぶ。最後の懐紙は名残の折と呼び、百韻では四の折が、歌仙では二の折がこれに当たる。

表１-１　処理用連歌・俳諧基データ（一部）

作品集名	作品名	作成年月日	作成年	句番号	句
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00001	なはたかくーこゑはうへなしーほととぎす
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00002	しけるきなからーみなまつのかせ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00003	やまかけはーすすしきみつのーなかれにて
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00004	つきはみねこそーはしめなりけれ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00005	あきのひのーいてしくもまとーみえつるに
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00006	しくれのそらもーのこるあさきり
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00007	くれことのーつゆはそてにもーさたまらて
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00008	さとこそかはれーころもうつこゑ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00009	たひひとのーまたれしころやーすきぬらむ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00010	けふよりのちのーはなはたのます
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00011	かすめともーこすゑにかせはーなほふきて
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00012	かけにはのこるーやまのしらゆき
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00013	かはかみのーつきにやみつのーこほるらむ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00014	なみのよるこそーあらはさむけれ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00015	ことかたにーかよふちとりのーこゑとほし
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00016	ともなしとてもーたひのゆふくれ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00017	みをたにもーおもひすてたるーよのなかに
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00018	あきのうきをはーのこすやまさと
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00019	つゆならはーなみたのそてにーこころせよ
【文和千句】	文和千句　第一：何人［なはたかく］	文和五年	1355	00020	まつもたのみのーよこそなかけれ

表１－２：既存の縁語集への収録の有無（一部）

見出し語	縁語	連歌合璧集(1476)奥書		宗長歌話(1490)		連歌作法(1489)奥書		連歌寄合(1494)奥書		せわ焼草(1656)刊		便船集(1669)		初本結(1662)上梓		俳諧類船集(1676)	
		対応語	対応語への付	対応語	対応語への付合語	対応語	対応語への付合語	対応語	対応語への付合語	対応語	対応語への付合語	対応語	対応語への付合語	対応語	対応語への付	対応語	対応語への付合語
明石潟	枕に千鳥鳴く声	明石の宿	新枕	なし	なし	明石	千鳥	明石	新枕・草枕	なし	なし	明石	千鳥	なし	なし	明石	千鳥
明石潟	枕に千鳥鳴く声	明石の宿	新枕	なし	なし	明石	千鳥	明石	新枕・草枕	なし	なし	明石	千鳥	なし	なし	明石	千鳥
明石潟	続く岡越えの道	明石	岡	なし	なし	明石	岡	明石	岡	なし	なし	なし	なし	なし	なし	明石	岡辺
明石潟	続く岡越えの道	明石	岡	なし	なし	明石	岡	明石	岡	なし	なし	なし	なし	なし	なし	明石	岡辺
月の明石潟	岡辺の秋	明石	岡	月	秋	明石	岡	明石	岡	なし	なし	なし	なし	なし	なし	明石	岡辺
月の明石潟	岡辺の秋	明石	岡	月	秋	明石	岡	明石	岡	なし	なし	なし	なし	なし	なし	明石	岡辺
暁月	時雨	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
暁月	時雨	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
暁	衣々の袖	暁	衣々	なし	なし	なし	なし	なし	なし	暁	衣々	なし	なし	なし	なし	なし	なし
暁	衣々の袖	暁	衣々	なし	なし	なし	なし	なし	なし	暁	衣々	なし	なし	なし	なし	なし	なし
明かぬ語らい	花盛り	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
明かぬ語らい	花盛り	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
翫かぬ琴の音	松風の月	琴の音	松風	なし	なし	なし	なし	琴	松風	なし	なし	琴	松風	なし	なし	琴の音	松風
翫かぬ琴の音	松風の月	琴の音	松風	なし	なし	なし	なし	琴	松風	なし	なし	琴	松風	なし	なし	琴の音	松風
秋風が吹く	鳴く蟋蟀	秋の心	蟋蟀	秋	蟋蟀	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風が吹く	鳴く蟋蟀	秋の心	蟋蟀	秋	蟋蟀	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風が吹く	露降る	秋の心	露	秋	露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風が吹く	露降る	秋の心	露	秋	露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	衣打つ	秋の心	衣打つ	秋	衣打つ	秋風	衣打つ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	衣打つ
秋風	衣打つ	秋の心	衣打つ	秋	衣打つ	秋風	衣打つ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	衣打つ
秋風	庭の月影	秋の心	月	秋	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	庭の月影	秋の心	月	秋	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	野辺の虫の音	秋の心	虫	秋	野辺の色	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	野・虫
秋風	野辺の虫の音	秋の心	虫	秋	野辺の色	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	野・虫
秋風	初雁の声	秋の心	雁(初雁	秋	初雁	秋風	雁	なし	なし	なし	なし	秋風	雁(初雁)	なし	なし	なし	なし
秋風	初雁の声	秋の心	雁(初雁	秋	初雁	秋風	雁	なし	なし	なし	なし	秋風	雁(初雁)	なし	なし	なし	なし
秋風	松虫の声	秋風	松虫	秋	松虫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	虫
秋風	松虫の声	秋風	松虫	秋	松虫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	虫
秋風	山の端の色	なし	なし	秋	山の色付	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	山の端の色	なし	なし	秋	山の色付	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	タベ寂しい	秋の心	秋の夕	秋	夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	タベ寂しい	秋の心	秋の夕	秋	夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	古里のタベ	秋の心	秋の夕	秋	夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	古里のタベ	秋の心	秋の夕	秋	夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋寒い	打つ朝衣	秋寒	衣打つ	秋	衣打つ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋寒い	打つ朝衣	秋寒	衣打つ	秋	衣打つ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
涼しさに秋立つ	蜩の声	秋の始の心・秋風	蜩	秋	蜩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	涼し	蜩の声	なし	なし	秋風涼	蜩
涼しさに秋立つ	蜩の声	秋の始の心・秋風	蜩	秋	蜩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	涼し	蜩の声	なし	なし	秋風涼	蜩
秋風	衣々の後	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	衣々の後	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	衣打つ声	秋の心	衣打つ	秋	衣打つ	なし	なし	秋風	衣打つ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	衣打つ
秋風	衣打つ声	秋の心	衣打つ	秋	衣打つ	なし	なし	秋風	衣打つ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	衣打つ
秋風	鴫の羽掻き	秋の心	鴫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	鴫の羽掻き	秋の心	鴫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	露が氷る	秋の心	露	秋	露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	露が氷る	秋の心	露	秋	露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

秋風	露が氷る	秋の心	露	秋	露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	船から聞く波が凄まじ	なし	なし	秋	すさまじき	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	すさまじ
秋風	船から聞く波が凄まじ	なし	なし	秋	すさまじき	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	秋風	すさまじ
秋風	蜩の声	秋の始の心・秋風	蜩	秋	蜩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	蜩の声	秋の始の心・秋風	蜩	秋	蜩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	枕は何処	なし	なし	秋	枕の露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	枕は何処	なし	なし	秋	枕の露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	松虫の声	秋風	松虫	秋	松虫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	松虫の声	秋風	松虫	秋	松虫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	山の端の月	なし	なし	秋	月	なし	なし	秋風	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋風	山の端の月	なし	なし	秋	月	なし	なし	秋風	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の川風	霧わたる	秋の心	霧	秋	霧	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	川	渡る	なし	なし
秋の川風	霧わたる	秋の心	霧	秋	霧	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	川	渡る	なし	なし
秋草	鳴く蟋蟀	秋の心	蟋蟀	秋	蟋蟀	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	草垣	蟋蟀
秋草	鳴く蟋蟀	秋の心	蟋蟀	秋	蟋蟀	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	草垣	蟋蟀
秋の暮方	初時雨	秋の末の心	時雨	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の暮方	初時雨	秋の末の心	時雨	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の沢水	鴨鳴く	秋の心	鴨	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	沢	鴨あみ	沢	鴨
秋の沢水	鴨鳴く	秋の心	鴨	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	沢	鴨あみ	沢	鴨
秋の寂しさ	朝霧	秋の心	霧	秋	霧	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の寂しさ	朝霧	秋の心	霧	秋	霧	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の寂しさ	霧の内	秋の心	霧	秋	霧	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の寂しさ	霧の内	秋の心	霧	秋	霧	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の寂しさ	夕まぐれ	秋の心	秋の夕	秋	夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	さびしき	夕暮	なし	なし	なし	なし
秋の寂しさ	夕まぐれ	秋の心	秋の夕	秋	夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	さびしき	夕暮	なし	なし	なし	なし
秋時雨	色付く	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	時雨	紅葉	なし	なし	時雨	紅葉
秋時雨	色付く	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	時雨	紅葉	なし	なし	時雨	紅葉
秋の空	月の夕暮れ	秋の心	月・秋の	秋	月・夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の空	月の夕暮れ	秋の心	月・秋の	秋	月・夕暮	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の月	袖の露	秋の心	露	秋	袖の露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の月	袖の露	秋の心	露	秋	袖の露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
吹く風に秋の露	蜩の声	秋の始の心・秋風	蜩	秋	蜩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
吹く風に秋の露	蜩の声	秋の始の心・秋風	蜩	秋	蜩	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の初風	月出る	秋の心	月	秋	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の初風	月出る	秋の心	月	秋	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の初風	月出る	秋の心	月	秋	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の初風	残る暑さに端居する	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の初風	残る暑さに端居する	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の初風	虫鳴く	秋の心	虫	秋	虫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の初風	虫鳴く	秋の心	虫	秋	虫	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の蛍	端居する袖冷ややか	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の蛍	端居する袖冷ややか	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の村雨	露が柔い	なし	なし	秋	露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	村雨	涙	村雨	涙	村雨	露
秋の村雨	露が柔い	なし	なし	秋	露	なし	なし	なし	なし	なし	なし	村雨	涙	村雨	涙	村雨	露
秋の山	永久の布留宮	なし	なし	なし	なし	山	布留	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の山	永久の布留宮	なし	なし	なし	なし	山	布留	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の夜すがら	寝られる	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の夜すがら	寝られる	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の夜長	蟋蟀	秋の心	蟋蟀	秋	蟋蟀	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の夜長	蟋蟀	秋の心	蟋蟀	秋	蟋蟀	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の夜の月	身にしみる	なし	なし	秋	身にしむ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋の夜の月	身にしみる	なし	なし	秋	身にしむ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
秋が来た	月出る	なし	なし	秋	月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	月	身にしむ枕

表１－３　出現度数が高い連想語彙（括弧内は度数）

時代区分				
1	2	3	4	5
①つき(29)	①あき(91)	①ほととぎす(120)	①つき(52)	①つき(15)
②なみ(27)	②やま(83)	②あき(109)	①ほととぎす(52)	①ほととぎす(15)
③かり(25)	③つき(82)	③つき(99)	③こえ(45)	③うぐいす(11)
④かえる(24)	④かぜ(80)	④こえ(98)	④うぐいす(44)	④はな(10)
⑤あき(20)	⑤ひと(75)	⑤かぜ(97)	⑤みち(32)	④やま(10)
⑥そで(18)	⑥ほととぎす(70)	⑥やま(89)	⑥はな(30)	⑥あき(8)
⑦ありあけ(16)	⑦こえ(66)	⑦なく(62)	⑦やま(30)	⑥かげ(8)
⑦かすみ(16)	⑧こころ(65)	⑧はな(60)	⑧かぜ(28)	⑥はる(8)
⑦はな(16)	⑨はな(54)	⑨うぐいす(57)	⑨はる(26)	⑨あける(7)
⑩こえ(15)	⑨はる(54)	⑩はる(54)	⑩いち(25)	⑨こえ(7)
⑩やま(15)	⑪よ(53)	⑪よる(52)	⑪あき(22)	⑨ひかり(7)
⑫かぜ(14)	⑫なか(49)	⑫かげ(41)	⑫かすみ(21)	⑫とり(6)
⑫まつ(14)	⑬かわる(47)	⑫くれ(41)	⑬そで(20)	⑫なく(6)
⑫よる(14)	⑭かすみ(41)	⑭かすみ(39)	⑭なく(19)	⑫のどか(6)
⑮ひと(13)	⑮かげ(37)	⑮そら(37)	⑮よる(17)	⑮かすみ(5)
⑯つゆ(12)	⑯よる(36)	⑯つゆ(36)	⑯まくら(16)	⑮かぜ(5)
⑰さくら(11)	⑰くさ(35)	⑰まくら(35)	⑰おと(15)	⑮きりぎりす(5)
⑰なく(11)	⑰くれ(35)	⑱そで(34)	⑰くさ(15)	⑮しも(5)
⑰はる(11)	⑰まつ(35)	⑲いち(33)	⑰くれ(15)	⑮にち(5)
⑰ふじ(11)	⑳なく(34)	⑳ふね(31)	⑰そら(15)	⑮むらさめ(5)
			⑰はし(15)	

表１－４　連歌中「ほととぎす」を含む句数の割合

時代区分	連歌DB句数	ほととぎす句数	割合(%)
1	17641	45	0.3
2	68048	523	0.8
3	64437	394	0.6
4	19375	151	0.8
5	25641	141	0.5

表１－５　和歌中「ほととぎす」を含む歌数の割合

時代区分	和歌DB総歌数	ほととぎす歌数	割合(%)
1	158236	4510	2.9
2	47597	1390	2.9
3	2185	50	2.3
4	0	0	0.0
5	0	0	0.0

第二章　連歌・俳諧ＤＢより抽出した連想語彙ネットワークの解析

はじめに

前章では、日文研の連歌・俳諧ＤＢから連想語彙を抽出し、抽出結果に対する考察を行った。本章は、連歌における連想語彙ネットワーク図の全体像と、その時代的変遷について考察したものである。本章で示す全体像とは、一三〇〇年代から一六〇〇年代の約四〇〇年間にわたる連歌の全体像である。また、時代的変遷とは、対象とした年代の中で時代的な変化があるのかないのか、それを検証したものである。

本研究の意義等については、前章で述べた通りであるが、従来の国文学における研究とどういった点で異なるのかを、ここに簡単に記しておく。従来の連歌・俳諧研究は主として作品の解釈から分析を行うという手法を採っていた。だが、本書はそのような方法は採らない。本書の解析方法は、まずすべての作品（句）を等価なデータとして扱い、データ解析を行う。そのようにして得られた結果から問題点を抽出し考察を加える。もし必要な場合があれば、実際のデータに戻って検証することもある。こうした解析法を採用することによって、オーソドックスな国文学的解析法からだけでは決して導き得なかった新しい知見をもたらすのが本書の主旨であり、目的である。

2―1　連想語彙ネットワークの全体像

前章で抽出された六三〇語の連想語彙の出現頻度を出し、頻度の降順に並べ、その結果の上位五〇語をリストで示した。前章でも説明したように、括弧内は出現度数と『古事類苑』の索引に従い部類分けした結果である。「天」とあれば『古事類苑』「天」部に記述があることを意味する。また、対象語彙に関する記述が『古事類苑』にない場合は、「―」とした。その結果は、左のようなリストになる（第一章のリストを再録）。

つき（313、天）　ほととぎす（311、動物）　あき（302、歳時）　やま（266、地）　こえ（264、天・人）　かぜ（261、天）　はな（198、植物）　はる（180、歳時）　うぐいす（166、動物）　なく（156、―）　よる（147、歳時）　ひと（147、人）　かすみ（138、天）　くれ（123、―）　かげ（121、―）　そら（111、天）　みち（110、地）　いち（110、―）　くさ（109、植物）　まくら（1

03、器用）　そで（102、服飾）　まつ（101、植物）　つゆ（97、天）　かえる（94、―）　ふね（92、器用）　かり（92、動物）　こころ（91、人）　ありあけ（90、歳時）　なみ（86、地）　あさ（86、歳時）　ゆう（82、歳時）　よ（80、―）　かね（78、宗教）　くも（76、天）　おと（72、―）　ゆめ（70、人）　ころも（68、服飾）　おもう（68、―）　みず（63、―）　なか（63、―）　ふるさと（61、―）　ゆき（59、天）　なる（57、―）　ふく（56、―）　にち（55、歳時）　ふける（53、―）　いりあい（53、歳時）　むれ（52、―）　ふる（52、―）　した（52、―

これら五〇語について、連想関係の強弱を示すネットワーク図を作成した（図２－１）[1]。

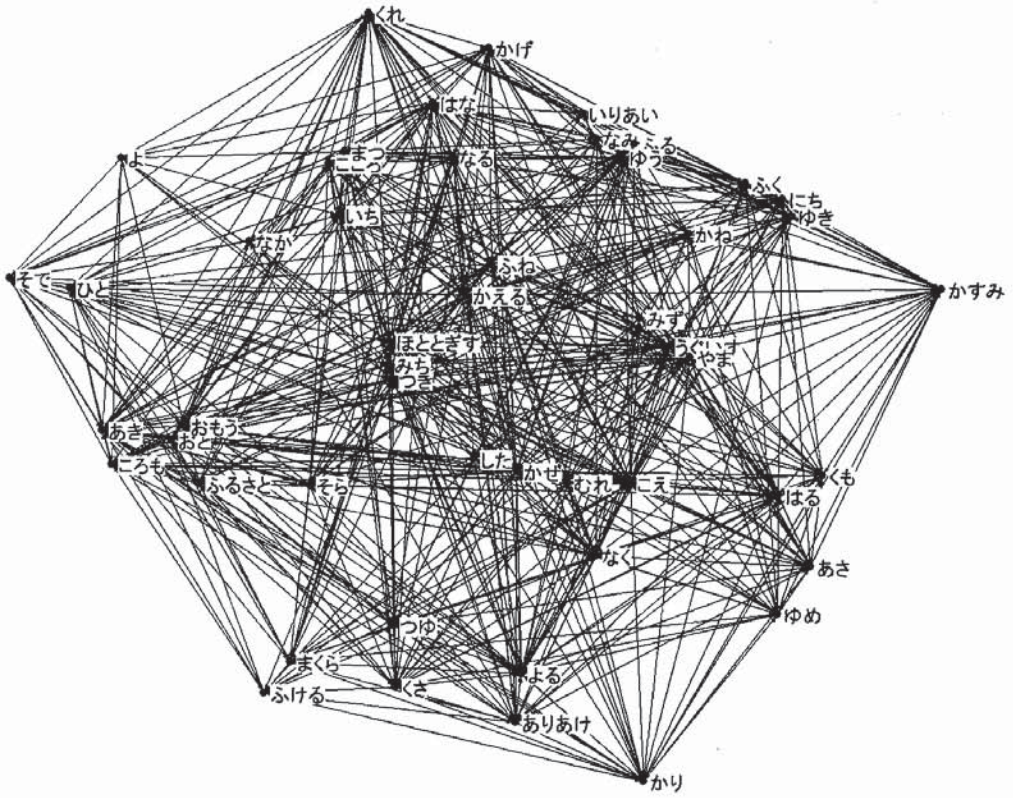

図２－１　連想語彙ネットワークの全体図

図２－１のネットワーク図に示した語彙の内、『古事類苑』で分類可能だったものを残して、再度図を作成すると図２－２のようになる。

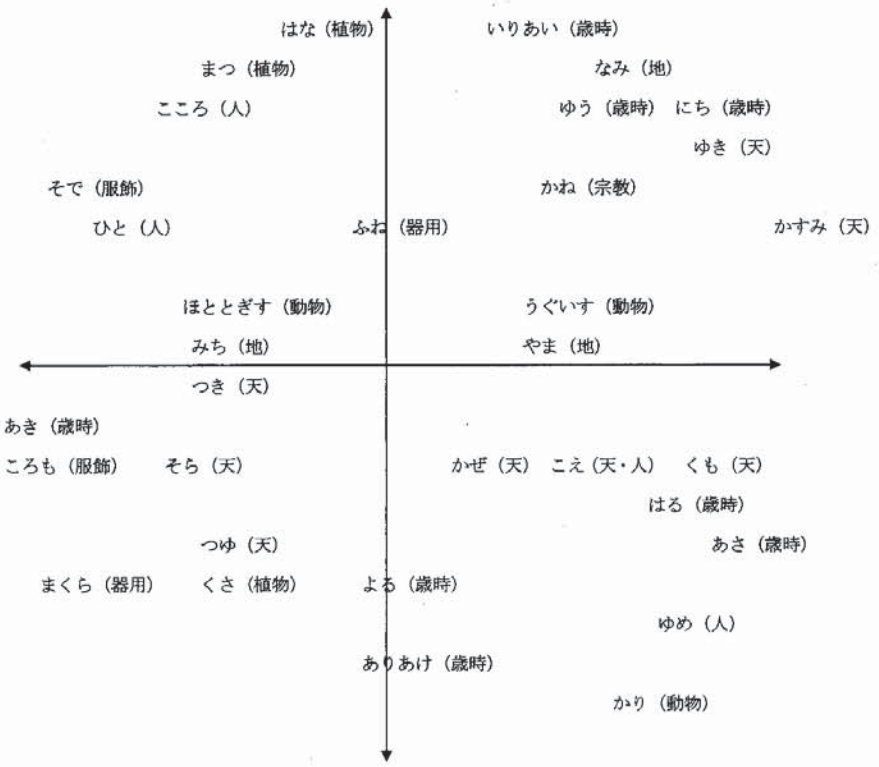

図２－２　連想語彙（全体）の位置

この図に表われた傾向を図化し直すと、図２－３のようになる。

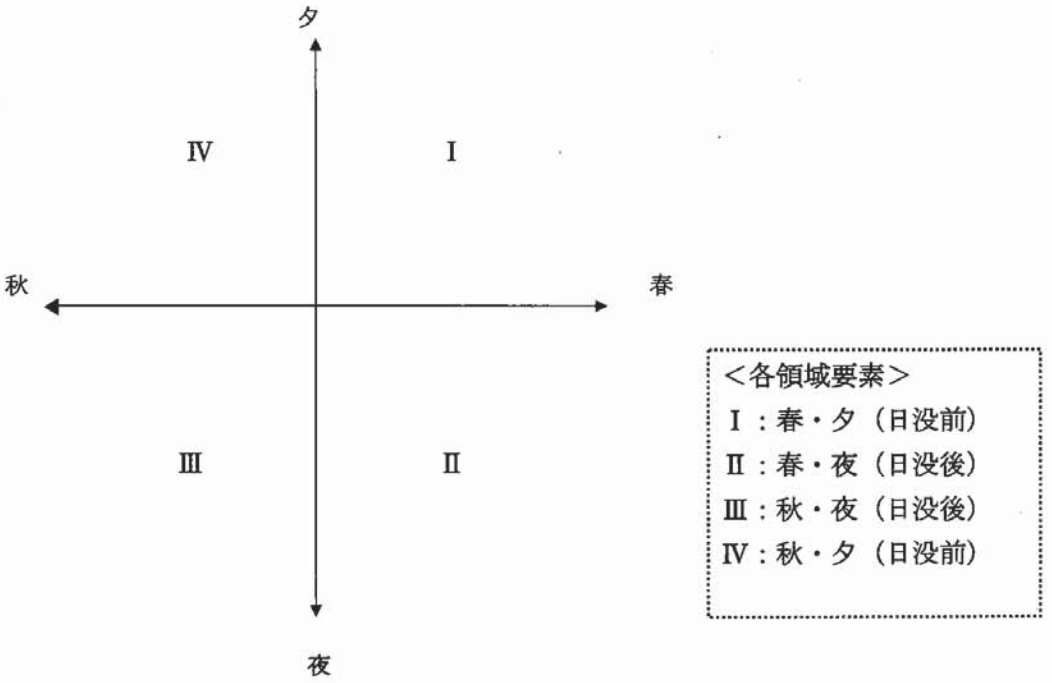

図２－３　連想語彙（全体）の概念図

図２－３の横軸は、春と秋を結ぶ季節の軸であり、縦軸は夕（日

没前）と夜（日没後）を結ぶ時間軸と解釈できる。横軸と縦軸で区切られた各領域を図のようにⅠ～Ⅳとすると、それぞれの領域は図中の〈各領域要素〉のようになる。

領域ⅠとⅣには、昼、とりわけ夕暮れ時に見られる景物が、そしてⅡとⅢには夜、とりわけ早朝に見られる景物が配されている。また領域Ⅲには、人を思う恋の要素（「おもう」、「ころも」、「つゆ」、「まくら」など）が、そして領域Ⅳには世を厭う述懐の要素（「よ」、「なか」、「そで」など）が多く見られるように思われる。実際の作品では、恋と述懐は用語の点でかなり類似するので、領域Ⅲ、Ⅳを合わせて、「人事の領域」と考えてもいいかもしれない。領域Ⅰ、Ⅱに関して言えば、特別な傾向は見いだせなかった。ただ、やや強引かもしれないが、領域Ⅲ、Ⅳに比べ「天」部や「歳時」部に分類される自然の景物が多いことから、これらの領域を、「神（自然界）の領域」と見なすことも全く不可能なことではない。

ちなみに、「あき」と恋が近い関係にあるのは「あき」が「秋」だけでなく「飽き」に通じるからであり、「つゆ」の場合は、これがしばしば「なみだ」の喩えとして用いられることから恋に近い領域に配されたものと考えられる。

この結果から、連歌の連想世界は主にこの二軸を念頭に置きながら展開されてきたと考えられる。少なくとも、データ上から見れば、そのように考え得るのである。

2－2　抽出率の変化

まず、前章で行ったように、連歌ＤＢのデータ構成と従来の連歌史研究を勘案し、表２－１のような時代区分を行った。念のためも再録しておくと、（飯尾）宗祇以前（一四五〇年以前）、宗祇の活躍期（一四五一～一五〇二年）、（谷）宗養の活躍期（一五〇三～一五六三年）、（里村）紹巴の活躍期（一五六四～一六〇二年）、紹巴以後（一六〇三年以後）という五期に分類した。

表２－１　連歌・俳諧DBの時代区分と連想語彙の割合

	【時代区分】	DBの句数(A)	抽出句数(B)	抽出率(%)
1	1450年以前:宗祇の活躍以前	17641	275	1.56
2	1451～1502年:宗祇の活躍から没まで	68048	764	1.12
3	1503～1563年:宗養の活躍から没まで	64437	869	1.35
4	1564～1602年:紹巴の活躍から没まで	19375	423	2.18
5	1603年以後:紹巴以後	25641	116	0.45
	計	195142	2447	1.25
	総句数(成立年が全くわからないものを含む)	200958		

表２－１で連歌・俳諧ＤＢに収録されている句数に対する抽出句数の割合（抽出率）を見ると、とりわけ４と５の時期に特徴が見られる。４の時期は元のデータ数が少ないにもかかわらず、抽出率が高い（二・一八％）。本研究では、五・七の単位で連想関係にある語彙を抽出しているから、紹巴の活躍期に五・七単位の長く、かつ定型的な付句が多く作られたことを、この数字は物語っている。反対に、５の時期では元の句数は４の時代よりも多いにもかかわらず、抽出率が極端に低くなっている（〇・四五％）。

５の時期に抽出率が極端に低下した原因については、以下の三つの可能性が考えられる。

第一は、５の時期に、付句の単位が五・七の単位よりも短い単位の連想語で付けられるようになったという可能性である。それは前代への反省と反動の現れであるのかもしれない。４の時期に顕著であった長い単位での付合に対する、反省と反動である。

第二は、付け方が変化した可能性である。つまり、詞から意想中心へと付合の主流が変化したのかもしれないということである。金子金治郎は、二条良基（一三二〇～一三八八）の『僻連抄』（一三四五年成立）に挙げられている主要な付合の型を以下のようにまとめている。

平付（ひらつけ）　：風景など、ありのままに並べて付ける。山に峰、浦に舟に付ける類である。

四手付（よつで）：前句中の複数の詞（ことば）を取り上げ、それぞれ縁語（寄合（よりあい）と呼ぶ）で付句を構成する。

景気付：前句のおもしろい風情、たとえば花に対し、これに応ずるおもしろい風情を付ける。

心付　：詞のたよりもなく、寄合もなく、景気もなく、ただ心（意想）だけで付ける。

詞付　：詞のたよりだけで、たとえば長いに縄、よるというに糸を付けるをいう。

埋付（うづみつけ）：表面は付かないようにみえながら、底に深い心を含んで付いているをいう。

対揚（たいよう）：春に秋、朝に夕、山に野、昔に今など、対になることをあげて付けるをいう。(2)

単純に考えても、先にあげた金子によってまとめられた付け方で言えば、平付、四手付、詞付、対揚といった付合は詞の一致を生む可能性が高いが、景気付、心付、埋付が増えれば詞が一致する可能性はかなり低くなるのは当然であろう。紹巴没後に、このような変化が起こった可能性も簡単には捨てきれない。

第三は、連歌の俳諧化である。この時期にはすでに俳諧の祖ともされる荒木田守武（一四七三～一五四九）はもちろんのこと、貞門

俳諧の祖、松永貞徳（一五七一～一六五三）が活躍しだす時期にあたり、そういった俳諧の影響を強く受けたという可能性も十分考えられる。

実際、天正一三年（一五八五）に紹巴が豊臣秀吉（一五三六？～一五九八）のために進献した『至寳抄』という書物には、「付合・寄合の事さして定る事有べからず候、古今の序にも人の心を種として萬の言の葉とぞなれりけると御入候、唯今も面白きと思召候事を仰出され候へば、をのづから古歌の心にも相叶候」、「古き連歌は只言葉の縁のみをとり付、心大形の句共も御入候つる、唯今は用付(ゆう)として嫌申事多候」[3]などといった連歌の規則を緩和する、もしくは俳諧を志向する態度ともとれる言葉が見られるのも、また事実である。[4]

紹巴の没後、連歌界をまとめ上げるだけの力量をもった宗匠がでなかったことや、連歌があらゆる階級、地方にまで広まったという事実などが招いた結果かもしれない。ただし、「宗養死して、連歌ハ断絶也」[5]、あるいは紹巴が連歌の流布に努めたことを評して「我身の連歌をやすやすとして、更にふかき事を嫌ければ、いかなる童蒙も思ひつき道に入ることたやすかりき」[6]といった『歌道聞書』（一六四二年成立）の言葉を見ると、すでに宗養が没した時点で、宗祇以来の連歌が廃れてしまったこと、紹巴が連歌を大衆に広めはしたが、それによってどんな童蒙（子供たち）もたやすく思いつくままに詠むようになった、つまりは連歌の簡略化と質的変化が起こった、という可能性も考えるべきであろう。江戸時代になり、連歌が急激に衰退したという文学史的記述内容が真実なら、それはある程度の質の低下を伴っていたのであろう。[7]少なくともその変化は、江戸時代における大衆の心を捉えることはできなかった。いずれにせよ4や5の時期は連歌が付合、用語などの面において、ドラスティックな変化があったものと考えられる。

これら三つの可能性のうち、いずれが主たる原因であったのか、俄には判断しかねるが、このような要因が複合的に合わさった結果、それが実際の連歌作品にも反映され、表2－1のような結果となってあらわれたものと推察される。

従来の連歌・俳諧研究では、4や5の時期はあまり注目されてこなかった。しかし、用語の違いを越えた連歌から俳諧（俳諧の連歌）への道程を考える上で何らかの新しい知見が得られる可能性は十分にあると思われる。

2－3　連想語彙ネットワーク図の変化

次に連想語彙ネットワーク図における時代変化を見てみよう。連想語彙ネットワーク図、および概念図を描くためには、ある程度抽出句数のばらつきを少なくし、かつネットワーク図、および概念図が描ける程度の量を確保しなければならない。そこで、「概念図作

成のための時代区分」（表２－２）を設定した。このような時代区分をすることによって、抽出率はほぼ同程度になったことがわかるであろう。

表２－２　連歌・俳諧ＤＢの時代区分と連想語彙の割合

	【概念図作成のための時代区分】	DBの句数(A)	抽出句数(B)	抽出率(%)
①	1＋2:宗祇の没まで	85689	1039	1.21
②	1503～1563年:宗養の活躍から没まで	64437	869	1.35
③	4＋5:紹巴の活躍以後	45016	539	1.20

この①～③期について連想語彙ネットワーク、および概念図を作成し、その変化を探った（ネットワーク図：図２－４～６、概念図：図２－７）。なお、全体図では成立年代が不明なものも含めてネットワーク図と概念図の作成を行ったが、ここでは成立年代のわからないものは全て除いた。

ここで注意しておきたいのは、ネットワーク図作成の為に使用したソフトウェアの性質上、縦軸、横軸の方向は任意に決まってしまうため、概念図を表示するたびに、変化することである。ここではあえて、それを無理に補正、統一せず、景物の相対的な位置関係のみを分析して論ずる。

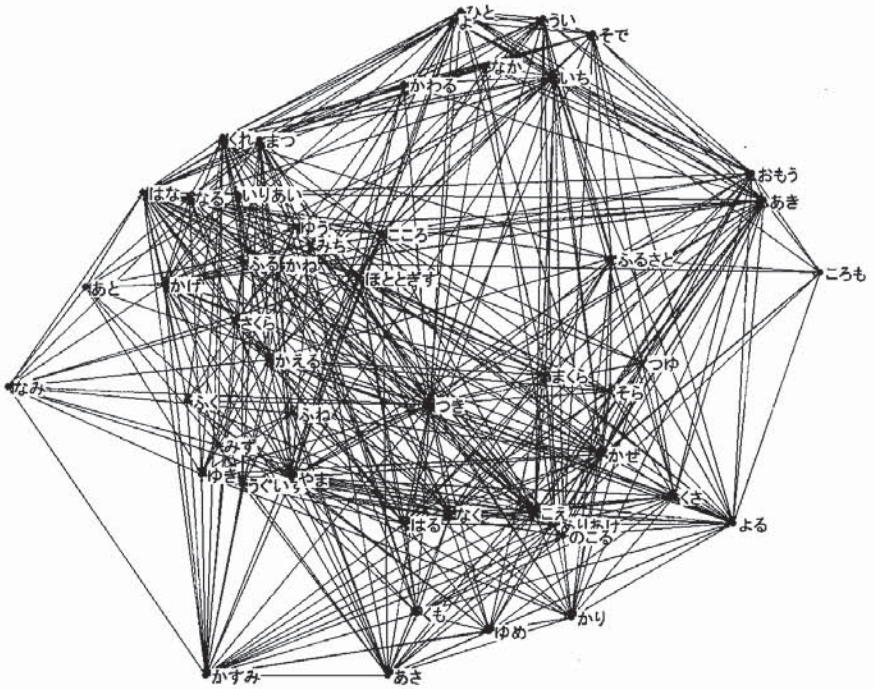

図２－４　1502年以前の連想語彙ネットワーク図

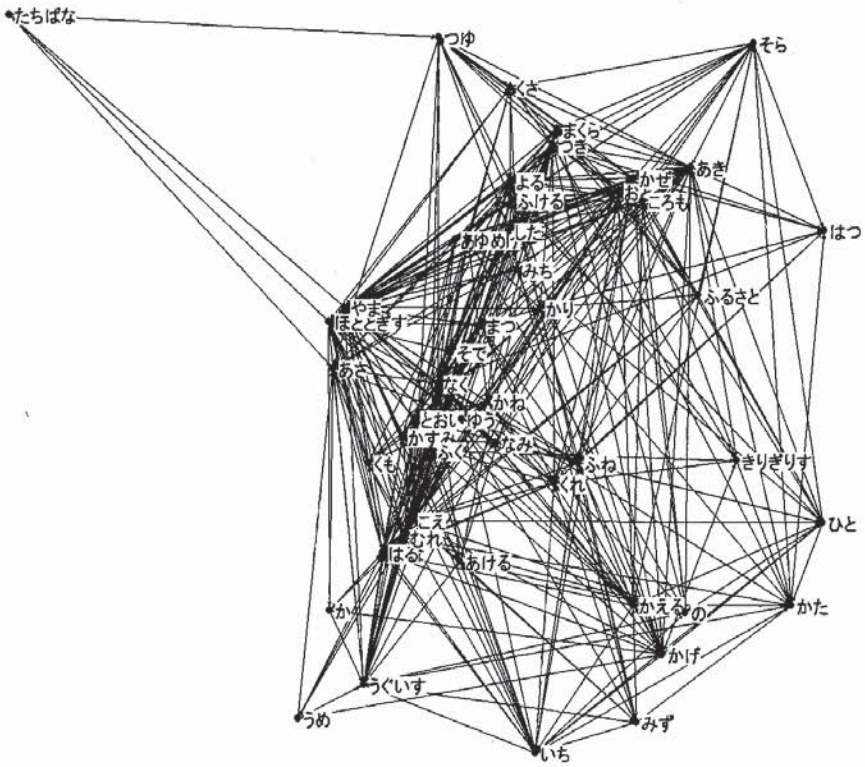

図２-５　1503～1562年の連想語彙ネットワーク図

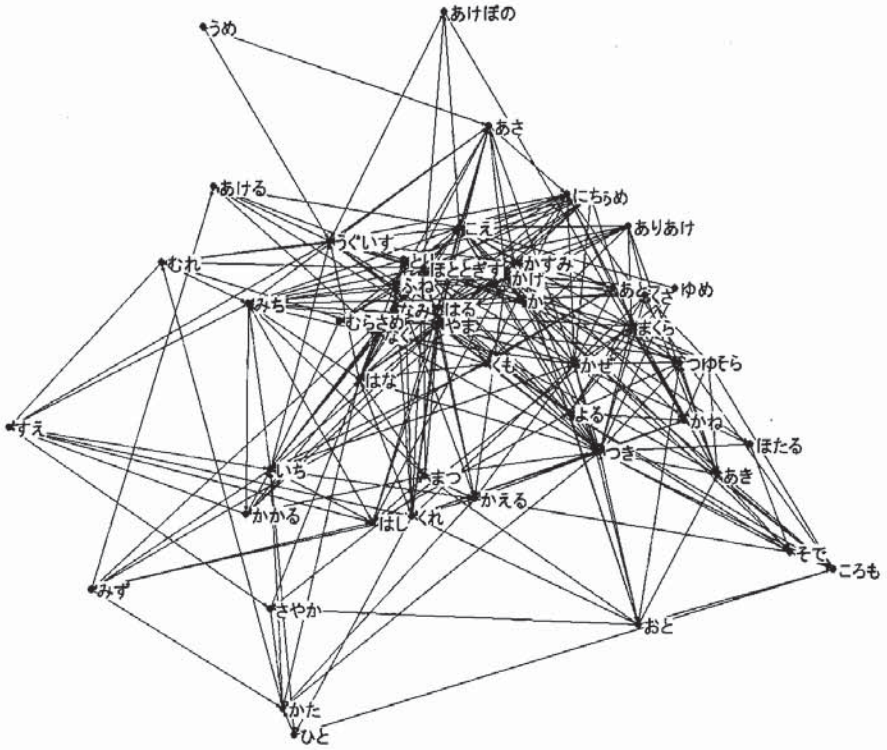

図２-６　1563年以降の連想語彙ネットワーク図

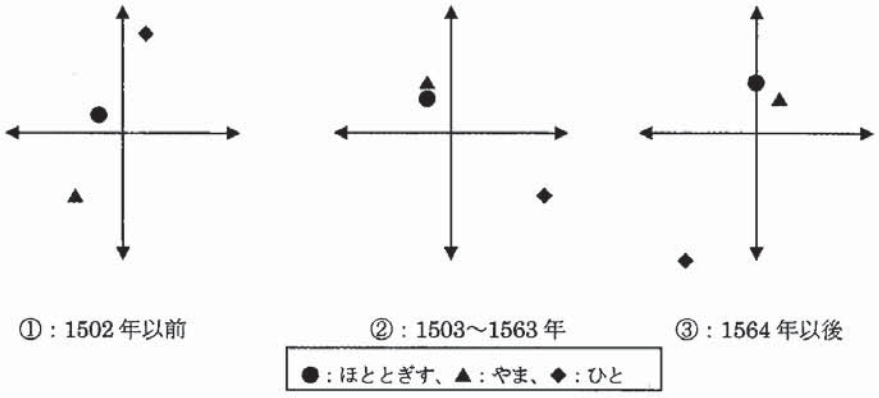

図２-７　「ほととぎす」の位置変化

この解析の結果、いくつか個々の景物について変化が見られた。最も特徴的なものは、「ほととぎす」である。その変化は「やま」と「ひと」との関係性でみた方がわかりやすいと思われるので、それらの語の大まかな位置を図２－７に示した。図２－７からもわかるように、「ほととぎす」は②の時代以降「やま」との連想関係を強め、「ひと」から距離を取るようになる。その理由を次節で考察する。

２－４　「ほととぎす」のイメージ

前節で見た、「ほととぎす」と「やま」、「ひと」という単語の相対的な位置変化の原因をここでは考える。この変化に対しては、二つの可能性が考えられる。

一つは、寄合書などによって「ほととぎす」と「やま」が付合語となり、直接的な関係がより強化された結果、「やま」とは連想関係を強め、反対に「ひと」との関係性は弱まったという可能性である。表２－３、４は、連歌寄合書における、表２－５は俳諧寄合書における「ほととぎす」の付合語を一覧表にしたものである。[8]

表２-３　連歌寄合書における「ほととぎす」の付合語（鎌倉・室町期）

書名	連證集	修茂寄合	連珠合璧集	宗祇袖下	連歌作法	宗長歌話	連歌寄合	連歌付合の事
成立年(西暦)	鎌倉時代成立	1472奥書	1476奥書	1489頃	1489奥書	1490	1494奥書	不明
付合語	むら雨	卯の花	鶯	忍びね	卯花	老その森	音羽山	一声
	有明の月	たちはな	卯花	村雨	橘	忍山	石上寺	山ぢ
	杉のむら立	あやめ	花橘	山路	菖蒲	音羽山	明石浦	山田の原
		五月雨	山	有明	五月雨	くらはし山	老曽の森	玉井
		むらさめ	村雨	菖蒲	村雨	神なび山	淀渡	五月
		くさのいほ	月	待かね山	杉	山田の原	片岡森(賀茂)	杉間
		すき	雲間	五月雨	草の庵	まちかね山	杉	木がくれ
		あり明の月	一こゑ	一声	こぬ夜あまた	片岡の森	帰るにしかじ	おもひもあへず
		こぬ夜あまた	鳴ふるす	まつち山	在明の月		村雨	
		ねさめ	五月		ね覚		その他名所	
		なのる	忍ね		なのる			
		なみたなそへそ	ね覚		涙なそへそ			
		つまこふる	杜のしづく		つまこふる			
		神なひのもり	涙なそへそ		神なびのもり			
		かく山			香久山			
		よこ山			相坂山			
		よとの			二村山			
		すかのあらの			待難山			
		ふる			淀野			
		なら			其神山			
		かすか山			手向山			
		まつかね山			倉橋山			
		ふたむら山			美豆野			
		あふさか山			布留			
		ときは山			荒荒野			
		おひそのもり			常葉山			
		しのふのもり			春日山			
		おとは山			奈良			
		うとのはま			明石			
		あかし			宇流浜			
		しか			志賀			
					片岡のもり			
					老曽			
					信太のもり			

表２-４　連歌寄合書における「ほととぎす」の付合語（安土桃山・江戸期）

書名	連歌作法書	拾花集	竹馬集	随葉集
成立年（西暦）	1579奥書	1656刊	1650～80？刊	1670刊
付合語	しける	峯の雲	峯の雲	草の庵
	木すゑ	雨中	雨中	雨
	山	村雨	あやめかほる	杉村
	うのはな	藤浪	村雨	梢の茂る
	たちはな	花	花の名残	有明
	村雨	杜の若ば	花	むらさめ
	草の庵	杉村	杉むら	橘
	月	橘	森のわか葉	淀のわたり
	杉むら	茂る梢	しける梢	片岡の森
	淀の渡り	草の庵	たちはな	さみだれ
	かた岡のもり	山路	やまぢ	山にやすらふ
	（なき人こふる）	忍ぶ昔	草の庵	池の藤浪
	（村雨の跡さひし）	なき人	忍ぶむかし	むかしをおもふ
		有明	有明	山路
		早苗取	なき人	無人
		短夜	関の戸	早苗とる
		関の戸	釣簾の外	関の戸
		ね覚の枕	明石	短夜
		卯花	ねざめの枕	こすの外山
		茂る山	淀のわたり	ね覚の枕
		若葉の花	片岡の森	明石
		あやめ	おひその森	
		旅口伝	山田の原	
		こすのと山	布留の神垣	
		淀のわたり	むさし野	
		片岡の杜	稲荷山	
		明石		
		神なび山		
		相坂		
		神山		
		葛城		
		松浦		
		外に急道		

表２-５　俳諧寄合書における「ほととぎす」の付合語（江戸期）

書名	せわ焼草	便船集	初本結	俳諧類船	俳諧小傘
成立年（西暦）	1656刊	1669	1662上梓	1676	1691
付合語	蜀国王	橘	立花	村雨	残花
	旅空	五月雨	卯花	嵐の雲	茶ヲ天ス
	鶯	旅乃空	有明月	藤	麦蟹
	月	鶯	村雨	花	夏山
	雲	鵑	田植る	杉村	竹ノ子
	死出山	（雲井）	鵑	早苗	早苗
		山路	さみたれ	橘	短夜
		卯ノ花	片岡の森	関の戸	ね覚
		村雨	明石の泊	短夜	撫子
		田植（早稲）	山田乃原	山路	山路
		萩	夜の雨	無人	涼キ月
		草庵	源氏花ちる里のこゝろなと	ね覚の枕	発句
		樗		有明	雲行方
		有明月（有明）		こずの外山	曙空
		弓張月		草の庵	萬蒲
		死出乃山		卯の花	をち返り
		明石ノ泊（明石の浦）		撫子	さほ衣のあひしらひ
		音羽（音羽山）		新樹	
		山田乃原		樗	
		たゝすの森		萩	
		淀（淀のわたり）		弓張月	
		石倉		五月雨	
		片岡乃森		旅の空	
				あやめ草	
				鶯	
				鵑	
				死出の山	
				石倉	
				片岡のもり	
				たゝすの杜	
				山田の原	
				淀のわたり	
				音羽山	
				石上寺	
				老曾の杜	
				明石のうら	
				伽羅	

表２－３からわかるのは、最初期の寄合書とされる『連證集』では「ほととぎす」の付合語に「やま」に関する語彙は見られない。ただし、『連證集』には次のようにある。

郭公に杉のむら立をつけ侍ハいかに。是ハ西行か、きかすとも
こゝをせにせむ時鳥山田の原の杉のむら立、とよめるにて、
杉のしるしに山やこゑまし
なくかたは雲ふかくとも郭公　と付し也[9]。

この場合、「杉のむら立」と「ほととぎす」が連想関係にある訳だが、付句の例の中には前句に「やま」が、付句に「ほととぎす」が詠み込まれている。つまり、寄合書の最初期から「ほととぎす」と「やま」は連想関係になりやすい傾向は十分に有していたものと思われる。一方、「ひと」に関する語彙はほとんど窺えない。しかし全くないとも言い切れない。江戸時代の連歌寄合書には「なき人」という付合語が入っている。この「なき人」との付合がいつ頃成立したのかは不明である。ただ少なくとも一五世紀（一四〇〇年代）の寄合書には見あたらないということは、はっきりしている。

もっとも、一条兼良（一四〇二～一四八一）編『和歌題林抄』（成立年未詳）には、「時鳥」の説明中に「しでの山にかよふ物なれば、なき人をおもひ出るたよりともよむべし」とあるから[10]、一五〇

〇年以前に連歌にも流入していた可能性はある。そしてその淵源が『古今和歌集』巻一六（哀傷部）にある「なき人のやとにかよはば郭公かけてねにのみなくとつげなむ」にあるとすれば、もっと早く連歌の世界で付合となっていてもおかしくはない。残念ながら、資料として一六世紀（一五〇〇年代）の寄合書が少ないので、正確にその時期を比定することはできないが、天正七年（一五七九）の奥書をもつ細川幽斎（一五三四～一六一〇）『連歌作法書』に、「時鳥の鳴すつるには」という付合語として「なき人こふる」が挙がっていること、そして『随葉集』の成立が慶長八年（一六〇三）以前であることなどから、一六〇〇年以前にはすでに「なき人」は「ほととぎす」の付合語となっていたものと思われる。

ところで、「ひと」との繋がりはともかくとして、寄合書において「ほととぎす」と「やま」の関係性が強まるのは、室町中期の寄合書においてである。文明四年（一四七二）の奥書をもつ『修茂寄合』以降の連歌寄合集には、多くの山の名が付合語として列挙されている。特徴的なのは、そのほとんどがある特定の山であることだ。いわゆる名所、歌枕というものである。反対に特殊なのは、『連珠合璧集』と『連歌作法書』で、単に「山」という語彙を「ほととぎす」の付合語としている。いずれにせよ、鎌倉期にはあまり見られなかった「ほととぎす」と「やま」の連想関係が、室町期に定着、安土桃山期を経て江戸期に至るまで多用されたであろうことは想像に難くない（表2－3、4参照）。この室町中期以降の「ほととぎす」と「やま」の連想関係の定着が②の時代以降の「ほととぎす」と「やま」の連想関係を強める一要因であった可能性はある。

しかしながら、実際の抽出語彙に戻って検証すると、直接「ほととぎす」と「やま」が付合となっている例は、むしろ①の時代が最も多い。具体的な例（見出し語による付合例）と数字を挙げると、

「やまのしたみち」―「ほととぎす」　：一例
「ほととぎす」―「やまもゆふぐれ」　：二例
「ほととぎす」―「をちのとほやま」　：一例
「ほととぎす」―「くらはしやま」　：一例
「わけるほととぎす」―「ねざめのあかつきのやま」：一例
計七例

が①の時代に見いだせるのに対し、②の時代では、

「あけぼののそら」―「ほととぎす」　：一例

のみであり、③の時代に至っては「ほととぎす」と「やま」が直接付合となっている例は見つからなかった。

一方、「ほととぎす」と「ひと」の付合はどうだろう。いずれの時代も「ほととぎす」と「ひと」との連想関係は見出せなかった。

ということは、概念図の解析から得られた両者の接近関係というのは、付合という直接的な連想関係が成立し、強化されたからではなく、むしろ他の景物との総合的、間接的な影響関係によって導か

れたものであると推察できる。

「やま」との接近、「ひと」との離反という結果に対するもう一つの可能性は、「ほととぎす」のイメージに関する問題である。「ほととぎす」がどのようなイメージをもっているのか、まずはそれを現代短歌で見てみよう。佐佐木幸綱の歌集、『百年の船』（角川短歌叢書、平成一七年一一月）に載る次の歌には、「ほととぎす」にこれまで重ねられてきた種々のイメージが色濃く表れている。

ほととぎす、雨中を急ぎゆくものよ　春日井健は死に給いけり

これは平成一六年（二〇〇四）五月二二日、中咽頭癌のためこの世を去った歌人、春日井健（一九三八～二〇〇四）に対する挽歌である。五月雨の中を飛ぶ「ほととぎす」、そして死のイメージをもつ「ほととぎす」、口の中が赤く見えるため赤い血を吐いて啼くとされる「ほととぎす」、そして「懐旧」のイメージをもつ「ほととぎす」という少なくとも四つのイメージが、この歌には詠み込まれている。だが、最も前面に出ているのは死のイメージであり、それが理解されなければ、歌の深みがなくなり、何故ここに「ほととぎす」が詠み込まれているのかさえもわからなくなるだろう。勿論、春日井が亡くなったのが旧暦で言えば夏に当たるので、少なくとも夏のイメージは看取できるかもしれない。けれども、佐佐木は「ほととぎす」における季節の鳥としての表象性だけでなく、死のイメージをもよく知った上で、意識的に用いているのである。

では、その死のイメージとは何か。その前に「ほととぎす」がいつ頃から夏の鳥としての表象性を持つようになったのかを確認しておきたい。

表２－６は「ほととぎす」が歌集のどの部に配されるかを調べたものである。表中に示した値（割合）は、歌集の全歌数中、どのくらい「ほととぎす」が詠み込まれた歌があるかを示したものである。例えば、歌数が約一一〇〇首ある『古今和歌集』（九〇五年序）には、三一首（二・八％）の歌が夏部にあり、一五首（一・四％）が夏部以外の部（恋部など）に配されており、その三分の二が夏部に集中していることがわかる。ただし、この表からもわかるように、まだ『後撰和歌集』（九五一年成立）の頃までは、「ほととぎす」が詠み込まれた歌でも、夏以外に配されることが間々あったことがわかる。それが、平安時代中期から後期（一一世紀頃）から、「ほととぎす」はもっぱら夏の鳥として意識され、ほぼ固定化されていったのである。

念のため付言しておくと、表中で『拾遺和歌集』や『続拾遺和歌集』、『新後拾遺和歌集』において、夏以外の割合が高いのは「雑春」部に夏の歌が配されているからであり、それを除くと「ほととぎす」が詠み込まれているほぼすべての歌は、夏部に集中しているのであ

る。連歌においても、その最初期から季節の鳥としての表象性を持っていたことは、作品を見れば明らかである。

表２-６：「ほととぎす」が詠み込まれる位置

歌集名	成立年(西暦)	夏の割合	夏以外の割合
古今和歌集	905序	2.8%	1.4%
後撰和歌集	955	2.0%	0.7%
拾遺和歌集	1005頃	2.0%	1.0%
後拾遺和歌集	1087	2.3%	0.5%
金葉和歌集(二度本)	1125	3.5%	0.5%
詞花和歌集	1151	1.9%	0.2%
林葉和歌集	1178?	6.0%	0.3%
千載和歌集	1187	2.2%	0.3%
新古今和歌集	1205	1.9%	0.5%
新勅撰和歌集	1232	2.0%	0.0%
続後撰和歌集	1251	2.0%	0.1%
続古今和歌集	1265	1.9%	0.6%
続拾遺和歌集	1279	1.9%	0.7%
新後撰和歌集	1302	2.6%	0.8%
玉葉和歌集	1312	1.5%	0.8%
続千載和歌集	1320	2.8%	0.7%
風雅和歌集	1346頃	1.5%	0.5%
続後拾遺和歌集	1356	3.3%	0.4%
草庵和歌集	1359	2.8%	0.0%
新拾遺和歌集	1364	2.0%	0.7%
続草庵和歌集	1366	1.5%	0.3%
慶安法師集	1369以降	2.0%	0.0%
新葉和歌集	1381	2.5%	0.6%
新後拾遺和歌集	1385	2.1%	1.5%
李花和歌集	1389以前	3.8%	0.1%
新続古今和歌集	1439	1.8%	0.5%
草根和歌集	1459?	1.1%	0.0%
宗祇法師集	1502?	2.6%	0.0%
閑塵集	1503～1510	2.2%	0.0%
雲玉集	1514	1.7%	0.0%
桂林集	1575	2.7%	0.0%
逍遊集	1677	3.1%	0.4%
堀江草	1690	2.2%	0.2%

では、「ほととぎす」の死のイメージとはどんなものなのか。「ほととぎす」は別名「死出の田長」とも呼ばれ、死出の山から来て鳴く鳥と見なされてきた。また「魂迎え鳥」とも言われ、この世からあの世へ魂を運ぶ鳥ともされてきた。

このようなイメージの淵源は中国にあり、最も早い例として揚雄（紀元前五八～後一八年）が撰した『蜀王本紀』（前一世紀前漢末）にそれを見いだせるのだが、わが国においては源順（九一一～九八三）が編纂した平安時代中期の辞書、『和名類聚抄』に見られることから平安時代中期にはすでにそのイメージが入っていたということがわかる。

これは、蜀の王が旅の途中で死に、その魂が鳥となり、春から夏にこの世に飛来するという伝説である。それと共に、平安時代に日本で作られたとされる偽書、『仏説地蔵菩薩発心因縁十王経』（以後『十王経』とする）に見られる思想である。この『十王経』で「ほととぎす」は、冥界で亡者を呵責し「ほととぎす」と鳴いているのだという。[12] それ故、「冥土の鳥」、「無常鳥」という異名もあるくらいだ。歌学書類で見てみると、元永元年（一一一八）以前に作られた藤原仲実（一〇五七～一一一八）の『綺語抄』には「しでのたをさ　ほとゝぎすをいふ」とあるが、それ以上の説明はない。[13] また藤原範兼（一一〇七～一一六五）が書いた『和歌童蒙抄』（一一五〇年頃の成立）にも「しでの山こえてきつらむほとゝぎすこひしき人のうへかたらなむ」という『拾遺和歌集』（一一〇五年頃成立）に載る伊勢（生没年未詳）の歌はあるが、これも死と結びついた説明はない。[14]

ところが、永久三年（一一一五）年頃成立したと思われる源俊頼（一〇五五～一一二九）の『俊頼髄脳』には、次のような逸話が載っ

ている。

帥内大臣と申しける人の御許にて、俄に死入りさわぎければ、しとみのもとにかきのせて、おほぢにおきたりけるに、草の葉におきたりける露のあしにさはりける程に、時鳥の鳴きてすぎけるをきゝてよめる歌、河内守重之

草の葉にかどではしたり時鳥しでの山ぢもかくや露けき[15]

この歌は『金葉和歌集』（一一二七年成立）巻第一〇（雑部下）に「田口重如（しげゆき）」の歌として収載されているものである。[16] 歌の意味は、「草の葉のもとでこの世からの門出をした。時鳥よ、死出の山路というのもこんなに露に濡れているのか」くらいのものか。「ほととぎす」に死出の山路の事を聞いているくらいであるから、「ほととぎす」は死出の山路のことをよく知っているということになる。したがって、ここには明らかに死のイメージが表出していると断言してよい。また、同時期、藤原清輔（一一〇四～一一七七）の『奥義抄』（一一二四～一一四四年の間の成立）にも、

問云、ほとゝぎすはしでの山をすぐる鳥なれば、人などにおくれて世中なげかしく思ひける時よめる歌にや。我世中にすみわびにたりといへよとよめるにこそ。集にも

なき人のやどにかよはゞほとゝきすかけてねにのみなくとつげなむ

などはべり。又

しでの山こえてきつらむほとゝきす恋しき人のうへかたらなむ

などよみたり。萬葉には、

やまとにはなきてきつらむほとゝぎすながなくごとに人ぞおもほゆ

かやうによめる心にや。[17]

とあって、「ほととぎす」が死出の山を通る鳥というイメージがすでにあったことがわかる。ちなみに「なき人…」の歌は、『古今和歌集』巻第一六（哀傷歌）にある「よみ人しらず」の歌であり、「しでの山…」は先述したように『拾遺和歌集』にある伊勢の歌、そして「やまとには…」の歌は『万葉集』第一〇巻（夏雑歌）にある歌である。ただし、『国歌大観』などでは「やまとにはなきてかくらむほととぎすながなくごとになきひとおもほゆ」という歌の字句になっている。

さらに、藤原顕昭（一一三〇頃～一二一〇頃）が、文治年間（一一八五～一一九〇）に著したとされる歌学書『袖中抄（しゅうちゅうしょう）』には、次のような記述が見える。

一、しでのたをさ

いくばくの田をつくればかほとゝぎすしでのたをさを

あさなあさなよぶ

顕昭云、しでのたをさとはしづのたをさと云也。ほとゝぎすは勧農の鳥とて、過時不熟と鳴とは、ときすぎばみのらじと云義也。それが郭公と鳴とは聞ゆると云り。たをさとは田を作る者也。しづとはしづのを也。（中略）寂連入道は郭公しでの山より来と云事は慥に経説也。地蔵本願経歟、地蔵十輪経歟、地蔵陀羅尼経歟に見えたるよし申けり。可考之。[18]

本井牧子は、この「経説」というのは、ここに挙げられた『地蔵本願経』などの経典には見えないことから、『十王経』のことであるとしている。[19] とすれば、この頃（平安末期から鎌倉初期）に本来「しづのやま（賤の山）」あるいは「しでのやま（四手の山）」であったのが「しでのやま（死出の山）」と誤解され、流布していったことになる。恐らく、平安時代中期頃に、先の『俊頼髄脳』にあった逸話が出来、まずは死のイメージが付与され、その後『十王経』の影響によって、「ほととぎす」の死のイメージが増幅されていったものと思われる。[20] ただ、『俊頼髄脳』の逸話は以後、ほとんど伝承されておらず、この逸話の影響力は極めて小さかったのではないかと思われる。とすると、主として『十王経』が「ほととぎす」に死のイメージを付与したことになる。

『俊頼髄脳』（『金葉和歌集』）の例以外で、実際の和歌作品に死のイメージが表れるのは、同じく平安時代後期（一二世紀）のことで、比較的早い例では、西行（一一一八～一一九〇）の家集である『山家集』（成立年不詳）に、「侍賢門院の女房堀河の局許より言ひ送られける」という詞書で「この世にて語らひおかむほととぎす死出の山路のしるべともなれ」、その返歌として「ほととぎすなくなくこそは語らはめ死出の山路に君しかからば」という歌がある。

今、連歌・俳諧DBの対象としている時代に限って言えば、一六世紀以後の戦国武将などの辞世に間々「ほととぎす」が詠み込まれていることも、解析結果と何らかの関係があるだろう。[21] 例えば、柴田勝家（一五二二～一五八三）の辞世は、「夏の夜の夢路はかなき跡の名を雲居にあげよ山ほととぎす」であるが、この歌は勝家の妻であるお市の方（一五四七？～一五八三）の「さらぬだに打ちぬる程も夏の夜の夢路をさそふほととぎすかな」という歌に和した歌である。この話は、勝家の没年（一五八三年）に大村由己（一五三六？～一五九六）によって書かれた『柴田退治記』が初出である。だから、少なくとも後世に作られた話ではないことは確かだ。この勝家とお市の話は、『柴田退治記』をもとにして、安藤為章（ためあき）（一六五九～一七一六）の『年山紀聞』（一七〇〇年）などに受け継がれ、後

世に伝えられたものと思われる。ただし、この『年山紀聞』には、勝家とお市の方の歌の後に、勝家自害の介錯をした中村文荷斎（？～一五八三）という人物の「思ふどち打つれつつも行く道のしるべや死出の山時鳥」という歌も併記されている。[22]

勝家らの他には、室町幕府一三代将軍、足利義輝（一五三六～一五六五）の辞世がある。「さみだれは露か涙かほととぎす吾が名をあげよ雲の上まで」という歌である。この歌の初出は、大覚寺義俊（一五〇四～一五六七）の『光源院贈左府追善三十一文字和歌』（成立年不詳：義輝没後すぐの成立か）の「序」である。これが徳川光圀（一六二八～一七〇一）編『扶桑拾葉集』（一六八九年成立）、湯浅常山（一七〇八～一七八一）『常山紀談』（一七三九年自序）などに受け継がれ後世に伝承されていった。

ちなみに、柴田勝家が切腹して果てたのは旧暦の四月二四日であり、また足利義輝が松永久秀（一五一〇～一五七七）や三好三人衆（三好長逸・三好政康・岩成友通）によって討たれたのが旧暦の五月一九日であって、いずれも季節は夏のことであった。つまり、彼らの辞世には、「夏」という季節と「ほととぎす」の死のイメージが重ね合わされているのである。「合点じゃ其の暁のほととぎす」という辞世の句を残した蕉門俳人、岩田涼菟（一六五九～一七一七）が没したのも、旧暦の四月二八日であった。[23]

このように、和歌においてはすでに平安後期以後、死のイメージが付加されることが間々あった。しかしながら、連歌では少し時期がずれる。[24] まずは、連歌学書や寄合集において「ほととぎす」が死のイメージを持って語られるようになるのはいつ頃かを見てみよう。

管見によると、連歌学書においてこのような説明がなされている最も早い例は、明応三年（一四九四）の奥書をもつ『連歌寄合』であり、それは、

帰るにしかじと付く事、不如帰々々々と鳴也。郭公は、蜀国の王たりしが、旅にて死し給て時鳥となる（と云）一説あり。仍、旅人を帰るにはしかじとをしへたる声と也と云り。[25]

というものである。室町末期の成立で、寛永八年（一六三一）に版行された連歌故実書、『連集良材』にも「不如帰」の説明として同様の説明がある。[26]

蜀王ノ王名ヲバ杜宇ト申シ、成都蜀都也ヲ出テ旅ニシテ死ス。其魂鳥ト成テ、春夏ニ鳴、コレヲ思帰鳥ト号ス。其故ハ古郷ヲヲコヒテ不如帰々々々ト鳴間、不如帰鳥トモ云。又子規又蜀魂蜀魄トモ云。皆郭公ノ古事也。文選ニハ鳥ハ、杜宇ガ魄ヨリ出トイヘリ。此鳥オノガ古郷ニ不皈シテ、他郷ニテ死セシコトヲ悲ンデ、萬ノ行人旅客ヲモ不如帰々々々トスヽメテ、ハヤク古

郷ニカヘレト教ユルナリ[27]

つまり、一五〇〇年前後、連歌の世界に「ほととぎす」の死のイメージが入り込んだものと思われる。そして、それが先に見た、異界、もしくは他界である「やま」との接近という結果に結びついているということも十分に考えられよう。湯川洋司が、

山は里とは異質な意味を持つ空間とみなされてきたのであり、記録に残る山男の里への出現、中世の「山野に入る」「山林に交わる」などの語に示されるアジールとしての性格、さらには隠れ里や落人伝説の成立などは、そうした山の持つ異界性を物語っている。このほか、山稜や峠などで示される境界性、埋墓をさす山墓や死者の還る場所を示す山寺などの語が象徴する山中他界観念の成立と展開など、山は日本人の生活や文化に深く浸透し、日本の歴史に独特な彩りを与えてきた。[28]

というように、日本人にとって「やま」は、「異界」であり、「他界」であり、また「あの世」なのである。

表2－5からもわかるように、俳諧寄合書においては、「ほととぎす」と「やま」の関係は往々にして「死出の山」との連想関係にある（『せわ焼草』、『便船集』、『俳諧類船集』など）。[29]

これらを鑑みるに、一五〇〇年前後に取り入れられた「ほととぎす」の死のイメージがそれ以後、増幅され、そして江戸時代になるとそれが俳諧の寄合書へと流れ込んでいったのではないかと推察されるのである。[30]

では、実際に連歌・俳諧ＤＢで事の真偽を検証してみよう。まずは、連歌において「ほととぎす」、もしくはその別名「しでのたおさ」が死のイメージをもっているのが明白である句を、以下列記する（句の前にある数字はＤＢに付された句番号である）。

○ 顕証院会千句（第九：何人［えたわけの］：一四四九年）

19：みぬかたにーいるさのはらはーあめふりて

20：なほほととぎすーききおくりつつ

21：なきかゆくーのちのよいかにーうかるらむ

○ 北畠家連歌合／書陵部本（：一四七〇年）

224：なけほととぎすーつれてかへらむ

224：のちのよのーふるさとちかしーおいのそら

235：いまひとこゑもーなけほととぎす

235：のちのよはーわすられやすきーものなるに

241r：ほととぎすなくーむらくものうち
241r：のちのよのーやまをつるきとーきくもうし

○ 萱草／伊地知本（巻二：夏：一四七四年）
306：やまちやさらにーのちのよのたひ
307：ほととぎすーなけとかへらむーさともなし

○ 成立不詳・心敬以前（何路［こころあらは］／存疑：一四七五年以前）
26：とりもうかるるーそらののとけさ
27：ほととぎすーさそなやよひをーいそくらむ
28：わかのちのよのーちかくなるみち

○ 難波田千句（第八：□□［はるさめを］：一四八二年）
28：よふかくとほるーむらのしつけさ
29：たかこゑにーいましのふらむーほととぎす
30：たたわかみちそーのちのよのやま

○ 葉守千句（第二：何路［しくるやと］：一四八七年）
36：とほさかりてはーやまもわかれし
37：やすらひてーゆくへしらせよーほととぎす
38：わかよのなかそーたのむかたなき

○ 園塵（第三／続群書類従本：雑下：一五〇一年）
1833：こゑはきけともーあふこともなし
1834：のちのよのーたひひといつくーほととぎす

○ 永正年間百韻（恋［ちらすなよ］：一五〇六年）
69：こととへはーはかなきひとよーあかしかた
70：ほととぎすにもーひとはまたれつ
71：たちはなをーそてのにほひもーあちきなし

○ 那智篭／北野天満宮本（巻上：一五一五年）
1398：このよのほかにーにたるやまこえ
1399：たれをよふーこゑとかきかむーほととぎす

○ 東山千句（第五：唐何［つきこよひ］：一五一八年）
50：なきてやさるのーわれもかなしき
51：ほととぎすーなにのおもひをーゆつるらむ
52：そはぬををしむーひとのたましひ

○ 伊勢千句（第一：何船［あさひかけ］：一五二二年）

32：なきてつゆけきーくさもかたみか
33：ほととぎすーふるきのきはのーことひて
34：いまはそれともーいふひとそなき

○伊勢千句（第五：何人［ふかくいりて］：一五二二年）
88：あらしいまはのーのちもはかなし
89：ほととぎすーなつふけかたのーおとつれに
90：みしかのほとやーよひのまのそら

○天文年間百韻（夢想［ちりてなほ］：一五四一年）
26：うきよのつてやーほかになすらむ
27：なきすててーしてのやまちのーほととぎす
28：さらになみたのーあめとふるくれ

○天文十八年梅千句（第六：山何［うめさけは］：一五四九年）
67：まつこともーなすこともなきーくさのとに
68：してのたをさのーこゑいかならし
69：ひとりゆくーしらぬやまちはーゆふへにて

○称名院追善千句（第一：何木［としことの］：一五六三年）
82：こえむまくらのーみねのはるけさ
83：ほととぎすーよもあかつきにーなきすてて
84：なきひとこふるーそてそひかたき

○五吟一日千句（第一〇：薄何［あけほのの］：一五八一年）
78：よとのわたりのーあとかすむみち
79：なきすてててーほととぎすくるーこゑはをし
80：ひともなみたにーむせふかへるさ

その他、成立年はわからないが、『諸家月次連歌抄』に、
944：なほもなけーまくらにをしきーほととぎす
945：ゆめなりけるよーなきひとのあと
という例が見られる。

この結果から、「ほととぎす」に死のイメージがはっきりと表れ始めるのは、一四四九年以降のことであることがわかる。そして、実際には、一五〇〇年以前にも死のイメージを持つ句が少なからず見られた。

だが、一五〇〇年以前のものは、「ほととぎす」と「のちのよ」の関係で詠まれたものが多いことに気付く（八例中六例）。ということは、連歌には時代区分で言えば、表2－2の①の時代から、「あの世」つまりは「のちのよ」にいる鳥として「ほととぎす」がイメージされていたと言えよう。しかしながら、これらの連歌には、

死のイメージはそれほど強烈に表現されていない。それに比べて、時代区分②、③に相当する時代の連歌には死のイメージが濃厚に表れている。すなわち、②、③の時代に、「ほととぎす」における死のイメージが増幅、強化され、定着するようになったものと思われる。「しでのたおさ」という語が連歌で確認できるのも、②の時期以降のことだ。とりわけ『天文年間百韻』や『称名院追善千句』などの例は、死のイメージが顕著である。

以上の事実から、連歌において、「ほととぎす」に死のイメージが付加され、増幅されていったのが②の時期、つまりは連歌師でいえば宗祇の死後であったことがわかるだろう。

では、俳諧ではどうだろう。連句（俳諧の連歌）では、

○ 紅梅千句（第六［うすきりの］：一六五三年）

36：ついりのあめをーこひてかへるさ
37：ほととぎすーなんとしてかはーこゑきかん
38：してのやまへはーひんきもそなき

○ 紅梅千句（第一〇［けこなりと］：一六五三年）

82：いとしさやたたーなつのあめやま
83：おもはすもーあのよてきくかーほととぎす
84：としみといふもーいまはなはかり

○ 新続犬筑波集（巻二：夏：一六六〇年）

389：うたとかへしはーかくへつにきく
390：ほととぎすーしてのたをさとーもしかへて
391：あとねちむきてーみるおとはやま

○ 貞徳俳諧記（百韻［しやくやくや］：一六六三年）

2：しうんかなつにーかかるふちなみ
3：ほととぎすーれいちのやまにーなきそめて
4：せんけののきにーはるるむらさめ

○ 芭蕉一座連句（一三九巻　歌仙［とひのはも：去来］：一六九〇年）

21：ひともしにーくるれはのほるーみねのてら
22：ほととぎすみなーなきしまひけり
23：やせほねのーまたおきなほるーちからなき

付句なら、

○ 新続犬筑波集（巻五：賀：一六六〇年）

959：のおくりやーなけきのいろのーころもかへ
960：われもちになくーやまほととぎす

発句なら、

○ 新続犬筑波集（巻一四：夏発句上：一六六〇年）

3584：こひしなんーちこくはなかんーほととぎす

3602：ちこくたにやーたたひとこゑのーほととぎす

3623：あふけたたーさんみやくさんほたいのーほととぎす

○ 猿蓑（巻二：夏：一六九一年）

105：こひしなはーわかつかてなけーほととぎす

などの例が見られる。

このことから、俳諧にも死のイメージが受け継がれていることがわかる。さらに付け加えると、所謂、「芭蕉七部集」である『阿羅野』（一六八九年）や『猿蓑』（一六九一年）、『続猿蓑』（一六九八年）などでは「蜀魂」と書いて、「ほととぎす」と読ますということが行われているのである。連歌から俳諧（俳諧の連歌）へ「蜀王の魂が化した鳥」という伝説が受け継がれていき、それが現在まで続いているのである。[02]

以上をまとめると、「ほととぎす」の「やま」への接近と「ひと」からの離反は、単なる言葉への直接的な接近（付合語としての接近）や離反ではなく、「ほととぎす」が死のイメージを伴ったために間接的に起こったものであったことが明らかになった。この事実は、従来行われてきたような、連歌の作品分析からは決して導き出せないものであるということは、この際改めて強調しておくべきであろう。

2－5 「ほととぎす」余滴

「ほととぎす」に関することをもう一点、付け加えるならば、抽出語彙に「ほととぎす」が頻出するのが、宗祇の登場以後であることも興味深い。宗祇の出生前、つまり一四二一年以前に限れば抽出例はわずかに四例しかないのである。図2－8でわかるように、1と5の時代で抽出率が低い。5の時代については、全体の抽出率も極端に低下していたから、先に述べた連歌の質的変化、つまり連歌の簡易化と俳諧化などによって説明できると思われる。

問題は1の時代であるが、この時代の抽出率が低い理由は、おそらく「ほととぎす」という語が少なくとも五・七の単位では、定型的な付合をほとんど持たなかったからであろう。なぜなら、表2－1でわかるように、1の時代は他の時代と比べ、抽出率が決して低いとは言えないからである。ということは、五・七の単位である程度の抽出率があるにもかかわらず、「ほととぎす」に関しては特定の連想語彙が少なかったことを、図2－8の数字は物語っている。同様のことが、表1－3～5についても言える。表1－3は、出現

度が高い連想語彙の上位二〇位の時代変化を調べたものであるが、1の時代では、「ほととぎす」は上位二〇位に入っていない。ところが2の時代になると六位に浮上し、さらに3の時代以降は一位に定着する。表1－4は、連歌中に「ほととぎす」という語彙を含む句数を調べたものだが、ここでも1の時代が他の時代に比べ、「ほととぎす」を含む句自体が少ないことがわかる。表1－5は和歌中に「ほととぎす」を含む歌数を調べたものだが、これは今までと反対にデータのある3の時代まであまり変化していない。

これらを勘案すると、和歌においては「ほととぎす」が大体一定の量詠まれていた時代に、連歌では「ほととぎす」自体もあまり詠まれることがなく、かつ定型的な付合もなされていなかった、という結論が得られる。さらに、連歌寄合で「ほととぎす」と「やま」が連想関係を深めるのが、種々の連歌寄合書が作られた室町中期以降（一五〇〇年以降）であることを考えると、「ほととぎす」の付合語がまだ定着しておらず、ある程度自由な「付け」がなされていた可能性が高いと考えられる。

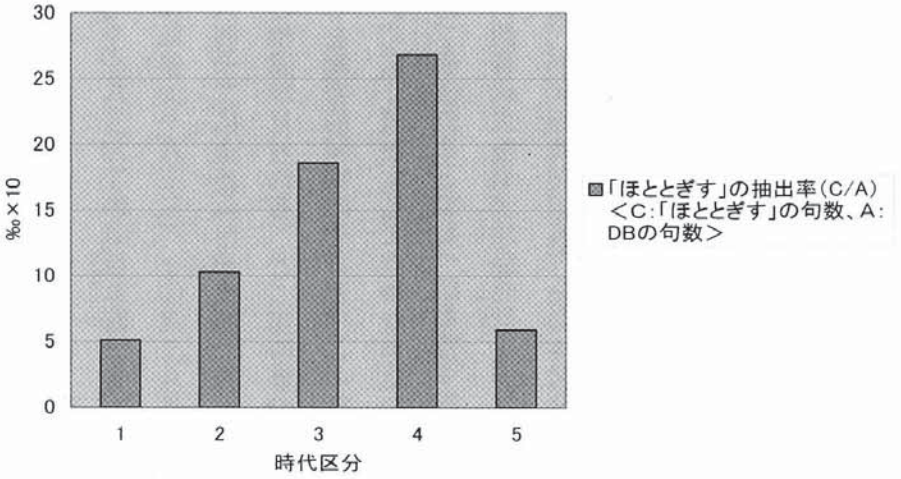

図２－８　「ほととぎす」抽出率の時代変化

また、念のために付言しておくと、いわゆる三英傑の

なかぬなら殺してしまへ時鳥　信長
なかぬなら鳴かせてみせよう時鳥　秀吉

なかぬなら鳴くまで待とう時鳥　家康

という句は、（当然のことながら）後世（江戸時代後期）に作られたものである。

例えば、根岸鎮衛（一七三七～一八一五）の『耳嚢』（一七八二頃～一八一四頃）巻一には、「連歌其心自然に顕るゝ事」と題した以下のような一文がある。

古物語にあるや、また人の作り事や、夫はしらざれど、信長秀吉、乍恐　神君御参会の時、卯月のころ、いまだ郭公を聞ずとの物語り出けるに、信長

鳴ずんば殺して仕まへ時鳥

とありしに秀吉

啼すとも啼せて聞ふ時鳥

とありしに

なかぬなら啼時聞ふ時鳥と

あそばされしは、　神君の由、自然と其御徳化の温順なる、又残忍広量なる所、其自然をあらはしたるが、紹巴も其席にありて、

啼ぬなら鳴ぬのもよし郭公

と吟しけるとや。

これを見ると、それ以前（天明年間（一七八一～一七八九））にこの話があったこと、そしてそれは当時の事（信長の没年以前）として語られていたこと、そしてそこには連歌師、紹巴も関わっていたという話であったこと、などがわかる。

その話が、伝承の過程で字句、シチュエーション、登場人物などが少しずつ変化し、伝承されていったのである。小野高潔（一七四七～一八二九）の『百草露』巻九、作者不明『天保風説見聞録』天保四年（一八三三）一〇月二八日の記事、松浦静山（一七六〇～一八四一）による『甲子夜話』巻五三などに、それらの句（多少字句の相違が見られる）と、句にまつわるエピソードが見られる。これらを総合的に判断すると、この話は天明以前にあったものであろうが、広く流布するようになったのは、天保年間（一八三〇～一八四四）前後のことであったとするのが、穏当かと思われる。この話は、明治時代以後も、加藤咄堂（一八七〇～一九四九）『英雄史』（井冽堂、明治三八年四月）や通俗教育研究会編『逸話文庫』（大倉書店、明治四四年一一月）などで紹介され（『甲子夜話』の影響が強い）広く流布して、今日に至っているのである。

2－6　まとめ

本章では、連歌ＤＢから抽出された連想語彙のネットワーク図が

どのような構造になっているのか、そしてそれは、時代によってどのように変化するのか、そしてそこにはどんな特徴があるのかを探った。

まず、連想語彙ネットワークの全体像は、春と秋を両極におく季節の軸で二分され、夕（日没前）と夜（日没後）の時間軸によって二分された。

また、各時代での連想語彙の抽出率を比較した結果、紹巴の時代と、その没後の時期に特徴が現れた。紹巴が活躍した時代の抽出率は非常に高いが、反対に紹巴没後の抽出率は極端に低かった。この背景には、付合の変化、あるいは連歌の簡略化と質的変化の影響が考えられる。

そして、ネットワーク図と概念図の時代変化を見た結果、「ほととぎす」、「やま」、「ひと」といった語彙の相対的な関係性に大きな変化が見られた。具体的には、時代が下ると「ほととぎす」は「やま」との連想関係を深め、「ひと」から離れる傾向が観察できた。その原因は、単に単語レベルの付合などの直接的な影響で関係性が変化したのではなく、「ほととぎす」という語が室町中期以降（一五〇〇年以降）、連歌師で言えば宗祇の死後に、死のイメージを増幅させていったため起こったものであることが明らかになった。

さらに、「ほととぎす」が連想語彙として抽出される例が、宗祇の活躍期以後に急激に増え、そして紹巴死後に急激に減少した。宗祇登場以後の増加に対しては、定型的な付合が増えたことが想定され、紹巴死後の急激な減少には、連歌の簡略化と質的な変化が大きく影響していると思われる。

注

(1) Analytic Technologies 社のNetDrow2.18を用い、図化には、Gower Metric Scaling Layout を使用した。この手法は、結び付きの強い語を近くに、弱い語を遠くに配置するものである。

(2) 金子金治郎「解説」『連歌集・俳諧集』（『新編日本古典文学全集』六一）、小学館、平成一三年七月、二八三頁

(3) 伊地知鉄男編『連歌論集』下、岩波文庫、昭和六〇年一一月第二版、二三二～二三三頁。ルビは適宜省略した。

(4) 荒木田守平編『二根集』（一五九五年成立）には、紹巴の言葉として「中古ハ、たとへば、よき男・よき男、二人だき合て、ねたるがごとし。みめも、心もよけれど、さして心通ぜず。此心ハ、詞をかざりて、風情を求め付ぬ、といふ心也。宗牧をさへ、中古と云。紹巴流ハ、よき男とよき女の、うしろむきてねたるがごとし。つかぬ様なれども、心通じたる也。よく心を付よと也。風情もかざりもいらずと云々。たとへば、鳥類に荷を負せ、馬に翅を付たる体にせよと也。放れたる事を付合によく心を付たるを、当世と云。宗牧いさめにハ、遙なる違ひ也。」（奥野純一編『二根集』下（古典文庫三四三冊）、古典文庫、昭和五〇年八月、六

九頁）とあり、紹巴以後、付合にも大きな変化があったことがわかる。

(5) 伊地知鉄男解題『梵燈庵主返答書・百韻連歌集・歌道聞書』（古典研究会叢書　別刊第四）、汲古書院、昭和五〇年八月、三三五頁。適宜、読点を補った。ちなみに『歌道聞書』は、『日本文学誌要』第一二号（法政大学国文学会、昭和四二年四月）にその全文が翻刻されている。

(6) 前掲『梵燈庵主返答書・百韻連歌集・歌道聞書』、三五七～三五八頁。適宜、読点を補った。

(7) ちなみに、松永貞徳（一五七一～一六五三）『戴恩記（歌林雑話）』（天和二年〈一六八二〉刊）には、紹巴の言葉として「今はかやうに一句の道理なき事はせぬによりて、付句によき句なきなり」という記載がある（佐佐木信綱編『日本歌学大系』第六巻、風間書房、昭和六一年一〇月第六版、二三四頁）。

(8) 寄合集は以下のものを用いた。

・『連證集』：『鎌倉末期連歌学書』（中世文芸叢書四）、広島中世文芸研究会、昭和四〇年一一月

・『修茂寄合』：三輪正胤・西田正宏「連歌寄合集『修茂寄合』（三輪本）の研究と本文（一）」『人文学論集』第一三号、大阪府立大学人文学会、平成七年三月

・『連珠合璧集』：木藤才蔵・重松裕巳校注『連歌論集（一）』、三弥井書店、昭和四七年四月

・『宗祇袖下』：木藤才蔵校注『連歌論集（二）』、三弥井書店、昭和五七年一一月

・『連歌作法』：木藤才蔵・重松裕巳編著『連歌寄合集と研究』（上）、未刊国文資料刊行会、昭和五三年六月

・『宗長歌話』：木藤才蔵・重松裕巳編著『連歌寄合集と研究』（下）、未刊国文資料刊行会、昭和五四年八月

・『連歌寄合』：前掲『連歌寄合集と研究』（上）

・『連歌付合の事』：前掲『連歌論集（一）』

・『連歌作法書』：長谷川強校訂『幼童抄・連歌作法書』（西日本国語国文学会翻刻双書）、西日本国語国文学会翻刻双書刊行会、昭和三七年九月

・『拾花集』：久曽神昇編『日本歌学大系』別巻八、風間書房、平成元年六月

・『竹馬集』：深沢真二「（翻刻）連歌寄合書『竹馬集』」『調査研究報告』第一四号、国文学研究資料館文献資料部、平成五年三月

・『随葉集』：木藤才蔵編『随葉集』（古典文庫第四三二冊）、古典文庫、昭和五七年九月

・『玉拾集』：深沢真二「（翻刻）連歌寄合書『玉拾集』」『調査研究報告』第一一号、国文学研究資料館文献資料部、平成二年三月

・『せわ焼草』：米谷巌編『せわ焼草』、ゆまに書房、昭和五一年三月

・『便船集』：金沢近世語研究会編『便船集索引』、金沢近世語研究会、昭和五二年五月

・『初本結』：島本昌一編『初本結ー本文と俳諧付合語索引』、勉誠社、昭和六〇年九月
・『俳諧類舩集』：野間光辰監修『俳諧類舩集』（『近世文芸叢刊』第一巻）、般庵野間光辰先生華甲記念会、昭和四四年一一月
・『俳諧小傘』：近世文学書誌研究会編『俳諧小傘』（『近世文学資料類従』参考文献編一三）、勉誠社、昭和五四年四月
＊なお、『随葉集』、『拾花集』、『竹馬集』については、深沢真二編著『近世初期刊行連歌寄合書三種集成』（清文堂出版、平成一七年一二月）として、翻刻刊行されている。
＊本書における時代区分は、以下の通り。

鎌倉期（時代）：一一九二年～一三三三年
（鎌倉幕府成立から滅亡まで）
室町期（時代）：一三三七年～一五七三年
（室町幕府成立から滅亡まで）
安土桃山期（時代）：一五七三～一六〇三年
（織田信長の天下統一から江戸幕府成立まで）
江戸期（時代）：一六〇三～一八六七年
（江戸幕府成立から大政奉還まで）

(9) 前掲『鎌倉末期連歌学書』、八五頁
(10) 久曽神昇編『日本歌学大系』別巻七、風間書房、昭和六一年一〇月初版、三四四頁
(11) この歌は『万葉集』以来持つ「ほととぎす」の「懐旧」イメージから詠まれたもので、死のイメージで詠まれたものではない。この歌は「詞書」もなく、「よみ人しらず」の歌である。
(12) 岩野真雄編『国訳一切経』大集部五、大東出版社、昭和六三年八月改訂六刷、三〇〇頁。経典では、「無常鳥」のことを指す。
(13) 前掲『日本歌学大系』別巻一、昭和五九年六月五版、一〇五頁
(14) 前掲『日本歌学大系』別巻一、二七六頁
(15) 佐佐木信綱編『日本歌学大系』第一巻、風間書房、昭和五八年一一月六版、一三七頁
(16) この歌の詞書は「人のもとに侍りけるにはかにたえいりうせなんとしければ、しとみのもとに入れておほちにおきたりけるに草の露のあしにさはりける程にほととぎすのなきければ、いきのしたに」（『新編国歌大観』第一巻、角川書店、昭和五八年二月、一五五頁）である。
(17) 前掲『日本歌学大系』第一巻、三二〇～三二一頁
(18) 前掲『日本歌学大系』別巻二、昭和五八年五月、一七八～一七九頁
(19) 本井牧子「十王経とその享受（上）―逆修・追善仏事における唱導を中心に―」（『国語国文』第六七巻第六号、京都大学国文学会、平成一〇年六月）を参照されたい。
(20) 草部了円は本来「農をすゝむる『四手の田長』（播種の日に、田の畦に四手〈幣〉を立て神事を行なうが、その頃時鳥が飛来して稲の害虫を食べ、稲の成育を守ることからきたとされる―筆者注）であった」ものが、

「『死出の田長』となってしまった事は十王経の説が持ち出されたばかりに、四手が死出に相通じたことが重なりゆうであると考えられる」としている（「夏は郭公を聞く―語らふごとに、死出の山路を契る―」『国文学論叢』第一八号、龍谷大学国文学会、昭和四八年三月、三七頁）。さらに草部は歌の解釈から「時鳥が『冥土の鳥』として、和歌に詠まれるようになったのは、拾遺集の頃からだと見て、差支えないのではないだろうか」とその時期を推定している（同、三六頁）。もし『拾遺和歌集』の頃とすれば、その時期は一一世紀初頭のことになる。

(21) 今、参考までに荻尾待也編著『辞世千人一首』（柏書房、平成一七年七月）に掲載されている辞世で、歌の中に「ほととぎす」が詠みこまれているものを時代順に列挙しておこう（表記は原文に従った。ただし送り仮名は省略した）。

〈平安時代〉

▼鳥羽天皇（一一〇三～一一五六）

つねよりもむつまじきかなほととぎす　死出の山路の友と思へば

▼平重衡（一一五七～一一八五）

思ふこと語りあはさむ時鳥　よろこばしくも西へゆくかな

〈室町時代〉

▼足利義輝（一五三六～一五六五）

五月雨は露か涙か時鳥　わが名をあげよ雲の上まで

▼柴田勝家（一五二二～一五八三）

夏の夜の夢路はなかきあとの名を　雲井にあげよ山ほととぎす

▼お市の方（一五四七～一五八三）

さらぬだにうちぬるほども夏の夜の　夢路をさそふほととぎすかな

▼中村文荷斎（生没年未詳）

契りあれば涼しき道に仕へ行く　のちの世までもきくほととぎす

▼おこぼ（生没年未詳）

わが恋は深山の奥のほととぎす　泣き悲しみて身は果てにけり

〈江戸時代〉

▼徳川光圀（一六二八～一七〇〇）

ほととぎす誰も一人は淋しきに　われを誘へ死出の山路に

▼北村季吟（一六二四～一七〇五）

花も見つほとゝぎすをも待ち出でつ　この世後の世思ふことなき

▼大田南畝（蜀山人：一七四九～一八二三）

時鳥鳴きつるかた身初鰹春と夏との入相の鐘

以上が辞世全一〇〇〇首の中に見られた「ほととぎす」の歌である。ただし、留意しておくべきは、「辞世」という場合、その定義が曖昧で必ずしも一義的ではないこと、それに、出典が不明瞭であり、後世に作られたものか否かを判別し難いこと、である。これ故、ここではあくまでも参考までに挙げたに過ぎないことを、再度強調しておく。

(22) 日本随筆大成編輯部編『日本随筆大成』第二期第一六巻、吉川弘文館、昭和四九年八月、三七二～三七三頁

(23) 岩田涼菟の辞世については『俳家奇人談』などに、その記述がある。例えば『俳人逸話紀行集』（『俳諧叢書』第六冊）、博文館、大正四年八月、三七一頁。また辞世については、部矢祥子「辞世の成立と展開― 中世和歌の一様相―」（『和歌文学研究』第六九号、和歌文学会、平成六年一一月）に詳しい。部矢によると、辞世は鎌倉中期に禅僧による漢詩から始まり、それが室町前期頃に和歌に波及し、以後和歌が細やかな心情表現に適していると想われたからか、その中心になっていくという。さらに室町時代、辞世の和歌は、各階層によって詠まれ、短冊等の料紙に記されるようになり、これによって公家の独占していた和歌が各階層、各地方へと下降・分散化現象を起こすようになった一要因であるという。しかしながら、部矢は辞世の和歌表現に関しては全く触れていない。自己の死に対峙した時の和歌表現には、通常詠まれる和歌との相違点、あるいは共通点（季節の意識など）があるはずであり、辞世研究における今後の検討課題となるであろう。ところで、寛永年間（一六二四～一六四四）の成立とされる『月刈藻集』には、「辞世ノ歌ハイカホトアシクトモ。コレハ志ノホド可感。ナニガ苦痛身ヲ責テイカニ心ノ中シツマルマシキニ。末期歌ヲ残サントハ志シフキコトナリキ」とある（塙保己一編『続群書類従』第三三輯上〈雑部〉、続群書類従完成会、昭和五九年九月訂正三版第六刷、九一頁）。この記述から、辞世は質ではなく、その志を賞賛するものであることがわかる。

(24) 連歌師の和歌観については、奥田勲「連歌と和歌」『和歌の伝統と享受』（和歌文学論集一〇）、風間書房、平成八年三月所収）を参照されたい。奥田によると、宗祇などは連歌を「歌の雑体」と見ているが、歌とは異なる部分があることをはっきりと認めている。奥田も引用しているが、心敬（一四〇六～一四七五）も『老のくりごと』（文明三年〈一四七一〉から同七年までの成立）には、「上古・中比の好士いづれも歌の道にくらく見え侍るにや」という言が見られる。これらのことから、連歌と和歌は、重なる部分もあるとはいえ、基本的には違うものと認識され、連歌師が必ずしも和歌的教養を身につけていたとは限らないことがわかる。「ほととぎす」のイメージについても、同様のことが言えるのではないだろうか。和歌であるイメージが定着していたとしても、必ずしもそれがそのまま連歌の世界にも引き継がれていたとは即断できないのである。

(25) 前掲『連歌寄合書と研究』上、六九頁

(26) 乾安代は「成立が室町末期とされるのは、例句として引用されている句の作者や、その句が収載されている句集の成立と、近世のごく初期に既に出版されている事実などの関係に拠るものと思われるが、『連集良材』の記述から、作者を特定ないしは推定したり、或いは成立の過程等を推測することは、全くできない」が「秘伝のような意識で記したもの（成立当初はこのようであった可能性が全くないわけではないが）ではなく、一応連歌師として名乗る以上は知っておくべき、基礎的教養とでもいうような存在であった」と述べている（『『連集良材』おぼえがき」徳江元正編『室町文藝論攷』、三弥井書店、平成三年一二月、四三二～四三三頁）。

(27) 国書刊行会編『続々群書類従』第一五輯、続群書類従完成会、昭和五九年九月第四刷、四八五頁。原文には句読点はないが、読み易さを考慮して適宜句読点を配した。里村紹巴と親交のあった臨済宗（天竜寺）の僧、策彦周良（一五〇一～一五七九）の『蠡測集』（慶長六年（一六〇一）奥書）に「三体詩ニモ蜀魂啼来春寂寞。楚魂吟後月朦朧トアルソ。蜀魂ハ杜鵑ソ。蜀望帝ノ魂カナリタトテヤカテ望帝ト名ツケタソ。山谷モ一声望帝花片飛ト作タソ。杜宇ヲ杜主トモシタヲ。祖庭事苑ニ有ソ。」といった記述が見られるのも、こういった時代背景と何らかの関係があるのかもしれない（塙保己一編『続群書類従』第三二輯下（雑部）、続群書類従完成会、昭和五六年二月訂正三版第五刷、五八三～五八四頁）。ここでは指摘のみにとどめる。その他、僧日信（生没年未詳）編『榻鳴暁筆』（一五二一～一五三二年頃の成立）には二箇所に「ほととぎす」の説明がある。一つは、第一三に載る「蜀杜鵑」で、次のようなものである。

一、昔漢土に杜鵑と云人あり。蜀国へ流され遂に古郷へかへらで彼国にして死けり。その魂鳥となりしを杜鵑と名付く。此鳥不如帰不如帰と鳴、暁に至りて口より血を出すといへり。

今云、ほとゝぎすと云字を杜鵑とも不如帰とも書く、此故歟、然るに今の心ならば血をはくといへり。別歟、又ほとゝぎすを蜀魂とも書るは同事歟。

（『榻鳴暁筆』、三弥井書店、平成四年一月、二七六～二七　七頁：繰り返し記号を該当する文字に変換した）

この文章では、蜀王の伝説ではなくなっている点が注目される。もう一つは、第二〇に載る「郭公異名」と題された次のような文章である。

又郭公にこそ異名は多く侍めれ。

くらき鳥　あやなし鳥
もゝこゑ鳥　たなかとり
うなひことり　しろとり
あみとり　よめとり
夜とことり　まめやかとり
たまさか鳥　うたゐとり　以上十二、皆万葉に有

郭公の二字をあきらかなるきみとよむ也。心は国王にはまつりごと八あり。一食、二貨、三礼、四司、五冠、六司徒、七賓、八師也。郭公は即田速作過時不熟と鳴、これ明王第一の政を轉が故に郭公と云也。又時鳥と書事は農時の鳥なるが故也。□□（＊ワープロソフトに該当文字無し）とかく事はしでの山路を越て来る故也と。それは実の死出の山にはあらず。此鳥とき過ぬれば、石のはざまなどに籠り、はたらかであるが、時いたればうごき出るを死出の山こゆると云也。心はうごかぬ物のうごき来るは死したる者のいきかへるに似たる故也。（中略）或云、誠に死出の山を越ともいへり。景行天皇崩御し給たりけるに、

御殿の上に郭公一声音づれて物を落したり。后とりて御覧ずるに前皇の宸筆にて、

わくらはにとふ人あらば死出の山なくなくひとりこへぬとゝ

いへ

これによりしてかくいへり。（同前書、四三三～四三四頁）

ここには、他の書籍に見られない「ほととぎす」解釈が見られる。

(28) 福田アジオほか編『日本民俗大辞典』下巻、吉川弘文館、平成一二年四月、七三八頁

(29) 山は「あしびきの」という枕詞をもつことからも解るように、元来神が降臨する特別な場所であり、畏怖の対象であった。その後、時代と共に様々な「やま」観が生じた。例えば、地獄も極楽も山中にあるとする思想を「山中他界観」という。佐藤弘夫によると「起請文の分析から、中世では『地獄は近く、極楽は遠い』という仏教本来の世界観が、かなり忠実に受け止められて」おり、「一般的にいわれるような山中他界の観念が日本で一般化するのは、彼岸世界が縮小し現世に内在化していく江戸時代以降の現象と考え」られるという（佐藤弘夫『起請文の精神史―中世世界の神と仏』、講談社選書メチエ、平成一八年四月、五五頁）。もしこの指摘が正しければ、和歌や連歌・俳諧での「やま」のイメージ（「のちのよのやま」「しでのやま」といった用例がいくつも見られることから、「あの世」と「やま」はすでに中世において親密な関係にあったことは確かである）が、後に「山中他界観」が一般に広まり、共有化されていくための一つの要因となった可能性がある。

(30) 延宝四年（一六七六）の奥書を持つ連歌作法書『温故日録』は、「郭公」の説明に「鶯花藤霞なとむすひても夏也　杜鵑は弥生の末つかたよりもすへし五月までもまつやうにする也　四手田長（シデノタオサ）　時鳥（トキフトリ）なとゝいふ事連歌にはきらふ也」とあり、江戸時代初期の連歌において「しでのたおさ」という表現が連歌では忌避されることがあったことがわかる。『温故日録』は『親和女子大学研究論叢』第一号から第六号に翻刻があり、引用部分は第三号（昭和四四年一一月）、八七頁に載る。

(31) ただし、里村昌休（一五一〇～一五五二）、宗養に仮託された偽書『連歌天水抄』（慶長年間（一五九六～一六一五）の成立か）には、「郭公」の説明として「春の内より鳴かし、としたふ心本意也。前句の付様、一かどさはやかに有度候。月うすくして雨そぼふるに鳴物也。月に鳴かしと願ふこゝろをかんとする也。月になけ同じ雲井の時鳥　といふ分別可有候。四月より五月迄待ていよし。」とあり、また「田長」の項には「時鳥の心にあらず。只五月に田をうふる時分に鳴鳥也。是も猿をましらと言と同。しでのたをさの事也。」とある（木藤才蔵編『宗養連歌伝書集』（古典文庫四三九冊）、古典文庫、昭和六二年一一月、五一～五二頁）。ここでは、「たおさ」を使う場合には「ほととぎす」と違う意識で付けるよう促している。当時このような意見が主流だったのか否かはわからないが、「してのたおさ」とするときにはその詞を使う必然性からか特別な

意味を込め、単なる「ほととぎす」と違う意識で付けていたことは十分に考えられる。

(32) 俳諧（俳諧の連歌）は、連歌よりも用語が自由であるから「ほととぎす」を「とけん」、「ときのとり」、「くつてとり」、「かつことり」、「しき」などとして詠み込んでいる場合がある。

(33) 三村清三郎ほか編『日本芸林叢書』第九巻、六合館、昭和三年九月、八五～八六頁

連想語彙用例辞典

連歌の発想　－連想語彙用例辞典と、そのネットワークの解析

連想語彙用例辞典

山田奨治・岩井茂樹　編著

国際日本文化研究センター

【凡例】

本辞書は、日文研連歌・俳諧データベースから抽出し、編集した連想語彙をもとに、文書成形ソフトpLaTeX2eを用いて版下を作成した。

［本辞書の構成］

＜目次＞見出し語と、前句見出し語の頁数を記したもの

＜本文＞見出し語（502項目を収録）、小見出し（①前句見出し語、②付句見出し語）、用例

＜索引＞小見出し索引

［見出し］

⑴　本文各項目の見出し語は、太字（ゴシック）で記した。

⑵　項目中には、つぎの二種類の小見出しをつけた。

①前句見出し語：連歌の前句として抽出した語

②付句見出し語：連歌の付句として抽出した語

［配列］

⑴　見出し語（太字）は五十音順に配列した。ただし、濁点のつくものは、清音が終了した後に配置した。

⑵　小見出しも見出し語と同様に配列した。

［用例］

各句の実例を、前句（上段）、付句（下段）の順に記した。さらに、付句の下に作品名、巻名、成立年代を記した。成立年代が全くわからないものについては、空白、もしくは「成立時不詳」とした。

［表記］

⑴　見出し語、小見出し語、共に現代語、通用漢字、ならびに現代仮名づかいで表記し、古語は一切用いないようにした。

例）あききぬ（用例）→あき（見出し語）、秋が来る（小見出し語）

⑵　小見出し語の上に読み仮名を小文字で記した。

⑶　小見出し語は、できる限り終止形とした。なお、現代語訳の都合で命令形や助詞が語尾となっている例も一部ある。

例）はなをみて（用例）→花を見る（小見出し）

⑷　小見出し語に助動詞がある場合、現代語訳するか、あるいは現代語訳する必要が認められないものについては無視して割愛した。

例１）ころもうつらむ（用例）→衣打つ（小見出し語）

例２）おもははや（用例）→思いたい（小見出し語）

目 次

あお 55
あおばのはなのあと（青葉の花の後） 55
あおやぎ（青柳） 55
あおやぎのいと（青柳の糸） 55
あおやぎのかげ（青柳の陰） 55
なびくあおやぎ（靡く青柳） 55
あかしがた 55
あかしがた（明石潟） 55
つきのあかしがた（月の明石潟） 56
あかつき 56
あかつき（暁） 56
あかつきづき（暁月） 56
あかつきのそら（暁の空） 56
あき 56
あきかぜ（秋風） 56
あきかぜがふく（秋風が吹く） 59
あきかぜのこえ（秋風の声） 59
あきがくる（秋が来る） 60
あきくさ（秋草） 60
あきくる（秋来る） 60
あきさむい（秋寒い） 60
あきしぐれ（秋時雨） 60
あきちかくなる（秋近くなる） 61
あきにしぐれる（秋に時雨れる） 61
あきのおもかげ（秋の面影） 61
あきのかわかぜ（秋の川風） 61
あきのくれがた（秋の暮れ方） 61
あきのさびしさ（秋の寂しさ） 61
あきのさわみず（秋の沢水） 62
あきのそら（秋の空） 62
あきのたまくら（秋の手枕） 62
あきのつき（秋の月） 62
あきのはつかぜ（秋の初風） 62
あきのほたる（秋の蛍） 63
あきのむらさめ（秋の村雨） 63
あきのやま（秋の山） 63
あきのよすがら（秋の夜すがら） 63
あきのよなが（秋の夜長） 64
あきのよなよな（秋の夜な夜な） 64
あきのよのつき（秋の夜の月） 64

あきふける（秋更ける） 64
あきふけわたる（秋更け渡る） 65
ういあき（憂い秋） 65
こずえのあき（梢の秋） 65
すごいあきかぜ（凄い秋風） 65
すずしさにあきたつ（涼しさに秋立つ） 65
ただあきのかぜ（ただ秋の風） 65
とおやまのあき（遠山の秋） 66
はつかぜときのうはきいてあきふける（初風と昨日は聞いて秋更ける） 66
はるあきのいろ（春秋の色） 66
ふくかぜのあきのつゆ（吹く風に秋の露） 66
ふるさとのあき（古里の秋） 66
みねのあきかぜ（峰の秋風） 66
よわのあきかぜ（夜半の秋風） 66
あく 67
あきないことのね（飽きない琴の音） 67
あけぼの 67
あけぼののくも（曙の雲） 67
あけぼののそら（曙の空） 67
あけぼののやま（曙の山） 67
つゆのあけぼの（露の曙） 68
にわのあけぼの（庭の曙） 68
のべのあけぼの（野辺の曙） 68
はるのあけぼの（春の曙） 68
はるはあけぼの（春は曙） 69
ゆきのあけぼの（雪の曙） 69
あける 69
あけがたのそら（明け方の空） 69
あけはてる（明け果てる） 69
あけはなれる（明け離れる） 69
あけやすいつき（明けやすい月） 69
あける（明ける） 70
あさけしずか（朝明け静か） 70
たますだれあける（玉簾あける） 70
ゆきのあさあけ（雪の朝明け） 70
よがあける（夜が明ける） 70
あさ 70
あさがすみ（朝霞） 70
あさくるうぐいす（朝来る鶯） 71
あさけしずか（朝明け静か） 71
あさひかげ（朝日影） 71
あさぼらけ（朝ぼらけ） 71
あさまだき（朝まだき） 72
あした（朝） 72
かぜとあさがすみ（風と朝霞） 72
けさのはつゆき（今朝の初雪） 72
ゆきのあさあけ（雪の朝明け） 73
あさがお 73

あさがおのいろ（朝顔の色） 73
あさがおのはな（朝顔の花） 73
しぼむあさがお（萎む朝顔） 73
そののあさがお（園の朝顔） 73
あさの 74
あさのさごろも（麻の狭衣） 74
あさのごろも 74
あさごろもうつ（麻衣打つ） 74
あし 74
あしびたくかげ（葦火焚く影） 74
あじけない 74
あじけないよ（味気ない世） 74
あたらしい 74
にいたまくら（新手枕） 74
あだ 74
あだとかかりくる（徒と掛かり来る） 74
げにもあだしむ（げにも徒しむ） 75
あと 75
あおばのはなのあと（青葉の花の後） 75
あとをだにとう（後をだに訪う） 75
あめすぎたあとのしずけさ（雨過ぎた後の静けさ） 75
いにしえのあと（古の後） 75
うしろのやま（後ろの山） 75
きぬぎぬのあと（後朝の後） 75
くもどりのあと（雲鳥の跡） 76
さみだれのあと（五月雨の後） 76
のちのよのみち（後の世の道） 76
のわきのあと（野分の後） 76
はるよりのち（春より後） 76
ふでのあと（筆の跡） 76
むらさめのはれゆくあとはあらし（村雨の晴れゆく後は嵐） 76
ゆうだちのあと（夕立の後） 76
わかれじのあと（別れ路の跡） 77
あま 77
あまおぶね（海人小舟） 77
あまのつりぶね（海人の釣舟） 77
あまた 78
かずあまた（数あまた） 78
あまひこ 78
あまひこのこえ（天彦の声） 78
あめ 78
あめかすむくれ（雨霞む暮れ） 78
あめがふる（雨がふる） 78
あめすぎたあとのしずけさ（雨過ぎた後の静けさ） 78
あめのうち（雨の内） 78
あめのくれ（雨の暮れ） 79
あめのこるそら（雨残る空） 79
あめののどけさ（雨の長閑さ） 79

あめをまつ（雨を待つ） . . . 79
こころをつくすあめのよる（心を尽す雨の夜） . . . 79
ながあめのそら（長雨の空） . . . 79
やよいのあめ（弥生の雨） . . . 79
あやめぐさ . . . 80
あやめぐさ（菖蒲草） . . . 80
あゆ . . . 80
みずのさびあゆ（水の錆鮎） . . . 80
あらし . . . 80
あらしふくやま（嵐吹く山） . . . 80
むらさめのはれゆくあとはあらし（村雨の晴れゆく後は嵐） . . . 80
ゆうあらし（夕嵐） . . . 80
あらそう . . . 80
こころあらそううた（心争う歌） . . . 80
なみだあらそうこえ（涙争う声） . . . 80
あらまし . . . 81
あらまし（あらまし） . . . 81
あらわれる . . . 81
あらわす（現す） . . . 81
あらわれる（現れる） . . . 81
はなのこずえにあらわれる（花の梢に現れる） . . . 81
ありあけ . . . 81
ありあけ（有明） . . . 81
ありあけのかげ（有明の影） . . . 82
ありあけのそら（有明の空） . . . 82
ありあけのつき（有明の月） . . . 82
おぼろにのこるありあけのつき（朧に残る有明の月） . . . 83
つきにありあけのそら（月に有明の空） . . . 83
つきはありあけ（月は有明） . . . 84
のこるありあけ（残る有明） . . . 84
ある . . . 84
あるかなきか（有るか無きか） . . . 84
あるもの（あるもの） . . . 84
ただありなしのちぎり（ただ有り無しの契り） . . . 84
ひともある（人もある） . . . 84
あわれ . . . 85
あわれ（哀れ） . . . 85
あわれしる（哀れ知る） . . . 85
あわれである（哀れである） . . . 85
ちょうのあわれさ（蝶の哀れさ） . . . 85
のべのあわれさ（野辺の哀れさ） . . . 85
い . . . 85
やまのいのみず（山の井の水） . . . 85
いう . . . 85
といいかくいい（と言いかく言い） . . . 85
いえ . . . 86
かくれが（隠れ家） . . . 86
かくれがのやま（隠れ家の山） . . . 86

かくれがはない（隠れ家はない） 86
やまのかくれが（山の隠れ家） 86
いおり 87
くさのいお（草の庵） 87
しばのいお（柴の庵） 87
たにのいお（谷の庵） 87
みねのいお（峰の庵） 87
やまがつのいお（山賤の庵） 87
いかが 87
いかが（如何） 87
いかにねて（如何に寝て） 88
いく 88
うつりもてゆく（移り持て行く） 88
ゆくほととぎす（行く時鳥） 88
いくえ 88
いくえかすみ（幾重霞） 88
いくえとよらのたけのしたみち（幾重豊浦の竹の下道） 88
いけ 88
いけふる（池ふる） 88
いけみず（池水） 88
いさらい 89
いさらいのみず（いさら井の水） 89
いずち 89
とまりぶねおとしていずち（泊まり舟音していずち） 89
ほととぎすまくらのいずちすぎる（時鳥枕のいずち過ぎる） 89
いそぐ 89
いそがれる（急がれる） 89
いそぐ（急ぐ） 89
かえりをいそぐ（帰りを急ぐ） 89
いち 90
うめのひともと（梅の一本） 90
おかべのはじのひとむら（岡辺の櫨の一群） 90
きくのひともと（菊の一本） 90
くものひとむら（雲の一群） 90
けむりひとすじ（煙一筋） 90
さとのひとむら（里の一群） 90
たけのひとむら（竹の一群） 91
ただひととおり（ただ一通り） 91
とりのひとこえ（鳥の一声） 91
なかなかいちはすみよい（中々市は住み良い） 91
はなのひとえだ（花の一枝） 91
はなのひともと（花の一本） 91
ひとしぐれ（一時雨） 92
ひとすじ（一筋） 92
ひととおり（一通り） 92
ひとむら（一群） 92
ひとむらさめ（一村雨） 92
ひとりねとかげ（一人寝と影） 92

ひとりねる（一人寝る） 92
ふとむらすすき（一群薄） 93
ほととぎすのひとこえ（時鳥の一声） 93
まつのひとむら（松の一群） 93
まつのひともと（松の一本） 93
みずのひとすじ（水の一筋） 93
みちのひとすじ（道の一筋） 93
いつ 94
いつかさて（何時かさて） 94
いつわり 94
いつわり（偽り） 94
いと 94
あおやぎのいと（青柳の糸） 94
いとう 94
よをいとう（世を厭う） 94
いなおおせどり 94
いなおおせどり（稲負鳥） 94
いなずま 95
いなずまのかげ（稲妻の陰） 95
いにしえ 95
いにしえ（古） 95
いにしえのあと（古の後） 95
いにしえのつき（古の月） 95
いにしえのみや（古の宮） 95
いにしえのゆめ（古の夢） 95
いのち 95
いのちであってほしい（命であってほしい） 95
いのちにて（命にて） 96
いのる 96
かみにただいのる（神にただ祈る） 96
いま 96
むかしをいまの（昔を今の） 96
いも 96
いもがこいしくて（妹が恋しくて） 96
いもにこいつつ（妹に恋いつつ） 96
いりあい 97
いりあいのかね（入相の鐘） 97
いる 98
いりひかげ（入り日影） 98
つきのいりがた（月の入方） 99
はるのいりひ（春の入日） 99
いろ 99
あさがおのいろ（朝顔の色） 99
いろかわる（色変わる） 99
いろかわるころ（色変わる頃） 99
いろづく（色付く） 99
はなのいろ（花の色） 100
はるあきのいろ（春秋の色） 100

いろいろ 100
きぎのいろいろ（木々の色々） 100
そでのいろいろ（袖の色々） 100
のべのいろいろ（野辺の色々） 100
いわ 100
いわがね（岩が根） 100
いわがねのまつ（岩が根の松） 101
いわこすなみ（岩越す浪） 101
くめのいわはし（久米の岩橋） 101
たきのいわなみ（滝の岩浪） 101
いわう 101
かえりにこまいわうこえ（帰りに駒祝う声） 101
うい 101
うい（憂い） 101
ういあき（憂い秋） 102
ういしぎのはねがき（憂い鴫の羽掻き） 102
ういふゆごもり（憂い冬籠り） 102
うきをただなぐさめる（憂きをただ慰める） 102
うくつらい（憂く辛い） 102
たびはうい（旅は憂い） 103
みるのもうい（見るのも憂い） 103
われでなくなるのがうい（我でなくなるのが憂い） 103
うえ 103
うえはつれない（上は連れない） 103
おぎのうわかぜ（荻の上風） 103
かすみのうちのみずのみなかみ（霞の内の水の水上） 104
きりのうえ（霧の上） 104
さくらのうえ（桜の上） 104
つきのかわかみ（月の川上） 104
なみだがわがそでのうえ（涙が我が袖の上） 104
なみのうえ（浪の上） 104
はちすのうえ（蓮の上） 105
まくらのうえ（枕の上） 105
うえる 105
うえるた（植える田） 105
はなうえる（花植える） 105
うく 105
こころうかれる（心浮かれる） 105
たってうかれる（立って浮かれる） 105
なみのうきふね（浪の浮舟） 106
ゆめのうきはし（夢の浮橋） 106
うぐいす 106
あさくるうぐいす（朝来る鶯） 106
うぐいす（鶯） 106
うぐいすがなく（鶯が鳴く） 108
うぐいすのこえ（鶯の声） 108
のべちかいうぐいす（野辺近い鶯） 111
うける 111

かけいにうけるみず（懸樋に受ける水） . . . 111
うすい . . . 111
うすけむり（薄煙） . . . 111
うた . . . 111
うたのしなじな（歌の品々） . . . 111
こころあらそううた（心争う歌） . . . 111
うち . . . 112
あめのうち（雨の内） . . . 112
うちのゆき（内の雪） . . . 112
かすみのうちのみずのみなかみ（霞の内の水の水上） . . . 112
くさのとのうち（草の戸の内） . . . 112
さみだれのうち（五月雨の内） . . . 112
しばのとのうち（柴の戸の内） . . . 112
ただゆめのうち（ただ夢の内） . . . 112
ふるみやのうち（古宮の内） . . . 112
ゆきのうち（雪の内） . . . 113
うつ . . . 113
あさごろもうつ（麻衣打つ） . . . 113
うちかえすた（打ち返す田） . . . 113
たけをうつこえ（竹を打つ声） . . . 113
うつのやま . . . 113
うつのやま（宇津の山） . . . 113
うつのやまごえ（宇津の山越え） . . . 113
うつる . . . 114
うつりもてゆく（移り持て行く） . . . 114
うつろう（移ろう） . . . 114
こはぎうつろう（小萩移ろう） . . . 114
そでのうつりが（袖の移り香） . . . 114
うのはな . . . 115
うのはな（卯の花） . . . 115
うみ . . . 115
はるのうみつら（春の海面） . . . 115
うめ . . . 115
うめさく（梅咲く） . . . 115
うめにおう（梅匂う） . . . 115
うめにおうころ（梅匂う頃） . . . 115
うめのか（梅の香） . . . 115
うめのかがする（梅の香がする） . . . 116
うめのひともと（梅の一本） . . . 116
くれないのうめ（紅の梅） . . . 116
そでのうめのか（袖の梅の香） . . . 116
におううめのか（匂う梅の香） . . . 117
やどのうめ（宿の梅） . . . 117
やどのうめのか（宿の梅の香） . . . 117
うら . . . 117
しがのうらぶね（志賀の浦舟） . . . 117
すまのうら（須磨の浦） . . . 117
すまのうらなみ（須磨の浦浪） . . . 118

すみよしのうら（住吉の浦）．．．118
なおすまのうら（なお須磨の浦）．．．118
ふくなみのうらかぜ（吹く浪の浦風）．．．118
うらなう．．．118
みちのつじうら（道の辻占）．．．118
うらむ．．．118
こころうらめしい（心恨めしい）．．．118
つれなさをうらむ（連れなさを恨む）．．．119
ひとがうらめしい（人が恨めしい）．．．119
えだ．．．119
はなのひとえだ（花の一枝）．．．119
おい．．．119
おいのゆくすえ（老いの行く末）．．．119
おうさかのせき．．．119
おうさかのせき（逢坂の関）．．．119
こえるおうさかのせき（越える逢坂の関）．．．119
おうさかのやま．．．120
おうさかのやま（逢坂の山）．．．120
こえるおうさかのやま（越える逢坂の山）．．．120
おおはら．．．120
おおはらまつり（大原祭り）．．．120
おか．．．120
おかべのはじのひとむら（岡辺の櫨の一群）．．．120
おき．．．120
おきのしらなみ（沖の白浪）．．．120
おきのつりぶね（沖の釣舟）．．．120
おきのなみ（沖の浪）．．．121
おきのふね（沖の舟）．．．121
おぎ．．．121
おぎにかぜ（荻に風）．．．121
おぎのうわかぜ（荻の上風）．．．121
おく．．．122
おくやまのかげ（奥山の陰）．．．122
みよしののおく（み吉野の奥）．．．122
やまのおく（山の奥）．．．122
おくる．．．122
おくる（送る）．．．122
そでふきおくるかぜ（袖吹きおくる風）．．．122
おぐるま．．．123
おぐるまのおと（小車の音）．．．123
おしい．．．123
おしむ（惜しむ）．．．123
おしんではなをみる（惜しんで花を見る）．．．123
ちるのがおしい（散るのが惜しい）．．．123
おそい．．．123
おそざくら（遅桜）．．．123
おだまき．．．123
しずのおだまき（賤の苧環）．．．123

おちこち 124
かすむおちこち（霞む遠近） 124
のべのおちこち（野辺の遠近） 124
おちる 124
おちるあまつかり（落ちる天つ雁） 124
つきおちる（月落ちる） 124
なみだおちる（涙落ちる） 124
むかってなみだおちる（向って涙落ちる） 125
おと 125
あきないことのね（飽きない琴の音） 125
おぐるまのおと（小車の音） 125
かえるとりのね（帰る鳥の音） 125
かわおと（川音） 125
きぬたのおと（砧の音） 125
こないでおとする（来ないで音する） 125
さわみずのおと（沢水の音） 126
しぎのはねおと（鴫の羽音） 126
しげきむしのね（繁き虫の音） 126
ちかいかわおと（近い川音） 126
つゆのおときくにわ（露の音聞く庭） 126
とまりぶねおとしていずち（泊まり舟音していずち） 126
はるのもののね（春の物の音） 126
みずのおと（水の音） 127
むしのね（虫の音） 127
よわのむしのね（夜半の虫の音） 127
おとずれる 127
ひとのおとずれ（人の訪れ） 127
おとめ 127
あまおとめ（天乙女） 127
おとろえる 128
おとろえる（衰える） 128
おとわやま 128
かぜのおとわやま（風の音羽山） 128
おなじ 128
おなじこころ（同じ心） 128
おのえ 128
おのえのはなをみる（尾上の花を見る） 128
おぶね 128
あまおぶね（海人小舟） 128
おぼえる 128
よざむおぼえる（夜寒おぼえる） 128
おぼろ 129
おぼろづきよ（朧月夜） 129
おぼろにのこるありあけのつき（朧に残る有明の月） 129
やまがおぼろ（山が朧） 129
おみなえし 129
おみなえし（女郎花） 129
おもい 129

きえるならきえるおもい（消えるなら消えるべき思い）. 129
おもう. 130
おもいかえす（思い返す）. 130
おもいたえる（思い耐える）. 130
おもいのけむり（思いの煙）. 130
おもうことつき（思う事と月）. 130
おもうな（思うな）. 130
おもうひとのことのは（思う人の言の葉）. 130
おもうふるさと（思う古里）. 130
なにおもう（何思う）. 130
みをおもう（身を思う）. 131
むかしをおもうなみだ（昔を思う涙）. 131
むねのおもい（胸の思い）. 131
ものおもうころ（物思う頃）. 131
ものがなしき（物悲しき）. 131
ものごと（物毎）. 132
ものさびしい（物寂しい）. 132
おもかげ. 132
あきのおもかげ（秋の面影）. 132
おもかげ（面影）. 132
かたるばかりにむかうおもかげ（語るばかりに向う面影）. 132
そうはおもかげ（添うは面影）. 132
ひとのおもかげ（人の面影）. 132
ゆめのおもかげ（夢の面影）. 133
おりおり. 133
かぜのおりおり（風の折々）. 133
おれる. 133
くさはのこらないゆきのしたおれ（草は残らない雪の下折）. 133
おろか. 133
おろかなこころ（愚かな心）. 133
か. 134
うめのか（梅の香）. 134
うめのかがする（梅の香がする）. 134
そでのうつりが（袖の移り香）. 134
そでのうめのか（袖の梅の香）. 135
におううめのか（匂う梅の香）. 135
はなうちかおる（花打ち香る）. 135
やどのうめのか（宿の梅の香）. 135
かえす. 135
うちかえすた（打ち返す田）. 135
おもいかえす（思い返す）. 136
かえる. 136
かえりにこまいわうこえ（帰りに駒祝う声）. 136
かえりをいそぐ（帰りを急ぐ）. 136
かえる（帰る）. 136
かえるかりがね（帰る雁）. 137
かえるかりのこえ（帰る雁の声）. 137
かえるさ（帰るさ）. 137

かえるさとびと（帰る里人）……137
かえるさのみち（帰るさの道）……137
かえるとりのね（帰る鳥の音）……137
かえるふるさと（帰る古里）……138
すててかえる（捨てて帰る）……138
だれかえる（誰帰る）……138
はるかえる（春帰る）……138
はるのかえるさ（春の帰るさ）……138
ひとかえる（人帰る）……138
みやこのつきにかえる（都の月に帰る）……139
かかる……139
あだとかかりくる（徒と掛かり来る）……139
かかる（掛かる）……139
かかるふじなみ（掛かる藤浪）……139
かけはし（掛橋）……139
くもかかるみね（雲かかる峰）……139
くものかけはし（雲の掛橋）……140
そばのかけはし（傍の掛橋）……140
みちのかけはし（道の掛橋）……140
みねのかけはし（峰の掛橋）……140
よばかりかかる（世ばかり掛かる）……140
かき……140
かきねづたい（垣根伝い）……140
かきのもとつば（垣の本つ葉）……140
かぎる……141
ゆうべかぎる（夕べ限る）……141
かく……141
ういしぎのはねがき（憂い鴫の羽掻き）……141
かくもしおぐさ（掻く藻塩草）……141
しぎのはねがき（鴫の羽掻き）……141
かくれる……141
かくれが（隠れ家）……141
かくれがのやま（隠れ家の山）……141
かくれがはない（隠れ家はない）……142
やまのかくれが（山の隠れ家）……142
かけい……142
かけいにうけるみず（懸樋に受ける水）……142
かける……142
なつかけて（夏かけて）……142
かげ……142
あおやぎのかげ（青柳の陰）……142
あさひかげ（朝日影）……142
あしびたくかげ（葦火焚く影）……143
ありあけのかげ（有明の影）……143
いなずまのかげ（稲妻の陰）……143
いりひかげ（入り日影）……143
おくやまのかげ（奥山の陰）……143
かげかすか（影かすか）……143

かげくれる（影暮れる） . . . 143
かげたかくなる（影高くなる） . . . 144
かすかなかげ（微かな影） . . . 144
かりねのつきかげ（仮寝の月影） . . . 144
さくらちるかげ（桜散る陰） . . . 144
つきかげすむ（月影澄む） . . . 144
ともしびのかげ（灯の影） . . . 144
ねやのつきかげ（閨の月影） . . . 145
のこるやまかげ（残る山影） . . . 145
はなのかげ（花の陰） . . . 145
はなのかげにやすらう（花の陰に安らう） . . . 146
ひかりのかげ（光の影） . . . 146
ひとかげもしない（人影もしない） . . . 146
ひとりねとかげ（一人寝と影） . . . 146
みずかげのさびしさ（水影の寂しさ） . . . 146
やまのかげ（山の陰） . . . 146
やまのしたかげ（山の下陰） . . . 147
よもぎうのかげ（蓬生の影） . . . 147
かさなる . . . 147
かさなるやま（重なる山） . . . 147
かしこい . . . 147
かしこい（賢い） . . . 147
かすか . . . 148
かげかすか（影かすか） . . . 148
かすかなかげ（微かな影） . . . 148
かすみ . . . 148
あさがすみ（朝霞） . . . 148
いくえかすみ（幾重霞） . . . 149
うちかすむ（うち霞む） . . . 149
かすみ（霞） . . . 149
かすみくみよる（霞くみよる） . . . 149
かすみこめる（霞こめる） . . . 149
かすみつつ（霞みつつ） . . . 149
かすみにこもる（霞にこもる） . . . 150
かすみにたどるみち（霞にたどる道） . . . 150
かすみのうちのみずのみなかみ（霞の内の水の水上） . . . 150
かすみのそこ（霞の底） . . . 150
かすみのひま（霞のひま） . . . 150
かすみより（霞より） . . . 151
かすむ（霞む） . . . 151
かすむおちこち（霞む遠近） . . . 151
かすむはるのとおやま（霞む春の遠山） . . . 151
かすむひ（霞む日） . . . 151
かすむやまもと（霞む山本） . . . 152
かすむゆうぐれ（霞む夕暮れ） . . . 152
かぜとあさがすみ（風と朝霞） . . . 152
つきがかすむ（月が霞む） . . . 152
つきがかすむよる（月が霞む夜） . . . 152

よこぐもかすむ（横雲霞む）……152
かすむ……153
あめかすむくれ（雨霞む暮れ）……153
かず……153
かずあまた（数あまた）……153
かずならぬ（数ならぬ）……153
かぜ……153
あきかぜ（秋風）……153
あきかぜがふく（秋風が吹く）……156
あきかぜのこえ（秋風の声）……156
あきのかわかぜ（秋の川風）……157
あきのはつかぜ（秋の初風）……157
おぎにかぜ（荻に風）……158
おぎのうわかぜ（荻の上風）……158
かぜがすさまじい（風が凄まじい）……158
かぜがみにしみる（風が身にしみる）……158
かぜとあさがすみ（風と朝霞）……159
かぜにおうたちばな（風に匂う橘）……159
かぜにはなちる（風に花散る）……159
かぜのおとわやま（風の音羽山）……159
かぜのおりおり（風の折々）……159
かぜのしずけさ（風の静けさ）……159
かぜのすずしさ（風の涼しさ）……159
かぜのはげしさ（風の激しさ）……160
かぜのまにまに（風のまにまに）……160
かぜのむらさめ（風の村雨）……160
かぜのゆくすえ（風の行末）……160
かぜみえる（風見える）……160
こがらしのかぜ（木枯しの風）……160
すごいあきかぜ（凄い秋風）……161
そでふきおくるかぜ（袖吹きおくる風）……161
ただあきのかぜ（ただ秋の風）……161
ただまつのかぜ（ただ松の風）……161
つゆふくかぜ（露吹く風）……161
のわきのかぜ（野分の風）……161
はつかぜときのうはきいてあきふける（初風と昨日は聞いて秋更ける）……162
はなのはるかぜ（花の春風）……162
はなのやまかぜ（花の山風）……162
はるかぜがふく（春風が吹く）……162
ふくかぜのあきのつゆ（吹く風に秋の露）……162
ふくなみのうらかぜ（吹く浪の浦風）……162
まつかぜがふく（松風が吹く）……162
まつかぜのこえ（松風の声）……163
まつふくかぜ（松吹く風）……163
みねのあきかぜ（峰の秋風）……163
やまのまつかぜ（山の松風）……163
よわのあきかぜ（夜半の秋風）……164
かた……164

あきのくれがた（秋の暮れ方）……164
あけがたのそら（明け方の空）……164
おちかたのくも（遠方の雲）……164
おちかたのやま（遠方の山）……164
おちかたびとのそで（遠方人の袖）……164
おちのとおやま（遠方の遠山）……165
かたもさだめない（方も定めない）……165
くものおちかた（雲の遠方）……165
くれゆくかた（暮れゆく方）……165
つきのいりがた（月の入方）……165
はるのくれがた（春の暮れ方）……165
かたしく……165
かたしきのそで（片敷の袖）……165
かたしく（片敷く）……166
しものかたしき（霜の片敷）……166
かたみ……166
かたみ（形見）……166
かたむく……166
かたむく（傾く）……166
つきがかたむく（月が傾く）……167
かたよる……167
かたより（片寄）……167
かたる……167
かたるばかりにむかうおもかげ（語るばかりに向う面影）……167
かつらぎ……167
かつらぎのやま（葛城の山）……167
さくらのかつらぎのやま（桜の葛城の山）……167
かなしい……168
たびのかなしさ（旅の悲しさ）……168
たびはかなしい（旅は悲しい）……168
ものがなしき（物悲しき）……168
わかれるたびはかなしい（別れる旅は悲しい）……168
かね……168
いりあいのかね（入相の鐘）……168
かねなる（鐘鳴る）……170
かねごと……171
ひとのかねごと（人の豫言）……171
かみ……171
かみにただいのる（神にただ祈る）……171
まつりするかみ（祭りする神）……171
みだれがみ（乱れ髪）……171
かも……171
かもひよし（賀茂日吉）……171
かや……172
あさじう（浅茅生）……172
あさじうのつゆ（浅茅生の露）……172
から……172
からごろも（唐衣）……172

もろこしぶね（唐土舟）……172
かり……173
おちるあまつかり（落ちる天つ雁）……173
かえるかりがね（帰る雁）……173
かえるかりのこえ（帰る雁の声）……173
かりなく（雁鳴く）……173
かりのいくつら（雁の幾列）……173
かりのこえ（雁の声）……174
かりのこえごえ（雁の声々）……174
かりのたまずさ（雁の玉章）……174
かりのひとこえ（雁の一声）……174
かりのひとつら（雁の一列）……174
とぶかりのつばさ（飛ぶ雁の翼）……174
はつかりのこえ（初雁の声）……174
はるのかりがね（春の雁）……175
わたるかりがね（渡る雁）……175
かりそめ……175
かりそめ（仮初め）……175
かりの……175
かりねのつきかげ（仮寝の月影）……175
かりねをする（仮寝をする）……175
かりのよるのゆめ（仮の夜の夢）……175
かりふしのゆめ（仮臥の夢）……176
かりまくら（仮枕）……176
のにかりまくら（野に仮枕）……176
のべのかりふし（野辺の仮臥）……176
ゆめのかりまくら（夢の仮枕）……176
かりる……177
やどをかる（宿を借る）……177
かれる……177
かれたくさがもえでる（枯れた草が萌え出る）……177
かれはなすすき（枯れ花薄）……177
ふゆがれ（冬枯れ）……177
かわ……177
あきのかわかぜ（秋の川風）……177
あまのがわ（天の川）……177
かわおと（川音）……177
かわぞいのみち（川沿いの道）……178
かわぞいぶね（川沿い舟）……178
かわつらのさと（川面の里）……178
ちかいかわおと（近い川音）……178
つきのかわかみ（月の川上）……178
なみだがわ（涙河）……178
よどのかわぶね（淀の川舟）……179
かわす……179
かわすことのは（交わす言の葉）……179
かわず……179
かわずなく（蛙鳴く）……179

かわる 180
いろかわる（色変わる） 180
いろかわるころ（色変わる頃） 180
ひとのこころがかわる（人の心が変わる） 180
ひとのこころのかわるよのなか（人の心の変わる世の中） 180
かんなづき 183
かんなづき（神無月） 183
かんなび 183
かんなびのもり（神奈備の森） 183
がた 183
かたばかり（潟ばかり） 183
き 183
きぎのいろいろ（木々の色々） 183
このしたつゆ（木の下露） 183
このもとみち（木の下道） 183
なつこだち（夏木立） 183
はなのこのもと（花の木の下） 184
きえる 184
きえるけむり（消える煙） 184
きえるならきえるおもい（消えるなら消えるべき思い） 184
とおぎえ（遠消え） 184
ゆききえる（雪消える） 184
きく 185
きくのひともと（菊の一本） 185
きくのもめずらしい（聞くのも珍しい） 185
きくほととぎす（聞く時鳥） 185
つゆのおときくにわ（露の音聞く庭） 185
はつかぜときのうはきいてあきふける（初風と昨日は聞いて秋更ける） 185
ゆうつけどりをきく（木綿付け鳥を聞く） 185
きし 186
きしのやまぶき（岸の山吹） 186
きじ 186
きぎすなきたつ（雉鳴き立つ） 186
きぬぎぬ 186
きぬぎぬ（後朝） 186
きぬぎぬのあと（後朝の後） 186
きぬぎぬのそで（後朝の袖） 186
きぬた 187
きぬたのおと（砧の音） 187
きのう 187
きのうのくも（昨日の雲） 187
はつかぜときのうはきいてあきふける（初風と昨日は聞いて秋更ける） 187
きみ 187
きみのことのは（君の言の葉） 187
きみがよ 187
きみがよ（君が代） 187
きょう 187
きょうごと（今日毎） 187

きょうばかり（今日ばかり）……187
きよまわり……188
きよまわり（清まわり）……188
きり……188
きりにしも（霧に霜）……188
きりのうえ（霧の上）……188
きりのこる（霧残る）……188
きりのしたみち（霧の下道）……188
きりのまがき（霧の籬）……188
きりはれのぼる（霧晴れ昇る）……188
きりはれる（霧晴れる）……189
ほのかなきり（仄かな霧）……189
きりぎりす……189
きりぎりす（蟋蟀）……189
なくきりぎりす（鳴く蟋蟀）……189
きる……190
うちきせたい（打ち着せたい）……190
きわめる……190
たのしみをきわめる（楽しみを極める）……190
くき……190
もずのくさぐき（鵙の草茎）……190
くさ……191
あきくさ（秋草）……191
かくもしおぐさ（掻く藻塩草）……191
かれたくさがもえでる（枯れた草が萌え出る）……191
くさのいお（草の庵）……191
くさのつゆ（草の露）……191
くさのとのうち（草の戸の内）……191
くさはのこらないゆきのしたおれ（草は残らない雪の下折）……191
くさはら（草原）……192
くさばのつゆ（草葉の露）……192
くさまくら（草枕）……192
しのぶぐさ（忍草）……192
つゆしぐれのくさ（露時雨の草）……193
もずのくさぐき（鵙の草茎）……193
もりのしたくさ（森の下草）……193
わかくさまくら（若草枕）……193
わすれとうくさはら（忘れ訪う草原）……193
わすれるなよ（忘れるなよ）……193
くに……194
くににしたがう（国に従う）……194
くむ……194
よるくむさかずき（夜汲む杯）……194
くめ……194
くめのいわはし（久米の岩橋）……194
くも……194
あけぼののくも（曙の雲）……194
おちかたのくも（遠方の雲）……194

きのうのくも（昨日の雲）……194
くもかかるみね（雲かかる峰）……195
くものおちかた（雲の遠方）……195
くものかけはし（雲の掛橋）……195
くものたえま（雲の絶え間）……195
くものひとむら（雲の一群）……195
たなびくよこぐものそら（棚引く横雲の空）……195
つきのむらくも（月の群雲）……195
なかぞらのくも（中空の雲）……195
みねのくも（峰の雲）……196
ゆうぐれのくも（夕暮れの雲）……196
よこぐもかすむ（横雲霞む）……196
よこぐものそら（横雲の空）……196
くもどり……197
くもどりのあと（雲鳥の跡）……197
くる……197
あきがくる（秋が来る）……197
あきくる（秋来る）……197
あさくるうぐいす（朝来る鶯）……197
あだとかかりくる（徒と掛かり来る）……197
こないでおとする（来ないで音する）……197
とおくきた（遠く来た）……198
はるがくる（春が来る）……198
くるしい……198
やまがくるしい（山が苦しい）……198
くるま……198
おぐるまのおと（小車の音）……198
くれ……199
あきのくれがた（秋の暮れ方）……199
あめかすむくれ（雨霞む暮れ）……199
あめのくれ（雨の暮れ）……199
かげくれる（影暮れる）……199
かすむゆうぐれ（霞む夕暮れ）……199
くれごとのそら（暮れごとの空）……199
くれゆくかた（暮れゆく方）……200
くれる（暮れる）……200
はるのくれ（春の暮れ）……200
はるのくれがた（春の暮れ方）……200
はるのゆうぐれ（春の夕暮れ）……200
ひがくれる（日が暮れる）……200
ひぐれにともなう（日暮れに伴う）……201
ほたるとうくれ（蛍訪う暮れ）……201
やどのゆうぐれ（宿の夕暮れ）……201
ゆうぐれのくも（夕暮れの雲）……201
ゆうぐれのそら（夕暮れの空）……201
ゆうぐれのやま（夕暮れの山）……202
くれない……202
くれないのうめ（紅の梅）……202

そでのくれない（袖の紅）……203
けむり……203
うすけむり（薄煙）……203
おもいのけむり（思いの煙）……203
きえるけむり（消える煙）……203
けむりひとすじ（煙一筋）……203
こいしい……203
いもがこいしくて（妹が恋しくて）……203
いもにこいつつ（妹に恋いつつ）……203
みやこがこいしい（都が恋しい）……204
こえ……204
あきかぜのこえ（秋風の声）……204
あまひこのこえ（天彦の声）……204
うぐいすのこえ（鶯の声）……204
おじかなくこえ（牡鹿鳴く声）……206
かえりにこまいわうこえ（帰りに駒祝う声）……207
かえるかりのこえ（帰る雁の声）……207
かりのこえ（雁の声）……207
かりのこえごえ（雁の声々）……207
かりのひとこえ（雁の一声）……207
こえする（声する）……207
こえのさむさ（声の寒さ）……207
さおじかのこえ（さ牡鹿の声）……207
さるさけぶこえ（猿叫ぶ声）……208
すずむしのこえ（鈴虫の声）……208
せみのもろごえ（蝉の諸声）……209
たけをうつこえ（竹を打つ声）……209
ちどりなくこえ（千鳥鳴く声）……209
とりのこえ（鳥の声）……209
とりのこえごえ（鳥の声々）……209
とりのなくこえ（鳥の鳴く声）……209
とりのひとこえ（鳥の一声）……210
なみだあらそうこえ（涙争う声）……210
ねぐらのはるのとりのね（塒の春の鳥の声）……210
はつかりのこえ（初雁の声）……210
ひぐらしのこえ（蜩の声）……210
ほととぎすのひとこえ（時鳥の一声）……211
まつかぜのこえ（松風の声）……211
まつむしのこえ（松虫の声）……211
むしのこえ（虫の声）……211
むしのこえごえ（虫の声々）……212
こえる……212
いわこすなみ（岩越す浪）……212
うつのやまごえ（宇津の山越え）……212
こえるおうさかのせき（越える逢坂の関）……212
こえるおうさかのやま（越える逢坂の山）……213
としこえる（年越える）……213
みずこえる（水越える）……213

みねこえる（峰越える）．．．213
こおり．．．213
こおりそめる（氷初める）．．．213
そでのこおり（袖の氷）．．．213
つきがこおる（月が氷る）．．．213
こがらし．．．214
こがらしのかぜ（木枯しの風）．．．214
こころ．．．214
おなじこころ（同じ心）．．．214
おろかなこころ（愚かな心）．．．214
かわるよのなか（変わる世の中）．．．214
こころあらそううた（心争う歌）．．．214
こころうかれる（心浮かれる）．．．215
こころうらめしい（心恨めしい）．．．215
こころがまどのうち（心が窓の内）．．．215
こころづくし（心尽くし）．．．215
こころである（心である）．．．215
こころではない（心ではない）．．．215
こころながくまて（心長く待て）．．．215
こころにて（心にて）．．．216
こころをつくすあめのよる（心を尽す雨の夜）．．．216
ひとのこころ（人の心）．．．216
ひとのこころがかわる（人の心が変わる）．．．216
ひとのこころのかわるよのなか（人の心の変わる世の中）．．．216
ひとのこころのよのなか（人の心の世の中）．．．219
こし．．．219
こしのしらゆき（越の白雪）．．．219
こずえ．．．219
こずえのあき（梢の秋）．．．219
はなのこずえにあらわれる（花の梢に現れる）．．．219
こたえる．．．219
こたえようか（答えようか）．．．219
こちょう．．．220
こちょうという（胡蝶という）．．．220
こちょうのたとえ（胡蝶の喩え）．．．220
こと．．．220
あきないことのね（飽きない琴の音）．．．220
ことのは．．．220
おもうひとのことのは（思う人の言の葉）．．．220
かわすことのは（交わす言の葉）．．．220
きみのことのは（君の言の葉）．．．220
ことのはがない（言の葉がない）．．．220
のりのことのは（法の言の葉）．．．221
やまとことのは（大和言の葉）．．．221
こぼれる．．．221
こぼれるたけのはのつゆ（零れる竹の葉の露）．．．221
つゆのつきがこぼれる（露の月が零れる）．．．221
こま．．．221

かえりにこまいわうこえ（帰りに駒祝う声）．．．221
こめる．．．221
かすみこめる（霞こめる）．．．221
かすみにこもる（霞にこもる）．．．222
こもる．．．222
ういふゆごもり（憂い冬籠り）．．．222
ふゆこもるころ（冬籠もる頃）．．．222
ころ．．．222
いろかわるころ（色変わる頃）．．．222
さくらさくころ（桜咲く頃）．．．222
さみだれのころ（五月雨の頃）．．．223
しのにふるころ（篠にふる頃）．．．223
ふゆこもるころ（冬籠もる頃）．．．223
ものおもうころ（物思う頃）．．．223
ころも．．．224
あさごろもうつ（麻衣打つ）．．．224
あさのさごろも（麻の狭衣）．．．224
からごろも（唐衣）．．．224
すみのころもで（墨の衣手）．．．224
たつひのなつごろも（たつ日の夏衣）．．．224
たびごろも（旅衣）．．．225
たびのころもで（旅の衣手）．．．225
ごと．．．225
きょうごと（今日毎）．．．225
はなのはるごと（花の春毎）．．．225
ものごと（物毎）．．．225
さえずる．．．225
とりがさえずる（鳥が囀る）．．．225
とりのさえずり（鳥の囀り）．．．225
さえる．．．226
つきさえる（月冴える）．．．226
さかずき．．．226
よるくむさかずき（夜汲む杯）．．．226
さかり．．．226
はなざかり（花盛り）．．．226
さく．．．227
うめさく（梅咲く）．．．227
さくはるのはな（咲く春の花）．．．227
さくらさく（桜咲く）．．．227
さくらさくころ（桜咲く頃）．．．227
はなさく（花咲く）．．．227
さくら．．．228
おそざくら（遅桜）．．．228
さくらさく（桜咲く）．．．228
さくらさくころ（桜咲く頃）．．．228
さくらちるかげ（桜散る陰）．．．228
さくらのうえ（桜の上）．．．228
さくらのかつらぎのやま（桜の葛城の山）．．．228

やまざくら（山桜） . . . 228
さけぶ . . . 229
さるさけぶこえ（猿叫ぶ声） . . . 229
さす . . . 229
つきさしいでる（月差し出る） . . . 229
さそう . . . 229
さそう（誘う） . . . 229
さそわれる（誘われる） . . . 229
さだめる . . . 230
かたもさだめない（方も定めない） . . . 230
さだめない（定めない） . . . 230
まくらさだめない（枕定めない） . . . 230
さと . . . 230
かえるさとびと（帰る里人） . . . 230
かわつらのさと（川面の里） . . . 230
さとのはるかさ（里の遥かさ） . . . 230
さとのひとむら（里の一群） . . . 231
さとはなれたみち（里離れた道） . . . 231
たがさと（誰が里） . . . 231
ちかいやまざと（近い山里） . . . 231
はるのやまざと（春の山里） . . . 231
やまざと（山里） . . . 231
やまもとのさと（山本の里） . . . 231
さびしい . . . 232
あきのさびしさ（秋の寂しさ） . . . 232
つきのさびしさ（月の寂しさ） . . . 232
なおさびしい（なお寂しい） . . . 232
なごりさびしい（名残り寂しい） . . . 232
はるのさびしさ（春の寂しさ） . . . 233
みずかげのさびしさ（水影の寂しさ） . . . 233
ものさびしい（物寂しい） . . . 233
さみだれ . . . 233
さみだれ（五月雨） . . . 233
さみだれのあと（五月雨の後） . . . 233
さみだれのうち（五月雨の内） . . . 233
さみだれのころ（五月雨の頃） . . . 234
さみだれのつゆ（五月雨の露） . . . 234
さむい . . . 234
あきさむい（秋寒い） . . . 234
こえのさむさ（声の寒さ） . . . 234
さむいひ（寒い日） . . . 234
ややさむいそで（やや寒い袖） . . . 235
よざむおぼえる（夜寒おぼえる） . . . 235
さめる . . . 235
ねざめする（寝覚めする） . . . 235
ねざめするよ（寝覚めする夜） . . . 235
ゆめさめる（夢覚める） . . . 235
さやか . . . 235

さやか（さやか）. 235
さやかなほし（さやかな星）. 236
つきがさやか（月がさやか）. 236
つきのさやけさ（月のさやけさ）. 236
つきもさやか（月もさやか）. 237
さよのなかやま. 237
つきのさよのなかやま（月の小夜の中山）. 237
さる. 237
さるさけぶこえ（猿叫ぶ声）. 237
さわ. 237
あきのさわみず（秋の沢水）. 237
さわみずのおと（沢水の音）. 237
しか. 237
おじかなくこえ（牡鹿鳴く声）. 237
さおじかのこえ（さ牡鹿の声）. 238
しが. 238
しがのうらぶね（志賀の浦舟）. 238
しぎ. 239
ういしぎのはねがき（憂い鴫の羽掻き）. 239
しぎのはねおと（鴫の羽音）. 239
しぎのはねがき（鴫の羽掻き）. 239
しく. 239
しきわぶ（敷き侘ぶ）. 239
しぐれ. 239
あきしぐれ（秋時雨）. 239
あきにしぐれる（秋に時雨れる）. 239
しぐれる（時雨れる）. 239
つゆしぐれのくさ（露時雨の草）. 240
ひとしぐれ（一時雨）. 240
ゆうしぐれ（夕時雨）. 240
しげる. 240
しげきむしのね（繁き虫の音）. 240
しず. 240
しずのおだまき（賤の苧環）. 240
しずか. 240
あさけしずか（朝明け静か）. 240
あめすぎたあとのしずけさ（雨過ぎた後の静けさ）. 240
かぜのしずけさ（風の静けさ）. 241
しずか（静か）. 241
した. 241
いくえとよらのたけのしたみち（幾重豊浦の竹の下道）. 241
きりのしたみち（霧の下道）. 241
くさはのこらないゆきのしたおれ（草は残らない雪の下折）. 242
このしたつゆ（木の下露）. 242
このもとみち（木の下道）. 242
つきのもと（月の下）. 242
はぎのしたつゆ（萩の下露）. 242
はなのこのもと（花の木の下）. 242

もりのしたくさ（森の下草）……243
やまのしたかげ（山の下陰）……243
やまのしたみち（山の下道）……243
したう……243
したわれる（慕われる）……243
したがう……243
くににしたがう（国に従う）……243
しな……244
うたのしなじな（歌の品々）……244
しの……244
しのにふるころ（篠にふる頃）……244
しののめ……244
よはしののめ（夜は東雲）……244
しのぶ……244
しのびかねる（忍びかねる）……244
しのぶぐさ（忍草）……244
しば……244
しばのいお（柴の庵）……244
しばのとのうち（柴の戸の内）……245
なれるしばびと（なれる柴人）……245
しぼむ……245
しぼむあさがお（萎む朝顔）……245
しみる……245
かぜがみにしみる（風が身にしみる）……245
みにしみる（身にしみる）……245
しめる……246
とこをしめる（所を占める）……246
しも……246
きりにし（も）（霧に霜）……246
しもすさまじいやま（霜凄まじい山）……246
しものかたしき（霜の片敷）……246
つきにしも（月に霜）……246
ながつきのしも（長月の霜）……246
しらかわのせき……246
しらかわのせき（白河の関）……246
しる……247
あわれしる（哀れ知る）……247
しる（知る）……247
ほどがしられる（程が知られる）……247
しろ……247
おきのしらなみ（沖の白浪）……247
こしのしらゆき（越の白雪）……247
しらつゆ（白露）……247
みねのしらゆき（峰の白雪）……247
すえ……248
おやまだのすえ（小山田の末）……248
たけのすえずえ（竹の末々）……248
ながれのすえ（流れの末）……248

みずのすえみえる（水の末見える）……248
みちのすえ（道の末）……248
すぎ……248
すぎのむらだち（杉の群立ち）……248
すぎる……249
あめすぎたあとのしずけさ（雨過ぎた後の静けさ）……249
すぎるむらさめ（過ぎる村雨）……249
はるすぎる（春過ぎる）……249
ほととぎすまくらのいずちすぎる（時鳥枕のいずち過ぎる）……249
むらさめすぎる（村雨過ぎる）……249
すごい……249
すごいあきかぜ（凄い秋風）……249
すさまじい……249
かぜがすさまじい（風が凄まじい）……249
しもすさまじいやま（霜凄まじい山）……250
すさまじいそら（凄まじい空）……250
すじ……250
けむりひとすじ（煙一筋）……250
ひとすじ（一筋）……250
みずのひとすじ（水の一筋）……250
みちのひとすじ（道の一筋）……250
すすき……251
かれはなすすき（枯れ花薄）……251
はなすすき（花薄）……251
ふとむらすすき（一群薄）……251
すずしい……251
かぜのすずしさ（風の涼しさ）……251
すずしい（涼しい）……251
すずしさにあきたつ（涼しさに秋立つ）……251
つゆのすずしさ（露の涼しさ）……251
ゆうすずみ（夕涼み）……252
すずむし……252
すずむしのこえ（鈴虫の声）……252
すだれ……252
すだれをまけばゆき（簾を巻けば雪）……252
たますだれ（玉簾）……252
たますだれあける（玉簾あける）……252
すてる……252
すててかえる（捨てて帰る）……252
すてるよのなか（捨てる世の中）……252
すま……253
すまのうら（須磨の浦）……253
すまのうらなみ（須磨の浦浪）……253
すまびと（須磨人）……253
なおすまのうら（なお須磨の浦）……253
すみ……254
すみぞめのそで（墨染の袖）……254
すみのころもで（墨の衣手）……254

すみだがわ 254
すみだがわ（隅田川） 254
すみよし 254
すみよし（住吉） 254
すみよしのうら（住吉の浦） 254
すみよしのまつ（住吉の松） 254
すみよしのまつとたのむ（住吉の松と頼む） 255
すめるふるさと（住める古里） 255
すむ 255
すみどころ（住み所） 255
つきかげすむ（月影澄む） 255
つきすむ（月澄む） 255
なかなかいちはすみよい（中々市は住み良い） 256
みずはすむ（水は澄む） 256
せみ 256
せみのもろごえ（蝉の諸声） 256
そう 256
かわぞいのみち（川沿いの道） 256
かわぞいぶね（川沿い舟） 256
そうはおもかげ（添うは面影） 256
そこ 257
かすみのそこ（霞の底） 257
そで 257
おちかたびとのそで（遠方人の袖） 257
かたしきのそで（片敷の袖） 257
きぬぎぬのそで（後朝の袖） 257
すみぞめのそで（墨染の袖） 257
そでがつゆっぽい（袖が露っぽい） 258
そでぬれる（袖濡れる） 258
そでのいろいろ（袖の色々） 258
そでのうつりが（袖の移り香） 258
そでのうめのか（袖の梅の香） 259
そでのくれない（袖の紅） 259
そでのこおり（袖の氷） 259
そでふきおくるかぜ（袖吹きおくる風） 259
そでをぬらす（袖を濡らす） 260
なみだがわがそでのうえ（涙が我が袖の上） 260
まいのそで（舞の袖） 260
ややさむいそで（やや寒い袖） 260
その 260
そののあさがお（園の朝顔） 260
そのまま 260
そのまま（そのまま） 260
そば 261
そばのかけはし（傍の掛橋） 261
そめる 261
すみぞめのそで（墨染の袖） 261
そら 261

あかつきのそら（暁の空）．．．261
あきのそら（秋の空）．．．261
あけがたのそら（明け方の空）．．．261
あけぼののそら（曙の空）．．．262
あめのこるそら（雨残る空）．．．262
ありあけのそら（有明の空）．．．262
いねがてのそら（寝ねがての空）．．．262
くれごとのそら（暮れごとの空）．．．262
すさまじいそら（凄まじい空）．．．263
たなびくよこぐものそら（棚引く横雲の空）．．．263
たびのそら（旅の空）．．．263
つきにありあけのそら（月に有明の空）．．．263
なかぞら（中空）．．．263
なかぞらのくも（中空の雲）．．．263
ながあめのそら（長雨の空）．．．263
ふかいよるのそら（深い夜の空）．．．264
ほたるとぶそら（蛍飛ぶ空）．．．264
むらさめのそら（村雨の空）．．．264
ゆうぐれのそら（夕暮れの空）．．．264
ゆきのなかぞら（雪の中空）．．．265
ゆくすえのそら（行く末の空）．．．265
よこぐものそら（横雲の空）．．．265
た．．．265
うえるた（植える田）．．．265
うちかえすた（打ち返す田）．．．265
おやまだのすえ（小山田の末）．．．266
おやまだのはら（小山田の原）．．．266
たえだえ．．．266
みずのたえだえ（水の絶え絶え）．．．266
みちたえだえ（道絶え絶え）．．．266
たえま．．．266
くものたえま（雲の絶え間）．．．266
たえる．．．266
おもいたえる（思い耐える）．．．266
たかい．．．266
かげたかくなる（影高くなる）．．．266
みねたかい（峰高い）．．．267
たき．．．267
たきのいわなみ（滝の岩浪）．．．267
たく．．．267
あしびたくかげ（葦火焚く影）．．．267
たけ．．．267
いくえとよらのたけのしたみち（幾重豊浦の竹の下道）．．．267
くれたけ（呉竹）．．．267
こぼれるたけのはのつゆ（零れる竹の葉の露）．．．267
たけうちなびく（竹打ち靡く）．．．268
たけのすえずえ（竹の末々）．．．268
たけのひとむら（竹の一群）．．．268

たけをうつこえ（竹を打つ声）……268
なびきあうたけ（靡き合う竹）……268
たける……268
としたける（年長ける）……268
たそがれ……269
ふじのたそがれ（藤の黄昏）……269
たちばな……269
かぜにおうたちばな（風に匂う橘）……269
におうたちばな（匂う橘）……269
のきのたちばな（軒の橘）……269
たつ……269
すぎのむらだち（杉の群立ち）……269
すずしさにあきたつ（涼しさに秋立つ）……270
たってうかれる（立って浮かれる）……270
たつひのなつごろも（たつ日の夏衣）……270
なつこだち（夏木立）……270
はるたつ（春立つ）……270
むらさめがたつ（村雨がたつ）……270
たとえる……270
こちょうのたとえ（胡蝶の喩え）……270
なににたとえよう（何に譬えよう）……271
たどる……271
かすみにたどるみち（霞にたどる道）……271
たなばた……271
たなばた（七夕）……271
たなびく……271
たなびくよこぐものそら（棚引く横雲の空）……271
たに……271
たにのいお（谷の庵）……271
たのしむ……271
たのしみをきわめる（楽しみを極める）……271
たのしむ（楽しむ）……272
たのむ……272
すみよしのまつとたのむ（住吉の松と頼む）……272
なにたのむ（何頼む）……272
ひとだのみ（人頼み）……272
みをたのむな（身を頼むな）……272
たび……272
いづるたびびと（出る旅人）……272
たびごろも（旅衣）……273
たびにある（旅にある）……273
たびのかなしさ（旅の悲しさ）……273
たびのころもで（旅の衣手）……273
たびのそら（旅の空）……273
たびはうい（旅は憂い）……273
たびはかなしい（旅は悲しい）……273
つきのたびのみち（月の旅の道）……274
わかれるたびはかなしい（別れる旅は悲しい）……274

たましまがわ 274
たましまがわ（玉島川） 274
たまずさ 274
かりのたまずさ（雁の玉章） 274
たまぼこ 274
たまぼこ（玉鉾） 274
たよる 274
まつをたよりに（松を頼りに） 274
だれ 275
たがさと（誰が里） 275
だれかえる（誰帰る） 275
だれなのか（誰なのか） 275
だれにわすれる（誰に忘れる） 275
だれをとおうか（誰を訪おうか） 275
だれをまつ（誰を待つ） 275
だれをまつむしのなく（誰を松虫の鳴く） 276
ちかい 276
あきちかくなる（秋近くなる） 276
ちかいかわおと（近い川音） 276
ちかいやまざと（近い山里） 276
のべちかいうぐいす（野辺近い鶯） 276
やまちかい（山近い） 276
ちぎり 276
ただありなしのちぎり（ただ有り無しの契り） 276
ちぎり（契り） 277
ゆうがおのちぎり（夕顔の契り） 277
ちどり 277
ちどりなく（千鳥鳴く） 277
ちどりなくこえ（千鳥鳴く声） 277
むらちどり（群千鳥） 277
ちょう 278
ちょうのあわれさ（蝶の哀れさ） 278
ちる 278
かぜにはなちる（風に花散る） 278
さくらちるかげ（桜散る陰） 278
ちるのがおしい（散るのが惜しい） 278
ちるはな（散る花） 278
はなちる（花散る） 278
つかえる 279
つかえびと（仕え人） 279
つき 279
あかつきづき（暁月） 279
あきのつき（秋の月） 279
あきのよのつき（秋の夜の月） 279
あけやすいつき（明けやすい月） 280
ありあけのつき（有明の月） 280
いにしえのつき（古の月） 281
おぼろづきよ（朧月夜） 281

おぼろにのこるありあけのつき（朧に残る有明の月）．．．281
おもうこととつき（思う事と月）．．．281
かりねのつきかげ（仮寝の月影）．．．282
たまくらのつき（手枕の月）．．．282
つきいでやる（月出やる）．．．282
つきいでる（月出る）．．．282
つきおちる（月落ちる）．．．283
つきかげすむ（月影澄む）．．．283
つきがかすむ（月が霞む）．．．283
つきがかすむよる（月が霞む夜）．．．283
つきがかたむく（月が傾く）．．．283
つきがこおる（月が氷る）．．．283
つきがさやか（月がさやか）．．．284
つきがほのめく（月がほのめく）．．．284
つきさえる（月冴える）．．．284
つきさしいでる（月差し出る）．．．284
つきすむ（月澄む）．．．284
つきにありあけのそら（月に有明の空）．．．285
つきにしも（月に霜）．．．285
つきのあかしがた（月の明石潟）．．．285
つきのいりがた（月の入方）．．．285
つきのかわかみ（月の川上）．．．285
つきのさびしさ（月の寂しさ）．．．285
つきのさやけさ（月のさやけさ）．．．286
つきのさよのなかやま（月の小夜の中山）．．．286
つきのたびのみち（月の旅の道）．．．286
つきのむらくも（月の群雲）．．．287
つきのもと（月の下）．．．287
つきのゆくすえ（月の行く末）．．．287
つきはありあけ（月は有明）．．．287
つきふける（月更ける）．．．287
つきまつ（月待つ）．．．287
つきもさやか（月もさやか）．．．287
つきよなよな（月夜な夜な）．．．287
つきをみる（月を見る）．．．288
つゆのつきがこぼれる（露の月が零れる）．．．288
なつのよのつき（夏の夜の月）．．．288
ねやのつきかげ（閨の月影）．．．288
はるのよのつき（春の夜の月）．．．288
ふるさとのつき（古里の月）．．．288
みじかよのつき（短夜の月）．．．289
みやこのつきにかえる（都の月に帰る）．．．289
やまのはのつき（山の端の月）．．．289
ゆうづくよ（夕月夜）．．．289
よわのつき（夜半の月）．．．289
つく．．．290
いろづく（色付く）．．．290
つくす．．．290

こころづくし（心尽くし）……290
こころをつくすあめのよる（心を尽す雨の夜）……290
つじ……291
みちのつじうら（道の辻占）……291
つたう……291
かきねづたい（垣根伝い）……291
つたう（伝う）……291
はまつたう（浜伝う）……291
つな……291
ふねのつなでなわ（舟の綱手縄）……291
つばさ……291
とぶかりのつばさ（飛ぶ雁の翼）……291
つゆ……292
あさじうのつゆ（浅茅生の露）……292
くさのつゆ（草の露）……292
くさばのつゆ（草葉の露）……292
このしたつゆ（木の下露）……292
こぼれるたけのはのつゆ（零れる竹の葉の露）……292
さみだれのつゆ（五月雨の露）……292
しらつゆ（白露）……292
そでがつゆっぽい（袖が露っぽい）……293
つゆがみだれる（露が乱れる）……293
つゆしぐれのくさ（露時雨の草）……293
つゆにみだれる（露に乱れる）……293
つゆのあけぼの（露の曙）……293
つゆのおときくにわ（露の音聞く庭）……294
つゆのすずしさ（露の涼しさ）……294
つゆのたまくら（露の手枕）……294
つゆのつきがこぼれる（露の月が零れる）……294
つゆのふるさと（露のふる里）……294
つゆのふるみち（露のふる道）……294
つゆふくかぜ（露吹く風）……294
つゆもなみだも（露も涙も）……294
はぎのしたつゆ（萩の下露）……295
ふくかぜのあきのつゆ（吹く風に秋の露）……295
つら……295
かわつらのさと（川面の里）……295
はるのうみつら（春の海面）……295
つらい……295
うくつらい（憂く辛い）……295
つり……295
あまのつりぶね（海人の釣舟）……295
おきのつりぶね（沖の釣舟）……296
つれない……296
うえはつれない（上は連れない）……296
つれない（連れない）……296
つれなさをうらむ（連れなさを恨む）……296
て……297

あきのたまくら（秋の手枕）. 297
にいたまくら（新手枕）. 297
ふねのつなでなわ（舟の綱手縄）. 297
てら. 297
はるのやまでら（春の山寺）. 297
ふるでら（古寺）. 297
みねのふるでら（峰の古寺）. 297
てん. 298
あまおとめ（天乙女）. 298
あまのがわ（天の川）. 298
おちるあまつかり（落ちる天つ雁）. 298
でる. 298
いづるたびびと（出る旅人）. 298
いづるふなびと（出る舟人）. 298
かれたくさがもえでる（枯れた草が萌え出る）. 298
つきいでやる（月出やる）. 299
つきいでる（月出る）. 299
つきさしいでる（月差し出る）. 299
と. 299
くさのとのうち（草の戸の内）. 299
しばのとのうち（柴の戸の内）. 299
とう. 300
あとをだにとう（後をだに訪う）. 300
だれをとおうか（誰を訪おうか）. 300
とわれる（訪われる）. 300
ほたるとうくれ（蛍訪う暮れ）. 300
やどをとう（宿を訪う）. 300
わすれとうくさはら（忘れ訪う草原）. 301
とおい. 301
おちかたのくも（遠方の雲）. 301
おちかたのやま（遠方の山）. 301
おちかたびとのそで（遠方人の袖）. 301
おちのとおやま（遠方の遠山）. 301
かすむはるのとおやま（霞む春の遠山）. 301
くものおちかた（雲の遠方）. 302
とおきふるさと（遠き古里）. 302
とおきむさしの（遠き武蔵野）. 302
とおぎえ（遠消え）. 302
とおくきた（遠く来た）. 302
とおやまのあき（遠山の秋）. 302
のがとおい（野が遠い）. 302
みやこがとおい（都が遠い）. 303
とおり. 303
ただひととおり（ただ一通り）. 303
ひととおり（一通り）. 303
とこ. 303
とこをしめる（所を占める）. 303
ところ. 303

すみどころ（住み所） . . . 303
ところどころ . . . 303
ところどころ（所々） . . . 303
とし . . . 304
としこえる（年越える） . . . 304
としたける（年長ける） . . . 304
としどしのはな（年々の花） . . . 304
となえる . . . 304
ほとけとなえる（仏唱える） . . . 304
とにかく . . . 304
とにかくに（とにかくに） . . . 304
とぶ . . . 305
とぶかりのつばさ（飛ぶ雁の翼） . . . 305
とぶほたる（飛ぶ蛍） . . . 305
ほたるとぶそら（蛍飛ぶ空） . . . 305
みだれてとぶほたる（乱れて飛ぶ蛍） . . . 305
とまる . . . 305
とまりぶね（泊まり舟） . . . 305
とまりぶねおとしていずち（泊まり舟音していずち） . . . 306
ともしび . . . 306
ともしびのかげ（灯の影） . . . 306
ともしびのもと（灯の下） . . . 306
ともなう . . . 306
はるのともない（春の伴い） . . . 306
ひぐれにともなう（日暮れに伴う） . . . 306
とようら . . . 307
いくえとよらのたけのしたみち（幾重豊浦の竹の下道） . . . 307
とり . . . 307
かえるとりのね（帰る鳥の音） . . . 307
とりがさえずる（鳥が囀る） . . . 307
とりなく（鳥鳴く） . . . 307
とりのこえ（鳥の声） . . . 307
とりのこえごえ（鳥の声々） . . . 307
とりのさえずり（鳥の囀り） . . . 308
とりのなくこえ（鳥の鳴く声） . . . 308
とりのひとこえ（鳥の一声） . . . 308
ねぐらのはるのとりのね（塒の春の鳥の声） . . . 308
むらどりがねる（群鳥が寝る） . . . 309
ない . . . 309
あるかなきか（有るか無きか） . . . 309
かくれがはない（隠れ家はない） . . . 309
ただありなしのちぎり（ただ有り無しの契り） . . . 309
なきもの（無き物） . . . 309
ひとかげもしない（人影もしない） . . . 309
みやごともない（宮事もない） . . . 309
なか . . . 310
すてるよのなか（捨てる世の中） . . . 310
なかぞら（中空） . . . 310

なかぞらのくも（中空の雲）……310
ひとのこころのかわるよのなか（人の心の変わる世の中）……310
ひとのこころのよのなか（人の心の世の中）……313
ゆきのなかぞら（雪の中空）……313
よのなか（世の中）……313
なかなか……313
なかなかいちはすみよい（中々市は住み良い）……313
ながい……313
あきのよなが（秋の夜長）……313
こころながくまて（心長く待て）……313
ながあめのそら（長雨の空）……314
よがながい（夜が長い）……314
よにながらえる（世に長らえる）……314
ながつき……314
ながつきのしも（長月の霜）……314
ながめる……314
ながめる（眺める）……314
ながれる……314
ながれのすえ（流れの末）……314
ながれる（流れる）……314
ながれるみず（流れる水）……315
なく……315
うぐいすがなく（鶯が鳴く）……315
おじかなくこえ（牡鹿鳴く声）……316
かりなく（雁鳴く）……316
かわずなく（蛙鳴く）……316
きぎすなきたつ（雉鳴き立つ）……316
だれをまつむしのなく（誰を松虫の鳴く）……317
ちどりなく（千鳥鳴く）……317
ちどりなくこえ（千鳥鳴く声）……317
とりなく（鳥鳴く）……317
とりのなくこえ（鳥の鳴く声）……317
なくきりぎりす（鳴く蟋蟀）……317
なくほととぎす（鳴く時鳥）……318
なけほととぎす（鳴け時鳥）……318
ほととぎすなく（時鳥鳴く）……319
まつむしがなく（松虫が鳴く）……319
むしなく（虫鳴く）……319
なぐさめる……319
うきをただなぐさめる（憂きをただ慰める）……319
うちがなぐさめる（うちが慰める）……319
なごり……320
なごり（名残り）……320
なごりさびしい（名残り寂しい）……320
なつ……320
たつひのなつごろも（たつ日の夏衣）……320
なつかけて（夏かけて）……320
なつこだち（夏木立）……320

なつのひ（夏の日） . . . 320
なつのよのつき（夏の夜の月） . . . 320
なでしこ . . . 321
なでしこ（撫子） . . . 321
なに . . . 321
なにおもう（何思う） . . . 321
なにたのむ（何頼む） . . . 321
なににたとえよう（何に譬えよう） . . . 321
なびく . . . 321
うちなびく（打ち靡く） . . . 321
たけうちなびく（竹打ち靡く） . . . 321
なびきあうたけ（靡き合う竹） . . . 322
なびくあおやぎ（靡く青柳） . . . 322
なみ . . . 322
いわこすなみ（岩越す浪） . . . 322
おきのしらなみ（沖の白浪） . . . 322
おきのなみ（沖の浪） . . . 322
かかるふじなみ（掛かる藤浪） . . . 322
しがのうらぶね（志賀の浦舟） . . . 323
すまのうらなみ（須磨の浦浪） . . . 323
たきのいわなみ（滝の岩浪） . . . 323
なみのうえ（浪の上） . . . 323
なみのうきふね（浪の浮舟） . . . 323
なみのまにまに（浪の間に間に） . . . 324
ふくなみのうらかぜ（吹く浪の浦風） . . . 324
まつのふじなみ（松の藤浪） . . . 324
なみだ . . . 324
つゆもなみだも（露も涙も） . . . 324
なみだ（涙） . . . 324
なみだあらそうこえ（涙争う声） . . . 324
なみだおちる（涙落ちる） . . . 325
なみだがわ（涙河） . . . 325
なみだがわがそでのうえ（涙が我が袖の上） . . . 325
むかしをおもうなみだ（昔を思う涙） . . . 325
むかってなみだおちる（向って涙落ちる） . . . 326
ならう . . . 326
よのならい（世の習い） . . . 326
なる . . . 326
あきちかくなる（秋近くなる） . . . 326
かねなる（鐘鳴る） . . . 326
なる（なる） . . . 327
なれるしばびと（なれる柴人） . . . 327
われでなくなるのがうい（我でなくなるのが憂い） . . . 328
なわ . . . 328
ふねのつなでなわ（舟の綱手縄） . . . 328
におう . . . 328
うめにおう（梅匂う） . . . 328
うめにおうころ（梅匂う頃） . . . 328

かぜににおうたちばな（風に匂う橘）. 328
におううめのか（匂う梅の香）. 328
におうたちばな（匂う橘）. 329
みずににおうやまぶき（水に匂う山吹）. 329
にしき. 329
もみじのにしき（紅葉の錦）. 329
にち. 329
あさひかげ（朝日影）. 329
いりひかげ（入り日影）. 329
かすむひ（霞む日）. 329
さむいひ（寒い日）. 330
たつひのなつごろも（たつ日の夏衣）. 330
なつのひ（夏の日）. 330
はるのいりひ（春の入日）. 330
ひがくれる（日が暮れる）. 330
ひぐれにともなう（日暮れに伴う）. 330
にわ. 331
つゆのおときくにわ（露の音聞く庭）. 331
にわのあけぼの（庭の曙）. 331
ぬれる. 331
そでぬれる（袖濡れる）. 331
そでをぬらす（袖を濡らす）. 331
ね. 332
いわがね（岩が根）. 332
いわがねのまつ（岩が根の松）. 332
ねぐら. 332
ねぐらのはるのとりのね（塒の春の鳥の声）. 332
ねや. 332
ねやのつきかげ（閨の月影）. 332
ねる. 332
いかにねて（如何に寝て）. 332
いねがてのそら（寝ねがての空）. 332
うたたね（うたた寝）. 332
かりねのつきかげ（仮寝の月影）. 333
かりねをする（仮寝をする）. 333
ねざめする（寝覚めする）. 333
ねざめするよ（寝覚めする夜）. 333
ひとりねとかげ（一人寝と影）. 333
ひとりねる（一人寝る）. 333
むらどりがねる（群鳥が寝る）. 333
の. 334
のがとおい（野が遠い）. 334
のにかりまくら（野に仮枕）. 334
ののしたもえ（野の下萌え）. 334
のべちかいうぐいす（野辺近い鶯）. 334
のべのあけぼの（野辺の曙）. 334
のべのあわれさ（野辺の哀れさ）. 334
のべのいろいろ（野辺の色々）. 335

のべのおちこち（野辺の遠近） . . . 335
のべのかりふし（野辺の仮臥） . . . 335
のき . . . 335
のきのたちばな（軒の橘） . . . 335
のこる . . . 335
あめのこるそら（雨残る空） . . . 335
おぼろにのこるありあけのつき（朧に残る有明の月） . . . 336
きりのこる（霧残る） . . . 336
くさはのこらないゆきのしたおれ（草は残らない雪の下折） . . . 336
のこる（残る） . . . 336
のこるありあけ（残る有明） . . . 336
のこるやまかげ（残る山影） . . . 336
のどか . . . 337
あめののどけさ（雨の長閑さ） . . . 337
のどか（長閑） . . . 337
ひかりのどか（光長閑） . . . 337
ののみや . . . 337
ののみや（野々宮） . . . 337
のぼる . . . 337
きりはれのぼる（霧晴れ昇る） . . . 337
のり . . . 337
のりのことのは（法の言の葉） . . . 337
のわき . . . 338
のわきのあと（野分の後） . . . 338
のわきのかぜ（野分の風） . . . 338
は . . . 338
やまのはのつき（山の端の月） . . . 338
はぎ . . . 338
こはぎうつろう（小萩移ろう） . . . 338
こはぎはら（小萩原） . . . 338
はぎのしたつゆ（萩の下露） . . . 339
はげしい . . . 339
かぜのはげしさ（風の激しさ） . . . 339
はこぶ . . . 339
はこぶみつぎ（運ぶ貢） . . . 339
はし . . . 339
かけはし（掛橋） . . . 339
くめのいわはし（久米の岩橋） . . . 339
くものかけはし（雲の掛橋） . . . 340
そばのかけはし（傍の掛橋） . . . 340
はしばしら（橋柱） . . . 340
みちのかけはし（道の掛橋） . . . 340
みねのかけはし（峰の掛橋） . . . 340
ゆめのうきはし（夢の浮橋） . . . 340
はしら . . . 341
はしばしら（橋柱） . . . 341
はじ . . . 341
おかべのはじのひとむら（岡辺の櫨の一群） . . . 341

はじめる 341
こおりそめる（氷初める） 341
はす 342
はちすのうえ（蓮の上） 342
はつ 342
あきのはつかぜ（秋の初風） 342
けさのはつゆき（今朝の初雪） 343
はじめ（初め） 343
はつかぜときのうはきいてあきふける（初風と昨日は聞いて秋更ける） 343
はつかりのこえ（初雁の声） 343
はつせかぜ 343
はつせかぜ（初瀬風） 343
はつせでら 343
はつせでら（初瀬寺） 343
はてる 344
あけはてる（明け果てる） 344
よわりはてる（弱り果てる） 344
はな 344
あおばのはなのあと（青葉の花の後） 344
あさがおのはな（朝顔の花） 344
おしんではなをみる（惜しんで花を見る） 344
おのえのはなをみる（尾上の花を見る） 344
かぜにはなちる（風に花散る） 345
かれはなすすき（枯れ花薄） 345
さくはるのはな（咲く春の花） 345
ちるはな（散る花） 345
としどしのはな（年々の花） 345
はなうえる（花植える） 345
はなうちかおる（花打ち香る） 346
はなさく（花咲く） 346
はなざかり（花盛り） 346
はなすすき（花薄） 347
はなちる（花散る） 347
はなならで（花ならで） 347
はなのいろ（花の色） 347
はなのかげ（花の陰） 347
はなのかげにやすらう（花の陰に安らう） 348
はなのこずえにあらわれる（花の梢に現れる） 348
はなのこのもと（花の木の下） 348
はなのはる（花の春） 349
はなのはるかぜ（花の春風） 349
はなのはるごと（花の春毎） 349
はなのひとえだ（花の一枝） 349
はなのひともと（花の一本） 349
はなのやまかぜ（花の山風） 350
はなみえる（花見える） 350
はなよもみじよ（花よ紅葉よ） 350
はるのはな（春の花） 350

みよしののはな（み吉野の花） . . . 351
やまなしのはな（山梨の花） . . . 351
よしのがわのはな（吉野川の花） . . . 351
はなれる . . . 351
あけはなれる（明け離れる） . . . 351
さとはなれたみち（里離れた道） . . . 351
はね . . . 352
ういしぎのはねがき（憂い鴫の羽掻き） . . . 352
しぎのはねおと（鴫の羽音） . . . 352
しぎのはねがき（鴫の羽掻き） . . . 352
はま . . . 352
はまつたう（浜伝う） . . . 352
はやい . . . 352
あさまだき（朝まだき） . . . 352
はら . . . 352
おやまだのはら（小山田の原） . . . 352
くさはら（草原） . . . 352
こはぎはら（小萩原） . . . 353
まさごはら（真砂原） . . . 353
わすれとうくさはら（忘れ訪う草原） . . . 353
わすれるなよ（忘れるなよ） . . . 353
はらう . . . 353
はらう（払う） . . . 353
はる . . . 354
かすむはるのとおやま（霞む春の遠山） . . . 354
さくはるのはな（咲く春の花） . . . 354
ねぐらのはるのとりのね（塒の春の鳥の声） . . . 354
はなのはる（花の春） . . . 354
はなのはるかぜ（花の春風） . . . 354
はなのはるごと（花の春毎） . . . 354
はるあきのいろ（春秋の色） . . . 355
はるかえる（春帰る） . . . 355
はるかぜがふく（春風が吹く） . . . 355
はるがくる（春が来る） . . . 355
はるすぎる（春過ぎる） . . . 355
はるたつ（春立つ） . . . 356
はるのあけぼの（春の曙） . . . 356
はるのいりひ（春の入日） . . . 356
はるのうみつら（春の海面） . . . 356
はるのかえるさ（春の帰るさ） . . . 356
はるのかりがね（春の雁） . . . 357
はるのくれ（春の暮れ） . . . 357
はるのくれがた（春の暮れ方） . . . 357
はるのさびしさ（春の寂しさ） . . . 357
はるのともない（春の伴い） . . . 357
はるのはな（春の花） . . . 357
はるのひかり（春の光） . . . 358
はるのふるさと（春の古里） . . . 358

はるのもののね（春の物の音）．．．358
はるのやまざと（春の山里）．．．358
はるのやまでら（春の山寺）．．．359
はるのゆうぐれ（春の夕暮れ）．．．359
はるのよのつき（春の夜の月）．．．359
はるのよのゆめ（春の夜の夢）．．．359
はるはあけぼの（春は曙）．．．359
はるよりのち（春より後）．．．359
ふるきみやこのはる（古き都の春）．．．359
はるか．．．360
さとのはるかさ（里の遥かさ）．．．360
はるばる．．．360
はるばる（遙々）．．．360
はれる．．．360
きりはれのぼる（霧晴れ昇る）．．．360
きりはれる（霧晴れる）．．．360
はれるむらさめ（晴れる村雨）．．．360
みずはれる（水晴れる）．．．360
むらさめのはれゆくあとはあらし（村雨の晴れゆく後は嵐）．．．360
ゆきがふりはれる（雪がふり晴れる）．．．361
ば．．．361
あおばのはなのあと（青葉の花の後）．．．361
かきのもとつば（垣の本つ葉）．．．361
くさばのつゆ（草葉の露）．．．361
こぼれるたけのはのつゆ（零れる竹の葉の露）．．．361
もみじば（紅葉葉）．．．361
ひ．．．361
あしびたくかげ（葦火焚く影）．．．361
ひかり．．．362
はるのひかり（春の光）．．．362
ひかりのかげ（光の影）．．．362
ひかりのどか（光長閑）．．．362
ひぐらし．．．362
ひぐらしのこえ（蜩の声）．．．362
ひだり．．．362
ひだりみぎ（左右）．．．362
ひと．．．363
いづるたびびと（出る旅人）．．．363
いづるふなびと（出る舟人）．．．363
おちかたびとのそで（遠方人の袖）．．．363
おもうひとのことのは（思う人の言の葉）．．．363
かえるさとびと（帰る里人）．．．363
かわるよのなか（変わる世の中）．．．363
すまびと（須磨人）．．．363
つかえびと（仕え人）．．．363
なれるしばびと（なれる柴人）．．．364
ひとかえる（人帰る）．．．364
ひとかげもしない（人影もしない）．．．364

ひとがうらめしい（人が恨めしい）……364
ひとがまたれる（人が待たれる）……364
ひとだのみ（人頼み）……364
ひとのおとずれ（人の訪れ）……365
ひとのおもかげ（人の面影）……365
ひとのかねごと（人の豫言）……365
ひとのこころ（人の心）……365
ひとのこころがかわる（人の心が変わる）……366
ひとのこころのかわるよのなか（人の心の変わる世の中）……366
ひとのこころのよのなか（人の心の世の中）……368
ひともある（人もある）……369
ひとりねとかげ（一人寝と影）……369
ひとりねる（一人寝る）……369
ふるさとびと（古里人）……369
わびびと（侘人）……369
ひま……369
かすみのひま（霞のひま）……369
ひややか……369
ひややか（冷ややか）……369
みずひややか（水冷ややか）……370
ひよし……370
かもひよし（賀茂日吉）……370
ひらく……370
まどをひらく（窓を開く）……370
ふかい……370
ふかいよるのそら（深い夜の空）……370
やまぶかい（山深い）……370
よがふかい（夜が深い）……370
ふく……371
あきかぜがふく（秋風が吹く）……371
あらしふくやま（嵐吹く山）……371
そでふきおくるかぜ（袖吹きおくる風）……371
つゆふくかぜ（露吹く風）……371
はるかぜがふく（春風が吹く）……372
ふくかぜのあきのつゆ（吹く風に秋の露）……372
ふくなみのうらかぜ（吹く浪の浦風）……372
まつかぜがふく（松風が吹く）……372
まつふくかぜ（松吹く風）……372
ふける……373
あきふける（秋更ける）……373
あきふけわたる（秋更け渡る）……373
つきふける（月更ける）……373
はつかぜときのうはきいてあきふける（初風と昨日は聞いて秋更ける）……373
よがふける（夜が更ける）……374
ふじ……374
かかるふじなみ（掛かる藤浪）……374
ふじのたそがれ（藤の黄昏）……374
まつのふじなみ（松の藤浪）……374

ふす 374
かりふしのゆめ（仮臥の夢） 374
のべのかりふし（野辺の仮臥） 375
ふで 375
ふでのあと（筆の跡） 375
ふね 375
あまおぶね（海人小舟） 375
あまのつりぶね（海人の釣舟） 375
いづるふなびと（出る舟人） 376
おきのつりぶね（沖の釣舟） 376
おきのふね（沖の舟） 376
かわぞいぶね（川沿い舟） 376
とまりぶね（泊まり舟） 376
とまりぶねおとしていずち（泊まり舟音していずち） 377
なみのうきふね（浪の浮舟） 377
ふねのつなでなわ（舟の綱手縄） 377
ふねひきのぼる（舟曳き上る） 377
もろこしぶね（唐土舟） 377
よどのかわぶね（淀の川舟） 377
わたしぶね（渡し舟） 378
ふみ 378
ふねのまきまき（文の巻々） 378
ふゆ 378
ういふゆごもり（憂い冬籠り） 378
ふゆがれ（冬枯れ） 378
ふゆこもるころ（冬籠もる頃） 378
ふる 378
あめがふる（雨がふる） 378
いけふる（池ふる） 379
しのにふるころ（篠にふる頃） 379
つゆのふるみち（露のふる道） 379
ふる（ふる） 379
ふるきみやこのはる（古き都の春） 379
ふるでら（古寺） 379
ふるみやのうち（古宮の内） 380
みねのふるでら（峰の古寺） 380
ゆきがふりはれる（雪がふり晴れる） 380
ふるさと 380
おもうふるさと（思う古里） 380
かえるふるさと（帰る古里） 380
すめるふるさと（住める古里） 381
つゆのふるさと（露のふる里） 381
とおきふるさと（遠き古里） 381
はるのふるさと（春の古里） 381
ふるさと（古里） 381
ふるさとのあき（古里の秋） 381
ふるさとのつき（古里の月） 382
ふるさとびと（古里人） 382

へだたる 382
へだたる（隔たる） 382
ほし 382
さやかなほし（さやかな星） 382
ほしをいただく（星を頂く） 382
ほそい 383
みちがほそい（道が細い） 383
ほたる 383
あきのほたる（秋の蛍） 383
とぶほたる（飛ぶ蛍） 383
ほたるとうくれ（蛍訪う暮れ） 383
ほたるとぶそら（蛍飛ぶ空） 383
みだれてとぶほたる（乱れて飛ぶ蛍） 383
ほとけ 384
ほとけとなえる（仏唱える） 384
ほととぎす 384
きくほととぎす（聞く時鳥） 384
なくほととぎす（鳴く時鳥） 384
なけほととぎす（鳴け時鳥） 384
ほととぎす（時鳥） 385
ほととぎすなく（時鳥鳴く） 391
ほととぎすのひとこえ（時鳥の一声） 391
ほととぎすまくらのいずちすぎる（時鳥枕のいずち過ぎる） 391
まつほととぎす（待つ時鳥） 392
やまのほととぎす（山の時鳥） 392
やまほととぎす（山時鳥） 392
ゆくほととぎす（行く時鳥） 395
わけるほととぎす（別ける時鳥） 395
ほど 395
ほどがしられる（程が知られる） 395
ほのか 395
つきがほのめく（月がほのめく） 395
ほのか（仄か） 395
ほのかなきり（仄かな霧） 396
まつむしほのめく（松虫ほのめく） 396
ほん 396
うめのひともと（梅の一本） 396
きくのひともと（菊の一本） 396
はなのひともと（花の一本） 396
まつのひともと（松の一本） 396
やまもと（山本） 397
やまもとのさと（山本の里） 397
ま 397
かぜのまにまに（風のまにまに） 397
なみのまにまに（浪の間に間に） 397
まつあいだ（待つ間） 397
まい 398
まいのそで（舞の袖） 398

まえ 398
まえわたり（前渡り） 398
まがき 398
きりのまがき（霧の籬） 398
まき 398
ふねのまきまき（文の巻々） 398
まぎれる 398
まぎれない（紛れない） 398
まく 398
すだれをまけばゆき（簾を巻けば雪） 398
まくら 399
あきのたまくら（秋の手枕） 399
かりまくら（仮枕） 399
くさまくら（草枕） 399
たまくらのつき（手枕の月） 399
つゆのたまくら（露の手枕） 400
にいたまくら（新手枕） 400
のにかりまくら（野に仮枕） 400
ほととぎすまくらのいずちすぎる（時鳥枕のいずち過ぎる） 400
まくらさだめない（枕定めない） 400
まくらのうえ（枕の上） 400
まくらのゆめ（枕の夢） 400
ゆめのかりまくら（夢の仮枕） 401
わかくさまくら（若草枕） 401
まさご 401
まさごはら（真砂原） 401
まつ 401
あめをまつ（雨を待つ） 401
いわがねのまつ（岩が根の松） 401
こころながくまて（心長く待て） 402
すみよしのまつ（住吉の松） 402
すみよしのまつとたのむ（住吉の松と頼む） 402
ただまつのかぜ（ただ松の風） 402
だれをまつ（誰を待つ） 402
つきまつ（月待つ） 402
ひとがまたれる（人が待たれる） 403
まつあいだ（待つ間） 403
まつかぜがふく（松風が吹く） 403
まつかぜのこえ（松風の声） 403
まつのひとむら（松の一群） 403
まつのひともと（松の一本） 404
まつのふじなみ（松の藤浪） 404
まつふくかぜ（松吹く風） 404
まつほととぎす（待つ時鳥） 404
まつみえる（松見える） 404
まつをたよりに（松を頼りに） 405
やまのまつかぜ（山の松風） 405
まつむし 405

だれをまつむしのなく（誰を松虫の鳴く）．．．405
まつむしがなく（松虫が鳴く）．．．405
まつむしのこえ（松虫の声）．．．405
まつむしほのめく（松虫ほのめく）．．．406
まつり．．．406
おおはらまつり（大原祭り）．．．406
まつりするかみ（祭りする神）．．．406
まど．．．406
こころがまどのうち（心が窓の内）．．．406
まどをひらく（窓を開く）．．．406
まどい．．．407
まどいする（円居する）．．．407
まぼろし．．．407
まぼろし（幻）．．．407
み．．．407
かぜがみにしみる（風が身にしみる）．．．407
みにしみる（身にしみる）．．．407
みのゆくえ（身の行方）．．．407
みをおもう（身を思う）．．．408
みをたのむな（身を頼むな）．．．408
みぎ．．．408
ひだりみぎ（左右）．．．408
みじかい．．．408
みじかよのつき（短夜の月）．．．408
みじかよのゆめ（短夜の夢）．．．408
みず．．．409
あきのさわみず（秋の沢水）．．．409
いけみず（池水）．．．409
いさらいのみず（いさら井の水）．．．409
かけいにうけるみず（懸樋に受ける水）．．．409
かすみのうちのみずのみなかみ（霞の内の水の水上）．．．409
さわみずのおと（沢水の音）．．．409
ながれるみず（流れる水）．．．409
みずかげのさびしさ（水影の寂しさ）．．．410
みずこえる（水越える）．．．410
みずににおうやまぶき（水に匂う山吹）．．．410
みずのおと（水の音）．．．410
みずのさびあゆ（水の錆鮎）．．．410
みずのすえみえる（水の末見える）．．．410
みずのたえだえ（水の絶え絶え）．．．410
みずのひとすじ（水の一筋）．．．411
みずはすむ（水は澄む）．．．411
みずはれる（水晴れる）．．．411
みずひややか（水冷ややか）．．．411
やまのいのみず（山の井の水）．．．411
みだれる．．．411
つゆがみだれる（露が乱れる）．．．411
つゆにみだれる（露に乱れる）．．．411

みだれがみ（乱れ髪） . . . 412
みだれてとぶほたる（乱れて飛ぶ蛍） . . . 412
みち . . . 412
いくえとよらのたけのしたみち（幾重豊浦の竹の下道） . . . 412
かえるさのみち（帰るさの道） . . . 412
かすみにたどるみち（霞にたどる道） . . . 412
かわぞいのみち（川沿いの道） . . . 412
きりのしたみち（霧の下道） . . . 413
このもとみち（木の下道） . . . 413
さとはなれたみち（里離れた道） . . . 413
つきのたびのみち（月の旅の道） . . . 413
つゆのふるみち（露のふる道） . . . 413
のちのよのみち（後の世の道） . . . 413
みちがほそい（道が細い） . . . 413
みちたえだえ（道絶え絶え） . . . 413
みちである（道である） . . . 414
みちのかけはし（道の掛橋） . . . 414
みちのすえ（道の末） . . . 414
みちのつじうら（道の辻占） . . . 414
みちのひとすじ（道の一筋） . . . 414
みちのやすらい（道の安らい） . . . 415
やまのしたみち（山の下道） . . . 415
わかれじのあと（別れ路の跡） . . . 415
みつぎ . . . 415
はこぶみつぎ（運ぶ貢） . . . 415
みね . . . 416
くもかかるみね（雲かかる峰） . . . 416
みねこえる（峰越える） . . . 416
みねたかい（峰高い） . . . 416
みねのあきかぜ（峰の秋風） . . . 416
みねのいお（峰の庵） . . . 416
みねのかけはし（峰の掛橋） . . . 416
みねのくも（峰の雲） . . . 416
みねのしらゆき（峰の白雪） . . . 416
みねのふるでら（峰の古寺） . . . 417
みねのゆき（峰の雪） . . . 417
みや . . . 417
いにしえのみや（古の宮） . . . 417
ふるみやのうち（古宮の内） . . . 417
みやこ . . . 417
ふるきみやこのはる（古き都の春） . . . 417
みやこがこいしい（都が恋しい） . . . 417
みやこがとおい（都が遠い） . . . 418
みやこのつきにかえる（都の月に帰る） . . . 418
みやごと . . . 418
みやごともない（宮事もない） . . . 418
みる . . . 418
おしんではなをみる（惜しんで花を見る） . . . 418

おのえのはなをみる（尾上の花を見る） . . . 418
かぜみえる（風見える） . . . 418
つきをみる（月を見る） . . . 418
はなみえる（花見える） . . . 419
まつみえる（松見える） . . . 419
みずのすえみえる（水の末見える） . . . 419
みるのもうい（見るのも憂い） . . . 419
むかう . . . 419
かたるばかりにむかうおもかげ（語るばかりに向う面影） . . . 419
むかってなみだおちる（向って涙落ちる） . . . 419
むかし . . . 419
むかし（昔） . . . 419
むかしをいまの（昔を今の） . . . 420
むかしをおもうなみだ（昔を思う涙） . . . 420
むさしの . . . 420
とおきむさしの（遠き武蔵野） . . . 420
むし . . . 420
しげきむしのね（繁き虫の音） . . . 420
むしなく（虫鳴く） . . . 420
むしのこえ（虫の声） . . . 420
むしのこえごえ（虫の声々） . . . 421
むしのね（虫の音） . . . 421
よわのむしのね（夜半の虫の音） . . . 421
むしろ . . . 422
さむしろ（さ筵） . . . 422
さむしろのつき（さ筵の月） . . . 422
むね . . . 422
むねのおもい（胸の思い） . . . 422
むらさめ . . . 422
あきのむらさめ（秋の村雨） . . . 422
かぜのむらさめ（風の村雨） . . . 422
すぎるむらさめ（過ぎる村雨） . . . 422
はれるむらさめ（晴れる村雨） . . . 422
ひとむらさめ（一村雨） . . . 423
むらさめ（村雨） . . . 423
むらさめがたつ（村雨がたつ） . . . 423
むらさめすぎる（村雨過ぎる） . . . 423
むらさめのそら（村雨の空） . . . 423
むらさめのはれゆくあとはあらし（村雨の晴れゆく後は嵐） . . . 424
むれ . . . 424
うちむれる（打ち群れる） . . . 424
おかべのはじのひとむら（岡辺の櫨の一群） . . . 424
くものひとむら（雲の一群） . . . 424
さとのひとむら（里の一群） . . . 424
すぎのむらだち（杉の群立ち） . . . 424
たけのひとむら（竹の一群） . . . 424
つきのむらくも（月の群雲） . . . 425
ひとむら（一群） . . . 425

ふとむらすすき（一群薄）……425
まつのひとむら（松の一群）……425
むらちどり（群千鳥）……425
むらどりがねる（群鳥が寝る）……425
めずらしい……426
きくのもめずらしい（聞くのも珍しい）……426
もえる……426
かれたくさがもえでる（枯れた草が萌え出る）……426
もしお……426
かくもしおぐさ（掻く藻塩草）……426
もず……426
もずのくさぐき（鵙の草茎）……426
もつ……426
うつりもてゆく（移り持て行く）……426
もと……426
かきのもとつば（垣の本つ葉）……426
かすむやまもと（霞む山本）……426
もの……427
なきもの（無き物）……427
はるのもののね（春の物の音）……427
ものおもうころ（物思う頃）……427
ものがなしき（物悲しき）……427
ものごと（物毎）……427
ものさびしい（物寂しい）……428
もみじ……428
はなよもみじよ（花よ紅葉よ）……428
もみじのにしき（紅葉の錦）……428
もみじば（紅葉葉）……428
もり……428
かんなびのもり（神奈備の森）……428
もりのしたくさ（森の下草）……428
やしろ……428
よきのみやしろ（与喜の御社）……428
やすらう……429
はなのかげにやすらう（花の陰に安らう）……429
みちのやすらい（道の安らい）……429
やすらい（安らい）……429
やど……429
やどのうめ（宿の梅）……429
やどのうめのか（宿の梅の香）……429
やどのゆうぐれ（宿の夕暮れ）……429
やどをかる（宿を借る）……430
やどをとう（宿を訪う）……430
やなぎ……430
あおやぎ（青柳）……430
あおやぎのいと（青柳の糸）……430
あおやぎのかげ（青柳の陰）……430
なびくあおやぎ（靡く青柳）……430

やま 431
あきのやま（秋の山） 431
あけぼののやま（曙の山） 431
あらしふくやま（嵐吹く山） 431
うしろのやま（後ろの山） 431
うつのやま（宇津の山） 432
うつのやまごえ（宇津の山越え） 432
おくやまのかげ（奥山の陰） 432
おちかたのやま（遠方の山） 432
おちのとおやま（遠方の遠山） 432
おやまだのすえ（小山田の末） 432
おやまだのはら（小山田の原） 432
かくれがのやま（隠れ家の山） 433
かさなるやま（重なる山） 433
かすむはるのとおやま（霞む春の遠山） 433
かすむやまもと（霞む山本） 433
かつらぎのやま（葛城の山） 433
さくらのかつらぎのやま（桜の葛城の山） 434
しもすさまじいやま（霜凄まじい山） 434
ちかいやまざと（近い山里） 434
とおやまのあき（遠山の秋） 434
のこるやまかげ（残る山影） 434
はなのやまかぜ（花の山風） 434
はるのやまざと（春の山里） 434
はるのやまでら（春の山寺） 435
みよしののやま（み吉野の山） 435
やまがくるしい（山が苦しい） 435
やまざくら（山桜） 435
やまざと（山里） 435
やまちかい（山近い） 436
やまのいのみず（山の井の水） 436
やまのおく（山の奥） 436
やまのかくれが（山の隠れ家） 436
やまのかげ（山の陰） 436
やまのしたかげ（山の下陰） 437
やまのしたみち（山の下道） 437
やまのはのつき（山の端の月） 437
やまのほととぎす（山の時鳥） 438
やまのまつかぜ（山の松風） 438
やまぶかい（山深い） 438
やまほととぎす（山時鳥） 438
やまもと（山本） 441
やまもとのさと（山本の里） 441
ゆうぐれのやま（夕暮れの山） 441
やまおろし 442
やまおろし（山颪） 442
やまがつ 442
やまがつ（山賤） 442

やまがつのいお（山賎の庵）……442
やまと……442
やまとことのは（大和言の葉）……442
やまなし……442
やまなしのはな（山梨の花）……442
やまぶき……442
きしのやまぶき（岸の山吹）……442
みずににおうやまぶき（水に匂う山吹）……443
やよい……443
やよいのあめ（弥生の雨）……443
ゆう……443
かすむゆうぐれ（霞む夕暮れ）……443
はるのゆうぐれ（春の夕暮れ）……443
やどのゆうぐれ（宿の夕暮れ）……443
ゆうあらし（夕嵐）……443
ゆうぐれのくも（夕暮れの雲）……444
ゆうぐれのそら（夕暮れの空）……444
ゆうぐれのやま（夕暮れの山）……445
ゆうしぐれ（夕時雨）……445
ゆうすずみ（夕涼み）……445
ゆうづくよ（夕月夜）……445
ゆうべ（夕べ）……445
ゆうべかぎる（夕べ限る）……445
ゆうまぐれ（夕まぐれ）……445
ゆうがお……446
ゆうがお（夕顔）……446
ゆうがおのちぎり（夕顔の契り）……446
ゆうだち……446
ゆうだち（夕立）……446
ゆうだちのあと（夕立の後）……446
ゆうつけどり……447
ゆうつけどりをきく（木綿付け鳥を聞く）……447
ゆき……447
うちのゆき（内の雪）……447
くさはのこらないゆきのしたおれ（草は残らない雪の下折）……447
けさのはつゆき（今朝の初雪）……447
こしのしらゆき（越の白雪）……447
すだれをまけばゆき（簾を巻けば雪）……447
みねのしらゆき（峰の白雪）……447
みねのゆき（峰の雪）……448
ゆきがふりはれる（雪がふり晴れる）……448
ゆききえる（雪消える）……448
ゆきになる（雪になる）……448
ゆきのあけぼの（雪の曙）……448
ゆきのあさあけ（雪の朝明け）……448
ゆきのうち（雪の内）……449
ゆきのなかぞら（雪の中空）……449
ゆくえ……449

みのゆくえ（身の行方）．．．449
ゆくすえ．．．449
おいのゆくすえ（老いの行く末）．．．449
かぜのゆくすえ（風の行末）．．．449
つきのゆくすえ（月の行く末）．．．449
ゆくすえのそら（行く末の空）．．．450
ゆめ．．．450
いにしえのゆめ（古の夢）．．．450
かりのよるのゆめ（仮の夜の夢）．．．450
かりふしのゆめ（仮臥の夢）．．．450
ただゆめのうち（ただ夢の内）．．．450
はるのよのゆめ（春の夜の夢）．．．450
まくらのゆめ（枕の夢）．．．450
みじかよのゆめ（短夜の夢）．．．451
ゆめさめる（夢覚める）．．．451
ゆめのうきはし（夢の浮橋）．．．451
ゆめのおもかげ（夢の面影）．．．452
ゆめのかりまくら（夢の仮枕）．．．452
よるのゆめ（夜の夢）．．．452
よ．．．452
あじけないよ（味気ない世）．．．452
かわるよのなか（変わる世の中）．．．452
すてるよのなか（捨てる世の中）．．．453
のちのよのみち（後の世の道）．．．453
ひとのこころのかわるよのなか（人の心の変わる世の中）．．．453
ひとのこころのよのなか（人の心の世の中）．．．455
よにながらえる（世に長らえる）．．．456
よのなか（世の中）．．．456
よのならい（世の習い）．．．456
よばかりかかる（世ばかり掛かる）．．．456
よをいとう（世を厭う）．．．456
よき．．．456
よきのみやしろ（与喜の御社）．．．456
よこ．．．456
たなびくよこぐものそら（棚引く横雲の空）．．．456
よこぐもかすむ（横雲霞む）．．．457
よこぐものそら（横雲の空）．．．457
よしの．．．457
みよしののおく（み吉野の奥）．．．457
みよしののはな（み吉野の花）．．．457
みよしののやま（み吉野の山）．．．457
よしのがわ．．．458
よしのがわのはな（吉野川の花）．．．458
よど．．．458
よどのかわぶね（淀の川舟）．．．458
よぶこどり．．．458
よぶこどり（呼子鳥）．．．458
よもぎ．．．458

よもぎう（蓬生）. 458
よもぎうのかげ（蓬生の影）. 458
よる. 459
あきのよすがら（秋の夜すがら）. 459
あきのよなが（秋の夜長）. 459
あきのよなよな（秋の夜な夜な）. 459
あきのよのつき（秋の夜の月）. 459
おぼろづきよ（朧月夜）. 459
かりのよるのゆめ（仮の夜の夢）. 460
こころをつくすあめのよる（心を尽す雨の夜）. 460
つきがかすむよる（月が霞む夜）. 460
つきよなよな（月夜な夜な）. 460
なつのよのつき（夏の夜の月）. 460
ねざめするよ（寝覚めする夜）. 460
はるのよのつき（春の夜の月）. 460
はるのよのゆめ（春の夜の夢）. 460
ふかいよるのそら（深い夜の空）. 461
みじかよのつき（短夜の月）. 461
みじかよのゆめ（短夜の夢）. 461
ゆうづくよ（夕月夜）. 461
よがあける（夜が明ける）. 461
よがながい（夜が長い）. 461
よがふかい（夜が深い）. 462
よがふける（夜が更ける）. 462
よざむおぼえる（夜寒おぼえる）. 462
よはしののめ（夜は東雲）. 462
よもすがら（夜もすがら）. 462
よるくむさかずき（夜汲む杯）. 462
よるのゆめ（夜の夢）. 463
よわのあきかぜ（夜半の秋風）. 463
よわのつき（夜半の月）. 463
よわのむしのね（夜半の虫の音）. 463
よわる. 463
よわりはてる（弱り果てる）. 463
れつ. 464
かりのいくつら（雁の幾列）. 464
かりのひとつら（雁の一列）. 464
わかい. 464
わかくさまくら（若草枕）. 464
わかれる. 464
わかれじのあと（別れ路の跡）. 464
わかれる（別れる）. 464
わかれるたびはかなしい（別れる旅は悲しい）. 464
わけるほととぎす（別ける時鳥）. 465
わすれる. 465
だれにわすれる（誰に忘れる）. 465
わすれとうくさはら（忘れ訪う草原）. 465
わすれもしない（忘れもしない）. 465

わすれようとする（忘れようとする）. 465
わすれるなよ（忘れるなよ）. 465
わたす. 466
うちわたす（打ち渡す）. 466
わたる. 466
あきふけわたる（秋更け渡る）. 466
まえわたり（前渡り）. 466
わたしぶね（渡し舟）. 466
わたるかりがね（渡る雁）. 466
わびる. 466
しきわぶ（敷き侘ぶ）. 466
わびびと（侘人）. 466
われ. 467
なみだがわがそでのうえ（涙が我が袖の上）. 467
われでなくなるのがうい（我でなくなるのが憂い）. 467

あお

青葉の花の後

→掛かる藤浪

まつならてーあをはのゆきやーはなのあと
ことときのかたにーかかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

をしめとも－あをはになりぬ－はなのあと
まつにことさら－かかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

青柳

→葛城山

あをやきの－いととしつけき－あめみえて
こえむもいかか－かつらきのやま

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

あをやきの－ほかはふきぬる－かせもなし
よもはかすみの－かつらきのやま

【春夢草／書陵部本】／春／永正 12(1516) 年、13 年

青柳の糸

→打ち映える

たえぬをかけの－あをやきのいと
つゆなから－あさゆふかすみ－うちはへて

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

はるにやさらす－あをやきのいと
えのみつに－かすみのころも－うちはへて

【文明年間百韻３４巻】／何人［わすれては］／文明 5(1473) 年 2 月 1 日

→川添い

のとかになひく－あをやきのいと
かはそひの－ふねのつなての－なかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［うめはけふ］／応永 26(1419) 年 2 月 25 日

みたれあひたる－あをやきのいと
かはそひの－つつみやなみの－こえぬらむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あめのひの］／文禄 2(1593) 年 5 月

青柳の陰

→花を見る

かせもかよはぬ－あをやきのかけ
けふもまた－なかきひくらし－はなをみて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

しはしたたすむ－あをやきのかけ
あふひとに－ところせかるる－はなをみて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

靡く青柳

→霞む

かせよりさきも－なひくあをやき
ありあけや－なかそらたかく－かすむらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

はるのしるしに－なひくあをやき
かつらきや－くものよそめに－かすむらむ

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

→残る

くちきなからも－なひくあをやき
みちのへの－ゆきはうすくや－のこるらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ひとせに］／応永 32(1426) 年 12 月 11 日

しつえしけりて－なひくあをやき
かせやまた－ちりしさくらに－のこるらむ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［たのもしな］／寛文 9(1669) 年 10 月 2 日

あかしがた

明石潟

→枕に千鳥鳴く声

さらてたにーつきによなよなーあかしかた
まくらにあきのーちとりなくこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

わひつつもーうらなれけりなーあかしかた
まくらにちかしーちとりなくこゑ

【天正年間百韻５７巻】／何人［みれはみし］／天正 12(1584) 年 9 月 13 日

→続く岡越えの道

あかしかたーしほきをはこふーふねよせて
うらまてつつくーをかこえのみち

【看聞日記紙背５０巻】／何路［あききては］／応永 27(1420) 年 7 月 25 日

ともふねのーかよふもちかき―あかしかた
やまにもつつくーをかこえのみち

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

月の明石潟

→岡辺の秋

すまよりもーよはなほつきにーあかしかた
をかへのあきのーすこきしはのや

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

ゆふきりもーはれゆくつきのーあかしかた
をかへのあきのーうらそさひしき

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

あかつき

暁

→後朝の袖

あかつきのーかねにあはれはーもよほされ
ひかへかねたるーきぬきぬのそて

【羽柴千句】／何船［ときはきも］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

あかつきのーつきもみにしむーたまくらに
つゆをかたみのーきぬきぬのそて

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

暁月

→時雨

あかつきつきはーきりにかくれて
さむしろのーつゆのいくたひーしくるらむ

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

あかつきつきはーわれのみもみし
あやにくにーあきのそらなとーしくるらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かけすすし］／延徳 4(1492) 年 6 月 1 日

暁の空

→草枕

わかるるかりやーあかつきのそら
にはとりの―こゑはきこえぬーくさまくら

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

みしゆめしたふーあかつきのそら
くさまくらーまたうきみちにーおきいてて

【行助関係４種】／行助句／伊地地本／

あき

秋風

→衣打つ

しもまよふーとほさとをのーあきかせに
たれをりはへてーころもうつらむ

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］／長享 2(1488) 年 7 月

ひまみゆるーねやのとほそのーあきかせに
たかしきたへのーころもうつらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［そよとしも］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 10 月 23 日

→庭の月影

しきたへのーころもてかれぬーあきかせに
くもまそひゆくーにはのつきかけ

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

あきかせにーつゆもたまらすーちるこすゑ
あらはになりぬーにはのつきかけ

【文明十四年万句５２巻】／何路［ぬしやたれ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→野辺の虫の音（のべのむしのね）

さとはあれてーうゑしまつふくーあきかせに
かきねのくさはーのへのむしのね

【葉守千句】／白何［こからしを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

すすしさをーもとむるそてのーあきかせに
いつれかいつれーのへのむしのね

【飯盛千句】／何人［くみわすれ］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

→初雁の声（はつかりのこえ）

あきかせにーいさよふほたるーほのかにて
いつのねさめかーはつかりのこゑ

【永正十花千句】／何木［ひかすたに］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

むさしのやーさすらへきぬるーあきかせに
みやこもさそなーはつかりのこゑ

【永正年間百韻３４巻】／山何［たちはなに］／永正 18(1521) 年 5 月 7 日

→松虫の声（まつむしのこえ）

したつゆもーくさかくれなきーあきかせに
しをれはなにかーまつむしのこゑ

【延徳年間百韻１６巻】／何路［うめかかの］／延徳 4(1492) 年 1 月 23 日

あちきなくーこぬひとうらむーあきかせに
なほふるさとのーまつむしのこゑ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

さとはあれてーひとこそとはねーあきのかせ
ゆふくれかなしーまつむしのこゑ

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

しもかれのーくすはにかはるーあきのかせ
かけはいつこのーまつむしのこゑ

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

→山の端の色（やまのはのいろ）

つきしろもーそらすみぬへきーあきかせに
しくれてとほるーやまのはのいろ

【元亀年間百韻６巻】／何人［とめゆけは］／元亀 3(1572) 年 9 月 28 日

あきかせにーそらゆくくもやーきえぬらむ
みるみるかはるーやまのはのいろ

【天正四年万句７０巻】／唐何［はなさけは］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→古里の夕べ（ふるさとのゆうべ）

かれをきまてもーあきかせのこゑ
ふるさとのーゆふへやつきをーまたすらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

まつあるかたのーあきかせのこゑ
ふるさとのーつゆのゆふへやーうかるらむ

【文明十四年万句５２巻】／夢想［たにみつの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→後朝の後（きぬぎぬのあと）

もろともにーきくさへかなしーあきのかせ
あさつゆおもへーきぬきぬのあと

【東山千句】／薄何［つゆをいろ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

ひとりねのーまくらわひしきーあきのかせ
つきにかさねしーきぬきぬのあと

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

→衣打つ声（ころもうつこえ）

あきのかせ－たけのはすさふ－そらふけて
ふしみをとほみ－ころもうつこゑ

【浅間千句】／何路［ゆくほたる］／永正11(1514)年5月13日～19日

すすしさも－つきまつほとの－あきのかせ
よひふけけらし－ころもうつこゑ

【永禄石山千句】／三字中略［こすゑまて］／永禄7(1564)年5月12日

→鴫の羽掻き（しぎのはねがき）

あきのかせ－みやこのゆめを－さそふよに
まくらさためぬ－しきのはねかき

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［かめにさす］／天文21(1552)年2月20日

かとたより－おとしてかよふ－あきのかせ
めさますいほの－しきのはねかき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［さきつかむ］／裏白／慶長19(1614)年1月3日

→露が零れる（つゆがこぼれる）

まつたかし－いほりのうへの－あきのかせ
くさのとほそは－つゆそこほるる

【文安月千句】／何人［おもかはり］／文安2(1445)年8月15日

いまいくよ－とははうつろふ－あきのかせ
たもとならはす－つゆそこほるる

【秋津洲千句】／山何［くもよまて］／天文15(1546)年8月25日

ふるさとの－ゆふへなりけり－あきのかせ
むしのねしけき－つゆそこほるる

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永4(1524)年3月23日

→舟から聞く浪が凄まじい（ふねからきくなみがすさまじい）

かけもやや－ゆふひをおくる－あきのかせ
ふねなからきく－なみはすさまし

【宗牧追善千句】／何路［のこるなは］／永禄4(1561)年9月14日・15日

ゆめかへる－かりねのとこの－あきのかせ
ふねにきくよの－なみはすさまし

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

ここよりや－たちていつみの－あきのかせ
てるみなつきの－ひくらしのこゑ

【浅間千句】／山何［ここよりや］／永正11(1514)年5月13日～19日

すすしさや－やすらふままの－あきのかせ
またかけのこる－ひくらしのこゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永3(1523)年3月23日

あつきひは－かけよわるつゆの－あきかせに
ころもてうすし－ひくらしのこゑ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［うすゆきに］／延徳3(1491)年10月20日

あきかせに－ひとむらさめの－そらはれて
やまちをゆけは－ひくらしのこゑ

【園塵第四／早稲田大学本】／秋／永正6、7年

→枕は何処（まくらはいずこ）

うたたねの－つきふけけれな－あきのかせ
まくらのいつこ－たかきむしのね

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永3(1523)年1月23日

よひよひの－そてにしらるる－あきのかせ
まくらのいつこ－ころもうつらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［とششなみの］／月並千二百韻／大永4(1524)年12月23日

→山の端の月（やまのはのつき）

あきのかせ－ほのしたをきの－よひふけて
ゆふへまたれし－やまのはのつき

【永禄年間百韻２８巻】／追善［まれにとふ］／永禄元(1558)年11月5日

たにかはにーほたるみたるるーあきのかせ
くもやへたてしーやまのはのつき

【天正年間百韻５７巻】／□□［なつやまは］／天正 17(1589) 年 4 月 26 日

→さ牡鹿の声

きけはまたーみねよりおつるーあきのかせ
みたるるこのはーさをしかのこゑ

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

いくたひかーまつにくすはのーあきのかせ
しくれにぬるるーさをしかのこゑ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→露のふる里

たちそめてーいくゆふくれのーあきのかせ
たひもさこそのーつゆのふるさと

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

をきのはにーきけはくもふくーあきのかせ
みやまににたるーつゆのふるさと

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

→一群薄

はなもなきーこはきかもとのーあきのかせ
ひとむらすすきーたれまねくらむ

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

つゆきえしーのはらにたちぬーあきのかせ
ひとむらすすきーひとのおもかけ

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

秋風が吹く

→鳴く蟋蟀

ここにすみけるーあきかせそふく
たれとなくーふりにしあとのーきりきりす

【伊勢千句】／何木［すめるよの］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

かれののあさちーあきかせそふく
くれぬれはーなくねもかはるーきりきりす

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

→露ふる

まきのいたまはーあきかせそふく
みのむしのーこゑあはれにもーつゆふりて

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

とへはののみやーあきかせそふく
かきりなくーそてのわかれちーつゆふりて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［ちれはいさ］／成立時不詳

→浅茅が原

さひしきものとーあきかせそふく
あさちはらーこころをそむるーつゆなから

【専順関係２種】／秋／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

つきはふけつつーあきかせそふく
あさちはらーむしのねよりもーわれなきて

【園塵第三／続群書類従本】／秋／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→花薄

とふかときけはーあきかせそふく
はなすすきーきみかうゑしやーしのふらむ

【文明年間百韻３４巻】／何路［あさなけに］／文明 8(1476) 年 1 月 11 日

むかしこひしきーあきかせそふく
ひとすまぬーをのへのみやのーはなすすき

【愚句老葉】／秋／永正 17 年

秋風の声

→影寂しい

やなきにたかきーあきかせのこゑ
かけさひしーかりなきわたるーゆふつくよ

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

このくれよりの－あきかせのこゑ
みにしみて－いくたのもりの－かけさひし

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

→身にしみる

なみたすすむる－あきかせのこゑ
ものおもへは－くものはたても－みにしみて

【難波田千句】／□□［あくるよを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

このくれよりの－あきかせのこゑ
みにしみて－いくたのもりの－かけさひし

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

秋が来る

→月出る

かせはをきふく－あきはきにけり
くれぬまは－またかけかくす－つきいてて

【永正十花千句】／何田［はなにこひ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

くものゆきかひ－あきはきにけり
あさかほに－そらさへみゆる－つきいてて

【享禄年間百韻８巻】／懐旧［ゆふたちの］／享禄 5(1532) 年 6 月 8 日

→萩咲く

をきのかせふく－あきはきにけり
つきかけも－いろなるつゆに－はきさきて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

なほふるさとの－あきはきにけり
うゑおきし－あさちましりに－はきさきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／秋／永正 6(1509) 年以前

→稲負鳥

やなきかけ－それともなしに－あきはきて
かせうちなひき－いなおほせとり

【宗長追善千句】／片何［やまさくら］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

しはのとの－こころもしらす－あきはきて
こひちをみする－いなおほせとり

【基佐集／静嘉堂文庫本】／雑／永正 6(1509) 年以前

秋草

→鳴く蟋蟀

よもきふに－あらぬはなある－あきのくさ
なくきりきりす－ねをなつくしそ

【文安月千句】／何田［ほしのなも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

こころとや－つゆをもうくる－あきのくさ
なくきりきりす－ものなおもひそ

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

秋来る

→蜩が鳴く

あききぬと－かせもおとはの－みねこえて
たきよりうへに－ひくらしそなく

【大永年間百韻１４巻】／何船［うめかかや］／大永 3(1523) 年 1 月 9 日

あききぬと－おもひそむるや－いろならむ
あめうちそそき－ひくらしそなく

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

秋寒い

→打つ麻衣

うらかれの－ささのいほりの－あきさむみ
たえやらすしも－うつあさころも

【五吟一日千句】／何垣［つきもなほ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

ねさめする－くさのいほりの－あきさむみ
つきのよるよる－うつあさころも

【元和年間百韻２４巻】／□□［やつかほの］／元和 6(1620) 年 8 月 23 日

秋時雨

→色付く

あきのしくれは－ぬるるまもなし
よなよなの－つきのこすゑはーいろつきて

【太神宮法楽千句】／何木［いつそめし］／長享 2(1488) 年 7 月

あきのしくれは－たけのはのおと
しつかすむ－かきほのまくすーいろつきて

【称名院追善千句】／初何［したふなよ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

秋近くなる（あきちかくなる）

→心細い花落ちる頃（こころぼそいはなおちるころ）

おほつかなーあきもやちかく－なりぬらむ
こころほそしなーはなおつるころ

【心敬関係１０種】／芝草内岩橋／本能寺本／

くれそうきーあきもやちかく－なりぬらむ
こころほそしなーはなおつるころ

【河越千句】／山何［うくひすに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

秋に時雨れる（あきにしぐれる）

→風に露が零れる（かぜにつゆがこぼれる）

あきのそらーたかあかつきも－しくるらむ
のきはのかせにーつゆそこほるる

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

あきさむきーはれてもまたやーしくるらむ
かせのたひたひーつゆそこほるる

【天文廿四年梅千句】／何袋［ふたあゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

秋の面影（あきのおもかげ）

→暮れの花薄（くれのはなすすき）

ととめおかはやーあきのおもかけ
ふゆくれはーつゆもかれのの－はなすすき

【園塵第四／早稲田大学本】／冬／永正 6、7 年

いろなるつゆや－あきのおもかけ
はなすすき－たかそてとなくーのはくれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／冬／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

秋の川風（あきのかわかぜ）

→霧わたる（きりわたる）

まよふやふなちーあきのかはかせ
きりわたるーやまもとつつきーかすかにて

【永正年間百韻３４巻】／何人［ゆふつくよ］／永正 13(1516) 年 7 月 8 日

なみにあけたつーあきのかはかせ
きりわたるーすゑののすすきーむらむらに

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

秋の暮れ方（あきのくれがた）

→初時雨（はつしぐれ）

やまかけすこきーあきのくれかた
ふるよりもーあとはみえけるーはつしくれ

【延徳年間百韻１６巻】／山何［ふきもこぬ］／延徳 2(1490) 年 9 月 20 日

をしまぬもやはーあきのくれかた
つゆはかり－さととひわふるーはつしくれ

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

秋の寂しさ（あきのさびしさ）

→朝霧（あさぎり）

ふるきみきりのーあきのさひしさ
あさきりにーのわきのこすゑーうちしをれ

【延徳年間百韻１６巻】／山何［ふきもこぬ］／延徳 2(1490) 年 9 月 20 日

みつもかれのの－あきのさひしさ
やまかつのーまへゆくさはのーあさきりに

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

→霧の内（きりのうち）

まつをとなりのーあきのさひしさ
ゆふまくれーさとなきやまの－きりのうち

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年 7 月

なにはあたりのーあきのさひしさ
いりあひのーこゑさへしめるーきりのうち

【元和年間百韻２４巻】／□□［はなになして］／元和 8(1622) 年 3 月 19 日

→夕まぐれ

わかものかほのーあきのさひしさ
たれもこそーなかめわふらめーゆふまくれ

【熊野千句】／何路［かさなるや］／文正元 (1466) 年 3 月以前

まつをとなりのーあきのさひしさ
ゆふまくれーさとなきやまのーきりのうち

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年 7 月

秋の沢水

→鳴鳴く

をふねさをさすーあきのさはみつ
やまかけのーとこさたまらぬーしきなきて

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

しはふかくれのーあきのさはみつ
ゆふまくれーきりふるつきにーしきなきて

【文安年間百韻９巻】／何人［なもしらぬ］／文安 4(1447) 年 8 月 19 日

秋の空

→月の夕暮れ

われそゆくーかりはこしちのーあきのそら
たましひかよふーつきのゆふくれ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路［しろたへの］／成立時不詳

とはれすはーみをいかにせむーあきのそら
たのめおきつる－つきのゆふくれ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／山何［ほとときす］／成立時不詳

秋の手枕

→花薄

かたはらさひしーあきのたまくら
ましるのの－くすはかれはのーはなすすき

【文亀年間百韻４巻】／何人［まつこえし］／文亀 3(1503) 年 4 月 29 日

つゆこそのこれーあきのたまくら
やまとほくーつきはいるのの－はなすすき

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

秋の月

→袖が露っぽい

きりはれてーかけすさましきーあきのつき
はらひもあへぬーそてのつゆけさ

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

しらしらとーすみかもりいるーあきのつき
むかしみさりしーそてのつゆけさ

【文明十四年万句５２巻】／花何［みたすなよ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

秋の初風

→月出る

にしよりむかふーあきのはつかせ
かみのますーかのをかきよくーつきいてて

【宝徳四年千句】／何船［いろそそふ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

あかつきしるきーあきのはつかせ
きよからむーかけほのめかすーつきいてて

【永正年間百韻３４巻】／何路［ひとはいさ］／永正 17(1520) 年 2 月 4 日

ふなちにおもふーあきのはつかせ
くまもなくーなきたるなみにーつきいてて

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

→残る暑さに端居する

ふくとしもなきーあきのはつかせ
ふくるまてーのこるあつさにーはしゐして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長 6(1601) 年 1 月 3 日

おともしつけきーあきのはつかせ
しはしたたーのこるあつさにーはしゐして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

→虫鳴く

たひたつそらもーあきのはつかせ
かへるさのーやまちいまはたーむしなきて

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

ふきつたへくるーあきのはつかせ
このさともーさなからのへのーむしなきて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何人［やまみつは］／成立時不詳

→誘う

こすゑよりこそーあきのはつかせ
ひくらしにーまつむしのねやーさそふらむ

【住吉千句】／白何［あられのみ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

またこぬくれのーあきのはつかせ
したはちるーやなきやかりをーさそふらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

→七夕

けふめつらしきーあきのはつかせ
たなはたのーいかにまちみしーくれならむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［うのはなの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 4 月 23 日

またそてぬらすーあきのはつかせ
たなはたのーまとほのうらみーいかはかり

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

→一葉より

たえたえなりしーあきのはつかせ
ひとはよりーのちはきことにーちるをみて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

このよをおもふーあきのはつかせ
ひとはよりーかろきはおいのーゆくへにて

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑下／文明 8(1476) 年 5 月頃

秋の蛍

→端居する袖冷ややか

あきのほたるのーほのかなるかけ
はしゐするーそてひややかにーつきいてて

【飯盛千句】／一字露顕［つきのこる］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

あきのほたるのーいつちきゆらむ
はしゐするーそてひややかにーあけはなれ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［こからしも］／慶長 3(1598) 年 10 月 19 日

秋の村雨

→露が憂い

うらつたひするーあきのむらさめ
ぬれとほるーわかたひころもーつゆもうし

【文安年間百韻９巻】／山何［はなはひも］／文安 5(1448) 年 2 月 5 日

やまのかけゆくーあきのむらさめ
ふりてすむーいほりののきのーつゆもうし

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

秋の山

→永久の布留宮

おもひにはーみわかぬものをーあきのやま
ひとはかけせぬーとはのふるみや

【文明十四年万句５２巻】／何人［やまいかに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

むしそなくーまことにこれそーあきのやま
みよやかくなるーとはのふるみや

【文明十四年万句５２巻】／何路［あさうみに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

秋の夜すがら

→寝られる

このはまたちる－あきのよすから
ねられめや－まくらにちかく－うつころも

【文安頃千句４巻】／朝何［すゑとほき］／

よひのまふくる－あきのよすから
ねられめや－のわきやまかせ－ふきそひて

【文明十五年千句１１巻】／二字返音［はなははの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

秋の夜長（あきのよなが）

→蟋蟀（きりぎりす）

はしゐにあかぬ－あきのよなかさ
ききすてて－たれかいをぬる－きりきりす

【大永年間百韻１４巻】／何人［つきやふね］／大永 2(1522) 年 8 月

おもひをつくす－あきのよなかさ
きりきりす－なれかなくねに－まけむやは

【弘治年間百韻８巻】／何人［うめひとき］／裏白／弘治 3(1557) 年 1 月 3 日

秋の夜な夜な（あきのよなよな）

→草枕（くさまくら）

つきまつころの－あきのよなよな
ふるさとも－さそなつゆけき－くさまくら

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［しかそなく］／天文 24(1555) 年 9 月 19 日

おもひをそふる－あきのよなよな
ゆめにわれ－みゆらむものを－くさまくら

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

秋の夜の月（あきのよのつき）

→身にしみる（みにしみる）

ひとのかたみの－あきのよのつき
しもまよふ－かれののすすき－みにしみて

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

あくかれてゆく－あきのよのつき
ものおもふ－みちののかせは－みにしみて

【諸尊法紙背３巻】／手何［むすふにも］／建武 4(1337) 年 6 月 23 日

→野分する（のわきする）

あさちかやとを－あきのよのつき
かこはれし－つゆのたよりも－のわきして

【文亀年間百韻４巻】／何人［きえしよの］／文亀 2(1502) 年 8 月 6 日

むくらかおくの－あきのよのつき
いつこにも－さはるかけなく－のわきして

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

秋更ける（あきふける）

→木々の下露（きぎのしたつゆ）

かせわたる－あさちかすゑも－あきふけて
いろつきそむる－ききのしたつゆ

【出陣千句】／朝何［きりもやは］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

やまとほき－いそのまつかせ－あきふけて
しくれはのこる－ききのしたつゆ

【至徳以前百韻７巻】／何所［ちりぬるか］／至徳 4(1387) 年以前

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

みねたかみ－へたつるつきの－あきふけて
つまやいつくの－さをしかのこゑ

【宗長追善千句】／白何［みしやいつ］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

はやたより－おしねもるまて－あきふけて
あらしにかよふ－さをしかのこゑ

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

→弱る虫の音（よわるむしのね）

はなすすき－かれゆくしもに－あきふけて
のにはおしなひ－よわるむしのね

【顕証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

たひはまた－はるけきみちに－あきふけて
わくるくさはに－よわるむしのね

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

→衣打つ音

あきやいまーこからしふきてーふけぬらむ
のこるかたなくーころもうつおと

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

くさまくらーうかれとあきやーふけぬらむ
みにしむかせにーころもうつおと

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［つきをかせ］／文明 12(1480) 年 8 月

→有明の月

ひとはたたーかりにたにこぬーあきふけて
うらみにむかふーありあけのつき

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ゆふつゆにーやとかすかののーあきふけて
こむよもてらせーありあけのつき

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

秋更け渡る

→雁鳴く

あきふけわたるーきりのうみつら
ゆふなみのーまつのはこしにーかりなきて

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

あきふけわたるーつきのむらくも
かりなきてーよはいねかてのーたまくらに

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

憂い秋

→植えないなら聞かない荻の上風

うきことはーこころにたえぬーあきなるに
うゑすはきかしーをきのうはかせ

【文和千句】／何人［なはたかく］／文和 5 年

うきことも－われとしるへきーあきなるに
うゑすはきかしーをきのうはかせ

【菟玖波集／広島大学本】／雑一／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

梢の秋

→鹿の声

こすゑのあきのーをちのひとむら
しかのこゑーきりのいつくにーかへるらむ

【大永年間百韻１４巻】／山何［いやましに］／大永 5(1525) 年 1 月 17 日

こすゑのあきのーかけあさきみち
なれきつるーさととほくなるーしかのこゑ

【弘治年間百韻８巻】／何路［ゆくみつや］／弘治 2(1556) 年 3 月 24 日

凄い秋風

→野の一つ松

とふかひなしやーすこきあきかせ
くれぬとてーかけたのむののーひとつまつ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

ふきとしふくはーすこきあきかせ
かるるのの－ひともとすすきーひとつまつ

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

涼しさに秋立つ

→蜩の声

すすしくもーゆふひのくもにーあきたちて
こすゑしらるるーひくらしのこゑ

【永禄元年花千句】／□□［あたりまて］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

すすしさのーけふよりしるきーあきたちて
やまはくもまのーひくらしのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

ただ秋の風

→雁鳴く

たのめしあとはーたたあきのかせ
ひとふてのーたよりをまてはーかりなきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［まつかせや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 6 月 23 日

をののゆふへはーたたあきのかせ
のこるひもーいろこきいねにーかりなきて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

遠山の秋（とおやまのあき）

→紀伊海（きのうみ）

いまつきにみるーとほやまのあき
きのうみやーふねをきりまにーこきいたし

【文明十四年万句５２巻】／何木［すゑのつゆ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

なかめわひぬるーとほやまのあき
きのうみやーたまつしままつーきりこめて

【専順関係２種】／秋／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

初風と昨日は聞いて秋更ける（はつかぜときのうはきいてあきふける）

→人は残らない紅葉（ひとはのこらないもみじ）

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもろきもみちは

【三島千句】／何人［しるしらす］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもみちちるかけ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

春秋の色（はるあきのいろ）

→移ろう（うつろう）

みしはしはしのーはるあきのいろ
やまふきのーつゆはもみちにーうつろひて

【美濃千句】／何馬［まつやしる］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

けにはかなしやーはるあきのいろ
ひとはたたーときなるかたにーうつろひて

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

吹く風に秋の露（ふくかぜのあきのつゆ）

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

かせはまたーふかぬになつもーあきのつゆ
せみにましるやーひくらしのこゑ

【平松文庫本千句】／□□［なてしこの］／

まつにふくーかせのしたはのーあきのつゆ
またかけうすきーひくらしのこゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［しくれのあめ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 10 月 23 日

古里の秋（ふるさとのあき）

→形見（かたみ）

とへはなみたのーふるさとのあき
つきをのみ－ここらみしよのーかたみにて

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

いつかへりこむーふるさとのあき
わすれしのーつきのみひとのーかたみにて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

峰の秋風（みねのあきかぜ）

→雁鳴く（かりなく）

つきさやかなる－みねのあきかせ
かきつらね－みたれぬくもにーかりなきて

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

たもとふきすくーみねのあきかせ
さよころも－よさむのつきにーかりなきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

夜半の秋風（よわのあきかぜ）

→草枕（くさまくら）

すからにさひしーよはのあきかせ
あくるまのーはなのにおそきーくさまくら

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

すすしさおくるーよはのあきかせ
くさまくらーしきもさためぬーいろにして

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

あく

飽きない琴の音（あきないことのね）

→松風の月（まつかぜのつき）

なほゆふかけにーあかぬことのね
まつかせの―さそははつきはーおそからし

【秋津洲千句】／何路［まつなくを］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

あまたのうちにーあかぬことのね
まつかせのーふきすさひたるーよはのつき

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

あけぼの

曙の雲（あけぼののくも）

→後朝の面影をしたう（きぬぎぬのおもかげをしたう）

なつものこらぬーあけぼののくも
きぬきぬの―おもかけをなほーしたひわひ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ちりうせぬ］／天正 17(1589) 年 4 月 2 日

ひきすてにたるーあけぼののくも
きぬきぬのーおもかけしたふーさよまくら

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめかえや］／文禄 4(1595) 年 7 月 21 日

曙の空（あけぼののそら）

→別れを急ぐ（わかれをいそぐ）

よこくものこるーあけぼののそら
うたてなとーとてものわかれーいそくらむ

【応永年間百韻７巻】／何路［やまみつの］／応永 15(1408) 年 3 月 11 日

うちかすみたるーあけぼののそら
いつくにとーわかれをさてもーいそくらむ

【文明十四年万句５２巻】／夢想［たにみつの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→消えない（きえない）

なほなかきよのーあけぼののそら
すさましくーくものひとむらーきえやらて

【難波田千句】／□□［にしきにて］／文明 14(1482) 年 10 月前後

やまこそわかねーあけぼののそら
しらゆきは―かさなるみねにーきえやらて

【永正年間百韻３４巻】／白何［さみたれや］／千句第五／永正 15(1518) 年 5 月 14 日

→鐘鳴る（かねなる）

いりえのつきにーあけぼののそら
やまこゆるーかりかねまかふーかねなりて

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年 8 月 14 日

さくらかうへのーあけぼののそら
かすみよりーよしののみたけーかねなりて

【萱草／伊地知本】／春／文明 6(1474) 年 2 月以前

さくらかうへのーあけぼののそら
かすみよりーよしののみたけーかねなりて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

曙の山（あけぼののやま）

→鶯（うぐいす）

はるなりけりなーあけぼののやま
うくひすのーなかすはこそのーゆきのうち

【文明年間百韻３４巻】／何船［そめよなほ］／文明 14(1482) 年 9 月 20 日

さくらにねぬるーあけぼののやま
うくひすのーのへのあるしのーくさまくら

【大永年間百韻１４巻】／何路［はままつの］／大永 4(1524) 年 5 月 1 日

→なる

こよひのつきの－あけほののやま
あきさむし－ふなちいくかに－なりぬらむ

【文安雪千句】／何田［あとそある］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

くものあとなる－あけほののやま
みしはなや－たひねのゆめに－なりぬらむ

【親当関係２種】／親当句集／赤木文庫本／

→時鳥

いくへかすみの－あけほののやま
とひすつる－はるのまくらの－ほととぎす

【嵯峨千句】／三字中略［まつはなの］／（元亀4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

くものほかなる－あけほののやま
ほととぎす－ききあへぬそらに－つきおちて

【萱草／伊地知本】／夏／文明 6(1474) 年 2 月以前

→横雲

ふるさとさひし－あけほののやま
よこくもに－をちかたひとや－わかるらむ

【老葉／毛利本】／恋上／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

かせもかすみも－あけほののやま
よこくもに－まほのふねゆく－なみのうへ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

露の曙（つゆのあけぼの）

→草枕

いたつらふしの－つゆのあけほの
くさまくら－あきふくかせに－ゆめもみす

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［まつかせは］／成立時不詳

さくらかうへの－つゆのあけほの
くさまくら－はるのかりねの－すきかてに

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

庭の曙（にわのあけぼの）

→秋の水

つきはかりある－にはのあけほの
きりはれて－いけすみわたる－あきのみつ

【文安雪千句】／朝何［ゆきさそへ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

のわきしつけき－にはのあけほの
あきのみつ－そらにかなるる－つきをみて

【文明十四年万句５２巻】／何桶［はなとつゆ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

野辺の曙（のべのあけぼの）

→鶯の声

ことしともなき－のへのあけほの
うくひすの－こゑはかりして－ふかきよに

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年 7 月

ゆきとけそむる－のへのあけほの
うくひすの－こゑにちさとの－はるたちて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［まつやなほ］／裏白／慶長 10(1605) 年 1 月 3 日

春の曙（はるのあけぼの）

→鶯

おくつゆふかき－はるのあけほの
うくひすの－つはさにのこる－ゆきおちて

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

いまいくかかは－はるのあけほの
うくひすの－かへるふるすや－たとるらむ

【至徳以前百韻７巻】／ｘｘ［はなちりて］／存疑／至徳 4(1387) 年以前

こころつくしの－はるのあけほの
うくひすの－こゑにまくらを－そはたてて

【天正四年万句７０巻】／何物［きくやいかに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→霞む夜

こころにとまるーはるのあけほの
かすむよのーつきをなこりのーかりなきて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応4(1495) 年 9 月 26 日

はなにほひくるーはるのあけほの
かすむよのーともしひうすきーまとにねて

【宗祇関係 2 種】／心敬専順点宗祇付句／

→霞む

よをものこさぬーはるのあけほの
つきそなきーむかふうちにやーかすむらむ

【成立不詳・宗長以前 1 5 巻】／□□［またもなき］／成立時不詳

ふるきみやこのーはるのあけほの
ひさかたのーつきのいくよかーかすむらむ

【下草／龍谷大学本】／春／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

春は曙（はるはあけぼの）

→横雲

かすみはゆふへーはるはあけほの
よこくもにーよるのうすゆきーきえやらて

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

いつはありともーはるはあけほの
のこるかとーゆめをもたとるーよこくもに

【永正年間百韻 3 4 巻】／何人［みやまきに］／永正 14(1517) 年 3 月 22 日

雪の曙（ゆきのあけぼの）

→山高い

すきむらうすきーゆきのあけほの
やまたかみーよるのあらしやーよわるらむ

【難波田千句】／□□［ゆくはるに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

ふしにはれたるーゆきのあけほの
つくりてはーおとろくにはのーやまたかみ

【東山千句】／下何［てるつきに］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

あける

明け方の空（あけがたのそら）

→月は猶（つきはなお）

あめすくるよのーあけかたのそら
つきはなほーおちてすすしきーたまくらに

【明応年間百韻 2 2 巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

いそのまくらのーあけかたのそら
つきはなほーかたふくままにーかけすみて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるはたた］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年閏 3 月 23 日

明け果てる（あけはてる）

→如何なる（いかなる）

あけはつるまてーいねかてにして
おもふことーかすはふみにもーいかならむ

【宮島千句】／白何［ゆふへより］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

あけはつるまてーゆめはみえこす
わするなよーわすれはせしもーいかならむ

【元亀年間百韻 6 巻】／何人［あきかせの］／元亀 3(1572) 年 7 月 13 日

明け離れる（あけはなれる）

→雁が鳴き交わす空（かりがなきかわすそら）

たえたえにーをちのかはきりーあけはなれ
おりゐるかりのーなきかはすそら

【称名院追善千句】／白何［かねのこゑ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

つきにしもーしたふわかれのーあけはなれ
たのものかりのーなきかはすそら

【天正年間百韻 5 7 巻】／□□［いるそてに］／天正 18(1590) 年 1 月 7 日

明けやすい月（あけやすいつき）

→逢う後朝は憂い（あうきぬぎぬはうい）

あけやすきーつきのゆくへのーをしまれて
まれにあふよのーきぬきぬはうし

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

あけやすきーつきのかりふしーおきいてて
あふひとからのーきぬきぬはうし

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年 8 月 14 日

明ける（あける）

→仮寝の野辺（かりねののべ）

うくひすのーこゑするつきやーあけぬらむ
かりねののへのーゆめのゆくすゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

やまさむみーいくしくれしてーあけぬらむ
かりねののへのーつきのこるそら

【弘治年間百韻８巻】／何船［にほへうめ］／弘治元 (1556) 年 11 月 20 日

朝明け静か（あさけしずか）

→玉簾（たますだれ）

あさけしつかにーかせわたるみゆ
ともしひのーかけはよふかきーたますたれ

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

あさけしつかにーきぬるうくひす
たますたれーまけはそとものーうちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほととぎす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

玉簾あける（たますだれあける）

→月のさ筵（つきのさむしろ）

たますたれーひまひまみえてーあくるよに
しもにかけさすーつきのさむしろ

【石山四吟千句】／玉何［こゑやまつ］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日〜19 日

たますたれーあくるまつまのーなかめして
くもりかちなるーつきのさむしろ

【永正年間百韻３４巻】／何船［あきはそてに］／永正 10(1513) 年 7 月 29 日

雪の朝明け（ゆきのあさあけ）

→薄霞（うすがすみ）

なかめにしかしーゆきのあさあけ
ふもとまてーこしのたかねのーうすかすみ

【文明十四年万句５２巻】／一字露顕［ちあきふる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

たつはるしるきーゆきのあさあけ
やまはまたーこそのままなるーうすかすみ

【論書４種】／宗長／

夜が明ける（よがあける）

→月残る（つきのこる）

あふちさく―やとのとくちにーよはあけて
かせふくそともーつきそのこれる

【伊予千句】／何路［さみたれの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

たひひとのーともをいさなふーよはあけて
あまのとやまのーつきそのこれる

【長禄三年千句１１巻】／何舟［しほかれて］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日〜5 日

あさ

朝霞（あさがすみ）

→雲に有明の月（くもにありあけのつき）

たなひけはーはやきえそむるーあさかすみ
よこくもをしきーありあけのつき

【飯盛千句】／何船［ありあけや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日〜29 日

やまはかりーなほふるゆきのーあさかすみ
こほりはくもにーありあけのつき

【至徳以前百韻７巻】／何人［けふいくか］／千句第五／永徳 2(1382) 年 1 月 22 日

かせゆるくーふきくるのへのーあさかすみ
くもゐにのこるーありあけのつき

【文明十五年千句１１巻】／何舟［かけたかし］／文明 15(1483) 年＊月＊日〜3 月 2 日

→鶯の声（うぐいすのこえ）

かはかみのーあめになるへきーあさかすみ
たにのといつるーうくひすのこゑ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あめはれて］／応永 30(1423) 年 5 月 25 日

あさかすみーひとよのほとにーはるめきて
こころをさそふーうくひすのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

→月が残る（つきがのこる）

あさかすみーうちいつるみつにーはれそめて
ふなちをとほみーつきそのこれる

【文明年間百韻３４巻】／何人［きえねよし］／文明 14(1482) 年 2 月 2 日

あさかすみーのとかなるのにーうちいてて
たひゆくそてにーつきそのこれる

【文明十二年千句８巻】／何人［ひとはさへ］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

→残る月影（のこるつきかげ）

かりのなくーしほひのうらのーあさかすみ
なみにうかひてーのこるつきかけ

【諸尊法紙背３巻】／旧何［あきまてと］／建武 4(1337) 年 6 月 29 日

あさかすみーのにもやまにもーいろはえて
ゆくそらとほしーのこるつきかけ

【文明年間百韻３４巻】／何木［うめかかを］／文明 15(1483) 年 2 月 19 日

朝来る鶯（あさくるうぐいす）

→玉簾（たますだれ）

あさけしつかにーきぬるうくひす
たますたれ―まけはそとものーうちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほととぎす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

あさとあくれはーきぬるうくひす
たますたれーひま□のとかにーひのさして

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

朝明け静か（あさけしずか）

→玉簾（たますだれ）

あさけしつかにーかせわたるみゆ
ともしひのーかけはよふかきーたますたれ

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

あさけしつかにーきぬるうくひす
たますたれ―まけはそとものーうちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほととぎす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

朝日影（あさひかげ）

→海人の釣舟（あまのつりぶね）

をちかたのーまつにいさよふーあさひかけ
さしてそいつるーあまのつりふね

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

あさひかけーみつにみるみるーうつろひて
ゆふしほまてのーあまのつりふね

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

朝ぼらけ（あさぼらけ）

→有明の月（ありあけのつき）

とりそなくーしもよののちのーあさほらけ
のこりてしろきーありあけのつき

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［つきをかせ］／文明 12(1480) 年 8 月

かれのにはーしくるるゆきのーあさほらけ
くもまにうすきーありあけのつき

【文明十四年万句５２巻】／栗何［あけてみむ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→雁の鳴く声（かりのなくこえ）

あさほらけーつきのよふねのーとほくきて
きけはあしまにーかりのなくこゑ

【文明十四年万句５２巻】／唐何［はなあはせ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

あきかせにーくもたちまよふーあさほらけ
たのもにちかくーかりのなくこゑ

【文明十四年万句５２巻】／何国［ほととぎす］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→慕う別れ路

なかむれはーことのはもなきーあさほらけ
かとまていててーしたふわかれち

【文明十四年万句５２巻】／何田［ゆくみつの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

いととさへーこころうかるるーあさほらけ
たもとをひかへーしたふわかれち

【天正四年万句７０巻】／何路［ちりとのみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→海人の釣舟

つきはなほーやすらふはるのーあさほらけ
うらかくれゆくーあまのつりふね

【葉守千句】／何人［われもとて］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

わすれめやーなにはのゆふへーあさほらけ
なとまよふらむーあまのつりふね

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

→帰る雁

かすみさへーいろつくはなのーあさほらけ
かすはいくつそーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永 19(1412) 年 1 月 14 日

あさほらけーかすみをわけてーふくかせに
をふねいつれはーかへるかりかね

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→何に譬えよう

なにはかたーおほろのつきのーあさほらけ
みやこのけしきーなににたとへむ

【応永年間百韻７巻】／山何［ゆきはけふ］／応永 30(1423) 年 11 月 13 日

うすきりにーうかへるふねのーあさほらけ
あきのあはれをーなににたとへむ

【論書４種】／宗長／

朝まだき

→道の遥けさ

きえぬるかーしもうすくもるーあさまたき
おきいててゆくーみちのはるけさ

【河越千句】／薄何［はるもきて］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

いちのともーいそくやあきのーあさまたき
きりのへたてのーみちのはるけさ

【元和年間百韻２４巻】／□□［とししとしに］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

朝

→春風が緩い

よもはなにーいこまのやまのーあしたかな
はるかせゆるくーわたるなにはえ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［よもはなに］／寛文 12(1672) 年 3 月 16 日

はなのかにーゆきものこれるーあしたかな
はるかせゆるくーかすむとほやま

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正 6、7 年

風と朝霞

→出る日影

あさかすみーふきとくかせのーなほさえて
いつるひかけのーとりのさへつり

【享徳二年千句】／何木［はきにつゆ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

かせたえてーはるのよしるしーあさかすみ
いつるひかけのーおそきやまのは

【天正四年万句７０巻】／三字中略［かせたえて］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

今朝の初雪

→冴え冴える

ふるきいほりのーけさのはつゆき
おきゐつつーしはたくよはのーさえさえて

【寛正年間百韻２０巻】／何人［けふこすは］／寛正 3(1462) 年 2 月 27 日

むらむらのこるーけさのはつゆき
ふきたゆむーかせもしはしはーさえさえて

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

→埋火

やまのはまてのーけさのはつゆき
うつみひにーよるのあらしやーかへるらむ

【下草／東山御文庫本】／冬／明応 5(1496) 年 11 月 18 日

ふゆともしらしーけさのはつゆき
うつみひにーさむさわすれしーとをあけて

【園塵第四／早稲田大学本】／冬／永正 6、7 年

雪の朝明け

→薄霞

なかめにしかしーゆきのあさあけ
ふもとまでーこしのたかねのーうすかすみ

【文明十四年万句５２巻】／一字露顕［ちあきふる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

たつはるしるき－ゆきのあさあけ
やまはまたーこそのままなるーうすかすみ

【論書４種】／宗長／

あさがお

朝顔の色

→野分する

はかなさみするーあさかほのいろ
ひきかこふーまかきたわわにーのわきして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ひめおきし］／慶長 4(1599) 年 3 月 25 日

しはしはかりのーあさかほのいろ
たけなひくーそのふのうちもーのわきして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［したもえに］／慶長 6(1601) 年 1 月 29 日

朝顔の花

→松虫の声

あさかほのーはなに□□□のーうちみたれ
すすきかもとはーまつむしのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

あさかほのーはなをみるからーなみたおち
つひにはかれむーまつむしのこゑ

【文明十四年万句５２巻】／何路［あさうみに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

萎む朝顔

→人も見る

まかきのもとにーしほむあさかほ
あきのひにーにたるあはれをーひともみよ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［またもなき］／成立時不詳

あきよりしもにーしほむあさかほ
てなれぬるーあふきのうへをーひともみよ

【集百句之連歌／天理本】／集百句之連歌／不明

園の朝顔

→光りさえ隔たる

うつろひやらぬーそののあさかほ
ひかりさへーかこふあたりはーへたたりて

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

さきそめけりなーそののあさかほ
ひかりさへーきりのまかきにーへたたりて

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

あさの

麻の狭衣（あさのさごろも）

→山賤（やまがつ）

たけのはわくるーあさのさころも
やまかつのーつまきのはやしーふゆかれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

うつつちたかきーあさのさころも
やまかつのーそはのふるみちーあとみえて

【論書４種】／宗牧／

あさのごろも

麻衣打つ（あさごろもうつ）

→人は訪い来ない（ひとはといこない）

うらみをもーうちそへかましーあさころも
あさましきまてーひとはとひこす

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／山何［めつらしき］／成立時不詳

あさころもーうつなるこゑのーふくるよに
かはるこころかーひとはとひこす

【文明十四年万句５２巻】／何緑［あさかはや］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

あし

葦火焚く影（あしびたくかげ）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

おなしみなとのーあしひたくかけ
うちみたれーくるるかたよりーとふほたる

【天正年間百韻５７巻】／山何［あをやきの］／天正 3(1575) 年 2 月 2 日

はなれこしまにーあしひたくかけ
とふほたるーゆくかたもなくーさよふけて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

あじけない

味気ない世（あじけないよ）

→頼み置く（たのみおく）

わかきもしらすーあちきなのよや
あととへとーたのめおきてもーいかならむ

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

なれこしとしもーあちきなのよや
しかはかりーたのめおきてもーわするらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［うくひすの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 2 月 23 日

あたらしい

新手枕（にいたまくら）

→恥交わす（はじかわす）

にひたまくらはーゆめかうつつか
はちかはすーなかこそのちはーしのはれめ

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

にひたまくらはーあくるたひたひ
はちかはすーこころふかさをーうらみわひ

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

あだ

徒と掛かり来る（あだとかかりくる）

→玉の緒の末（たまのおのすえ）

あたなりとーおもひなからもーかかりきて
いのらはちよもーたまのをのすゑ

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

ちかひたたーあたしよなからーかかりきて
ひとひひとひのーたまのをのすゑ

【弘治年間百韻８巻】／何人［ときはなる］／弘治 3(1557) 年 8 月 28 日

げにもあだしむ
げにも徒しむ

→百年

こてふのたとへーけにもあたしみ
ももとせもーすくれはかりのーいのちにて

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

こてふのたとへーけにもあたしみ
ももとせもーちかつくよはひーおもはす□

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ゆきにみて］／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

あと

あおばのはなのあと
青葉の花の後

→掛かる藤浪

まつならてーあをはのゆきやーはなのあと
ことときのかたにーかかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

をしめともーあをはになりぬーはなのあと
まつにことさらーかかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

あとをだにとう
後をだに訪う

→雪と花の陰

またれしものを―あとをたにとへ
やまさとのーゆきをかきりのーはなのかけ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

あすやはあらむーあとをたにとへ
ゆきそふるーそれもきえなむーはなのかけ

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

あめすぎたあとのしずけさ
雨過ぎた後の静けさ

→山の端

あめふりはるるーあとのしつけさ
きえやらてーくもはかせまつーやまのはに

【永原千句】／何船［はるのそらは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

さみたれすくるーあとのしつけさ
くもきえてーつきたちのほるーやまのはに

【下草／金子本】／雑上／延徳 4(1492) 年頃

いにしえのあと
古の後

→なる

たたみつくきのーいにしへのあと
をかのへのーみちやのなかにーなりぬらむ

【文安年間百韻９巻】／何路［つききよし］／文安 4(1447) 年 8 月 15 日

かすむはかりのーいにしへのあと
いつのちりーつもりてやまとーなりぬらむ

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

うしろのやま
後ろの山

→南は長閑

うしろのやまのーかせのはけしさ
たひのそらーみなみにゆけはーのとかにて

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

うしろのやまのーあらしこからし
ふゆのひもーみねのみなみはーのとかにて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

きぬぎぬのあと
後朝の後

→形見

ひとりうちぬるーきぬきぬのあと
なみたのみーひかたきそてのーかたみにて

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

おもかけとまれーきぬきぬのあと
たまくらをーおのかものなるーかたみにて

【集百句之連歌／天理本】／集百句之連歌／不明

なみたにむかふーきぬきぬのあと
なくさめぬーものからつきをーかたみにて

【老葉／吉川本】／恋下／文明 13(1481) 年夏頃

くもどりのあと
雲鳥の跡

→綾織る水(あやおるみず)

ゆくかたきゆるーくもとりのあと
かけあをくーあやおるみつのーかすむひに

【天正四年万句７０巻】／何物［きくやいかに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

かへるはいつこーくもとりのあと
かすみつつーあやおるみつのーしろきのに

【老葉／吉川本】／春／文明 13(1481) 年夏頃

さみだれのあと
五月雨の後

→軒端傾く(のきばかたむく)

なみはなきぬるーさみたれのあと
あしのやのーのきはまはらにーかたふきて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［しつけさの］／裏白／寛永 10(1633) 年 1 月 3 日

あやめなかるるーさみたれのあと
ふるさとのーのきはにはまてーかたふきて

【園塵第二／続群書類従本】／雑／明応 4(1495) 年早春

のちのよのみち
後の世の道

→大和歌(やまとうた)

いかさまならむーのちのよのみち
かすかすにーかはりもてきぬーやまとうた

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［ちりしえぬ］／成立時不詳

くらきそうらみーのちのよのみち
たとたとしーこれよりさきのーやまとうた

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ｂ／

のわきのあと
野分の後

→虫の声(むしのこえ)

のわきのあとのーまつのつれなさ
なきたゆるーなかにゆふへのーむしのこゑ

【平松文庫本千句】／□□［なきてたつ］／

のわきのあとのーくれわたるには
ほのかにもーなきこそいつれーむしのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるさめも］／慶長 9(1604) 年 10 月 6 日

はるよりのち
春より後

→長き日(ながきひ)

はるよりのちのーうくひすのこゑ
おくらすもーつれつれはなほーなかきひに

【嵯峨千句】／花之何［うめかかは］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日〜11 日

はるよりのちのーとももこそあれ
たかさこやーむかしいまはのーなかきひに

【天正四年万句７０巻】／薄何［はつかりの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

ふでのあと
筆の跡

→霞む朱のそほ舟(かすむあけのそほぶね)

たをりくるーさくらのみかはーふてのあと
かすみにくたすーあけのそほふね

【天文廿四年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

くらへみよーこすゑのはなにーふてのあと
かすむみきりのーあけのそほふね

【毛利千句】／白何［うすゆきの］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

むらさめのはれゆくあとはあらし
村雨の晴れゆく後は嵐

→日に渡る舟の寒さ(ひにわたるふねのさむさ)

むらさめのーはれゆくあとはーふくあらし
ゆふひにわたるーふねのさむけさ

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

むらさめのーはれゆくあとはーゆふあらし
いりひをわたるーふねのさむけさ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

ゆうだちのあと
夕立の後

→急ぐ

ひはまたのこるーゆふたちのあと
こぬあきをーひくらしのねやーいそくらむ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［よつのとき］／裏白／慶長 18(1613) 年 1 月 3 日

いつるひきよきーゆふたちのあと
□□□をもーくれぬ□□とやーいそくらむ

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→雲の途絶えにほのめく

ひととほりせしーゆふたちのあと
ひのかけはーくものとたえにーほのめきて

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

ふりめくりたるーゆふたちのあと
むらくものーたえまのひかりーほのめきて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長 6(1601) 年 1 月 3 日

別れ路の跡

→面影

あくかれいつるーわかれちのあと
おもかけにーわかたましひやーつれぬらむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

くもこそかたみーわかれちのあと
ゆふへにはーあめともなれるーおもかけに

【難波田千句】／□□［にしきにて］／文明 14(1482) 年 10 月前後

あま

海人小舟

→荒磯の浪

うらかけてーはるかによるのーあまをふね
もしほひさひしーあらいそのなみ

【永正年間百韻３４巻】／何船［かへるかり］／永正 16(1519) 年 2 月 19 日

あけくれをーうきてのみこそーあまをふね
よるとかへるとーあらいそのなみ

【大永年間百韻１４巻】／山何［いやましに］／大永 5(1525) 年 1 月 17 日

→わづかに見える沖の島

なみのうへにーなかきひくらすーあまをふね
わつかにみゆるーおきつしまやま

【池田千句】／何人［はるのはな］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

ゆふくれはーつりにといつるーあまをふね
わつかにみゆるーおきのとほしま

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

海人の釣舟

→朝ぼらけ

はなれこしまにーあまのつりふね
うなはらやーくももはれたるーあさほらけ

【聖廟千句】／何船［ねにそなく］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

うらつたひするーあまのつりふね
やまかすむーみきはのまつのーあさほらけ

【天正四年万句７０巻】／何衣［うのはなの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→浪に時雨れる

おきにかかれるーあまのつりふね
そことしもーなみにいりひやーしくるらむ

【宮島千句】／何木［ほかにやは］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

ゆふへにいてしーあまのつりふね
たかさとのーうらわのなみにーしくるらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→松立てる

かつかつうかふーあまのつりふね
まつたてるーいそのかくれやーさとならむ

【成立不詳・宗養以前８巻】／山何［ひとこゑや］／成立時不詳

はるともしらしーあまのつりふね
まつたてるーかけにふちえのーうらさひて

【老葉／毛利本】／雑上／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

あまた

数あまた

→如何ばかり

かすをあまたのーふみもはかなし
いかはかりーさてもあたなるーひとならむ

【永正十花千句】／唐何［いろきえぬ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

かすをあまたのーおもひくるしも
をくるまのーしちのはしかきーいかはかり

【天正四年万句７０巻】／何田［しかのねは］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

あまひこ

天彦の声

→時鳥

いふことおくるーあまひこのこゑ
ほととぎすーなくとつくるを－なへてきけ

【宝徳四年千句】／何鳥［あくるよは］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

たれかこたへそーあまひこのこゑ
ほととぎすーまたきくもりをーすきやらて

【享徳二年千句】／何木［はきにつゆ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

あめ

雨霞む暮れ

→春風

まさるみきはやーあめかすむくれ
はるかせのーふねのはつきもーくちけらし

【天正年間百韻５７巻】／何船［あをやきは］／天正 13(1585) 年 1 月 28 日

をのへのくもにーあめかすむくれ
はるかせのーよわるにとほきーかねのこゑ

【永正年間百韻１巻】／何人［こゑとほく］／永正元 (1505) 年 12 月 10 日

→時鳥

ふるのをとほみーあめかすむくれ
さたかにも－いつかはなかむーほととぎす

【永原千句】／何木［おとそなき］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

ふちかをりつつーあめかすむくれ
はつこゑやーやよひなからのーほととぎす

【平松文庫本千句】／□□［おちはして］／

雨がふる

→三輪崎

やとりもかなやーあめそふりくる
うちくもりーいりひをすゑにーみわかさき

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

はつせのかはへーあめそふりくる
みわかさき－おつるあらしのーのをすきて

【専順関係２種】／雑／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

雨過ぎた後の静けさ

→山の端

あめふりはるるーあとのしつけさ
きえやらてーくもはかせまつーやまのはに

【永原千句】／何船［はるのそらは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

さみたれすくるーあとのしつけさ
くもきえてーつきたちのほるーやまのはに

【下草／金子本】／雑上／延徳 4(1492) 年頃

雨の内

→山時鳥

つれつれはーなほまさりゆくーあめのうち
おとつれすてしーやまほととぎす

【元和年間百韻２４巻】／□□［としとしに］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

しつかにとーうちかたらへるーあめのうち
くもゐるまとの－やまほととぎす

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

雨の暮れ（あめのくれ）

→山時鳥（やまほととぎす）

あめのくれーあしたのくもにーうかれきて
はつねをきくやーやまほととぎす

【天正四年万句７０巻】／白何［はつはるや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

われそすむーみねのいほりのーあめのくれ
やまほととぎすーおとつれてゆけ

【新撰菟玖波集／実隆本】／夏／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

雨残る空（あめのこるそら）

→時鳥（ほととぎす）

てるひもなつのーあめのこるそら
ほととぎすーゆくゆくわかぬーこゑききて

【永禄石山千句】／三字中略［こすゑまて］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

やまはみとりにーあめのこるそら
ほととぎすーあしたのくもにーなきすてて

【合点之句／神宮文庫本】／夏／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

雨の長閑さ（あめののどけさ）

→何処に霞む（いずこにかすむ）

にはにけさふるーあめののとけさ
まとすくるーかせはいつくにーかすむらむ

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

みれともみえすーあめののとけさ
いつこにかーありあけのつきのーかすむらむ

【享禄年間百韻８巻】／白何［あさみとり］／享禄 3(1530) 年 3 月 2 日

雨を待つ（あめをまつ）

→時過ぎる時鳥（ときすぎるほととぎす）

みなつきのそらのーあめやまつらむ
ときすきてーやすらふこゑのーほととぎす

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

みなつきのそらのーあめやまつらむ
ときすくるーなこりやすらぬーほととぎす

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

心を尽す雨の夜（こころをつくすあめのよる）

→身が老いた時鳥（みがおいたほととぎす）

ねられぬこころーつくすあめのよ
まつうちにーみもおいぬへきーほととぎす

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

まつにこころをーつくすあめのよ
つれなきにーみもおいぬへきーほととぎす

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

長雨の空（ながあめのそら）

→時鳥（ほととぎす）

ふりみふらすみーなかあめのそら
ほととぎすーつきになくよやーいつならむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［とふひとや］／永正 18(1521) 年 8 月

なほはれかたきーなかあめのそら
ほととぎすーわかうたかひにーききわひて

【下草／金子本】／夏／延徳 4(1492) 年頃

弥生の雨（やよいのあめ）

→時鳥（ほととぎす）

やよひのあめのーゆふくれのやま
なつまたてーなくをきかはやーほととぎす

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

やよひのあめのーつきくもるそら
いまよりやーしのひねならしーほととぎす

【天文年間百韻３８巻】／山何［ほたるとふ］／天文 6(1537) 年 5 月 10 日

あやめぐさ

菖蒲草（あやめぐさ）

→山時鳥（やまほととぎす）

をりにふれーかりにしあとのーあやめくさ
かけたにとめよーやまほととぎす

【宮島千句】／何船［ちかしてふ］／天文20(1551) 年 5 月 9 日〜11 日

ふくやとの―のきはにほふーあやめくさ
なほねをそへよーやまほととぎす

【新撰菟玖波集／実隆本】／夏／明応4(1495) 年 9 月 26 日

あゆ

水の錆鮎（みずのさびあゆ）

→柳陰（やなぎかげ）

つきにひかるやーみつのさひあゆ
えたかはすーもみちはいかにーやなきかけ

【応永年間百韻 7 巻】／□□［x x はせて］／応永 24(1417) 年 3 月 16 日

みしふかくれのーみつのさひあゆ
ちるとみてーそてにいろつくーやなきかけ

【文安年間百韻 9 巻】／何船［ときはなる］／文安元 (1444) 年 10 月 12 日

あらし

嵐吹く山（あらしふくやま）

→大井川霞む（おおいがわかすむ）

のとかにすめはーあらしふくやま
おほゐかはーかすめるみつのーたえたえに

【享禄年間百韻 8 巻】／何人［からころも］／享禄 3(1530) 年 1 月 28 日

はなにとゆけはーあらしふくやま
おほゐかはーかすみのそこにーおとはして

【文安頃千句 4 巻】／何路［やへひとへ］／

村雨の晴れゆく後は嵐（むらさめのはれゆくあとはあらし）

→日に渡る舟の寒さ（ひにわたるふねのさむさ）

むらさめのーはれゆくあとはーふくあらし
ゆふひにわたるーふねのさむけさ

【大永年間百韻 1 4 巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

むらさめのーはれゆくあとはーゆふあらし
いりひをわたるーふねのさむけさ

【宗長関係 8 種】／老耳／天理本／

夕嵐（ゆうあらし）

→入相の鐘（いりあいのかね）

やまてらのーかへさをおくるーゆふあらし
ひとりのみきくーいりあひのかね

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

ゆふあらしーもよほすやまのーむらくもに
つねよりさひしーいりあひのかね

【成立不詳・宗長以前 1 5 巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

あらそう

心争う歌（こころあらそううた）

→鶯の声々（うぐいすのこえごえ）

こころあらそふーうたのくちくち
はるされはーうくひすかはつーこゑこゑに

【初瀬千句】／何衣［しけるとも］／享徳元・2(1452) 年、4 月

こころあらそふーうたのかちまけ
こゑこゑにーなくうくひすをーこにいれて

【文明十四年万句 5 2 巻】／栗何［あけてみむ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

涙争う声（なみだあらそうこえ）

→雁鳴く（かりなく）

なみたあらそふーさをしかのこゑ
つきにいまーさそはれわたるーかりなきて

【明応年間百韻２２巻】／何人［としにありて］／明応 9(1500) 年 7 月 7 日

なみたあらそふーむしのこゑこゑ
こはきはらーうつろふゆふへーかりなきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

あらまし

あらまし

→初時鳥

あらましのーすゑはひとつもーことたらて
まつよそあくるーはつほとときす

【宝徳四年千句】／何衣［はなもはも］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

あらましのーほとこそさそへーやまのおく
はつほとときすーすくるむらさめ

【応仁年間百韻６巻】／ｘｘ［ゆきのをる］／応仁 2(1469) 年 12 月

あらわれる

現す

→鶯の声

うめはまつーつほみにはるをーあらはして
むすほほれたるーうくひすのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／懐旧［はつゆきの］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日

こころのみ―さまさまうたにーあらはして
かすむのやまの―うくひすのこゑ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

現れる

→園の梅の香

したもえのーくさのはつかにーあらはれて
ふゆかれわかぬーそののうめかか

【明応年間百韻２２巻】／何人［あきのいろに］／明応 9(1500) 年 7 月 11 日

さきそめし―はなはしけきにーあらはれて
にほひえならぬーそののうめかか

【元和年間百韻２４巻】／□□［よかれせぬ］／元和 6(1620) 年 10 月 8 日

花の梢に現れる

→古寺の道

くもまより―はなのこすゑのーあらはれて
まつにふちさく―ふるてらのみち

【永禄年間百韻２８巻】／何路［きえしその］／永禄 7(1564) 年 1 月 22 日

すきむらのーこすゑははなにーあらはれて
おくにそつつくーふるてらのみち

【天正年間百韻５７巻】／□□［ことのはも］／天正 13(1585) 年 1 月 4 日

ありあけ

有明

→衣打つ声

かせなからーまつのひまもるーありあけに
ほのほのをちのーころもうつこゑ

【葉守千句】／山何［みねとほき］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

よもすからーつきはこのころーありあけに
たたたまくらの―ころもうつこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何路［こそたちし］／明応 6(1497) 年 1 月 1 日

→帰る雁

ありあけのーいるやまのはもーおほろにて
こゑもかすかにーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつかえに］／応永 29(1422) 年 3 月 28 日

ありあけのーなこりやなほもーうすかすみ
こしちはとほくーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あめはれて］／応永 30(1423) 年 5 月 25 日

→連れない仲に錦木

ありあけの－つきのかすむは－ならひにて
つれなきなかに－たつるにしきき

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとし
に］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

ありあけの－くもにに－ほひて－おほろよに
つれなきなかに－そふはにしきき

【看聞日記紙背５０巻】／山何［せくみつ
の］／応永 31(1424) 年 6 月 25 日

→夜深い道（よぶかいみち）

ありあけの－□□□□□□を－おきいてて
はなにたひたつ－みちそよふかき

【文安年間百韻９巻】／何人［なもしらぬ］
／文安 4(1447) 年 8 月 19 日

ありあけの－つきのこるのに－むしなきて
こころやすらふ－みちそよふかき

【文明年間百韻３４巻】／何人［あきかせ
も］／文明 17(1485) 年 8 月 30 日

有明の影（ありあけのかげ）

→秋の夜（あきのよ）

あらしのあとに－ありあけのかけ
ききしより－かねさやかなる－あきのよに

【永原千句】／千何［ひととせは］／明応
9(1500) 年 7 月 17 日

ふねゆくつきや－ありあけのかけ
すすしさを－ともなふままの－あきのよに

【弘治三年春雪千句】／何人［ゆきにうめ］
／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

有明の空（ありあけのそら）

→秋の風（あきのかぜ）

つきもなこりの－ありあけのそら
いつまてか－ききてうらみむ－あきのかせ

【表佐千句】／薄何［ゆきてみむ］／文明
8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

さたかにのこる－ありあけのそら
なほふくや－よふねのすゑの－あきのかせ

【文明年間百韻３４巻】／□□［したつゆ
は］／文明 12(1480) 年 7 月 4 日

→草枕（くさまくら）

ねぬよほとふる－ありあけのそら
くさまくら－うかれとあきや－ふけぬらむ

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［つきをか
せ］／文明 12(1480) 年 8 月

つきにねしのは－ありあけのそら
くさまくら－いくよともなき－あきくれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

有明の月（ありあけのつき）

→憂いものはない（ういものはない）

ありあけの－つれなきつきも－すめるよに
なほあきはかり－うきものはなし

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］
／長享 2(1488) 年 7 月

ありあけの－つきもなこりと－かへるかり
こひよりほかに－うきものはなし

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさな
ほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

→帰る雁（かえるかりがね）

ありあけの－つきやあらぬと－かすむよに
きけはくもゐを－かへるかりかね

【永享年間百韻４巻】／山何［おいまつは］
／万句巻頭／永享 9(1437) 年 3 月 21 日

ありあけの－つきはかすみに－ほのみえて
ゆめもまくらに－かへるかりかね

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元
(1501) 年 3 月 18 日

→雁の声（かりのこえ）

かすみなからも－ありあけのつき
よもすから－かへるやとほき－かりのこゑ

【文明十二年千句８巻】／何木［なもしる
し］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

あかつきかたの－ありあけのつき
なかめやる－くももはつかの－かりのこゑ

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはら
も］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→時鳥（ほととぎす）

なかめをしたふ－ありあけのつき
ほとときす－なきつるこゑは－とほさかり

【平松文庫本千句】／□□［ゆきはみちの］／

ふるきみやこの－ありあけのつき
ほとときす－ねさめかたらふ－よはふけて

【文明年間百韻３４巻】／何路［やまかせに］／文明 15(1483) 年 3 月 2 日

→武蔵野と草枕（むさしのとくさまくら）

はなのくもまに－ありあけのつき
むさしのや－しのきしくさに－まくらして

【元亀二年千句】／朝何［あたにちる］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

たひねいくよの－ありあけのつき
むさしのや－わけもつくさぬ－くさまくら

【天正年間百韻５７巻】／何垣［ゆくそてに］／天正 11(1583) 年閏 1 月 1 日

→暁（あかつき）

みれはみにしむ－ありあけのつき
あかつきの－あらしにゆめの－さめてのち

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

みよとやのこる－ありあけのつき
あかつきの－かねよりのちも－よはなかし

【菟玖波集／広島大学本】／秋下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

→秋の雲（あきのくも）

いるかけいそく－ありあけのつき
ふくかせに－たかねはなるる－あきのくも

【天正四年万句７０巻】／何色［ちるはなも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

またもあはなむ－ありあけのつき
うちやまの－あかつきさひし－あきのくも

【下草／龍谷大学本】／秋／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

→秋更ける（あきふける）

ころはよさむの－ありあけのつき
さねこむと－いひしなからに－あきふけて

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

たもとにおつる－ありあけのつき
やまもなき－のへのかりふし－あきふけて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／雑／永正 6(1509) 年以前

→風冴える（かぜさえる）

むしのねほそき－ありあけのつき
ふきとほす－かへのすきまの－かせさえて

【石山四吟千句】／三字中略［あさかほの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

みつのうへなる－ありあけのつき
よこのうみ－よころのあきの－かせさえて

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

→山越える（やまこえる）

つゆももらさぬ－ありあけのつき
くもはけさ－しくるるあきの－やまこえて

【文明十四年万句５２巻】／夢想［そのしなも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

たもとにかすむ－ありあけのつき
とりのこゑ－はなのにほひに－やまこえて

【愚句老葉】／春／永正 17 年

おぼろにのこるありあけのつき
朧に残る有明の月

→棚無し小舟の音（たななしおぶねのおと）

おほろにのこる－ありあけのつき
ほそえこく－たななしをふね－おとすみて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

おほろにのこる－ありあけのつき
はるのよの－たななしをふね－おとふけて

【論書４種】／宗長／

つきにありあけのそら
月に有明の空

→夜をこめる

つきにかすみの－ありあけのそら
かへるかり－おもひたつ□□－よをこめて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［はなそあをは］／成立時不詳

つきはきりまに－ありあけのそら
あきちかき－をちのかはおと－よをこめて

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

月は有明

→時鳥

くもりしままの－つきはありあけ
ほととぎす－いまひとこゑは－つれなくて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

またとへかしの－つきはありあけ
ほととぎす－ゆめちをすきて－さむるよに

【合点之句／神宮文庫本】／夏／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

残る有明

→朝ぼらけ

かけもすくなく－のこるありあけ
やまのはに－よこくもきゆる－あさほらけ

【文明十二年千句８巻】／一字露顕［わかはもて］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

それかとはかり－のこるありあけ
あさほらけ－わけゆくかたに－むしなきて

【文明十四年万句５２巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ある

有るか無きか

→蜻蛉の岩垣

あるかなきかの－よもきふのやと
かけろふの－いはかきかくれ－にはふりて

【長享年間百韻６巻】／何路［あらぬなを］／長享 2(1488) 年 4 月 5 日

あるかなきかの－やまかけのみち
かけろふの－いはかきしみつ－くさしけみ

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

あるかなきかの－みねのはつゆき
かけろふの－いはかきみつは－おとさえて

【園塵第一／続群書類従本】／冬／長享 2 年

あるもの

→雲の上

ものおもひ－あまつかみたに－あるものを
こもるいはとそ－くものうへなる

【文明年間百韻３４巻】／何船［かへれとて］／文明 18(1486) 年 3 月 27 日

あらさらむ－くらゐもひとは－あるものを
くものうへなる－つきはみまほし

【天正四年万句７０巻】／何路［ちりとのみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

ただ有り無しの契り

→内の形

たたありなしの－ちきりなりけり
あめつちも－うらみのうちの－かたちにて

【文明年間百韻３４巻】／何路［みるままに］／文明 12(1480) 年 8 月

たたありなしの－ちきりなりけり
ひともよも－かかみのうちの－かたちにて

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

人もある

→数添う

こころかしこき－ひともこそあれ
ことのはは－すゑのよになほ－かすそひて

【永原千句】／何色［うつろはぬ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

なをきききかぬ－ひともこそあれ
かなしくも－にひしまもりの－かすそひて

【下草／金子本】／雑上／延徳 4(1492) 年頃

あわれ

哀れ

→流離う身

いましはと－やつすすかたも－あはれにて
さすらふるみの－はてししられす

【永禄元年花千句】／□□［みねのまつ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

すててなほ－うきよおもへは－あはれにて
さすらふるみの－ほとそはかなき

【天正年間百韻５７巻】／□□［うくひすの］／裏白／天正 20(1592) 年 1 月 3 日

哀れ知る

→古の後

あはれしれ－ひとひひとひの－わかよはひ
かへらぬみちや－いにしへのあと

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

よはたれも－つひにはのへの－あはれしれ
つくりみかきし－いにしへのあと

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

哀れである

→荻の上風

つきにたに－めてしあきこそ－あはれなれ
のきはにたかき－をきのうはかせ

【因幡千句】／何石［やまはたか］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

あきすてに－ちかくなるこそ－あはれなれ
はやしのかねの－をきのうはかせ

【天正四年万句７０巻】／白何［つゆやいろ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

蝶の哀れさ

→打ち交わす

ほかよりきたる－てふのあはれさ
はるかせの－ふくのまにまに－うちかすみ

【住吉千句】／何人［ゆきはれて］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

そのにひとりの－てふのあはれさ
ひとみえぬ－のへのゆくへは－うちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

野辺の哀れさ

→朝ぼらけ

なくやとりへの－のへのあはれさ
やまかすむ－かりはのはるの－あさほらけ

【文安年間百韻９巻】／山何［はなはひも］／文安 5(1448) 年 2 月 5 日

のわきのあとの－のへのあはれさ
あさほらけ－うすきりわたり－ひのいてて

【園塵第一／続群書類従本】／秋／長享 2 年

い

山の井の水

→木の下

むすふはつきぬ－やまのゐのみつ
このもとに－ひとつふたつの－こけのいほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／花之何［ふゆのいろに］／成立時不詳

むすこけふかし－やまのゐのみつ
すすしさは－きりのわかはの－このもとに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

いう

と言いかく言い

→ 媒

といひかくいひ－なみたもろなる
なかたちの－とかはあらしを－うらみわひ

【浜宮千句】／□□［つきのいろと］／

といひかくいひ－あはしとやする
なかたちの－へたつるかとも－おもふよに

【成立不詳・宗長以前１５巻】／ｘｘ［さみたれや］／成立時不詳

→籬(ませのうち)の内

といひかくいひーあらましのころ
うゑたつるーあきのちくさのーませのうち

【伊勢千句】／青何［しかそなく］／大永2(1522)年8月4日～8日

といひかくいひーくらすならはし
あらしのみーうらむ□はなのーませのうち

【天正四年万句７０巻】／何船［とふとりの］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

いえ

隠れ家(かくれが)

→み吉野の奥(みよしののおく)

かくれかをーなほふかかれとーふるゆきに
くもはいくへそーみよしののおく

【看聞日記紙背５０巻】／何物［かみとうめ］／応永29(1422)年2月25日

かくれかをーよのうきとてやーたつぬらむ
さとのほかなるーみよしののおく

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ゆきにみて］／応永32(1426)年11月25日

隠れ家の山(かくれがのやま)

→埋もれる(うずもれる)

はてはひとりのーかくれかのやま
ふみわけしーいはのかけちのーうつもれて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何木［たますたれ］／成立時不詳

はなみかてらのーかくれかのやま
みよしのやーふかきかすみにーうつもれて

【天正四年万句７０巻】／何垣［かけすすし］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→捨ててから(すててから)

くもはいくへそーかくれかのやま
すてしよりーみはしたひくるーひともなし

【難波田千句】／□□［うめかかの］／文明14(1482)年10月前後

ひともとひこぬーかくれかのやま
すてしよりーこのよのほかにーみをなして

【新撰菟玖波集／実隆本】／雑五／明応4(1495)年9月26日

→み吉野(みよしの)

おくかおくなるーかくれかのやま
みよしのはーみねのかけちもーたえはてて

【太神宮法楽千句】／初何［ほのめくは］／長享2(1488)年7月

けふりもみえぬーかくれかのやま
みよしのはーさくらにくもるーよはのつき

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501)年3月18日

隠れ家はない(かくれがはない)

→み吉野の奥(みよしののおく)

たたあらましにーかくれかはなし
みよしののーまたみぬおくをーたつねはや

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ふりかっけ］／応永29(1422)年【B】3月15日

うきよのほかのーかくれかはなし
みよしののーおくもやはなにーとはるらむ

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［あすはさけ］／応永31(1424)年2月25日

山の隠れ家(やまのかくれが)

→なる

むすひかへたるーやまのかくれか
のかれてやーゆめのうきよとーなりぬらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文2(1357)年以後-応安3年6月以前

あらましちかきーやまのかくれか
つれなきやーのちのなさけとーなりぬらむ

【天正四年万句７０巻】／薄何［やまとほみ］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

いおり

草の庵（くさのいお）

→山時鳥（やまほととぎす）

さみたれのーつゆにうもるるーくさのいほいててやきかむーやまほとときす

【熊野千句】／山何［おとなしの］／文正元 (1466) 年 3 月以前

ふくかせのーたえまもあれなーくさのいほくもにまきるるーやまほとときす

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

よはさのみーなけかしものそーくさのいほはなのあととふーやまほとときす

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

柴の庵（しばのいお）

→古の夢（いにしえのゆめ）

しはのいほーたのむかけとやーたつぬらむいとふもしらぬーいにしへのゆめ

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

とひくるをーいとふはかりのーしはのいほわすれむとするーいにしへのゆめ

【弘治三年春雪千句】／山何［はなそとも］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

→花の散る頃（はなのちるころ）

うしとみはーたれかはとはむーしはのいほまつふくかせにーはなのちるころ

【天文年間百韻３８巻】／何路［あきよたた］／天文 12(1543) 年 8 月 19 日

やまかせもーふかはふかなむーしはのいほありあけのつきにーはなのちるころ

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

谷の庵（たにのいお）

→住む峰の古寺（すむみねのふるでら）

ふくるよにーつきまちかぬるーたにのいほすまはやあきのーみねのふるてら

【河越千句】／二字反音［はるみても］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

ちきりてもーひとはとはめやーたにのいほみれはつきすむーみねのふるてら

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

峰の庵（みねのいお）

→松風の声（まつかぜのこえ）

みねのいほーこのはののちもーすみあかてさひしさならふーまつかせのこゑ

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

しつけさはーひとりかうへのーみねのいほともとたのむもーまつかせのこゑ

【永正年間百韻３４巻】／何路［はやみのに］／永正 12(1515) 年 11 月 10 日

山賤の庵（やまがつのいお）

→煙立て添える（けむりたてそえる）

ひもゆふかけのーやまかつのいほこりかへるーましはのけふりーたてそへて

【永禄年間百韻２８巻】／何船［みのこすや］／永禄 2(1559) 年 7 月 16 日

かすみのおくのーやまかつのいほほのかにもーはたやくけふりーたてそへて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

いかが

如何（いかが）

→秋の夕暮れ（あきのゆうくれ）

なほさりにーこころをみえはーいかかせむまれにとひくるーあきのゆふくれ

【表佐千句】／何馬［はなにひと］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

たえてやはーおもひありともーいかかせむむくらのやとのーあきのゆふくれ

【論書４種】／宗長／

如何に寝て（いかにねて）

→昨日を去年の（きのうをこぞの）

いかにねてーこよひはきかむーほとときす
きのふをこそのーゆめかうつつか

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

いかにねてーいかにみやこのーゆめならむ
きのふをこそのーはるのやまのは

【大永四年月並千二百韻】／何色［うめのはな］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 1 月 23 日

いく

移り持て行く（うつりもてゆく）

→起き出でる（おきいでる）

うつりもてゆくーあきのかなしさ
いまこむとーなくさめつつもーおきいてて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

うつりもてゆくーそてのつきかけ
つゆをしくーかりねののへをーおきいてて

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

行く時鳥（ゆくほととぎす）

→空（そら）

まつたれをわきーゆくほとときす
いつこかはーさみたれそめぬーそらならむ

【宮島千句】／白何［ゆふへより］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

おとつれそめてーゆくほとときす
ねさめはたーたれもひとしきーそらならむ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

いくえ

幾重霞（いくえかすみ）

→鐘の響き（かねのひびき）

いくへかすみのーつつくやまやま
はるのよやーかねのひひきもーあらさらむ

【称名院追善千句】／何人［せめてさは］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

かすかのはーいくへかすみのーしけからし
かねのひひきもーたたかすかなり

【天正年間百韻５７巻】／□□［なつやまは］／天正 17(1589) 年 4 月 26 日

幾重豊浦の竹の下道（いくえとよらのたけのしたみち）

→また月ある雪の晴れる（またつきあるゆきのはれる）

いくへとよらのーたけのしたみち
にしにまたーつきあるゆきのーけさはれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

いくへとよらのーたけのしたかけ
あめにまたーつきあるゆきのーよるはれて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

いけ

池ふる（いけふる）

→天の香具山（あまのかぐやま）

いけふりてーほのかにうつるーよはのつき
あきいくあきそーあまのかくやま

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［みっさむし］／成立時不詳

なかむらむーみきりははるのーいけふりて
みやちたえせぬーあまのかくやま

【永正年間百韻３４巻】／何人［みやまきに］／永正 14(1517) 年 3 月 22 日

池水（いけみず）

→氷解け行く（こおりとけゆく）

いけみつのーつきかけあらふーやなきかな
こほりとけゆくーなみのあさかせ

【嵯峨千句】／山何［いけみつの］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

いけみつのーささなみさそふーはるのかせ
いはまいはまのーこほりとけゆく

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるさめも］／慶長 9(1604) 年 10 月 6 日

いさらい

いさら井の水（いさらいのみず）

→明ける夜（あけるよ）

こほりのひまのーいさらゐのみつ
かはおとのーあめかときけはーあくるよに

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かすみにむせふーいさらゐのみつ
うくひすのーこゑするなかれーあくるよに

【大永四年月並千二百韻】／□□［うのはなの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 4 月 23 日

いずち

泊まり舟音していずち（とまりぶねおとしていずち）

→旅の国々の人（たびのくにぐにのひと）

とまりふねーおとしていつちーわたるらむ
たれたひならぬーくにくにのひと

【東山千句】／一字露顕［つきみつつ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

とまりふねーおとしていつちーわかるらむ
あはれのたひやーくにくにのひと

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

時鳥枕のいずち過ぎる（ほととぎすまくらのいずちすぎる）

→静かな雨（しずかなあめ）

ほとときすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーうちそそくそら

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ほとときすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーはるるくさふき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ききはみな］／裏白／寛永 4(1627) 年 1 月 3 日

いそぐ

急がれる（いそがれる）

→山時鳥（やまほととぎす）

こころなほーみやこのかたにーいそかれて
いつかはいてむーやまほととぎす

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふつゆも］／天正 16(1588) 年 8 月 10 日

とはるへきーころとゆふへのーいそかれて
やまほととぎすーきかむあめのひ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［しらきくの］／寛文 11(1671) 年 9 月 29 日

急ぐ（いそぐ）

→霧の道の方々（きりのみちのかたがた）

ひくらしやーつきになるよをーいそくらむ
きりにわかれぬーみちのかたかた

【宗牧追善千句】／山何［ちるちらぬ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

ゆふへをしーくさはのつゆやーいそくらむ
きりたちまよふーみちのかたかた

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ｘｘｘｘｘ］／裏白／寛永 18(1641) 年 1 月 3 日

帰りを急ぐ（かえりをいそぐ）

→柴持つ人（しばもつひと）

くもかへるーやまやゆふへをーいそくらむ
しはもつひとのーやすむかけはし

【表佐千句】／何人［はなそくも］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

すゑかけてーかへるいちちやーいそくらむ
しはもつひとのーつるるこゑこゑ

【文明年間百韻３４巻】／□□［したつゆは］／文明 12(1480) 年 7 月 4 日

いち

梅の一本（うめのひともと）

→鶯（うぐいす）

さきそめにけむーうめのひともと
うくひすのーうちはふきくるーそののうち

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

やつれてにほふーうめのひともと
うくひすのーいくはるとなきーこゑおいて

【大永三年月並千三百韻】／□□［やまいくへ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 8 月 23 日

こしけきなかのーうめのひともと
うくひすのーうちはふきたるーこゑすなり

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

岡辺の櫨の一群（おかべのはじのひとむら）

→夕日隠れ（ゆうひがくれ）

をかへいろこきーはしのひとむら
つゆやなほーゆふひかくれにーのこるらむ

【出陣千句】／何袋［はなさかり］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日〜27 日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【応仁年間百韻６巻】／何人［つきのあき］／応仁 2(1468) 年 1 月 1 日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【萱草／伊地知本】／秋／文明 6(1474) 年 2 月以前

菊の一本（きくのひともと）

→山人（やまびと）

しものそこなるーきくのひともと
やまひとのーすむあといかにーたつねまし

【天文廿年断簡千句】／□□［つけのこせ］／天文 20(1551) 年 6 月 10 日〜12 日

ちくさしをれてーきくのひともと
やまひとのーすみかはこことーものふるく

【長禄三年千句１１巻】／何鳥［ふかくふる］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日〜5 日

はやちりそむるーきくのひともと
やまひとのーすさみいかなるーころならむ

【天正四年万句７０巻】／朝何［なみよする］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

雲の一群（くものひとむら）

→捨てる時鳥（すてるほととぎす）

ゆくかたいつちーくものひとむら
ほとときすーのこれるはなをーとひすてて

【天文年間百韻３８巻】／何路［あきよたた］／天文 12(1543) 年 8 月 19 日

うかふあしたのーくものひとむら
なきすつるーあとしたはるるーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／□□［ことのはも］／天正 13(1585) 年 1 月 4 日

煙一筋（けむりひとすじ）

→誰かが植えた松残る（だれかがうえたまつのこる）

かせふきはらふーけふりひとすち
たれうゑてーまつのしるしのーのこるらむ

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

とほさとをのーけふりひとすち
たかうゑてーまつはかりかはーのこるらむ

【文明十四年万句５２巻】／何色［はるなつを］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

里の一群（さとのひとむら）

→草枕（くさまくら）

とひよるやとのーさとのひとむら
くさまくらーつきをよすかにーこよひねむ

【文明十二年千句８巻】／夢想［うしとしの］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日〜＊日

うちけふりたるーさとのひとむら
くさまくらーたつきもしらすーあくるのに

【文明十四年万句５２巻】／何船［みつとりか］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

竹の一群（たけのひとむら）

→片岡野辺（かたおかのべ）

たくひのかけはーたけのひとむら
つつしさくーかたをかのへのーあめのうち

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いほのすさひやーたけのひとむら
ゆくひともーかたをかのへのーふゆかれに

【春夢草／書陵部本】／雑／永正 12(1516) 年、13 年

→山本（やまもと）

なひくやかせのーたけのひとむら
やまもとのーつゆのしたみちーくさかれて

【文明年間百韻３４巻】／何人［ちきりあれや］／文明 14(1482) 年 3 月 20 日

かすみになひくーたけのひとむら
やまもとのーはるのあさかはーゆきはれて

【老葉／吉川本】／春／文明 13(1481) 年夏頃

ただ一通り（ただひととおり）

→なる

たたひととほりーわたるかりかね
ありあけやーつきのよかすにーなりぬらむ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［とよとしを］／応永 32(1426) 年 12 月 6 日

たたひととほりーしらむよこくも
しくれつるーあとやゆきけにーなりぬらむ

【応永年間百韻７巻】／何木［ちよまてと］／応永 15(1408) 年 3 月 21 日

鳥の一声（とりのひとこえ）

→明ける（あける）

はるかにすくるーとりのひとこゑ
しつかなるーよはのけしきやーあけぬらむ

【天文年間百韻３８巻】／何人［なやここに］／天文 4(1535) 年 5 月 1 日

はつかになりぬーとりのひとこゑ
またれつるーねさめのそらやーあけぬらむ

【天文年間百韻３８巻】／何路［あさかほの］／天文 10(1541) 年 7 月 29 日

→時鳥（ほととぎす）

しはしなくさむーとりのひとこゑ
ねさめてはーそれかあらぬかーほとときす

【天正四年万句７０巻】／何船［なかきよの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

こすゑはるけきーとりのひとこゑ
むかしおもふーたちはなてらのーほとときす

【園塵第四／早稲田大学本】／夏／永正 6、7 年

中々市は住み良い（なかなかいちはすみよい）

→三輪の杉群（みわのすぎむら）

ましはりのーなかなかいちはーすみよきに
たちならひたるーみわのすきむら

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

やまよりもーなかなかいちはーすみよきに
たれたつねこむーみわのすきむら

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［あすはさけ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

花の一枝（はなのひとえだ）

→山桜（やまざくら）

をるをはゆるせーはなのひとえた
ひとをこそーととむるせきのーやまさくら

【文和千句】／手何［はにしける］／文和 5 年

このかけもののーはなのひとえた
やまさくらーてをもゆるさすーをりもちて

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

花の一本（はなのひともと）

→春暮れる

おそきものこるーはなのひともと
しらさりしーみやまをとへはーはるくれて

【文明年間百韻３４巻】／何人［ちきりあれや］／文明 14(1482) 年 3 月 20 日

まきのはしのくーはなのひともと
とりのねもーそこはかとなくーはるくれて

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆきふかき］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 11 月 23 日

一時雨

→木の葉散る音

ゆめよりはーあとあるさよのーひとしくれ
ことしもいまはーこのはちるおと

【秋津洲千句】／一字露顕［わかはより］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

ふるもたたーかせのまかひのーひとしくれ
まくらのうへはーこのはちるおと

【弘治三年春雪千句】／何衣［なくきしの］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

一筋

→煙吹きやる風

ひとすちのーかはみつしろくーあらはれて
けふりふきやるーさとのあさかせ

【大原野十花千句】／何路［けふこそは］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

ひとすちのーなかれのすゑにーはしみえて
けふりふきやるーをちのかはかせ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

一通り

→道の方々

ひととほりーそこはとしるきーみなせかは
くれかかりたるーみちのかたかた

【羽柴千句】／何人［すくにゆく］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

ひととほりーふりとほりたるーあきのあめ
つゆはかりなるーみちのかたかた

【羽柴千句】／薄何［たちはなの］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

一群

→靡く呉竹

ひとむらのーけふりのすゑのーはれわたり
そよきいてつつーなひくくれたけ

【毛利千句】／山何［きくのかは］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

ひとむらのーすゑにつつけるーのをとほみ
かこはぬかたはーなひくくれたけ

【天正年間百韻５７巻】／何木［うくひすの］／天正 11(1583) 年閏 1 月 8 日

一村雨

→鳴く時鳥

ひとむらさめのーつきのこるやま
かへりなくーよはにききつるーほととぎす

【寛永年間百韻１５巻】／□□［はるをうる］／裏白／寛永 2(1625) 年 1 月 3 日

ひとむらさめのーすくるをちかた
つゆのまのーやとりにきなけーほととぎす

【天正四年万句７０巻】／竹何［まつほとや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

一人寝と影

→片敷く

ひとりやねなむーまきたてるかけ
はなにほふーやまちのこけをーかたしきて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

ひとりやねなむーつきほそきかけ
むしのねもーよわるあらしをーかたしきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

一人寝る

→恨み侘びる

かせみにしみぬーひとりかもねむ
いつはりのーなかたちをのみーうらみわひ

【天文年間百韻３８巻】／山何［なとりかは］／天文 19(1550) 年 6 月 16 日

まちよわりつつーひとりかもねむ
ちかひしにーかはるこころをーうらみわひ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［きゆるものと］／寛文 12(1672) 年 8 月 11 日

ふとむらすすき
一群薄

→霜迷う山田（しもまよう やまだ）

ひとむらすすきーそてふるるかけ
しもまよふーやまたのおしねーかりすてて

【永正年間百韻３４巻】／何路［はやみのに］／永正 12(1515) 年 11 月 10 日

ひとむらすすきーひともかけせす
しもまよふーやまたのこいへーかたふきて

【合点之句／神宮文庫本】／冬／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

ほととぎすのひとこえ
時鳥の一声

→春の鶯（はるのうぐいす）

かへるさをーいまひとこゑのーほとときす
なこりやをしむーはるのうくひす

【皇学館文庫本千句】／□□［はなにいそき］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

ほとときすーひとこゑをさへーまたせきて
ももさへつりはーはるのうくひす

【永禄年間百韻２８巻】／何垣［ねにかへる］／永禄 4(1561) 年 3 月 22 日

まつのひとむら
松の一群

→夜が明ける（よが あける）

しほひにたかきーまつのひとむら
とふかりのーかすもまきれすーよはあけて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［はるふかし］／成立時不詳

うらのとほきはーまつのひとむら
やまみえぬーなみのうへよりーよはあけて

【菟玖波集／広島大学本】／雑三／文和 5(1356) 年 3 月 26 日

まつのひともと
松の一本

→美濃の小山（みのの おやま）

あきをふるやのーまつのひともと
つゆやもるーみののをやまのーふはのせき

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

たてるもさひしーまつのひともと
さきのけのーみののをやまのーゆきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

たてるさひさしーまつのひともと
さきのけのーみののをやまのーゆきのくれ

【宗砌関係９種】／宗砌句集／大阪天満宮本／

みずのひとすじ
水の一筋

→滝（たき）

そそくはかりのーみつのひとすち
ふりにけるーあとやなみたのーたきならむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

みなかみしらぬーみつのひとすち
そてやたたーうきおとなしのーたきならむ

【名所句集／静嘉堂文庫本】／恋下／（大永前後）

みちのひとすじ
道の一筋

→放れ駒（はなれこま）

たなかにつつくーみちのひとすち
はなれこまーいはふかたにしーゆきつれて

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

さとはみえぬもーみちのひとすち
つななからーいつくよりかはーはなれこま

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あつまやの］／文禄 2(1593) 年 5 月 6 日

→行き連れる（ゆき つれる）

たなかにつつく－みちのひとすち
はなれこま－いはふかたにし－ゆきつれて

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのとき
も］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

かよふをのへの－みちのひとすち
このかたは－たききしはとり－ゆきつれて

【文明十五年千句１１巻】／何路［ひめも
もの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2
日

いつ

何時かさて（いつかさて）

→また恥じらう（またはじらう）

いつかさて－ものいひかはす－つきはみむ
またはちらへる－つゆのたまくら

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ひめおき
し］／慶長 4(1599) 年 3 月 25 日

いつかさて－うちきせはやの－からころも
またはちらへる－なかのあやなさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちひろあ
る］／慶長 4(1599) 年 5 月 10 日

いつわり

偽り（いつわり）

→言の葉の末（ことのはのすえ）

いつはりの－ちかひをかみや－たたるらむ
たたあやまれる－ことのはのすゑ

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／
文明 14(1482) 年 10 月前後

いつはりの－なきなかしたふ－つゆなみた
わすれすうれし－ことのはのすゑ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［つきやあ
らぬ］／寛文 13(1673) 年 7 月 19 日

いと

青柳の糸（あおやぎのいと）

→打ち映える（うちはえる）

たえぬをかけの－あをやきのいと
つゆなから－あさゆふかすみ－うちはへて

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文
20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

はるにやさらす－あをやきのいと
えのみつに－かすみのころも－うちはへて

【文明年間百韻３４巻】／何人［わすれて
は］／文明 5(1473) 年 2 月 1 日

→川添い（かわぞい）

のとかになひく－あをやきのいと
かはそひの－ふねのつなての－なかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［うめはけ
ふ］／応永 26(1419) 年 2 月 25 日

みたれあひたる－あをやきのいと
かはそひの－つつみやなみの－こえぬらむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あめのひ
の］／文禄 2(1593) 年 5 月

いとう

世を厭う（よをいとう）

→墨染の袖（すみぞめのそで）

うかりけり－よやたたひとを－いとふらむ
こころよりいつ－すみそめのそて

【明応年間百韻２２巻】／何人［あきのい
ろに］／明応 9(1500) 年 7 月 11 日

みつをたに－ぬるるはとよを－いとふらむ
あさくしもやは－すみそめのそて

【永正年間百韻３４巻】／山家［ひとめさ
へ］／永正 8(1511) 年 11 月 3 日

いなおおせどり

稲負鳥（いなおおせどり）

→眺め侘びる（ながめわびる）

かせうちなひき－いなおほせとり
なかめわひぬ－きみかこころや－いつみえむ

【宗長追善千句】／片何［やまさくら］／
（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

こひちをさそふーいなおほせとり
なかめわひぬーかりはきぬとも一つたへはや

【壁草／大東急記念文庫本】／恋上／永正8(1512) 年 11 月 3 日～永正 9 年

いなずま

稲妻の陰（いなずまのかげ）

→宵の間（よいのま）

ほのめきわたるーいなつまのかけ
よひのまにーいつるつきこそ一かすかなれ

【文安月千句】／朝何［ひかりをも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

そらたのめなるーいなつまのかけ
さりともと一うちなけかるる一よひのまに

【延徳年間百韻１６巻】／薄何［いろにこの］／千句第四／延徳元 (1490) 年 12 月 26 日

いにしえ

古（いにしえ）

→山風が吹く（やまかぜがふく）

いにしへのーたたちかなしき一ゆめさめて
みはならはしの一やまかせそふく

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

いにしへの一よしののみやをーきてとへは
おいきのはなに一やまかせそふく

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

古の後（いにしえのあと）

→なる

たたみつくきのーいにしへのあと
をかのへの一みちやのなかにーなりぬらむ

【文安年間百韻９巻】／何路［つききよし］／文安 4(1447) 年 8 月 15 日

かすむはかりのーいにしへのあと
いつのちり一つもりてやまと一なりぬらむ

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

古の月（いにしえのつき）

→憂い秋（ういあき）

みしはいつそのーいにしへのつき
うきあきにーよのことわりもーおほほえす

【享徳二年千句】／唐何［こころひく］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

おもかけはたたーいにしへのつき
とほからぬ一よはのとたえも一うきあきに

【下草／龍谷大学本】／恋下／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

古の宮（いにしえのみや）

→花咲く（はなさく）

はるのこころは一いにしへのみや
をかのへの一なきさのさくら一はなさきて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

たまをみかけるーいにしへのみや
よしのなる一たきつかはつら一はなさきて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

古の夢（いにしえのゆめ）

→小夜枕（さよまくら）

わかれしままのーいにしへのゆめ
さよまくらーかねよりのちはーまとろまて

【永原千句】／何木［おとそなき］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

みるもくやしきーいにしへのゆめ
つきひとりーかはらぬあきのーさよまくら

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

いのち

命であってほしい（いのちであってほしい）

→法の道（のりのみち）

あはむかきりの－いのちともかな
みはおいぬ－いらてやはてむ－のりのみち

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

なかきかひある－いのちともかな
いかにせむ－いることかたき－のりのみち

【文明年間百韻３４巻】／薄何［さくをみよ］／文明 14(1482) 年 3 月 7 日

命にて（いのちにて）

→頼む同じ世（たのむおなじよ）

わすれしの－なさけにかかる－いのちにて
すゑのちきりを－たのむおなしよ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［おちはまて］／応永 25(1418) 年 10 月 25 日

またといふ－ことははかりを－いのちにて
よもわすれしと－たのむおなしよ

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［あすはさけ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

こひわひぬ－あふをかきりの－いのちにて
せめてはすむを－たのむおなしよ

【看聞日記紙背５０巻】／何目［うめさくら］／応永 32(1425) 年 8 月 25 日

いのる

神にただ祈る（かみにただいのる）

→結ぶ契り（むすぶちぎり）

かみはたた－いのるにこそは－かひもあれ
むすふちきりの－ゆくへたかはし

【天文廿四年梅千句】／何垣［あさきりに］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かみもたた－いのるにこそは－なひきけれ
むすふちきりの－すゑはしられす

【天正四年万句７０巻】／何船［ときはきも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

いま

昔を今の（むかしをいまの）

→時鳥（ほととぎす）

むかしをいまの－おもかけのゆめ
おもひいてて－ふるきみやこの－ほととぎす

【住吉千句】／山何［そめさらは］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

むかしをいまの－こころとやせむ
わすれすも－なつはきてなく－ほととぎす

【天正四年万句７０巻】／花何［うくひすの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

いも

妹が恋しくて（いもがこいしくて）

→枕に片敷く（まくらにかたしく）

いもこひしらに－みるゆめもなし
よるなみを－いそのまくらに－かたしきて

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

いもこひしらに－かりふしのそら
つきやとる－もしほのまくら－かたしきて

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

妹に恋いつつ（いもにこいつつ）

→草枕（くさまくら）

のやまもつらし－いもにこひつつ
くさまくら－よるはゆめちも－いくわかれ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／ｘｘ［さみたれや］／成立時不詳

いもにこひつつ－そてそさえゆく
くさまくら－ゆふしもはらひ－たれとねむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

いりあい

入相の鐘（いりあいのかね）

→うち時雨（うちしぐれ）

かたやまさひしーいりあひのかね
わくるののーあきのひうすくーうちしくれ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

ふもとにつくるーいりあひのかね
まつたてる－をのへはかりのーうちしくれ

【文禄二年千句１０巻】／何木［うすきりや］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

→門さす（かどさす）

はなはちるらむーいりあひのかね
しつかなる－はるのふるてらーかとさして

【太神宮法楽千句】／朝何［つゆにたに］／長享 2(1488) 年 7 月

きりにこもれるーいりあひのかね
あきのひも－ななめにのこるーかとさして

【平松文庫本千句】／□□［ふゆはつき］／

→帰る（かえる）

さとはそなたのーいりあひのかね
ちれはとてーはなにはなとやーかへるらむ

【紫野千句】／何屋［すきたかく］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

かすみにさひしーいりあひのかね
なくとりのーをのへや□□てーかへるらむ

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［かすみけり］／天正 10(1582) 年 3 月 1 日

→花の陰（はなのかげ）

こころをつくすーいりあひのかね
やまふかみ－かへりもやらぬーはなのかけ

【文明年間百韻３４巻】／何路［やまかせに］／文明 15(1483) 年 3 月 2 日

おなしみねこすーいりあひのかね
あすまてとーおもひかけきやーはなのかけ

【成立不詳・宗養以前８巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

→迷う（まよう）

たけひとむらのーいりあひのかね
おとろきしーとりやねくらにーまよふらむ

【長享年間百韻６巻】／ｘｘ［やまのはの］／長享 3(1489) 年 8 月 2 日

をのへにひひく ーいりあひのかね
かりひとや―つねならぬかたにーまよふらむ

【天正四年万句７０巻】／竹何［まつほとや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→山深い（やまふかい）

くもよりをちのーいりあひのかね
くさのとにーひともおとせぬーやまふかみ

【河越千句】／朝何［うめそのに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

こころをつくすーいりあひのかね
やまふかみーかへりもやらぬーはなのかけ

【文明年間百韻３４巻】／何路［やまかせに］／文明 15(1483) 年 3 月 2 日

→わからない（わからない）

とほくそきこゆーいりあひのかね
かすかなる－すみかやたれとーわかさらむ

【伊予千句】／何路［さみたれの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ひとりのみきくーいりあひのかね
ちきりおくーころともひとやーわかさらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

→あらまし（あらまし）

そこともきかぬーいりあひのかね
あらましのーゆくすゑをたにーさためはや

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年 7 月

はるのあはれはーいりあひのかね
あらましのーいまはつきぬるーおいかみに

【菟玖波集／広島大学本】／雑四／文和5(1356) 年冬～翌年の春

→思いたい

みをおとろかすーいりあひのかね
きくことのーうからぬよともーおもははや

【成立不詳・宗砌以前6巻】／何人［みったまり］／成立時不詳

けふまたききつーいりあひのかね
みのうへにーくるるよはひとーおもははや

【菟玖波集／広島大学本】／雑五／文和5(1356) 年冬～翌年の春

→門見える

はるのはやしのーいりあひのかね
やまかすむーふもとにすきのーかとみえて

【表佐千句】／何船［はなやちる］／文明8(1476) 年3月6日<～8日>

はしよりおくのーいりあひのかね
まつけふるーゆきのやまもとーかとみえて

【園塵第四／早稲田大学本】／冬／永正6、7年

→続く

なかそらとほきーいりあひのかね
まつのはのーおくやいらかにーつつくらむ

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文24(1555) 年3月26日～晦日

やまとほからぬーいりあひのかね
かすみにやーすゑののてらはーつつくらむ

【行助関係4種】／行助句／伊地地本／

→初瀬寺

またあはれそふーいりあひのかね
こもりてはーなにいのるらむーはつせてら

【因幡千句】／薄何［かきはらふ］／文明7(1475) 年11月26日<～28日>

ちかきをのへのーいりあひのかね
はつせてらーもろこしにたにーあふかすや

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

→初瀬山

たひねはいつくーいりあひのかね
はつせやまーよもにはなさくーかけわけて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

たひねはいつくーいりあひのかね
はつせやまーよもにはなさくーかけわけて

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明8(1476) 年5月頃

けふもまたきくーいりあひのかね
はつせやまーはるけきはなのーおくにきて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立() 年未詳

→春になる

はなはこすゑのーいりあひのかね
ひとかへるーあとはしつけきーはるならむ

【天文年間百韻38巻】／山何［なくやいつれ］／天文24(1555) 年5月14日

かすむゆふへのーいりあひのかね
あすはたかーいのちのうちのーはるならむ

【萱草／伊地知本】／春／文明6(1474) 年.2月以前

→日が暮れる

いそくこころやーいりあひのかね
とまりをもーさためぬうらのーひはくれて

【天正四年万句70巻】／初何［ゆふかほの］／天正4(1576) 年5月6日～7月19日

あかつきききしーいりあひのかね
ほとときすーゆくへわすれぬーひはくれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明8(1476) 年5月頃

いる

入り日影

→里に人帰る見ゆ

うつろふかーまつのはこしのーいりひかけ
すゑののさとにーひとかへるみゆ

【三島千句】／二字反音［いけすみて］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

くれたけのーみとりのうへのーいりひかけ
たなかのさとに－ひとかへるみゆ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うらかせの］／永正 14(1517) 年 6 月

月の入方（つきのいりかた）

→秋の空（あきのそら）

あけなむとするーつきのいりかた
やまのはに－くもひきわたすーあきのそら

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

ひかりをさまるーつきのいりかた
なかめすやーおもひなくともーあきのそら

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

春の入日（はるのいりひ）

→絶え絶え（たえだえ）

はるのいりひのーかけかすかなり
たえたえに－かねのひひきの－きこえきて

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

はるのいりひのーまつにかかれる
かへりみるーあとはかすみのーたえたえに

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

いろ

朝顔の色（あさがおのいろ）

→野分する（のわきする）

はかなさみするーあさかほのいろ
ひきかこふ－まかきたわわにーのわきして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ひめおきし］／慶長 4(1599) 年 3 月 25 日

しはしはかりのーあさかほのいろ
たけなひく－そのふのうちもーのわきして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［したもえに］／慶長 6(1601) 年 1 月 29 日

色変わる（いろかわる）

→松虫の声（まつむしのこえ）

いろかはるーころをたにしれーおもひくさ
ちきりしままやーまつむしのこゑ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［はつはなや］／成立時不詳

いろかはるーのへにこてふのーゆめやうき
みしあとはたたーまつむしのこゑ

【永正年間百韻３４巻】／何木［いろはふちの］／永正 8(1511) 年 4 月 6 日

色変わる頃（いろかわるころ）

→花咲く（はなさく）

みとりなるのもーいろかはるころ
さはみつに－くさのむらむらーはなさきて

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

このもとまてもーいろかはるころ
ひとしれぬーこくさあはれにーはなさきて

【明応年間百韻２２巻】／何路［うつろはて］／明応 3(1494) 年 10 月 30 日

色付く（いろづく）

→露と今朝の初霜（つゆとけさのはつしも）

あきのたのーかりしほちかくーいろつきて
ゆふへのつゆよーけさのはつしも

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かせおつるーとはたいまはたーいろつきて
つゆにかへたる－けさのはつしも

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

→衣打つ声（ころもうつこえ）

さとちかきーやまはむかひにーいろつきて
まつひとむらに－ころもうつこゑ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

つゆふかき―くさもこすゑもーいろつきて
なほこのころは―ころもうつこゑ

【文安頃千句４巻】／青何［はなのかの］／

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

きりのほるーそとものこすゑ―いろつきて
さひしくのこるーひくらしのこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

つゆにはや―みねのくすはもーいろつきて
あきものかなし―ひくらしのこゑ

【文亀年間百韻４巻】／何人［きえしよの］／文亀 2(1502) 年 8 月 6 日

花の色（はなのいろ）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

あをはよりーあらはれそむる―はなのいろ
したひもてゆくーうくひすのこゑ

【羽柴千句】／朝何［よもにふく］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

いまもなほーあをはにのこる―はなのいろ
みきりになるるーうくひすのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／□□［つゆはそてに］／永禄 4(1561) 年 9 月 19 日

さかりそとーみれはうつろふ―はなのいろ
みきりをよそのーうくひすのこゑ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［けさのまに］／文禄 2(1593) 年 1 月 14 日

春秋の色（はるあきのいろ）

→移ろう（うつろう）

みしはしはしの―はるあきのいろ
やまふきの―つゆはもみちにーうつろひて

【美濃千句】／何馬［まつやしる］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

けにはかなしや―はるあきのいろ
ひとはたた―ときなるかたにーうつろひて

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

いろいろ

木々の色々（きぎのいろいろ）

→秋暮れる（あきくれる）

しもおくころのーききのいろいろ
たちのほる―きりのやまもとーあきくれて

【明応年間百韻２２巻】／何路［こそたちし］／明応 6(1497) 年 1 月 1 日

まつはみさをのーききのいろいろ
ありあけのーつれなきかけもーあきくれて

【天正四年万句７０巻】／何船［なかきよの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

袖の色々（そでのいろいろ）

→月に帰る（つきにかえる）

あきはもみちのーそてのいろいろ
たけかりやーつきになりてはーかへるらむ

【永享年間百韻４巻】／山何［おいまつは］／万句巻頭／永享 9(1437) 年 3 月 21 日

つゆはらふのーそてのいろいろ
はきかえをーつきにやをりもーかへるらむ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長 6(1601) 年 1 月 3 日

野辺の色々（のべのいろいろ）

→唐衣（からごろも）

ちくさにをしきーのへのいろいろ
そめてみはーいつれともなしーからころも

【東山千句】／薄何［つゆをいろ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

そてもさなからーのへのいろいろ
からころもーきりのしつくにーしをれきて

【石山四吟千句】／初何［くれてなほ］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

いわ

岩が根（いわがね）

→橋の一筋（はしのひとすじ）

いはかねにーをかはのなみのーつららゐて
あさしもふかきーはしのひとすち

【三島千句】／朝何［やまとほく］／文明3(1471) 年 3 月 21 日〜23 日

たまささもーかしけてたてるーいはかねに
まつはのへふすーはしのひとすち

【聖廟千句】／何路［うめかかに］／明応3(1494) 年 2 月 10 日〜12 日

岩が根の松（いわがねのまつ）

→磯に舟に日暮れ（いそにふねにひぐれ）

しつえなみよるーいはかねのまつ
あらいそのーふねひきつなくーひはくれて

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

ひとりかせふくーいはかねのまつ
いそつたひーあまのふねさすーひはくれて

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

岩越す浪（いわこすなみ）

→滝落ちる（たきおちる）

いはこすなみはーまつのあらしか
ちるをみるーやまにははなのーたきおちて

【菟玖波集／広島大学本】／春下／文和5(1356) 年冬〜翌年の春

いはこすなみはーかはかせそふく
あらいそのーうへなるやまにーたきおちて

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

久米の岩橋（くめのいわはし）

→ただ一言（ただひとこと）

てらにたれーくめのいははしーつつくらむ
たたひとことも－すくにをしへよ

【享徳二年千句】／唐何［こころひく］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

わたしもはてぬーくめのいははし
つきみてはーたたひとことも－おもはぬに

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

滝の岩浪（たきのいわなみ）

→音羽川（おとわがわ）

こすゑにちるやーたきのいはなみ
おとはかはーおとはかりしてーくるるひに

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応3(1494) 年 2 月 10 日〜12 日

かすみかくれにーたきのいはなみ
やまとほくーなかれいてたるーおとはかは

【寛正年間百韻２０巻】／何人［けふこすは］／寛正 3(1462) 年 2 月 27 日

いわう

帰りに駒祝う声（かえりにこまいわうこえ）

→都人（みやこびと）

ひくれてかへるーこまいはふこゑ
あふさかをーつきもこゆるやーみやこひと

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

たかかへるさそーこまいはふこゑ
みやこひとーうちむれけふのーせきむかへ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

うい

憂い（うい）

→明けの鳥の声々（あけのとりのこえごえ）

こころなきもーさそなはるにはーうかるらむ
あくるよいそくーとりのこゑこゑ

【永禄元年花千句】／□□［ふらぬまも］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日〜25 日

またもなきーわかれやいまもーうかるらむ
あくるをつくるーとりのこゑこゑ

【文安頃千句４巻】／二字返音［はなをりて］／

→墨染の袖（すみぞめのそで）

すつるみもーあきのねさめやーうかるらむ
つゆのたつぬるーすみそめのそて

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

あさきえにーいのるちきりやーうかるらむ
ひとつはかなふーすみそめのそて

【文明十四年万句５２巻】／夢想［そのしなも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひとよりもーゆふへのいろやーうかるらむ
あはれをのこすーすみそめのそて

【天正四年万句７０巻】／何鳥［はつしもは］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→後の世の道（のちのよのみち）

たひのともーわかれむことはーうきものを
たれかのこれるーのちのよのみち

【文明十四年万句５２巻】／何船［みつとりか］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ふるさとの―わかれはたれもーうきものを
しらすわかみの―のちのよのみち

【菟玖波集／広島大学本】／雑四／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

憂い秋（ういあき）

→植えないなら聞かない荻の上風（うえないならきかないおぎのうわかぜ）

うきことはーこころにたえぬーあきなるに
うゑすはきかしーをきのうはかせ

【文和千句】／何人［なはたかく］／文和 5 年

うきことも―われとしるへきーあきなるに
うゑすはきかしーをきのうはかせ

【菟玖波集／広島大学本】／雑一／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

憂い鴫の羽掻き（ういしぎのはねかき）

→儚い（はかない）

かそふるもうきーしきのはねかき
あきならてーかよふこころのーはかなしや

【元和年間百韻２４巻】／□□［あさなあさな］／元和 8(1622) 年 2 月 29 日

うきはまくらの―しきのはねかき
すむつきにーおとろくゆめはーはかなしや

【寛永年間百韻１５巻】／□□［とよとしの］／裏白／寛永 20(1643) 年 1 月 3 日

憂い冬籠り（ういふゆごもり）

→朝な朝な（あさなあさな）

うきふゆこもりーいつかかるらむ
しつかなるーなにはのうみのーあさなあさな

【伊勢千句】／山何［みるめかれ］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

うきふゆこもりーなといそくらむ
ふくかせもーまたさむからぬーあさなあさな

【天正四年万句７０巻】／何物［きくやいかに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

憂きをただ慰める（うきをただなぐさめる）

→一筆の跡（ひとふでのあと）

うきをたたーわすれかたみにーなくさめよ
それさへたゆるーひとふてのあと

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

うきをたたーこころとしはしーなくさめて
しのへはのこすーひとふてのあと

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

憂く辛い（うくつらい）

→花の山風（はなのやまかぜ）

うくつらきーほとこそせめてーたのみなれ
きそひそめにしーはなのやまかせ

【東山千句】／何草［つきにかり］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

うくつらきーちきりならすやーゆめになせ
うらむもはかなーはなのやまかせ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

旅は憂い

→袖が露っぽい

たひそうきーこころはあきにーとまりふね
やとなきあまりーそてはつゆけし

【紫野千句】／何路［あふちさく］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

たひそうきーくさのまくらをーゆふまくれ
はらふともなくーそてはつゆけし

【太神宮法楽千句】／何路［ふきなかす］／長享 2(1488) 年 7 月

見るのも憂い

→紅葉散る頃

さもあらぬーなきなになしてーみるもうし
あらしのやまのーもみちちるころ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［まつみよと］／延徳 4(1492) 年 2 月 8 日

なかなかにーふたつのかはは－みるもうし
みむろたつたの－もみちちるころ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明8(1476) 年 5 月頃

我でなくなるのが憂い

→苔の戸の夕嵐

うしやわれにもーあらすなりゆく
はなをふくーこけのとほそのーゆふあらし

【春夢草／書陵部本】／春／永正 12(1516) 年、13 年

うしやわれにもーあらすなりゆく
こけのとのーはなにふきたつーゆふあらし

【論書４種】／宗牧／

うえ

上は連れない

→色付く

うへはつれなきーまつのしたつゆ
ひさきちるーはまちのしらすーいろつきて

【文安年間百韻９巻】／山何［はなはひも］／文安 5(1448) 年 2 月 5 日

うへはつれなきーあらいそのまつ
なみよするーいはねのこくさーいろつきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 12 月 23 日

荻の上風

→秋の夜

そよともすれはーをきのうはかせ
さらぬたにーねさめかちなるーあきのよに

【菟玖波集／広島大学本】／秋上／文和5(1356) 年冬～翌年の春

たまくらなれやーをきのうはかせ
つきしろくーむすはぬゆめのーあきのよに

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文9(1541) 年 12 月 25 日

→古里人

ゆめにうらむるーをきのうはかせ
みしはみなーふるさとひとのーあともうし

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

かりもなくなりーをきのうはかせ
たかあきとーふるさとひとのーまたるらむ

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

→思う

ひとはおとせすーをきのうはかせ
あきやきてーわかふるさととーおもふらむ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

そてをそはらふーをきのうはかせ
いかてかはーさてもとはぬをーおもふらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

→古里

そふるやうらみーをきのうはかせ
ひまもなくーのきはくすはふーふるさとに

【永正年間百韻３４巻】／何路〔あきにかせ〕／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

おもひたゆまぬーをきのうはかせ
もとあらのーこはきうつろふーふるさとに

【合点之句／神宮文庫本】／独吟百韻／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→夕まぐれ

そよそのことと－をきのうはかせ
なかめつつーたちつつわふるーゆふまくれ

【伊予千句】／御何〔すすしさは〕／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

みもあへぬつゆに－をきのうはかせ
むらさめのーくもまにつきのーゆふまくれ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

霞の内の水の水上

→言問う

かすみのうちの－みつのみなかみ
ことはむ－いつくかはるの－みなとかは

【天文年間百韻３８巻】／何人〔はなのいろも〕／天文 14(1545) 年 2 月 25 日

かすみにおつるーみつのみなかみ
はるくるるーうちのしはふねーことはむ

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／文正元 (1466) 年（7 月 16 日）

霧の上

→夕まぐれ

きりのうへなるーたかまとのみや
ゆふまくれーろうはあつさや－しらさらむ

【大原野十花千句】／初何〔こからしを〕／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

きりのうへなるーやまのしつけさ
ひとこゑのーかねよりあきの－ゆふまくれ

【平松文庫本千句】／□□〔かきおこせ〕／

桜の上

→鐘鳴る

さくらかうへのーやまのはのつき
はるふかき－ふもとのさとにーかねなりて

【三島千句】／初何〔うつろふか〕／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

さくらかうへのーあけほののいろ
かすみより－よしののみたけ－かねなりて

【応仁年間百韻６巻】／何人〔つきのあき〕／応仁 2(1468) 年 1 月 1 日

月の川上

→鐘の音

かけはしとほきーつきのかはかみ
かねのおと－くるるもなみの－まかひにて

【永禄年間百韻２８巻】／何人〔ふちかえや〕／永禄 7(1564) 年 3 月 15 日

さやかにうつるーつきのかはかみ
きりはるるーゆふへのそらのーかねのおと

【天正年間百韻５７巻】／何路〔たちそひて〕／天正 6(1578) 年 1 月 3 日

涙が我が袖の上

→思う

つゆもなみたもーわかそてのうへ
ひとしれぬ－みにはなにをかーおもふらむ

【文安年間百韻９巻】／山何〔ふたたひの〕／文安 5(1448) 年 11 月 12 日

いつもなみたのーわかそてのうへ
とふひとやーこよひはかりとーおもふらむ

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

浪の上

→藻塩の煙

なくさむるーつきはあかしのーなみのうへ
もしほのけふり－あきふかくみゆ

【伊庭千句】／何人〔うすくもり〕／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

うみやまのーあさゆふかはる－なみのうへ
もしほのけふりーをちのしらくも

【享禄年間百韻８巻】／白何〔あさみとり〕／享禄 3(1530) 年 3 月 2 日

→舟の内

なみのうへなるーあまのいへしま
いてぬひもーこころやうかふーふねのうち

【伊庭千句】／何文［たかはるの］／大永4(1524) 年 3 月 17 日〜21 日

まつらのやまそーなみのうへなる
ほととぎすーききてやすらふーふねのうち

【文明年間百韻３４巻】／夕何［みつみえぬ］／千句第□／文明 17(1485) 年 6 月 26 日

蓮の上

→蜩

はちすのうへのーたのみたかふな
ひくらしのーこゑにすすしきーいけのおも

【五吟一日千句】／薄何［あけほのの］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

はちすのうへのーつゆもみたるな
ひくらしの―なくゆふかせにーつきいてて

【萱草／伊地知本】／秋／文明 6(1474) 年 2 月以前

枕の上

→月のさやけさ

なかむれはーまくらのうへのーみねのくも
かねにおちくるーつきのさやけさ

【皇学館文庫本千句】／□□［よははなに］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

おきそふやーまくらのうへのーあきのしも
いたまもりいる―つきのさやけさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はなちれは］／慶長 4(1599) 年閏 3 月 21 日

うえる

植える田

→晴れた五月雨の空

さなへとりーみつせきいれてーううるたに
いつをはれまそーさみたれのそら

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

ううるたにーよそのかけひをーせきいれて
はれてくもあるーさみたれのそら

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

花植える

→若木の桜

うきよにもーいのちのをしきーはなうゑて
わかきのさくらーたのむいくはる

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［ひそをしき］／応永 30(1423) 年 3 月 29 日

すまひとのーよかたりになるーはなうゑて
わかきのさくらーはるそひさしき

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつかねに］／応永 32(1425) 年 3 月 25 日

うく

心浮かれる

→帰る

こころうかるるーゆきのあけほの
わかれつるーひとはいつくにーかへるらむ

【文明十四年万句５２巻】／扇何［かせのほり］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

ゆめのあとにそーこころうかるる
よひのまのーひとやあたねにーかへるらむ

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

立って浮かれる

→誘う

かすめるのへにーたちそうかるる
そらたかくーひはりやともをーさそふらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［ここのへの］／延徳 2(1490) 年 3 月 8 日

そこはかとなくーたちそうかるる
ものおもひーやとやこころもーさそふらむ

【明応年間百韻２２巻】／何路［こそたちし］／明応 6(1497) 年 1 月 1 日

なみのうきふね
浪の浮舟

→手習い

よるへはいつくーなみのうきふね
てならひはーまたいとけなきーころそかし

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

ことにこきいるーなみのうきふね
てならひはーにはのをしへのーほとなるに

【看聞日記紙背５０巻】／何人［かみにうめ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

ゆめのうきはし
夢の浮橋

→古

ねぬよにくつるーゆめのうきはし
いにしへのーなからのみやにーつきをみて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

うつつともかなーゆめのうきはし
いにしへのーふてのまきまきーほのかにて

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

→御幸する

そをたにかけよーゆめのうきはし
みゆきせしーあとはしたふもーとほきよに

【明応年間百韻２２巻】／山何［ほとときす］／明応 9(1500) 年 4 月 9 日

あとものこらぬーゆめのうきはし
みゆきせしーそのよこひしきーふるてらに

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

→涙河

つくやまくらのーゆめのうきはし
とこのうへのーうたかたやみのーなみたかは

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

はかなくかよふーゆめのうきはし
わたるせはーいつくなるらむーなみたかは

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［わかくさも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→春の夜

とたえかちなるーゆめのうきはし
ねぬるまのーほとはみしかきーはるのよに

【永禄石山千句】／何人［つきやかる］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

たえはてけりなーゆめのうきはし
いとはやもーあけなむとするーはるのよに

【寛正年間百韻２０巻】／□□［なかつきと］／寛正 2(1461) 年 9 月

→峰に分かれる

たたつゆのまのーゆめのうきはし
つきいれはーみねにわかるるーよるのくも

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

うぐいす

あさくるうぐいす
朝来る鶯

→玉簾

あさけしつかにーきぬるうくひす
たますたれーまけはそともの－うちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほとときす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

あさとあくれはーきぬるうくひす
たますたれ－ひま□のとかにーひのさして

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

うぐいす
鶯

→朝明け長閑

うくひすのーこゑにすたれをーまきあけて
ゆきはれわたるーあさけのとけし

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねふかきや］／慶長 4(1599) 年 2 月 8 日

うくひすのーさへつるみきりーあめすきて
たけのそよきもーあさけのとけし

【寛永年間百韻１５巻】／□□［かみのます］／裏白／寛永 12(1635) 年 1 月 3 日

→有明の月（ありあけのつき）

うくひすの―こゑもうつろひ―はなおちてつゆかすむよの―ありあけのつき

【永原千句】／何人［みわたせは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

うくひすの―□□□□いつる―たにのとにみつほのかなる―ありあけのつき

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

→霞む曙（かすむあけぼの）

うくひすの―こゑにのはたれ―すきやらむたひねのそらは―かすむあけほの

【伊勢千句】／何路［けふみるや］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

うくひすの―うちはふきくる―そののうちまかきのつきの―かすむあけほの

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

うくひすの―ちきりもふかき―うめかえにゆきまほのほの―かすむあけほの

【天正四年万句７０巻】／何色［ちるはなも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→園の群竹（そののむらたけ）

うくひすの―すみかにならす―あさなあさなことしかうゑし―そののむらたけ

【宮島千句】／何路［つきやけさ］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

うくひすの―こゑはかすまぬ―あさとかなはるのよのこす―そののむらたけ

【天正四年万句７０巻】／花何［うくひすの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→谷の戸の山（たにのとのやま）

うくひすの―ねもうららかに―ほころひてあさひにむかふ―たにのとのやま

【天正四年万句７０巻】／青何［ゆくみつに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

うくひすの―きのふけふかに―すをいててまたさりやらぬ―たにのとのやま

【天正四年万句７０巻】／竹何［まつほとや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→残る曙（のこるあけぼの）

うくひすの―まかきにこむる―こゑはしておきゐてみれは―のこるあけほの

【宗長追善千句】／山何［こほるるや］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

うくひすの―こころしらるる―うめさきてつきはかすみに―のこるあけほの

【羽柴千句】／薄何［たちはなの］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

→光長閑（ひかりのどか）

うくひすの―こゑにちさとの―はるたちてそともにうつる―ひかりのとけし

【慶長年間百韻２７巻】／□□［まつやなほ］／裏白／慶長 10(1605) 年 1 月 3 日

うくひすの―かきほのゆきを―はらひきてにははあさけの―ひかりのとけし

【寛永年間百韻１５巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永 8(1631) 年 1 月 3 日

→花を待つ（はなをまつ）

うくひすは―かきねのたけの―はつ□にてうすきかすみに―はなそまたるる

【諸尊法紙背３巻】／手何［むすふにも］／建武 4(1337) 年 6 月 23 日

うくひすは―のとかなるのに―なきそめてなかきひかけに―はなそまたるる

【文明年間百韻３４巻】／□□［はたはりや］／文明 14(1482) 年 9 月

→道の遥けさ（みちのはるけさ）

うくひすの―こゑはとやまの―かけさえてのへにうつれる―みちのはるけさ

【河越千句】／朝何［うめそのに］／文明2(1470) 年正月 10〜12 日

うくひすの－つゆふむのへは－くれそめて
いそくやとりの－みちのはるけさ

【文明年間百韻３４巻】／何路［やまかせに］／文明 15(1483) 年 3 月 2 日

→雪はふりつつ

うくひすの－はつねほのめく－あさまたき
はれみくもりみ－ゆきはふりつつ

【寛正年間百韻２０巻】／何路［うめのはな］／寛正 3(1462) 年 2 月 25 日

うくひすの－こゑよりとしは－くれそめて
つもるかうへに－ゆきはふりつつ

【天文年間百韻３８巻】／何人［はなにふきし］／天文 23(1554) 年 6 月 2 日

鶯が鳴く

→明け方

ねくらもしるく－うくひすそなく
つきかすむ－にひたまくらの－あけかたに

【享徳二年千句】／何路［くまもなき］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

はねならはしの－うくひすそなく
さそはれむ－はるをちさとの－あけかたに

【池田千句】／唐何［はなにあけて］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

またふるゆきを－うくひすそなく
たけあめる－とほそはまたき－あけかたに

【永正年間百韻３４巻】／山家［ひとめさへ］／永正 8(1511) 年 11 月 3 日

→花と朝ぼらけ

あはれをそへて－うくひすそなく
あかすねし－つきとはなとの－あさほらけ

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日〜25 日

さそふひかけに－うくひすそなく
さきいてぬ－はなのにほひや－あさほらけ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

→霞むこの朝

はねならはせる－うくひすそなく
このあした－ほのほのかすむ－のにいてて

【出陣千句】／何袋［はなさかり］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日〜27 日

たけをはやしと－うくひすそなく
うちなひき－かすみにけりな－このあした

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

→朝ぼらけ

うくひすのなく－こゑのしつけさ
うちなひく－のへはかすみの－あさほらけ

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

きけはかすかに－うくひすのなく
かけひろき－たけのはやしの－あさほらけ

【元和年間百韻２４巻】／□□［とけゆけは］／裏白／元和 8(1622) 年 1 月 3 日

→時鳥

なつもかへらて－うくひすのなく
はつこゑを－いつしかとまつ－ほとときす

【天正年間百韻５７巻】／□□［かみかきの］／天正 17(1589) 年 5 月 24 日

ゆくをやしたふ－うくひすのなく
ほとときす－すをたつこゑも－きかまほし

【春夢草／書陵部本】／夏／永正 12(1516) 年、13 年

鶯の声

→谷の戸は明けても遅い日の光

かすみにもるる－うくひすのこゑ
たにのとは－あけてもおそき－ひのひかり

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

みきりをよその－うくひすのこゑ
たにのとは－あけてもおそき－ひのひかり

【文禄年間百韻１２巻】／□□［けさのまに］／文禄 2(1593) 年 1 月 14 日

→朝ぼらけ

かけ□みやまの－うくひすのこゑ
あさほらけ－かすむかたより－しもとけて

【元亀二年千句】／何路［はなにつきに］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

はかせもゆるき－うくひすのこゑ
こすのとは－さえさえしよの－あさほらけ

【天文年間百韻３８巻】／何人［うつせよに］／天文 21(1552) 年 2 月 23 日

→霞む朝まだき

よそにうつろふ－うくひすのこゑ
なかめわひぬ－かすむのかみの－あさまたき

【永正年間百韻３４巻】／白何［さみたれや］／千句第五／永正 15(1518) 年 5 月 14 日

ほのかにきぬる－うくひすのこゑ
やまのはの－かすみよふかき－あさまたき

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

いつくかねくら－うくひすのこゑ
あさまたき－けふのきちかく－かすむらむ

【文明十五年千句１１巻】／二字返音［はなははの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

→うち霞む

なれてひさしき－うくひすのこゑ
くれたけの－かけもちひろに－うちかすみ

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いまこそなけな－うくひすのこゑ
すゑなひく－ひとむらたけの－うちかすみ

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［まつうきて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かきねをしたふ－うくひすのこゑ
のきはさへ－はるけきみねに－うちかすみ

【天正四年万句７０巻】／何路［やまかはも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→枝に梅咲く

すのうちになく－うくひすのこゑ
まつにほふ－みなみのえたに－うめさきて

【至徳以前百韻７巻】／何所［ちりぬるか］／至徳 4(1387) 年以前

かすみにならす－うくひすのこゑ
しもはかつ－きえしかたえの－うめさきて

【天文年間百韻３８巻】／何人［こよひまつ］／天文 20(1551) 年 9 月 12 日

やとからさひし－うくひすのこゑ
あさちふに－ひともとたてる－うめさきて

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

→霞みつつ

わかやととはぬ－うくひすのこゑ
かすみつつ－ありあけのこる－やまにねて

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

いつちこつたふ－うくひすのこゑ
かすみつつ－しものしつくの－おとはして

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何人［やまみつは］／成立時不詳

→霞む野

うめかかなれや－うくひすのこゑ
なくさめと－あれたるむらも－かすむのに

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

うめかかとむる－うくひすのこゑ
しもふかき－あけかたとほみ－かすむのに

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

→霞む

はるまたさむき－うくひすのこゑ
たにのとや－けしきはかりに－かすむらむ

【伊予千句】／山何［やとりとへ］／天文6(1537) 年 5 月 22 日

いつくかねくらーうくひすのこゑ
あさまたきーけふのきちかくーかすむらむ

【文明十五年千句１１巻】／二字返音［はなははの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

のこりおほかるーうくひすのこゑ
のへやなほーくれゆくままにーかすむらむ

【文禄二年千句１０巻】／山何［まつとしる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

→そことなく霞む

やなきやうきねーうくひすのこゑ
そことなくーかすみたなひきーあくるよに

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

はねうちかはすーうくひすのこゑ
そことなくーかすむのもせのーむらすすめ

【天正四年万句７０巻】／初何［そてくちか］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→水絶え絶え

やまかけつたふーうくひすのこゑ
たけをゆくーさとのかけみつーたえたえに

【熊野千句】／何船［のとかなる］／文正元 (1466) 年 3 月以前

のきはにちかきーうくひすのこゑ
こほりとくーにはのやりみつーたえたえに

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

→春残る

ききてやすらふーうくひすのこゑ
あけほのやーはるゆくひとにーのこるらむ

【秋津洲千句】／唐何［うめかかの］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

はなちるさとのーうくひすのこゑ
はるやたたーたけひとむらにーのこるらむ

【天正四年万句７０巻】／何風［ふちなみに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→時鳥

したひもてゆくーうくひすのこゑ
きかはやもーやよひのすゑのーほとときす

【羽柴千句】／朝何［よもにふく］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

またほのかなるーうくひすのこゑ
なつきてもーいかにつれなきーほとときす

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかたけを］／文禄 2(1593) 年 5 月 20 日

なかぬほとまつーうくひすのこゑ
なつちかきーみやまのさとのーほとときす

【天正四年万句７０巻】／何鳥［かせにしるき］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→雪消える

けさのきちかきーうくひすのこゑ
やまかすむーかけにきのふのーゆききえて

【美濃千句】／何船［ひとやいつ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

かりねのやまはーうくひすのこゑ
はらひゆくーたもとにはるのーゆききえて

【天文廿四年梅千句】／何人［うめいつく］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かすみのうちのーうくひすのこゑ
ありあけのーつきにうちちるーゆききえて

【天文年間百韻３８巻】／何人［かせみえて］／千句第四／天文 13(1545) 年閏 11 月 25 日

→夜半の月

かすむあしたのーうくひすのこゑ
のとかにもーねやのとをしきーよはのつき

【天文廿四年梅千句】／山何［うちなひき］／天文 24(1555) 年正月 7 日

あくれはちかきーうくひすのこゑ
まきのとのーそともはうすきーよはのつき

【天正年間百韻５７巻】／何木［ひとへつつ］／裏白／天正 18(1590) 年 1 月 3 日

→春の野（はるのの）

たれすきかてのーうくひすのこゑ
はるののにーこころもみゆるーこまとめて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うらかせの］／永正 14(1517) 年 6 月

たつねてゆかむーうくひすのこゑ
たれとなくーいへゐゆかしきーはるののに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

野辺近い鶯（のべちかいうぐいす）

→雪の竹の末々（ゆきのたけのすえすえ）

のへちかきーやとのうくひすーねをたえて
ゆきをれふかきーたけのすゑすゑ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［うたふよの］／永禄 5(1563) 年 12 月 9 日

のへちかきーにはのうくひすーこゑそひて
ゆきのとけゆくーたけのすゑすゑ

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

うける

懸樋に受ける水（かけいにうけるみず）

→ここかしこ（ここかしこ）

かけひにうくるーみつのまにまに
ここかしこーいはのはさまもーううるたに

【浜宮千句】／□□［ちりうせぬ］／

かけひにうくるーおほかはのみつ
ここかしこーなかれのすゑかーいせのうみ

【天正四年万句７０巻】／下何［むらさきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

うすい

薄煙（うすけむり）

→松の一本（まつのひともと）

うすけふりーあともさひしきーたにのおく
こけふむいはのーまつのひともと

【河越千句】／白何［はるかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

のへのくれーたけもなひけるーうすけふり
たかすむのきそーまつのひともと

【文明十四年万句５２巻】／何国［ほととぎす］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

うた

歌の品々（うたのしなじな）

→花の木の下（はなのこのもと）

あはれにもーうたのしなしなーよみかはし
しるもしらぬもーはなのこのもと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

すちかへすーうたのしなしなーたたならす
いつれとめつるーはなのこのもと

【元和年間百韻２４巻】／□□［さほひめや］／元和 6(1620) 年 1 月 24 日

心争う歌（こころあらそううた）

→鶯の声々（うぐいすのこえごえ）

こころあらそふーうたのくちくち
はるされはーうくひすかはつーこゑこゑに

【初瀬千句】／何衣［しけるとも］／享徳元・2(1452) 年、4 月

こころあらそふーうたのかちまけ
こゑこゑにーなくうくひすをーこにいれて

【文明十四年万句５２巻】／栗何［あけてみむ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

うち

雨の内（あめのうち）

→山時鳥（やまほととぎす）

つれつれはーなほまさりゆくーあめのうち
おとつれすてしーやまほととぎす

【元和年間百韻２４巻】／□□［としとしに］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

しつかにとーうちかたらへるーあめのうち
くもゐるまとのーやまほととぎす

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

内の雪（うちのゆき）

→浪の浮舟（なみのうきふね）

もろともにーひともわけけりーうちのゆき
よるへはいつくーなみのうきふね

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

あとみするーしのひかよひのーうちのゆき
ことにこきいるーなみのうきふね

【看聞日記紙背５０巻】／何人［かみにうめ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

霞の内の水の水上（かすみのうちのみずのみなかみ）

→言問う（こととう）

かすみのうちのーみつのみなかみ
ことととはむーいつくかはるのーみなとかは

【天文年間百韻３８巻】／何人［はなのいろも］／天文 14(1545) 年 2 月 25 日

かすみにおつるーみつのみなかみ
はるくるるーうちのしはふねーことととはむ

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／文正元 (1466) 年（7 月 16 日）

草の戸の内（くさのとのうち）

→待ち侘びる（まちわびる）

ひとりねつらしーくさのとのうち
うちすさふーころもかたしきーまちわひて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

すみうかるるやーくさのとのうち
すてしみもーいまはのゆふへーまちわひて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑下／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

五月雨の内（さみだれのうち）

→時鳥（ほととぎす）

かけはしいつこーさみたれのうち
ひとこゑはーくもにとわたるーほととぎす

【永禄年間百韻２８巻】／何船［あととふを］／永禄 3(1560) 年 11 月 9 日

とふひとまれのーさみたれのうち
ゆめにしもーおとつれてなけーほととぎす

【文禄二年千句１０巻】／何船［あめかした］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

柴の戸の内（しばのとのうち）

→思う（おもう）

すめはのとけきーしはのとのうち
ならはしのーみをなとつらくーおもふらむ

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

なほたちかへるーしはのとのうち
みをすてはーいつくもとなとーおもふらむ

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

ただ夢の内（ただゆめのうち）

→まどろむ（まどろむ）

おとつれぬるやーたたゆめのうち
つきよよしーとはまちつるもーまとろみて

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

ひかりのかけはーたたゆめのうち
ともしひのーふくるもしらすーまとろみて

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

古宮の内（ふるみやのうち）

→燕（つばくらめ）

すたれやつるるーふるみやのうち
つはくらめーいているのきのーひましけく

【寛正年間百韻２０巻】／何人［うめおくる］／寛正 6(1465) 年 1 月 16 日

はるをわすれぬーふるみやのうち
おなしすにーこころやかくるーつはくらめ

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

雪の内（ゆきのうち）

→冬籠もる頃（ふゆこもるころ）

むらとりのーたつたにみえぬーゆきのうち
たれとくらさむーふゆこもるころ

【三島千句】／御何［はるとほし］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

たくしはのーのこるともなきーゆきのうち
かせもあたらすーふゆこもるころ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何袋［またしかし］／成立時不詳

うつ

麻衣打つ（あさごろもうつ）

→人は訪い来ない（ひとはといこない）

うらみをもーうちそへかましーあさころも
あさましきまてーひとはとひこす

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／山何［めつらしき］／成立時不詳

あさころもーうつなるこゑのーふくるよに
かはるこころかーひとはとひこす

【文明十四年万句５２巻】／何緑［あさかはや］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

打ち返す田（うちかえすた）

→蛙鳴く（かわずなく）

うちかへすーたのものなかれーあめはれて
をりをえかほにーかはつなくなり

【天文十八年梅千句】／何人［みしいろは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

うちかへすーこそのあらたはーさひしきに
ときもわすれすーかはつなくなり

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

竹を打つ声（たけをうつこえ）

→夜が更ける（よがふける）

あられときときーたけをうつこゑ
ねぬとりよーあなかまよはもーふけぬらむ

【伊庭千句】／三宇中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

ゆふへのあめのーたけをうつこゑ
いつのまにーあられふるよのーふけぬらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

うつのやま

宇津の山（うつのやま）

→蔦の下道（つたのしたみち）

うつのやまーあひみるひともーなみたにて
ふゆはかれぬるーつたのしたみち

【文明十四年万句５２巻】／玉何［ゆきならは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

わかかたへーふみことつくるーうつのやま
やすらひにけりーつたのしたみち

【文明十五年千句１１巻】／何風［たきなみや］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

宇津の山越え（うつのやまごえ）

→秋の風（あきのかぜ）

つきにもまよふーうつのやまこえ
しもはらふーみちのゆくてのーあきのかせ

【延徳年間百韻１６巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳 4(1492) 年 3 月 3 日

あはれはおなしーうつのやまこえ
ふるさとのーゆふへなりけりーあきのかせ

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

うつる

移り持て行く（うつりもてゆく）

→起き出でる（おきいでる）

うつりもてゆくーあきのかなしさ
いまこむとーなくさめつつもーおきいてて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

うつりもてゆくーそてのつきかけ
つゆをしくーかりねののへをーおきいてて

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

移ろう（うつろう）

→有明の月（ありあけのつき）

ひのかけはーかたへのやまにーうつろひて
けさまてすすしーありあけのつき

【弘治三年春雪千句】／何田［うくひすの］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

さまさまのーあきのくさきもーうつろひて
こころふかきはーありあけのつき

【春夢草／書陵部本】／秋／永正 12(1516) 年、13 年

小萩移ろう（こはぎうつろう）

→秋の風（あきのかぜ）

こはきうつろふーいねかてのころ
しをるなよーみにいまよりのーあきのかせ

【延徳年間百韻１６巻】／夢想［すみよしの］／延徳 2(1490) 年 9 月

こはきうつろふーふるあとのには
とふひともーあらぬすみかのーあきのかせ

【天正年間百韻５７巻】／何木［けふかへよ］／天正 9(1581) 年 4 月 1 日

袖の移り香（そでのうつりが）

→菖蒲草（あやめぐさ）

のこりもふかきーそてのうつりか
ふきすてしーきのふのつまのーあやめくさ

【元亀二年千句】／何木［たきなみの］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

なにはかなしやーそてのうつりか
あやめくさーかくるよとのはーあれまさり

【浜宮千句】／□□［ときもよも］／

→面影（おもかげ）

これそかたみのーそてのうつりか
おもかけはーてにもたまらすーまたきえて

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

わかれしきみかーそてのうつりか
おもかけはーなかなかつらきーなこりにて

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

わすれむものかーそてのうつりか
おもかけはーくれしものこるーきくのあき

【天正年間百韻５７巻】／何船［みちみちを］／天正 13(1585) 年 5 月 27 日

→形見（かたみ）

また□□□□□ーそてのうつりか
ありあけはーあふ□□□□のーかたみにて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

きゆるもをしやーそてのうつりか
たまくらはーみをはなたれぬーかたみにて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［しかそなく］／天文 24(1555) 年 9 月 19 日

→ 橘（たちばな）

ともにやとまるーそてのうつりか
たちはなはーむかしのつまのーゆかりにて

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつちかし］／応永 32(1425) 年 6 月 25 日

ちきりはかなきーそてのうつりか
たちはなはーかけたにみえすーくつるのに

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはらも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

うのはな

卯の花（うのはな）

→多摩川の浪（たまがわのなみ）

うのはなのーかかるかきほやーたわむらむ
ゆふかけちかしーたまかはのなみ

【称名院追善千句】／何船［をしましと］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

うのはなのーかきほたわわにーさきかかり
さとはいつくのーたまかはのなみ

【毛利千句】／何船［みてもおもふ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

うみ

春の海面（はるのうみつら）

→長閑（のどか）

かりもかへるなーはるのうみつら
のとかなるーしほひのをちにーやまをみて

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

まつみえわたるーはるのうみつら
のとかなるーなみにうかはぬーふねもなし

【明応年間百韻２２巻】／何木［やまはゆき］／明応 7(1498) 年 11 月 4 日

うめ

梅咲く（うめさく）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

いつはともーわかきにまちしーうめさきて
ほのかにきぬるーうくひすのこゑ

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

わかなつむーのをなつかしみーうめさきて
ふりにしあとにーうくひすのこゑ

【成立不詳・宗養以前８巻】／山何［ひとこゑや］／成立時不詳

梅匂う（うめにおう）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

かたえほのほのーうめにほふなり
うくひすのーはふきにあくるーあさほらけ

【称名院追善千句】／何人［せめてさは］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

ふゆきなからにーうめにほふなり
かせはまたーかすむともなきーあさほらけ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

→鶯（うぐいす）

かたえほのほのーうめにほふなり
うくひすのーはふきにあくるーあさほらけ

【称名院追善千句】／何人［せめてさは］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

つつくかきねのーうめにほふなり
うくひすのーこゑするかたのーこすまきて

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

梅匂う頃（うめにおうころ）

→鶯（うぐいす）

たけのさえたもーうめにほふころ
うくひすのーはふきにつゆやーこほるらむ

【天文年間百韻３８巻】／何路［あさかほの］／天文 10(1541) 年 7 月 29 日

かすめるつきにーうめにほふころ
うくひすのーはなにねぬよのーこゑもかな

【心敬関係１０種】／心玉集／陽明文庫本／

梅の香（うめのか）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

うめかかのーこすゑにをしきーたもとかな
ききてやすらふーうくひすのこゑ

【秋津洲千句】／唐何［うめかかの］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

うめかかのーかすみふきとけーあさあらし
ゆきにこほれるーうくひすのこゑ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［うめかかの］／成立時不詳

うめかかやーすたれのほかにーにほふらむ
にはにいりくるーうくひすのこゑ

【寛正年間百韻２０巻】／何船［とりねむる］／寛正 6(1465) 年 12 月 14 日

うめかかやーそのよのそてにーのこるらむ
あけほのしたふーうくひすのこゑ

【心敬関係１０種】／芝草内岩橋／本能寺本／

→春を知る（はるをしる）

うめかかのーまへわたりするーたますたれ
よふかくおきてーはるそしらるる

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［ちりうせぬ］／天文 19(1550) 年 2 月 17 日

うめかかの―そてよりほかにーうつりきて
かすみのおくもーはるそしらるる

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

梅の香がする（うめのかがする）

→起き出でる（おきいでる）

たをらまほしきーうめかかそする
そことなくーかすむあけほのーおきいてて

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

たちえはかすむーうめかかそする
はるのよはーまたあけぬよりーおきいてて

【天正年間百韻５７巻】／□□［ききわくや］／天正 18(1590) 年 10 月 8 日

→日影さす（ひかげさす）

しはののきはもーうめかかそする
ひかけさすーゆきやしつくにーのこるらむ

【伊勢千句】／薄何［たかための］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

とほそひらけはーうめかかそする
ひかけさす―のきはのつららーけさとけて

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

梅の一本（うめのひともと）

→鶯（うぐいす）

さきそめにけむ―うめのひともと
うくひすの―うちはふきくるーそののうち

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

やつれてにほふーうめのひともと
うくひすのーいくはるとなきーこゑおいて

【大永三年月並千三百韻】／□□［やまいくへ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 8 月 23 日

こしけきなかのーうめのひともと
うくひすの―うちはふきたるーこゑすなり

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

紅の梅（くれないのうめ）

→鶯（うぐいす）

しろきかのちのーくれなゐのうめ
うくひすのーしもにあさひをーまちとりて

【大原野十花千句】／何船［ひときつつ］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

あかぬなかめやーくれなゐのうめ
うくひすの―みきりはなれすーこゑはして

【元和年間百韻２４巻】／□□［やつかほの］／元和 6(1620) 年 8 月 23 日

ゆきをやそむるーくれなゐのうめ
うくひすのーのきはのみねにーなきそめて

【文明十四年万句５２巻】／何水［たまやとる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

袖の梅の香（そでのうめのか）

→鶯（うぐいす）

かすみもあへぬーそてのうめかか
うくひすの―こゑもゆくゆくーとほきのに

【天文年間百韻３８巻】／何人［みれはみし］／天文 13(1545) 年 12 月 25 日

もるるかたやはーそてのうめかか
うくひすのーそともにうつるーこゑすなり

【永禄年間百韻２８巻】／何船［あととふを］／永禄 3(1560) 年 11 月 9 日

匂う梅の香（におううめのか）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

とへとやつけしーにほふうめかか
はるとしもーあらてゆきふるーあさほらけ

【大永年間百韻１４巻】／何人［あきのつき］／大永 6(1526) 年 9 月 13 日

こすふくかせにーにほふうめかか
いととさへーこころうかるるーあさほらけ

【天正四年万句７０巻】／何路［ちりとのみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

宿の梅（やどのうめ）

→軒の鶯の声（のきのうぐいすのこえ）

ひとやいつーはるのとひくるーやとのうめ
けさのきちかきーうくひすのこゑ

【美濃千句】／何船［ひとやいつ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

たをるなとーそてにやにほふーやとのうめ
のきはにきなくーうくひすのこゑ

【文明年間百韻３４巻】／何人［たをるなと］／文明 15(1483) 年 1 月 16 日

宿の梅の香（やどのうめのか）

→鶯（うぐいす）

かこふにもるるーやとのうめかか
うくひすの―のへよりのへにーなきいてて

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

たちえかくれぬーやとのうめかか
うくひすのーこゑするつきやーあけぬらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

なきひとしたへーやとのうめかか
うくひすのーなくねもたれをーしのふらむ

【享禄年間百韻８巻】／追善［あきのこゑ］／享禄 5(1532) 年 7 月 29 日

つほみにこもるーやとのうめかか
うくひすのーかきほのゆきをーはらひきて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永 8(1631) 年 1 月 3 日

うら

志賀の浦舟（しがのうらぶね）

→神祭（かみまつり）

よもあけかたのーしかのうらふね
かみまつりーもよほすそてのーいさなひに

【天文十八年梅千句】／山何［うめさけは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

なみたにかすむーしかのうらふね
たひひとにーあくるやけふのーかみまつり

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

須磨の浦（すまのうら）

→浪此処許（なみここもと）

よもすからーつきのかけのみーすまのうら
なみここもとにー□□□□□なる

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永 19(1412) 年 1 月 14 日

うみつらのーかすみそめたるーすまのうら
なみここもとにーちかきしほとき

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［ひそをしき］／応永 30(1423) 年 3 月 29 日

ほとちかしーいくたのかはせーすまのうら
なみここもとにーよするとまやか

【文安頃千句４巻】／何路［やへひとへ］／

→妻訪う千鳥しば鳴く（つまとうちどりしばなく）

すまのうらやーわひつつおくるーあけくれに
つまとふちとりーかせにしはなく

【弘治年間百韻８巻】／何路［ゆくみつや］／弘治 2(1556) 年 3 月 24 日

すまのうらやーあかつきかたのーそらのつき
つまとふちとりーきりにしはなく

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのとき
も］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

須磨の浦浪（すまのうらなみ）

→藻塩焼く煙（もしおやくけむり）

ふなちにあらきーすまのうらなみ
もしほやくーけふりにうみもーかきくれて

【表佐千句】／唐何［つきはたた］／文明
8(1476) 年 3 月 6 日<～8 日>

みのうきふしにーすまのうらなみ
もしほやくーけふりはあさなーゆふなにて

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよ
の］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

→淡路潟（あわじがた）

ふねさしとむるーすまのうらなみ
あはちかたーうしほのむかふーせとをみて

【宝徳四年千句】／何人［はなそころ］／
宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

つきをみるよのーすまのうらなみ
あはちかたーせとのあきかせーみにしみて

【菟玖波集／広島大学本】／秋上／文和
5(1356) 年冬～翌年の春

住吉の浦（すみよしのうら）

→淡路島（あわじしま）

なみにはるたつーすみよしのうら
あさみとりーかすみにうかふーあはちしま

【大永四年月並千二百韻】／□□［そよと
しも］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 10
月 23 日

あくれはかすむーすみよしのうら
つきもたたーみるみるとほきーあはちしま

【慶長年間百韻２７巻】／□□［いなつま
も］／慶長 9(1604) 年 7 月 6 日

なお須磨の浦（なおすまのうら）

→友千鳥（ともちどり）

うくともたへてーなほすまのうら
をりをりはーたえすこととへーともちとり

【飯盛千句】／ｘｘ［かけすすし］／永禄
4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

なれなむほともーなほすまのうら
きくたにもーへたてさそなのーともちとり

【五吟一日千句】／何袋［さくはなの］／
天正 9(1581) 年 11 月 19 日

吹く浪の浦風（ふくなみのうらかぜ）

→鳥の鳴き立つ（とりのなきたつ）

ふきまとはせるーなみのうらかせ
さよふかきーうきねのとりのーなきたちて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなに
つき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3
月 23 日

ふきこそかはれーなみのうらかせ
なかそらにーまさこのちとりーなきたちて

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふく
や］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

うらなう

道の辻占（みちのつじうら）

→待ち侘びる（まちわびる）

ききもさためぬーみちのつしうら
はるかなるーたひのかへさをーまちわひて

【永禄石山千句】／青何［わくらはの］／
永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

こひにまよへるーみちのつしうら
まちわひてーわれとははやとーおもふみに

【文安頃千句４巻】／二字返音［はなをりて］
／

うらむ

心恨めしい（こころうらめしい）

→連れなく見る（つれなくみる）

おもひたえよのーこころうらめし
つれなくはーみえぬものからーとにかくに

【老葉／毛利本】／恋下／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

ひるますくせのーこころうらめし
つれなくはーたれあさかほのーはなもみむ

【園塵第四／早稲田大学本】／秋／永正 6、7 年

連れなさを恨む（つれなさをうらむ）

→有明の月（ありあけのつき）

つれなきをーさのみはいかてーうらむらむ
あはてこよひもーありあけのつき

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10〜12 日

つれなきもーまたつれなきやーうらむらむ
まつのはさはるーありあけのつき

【園塵第一／続群書類従本】／秋／長享 2 年

人が恨めしい（ひとがうらめしい）

→訪う（とう）

ふりはへてこぬーひとはうらめし
いつかたのーたよりにわれをーとひつらむ

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年 2 月以前

とほさかりぬるーひとはうらめし
おほつかなーたかこころにてーとひつらむ

【下草／龍谷大学本】／恋下／延徳 2(1490) 年〜3 年春頃

えだ

花の一枝（はなのひとえだ）

→山桜（やまざくら）

をるをはゆるせーはなのひとえた
ひとをこそーととむるせきのーやまさくら

【文和千句】／手何［はにしける］／文和 5 年

このかけもののーはなのひとえた
やまさくらーてをもゆるさすーをりもちて

【専順関係 2 種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

おい

老いの行く末（おいのゆくすえ）

→森の下草（もりのしたくさ）

あるにまかするーおいのゆくすゑ
たねさへにーもりのしたくさーよもかれし

【寛正年間百韻 2 0 巻】／何人［いはかねに］／寛正 2(1461) 年 9 月 23 日

たのむもあるやーおいのゆくすゑ
ふゆかれのーもりのしたくさーはるまちて

【新撰菟玖波集／実隆本】／冬／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

おうさかのせき

逢坂の関（おうさかのせき）

→時鳥（ほととぎす）

きのふこえにしーあふさかのせき
ひとこゑをーみやこのそらのーほとときす

【毛利千句】／何船［みてもおもふ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

こよひかたむるーあふさかのせき
つきになくーおとはのやまのーほとときす

【名所句集／静嘉堂文庫本】／夏／（大永前後）

越える逢坂の関（こえるおうさかのせき）

→木隠れる（こがくれる）

いつこえつらむーあふさかのせき
しけくなるーなけきにわかみーこかくれて

【住吉千句】／何木［つきはふゆ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日〜14 日

けふこえそむるーあふさかのせき
すきのはにーいりひのかけのーこかくれて

【文明十四年万句 5 2 巻】／何船［みつとりか］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

おうさかのやま

おうさかのやま
逢坂の山

→真葛

またもとたのむーあふさかのやま
さねかつらーさねしはかりはーなくさまて

【園塵第四／早稲田大学本】／恋／永正6、7年

なはかりなれやーあふさかのやま
ちきりしはーいつかさねこむーさねかつら

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文9(1541)年12月25日

こえるおうさかのやま
越える逢坂の山

→都の春霞

こゆるそつらきーあふさかのやま
へたつなよーかへりみやこのーはるかすみ

【文安雪千句】／何路［なほつもれ］／文安2(1445)年10月18日

こゆるなこりやーあふさかのやま
みやこよりーあらたまりゆくーはるかすみ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治3(1557)年正月7日～9日

おおはら

おおはらまつり
大原祭り

→春の宮人

おほはらやーまつりのそてのーあまたにて
みゆきことなるーはるのみやひと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長13(1608)年1月3日

おほはらやーかみのまつりもーちかつきて
はなをりかさすーはるのみやひと

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

おか

おかべのはじのひとむら
岡辺の櫨の一群

→夕日隠れ

をかへいろこきーはしのひとむら
つゆやなほーゆふひかくれにーのこるらむ

【出陣千句】／何袋［はなさかり］／永正元(1504)年10月25日～27日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【応仁年間百韻６巻】／何人［つきのあき］／応仁2(1468)年1月1日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【萱草／伊地知本】／秋／文明6(1474)年2月以前

おき

おきのしらなみ
沖の白浪

→立田山の秋

かせにまかするーおきつしらなみ
たつたやまーみねのこのはにーあきくれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

しくれつはれつーおきつしらなみ
たつたやまーあきふかくなるーほとみえて

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

おきのつりぶね
沖の釣舟

→浪の上

かすみはかりのーおきのつりふね
やまのははーほのかにたにもーなみのうへ

【永正十花千句】／何木［ひかすたに］／永正13(1516)年3月11日～14日

のとかにうかふーおきのつりふね
あけほのの－つきをひたせるーなみのうへ

【慶長年間百韻２７巻】／何人［わかくさの］／慶長4(1599)年1月22日

かすみにうかふーおきのつりふね
とふとりもーそれかあらぬかーなみのうへ

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［わかくさも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

沖の浪（おきのなみ）

→立田の山（たつたのやま）

はるかにもーからくそみゆるーおきつなみ
たつたのやまのーよはのかよひち

【永正十花千句】／何人［かせをのみ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

ひとにさてーいかかかたらむーおきつなみ
たつたのやまのーあきのいろいろ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

沖の舟（おきのふね）

→浦の朝明け（うらのあさあけ）

おきつふねーのとけきなみにーこききえて
つきになきたるーうらのあさあけ

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年 7 月

おきつふねーつきをともとやーいてぬらむ
あきかせさむきーうらのあさあけ

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

おぎ

荻に風（おぎにかぜ）

→物思う頃（ものおもうころ）

をきにかせーほのかにしのふーゆふまくれ
つきにもみえしーものおもふころ

【河越千句】／白何［はるかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

をきにかせーややはたさむくーはやなりて
つゆもわかみのーものおもふころ

【太神宮法楽千句】／白何［つゆなから］／長享 2(1488) 年 7 月

荻の上風（おぎのうわかぜ）

→秋の夜（あきのよ）

そよともすれはーをきのうはかせ
さらぬたにーねさめかちなるーあきのよに

【菟玖波集／広島大学本】／秋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

たまくらなれやーをきのうはかせ
つきしろくーむすはぬゆめのーあきのよに

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→古里人（ふるさとびと）

ゆめにうらむるーをきのうはかせ
みしはみなーふるさとひとのーあともうし

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

かりもなくなりーをきのうはかせ
たかあきとーふるさとひとのーまたるらむ

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

→思う（おもう）

ひとはおとせすーをきのうはかせ
あきやきてーわかふるさととーおもふらむ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

そてをそはらふーをきのうはかせ
いかてかはーさてもとはぬをーおもふらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

→古里（ふるさと）

そふるやうらみーをきのうはかせ
ひまもなくーのきはくすはふーふるさとに

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

おもひたゆまぬーをきのうはかせ
もとあらのーこはきうつろふーふるさとに

【合点之句／神宮文庫本】／独吟百韻／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→夕まぐれ

そよそのことと－をきのうはかせ
なかめつつ―たちつつわふる－ゆふまくれ

【伊予千句】／御何〔すすしさは〕／天文6(1537) 年 5 月 22 日

みもあへぬつゆに－をきのうはかせ
むらさめの－くもまにつきの－ゆふまくれ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

おく

奥山の陰

→打ち解けて

こころのほかの－おくやまのかけ
まつのとに－はらはぬゆきも－うちとけて

【秋津洲千句】／何人〔しかのねに〕／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

さりとてはまた－おくやまのかけ
うちとけて－なかぬみやこの－ほとときす

【園塵第一／続群書類従本】／夏／長享 2 年

み吉野の奥

→影暮れる

くもはいくへそ－みよしののおく
たつねつる－はなにやすらふ－かけくれて

【看聞日記紙背５０巻】／何物〔かみとうめ〕／応永 29(1422) 年 2 月 25 日

さとのほかなる－みよしののおく
かへらしよ－たつぬるはなの－かけくれて

【看聞日記紙背５０巻】／何船〔ゆきにみて〕／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

→花を見る

みをすつへくは－みよしののおく
わかやとと－たつねのみこし－はなをみて

【壁草／書陵部本】／春／永正 9 年

いりにしひとの－みよしののおく
しるへする－あとさへたゆる－はなをみて

【宗長関係８種】／宗長付句／「雑袋」所載本／

→呼子鳥

はなをたよりの－みよしののおく
ゆくゆくも－ききこそわかね－よふことり

【東山千句】／何船〔をきにかせ〕／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

よしひなかさも－みよしののおく
すつるみの－つれつれいつち－よふことり

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

山の奥

→峰の松風

すみわひぬ－いつらとしふる－やまのおく
ともとはきくを－みねのまつかせ

【延徳年間百韻１６巻】／夢想〔ものおもはて〕／延徳元 (1489) 年 9 月 27 日

やまのおく－さひしくとても－いてはせし
こころしてふけ－みねのまつかせ

【大永年間百韻１巻】／何路〔いつのよも〕／大永 5(1525) 年 4 月 15 日

おくる

送る

→春の雁

いくくにを－すくるもつきや－おくるらむ
きたにたひたつ－はるのかりかね

【享徳二年千句】／唐何〔こころひく〕／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

ふるさとに－ととけとふみや－おくるらむ
なこりになきぬ－はるのかりかね

【文明十四年万句５２巻】／錦何〔つきひとつ〕／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

袖吹きおくる風

→玉鉾

そてふきおくる－みねのこからし
たまほこの－すゑはゆふしも－さえさえて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［かめにさす］／天文 21(1552) 年 2 月 20 日

そてふきおくるーかせのすすしさ
たまほこのーゆくへにしはしーやすらひて

【天正年間百韻５７巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

おぐるま

小車(おぐるまのおと)の音

→夕顔(ゆうがお)

めくらすみちのーをくるまのおと
ゆふかほのーはなのかきほにーさくとみて

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

わかれをつくるーをくるまのおと
ゆふかほのーやとかりそめのーちきりにて

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつしけり］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

おしい

惜(おしむ)しむ

→秋の初風(あきのはつかぜ)

をしむともーいへともしらすーはるくれて
なみたをいそくーあきのはつかせ

【文明年間百韻３４巻】／何路［やまかせに］／文明 15(1483) 年 3 月 2 日

をしむともーきぬきぬさそなーあまつかり
つきはこのころーあきのはつかせ

【享禄年間百韻８巻】／追善［あきのこゑ］／享禄 5(1532) 年 7 月 29 日

惜(おしん)しんで花(はな)を見(みる)る

→袖の梅の香(そでのうめのか)

みなひとのーをしむによらぬーはなをみて
をりてかへさはーそてのうめかか

【飯盛千句】／何路［しけるきに］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

をしみかねーちるにまかするーはなをみて
をらすすきぬるーそてのうめかか

【大永四年月並千二百韻】／□□［うくひすの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 2 月 23 日

散(ちる)るのが惜(おし)しい

→鶉鳴(うずらなく)く

うすはなすすきーちらまくもをし
うつらなくーかたやまくれてーさむきひに

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

なみよるをはなーちらまくもをし
うつらなくーのへのふるみちーまたやこむ

【大永年間百韻１４巻】／何人［つきやふね］／大永 2(1522) 年 8 月

おそい

遅桜(おそざくら)

→松の藤浪(まつのふじなみ)

したふとやーさきかへるはなのーおそさくら
なつをかけたるーまつのふちなみ

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

やよやよひーのこるもひさしーおそさくら
はるちよかけよーまつのふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

おそさくらーなほこたかくてーはもあをし
はなまちえたるーまつのふちなみ

【文安年間百韻１巻】／夢想［おそさくら］／文安 2(1445) 年 3 月 18 日

おだまき

賤(しずの)の苧環(おだまき)

→古(いにしえ)

いかにおもひをーしつのをたまき
いにしへのーなみたにまさるーあきはきぬ

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

はかなのすちやーしつのをたまき
いにしへのーゆゑうきかみやーみわのすき

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／永正 14(1517) 年冬

おちこち

霞む遠近（かすむおちこち）

→急ぐ雁（いそぐかり）

あさとあくれはーかすむをちこち
はるのよをーいくつらかりのーいそくらむ

【大永四年月並千二百韻】／何色［うめのはな］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 1 月 23 日

わくるのはらのーかすむをちこち
あさかりやーとりのねとめてーいそくらむ

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

野辺の遠近（のべのおちこち）

→現れる（あらわれる）

いろになりたるーのへのをちこち
たちそへはーまつさへはなにーあらはれて

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

かすむたもとのーのへのをちこち
たまほこのーみちはゆきまにーあらはれて

【天正年間百韻５７巻】／□□［けふひくや］／天正 12(1584) 年 1 月 10 日

おちる

落ちる天つ雁（おちるあまつかり）

→月の出潮（つきのいでしほ）

あまつかりーふかるるかせにーなきおちて
あしまはくらきーつきのいてしほ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［あきかせの］／応永 15(1408) 年 7 月 23 日

やまとほきーいりえにおつるーあまつかり
ゆふひにむかふーつきのいてしほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

月落ちる（つきおちる）

→秋の初霜（あきのはつしも）

かきりあるーとりもなくなくーつきおちて
そらにみちゆくーあきのはつしも

【文安雪千句】／朝何［ゆきさそへ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ひきすつるーとやまのくもにーつきおちて
めくるのきはにーあきのはつしも

【伊予千句】／何人［たちはなは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かけきよきーまさこのうへにーつきおちて
ややさむからしーあきのはつしも

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

涙落ちる（なみだおちる）

→人もない（ひともない）

ゆふへのくもにーなみたおちけり
なかむなよーそらにはおもふーひともなし

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋中／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

あはれをしるやーなみたおちけり
ことわりをーうらむるにうきーひともなし

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

→古里（ふるさと）

しのふものからーなみたおちけり
とふひともーおもかけかはるーふるさとに

【弘治三年春雪千句】／薄何［そらにあめ］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

なこりかなしくーなみたおちけり
ふるさとにーまたわかれぬるーゆめさめて

【園塵第三／続群書類従本】／雑下／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→夢覚(ゆめさめ)める

つきにむかふもーなみたおちけり
ひとにそふーこころはかなくーゆめさめて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋中／明応4(1495) 年 9 月 26 日

なこりかなしくーなみたおちけり
ふるさとにーまたわかれぬるーゆめさめて

【園塵第三／続群書類従本】／雑下／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

向(むかって)って涙落(なみだおち)ちる

→なる

むかへはつきにーなみたおちけり
おいさりしーあきはたかよにーなりぬらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑下／文明 8(1476) 年 5 月頃

むかふくさきにーなみたおちけり
たかさとのーよもきかそまとーなりぬらむ

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

おと

飽(あき)きない琴(こと)の音(ね)

→松風(まつかぜ)の月(つき)

なほゆふかけにーあかぬことのね
まつかせのーさそははつきはーおそからし

【秋津洲千句】／何路［まつなくを］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

あまたのうちにーあかぬことのね
まつかせのーふきすさひたるーよはのつき

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

小車(おぐるま)の音(おと)

→夕顔(ゆうがお)

めくらすみちのーをくるまのおと
ゆふかほのーはなのかきほにーさくとみて

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

わかれをつくるーをくるまのおと
ゆふかほのーやとかりそめのーちきりにて

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつしけり］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

帰(かえる)る鳥(とり)の音(ね)

→暮(くれ)れ渡(わたる)る

かすみのうちにーかへるとりのね
まよひゆくーはるのやまちのーくれわたり

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

やとりさためすーかへるとりのね
こてふとふーまかきののへのーくれわたり

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

川音(かわおと)

→月(つき)のさやけさ

かはおともーおほゐのさとはーかきくもり
いりえにくるるーつきのさやけさ

【太神宮法楽千句】／玉何［あきとほし］／長享 2(1488) 年 7 月

かはおともーはるかにかせのーふきおくり
せせにうつろふーつきのさやけさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねふかきや］／慶長 4(1599) 年 2 月 8 日

砧(きぬた)の音(おと)

→玉鉾(たまぼこ)の行方(このゆくえ)

きぬたのおとはーむらのをちこち
たまほこのーゆくへもわかすーくれそめて

【嵯峨千句】／初何［はなのこと］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日〜11 日

きぬたのおとはーかせのまにまに
たまほこのーゆくへやきりのーへたつらむ

【元亀年間百韻６巻】／何船［むさしのも］／元亀 3(1572) 年 3 月 18 日

来(こ)ないで音(おと)する

→鶯(うぐいす)

こすにおとするーつゆのあをやき
うくひすのーはねうちはふきーあめすきて

【永正十花千句】／何船［ねぬるよを］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日〜14 日

こすにおとするーかせのとかなり
うくひすのーつはさにもろきーはなちりて

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

沢水の音（さわみずのおと）

→舟下す伏見（ふねくだすふしみ）

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【心敬関係１０種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／文明 7(1475) 年 4 月 16 日以前

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【名所句集／静嘉堂文庫本】／秋／（大永前後）

つきもさひしきーさはみつのおと
ふねくたすーひともふしみのーえはふけて

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

鴫の羽音（しぎのはねおと）

→秋の霜（あきのしも）

たつかたしるきーしきのはねおと
あかつきにーなりにけらしなーあきのしも

【浜宮千句】／□□［つきのいろと］／

とほさかりぬるーしきのはねおと
よなよなにーつきにふりしくーあきのしも

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あとをすゑに］／裏白／慶長 15(1610) 年 1 月 3 日

繁き虫の音（しげきむしのね）

→夜半の月（よわのつき）

かへのうちにもーしけきむしのね
みえこしもーゆめとほさかるーよはのつき

【大原野十花千句】／何墻［かをりきて］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日〜7 日

かせややさむきーしけきむしのね
やとれとはーすみやはあらすーよはのつき

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

近い川音（ちかいかわおと）

→涼しさ（すずしさ）

なみたかかれやーちかきかはおと
すすしさはーまたぬにうかふーあきのくも

【石山四吟千句】／薄何［うつせみの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日〜19 日

あめのうちよりーちかきかはおと
すすしさはーなつのほかなるーやなきかけ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

露の音聞く庭（つゆのおときくにわ）

→玉垂の霧（たまだれのきり）

つゆのおときくーにはのゆふかけ
たまたれのーきりのなこりやーはれさらむ

【伊勢千句】／何人［ふかくいりて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日〜8 日

つゆのおときくーにはのしたをき
たまたれのーそとものきりのーかたよりて

【天正年間百韻５７巻】／何船［すましみは］／天正 13(1585) 年閏 8 月 12 日

泊まり舟音していずち（とまりぶねおとしていずち）

→旅の国々の人（たびのくにぐにのひと）

とまりふねーおとしていつちーわたるらむ
たれたひならぬーくにくにのひと

【東山千句】／一字露顕［つきみつつ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日〜12 日

とまりふねーおとしていつちーわかるらむ
あはれのたひやーくにくにのひと

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

春の物の音（はるのものねね）

→霰走りの夜の月（あらればしりのよるのつき）

ひくてもゆかしーはるのもののね
あけのこるーあられはしりのーつきのよに

【住吉千句】／何田［このはちる］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日〜14 日

しらへえならぬーはるのもののね
しつけさやーあられはしりのーよはのつき

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

水の音（みずのおと）

→何処にある（いずこにある）

うつみつるーたけはかけひのーみつのおと
いしまのこけはーいつくなるらむ

【天正年間百韻５７巻】／何人［ときはいま］／天正 10(1582) 年 5 月 24 日

とめよれはーくるるいはまのーみつのおと
いつくなるらむーたきつかはかみ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［さきつかむ］／裏白／慶長 19(1614) 年 1 月 3 日

虫の音（むしのね）

→衣手の露（ころもでのつゆ）

うたたねのーはしゐはちかきーむしのねに
おほえすしほるーころもてのつゆ

【称名院追善千句】／初何［したふなよ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

むしのねにーむかしのあとのーことひて
わけいるのへのーころもてのつゆ

【嵯峨千句】／花之何［うめかかは］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日〜11 日

→古里の秋（ふるさとのあき）

むしのねもーみたるるつゆのーしけきのに
とへはなみたのーふるさとのあき

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

むしのねもーきえわたるよのーありあけに
あはれなそへそーふるさとのあき

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

夜半の虫の音（よわのむしのね）

→月に仮枕（つきにかりまくら）

をささかもとのーよはのむしのね
ねられしなーつきにかせふくーかりまくら

【寛正年間百韻２０巻】／何人［うめおくる］／寛正 6(1465) 年 1 月 16 日

ところさためぬーよはのむしのね
さやかなるーつきをみるみるーかりまくら

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

おとずれる

人の訪れ（ひとのおとずれ）

→桜散る（さくらちる）

いまはおもはしーひとのおとつれ
さくらちるーやまはかさなるーおくにして

【東山千句】／何色［しかのねは］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日〜12 日

きのふはありしーひとのおとつれ
さくらちるーはるのやまさとーくれやらて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

おとめ

天乙女（あまおとめ）

→雲の通い路（くものかよいじ）

いかにしてーあかるをとめむーあまをとめ
かせはしるらしーくものかよひち

【文明年間百韻３４巻】／何木［うめかかを］／文明 15(1483) 年 2 月 19 日

あらはれしーそのよはさそなーあまをとめ
あとたにとほきーくものかよひち

【明応年間百韻２２巻】／何船［やなきふく］／明応 9(1500) 年 7 月 6 日

おとろえる

おとろえる
衰える

→天つ乙女子（あまつおとめご）

あさかほのーはなのしたくさーおとろへて
さかりほとなきーあまつをとめこ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

つきははやーあきのしくれにーおとろへて
みはたたつゆの－あまつをとめこ

【成立不詳・宗砌以前6巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

おとわやま

かぜのおとわやま
風の音羽山

→逢坂の関（おうさかのせき）

このはふくーあらしのかせのーおとはやま
こえすはたれにーあふさかのせき

【顕証院会千句】／何田［あきくさは］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

あたたかにーふきくるかせのーおとはやま
あさひにむかふーあふさかのせき

【五吟一日千句】／何路［いそのなみ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

つきにふるーしくれやかせの－おとはやま
ちらぬもみちにーあふさかのせき

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／名所［つきにふる］／存疑／成立時不詳

おなじ

おなじこころ
同じ心

→よしや（よしや）

おなしこころに－たのむはかなさ
よしやとて－またすはひとのーとひやせむ

【基佐集／静嘉堂文庫本】／恋／永正6(1509) 年以前

おなしこころにーおもはぬそうき
よしやとて－うらみすつれはーゆふまくれ

【基佐集／静嘉堂文庫本】／恋／永正6(1509) 年以前

おのえ

おのえのはなをみる
尾上の花を見る

→霞に暮れる（かすみにくれる）

あすはみむーをのへのはなのーいかならむ
かすみにくるるーたかまとのみや

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ゆきにしも］／裏白／慶長 9(1604) 年 1 月 3 日

くもとみしーをのへのはなのーあともなし
かすみにくるるーかねのさひしさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［うめかかは］／裏白／慶長 11(1606) 年 1 月 3 日

おぶね

あまおぶね
海人小舟

→荒磯の浪（あらいそのなみ）

うらかけてーはるかによるのーあまをふね
もしほひさひしーあらいそのなみ

【永正年間百韻３４巻】／何船［かへるかり］／永正 16(1519) 年 2 月 19 日

あけくれをーうきてのみこそーあまをふね
よるとかへると－あらいそのなみ

【大永年間百韻１４巻】／山何［いやましに］／大永 5(1525) 年 1 月 17 日

→わづかに見える沖の島（わずかにみえるおきのしま）

なみのうへにーなかきひくらすーあまをふね
わつかにみゆるーおきつしまやま

【池田千句】／何人［はるのはな］／永正7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

ゆふくれはーつりにといつるーあまをふね
わつかにみゆるーおきのとほしま

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

おぼえる

よざむおぼえる
夜寒おぼえる

→唐衣（からごろも）

よさむおほゆるーひとのかたらひ
あはれみてーとはるるなかのーからころも

【嵯峨千句】／何木［ちへにみし］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

よさむおほゆるーかせのたえたえ
をちこちにーうちいてけりなーからころも

【永禄年間百韻２８巻】／懐旧［はつゆきの］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日

おぼろ

朧月夜（おぼろづきよ）

→長閑な枕（のどかなまくら）

おほろつきよにーゆくそらもなき
のとかなるーまくらやゆめをーしたふらむ

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

おほろつきよにーしくあきもやは
のとかなるーまくらもとらてーあかしはて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

→時鳥の声（ほととぎすのこえ）

おほろつきよのーゆめをのこして
ほとときすーはるのまくらのーひとこゑに

【紹巴亡父追善千句】／何木［おとろけと］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

おほろつきよのーあけのこるやま
ほとときすーそれかいまやとーこゑすきて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きたにみる］／成立時不詳

朧に残る有明の月（おぼろにのこるありあけのつき）

→棚無し小舟の音（たななしおぶねのおと）

おほろにのこるーありあけのつき
ほそえこくーたななしをふねーおとすみて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

おほろにのこるーありあけのつき
はるのよのーたななしをふねーおとふけて

【論書４種】／宗長／

山が朧（やまがおぼろ）

→帰る雁（かえるかりがね）

つきいつるーやまものきはもーおほろにて
いそくかよるもーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

ありあけのーいるやまのはもーおほろにて
こゑもかすかにーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつかえに］／応永 29(1422) 年 3 月 28 日

おみなえし

女郎花（おみなえし）

→風に露が落ちる（かぜにつゆがおちる）

あたしのにーありともしらぬーをみなへし
あきかせふけはーつゆはおちにき

【明応年間百韻２２巻】／何人［みつかをり］／本式／明応 2(1493) 年 3 月 9 日

をみなへしーのはらのつきにーなまめきて
かせよりくさのーつゆはおちにき

【長禄三年千句１１巻】／何鳥［ふかくふる］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

おもい

消えるなら消えるべき思い（きえるならきえるおもい）

→身を秋近く飛ぶ蛍（みをあきちかくとぶほたる）

きえはきゆへきーおもひならはや
みるもうしーみをあきちかくーとふほたる

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

きえはきゆへきーおもひならはや
はかなくもーみをあきちかくーとふほたる

【論書４種】／宗長／

おもう

思い返す（おもいかえす）

→小夜衣と夢（さよごろもとゆめ）

おもひかへせはーなにをうらみむ
かたしくをーゆめやはしらぬーさよころも

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かすみさへ］／延徳 4(1492) 年 1 月 22 日

おもひかへせはーうきものこらし
さよころもーゆめをせめてのーちきりにて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋中／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

思い耐える（おもいたえる）

→連れない（つれない）

おもひたえよのーひとのこころか
つれなくは―やましといへはーとふもうし

【壁草／大東急記念文庫本】／恋上／永正 8(1512) 年 11 月 3 日～永正 9 年

おもひたえよの―こころうらめし
つれなくは―みえぬものからーとにかくに

【老葉／毛利本】／恋下／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

思いの煙（おもいのけむり）

→秋の暮れ（あきのくれ）

おもひのけふりーそれとたにみよ
ふねとむるーなたのしほやのーあきのくれ

【老葉／書陵部宗訊筆本】／秋／

おもひのけふりーふしはかりかは
つきさひしーむろのやしまのーあきのくれ

【名所句集／静嘉堂文庫本】／秋／（大永前後）

思う事と月（おもうことと つき）

→秋の天橋立（あきのあまのはしだて）

おもふことーなくてやつきにーむかふらむ
あきにもあかぬーあまのはしたて

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

おもふことーそれともわかぬーつきをみて
いつくのあきかーあまのはしたて

【大永三年月並千三百韻】／□□［やまいくへ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 8 月 23 日

思うな（おもうな）

→心である（こころである）

うきみともーよにしまかせてーおもふなよ
たたなにことも―こころなりけり

【永禄年間百韻２８巻】／何路［きえしその］／永禄 7(1564) 年 1 月 22 日

たりぬへきーことをしさのみーおもふなよ
かたちもよしやーこころなりけり

【園塵第一／続群書類従本】／恋／長享 2 年

思う人の言の葉（おもうひとのことのは）

→我のみ一人袖を濡らす（われのみひとりそでをぬらす）

おもふてふ―ひとのことのはーたのみなや
われのみひとり―そてはぬらしつ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

おもふてふーひとのことはのーことならは
われのみひとりーそてはぬらさし

【菟玖波集／広島大学本】／恋下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

思う古里（おもうふるさと）

→旅の空（たびのそら）

ふなちにいとと―おもふふるさと
なくさめと―つきはさやけきーたひのそら

【聖廟千句】／何木［きえぬるか］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かへらむのみをーおもふふるさと
やとりをもーさためぬままのーたひのそら

【文禄二年千句１０巻】／何船［あめかした］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

何思う（なにおもう）

→世の中（よのなか）

くさのいほりにーなにおもふらむ
よのなかにーかかつらふこそーはかなけれ

【宗牧追善千句】／何路［のこるなは］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

としへてのちをーなにおもふらむ
けさみしもーゆふへはかはるーよのなかに

【文明年間百韻３４巻】／□□［ゆきのかけ］／文明 5(1473) 年 12 月 5 日

身を思う（みをおもう）

→み吉野の奥（みよしののおく）

あれはあるーみともいつまてーおもふらむ
たえはやあとをーみよしののおく

【浅間千句】／白何［たますたれ］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日〜19 日

すつるみもーはるはみやこやーおもふらむ
かすめはとほきーみよしののおく

【文明年間百韻３４巻】／何船［かせふかぬ］／文明 9(1477) 年 1 月 22 日

昔を思う涙（むかしをおもうなみだ）

→秋は悲しい（あきはかなしい）

むかしおもふーなみたにつきやーくもるらむ
いととねさめのーあきそかなしき

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［またもなき］／成立時不詳

むかしおもふーなみたもつゆもーそてのうへ
ひとのこころのーあきそかなしき

【文禄年間百韻１２巻】／□□［けさのまに］／文禄 2(1593) 年 1 月 14 日

→草の庵（くさのいお）

むかしおもふーこよひはなみたーもよほして
くさのいほりのーあめのさひしさ

【初瀬千句】／何人［なつやまに］／享徳元・2(1452) 年、4 月

むかしおもふーなみたにかすむーよはのつき
くさのいほりのーゆふくれのはる

【文明十四年万句５２巻】／何木［あきのひも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

胸の思い（むねのおもい）

→我が涙（わがなみだ）

むねのおもひそーとふにきえぬる
わかなみたーかさねておちはーいかかせむ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

むねのおもひそーしほしみてうき
わかなみたーいくへのいろをーからころも

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

物思う頃（ものおもうころ）

→如何なる（いかなる）

こころくたけてーものおもふころ
ひとはうしーゆきてとはむもーいかならむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つゆのみたれにーものおもふころ
よしやとのーゆふへよあきよーいかならむ

【永正年間百韻３４巻】／何人［みちしあれや］／永正 2(1505) 年 1 月 1 日

→誰が憂い（だれがうい）

つゆもわかみのーものおもふころ
あちきなやーたれゆゑそらもーうかるらむ

【太神宮法楽千句】／白何［つゆなから］／長享 2(1488) 年 7 月

なみたすすろにーものおもふころ
ちきらすよーたれにゆふへのーうかるらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋上／文明 8(1476) 年 5 月頃

物悲しき（ものがなしき）

→暁月（あかつきづき）

ものかなしきのーしもはらふこゑ
ねさめするーあかつきつきのーくさのいほ

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

ふもとにはーものかなしきのーなきすてて
あかつきつきのーいろのさやけさ

【文禄二年千句１０巻】／山何［まつとしる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

物毎（ものごと）

→春秋の空（はるあきのそら）

ものことに－こころのとまる－としたけて
ゆくすゑいかに－はるあきのそら

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

ものことに－みやこをこふる－かたゐなか
おくるもつらし－はるあきのそら

【文明年間百韻３４巻】／□□［ゆきのかけ］／文明 5(1473) 年 12 月 5 日

物寂しい（ものさびしい）

→声が聞こえる（こえがきこえる）

つねならぬ－ともしひのかけ－ものさひし
のりのふみよむ－こゑそきこゆる

【浜宮千句】／□□［くれかたき］／

ねられすよ－あまよのこころ－ものさひし
なくふくろふの－こゑそきこゆる

【長禄三年千句１１巻】／何田［まつちるや］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

おもかげ

秋の面影（あきのおもかげ）

→暮れの花薄（くれのはなすすき）

ととめおかはや－あきのおもかけ
ふゆくれは－つゆもかれのの－はなすすき

【園塵第四／早稲田大学本】／冬／永正 6、7 年

いろなるつゆや－あきのおもかけ
はなすすき－たかそてとなく－のはくれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／冬／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

面影（おもかげ）

→有明の月（ありあけのつき）

おもかけの－なきこそはるの－わかれなれ
かすみきえたる－ありあけのつき

【菟玖波集／広島大学本】／雑一／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

おもかけの－おなしすかたを－あらはして
うのはなやまに－ありあけのつき

【老葉／吉川本】／夏／文明 13(1481) 年夏頃

語るばかりに向う面影（かたるばかりにむかうおもかげ）

→それでない声（それでないこえ）

かたるはかりに－むかふおもかけ
それならぬ－こゑもむつまし－みやことり

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

かたるはかりに－むかふおもかけ
それならぬ－こゑもうらめし－ほとときす

【論書４種】／宗長／

添うは面影（そうはおもかげ）

→花の跡（はなのあと）

なみたのあるも－そふはおもかけ
まつならて－あをはのゆきや－はなのあと

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

そなたはいかか－そふはおもかけ
はなのあと－かせよりゆきを－ふきためて

【看聞日記紙背５０巻】／何物［いつれみむ］／応永 32(1425) 年 9 月 17 日

人の面影（ひとのおもかげ）

→別れ路（わかれじ）

ゆめかうつつか－ひとのおもかけ
しはしたに－とりとめはやの－わかれちに

【天文廿四年梅千句】／何垣［あさきりに］／天文 24(1555) 年正月 7 日

これになくさむ－ひとのおもかけ
けふやかて－こひしかるへき－わかれちに

【応永年間百韻７巻】／□□［ｘｘはせて］／応永 24(1417) 年 3 月 16 日

→秋更ける(あきふける)

つきにみしよのーひとのおもかけ
のこりなく―よもきかすゑにーあきふけて

【永正十花千句】／何路［ゆくつきも］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

ぬきおくきぬのーひとのおもかけ
つきすめる―よこのうらかせーあきふけて

【萱草／伊地知本】／秋／文明 6(1474) 年 2 月以前

つきにみしよのーひとのおもかけ
のこれなく―あさちかすゑのーあきふけて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

→慰める(なぐさめる)

まつとはしるやーひとのおもかけ
うきをたたーこころとしはしーなくさめて

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

わすれむとすれはーひとのおもかけ
あはぬまもーありつるみそとーなくさめて

【老葉／吉川本】／恋下／文明 13(1481) 年夏頃

→涙(なみだ)

わすれもやらぬーひとのおもかけ
うらみをはーいはぬにもしるーなみたにて

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［としふりて］／応永 24(1417) 年 11 月 23 日

あさちかはらのーひとのおもかけ
つゆはたたーゆふへのおとすーなみたにて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

夢の面影(ゆめのおもかげ)

→床の上(とこのうえ)

うつつはかりのーゆめのおもかけ
まくらかも―あかてまたねのーとこのうへ

【称名院追善千句】／何路［いるかたの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

つきをなこりのーゆめのおもかけ
ふたりねしーあとすさましきーとこのうへ

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

おりおり

風の折々(かぜのおりおり)

→なる(なる)

このしたつゆはーかせのをりをり
しかのねやーこはきかいろとーなりぬらむ

【紹巴亡父追善千句】／何人［なきあとは］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

たもとをしをるーかせのをりをり
おとつれもーいまやうらみとーなりぬらむ

【天正四年万句７０巻】／初何［そてくちか］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

おれる

草は残らない雪の下折(くさはのこらないゆきのしたおれ)

→野分する庭に月(のわきするにわにつき)

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはのつきかけーよるさえて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

くさはのこらぬ―ゆきのしたをれ
のわきせしーにはをしつかにーつきふけて

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

おろか

愚かな心(おろかなこころ)

→思い初める(おもいそめる)

おろかなるーこころのすゑもーいかにせむ
おもはぬものをーおもひそめつつ

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

おろかなるーこころよりこそーまよひつれ
つれなきひとをーおもひそめつつ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

か

梅の香（うめのか）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

うめかかの－こすゑにをしき－たもとかな
ききてやすらふ－うくひすのこゑ

【秋津洲千句】／唐何［うめかかの］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

うめかかの－かすみふきとけ－あさあらし
ゆきにこほれる－うくひすのこゑ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［うめかかの］／成立時不詳

うめかかや－すたれのほかに－にほふらむ
にはにいりくる－うくひすのこゑ

【寛正年間百韻２０巻】／何船［とりねむる］／寛正 6(1465) 年 12 月 14 日

うめかかや－そのよのそてに－のこるらむ
あけほのしたふ－うくひすのこゑ

【心敬関係１０種】／芝草内岩橋／本能寺本／

→春を知る（はるをしる）

うめかかの－まへわたりする－たますたれ
よふかくおきて－はるそしらるる

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［ちりうせぬ］／天文 19(1550) 年 2 月 17 日

うめかかの－そてよりほかに－うつりきて
かすみのおくも－はるそしらるる

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

梅の香がする（うめのかがする）

→起き出でる（おきいでる）

たをらまほしき－うめかかそする
そことなく－かすむあけほの－おきいてて

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

たちえはかすむ－うめかかそする
はるのよは－またあけぬより－おきいてて

【天正年間百韻５７巻】／□□［ききわくや］／天正 18(1590) 年 10 月 8 日

→日影さす（ひかげさす）

しはののきはも－うめかかそする
ひかけさす－ゆきやしつくに－のこるらむ

【伊勢千句】／薄何［たかための］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

とほそひらけは－うめかかそする
ひかけさす－のきはのつらら－けさとけて

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

袖の移り香（そでのうつりが）

→菖蒲草（あやめぐさ）

のこりもふかき－そてのうつりか
ふきすてし－きのふのつまの－あやめくさ

【元亀二年千句】／何木［たきなみの］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

なにはかなしや－そてのうつりか
あやめくさ－かくるよとのは－あれまさり

【浜宮千句】／□□［ときもよも］／

→面影（おもかげ）

これそかたみの－そてのうつりか
おもかけは－てにもたまらす－またきえて

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

わかれしきみか－そてのうつりか
おもかけは－なかなかつらき－なこりにて

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

わすれむものか－そてのうつりか
おもかけは－くれしものこる－きくのあき

【天正年間百韻５７巻】／何船［みちみちを］／天正 13(1585) 年 5 月 27 日

→形見（かたみ）

また□□□□□－そてのうつりか
ありあけは－あふ□□□□の－かたみにて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

きゆるもをしやーそてのうつりか
たまくらはーみをはなたれぬーかたみにて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［しかそなく］／天文 24(1555) 年 9 月 19 日

→橘（たちばな）

ともにやとまるーそてのうつりか
たちはなはーむかしのつまのーゆかりにて

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつちかし］／応永 32(1425) 年 6 月 25 日

ちきりはかなきーそてのうつりか
たちはなはーかけたにみえすーくつるのに

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはらも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

袖の梅の香（そでのうめのか）

→鶯（うぐいす）

かすみもあへぬーそてのうめかか
うくひすのーこゑもゆくゆくーとほきのに

【天文年間百韻３８巻】／何人［みれはみし］／天文 13(1545) 年 12 月 25 日

もるるかたやはーそてのうめかか
うくひすのーそともにうつるーこゑすなり

【永禄年間百韻２８巻】／何船［あととふを］／永禄 3(1560) 年 11 月 9 日

匂う梅の香（におううめのか）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

とへとやつけしーにほふうめかか
はるとしもーあらてゆきふるーあさほらけ

【大永年間百韻１４巻】／何人［あきのつき］／大永 6(1526) 年 9 月 13 日

こすふくかせにーにほふうめかか
いととさへーこころうかるるーあさほらけ

【天正四年万句７０巻】／何路［ちりとのみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

花打ち香る（はなうちかおる）

→木隠れる（こがくれる）

はなうちかをりーとりのなくこゑ
さくうめにーすみかのたけのーこかくれて

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

はなうちかをりーのはかすみつつ
ゆふつくよーうめさくやまにーこかくれて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

宿の梅の香（やどのうめのか）

→鶯（うぐいす）

かこふにもるるーやとのうめかか
うくひすのーのへよりのへにーなきいてて

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

たちえかくれぬーやとのうめかか
うくひすのーこゑするつきやーあけぬらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

なきひとしたへーやとのうめかか
うくひすのーなくねもたれをーしのふらむ

【享禄年間百韻８巻】／追善［あきのこゑ］／享禄 5(1532) 年 7 月 29 日

つほみにこもるーやとのうめかか
うくひすのーかきほのゆきをーはらひきて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永 8(1631) 年 1 月 3 日

かえす

打ち返す田（うちかえすた）

→蛙鳴く（かわずなく）

うちかへすーたのものなかれーあめはれて
をりをえかほにーかはつなくなり

【天文十八年梅千句】／何人［みしいろは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

うちかへすーこそのあらたはーさひしきに
ときもわすれすーかはつなくなり

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

思い返す（おもいかえす）

→小夜衣と夢（さよごろもとゆめ）

おもひかへせはーなにをうらみむ
かたしくをーゆめやはしらぬーさよころも

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かすみさへ］／延徳 4(1492) 年 1 月 22 日

おもひかへせはーうきものこらし
さよころもーゆめをせめてのーちきりにて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋中／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

かえる

帰りに駒祝う声（かえりにこまいわうこえ）

→都人（みやこびと）

ひくれてかへるーこまいはふこゑ
あふさかをーつきもこゆるやーみやこひと

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

たかかへるさそーこまいはふこゑ
みやこひとーうちむれけふのーせきむかへ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

帰りを急ぐ（かえりをいそぐ）

→柴持つ人（しばもつひと）

くもかへるーやまやゆふへをーいそくらむ
しはもつひとのーやすむかけはし

【表佐千句】／何人［はなそくも］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

すゑかけてーかへるいちちやーいそくらむ
しはもつひとのーつるるこゑこゑ

【文明年間百韻３４巻】／□□［したつゆは］／文明 12(1480) 年 7 月 4 日

帰る（かえる）

→入相の鐘（いりあいのかね）

いつくとかーましはおりはへーかへるらむ
いりあひのかねのーおのかさとさと

【伊勢千句】／何田［かすやてる］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

いほにすむーひとやはやしにーかへるらむ
いりあひのかねのーのこるふるてら

【至徳以前百韻７巻】／何所［ちりぬるか］／至徳 4(1387) 年以前

→浦浪の音（うらなみのおと）

よとまりのーふねやほとなくーかへるらむ
つきをもよするーうらなみのおと

【至徳以前百韻７巻】／何木［かみかきの］／至徳 4(1387) 年以前

むかしもやーおもひいつるにーかへるらむ
あとはなにはのーうらなみのおと

【天文年間百韻３８巻】／何人［うつせよに］／天文 21(1552) 年 2 月 23 日

→大淀の浪（おおよどのなみ）

まつのいろーいくむかしにかーかへるらむ
うらさひしきはーおほよとのなみ

【宝徳四年千句】／何船［いろそそふ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

わかみにやーうらみはまたもーかへるらむ
まつてふくれはーおほよとのなみ

【伊予千句】／何路［さみたれの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

→絶え絶え（たえだえ）

なくとりもーはるくれぬとやーかへるらむ
たえたえになるーのへのいとゆふ

【太神宮法楽千句】／初何［ほのめくは］／長享 2(1488) 年 7 月

うくひすのーもとのたににやーかへるらむ
なつやまみちそーたえたえになる

【文安年間百韻９巻】／山何［はなはひも］／文安 5(1448) 年 2 月 5 日

帰る雁（かえるかりがね）

→現れる（あらわれる）

かすはいくつそーかへるかりかね
とほやまはーゆきののこるにーあらはれて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永 19(1412) 年 1 月 14 日

こゑにしられてーかへるかりかね
とほうらのーほにゆくふねはーあらはれて

【看聞日記紙背５０巻】／何路［あききては］／応永 27(1420) 年 7 月 25 日

→古里（ふるさと）

こゑはかりしてーかへるかりかね
ふるさとはーたれすみすててーあれぬらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何木［ゆきそはな］／応永 25(1419) 年 12 月 22 日

おのかひとつれーかへるかりかね
ふるさとはーたかこころにもーあるものを

【菟玖波集／広島大学本】／羇旅／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

→山桜（やまざくら）

またはるそとやーかへるかりかね
ゆきかとよーこしのしらねのーやまさくら

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

こころつよくもーかへるかりかね
ちるまてはーなとかみさりしーやまさくら

【新撰菟玖波集／実隆本】／雑一／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

帰る雁の声（かえるかりのこえ）

→哀れを言う（あわれをいう）

ひとつらやーかへりおくるるーかりのこゑ
あはれをいははーわかたひのそて

【表佐千句】／何年［はなにいる］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

かへるさやーきぬるにかはるーかりのこゑ
あはれをいははーはるのしののめ

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

帰るさ（かえるさ）

→笠の端の雪（かさのはのゆき）

ともなひてーかたりいちめかーかへるさに
はらへはたまるーかさのはのゆき

【文安雪千句】／何田［あとそある］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

おもくもつーましはのみちのーかへるさに
ふるほとしるきーかさのはのゆき

【永原千句】／唐何［とりのねに］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

帰る里人（かえるさとびと）

→方（かた）

をのへをとほみーかへるさとひと
かねのこゑーいつくきこえぬーかたならむ

【出陣千句】／初何［けふたつや］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

ふねひきすててーかへるさとひと
くれそむるーすゑやふしみのーかたならむ

【元和年間百韻２４巻】／□□［えそすきぬ］／元和 8(1622) 年 4 月 13 日

帰るさの道（かえるさのみち）

→なる（なる）

あさたかひとのーかへるさのみち
かきくもりーそらやゆきにもーなりつらむ

【天文十八年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

かすみこめたるーかへるさのみち
なみたにやーおほろつきよとーなりつらむ

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

帰る鳥の音（かえるとりのね）

→暮れ渡る（くれわたる）

かすみのうちにーかへるとりのね
まよひゆくーはるのやまちのーくれわたり

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

やとりさためすーかへるとりのね
こてふとふーまかきののへのーくれわたり

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

帰る古里（かえるふるさと）

→春暮れる（はるくれる）

よもきになりぬーかへるふるさと
みつつこしーはなの□□□□ーはるくれて

【延徳年間百韻１６巻】／何人［うめいっこ］／延徳元 (1489) 年 9 月 27 日

みちさへいつこーかへるふるさと
たまさかのーひとのゆききもーはるくれて

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

→旅衣（たびごろも）

のくれやまくれーかへるふるさと
たひころもーはなのにしきをーかけにきて

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本 a ／

ひをふるままにーかへるふるさと
はるさめにーぬれぬれかりのーたひころも

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

捨てて帰る（すててかえる）

→遠方の一村（おちのひとむら）

さすふねもーつなきすててやーかへるらむ
ましはのみちはーをちのひとむら

【五吟一日千句】／薄何［あけほのの］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

ふえのねやーすなとりすててーかへるらむ
つきになるよのーをちのひとむら

【大永年間百韻１４巻】／何人［つきやふね］／大永 2(1522) 年 8 月

誰帰る（だれかえる）

→人もなし（ひともなし）

わかいへいへにーたれかへるらむ
やまさくらーちるこのもとはーひともなし

【初瀬千句】／何人［なつやまに］／享徳元・2(1452) 年、4 月

たれかへるらむーまつかけのさと
みちのへにーかせはおとしてーひともなし

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

春帰る（はるかえる）

→若葉の葛の掛かる埋もれ木（わかばのくずのかかるうもれぎ）

としとしのーはるはいつくにーかへるらむ
わかはのくすのーかかるうもれき

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

はるはさてーいくとしとしかーかへるらむ
わかはのくすのーかかるうもれき

【専順関係２種】／法眼専順連歌／赤木文庫本／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

春の帰るさ（はるのかえるさ）

→天つ雁（あまつかり）

ほとなくおもふーはるのかへるさ
あまつかりーこそのなこりのーねをなきて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［ちりしえぬ］／成立時不詳

おもへはしらぬーはるのかへるさ
ゆきさゆるーこしちにむかふーあまつかり

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何椿［かせきよし］／成立時不詳

人帰る（ひとかえる）

→野辺の一村（のべのひとむら）

ひとかへるーたけのしたみちーくれやらて
たのもにつつくーのへのひとむら

【永禄石山千句】／何路［ときはきも］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

ひとかへるーあとはしつけきーはるならむ
とりのねかすむーのへのひとむら

【天文年間百韻３８巻】／山何［なくやいつれ］／天文 24(1555) 年 5 月 14 日

みやこのつきにかえる
都の月に帰る

→草枕（くさまくら）

みやこのつきに－たれかへるらむ
しらぬのに－ひとりつゆけき－くさまくら

【応仁年間百韻６巻】／ｘｘ［そてにみな］／応仁 2(1468) 年 10 月 22 日

みやこのつきに－われやかへらむ
ゆめもみを－さそひてさめね－くさまくら

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

かかる

あだとかかりくる
徒と掛かり来る

→玉の緒の末（たまのおのすえ）

あたなりと－おもひなからも－かかりきて
いのらはちよも－たまのをのすゑ

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

ちかひたた－あたしよなから－かかりきて
ひとひひとひの－たまのをのすゑ

【弘治年間百韻８巻】／何人［ときはなる］／弘治 3(1557) 年 8 月 28 日

かかる
掛かる

→玉の緒の末（たまのおのすえ）

わかこころ－ちちになれとや－かかるらむ
たえなむものの－たまのをのすゑ

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

かきりいつ－たのむいなせに－かかるらむ
はかなかりける－たまのをのすゑ

【天正年間百韻５７巻】／初何［すすしさを］／天正 2(1574) 年 6 月 10 日

かかるふじなみ
掛かる藤浪

→田子の長き日（たごのながきひ）

よそのこすゑに－かかるふちなみ
たこのうら－あひきのなはも－なかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

まつにことさら－かかるふちなみ
ひまもなき－たこのしほくみ－なかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

→霞む三笠山（かすむみかさやま）

あをはのころに－かかるふちなみ
あけにけり－かすみのひまに－みかさやま

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

まつほのほのと－かかるふちなみ
かすみては－なほみねたかし－みかさやま

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

かけはし
掛橋

→松の一本（まつのひともと）

かけはしの－くちてなかははー たえけらし
よこたはりたる－まつのひともと

【天正年間百韻５７巻】／何垣［ゆくそてに］／天正 11(1583) 年閏 1 月 1 日

かけはしの－あ□□□かせの－ふきおくり
こけにかたふく－まつのひともと

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［やまのはに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

くもかかるみね
雲かかる峰

→花盛り（はなざかり）

みるかうちより－くもかかるみね
はなさかり－かすみはるれは－あらはれて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

きゆるとみしも－くもかかるみね
かつらきや－さきつつきての－はなさかり

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめかえや］／文禄 4(1595) 年 7 月 21 日

くものかけはし
雲の掛橋

→かささぎ
鵲

あきかせわたるーくものかけはし
かささきのーつはさもかはすーあまのかは

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

みるもすさましーくものかけはし
かささきのーやまとひこゆるーゆふしもに

【宗碩関係２種】／宗碩百句／太田本／

そばのかけはし
傍の掛橋

→しもはただ
霜はただ

たえたえなれやーそはのかけはし
しもはたたーむすふかうへのーあさほらけ

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日〜25 日

くちてあやうきーそはのかけはし
しもはたたーふるかうへにもーかさなりて

【永禄元年花千句】／□□［をりのこす］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日〜25 日

みちのかけはし
道の掛橋

→てらのかど
寺の角

とほくみえぬるーみちのかけはし
とひよるもーひとけまれなるーてらのかと

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

ゆきとけはつるーみちのかけはし
とひよるもーおくものふかきーてらのかと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

→とい寄る
訪い寄る

とほくみえぬるーみちのかけはし
とひよるもーひとけまれなるーてらのかと

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

ゆきとけはつるーみちのかけはし
とひよるもーおくものふかきーてらのかと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

みねのかけはし
峰の掛橋

→さるさけぶ
猿叫ぶ

かははそこなるーみねのかけはし
さるさけふーこゑさへさむきーたきのもと

【顕証院会千句】／何人［えたわけの］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日〜21 日

こすゑのあきのーみねのかけはし
さるさけふーやまちのつきのーありあけに

【永禄年間百韻２８巻】／□□［つゆはそてに］／永禄 4(1561) 年 9 月 19 日

よばかりかかる
世ばかり掛かる

→つらいたまのお
辛い玉の緒

おなしよのーたのみはかりやーかかるらむ
かすならぬこそーつらきたまのを

【大原野十花千句】／何路［けふこそは］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日〜7 日

いつのよのーむくひはかりにーかかるらむ
いとふ□□□□ーつらきたまのを

【大永四年月並千二百韻】／□□［かけきゆる］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 8 月 23 日

かき

かきねつたい
垣根伝い

→たえたえ
絶え絶え

かきねつたひのーをたのさひしさ
かはそひのーしものしははしーたえたえに

【葉守千句】／何船［うゑしうゑは］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<〜11 日>

かきねつたひのーみつみとりなり
もりいつるーかけひのしつくーたえたえに

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

かきのもとつば
垣の本つ葉

→御溝水（みかわみず）

あきにいろつくーかきのもとつは
おもふこと－かきやなかさむーみかはみつ

【看聞日記紙背５０巻】／何目［いろつきぬ］／応永 28 日 5 月 29 日

いろみしそむるーかきのもとつは
はきのとの－はなさへうつるーみかはみつ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつころの］／応永 32(1425) 年 10 月 15 日

かぎる

夕べ限る（ゆうべかぎる）

→荻の上風（おぎのうわかぜ）

うきことやーゆふへゆふへにーかきるらむ
ほのかなりつるーをきのうはかせ

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

さひしさやーわかゆふへにやーかきるらむ
うからはきかしーをきのうはかせ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［はるふかし］／成立時不詳

かく

憂い鴫の羽掻き（ういしぎのはねがき）

→儚い（はかない）

かそふるもうきーしきのはねかき
あきならてーかよふこころのーはかなしや

【元和年間百韻２４巻】／□□［あさなあさな］／元和 8(1622) 年 2 月 29 日

うきはまくらのーしきのはねかき
すむつきにーおとろくゆめはーはかなしや

【寛永年間百韻１５巻】／□□［とよとしの］／裏白／寛永 20(1643) 年 1 月 3 日

掻く藻塩草（かくもしおぐさ）

→海の汀に松の花落ちる（うみのなぎさにまつのはなおちる）

かくてふなるはーたたもしほくさ
みつうみのーみきはにまつのーははおちて

【論書４種】／宗長／

かきあつむるはーたたもしほくさ
にほのうみのーみきはにまつのーははおちて

【論書４種】／宗牧／

鴫の羽掻き（しぎのはねがき）

→一つ庵（ひとついお）

あはれなそへそーしきのはねかき
すむもたたーちかきのさはのーひとついほ

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

みにしめてゆくーしきのはねかき
はかなきはーかれののすゑのーひとついほ

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

かくれる

隠れ家（かくれが）

→み吉野の奥（みよしののおく）

かくれかをーなほふかかれとーふるゆきに
くもはいくへそーみよしののおく

【看聞日記紙背５０巻】／何物［かみとうめ］／応永 29(1422) 年 2 月 25 日

かくれかをーよのうきとてやーたつぬらむ
さとのほかなるーみよしののおく

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ゆきにみて］／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

隠れ家の山（かくれがのやま）

→埋もれる（うずもれる）

はてはひとりのーかくれかのやま
ふみわけしーいはのかけちのーうつもれて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何木［たますたれ］／成立時不詳

はなみかてらのーかくれかのやま
みよしのやーふかきかすみにーうつもれて

【天正四年万句７０巻】／何垣［かけすすし］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→捨ててから

くもはいくへそーかくれかのやま
すてしよりーみはしたひくるーひともなし

【難波田千句】／□□［うめかかの］／文明 14(1482) 年 10 月前後

ひともとひこぬーかくれかのやま
すてしよりーこのよのほかにーみをなして

【新撰菟玖波集／実隆本】／雑五／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

→み吉野

おくかおくなるーかくれかのやま
みよしのはーみねのかけちもーたえはてて

【太神宮法楽千句】／初何［ほのめくは］／長享 2(1488) 年 7 月

けふりもみえぬーかくれかのやま
みよしのはーさくらにくもるーよはのつき

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

隠れ家はない

→み吉野の奥

たたあらましにーかくれかはなし
みよしのの－またみぬおくをーたつねはや

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ふりかつけ］／応永 29(1422) 年【B】3 月 15 日

うきよのほかのーかくれかはなし
みよしのの－おくもやはなにーとはるらむ

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［あすはさけ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

山の隠れ家

→なる

むすひかへたる－やまのかくれか
のかれてやーゆめのうきよとーなりぬらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

あらましちかきーやまのかくれか
つれなきやーのちのなさけとーなりぬらむ

【天正四年万句７０巻】／薄何［やまとほみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

かけい

懸樋に受ける水

→ここかしこ

かけひにうくるーみつのまにまに
ここかしこーいはのはさまもーううるたに

【浜宮千句】／□□［ちりうせぬ］／

かけひにうくるーおほかはのみつ
ここかしこーなかれのすゑかーいせのうみ

【天正四年万句７０巻】／下何［むらさきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

かける

夏かけて

→岸の卯の花

なつかけてーふちさくかはへーまたもみむ
なみにあらすなーきしのうのはな

【熊野千句】／何田［おそさくら］／文正元 (1466) 年 3 月以前

さかりすくるーゐてのやまふきーなつかけて
はやほころふるーきしのうのはな

【寛文年間百韻２２巻】／□□［むかしおもふ］／寛文 10(1670) 年 2 月 7 日

かげ

青柳の陰

→花を見る

かせもかよはぬーあをやきのかけ
けふもまたーなかきひくらしーはなをみて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

しはしたたすむーあをやきのかけ
あふひとにーところせかるるーはなをみて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

朝日影

→海人の釣舟

をちかたの－まつにいさよふ－あさひかけ
さしてそいつる－あまのつりふね

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

あさひかけ－みつにみるみる－うつろひて
ゆふしほまての－あまのつりふね

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

葦火焚く影（あしひたくかげ）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

おなしみなとの－あしひたくかけ
うちみたれ－くるるかたより－とふほたる

【天正年間百韻５７巻】／山何［あをやきの］／天正 3(1575) 年 2 月 2 日

はなれこしまに－あしひたくかけ
とふほたる－ゆくかたもなく－さよふけて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

有明の影（ありあけのかげ）

→秋の夜（あきのよ）

あらしのあとに－ありあけのかけ
ききしより－かねさやかなる－あきのよに

【永原千句】／千何［ひとせは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

ふねゆくつきや－ありあけのかけ
すすしさを－ともなふままの－あきのよに

【弘治三年春雪千句】／何人［ゆきにうめ］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

稲妻の陰（いなずまのかげ）

→宵の間（よいのま）

ほのめきわたる－いなつまのかけ
よひのまに－いつるつきこそ－かすかなれ

【文安月千句】／朝何［ひかりをも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

そらたのめなる－いなつまのかけ
さりともと－うちなけかるる－よひのまに

【延徳年間百韻１６巻】／薄何［いろにこの］／千句第四／延徳元 (1490) 年 12 月 26 日

入り日影（いりひかげ）

→里に人帰る見ゆ（さとにひとかえるみゆ）

うつろふか－まつのはこしの－いりひかけ
すゑののさとに－ひとかへるみゆ

【三島千句】／二字反音［いけすみて］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

くれたけの－みとりのうへの－いりひかけ
たなかのさとに－ひとかへるみゆ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うらかせの］／永正 14(1517) 年 6 月

奥山の陰（おくやまのかげ）

→打ち解けて（うちとけて）

こころのほかの－おくやまのかけ
まつのとに－はらはぬゆきも－うちとけて

【秋津洲千句】／何人［しかのねに］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

さりとてはまた－おくやまのかけ
うちとけて－なかぬみやこの－ほととぎす

【園塵第一／続群書類従本】／夏／長享 2 年

影かすか（かげかすか）

→絶え絶え（たえだえ）

はるのいりひの－かけかすかなり
たえたえに－かねのひひきの－きこえきて

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

よをまつつきの－かけかすかなり
たえたえに－たなひくきりの－うすくもり

【天正年間百韻５７巻】／何路［たちそひて］／天正 6(1578) 年 1 月 3 日

影暮れる（かげくれる）

→五月雨の頃（さみだれのころ）

はなれその－まつはひときの－かけくれて
なかれもふかし－さみたれのころ

【弘治三年春雪千句】／何舟［きえてたに］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

ゆくみつはーやまもととろにーかけくれて
こりしくくものーさみたれのころ

【享禄年間百韻８巻】／何人［あさかすみ］／享禄 5(1532) 年 1 月 3 日

影高くなる（かげたかくなる）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

しけれはやまそーかけたかくなる
なつのよりーくものうへまてーとふほたる

【熊野千句】／何色［なみしけし］／文正元 (1466) 年 3 月以前

さはへのくさそーかけたかくなる
ひとつつつーやとりをいててーとふほたる

【園塵第一／続群書類従本】／夏／長享 2 年

微かな影（かすかなかげ）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

ともすひかりのーかすかなるかけ
あきかせやーくもゐはるかにーとふほたる

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

おほゐのつきのーかすかなるかけ
ひとつふたつーそらにみえてやーとふほたる

【元和年間百韻２４巻】／□□［むかしにや］／元和 5(1619) 年 7 月 24 日

仮寝の月影（かりねのつきかげ）

→花打ち香る（はなうちかおる）

かけかすむーかりねのつきのーあくるよに
はなうちかをりーとりのなくこゑ

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かりねのつきのーかけさむきそら
わくるのの－はなうちかをりーすゑくれて

【天正四年万句７０巻】／何風［ふりつもる］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

桜散る陰（さくらちるかげ）

→春ながら（はるながら）

なこりもとめすーさくらちるかけ
はるなからーいはなみはやきーよしのかは

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

ひはらさひしくーさくらちるかけ
はるなからーなほふるゆきのーさえさえて

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

月影澄む（つきかげすむ）

→露寒い袖（つゆさむいそで）

ふりにけるーのてらのつきのーかけすみて
あかつきおきのーつゆさむきそて

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

やとりとるーつきはゆふへにーかけすみて
むしのねみたれ―つゆさむきそて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

灯の影（ともしびのかげ）

→釣舟（つりぶね）

つねにしらるるーともしひのかけ
つりふねやーはかなさいつとーささささらむ

【秋津洲千句】／初何［はなならし］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

かすかなりけるーともしひのかけ
つりふねやーをちのしまねをーめくるらむ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

→秋蛍と夕枕（あきぼたるとゆうまくら）

つきこそまとのーともしひのかけ
あききぬとーほたるすくなきーゆふまくれ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

きりのうちなるーともしひのかけ
あきくさにーほたるののこるーゆふまくれ

【文明十四年万句５２巻】／何路［あさうみに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

閨の月影（ねやのつきかげ）

→蟋蟀（きりぎりす）

ほのかたらひしーねやのつきかけ
うちしきりーいまはあなかまーきりきりす

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

よひすきぬらしーねやのつきかけ
かたしきの―たもとにちかきーきりきりす

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

残る山影（のこるやまかげ）

→帰る（かえる）

おほゐのにしひーのこるやまかけ
みそれせしーあととやくもはーかへるらむ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

ほのほのつきのーのこるやまかけ
のにいてしーしかやよをこめーかへるらむ

【天正四年万句７０巻】／花何［うくひすの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

花の陰（はなのかげ）

→躑躅山吹（つつじやまぶき）

ちるあともーみすはうらみむーはなのかけ
さくらのみやは―つつしやまふき

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

やまさととーさもこそならめーはなのかけ
みちもせにさくーつつしやまふき

【享禄年間百韻８巻】／懐旧［ゆふたちの］／享禄 5(1532) 年 6 月 8 日

→鳥の囀り（とりのさえずり）

さきぬへきーころもちかつくーはなのかけ
かこふみきりのーとりのさへつり

【元和年間百韻２４巻】／□□［かせにつもり］／元和 7(1622) 年 11 月 28 日

このめさへーまたみえやらぬーはなのかけ
はるのしるへのーとりのさへつり

【天正四年万句７０巻】／何帋［いろそふや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→鳥の一声（とりのひとこえ）

ひとかへるーあとしつかなるーはなのかけ
かすむゆふへの―とりのひとこゑ

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

ちるまてとーおもふやまれのーはなのかけ
かへりつくしてーとりのひとこゑ

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

→春の杯（はるのさかずき）

くれぬれはーそてをかたしくーはなのかけ
かへさわするるーはるのさかつき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねふかきや］／慶長 4(1599) 年 2 月 8 日

いつれにかーまくらをからむーはなのかけ
こころうかるるーはるのさかつき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ききはみな］／裏白／寛永 4(1627) 年 1 月 3 日

→山霞む暮れ（やまかすむくれ）

ひとよをもーあかさてかへるーはなのかけ
まきたつみちにーやまかすむくれ

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

かりねしてーいろみまほしきーはなのかけ
うちわたすのに―やまかすむくれ

【明応年間百韻２２巻】／何路［つゆやにほひ］／明応 5(1496) 年 8 月 5 日

→み吉野の春（みよしののはる）

ゆきそふるーそれもきえなむーはなのかけ
やまかせさひし―みよしののはる

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

さきちるもーおとつれきかぬーはなのかけ
いりにしままのーみよしののはる

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑上／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

花の陰に安らう（はなのかげにやすらう）

→春の帰るさ（はるのかえるさ）

みるままにーやすらふききのーはなのかけ
おもへはとほしーはるのかへるさ

【宝徳四年千句】／何人［はなそころ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

やすらへはーときこそうつれーはなのかけ
かねのつけこすーはるのかへるさ

【寛正年間百韻２０巻】／何路［ひととせに］／寛正 5(1465) 年 12 月 9 日

光の影（ひかりのかげ）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

ひかりのかけをーあはれとやみむ
いにしへのーいかなるたまそーとふほたる

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ひかりのかけをーをしみとめはや
くれわたるーまとよりをちにーとふほたる

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

人影もしない（ひとかげもしない）

→なる

まつとはすれとーひとかけもせす
たのめしやーよそのゆふへにーなりぬらむ

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

まはきかもとのーひとかけもせす
いつすみてーとほさとをのとーなりぬらむ

【下草／東山御文庫本】／雑上／明応 5(1496) 年 11 月 18 日

一人寝と影（ひとりねとかげ）

→片敷く（かたしく）

ひとりやねなむーまきたてるかけ
はなにほふーやまちのこけをーかたしきて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

ひとりやねなむーつきほそきかけ
むしのねもーよわるあらしをーかたしきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

水影の寂しさ（みずかげのさびしさ）

→帰る（かえる）

かはへのみつの―かけのさひしさ
うちむれて―みそきせしもやーかへるらむ

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

いたゐのしみつーかけのさひしさ
ゆふくれやーすすみしひともーかへるらむ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

山の陰（やまのかげ）

→須磨の浦浪（すまのうらなみ）

こえわひぬーあめにかみなるーやまのかけ
ふなちにあらきーすまのうらなみ

【表佐千句】／唐何［つきはたた］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

つらかりし―うきよをかたるーやまのかけ
あはれなかけそ―すまのうらなみ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

→橋の一筋（はしのひとすじ）

ましはとるーみちのへちかきーやまのかけ
ふみならしたるーはしのひとすち

【明応年間百韻２２巻】／何路［こそたちし］／明応 6(1497) 年 1 月 1 日

すすしさにーしはしかたらふーやまのかけ
ゆききのみちのーはしのひとすち

【天正年間百韻５７巻】／何路［とふひとの］／天正 14(1586) 年 3 月 19 日

→松風が吹く（まつかぜがふく）

そことなきーかねもすさましーやまのかけ
こえむをのへはーまつかせそふく

【三島千句】／朝何［やまとほく］／文明3(1471) 年 3 月 21 日〜23 日

つきもたたーこころつくしのーやまのかけ
このはしくれてーまつかせそふく

【難波田千句】／□□［はるのよの］／文明 14(1482) 年 10 月前後

すまれすはーたちもかへらむーやまのかけ
たきのひひきもーまつかせそふく

【紹巴亡父追善千句】／何木［おとろけと］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

けふもまたーくもるいりひのーやまのかけ
みちくるしほにーまつかせそふく

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

→道の掛橋（みちのかけはし）

のるこまをーしはしひかふるーやまのかけ
すゑはあやふきーみちのかけはし

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

あきふけてーたれもかよはぬーやまのかけ
さとはなれなるーみちのかけはし

【天正年間百韻５７巻】／□□［あさなあさな］／天正 15(1587) 年 1 月 3 日

山の下陰（やまのしたかげ）

→そよぐ秋風（そよぐあきかぜ）

ましはわけゆくーやまのしたかけ
ならのはにーそよきもてくるーあきのかせ

【文安月千句】／何水［つきぬなは］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

いろにすすしきーやまのしたかけ
うゑしたもーそよきいてたるーあきのかせ

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

蓬生の影（よもぎうのかげ）

→蟋蟀（きりぎりす）

のこるはまれのーよもきふのかけ
のわきせしーけさまてつきにーきりきりす

【弘治年間百韻８巻】／何路［ゆくみつや］／弘治 2(1556) 年 3 月 24 日

すみならひたるーよもきふのかけ
きりきりすーなくよのつきはーなほさひし

【天正年間百韻５７巻】／□□［うくひすも］／天正 14(1586) 年 1 月 4 日

みちわけわふるーよもきふのやと
きりきりすーのこるこゑするーよるのしも

【美濃千句】／何色［しくれつつ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日〜21 日

つきのみすめるーよもきふのやと
きりきりすーゆくへはかなきーしもおきて

【大永四年月並千二百韻】／□□［かけきゆる］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 8 月 23 日

かさなる

重なる山（かさなるやま）

→峰の雲（みねのくも）

かさなるやまのーみちはとほくて
かくれるはーいつこならましーみねのくも

【諸尊法紙背３巻】／旧何［あきまてと］／建武 4(1337) 年 6 月 29 日

かさなるやまのーおくそしつけき
みよしのにーいるあとかくせーみねのくも

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

かしこい

賢い（かしこい）

→世が治まる（よがおさまる）

かしこきはーひとのこころのーかかみにて
うちまかするにーよこそをさまれ

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

かしこきはーいかにたえせぬーのりならむ
とほきかたまてーよこそをさまれ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［いなつまも］／慶長 9(1604) 年 7 月 6 日

→言の葉の道

かしこきもーなのみのこるはーゆめなれや
むかしをしのふーことのはのみち

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

かしこきもーえらふときにやーいてぬらむ
ことのはのみちーいろいろになる

【明応年間百韻２２巻】／何人［くもはれて］／明応 5(1496) 年 8 月 22 日

かすか

影かすか

→絶え絶え

はるのいりひのーかけかすかなり
たえたえにーかねのひひきのーきこえきて

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

よをまつつきのーかけかすかなり
たえたえにーたなひくきりのーうすくもり

【天正年間百韻５７巻】／何路［たちそひて］／天正 6(1578) 年 1 月 3 日

微かな影

→飛ぶ蛍

ともすひかりのーかすかなるかけ
あきかせやーくもゐはるかにーとふほたる

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

おほゐのつきのーかすかなるかけ
ひとつふたつーそらにみえてやーとふほたる

【元和年間百韻２４巻】／□□［むかしにや］／元和 5(1619) 年 7 月 24 日

かすみ

朝霞

→雲に有明の月

たなひけはーはやきえそむるーあさかすみ
よこくもをしきーありあけのつき

【飯盛千句】／何船［ありあけや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

やまはかりーなほふるゆきのーあさかすみ
こほりはくもにーありあけのつき

【至徳以前百韻７巻】／何人［けふいくか］／千句第五／永徳 2(1382) 年 1 月 22 日

かせゆるくーふきくるのへのーあさかすみ
くもゐにのこるーありあけのつき

【文明十五年千句１１巻】／何舟［かけたかし］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

→鶯の声

かはかみのーあめになるへきーあさかすみ
たにのといつるーうくひすのこゑ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あめはれて］／応永 30(1423) 年 5 月 25 日

あさかすみーひとよのほとにーはるめきて
こころをさそふーうくひすのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

→月が残る

あさかすみーうちいつるみつにーはれそめて
ふなちをとほみーつきそのこれる

【文明年間百韻３４巻】／何人［きえねよし］／文明 14(1482) 年 2 月 2 日

あさかすみーのとかなるのにーうちいてて
たひゆくそてにーつきそのこれる

【文明十二年千句８巻】／何人［ひとはさへ］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

→残る月影

かりのなくーしほひのうらのーあさかすみ
なみにうかひてーのこるつきかけ

【諸尊法紙背３巻】／旧何［あきまてと］／建武 4(1337) 年 6 月 29 日

あさかすみーのにもやまにもーいろはえて
ゆくそらとほしーのこるつきかけ

【文明年間百韻３４巻】／何木［うめかかを］／文明 15(1483) 年 2 月 19 日

幾重霞（いくえかすみ）

→鐘の響き（かねのひびき）

いくへかすみのーつつくやまやま
はるのよやーかねのひひきもーあらさらむ

【称名院追善千句】／何人［せめてさは］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

かすかのはーいくへかすみのーしけからし
かねのひひきもーたたかすかなり

【天正年間百韻５７巻】／□□［なつやまは］／天正 17(1589) 年 4 月 26 日

うち霞む（うちかすむ）

→雲雀鳴く声（ひばりなくこえ）

かせたえてーまつのひときのーうちかすみ
くもにきえつつーひはりなくこゑ

【宗牧追善千句】／何路［のこるなは］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

つゆかかるーみちのしはくさーうちかすみ
よふかきあさけーひはりなくこゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

のほるひのーひかりもしるくーうちかすみ
はるたつくもにーひはりなくこゑ

【天文年間百韻３８巻】／山何［ほたるとふ］／天文 6(1537) 年 5 月 10 日

霞（かすみ）

→春の遠山（はるのとおやま）

かすみよりーつきのゆふかけーほのかにて
ふなちにむかふーはるのとほやま

【美濃千句】／何人［かすみさへ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

かすみよりーおきつしらなみーうちいてて
くもにあけたるーはるのとほやま

【明応年間百韻２２巻】／何人［あきのいろに］／明応 9(1500) 年 7 月 11 日

霞くみよる（かすみくみよる）

→長き日（ながきひ）

いちのかへさはーかすみくみよる
なかきひもーくれてたとれるーみわのさと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちひろある］／慶長 4(1599) 年 5 月 10 日

かすみくみよるーかけのさくらと
なかきひもーゆふへになれるーまりのには

【慶長年間百韻２７巻】／□□［よつのとき］／裏白／慶長 18(1613) 年 1 月 3 日

霞こめる（かすみこめる）

→覚束ない（おぼつかない）

やまちゆくゆくーかすみこめたり
おほつかなーくれぬるかたのーよふことり

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

はなにさくらもーかすみこめたり
よふことりーしるへはせしもーおほつかな

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

→呼子鳥（よぶこどり）

やまちゆくゆくーかすみこめたり
おほつかなーくれぬるかたのーよふことり

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

はなにさくらもーかすみこめたり
よふことりーしるへはせしもーおほつかな

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

霞みつつ（かすみつつ）

→春の雁（はるのかりがね）

かすみつつーいつくのそらもーのとやかに
くもにいるらむーはるのかりかね

【文明十四年万句５２巻】／何田［ゆくみつの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かすみつつーふれともあめにーしをたれて
はねうちかはすーはるのかりかね

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

霞にこもる（かすみにこもる）

→鶯（うぐいす）

かすみにこもるーさとはふりにき
うくひすのーつまとふのへのーゆきのうち

【文安月千句】／何田［ほしのなも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

かすみにこもるーかけのふるてら
うくひすのーのきはにきゐるーこゑすなり

【成立不詳・宗養以前８巻】／山何［かせやしる］／成立時不詳

→鐘の音（かねのおと）

かすみにこもるーてらのさしいり
はるもたたーけふにくれぬるーかねのおと

【天正年間百韻５７巻】／□□［けふひくや］／天正 12(1584) 年 1 月 10 日

かすみにこもるーみねのまつかせ
かねのおとーほのかにはるのーひはおちて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ひめおきし］／慶長 4(1599) 年 3 月 25 日

→春の雨（はるのあめ）

かすみにこもるーみきりさひしも
やまちかきーしつくにのこるーはるのあめ

【天正年間百韻５７巻】／□□［すたれまけ］／天正 15(1587) 年 1 月 10 日

かすみにこもるーおくのふるてら
つねよりもーともしひしめるーはるのあめ

【元和年間百韻２４巻】／□□［ちちのはるを］／裏白／元和 4(1618) 年 1 月 3 日

霞にたどる道（かすみにたどるみち）

→呼子鳥（よぶこどり）

かすみにたとるーいはのかけみち
よふことりーなきてこころのーしるへせよ

【葉守千句】／白何［こからしを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かすみにたとるーみちのをちこち
よふことりーこゑするかたにーひはくれて

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

霞の内の水の水上（かすみのうちのみずのみなかみ）

→言問う（こととう）

かすみのうちのーみつのみなかみ
ことはむーいつくかはるのーみなとかは

【天文年間百韻３８巻】／何人［はなのいろも］／天文 14(1545) 年 2 月 25 日

かすみにおつるーみつのみなかみ
はるくるるーうちのしはふねーことはむ

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／文正元 (1466) 年（7 月 16 日）

霞の底（かすみのそこ）

→蛙鳴く（かわずなく）

やまかくれーかすみのそこのーみちわけて
とくるこほりにーかはつなくなり

【文明十二年千句８巻】／一字露頭［わかはもて］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

きこえきつーかすみのそこのーみつのおと
かはつなくなりーはるふかきころ

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

霞のひま（かすみのひま）

→春浅い（はるあさい）

かすみのひまのーあさあけのやま
はるあさきーのかせやしもにーくもるらむ

【永享年間百韻４巻】／山何［くちてけり］／永享 12(1440) 年 10 月 16 日

かすみのひまの－なかそらのゆき
はるあさき－ひかけやさすも－うすからむ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ひきのこせ］／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

霞より（かすみより）

→滝の白浪（たきのしらなみ）

かすみより－いつくのかねの－きこゆらむ
くものひひきか－たきのしらなみ

【紫野千句】／何物［したくさの］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

かすみより－うへにみえたる－やまさくら
をられぬはなは－たきのしらなみ

【菟玖波集／広島大学本】／春下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

霞む（かすむ）

→落ちる滝浪（おちるたきなみ）

かすむらむ－はるのかはかせ－やまおろし
ゆきのひまより－おつるたきなみ

【天文十八年梅千句】／山何［うめさけは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

はなのきや－それとしるしに－かすむらむ
おとさへはるに－おつるたきなみ

【天文廿四年梅千句】／何垣［あさきりに］／天文 24(1555) 年正月 7 日

→帰る雁（かえるかりがね）

ありあけや－なかそらたかく－かすむらむ
くもちはるかに－かへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

こころさへ－たなひかれてや－かすむらむ
みおくるままに－かへるかりかね

【成立不詳・宗養以前８巻】／朝何［なひくよや］／成立時不詳

→春風が吹く（はるかぜがふく）

そことなく－のはらのすゑや－かすむらむ
ゆくそておくる－はるかせそふく

【永正年間百韻１巻】／何人［こゑとほく］／永正元 (1505) 年 12 月 10 日

みわたしの－そらはいつより－かすむらむ
やなきいろつく－はるかせそふく

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑上／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

霞む遠近（かすむおちこち）

→急ぐ雁（いそぐかり）

あさとあくれは－かすむをちこち
はるのよを－いくつらかりの－いそくらむ

【大永四年月並千二百韻】／何色［うめのはな］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 1 月 23 日

わくるのはらの－かすむをちこち
あさかりや－とりのねとめて－いそくらむ

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

霞む春の遠山（かすむはるのとおやま）

→有明の月（ありあけのつき）

かすみかくれの－はるのとほやま
ありあけの－つきもわかれの－かりなきて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

かすみにのこる－はるのとほやま
ありあけの－つきのひかりの－さえかへり

【天正四年万句７０巻】／何鳥［かせにしるき］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

霞む日（かすむひ）

→雪の斑消え（ゆきのむらぎえ）

かすむひに－としのこえぬる－ほとをみて
ふりかさぬれと－ゆきのむらきえ

【表佐千句】／何年［はなにいる］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

はしたかの－をこしのとたち－かすむひに
いこまかたのの－ゆきのむらきえ

【親当関係２種】／親当句集／赤木文庫本／

かすむやまもと
霞む山本

→水無瀬川（みなせがわ）

くるるまくさはーかすむやまもと
ところせきーわたりかねたるーみなせかは

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］／

あらしのすゑのーかすむやまもと
ゆきてしもーとははやはるのーみなせかは

【天文年間百韻３８巻】／何木［やまかけて］／天文 21(1552) 年 3 月 11 日

みれはほのかにーかすむやまもと
はるのよもーありあけかたのーみなせかは

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

そこともみえすーかすむやまもと
ほのかにもーあけのこりたるーみなせかは

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねのひして］／慶長 6(1601) 年 1 月 26 日

かすむゆうぐれ
霞む夕暮れ

→月の出（つきので）

あけほののみかーかすむゆふくれ
いりあひのーかねにをのへのーつきいてて

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

つまきのみちのーかすむゆふくれ
しつかすむーまかきのそともーつきいてて

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

かぜとあさがすみ
風と朝霞

→出る日影（いづるひかげ）

あさかすみーふきとくかせのーなほさえて
いつるひかけのーとりのさへつり

【享徳二年千句】／何木［はきにつゆ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

かせたえてーはるのよしるしーあさかすみ
いつるひかけのーおそきやまのは

【天正四年万句７０巻】／三字中略［かせたえて］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

つきがかすむ
月が霞む

→残る（のこる）

さかののてらのーつきそかすめる
のとかなるーあらしのくもやーのこるらむ

【初瀬千句】／何水［うのはなの］／享徳元・2(1452) 年、4 月

あさとあくれはーつきそかすめる
かやりたくーねやにけふりやーのこるらむ

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

つきがかすむよる
月が霞む夜

→雲居を帰る雁（くもいをかえるかりがね）

ありあけのーつきやあらぬとーかすむよに
きけはくもゐをーかへるかりかね

【永享年間百韻４巻】／山何［おいまつは］／万句巻頭／永享 9(1437) 年 3 月 21 日

つきかけはーみえみみえすみーかすむよに
くもゐちたとりーかへるかりかね

【成立不詳・宗砌以前６巻】／ｘｘ［うめなれや］／成立時不詳

よこぐもかすむ
横雲霞む

→夢の浮橋（ゆめのうきはし）

よこくものーわかるるかたやーかすむらむ
よるちるはなのーゆめのうきはし

【熊野千句】／何路［かさなるや］／文正元 (1466) 年 3 月以前

よこくものーのこれるよもーかすむひに
さめてそなほもーゆめのうきはし

【文明十二年千句８巻】／白何［まつりする］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

かすむ

雨霞む暮れ（あめかすむくれ）

→春風（はるかぜ）

まさるみきはやーあめかすむくれ
はるかせのーふねのはつきもーくちけらし

【天正年間百韻５７巻】／何船［あをやきは］／天正 13(1585) 年 1 月 28 日

をのへのくもにーあめかすむくれ
はるかせのーよわるにとほきーかねのこゑ

【永正年間百韻１巻】／何人［こゑとほく］／永正元 (1505) 年 12 月 10 日

→時鳥（ほとときす）

ふるのをとほみーあめかすむくれ
さたかにもーいつかはなかむーほとときす

【永原千句】／何木［おとそなき］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

ふちかをりつつーあめかすむくれ
はつこゑやーやよひなからのーほとときす

【平松文庫本千句】／□□［おちはして］／

かず

数あまた（かずあまた）

→如何ばかり（いかばかり）

かすをあまたのーふみもはかなし
いかはかりーさてもあたなるーひとならむ

【永正十花千句】／唐何［いろきえぬ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

かすをあまたのーおもひくるしも
をくるまのーしちのはしかきーいかはかり

【天正四年万句７０巻】／何田［しかのねは］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

数ならぬ（かずならぬ）

→秋の夕暮れ（あきのゆうぐれ）

かすならぬーちちのうらみもーすてねたた
そのかみよりのーあきのゆふくれ

【難波田千句】／□□［あくるよを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

かすならぬーみはいつとてもーとはれめや
うらみなはてそーあきのゆふくれ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［はなそあをは］／成立時不詳

→春が来た（はるがきた）

かすならぬーみのしろころもーそてぬれて
なきかすみかもーはるはきにけり

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かすならぬーかきねにさけるーうめのはな
ひとおとわかすーはるはきにけり

【明応年間百韻２２巻】／何人［くもはれて］／明応 5(1496) 年 8 月 22 日

かぜ

秋風（あきかぜ）

→衣打つ（ころもうつ）

しもまよふーとほさとをのーあきかせに
たれをりはへてーころもうつらむ

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］／長享 2(1488) 年 7 月

ひまみゆるーねやのとほそのーあきかせに
たかしきたへのーころもうつらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［そよとしも］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 10 月 23 日

→庭の月影（にわのつきかげ）

しきたへのーころもてかれぬーあきかせに
くもまそひゆくーにはのつきかけ

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

あきかせにーつゆもたまらすーちるこすゑ
あらはになりぬーにはのつきかけ

【文明十四年万句５２巻】／何路［ぬしやたれ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→野辺の虫の音（のべのむしのね）

さとはあれてーうゑしまつふくーあきかせに
かきねのくさはーのへのむしのね

【葉守千句】／白何［こからしを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

すすしさをーもとむるそてのーあきかせに
いつれかいつれーのへのむしのね

【飯盛千句】／何人［くみわすれ］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

→初雁の声（はつかりのこえ）

あきかせにーいさよふほたるーほのかにて
いつのねさめかーはつかりのこゑ

【永正十花千句】／何木［ひかすたに］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

むさしのやーさすらへきぬるーあきかせに
みやこもさそなーはつかりのこゑ

【永正年間百韻３４巻】／山何［たちはなに］／永正 18(1521) 年 5 月 7 日

→松虫の声（まつむしのこえ）

したつゆもーくさかくれなきーあきかせに
しをれはなにかーまつむしのこゑ

【延徳年間百韻１６巻】／何路［うめかかの］／延徳 4(1492) 年 1 月 23 日

あちきなくーこぬひとうらむーあきかせに
なほふるさとのーまつむしのこゑ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

さとはあれてーひとこそとはねーあきのかせ
ゆふくれかなしーまつむしのこゑ

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

しもかれのーくすはにかはるーあきのかせ
かけはいつこのーまつむしのこゑ

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

→山の端の色（やまのはのいろ）

つきしろもーそらすみぬへきーあきかせに
しくれてとほるーやまのはのいろ

【元亀年間百韻６巻】／何人［とめゆけは］／元亀 3(1572) 年 9 月 28 日

あきかせにーそらゆくくもやーきえぬらむ
みるみるかはるーやまのはのいろ

【天正四年万句７０巻】／唐何［はなさけは］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→古里の夕べ（ふるさとのゆうべ）

かれをきまてもーあきかせのこゑ
ふるさとのーゆふへやつきをーまたすらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

まつあるかたのーあきかせのこゑ
ふるさとのーつゆのゆふへやーうかるらむ

【文明十四年万句５２巻】／夢想［たにみつの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→後朝の後（きぬぎぬのあと）

もろともにーきくさへかなしーあきのかせ
あさつゆおもへーきぬきぬのあと

【東山千句】／薄何［つゆをいろ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

ひとりねのーまくらわひしきーあきのかせ
つきにかさねしーきぬきぬのあと

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

→衣打つ声（ころもうつこえ）

あきのかせーたけのはすさふーそらふけて
ふしみをとほみーころもうつこゑ

【浅間千句】／何路［ゆくほたる］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

すすしさもーつきまつほとのーあきのかせ
よひふけけらしーころもうつこゑ

【永禄石山千句】／三字中略［こすゑまて］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

→鴫の羽掻き（しぎのはねがき）

あきのかせーみやこのゆめをーさそふよに
まくらさためぬーしきのはねかき

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［かめにさす］／天文 21(1552) 年 2 月 20 日

かとたよりーおとしてかよふーあきのかせ
めさますいほのーしきのはねかき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［さきつかむ］／裏白／慶長 19(1614) 年 1 月 3 日

→露が零れる（つゆがこぼれる）

まつたかしーいほりのうへのーあきのかせ
くさのとほそはーつゆそこほるる

【文安月千句】／何人［おもかはり］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

いまいくよーとははうつろふーあきのかせ
たもとならはすーつゆそこほるる

【秋津洲千句】／山何［くもよまて］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

ふるさとのーゆふへなりけりーあきのかせ
むしのねしけきーつゆそこほるる

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

→舟から聞く浪が凄まじい（ふねからきくなみがすさまじい）

かけもややーゆふひをおくるーあきのかせ
ふねなからきくーなみはすさまし

【宗牧追善千句】／何路［のこるなは］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

ゆめかへるーかりねのとこのーあきのかせ
ふねにきくよのーなみはすさまし

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

ここよりやーたちていつみのーあきのかせ
てるみなつきのーひくらしのこゑ

【浅間千句】／山何［ここよりや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

すすしさやーやすらふままのーあきのかせ
またかけのこるーひくらしのこゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

あつきひはーかけよわるつゆのーあきかせに
ころもてうすしーひくらしのこゑ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［うすゆきに］／延徳 3(1491) 年 10 月 20 日

あきかせにーひとむらさめのーそらはれて
やまちをゆけはーひくらしのこゑ

【園塵第四／早稲田大学本】／秋／永正 6、7 年

→枕は何処（まくらはいずこ）

うたたねのーつきふけけれなーあきのかせ
まくらのいつこーたかきむしのね

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

よひよひのーそてにしらるるーあきのかせ
まくらのいつこーころもうつらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［としなみの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 12 月 23 日

→山の端の月（やまのはのつき）

あきのかせーほのしたをきのーよひふけて
ゆふへまたれしーやまのはのつき

【永禄年間百韻２８巻】／追善［まれにとふ］／永禄元 (1558) 年 11 月 5 日

たにかはにーほたるみたるるーあきのかせ
くもやへたてしーやまのはのつき

【天正年間百韻５７巻】／□□［なつやまは］／天正 17(1589) 年 4 月 26 日

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

きけはまたーみねよりおつるーあきのかせ
みたるるこのはーさをしかのこゑ

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

いくたひかーまつにくすはのーあきのかせ
しくれにぬるるーさをしかのこゑ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→露のふる里

たちそめてーいくゆふくれのーあきのかせ
たひもさこそのーつゆのふるさと

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

をきのはにーきけはくもふくーあきのかせ
みやまにーにたるーつゆのふるさと

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

→一群薄

はなもなきーこはきかもとのーあきのかせ
ひとむらすすきーたれまねくらむ

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

つゆきえしーのはらにたちぬーあきのかせ
ひとむらすすきーひとのおもかけ

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

秋風が吹く

→鳴く蟋蟀

ここにすみけるーあきかせそふく
たれとなくーふりにしあとのーきりきりす

【伊勢千句】／何木［すめるよの］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

かれののあさちーあきかせそふく
くれぬれはーなくねもかはるーきりきりす

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

→露ふる

まきのいたまはーあきかせそふく
みのむしのーこゑあはれにもーつゆふりて

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

とへはののみやーあきかせそふく
かきりなくーそてのわかれちーつゆふりて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［ちれはいさ］／成立時不詳

→浅茅が原

さひしきものとーあきかせそふく
あさちはらーこころをそむるーつゆなから

【専順関係２種】／秋／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

つきはふけつつーあきかせそふく
あさちはらーむしのねよりもーわれなきて

【園塵第三／続群書類従本】／秋／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→花薄

とふかときけはーあきかせそふく
はなすすきーきみかうゑしやーしのふらむ

【文明年間百韻３４巻】／何路［あさなけに］／文明 8(1476) 年 1 月 11 日

むかしこひしきーあきかせそふく
ひとすまぬーをのへのみやのーはなすすき

【愚句老葉】／秋／永正 17 年

秋風の声

→影寂しい

やなきにたかきーあきかせのこゑ
かけさひしーかりなきわたるーゆふつくよ

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

このくれよりのーあきかせのこゑ
みにしみてーいくたのもりのーかけさひし

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

→身にしみる

なみたすすむるーあきかせのこゑ
ものおもへはーくものはたてもーみにしみて

【難波田千句】／□□［あくるよを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

このくれよりの－あきかせのこゑ
みにしみて－いくたのもりの－かけさひし

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

秋の川風（あきのかわかぜ）

→霧わたる（きりわたる）

まよふやふなち－あきのかはかせ
きりわたる－やまもとつつき－かすかにて

【永正年間百韻３４巻】／何人［ゆふつくよ］／永正 13(1516) 年 7 月 8 日

なみにあけたつ－あきのかはかせ
きりわたる－すゑののすすき－むらむらに

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

秋の初風（あきのはつかぜ）

→月出る（つきいでる）

にしよりむかふ－あきのはつかせ
かみのます－かのをかきよく－つきいてて

【宝徳四年千句】／何船［いろそそふ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

あかつきしるき－あきのはつかせ
きよからむ－かけほのめかす－つきいてて

【永正年間百韻３４巻】／何路［ひとはいさ］／永正 17(1520) 年 2 月 4 日

ふなちにおもふ－あきのはつかせ
くまもなく－なきたるなみに－つきいてて

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

→残る暑さに端居する（のこるあつさにはしいする）

ふくとしもなき－あきのはつかせ
ふくるまて－のこるあつさに－はしゐして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長 6(1601) 年 1 月 3 日

おともしつけき－あきのはつかせ
しはしたた－のこるあつさに－はしゐして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

→虫鳴く（むしなく）

たひたつそらも－あきのはつかせ
かへるさの－やまちいまはた－むしなきて

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

ふきつたへくる－あきのはつかせ
このさとも－さなからのへの－むしなきて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何人［やまみつは］／成立時不詳

→誘う（さそう）

こすゑよりこそ－あきのはつかせ
ひくらしに－まつむしのねや－さそふらむ

【住吉千句】／白何［あられのみ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

またこぬくれの－あきのはつかせ
したはちる－やなきやかりを－さそふらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

→七夕（たなばた）

けふめつらしき－あきのはつかせ
たなはたの－いかにまちみし－くれならむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［うのはなの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 4 月 23 日

またそてぬらす－あきのはつかせ
たなはたの－まとほのうらみ－いかはかり

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

→一葉より（ひとはより）

たえたえなりし－あきのはつかせ
ひとはより－のちはきことに－ちるをみて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

このよをおもふ－あきのはつかせ
ひとはより－かろきはおいの－ゆくへにて

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑下／文明 8(1476) 年 5 月頃

荻に風（おぎにかぜ）

→物思う頃（ものおもうころ）

をきにかせーほのかにしのふーゆふまくれ
つきにもみえしーものおもふころ

【河越千句】／白何［はるかせに］／文明2(1470)年正月10〜12日

をきにかせーややはたさむくーはやなりて
つゆもわかみのーものおもふころ

【太神宮法楽千句】／白何［つゆなから］／長享2(1488)年7月

荻の上風（おぎのうわかぜ）

→秋の夜（あきのよ）

そよともすれはーをきのうはかせ
さらぬたにーねさめかちなるーあきのよに

【菟玖波集／広島大学本】／秋上／文和5(1356)年冬〜翌年の春

たまくらなれやーをきのうはかせ
つきしろくーむすはぬゆめのーあきのよに

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文9(1541)年12月25日

→古里人（ふるさとびと）

ゆめにうらむるーをきのうはかせ
みしはみなーふるさとひとのーあともうし

【長享年間百韻6巻】／何人［ゆきなから］／長享2(1488)年1月22日

かりもなくなりーをきのうはかせ
たかあきとーふるさとひとのーまたるらむ

【天文年間百韻38巻】／何船［あさかほに］／天文12(1543)年7月29日

→思う（おもう）

ひとはおとせすーをきのうはかせ
あきやきてーわかふるさととーおもふらむ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

そてをそはらふーをきのうはかせ
いかてかはーさてもとはぬをーおもふらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

→古里（ふるさと）

そふるやうらみーをきのうはかせ
ひまもなくーのきはくすはふーふるさとに

【永正年間百韻34巻】／何路［あきにかせ］／永正8(1511)年7月14日

おもひたゆまぬーをきのうはかせ
もとあらのーこはきうつろふーふるさとに

【合点之句／神宮文庫本】／独吟百韻／天文9(1541)年12月25日

→夕まぐれ（ゆうまぐれ）

そよそのことーをきのうはかせ
なかめつつーたちつつわふるーゆふまくれ

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文6(1537)年5月22日

みもあへぬつゆにーをきのうはかせ
むらさめのーくもまにつきのーゆふまくれ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

風が凄まじい（かぜがすさまじい）

→蟋蟀（きりぎりす）

いたまみえたるーかせはすさまし
こゑちかきーまくらのつきにーきりきりす

【天文廿四年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文24(1555)年正月7日

よるのとほそのーかせはすさまし
きりきりすーなきよるとこをーしきわひて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立()年未詳

風が身にしみる（かぜがみにしみる）

→秋の空（あきのそら）

なみたしくれてーかせそみにしむ
なほさりとーおもふなひとのーあきのそら

【三島千句】／何木［やまかせに］／文明3(1471)年3月21日〜23日

よふかきやまのーかせそみにしむ
しくれせぬーねさめはいかにーあきのそら

【葉守千句】／何木［あらかりし］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

風と朝霞（かぜとあさがすみ）

→出る日影（いづるひかげ）

あさかすみ－ふきとくかせの－なほさえて
いつるひかけの－とりのさへつり

【享徳二年千句】／何木［はきにつゆ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

かせたえて－はるのよしるし－あさかすみ
いつるひかけの－おそきやまのは

【天正四年万句７０巻】／三字中略［かせたえて］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

風に匂う橘（かぜにおうたちばな）

→玉簾（たますだれ）

かせのいつくか－にほふたちはな
ふかきよを－しらてまきつる－たますたれ

【天文廿四年梅千句】／山何［うちなひき］／天文 24(1555) 年正月 7 日

つゆちるかせに－にほふたちはな
たますたれ－のきはのつきに－まきあけて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

風に花散る（かぜにはなちる）

→春の夢（はるのゆめ）

かせはなほ－あをはにのこる－はなちりて
はるのゆめこそ－ことにあたなれ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［のちやゆき］／応永 28(1421) 年 2 月 25 日

いつもふく－まつかせつらき－はなちりて
はるのゆめこそ－やかてさめぬれ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［あらしにも］／存疑／成立時不詳

風の音羽山（かぜのおとわやま）

→逢坂の関（おうさかのせき）

このはふく－あらしのかせの－おとはやま
こえすはたれに－あふさかのせき

【顕証院会千句】／何田［あきくさは］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

あたたかに－ふきくるかせの－おとはやま
あさひにむかふ－あふさかのせき

【五吟一日千句】／何路［いそのなみ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

つきにふる－しくれやかせの－おとはやま
ちらぬもみちに－あふさかのせき

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／名所［つきにふる］／存疑／成立時不詳

風の折々（かぜのおりおり）

→なる

このしたつゆは－かせのをりをり
しかのねや－こはきかいろと－なりぬらむ

【紹巴亡父追善千句】／何人［なきあとは］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

たもとをしをる－かせのをりをり
おとつれも－いまやうらみと－なりぬらむ

【天正四年万句７０巻】／初何［そてくちか］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

風の静けさ（かぜのしずけさ）

→匂う（におう）

ふきまよひゆく－かせのしつけさ
うめのはな－たかさとまてか－にほふらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

すたれにふるる－かせのしつけさ
ことのねも－たかころもてに－にほふらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 12 月 23 日

風の涼しさ（かぜのすずしさ）

→安らう（やすらう）

そてふきおくる－かせのすすしさ
たまほこの－ゆくへにしはし－やすらひて

【天正年間百韻５７巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

たたすかはらの－かせのすすしさ
みそきする－みつのほとりに－やすらひて

【文明十五年千句１１巻】／三字中略［かたいとを］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

かぜのはげしさ
風の激しさ

→時雨来る

たもとにさゆる－かせのはけしさ
あきのそら－またかきくもり－しくれきて

【文明年間百韻３４巻】／薄何［さくをみよ］／文明 14(1482) 年 3 月 7 日

たにはふかきも－かせのはけしさ
つまきをる－みちははるかに－しくれきて

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かすみさへ］／延徳 4(1492) 年 1 月 22 日

→秋暮れる

うちいつるのの－かせのはけしさ
したひゆく－なこりもとめす－あきくれて

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

なるとふきこす－かせのはけしさ
まきのやも－すみうきはかり－あきくれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

かぜのまにまに
風のまにまに

→暮れる日

ちりもあくたも－かせのまにまに
おくれゆく－うしのあゆみの－くるるひに

【大原野十花千句】／何船［ひときつつ］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

かせのまにまに－つゆみたるらし
なみかへる－みきはのみちの－くるるひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

→浪返る

かせのまにまに－つゆみたるらし
なみかへる－みきはのみちの－くるるひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

つゆのたまちる－かせのまにまに
なみかへる－まさこにうつる－つきのくれ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［さそなおく］／寛文 13(1673) 年 7 月 28 日

かぜのむらさめ
風の村雨

→時鳥

ふきおくらるる－かせのむらさめ
ほとときす－まきれはてや－すきぬらむ

【出陣千句】／何木［しもなから］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

あとよりふれる－かせのむらさめ
ほとときす－はなもちりあへす－はやなきて

【壁草／続群書類従本】／夏／永正 3(1506) 年 3 月頃

かぜのゆくすえ
風の行末

→植え置く

いかにふきそふ－かせのゆくすゑ
うゑおきし－そのふのたけの－かけふかみ

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

のとかになりぬ－かせのゆくすゑ
うゑおきし－みきりのまつの－わかみとり

【文禄二年千句１０巻】／何木［うすきりや］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

かぜみえる
風見える

→初雁の声

はなすすき－なひくはかりに－かせみえて
つきにほのきく－はつかりのこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何人［ひかしけふ］／本式／明応 5(1496) 年 1 月 9 日

むらさめに－つゆふきみたす－かせみえて
すすきになひく－はつかりのこゑ

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

こがらしのかぜ
木枯しの風

→笛の音（ふえのね）

ふきもたゆまぬーこからしのかせ
ふえのねはーさそはれかへる―をちこちに

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

ろうにふきいるーこからしのかせ
ふえのねはーととめもあへぬーをくるまに

【天文年間百韻３８巻】／何人［ゆふかけて］／天文 11(1542) 年 5 月 7 日

→山の秋暮れる（やまのあきくれる）

ひとりさひしきーこからしのかせ
よにとほくーこもるみやまのーあきくれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

いととはけしきーこからしのかせ
しをれゆくーふかくさやまにーあきくれて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

凄い秋風（すごいあきかぜ）

→野の一つ松（ののひとつまつ）

とふかひなしやーすこきあきかせ
くれぬとてーかけたのむののーひとつまつ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

ふきとしふくはーすこきあきかせ
かるるののーひともとすすきーひとつまつ

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

袖吹きおくる風（そでふきおくるかぜ）

→玉鉾（たまぼこ）

そてふきおくるーみねのこからし
たまほこのーすゑはゆふしもーさえさえて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［かめにさす］／天文 21(1552) 年 2 月 20 日

そてふきおくるーかせのすすしさ
たまほこのーゆくへにしはしーやすらひて

【天正年間百韻５７巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

ただ秋の風（ただあきのかぜ）

→雁鳴く（かりなく）

たのめしあとはーたたあきのかせ
ひとふてのーたよりをまてはーかりなきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［まつかせや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 6 月 23 日

をののゆふへはーたたあきのかせ
のこるひもーいろこきいねにーかりなきて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

ただ松の風（ただまつのかぜ）

→初時雨（はつしぐれ）

ふりたるみやはーたたまつのかせ
さひしさはーかみなきつきのーはつしくれ

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

あきのまくらはーたたまつのかせ
さをしかのーなくねにしるきーはつしくれ

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 5 月 23 日

露吹く風（つゆふくかぜ）

→虫鳴く（むしなく）

つゆふくかせはーにしよりそたつ
みやきののーはなのさかりはーむしなきて

【宝徳四年千句】／何衣［はなもはも］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

つゆふくかせはーすすのかりいほ
なつころもーひもくれかたは―むしなきて

【永正年間百韻３４巻】／何衣［あひにあひぬ］／永正 10(1513) 年 2 月 16 日

野分の風（のわきのかぜ）

→朱のそほ舟（あけのそほぶね）

のわきのかせの－かよふやまもと
きりまより－あけのそほふね－あらはれて

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

やまもとは－のわきのかせの－ふきたえて
みきはにとむる－あけのそほふね

【文明十四年万句５２巻】／何水［たまやとる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

初風と昨日は聞いて秋更ける（はつかぜときのうはきいてあきふける）

→人は残らない紅葉（ひとはのこらないもみじ）

はつかせと－きのふはききし－あきふけて
ひとはのこらす－もろきもみちは

【三島千句】／何人［しるしらす］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

はつかせと－きのふはききし－あきふけて
ひとはのこらす－もみちちるかけ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

花の春風（はなのはるかぜ）

→山桜（やまざくら）

とはむといひし－はなのはるかせ
おくはまた－おそきもあれや－やまさくら

【弘治年間百韻８巻】／何船［たくそてに］／弘治 2(1557) 年 12 月 2 日

くもをはらふは－はなのはるかせ
やまさくら－よのまのあめに－さきいてて

【愚句老葉】／春／永正 17 年

にはのくちきの－はなのはるかせ
やまさくら－かけひのみつに－なかれきて

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正 6、7 年

花の山風（はなのやまかぜ）

→春になる（はるになる）

くもあるつきの－はなのやまかせ
あけほのは－ゆふへわかれし－はるなれや

【至徳以前百韻７巻】／□□［くれなゐの］／至徳 4(1387) 年以前

うらみははてし－はなのやまかせ
くれてしも－なほうとまれぬ－はるなれや

【大永三年月並千三百韻】／□□［ひとこゑや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 4 月 23 日

春風が吹く（はるかぜがふく）

→霞む（かすむ）

あしたのはらに－はるかせそふく
さしのほる－ひもほのかにや－かすむらむ

【葉守千句】／朝何［しもふけて］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かれしはやしも－はるかせそふく
やまはけさ－いくしもよにか－かすむらむ

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

吹く風に秋の露（ふくかぜのあきのつゆ）

→蜩の声（ひぐらしのこゑ）

かせはまた－ふかぬになつも－あきのつゆ
せみにましるや－ひくらしのこゑ

【平松文庫本千句】／□□［なてしこの］／

まつにふく－かせのしたはの－あきのつゆ
またかけうすき－ひくらしのこゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［しくれのあめ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 10 月 23 日

吹く浪の浦風（ふくなみのうらかぜ）

→鳥の鳴き立つ（とりのなきたつ）

ふきまとはせる－なみのうらかせ
さよふかき－うきねのとりの－なきたちて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

ふきこそかはれ－なみのうらかせ
なかそらに－まさこのちとり－なきたちて

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

松風が吹く（まつかぜがふく）

→雲浮く

こえむをのへはーまつかせそふく
くれわたるーそらにひとむらーくもうきて

【三島千句】／朝何［やまとほく］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こえくるみねはーまつかせそふく
むらさめのーなこりにしはしーくもうきて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

→憂い

みちくるしほにーまつかせそふく
とまりてもーふねやこころのーうかるらむ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

こころもしらすーまつかせそふく
ゆふくれやーこけのしたにもーうかるらむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→頼む

あらうみきはーまつかせそふく
あまをふねーなとこのきしをーたのむらむ

【三島千句】／山何［うくひすの］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こころもしらすーまつかせそふく
ふけいつるーつきはくもをもーたのむらむ

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

松風の声

→月を見る

しつこころなきーまつかせのこゑ
つゆふかきーこはきかうへのーつきをみて

【文安月千句】／何船［つきはなを］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

またおとろくやーまつかせのこゑ
ふくるよのーねやにもりくるーつきをみて

【文明年間百韻３４巻】／□□［はたはりや］／文明 14(1482) 年 9 月

→花散る

さひしきやまのーまつかせのこゑ
みはやすをーまちあへぬまのーはなちりて

【天文年間百韻３８巻】／何木［あすのなを］／天文 17(1548) 年 8 月 14 日

よにとほやまのーまつかせのこゑ
たつねこしーひともあとなくーはなちりて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正 6(1509) 年以前

松吹く風

→散る花

まつふくかせもーかすみはてけり
ちるはなのーにほひをはるのーなこりにて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

まつふくかせもーゆめはみせけり
ちるはなのーかをるまくらにーめもあはて

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

峰の秋風

→雁鳴く

つきさやかなるーみねのあきかせ
かきつらねーみたれぬくもにーかりなきて

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

たもとふきすくーみねのあきかせ
さよころもーよさむのつきにーかりなきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

山の松風

→柴の庵

ふるさとよりのーやまのまつかせ
なかなかにーかこふそやすきーしはのいほ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なれてもさひしーやまのまつかせ
たれきてかーこころととめむーしはのいほ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→中々（なかなか）

ふるさとよりの－やまのまつかせ
なかなかに－かこふそやすき－しはのいほ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なれつつすめる－やまのまつかせ
なかなかに－こけのころもは－さむからて

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

夜半の秋風（よわのあきかぜ）

→草枕（くさまくら）

すからにさひし－よはのあきかせ
あくるまの－はなのにおそき－くさまくら

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

すすしさおくる－よはのあきかせ
くさまくら－しきもさためぬ－いろにして

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

かた

秋の暮れ方（あきのくれがた）

→初時雨（はつしぐれ）

やまかけすこき－あきのくれかた
ふるよりも－あとはみえける－はつしくれ

【延徳年間百韻１６巻】／山何［ふきもこぬ］／延徳 2(1490) 年 9 月 20 日

をしまぬもやは－あきのくれかた
つゆはかり－さととひわふる－はつしくれ

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

明け方の空（あけがたのそら）

→月は猶（つきはなお）

あめすくるよの－あけかたのそら
つきはなほ－おちてすすしき－たまくらに

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

いそのまくらの－あけかたのそら
つきはなほ－かたふくままに－かけすみて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるはたた］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年閏 3 月 23 日

遠方の雲（おちかたのくも）

→鳥鳴く（とりなく）

つきはほのめく－をちかたのくも
しくれせし－みねよりいつる－とりなきて

【飯盛千句】／ｘｘ［かけすすし］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

ゆきをもよほす－をちかたのくも
そことなく－すゑののあした－とりなきて

【明応年間百韻２２巻】／何人［あさかすみ］／明応 4(1495) 年 1 月 6 日

→一群（ひとむら）

かはなみしろき－をちかたのくも
ひとむらの－たけのはわけの－よはあけて

【称名院追善千句】／何木［としことの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

くるるいろなる－をちかたのくも
ひとむらの－つはさならへて－とふからす

【永禄年間百韻２８巻】／何路［あらたまの］／裏白／永禄 10(1567) 年 1 月 3 日

遠方の山（おちかたのやま）

→わたの原（わたのはら）

つきのひかりに－をちこちのやま
あけわたる－きりのたえまの－わたのはら

【紹巴亡父追善千句】／唐何［はなのかに］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

かねはかすみの－をちこちのやま
わたのはら－いつくのかたに－とまりふね

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

遠方人の袖（おちかたびとのそで）

→送る

をちかたひとの－そてほのかなり
よこくもや－わかれしゆめを－おくるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

をちかたひとの－そてのむらさめ
ほととぎす－なれもたひとや－おくるらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

遠方の遠山

→雁鳴く

みつつかすみの－をちのとほやま
わかれしも－おなしゆくへの－かりなきて

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

あすやこえまし－をちのとほやま
わたりかね－ふかきせうらに－かりなきて

【心敬関係１０種】／苔筵／赤木文庫本／文明 3(1471) 年秋

方も定めない

→標

ふきかふかせは－かたもさためす
とふほたる－つきなきやみを－しるへにて

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

おくるるふねは－かたもさためす
もしほたく－うらはほかけを－しるへにて

【享徳年間百韻４巻】／何路［さくふちの］／享徳 2(1453) 年 3 月 15 日

雲の遠方

→時雨れる

ゆふひみえすく－くものをちかた
いくたひか－つきまつあきの－しくるらむ

【応仁年間百韻６巻】／何人［ときはきを］／応仁元 (1467) 年 10 月 17 日

つきもかたふく－くものをちかた
わかれゆく－そてにやつゆの－しくるらむ

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

暮れゆく方

→帰る

くれゆくかたの－はるのしらくも
とりのねや－ほのかになりて－かへるらむ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

くれゆくかたの－やまきはのみち
つきにしも－ましはとりてや－かへるらむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［にはくさの］／文禄 2(1593) 年 1 月 10 日

月の入方

→秋の空

あけなむとする－つきのいりかた
やまのはに－くもひきわたす－あきのそら

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

ひかりをさまる－つきのいりかた
なかめすや－おもひなくとも－あきのそら

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

春の暮れ方

→藤咲く

やよひのすゑの－はるのくれかた
ものふかき－まつのひまひま－ふちさきて

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

はなをそつくす－はるのくれかた
やまふきの－ひとつかきねに－ふちさきて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

かたしく

片敷の袖

→夜半の月

をれすはひとりーかたしきのそて
さりともの―うさはならひぬーよはのつき

【秋津洲千句】／唐何［うめかかの］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

ゑひのまくらのーかたしきのそて
かけはなほーおほろけならぬーよはのつき

【天正年間百韻５７巻】／初何［すすしさを］／天正 2(1574) 年 6 月 10 日

片敷く（かたしく）

→月の暁（つきのあかつき）

さえとほるーあらしをそてにーかたしきて
あきのしもふる―つきのあかつき

【毛利千句】／何路［はなにふく］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

すさましきーちはらのしもをーかたしきて
かりねするののーつきのあかつき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ゆきにしも］／裏白／慶長 9(1604) 年 1 月 3 日

霜の片敷（しものかたしき）

→月を見る（つきをみる）

かせもいとはぬーしものかたしき
さめすはとーゆめちふけゆくーつきをみて

【天文廿四年梅千句】／何人［うめいつく］／天文 24(1555) 年正月 7 日

おくつゆのみかーしものかたしき
くさまくらーそてにくちゆくーつきをみて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

かたみ

形見（かたみ）

→思いやる（おもいやる）

とりかはすーあふきをつらきーかたみにて
はるけきたひを―おもひこそやれ

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

おもかけはーこころにおかぬーかたみにて
そふはかりにも―おもひこそやれ

【寛正年間百韻２０巻】／何路［こゑそはな］／寛正 2(1461) 年 1 月 25 日

→匂う衣手（におうころもで）

はなのこるーくさはをあきのーかたみにて
けふつむきくにーにほふころもて

【顕証院会千句】／唐何［みたれけり］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

かへるさはーかたるをはなのーかたみにて
つみもつすみれーにほふころもて

【因幡千句】／薄何［かきはらふ］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日<～28 日>

→人の面影（ひとのおもかげ）

なみたのみーたひゆくわすれーかたみにて
のやまのみちもーひとのおもかけ

【出陣千句】／夕何［いくよみし］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

ありあけはーあふ□□□□のーかたみにて
つゆもわすれぬ―ひとのおもかけ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

→契り（ちぎり）

なみたはあたのーかたみなりけり
あさかほのーはなにもにたるーちきりにて

【天正四年万句７０巻】／薄何［やまとほみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

かへすもふみはーかたみなりけり
かりそめもーめにはふれけむーちきりにて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

かたむく

傾く（かたむく）

→古宮の内（ふるみやのうち）

はしいたのーところところはーかたふきて
らうもへたたる―ふるみやのうち

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちひろある］／慶長 4(1599) 年 5 月 10 日

くちにけるーやなきもつきも―かたふきて
はるさへさひしーふるみやのうち

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ゆきにしも］／裏白／慶長 9(1604) 年 1 月 3 日

月が傾く（つきがかたむく）

→古里に秋の風（ふるさとにあきのかぜ）

むかしかたりにーつきそかたふく
ふるさとをーとへはをきふくーあきのかせ

【文明年間百韻３４巻】／何船［かへれとて］／文明 18(1486) 年 3 月 27 日

たひねのまくらーつきそかたふく
ふるさとにーなみたつたへよーあきのかせ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

→秋の夜（あきのよ）

つきかたふきぬーたれをまつらむ
たのめねとーひとりはねしのーあきのよに

【葉守千句】／一字露顕［よやさむき］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かくれてくもにーつきかたふきぬ
あふきをもーおきわすれぬるーあきのよに

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

かたよる

片寄（かたより）

→川沿いの道（かわぞいのみち）

くれたけのーすゑすゑみつにーかたよりて
つつくともなき―かはそひのみち

【天正年間百韻５７巻】／何人［みれはみし］／天正 12(1584) 年 9 月 13 日

たまあられーたはしるたけのーかたよりて
なみこそかかれーかはそひのみち

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あつまやの］／文禄 2(1593) 年 5 月 6 日

かたる

語るばかりに向う面影（かたるばかりにむかうおもかげ）

→それでない声（それでないこえ）

かたるはかりにーむかふおもかけ
それならぬーこゑもむつましーみやことり

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

かたるはかりにーむかふおもかけ
それならぬーこゑもうらめしーほとときす

【論書４種】／宗長／

かつらぎ

葛城の山（かつらぎのやま）

→絶え絶え（たえだえ）

ちるややなきのーかつらきのやま
かはそひのーみちのいははしーたえたえに

【初瀬千句】／何路［おそさくら］／享徳元・2(1452) 年、4 月

はなおそけなるーかつらきのやま
まつたかくーかかれるふちのーたえたえに

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

桜の葛城の山（さくらのかつらぎのやま）

→朝霞立つ（あさがすみたつ）

おくもさくらのーかつらきのやま
あさかすみーたつたやとほくーへたつらむ

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

さくらさくなるーかつらきのやま
あさかすみーたつたやはなにーなりぬらむ

【園塵第二／続群書類従本】／春／明応 4(1495) 年早春

かなしい

旅の悲しさ（たびのかなしさ）

→時鳥（ほととぎす）

なくさめかねつーたひのかなしさ
ほとときすーまくらのうへにーなきすてて

【顕証院会千句】／唐何［みたれけり］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日〜21 日

とほくもなれるーたひのかなしさ
ききなるるーやまをいてゆくーほとときす

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

旅は悲しい（たびはかなしい）

→草枕（くさまくら）

あらましにさへーたひそかなしき
くさまくらーいもをおきてはーいかかねむ

【住吉千句】／何路［つきすめは］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日〜14 日

みやこにはにすーたひそかなしき
くさまくらーとふらふつきはーありなから

【文明十四年万句５２巻】／夢想［そのしなも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

→仮枕（かりまくら）

ともはあれともーたひそかなしき
かりまくらーくにかはりたるーかたらひに

【永原千句】／何人［みわたせは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

にたるをみるもーたひそかなしき
まよひきてーくもゐるみねのーかりまくら

【老葉／毛利本】／恋上／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

物悲しき（ものがなしき）

→暁月（あかつきづき）

ものかなしきのーしもはらふこゑ
ねさめするーあかつきつきのーくさのいほ

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

ふもとにはーものかなしきのーなきすてて
あかつきつきのーいろのさやけさ

【文禄二年千句１０巻】／山何［まつとしる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日〜10 日

別れる旅は悲しい（わかれるたびはかなしい）

→逢う人（あうひと）

わかれゆくゆくーたひそかなしき
あふひともーかたみになこりーうちなきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／恋下／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

けふわかれしもーたひそかなしき
あふひともーまたふるさとのーなこりにて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

かね

入相の鐘（いりあいのかね）

→うち時雨（うちしぐれ）

かたやまさひしーいりあひのかね
わくるのの－あきのひうすくーうちしくれ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

ふもとにつくるーいりあひのかね
まつたてるーをのへはかりのーうちしくれ

【文禄二年千句１０巻】／何木［うすきりや］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日〜10 日

→門さす（かどさす）

はなはちるらむーいりあひのかね
しつかなるーはるのふるてらーかとさして

【太神宮法楽千句】／朝何［つゆにたに］／長享 2(1488) 年 7 月

きりにこもれるーいりあひのかね
あきのひもーなゝめにのこるーかとさして

【平松文庫本千句】／□□［ふゆはつき］／

→帰る（かえる）

さとはそなたの－いりあひのかね
ちれはとて－はなにはなとや－かへるらむ

【紫野千句】／何屋［すきたかく］／延文2(1357)年以後-応安3年6月以前

かすみにさひし－いりあひのかね
なくとりの－をのへや□□て－かへるらむ

【天正年間百韻5 7巻】／ｘｘ［かすみけり］／天正10(1582)年3月1日

→花の陰（はなのかげ）

こころをつくす－いりあひのかね
やまふかみ－かへりもやらぬ－はなのかけ

【文明年間百韻3 4巻】／何路［やまかせに］／文明15(1483)年3月2日

おなしみねこす－いりあひのかね
あすまてと－おもひかけきや－はなのかけ

【成立不詳・宗養以前8巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

→迷う（まよう）

たけひとむらの－いりあひのかね
おとろきし－とりやねくらに－まよふらむ

【長享年間百韻6巻】／ｘｘ［やまのはの］／長享3(1489)年8月2日

をのへにひひく－いりあひのかね
かりひとや－つねならぬかたに－まよふらむ

【天正四年万句7 0巻】／竹何［まつほとや］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→山深い（やまぶかい）

くもよりをちの－いりあひのかね
くさのとに－ひともおとせぬ－やまふかみ

【河越千句】／朝何［うめそのに］／文明2(1470)年正月10～12日

こころをつくす－いりあひのかね
やまふかみ－かへりもやらぬ－はなのかけ

【文明年間百韻3 4巻】／何路［やまかせに］／文明15(1483)年3月2日

→わからない（わからない）

とほくそきこゆ－いりあひのかね
かすかなる－すみかやたれと－わかさらむ

【伊予千句】／何路［さみたれの］／天文6(1537)年5月22日

ひとりのみきく－いりあひのかね
ちきりおく－ころともひとや－わかさらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永4(1524)年6月23日

→あらまし（あらまし）

そこともきかぬ－いりあひのかね
あらましの－ゆくすゑをたに－さためはや

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享2(1488)年7月

はるのあはれは－いりあひのかね
あらましの－いまはつきぬる－おいかみに

【菟玖波集／広島大学本】／雑四／文和5(1356)年冬～翌年の春

→思いたい（おもいたい）

みをおとろかす－いりあひのかね
きくことの－うからぬよとも－おもははや

【成立不詳・宗砌以前6巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

けふまたききつ－いりあひのかね
みのうへに－くるるよはひと－おもははや

【菟玖波集／広島大学本】／雑五／文和5(1356)年冬～翌年の春

→門見える（かどみえる）

はるのはやしの－いりあひのかね
やまかすむ－ふもとにすきの－かとみえて

【表佐千句】／何船［はなやちる］／文明8(1476)年3月6日<～8日>

はしよりおくの－いりあひのかね
まつけふる－ゆきのやまもと－かとみえて

【園塵第四／早稲田大学本】／冬／永正6、7年

→続く

なかそらとほきーいりあひのかね
まつのはの－おくやいらかにーつつくらむ

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

やまとほからぬーいりあひのかね
かすみにやーすゑののてらはーつつくらむ

【行助関係 4 種】／行助句／伊地地本／

→初瀬寺

またあはれそふーいりあひのかね
こもりてはーなにいのるらむーはつせてら

【因幡千句】／薄何［かきはらふ］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

ちかきをのへのーいりあひのかね
はつせてら－もろこしにたにーあふかすや

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

→初瀬山

たひねはいつくーいりあひのかね
はつせやまーよもにはなさくーかけわけて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

たひねはいつくーいりあひのかね
はつせやまーよもにはなさくーかけわけて

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

けふもまたきくーいりあひのかね
はつせやまーはるけきはなのーおくにきて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

→春になる

はなはこすゑのーいりあひのかね
ひとかへるーあとはしつけきーはるならむ

【天文年間百韻 3 8 巻】／山何［なくやいつれ］／天文 24(1555) 年 5 月 14 日

かすむゆふへのーいりあひのかね
あすはたかーいのちのうちのーはるならむ

【萱草／伊地知本】／春／文明 6(1474) 年 2 月以前

→日が暮れる

いそくこころやーいりあひのかね
とまりをも－さためぬうらのーひはくれて

【天正四年万句 7 0 巻】／初何［ゆふかほの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

あかつきききしーいりあひのかね
ほととぎすーゆくへわすれぬーひはくれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

鐘鳴る

→暁の空

はるふかきーふもとのさとにーかねなりて
しらぬふねゆくーあかつきのそら

【三島千句】／初何［うつろふか］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

かたやまのーゆふへのあめにーかねなりて
つきまちいてむーあかつきのそら

【美濃千句】／山何［けふみすは］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

→杉の群立ち

くれわたるーみねよりおくにーかねなりて
いらかさひしきーすきのむらたち

【弘治年間百韻 8 巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

かはかみはーくもゐるいらかーかねなりて
あらしにあくるーすきのむらたち

【成立不詳・宗養以前 8 巻】／何人［あをやきや］／成立時不詳

→月が傾く

やまふかくーすむひとしるきーかねなりて
よをおとろけと－つきそかたふく

【明応年間百韻 2 2 巻】／何人［あさかすみ］／明応 4(1495) 年 1 月 6 日

たちまよふーそらのおくよりーかねなりて
あかつきさむみーつきそかたふく

【明応年間百韻２２巻】／何水［あけほのを］／明応 8(1499) 年 2 月 19 日

→峰の古寺（みねのふるでら）

われゆかぬーこひちのやまにーかねなりて
こころのかよふーみねのふるてら

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

なほくらきーまつのかけにもーかねなりて
たれかとひこむーみねのふるてら

【文明十四年万句５２巻】／何路［ぬしやたれ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→山の端の月（やまのはのつき）

あかつきはーまたいりあひのーかねなりて
いつるににたるーやまのはのつき

【宗長追善千句】／薄何［くもとりや］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

このよころーたのむゆめたにーかねなりて
はなのなこりのーやまのはのつき

【伊予千句】／三字中略［たけのはの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かねごと

人の豫言（ひとのかねごと）

→契り（ちぎり）

かはるかいか□ーひとのかねこと
ちきりてもーこころのおくのーゆかしきに

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

いつはりなれやーひとのかねこと
ちきりてもーふたりはしなすーのこるみに

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／文正元 (1466) 年 4 月

かみ

神にただ祈る（かみにただいのる）

→結ぶ契り（むすぶちぎり）

かみはたたーいのるにこそはーかひもあれ
むすふちきりのーゆくへたかはし

【天文廿四年梅千句】／何垣［あさきりに］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かみもたたーいのるにこそはーなひきけれ
むすふちきりのーすゑはしられす

【天正四年万句７０巻】／何船［ときはきも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

祭りする神（まつりするかみ）

→森の木隠れ（もりのこがくれ）

まつりせしーひもくれゆけはーかみさひて
みちはのこれるーもりのこかくれ

【永禄年間百韻２８巻】／追善［まれにとふ］／永禄元 (1558) 年 11 月 5 日

まつりせしーあとはいくかそーかみのまへ
くさうちしけるーもりのこかくれ

【文明十四年万句５２巻】／何紙［つゆはけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

乱れ髪（みだれがみ）

→青柳の糸（あおやぎのいと）

たはつけしーすちともあらぬーみたれかみ
つゆにぬれぬるーあをやきのいと

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなさけと］／文禄 2(1593) 年 2 月 18 日

かきやるはーつれなきかけのーみたれかみ
いているかとのーあをやきのいと

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正 6、7 年

かも

賀茂日吉（かもひよし）

→葵桂（あおいかつら）

かもひよしーみやこにちかきーやまとして
あふひかつらは－まつりにそとる

【宝徳四年千句】／二字反音［はなにかけ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

□□さけふーかみかき□□しーかもひよし
あふひかつらは－おなし□□□□

【応永年間百韻７巻】／□□［ｘｘはせて］／応永 24(1417) 年 3 月 16 日

かや

浅茅生（あさじう）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

はるきてもーたちたにいてぬーあさちふに
とふをなさけの－うくひすのこゑ

【伊庭千句】／何草［はるはけふ］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

あさちふにーいととふるさとーはるくれて
なみたやおとすーうくひすのこゑ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

浅茅生の露（あさじうのつゆ）

→耐えない（たえない）

しのにこほるるーあさちふのつゆ
かせをいたみーたひなるそてやーたへさらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［ひとこゑや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 4 月 23 日

そてにくたくるーあさちふのつゆ
くすのはのーうらみにわれやーたへさらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 12 月 23 日

から

唐衣（からごろも）

→袖の移り香（そでのうつりが）

かさねてもーむなしきひとのーからころも
わすれむものかーそてのうつりか

【天正年間百韻５７巻】／何船［みちみちを］／天正 13(1585) 年 5 月 27 日

けふこそとーかへてうれしきーからころも
わかはのはなのーそてのうつりか

【天正四年万句７０巻】／二字返音［かせやいろ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→夜が更ける（よがふける）

かすかのやーそのかみひとのーからころも
さかきはうたふーよはふけにけり

【紫野千句】／片何［かせかとよ］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

からころもーたちわかれにしーつきのもと
しみつにあきのーよはふけにけり

【天文年間百韻３８巻】／山何［のきにおふる］／天文 19(1550) 年 4 月 24 日

→秋の蓬生の里（あきのよもぎうのさと）

からころもーそてとふつきの－□□□□□
あきはたさひしーよもきふのやと

【文安年間百韻９巻】／山何［あきのいろ］／文安 4(1447) 年 9 月 6 日

わかなみたーいくへのいろをーからころも
あきはむしなくーよもきふのやと

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

唐土舟（もろこしぶね）

→松浦潟（まつらがた）

もろこしふねのーなみのはけしさ
かへるひを－さらにいつとかーまつらかた

【天正四年万句７０巻】／二字返音［かせやいろ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

もろこしふねの－あとさきのうさ
いさりひに－ゆふやみふかきーまつらかた

【春夢草／書陵部本】／雑／永正 12(1516) 年、13 年

かり

落ちる天つ雁（おちるあまつかり）

→月の出潮（つきのいでしほ）

あまつかりーふかるるかせにーなきおちて
あしまはくらきーつきのいてしほ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［あきかせの］／応永 15(1408) 年 7 月 23 日

やまとほきーいりえにおつるーあまつかり
ゆふひにむかふーつきのいてしほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

帰る雁（かえるかりがね）

→現れる（あらわれる）

かすはいくつそーかへるかりかね
とほやまはーゆきののこるにーあらはれて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永 19(1412) 年 1 月 14 日

こゑにしられてーかへるかりかね
とほうらのーほにゆくふねはーあらはれて

【看聞日記紙背５０巻】／何路［あききては］／応永 27(1420) 年 7 月 25 日

→古里（ふるさと）

こゑはかりしてーかへるかりかね
ふるさとはーたれすみすててーあれぬらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何木［ゆきそはな］／応永 25(1419) 年 12 月 22 日

おのかひとつれーかへるかりかね
ふるさとはーたかこころにもーあるものを

【菟玖波集／広島大学本】／羈旅／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

→山桜（やまざくら）

またはるそとやーかへるかりかね
ゆきかとよーこしのしらねのーやまさくら

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

こころつよくもーかへるかりかね
ちるまてはーなとかみさりしーやまさくら

【新撰菟玖波集／実隆本】／雑一／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

帰る雁の声（かえるかりのこえ）

→哀れを言う（あわれをいう）

ひとつらやーかへりおくるるーかりのこゑ
あはれをいはは―わかたひのそて

【表佐千句】／何年［はなにいる］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

かへるさやーきぬるにかはるーかりのこゑ
あはれをいはは―はるのしののめ

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

雁鳴く（かりなく）

→秋が更ける（あきがふける）

くもまよりーほのめくつきにーかりなきて
そらもみにしむ―あきはふけけり

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［はつはなや］／成立時不詳

あらしのみーふくやときけはーかりなきて
をのへのまつも―あきはふけけり

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

→伏見の夢（ふしみのゆめ）

つきうつるーまくらのをちにーかりなきて
ふしみのゆめそーなこりつゆけき

【成立不詳・宗養以前８巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

みつしろきーたのものうへにーかりなきて
ふしみのゆめそーつきにあとなき

【春夢草／書陵部本】／秋／永正 12(1516) 年、13 年

雁の幾列（かりのいくつら）

→遙々（はるばる）

なきてすくなるーかりのいくつら
はるはるとーあしへをさしてーみつしほに

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

つはさみたれしーかりのいくつら
はるはるとーたのものすゑのーいろつきて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［つゆにみを］／慶長 9(1604) 年 6 月 28 日

かりのこえ
雁の声

→霞こめる

やまたかみーきたにたなひくーかりのこゑ
はるのふもとはーかすみこめつつ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なこりもやーおほよとのなみにーかりのこゑ
かすみこめつつーうらのつりふね

【成立不詳・宗養以前８巻】／□□［つゆはそての］／成立時不詳

かりのこえごえ
雁の声々

→移ろう

くもまにおつるーかりのこゑこゑ
あきのたの―ほのかにつきもーうつろひて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

おくれさきたつーかりのこゑこゑ
すゑのつゆ―もとあらのこはきーうつろひて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

かりのたまずさ
雁の玉章

→隔つ古里

たかおとつれそーかりのたまつさ
ふるさとの―そらをはきりやーへたつらむ

【文安雪千句】／何船［かせにとふ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

かりねにたのむーかりのたまつさ
ふるさとは―いくくもゐちをーへたつらむ

【池田千句】／何ｘ［ゆきそちる］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

かりのひとこえ
雁の一声

→秋更ける

なこりもさむきーかりのひとこゑ
それとなくーよはのけしきもーあきふけて

【文亀年間百韻４巻】／何人［きえしよの］／文亀 2(1502) 年 8 月 6 日

まくらおとろくーかりのひとこゑ
いなむしろーつゆしきあへすーあきふけて

【大永四年月並千二百韻】／何色［うめのはな］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 1 月 23 日

かりのひとつら
雁の一列

→そことない

あとはかすめるーかりのひとつら
そことなくーなかめにのこるーはるのうみ

【明応年間百韻２２巻】／何人［あきのいろに］／明応 9(1500) 年 7 月 11 日

ゆくあとしたふーかりのひとつら
そことなくーきりのうなはらーふねうけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うめひとき］／裏白／弘治 3(1557) 年 1 月 3 日

とぶかりのつばさ
飛ぶ雁の翼

→明け渡る空

とふかりのーつはさやつきをーかけつらむ
なみのうへよりーあけわたるそら

【紹巴亡父追善千句】／何人［なきあとは］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

とふかりのーつはさもつゆにーしをるらむ
よさむのつきのーあけわたるそら

【文明十四年万句５２巻】／何木［まつはみとり］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

はつかりのこえ
初雁の声

→海人小舟

たたひとつらのーはつかりのこゑ
ゆふくれはーつりにといつるーあまをふね

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

あけゆくくももーはつかりのこゑ
なかめやるーうみへしつけきーあまをふね

【弘治年間百韻８巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

春の雁（はるのかりがね）

→此方彼方（こなたかなた）

ともまちつれぬ－はるのかりかね
ちきりしは－こなたかなたに－なりはてて

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

またたちかへる－はるのかりかね
たまつさは－こなたかなたに－かよひつつ

【菟玖波集／広島大学本】／恋下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

渡る雁（わたるかりがね）

→長い夜（ながいよ）

ねさめのまくら－わたるかりかね
あかつきと－おもひてたにも－なかきよに

【応永年間百韻７巻】／何路［やまみつの］／応永 15(1408) 年 3 月 11 日

かすさへしるく－わたるかりかね
たつしきの－おのかはねかき－なかきよに

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

かりそめ

仮初め（かりそめ）

→入相の鐘（いりあいのかね）

かりそめの－やとうちたのむ－たひのくれ
なれぬるつきに－いりあひのかね

【河越千句】／白何［はるかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

かりそめの－ためしはきくも－ゆかしきに
しらすやけふも－いりあひのかね

【大永三年月並千三百韻】／□□［ひとこゑや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 4 月 23 日

→日暮れ（ひぐれ）

かりそめの－やとりにゆきの－ふりそひて
かりはのをのの－ひこそくれぬれ

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

かりそめの－ちきりとなるは－まれにして
あひやとりする－ひこそくれぬれ

【文明十四年万句５２巻】／何木［つきみよと］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かりの

仮寝の月影（かりねのつきかげ）

→花打ち香る（はなうちかおる）

かけかすむ－かりねのつきの－あくるよに
はなうちかをり－とりのなくこゑ

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かりねのつきの－かけさむきそら
わくるのの－はなうちかをり－すゑくれて

【天正四年万句７０巻】／何風［ふりつもる］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

仮寝をする（かりねをする）

→深い夜（ふかいよる）

そてうちしをれ－かりねをやせむ
ひとかへる－あとにもいまた－ふかきよに

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

おもひのほかの－かりねをやせむ
やととほき－のへにいつれは－ふかきよに

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

仮の夜の夢（かりのよるのゆめ）

→朝の雲（あしたのくも）

はかなしな－かりにみたりし－よるのゆめ
あしたのくもの－あともとまらす

【成立不詳・宗砌以前6巻】／何人［みったまり］／成立時不詳

かりそめにーなれてかへりしーよるのゆめ
あしたのくものーのこるやまのは

【専順関係2種】／雑／応仁元 (1467) 年5月10日

かりふしのゆめ
仮臥の夢

→鐘の声

いつちさめゆくーかりふしのゆめ
かねのこゑーきこえてのちのーふかきよに

【天文年間百韻38巻】／山何［つきやけさ］／天文21(1552) 年7月26日

むすひもあへぬーかりふしのゆめ
かねのこゑーそこともしらすーあけはてて

【天文年間百韻38巻】／xx［しかそなく］／天文24(1555) 年9月19日

かりまくら
仮枕

→古里の夢

わけのこすーくさはをむすふーかりまくら
みるやとたのむーふるさとのゆめ

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明8(1476) 年3月6日<～8日>

はるけさやーおなしやまちのーかりまくら
まとろむほとのーふるさとのゆめ

【称名院追善千句】／何路［いるかたの］／永禄6(1563) 年12月14日～18日

かりまくらーかたしくつゆのーふかきのに
むすひもとめよーふるさとのゆめ

【成立不詳・宗養以前8巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

のにかりまくら
野に仮枕

→片敷の夢

かりまくらーすそののかたにーかへなまし
いかにねてかはーかたしきのゆめ

【五吟一日千句】／初何［やまもいさ］／天正9(1581) 年11月19日

はかなしやーのかみのさとのーかりまくら
いふきおろしをーかたしきのゆめ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正2(1505) 年8月23日以後同3年3月以前

のべのかりふし
野辺の仮臥

→旅枕

ゆめちをたとるーのへのかりふし
たひまくらーふかきもしらすーいつるよに

【住吉千句】／何田［このはちる］／大永元 (1521) 年11月1日～14日

ねられぬとこはーのへのかりふし
たひまくらーゆめさへとひやーたえつらむ

【成立不詳・宗祇以前15巻】／何船［きりのはに］／成立時不詳

→旅の空

ところさためぬーのへのかりふし
うきものとーいひしそまことーたひのそら

【明応年間百韻22巻】／十三仏名号［なかつきも］／明応4(1495) 年9月30日

みやこわすれぬーのへのかりふし
たちしよのーとりかまたなくーたひのそら

【宗碩関係2種】／宗碩連歌合／静嘉堂文庫本／

ゆめのかりまくら
夢の仮枕

→月に幾度

ならはすはーみえましゆめかーかりまくら
つきにいくたひ―かけしふるさと

【成立不詳・宗長以前15巻】／何路［みねちかし］／成立時不詳

みしゆめのーのちもよなかきーかりまくら
つきにいくたひーとこのやまかせ

【天和年間百韻2巻】／□□［おいかみに］／天和2(1682) 年4月3日

→武蔵野の原

ゆめちにもーゆきつつおなしーかりまくら
またみぬかたや―むさしののはら

【羽柴千句】／薄何［たちはなの］／天正6(1578) 年 5 月 18・19 日

すゑいかに－みはてぬゆめの－かりまくら
あすもわくへき－むさしののはら

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かりる

宿を借る（やどをかる）

→村雨（むらさめ）

せきのこなたに－やとやからまし
むらさめの－おとはのさとに－たちよりて

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

しはしのほとの－やとやからまし
むらさめの－あとよりすくる－このもとに

【大原三吟／洒竹文庫本】／大原三吟／文明 14(1482) 年 10 月＜ 11 月＞

かれる

枯れた草が萌え出る（かれたくさがもえでる）

→駒祝う声（こまいわうこえ）

ふゆかれし－みちのしはくさ－もえいてて
のへのかすみに－こまいはふこゑ

【聖廟千句】／何田［のこるひに］／明応3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

こそかれし－くさはつゆけく－もえいてて
のはあさまたき－こまいはふこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何水［あけほのを］／明応 8(1499) 年 2 月 19 日

枯れ花薄（かれはなすすき）

→弱る虫の音（よわるむしのね）

はなすすき－かれゆくしもに－あきふけて
のにはおしなひ－よわるむしのね

【顕証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

つきのこる－かれののすゑの－はなすすき
ほのかになりぬ－よわるむしのね

【因幡千句】／薄何［かきはらふ］／文明7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

冬枯れ（ふゆがれ）

→我が思い草（わがおもいぐさ）

ふゆかれに－かけなきのこそ－とほくみれ
いつまてのこる－わかおもひくさ

【永原千句】／唐何［とりのねに］／明応9(1500) 年 7 月 17 日

むさしのも－かきりしらるる－ふゆかれに
いかなるたねそ－わかおもひくさ

【老葉／吉川本】／恋下／文明 13(1481) 年夏頃

かわ

秋の川風（あきのかわかぜ）

→霧わたる（きりわたる）

まよふやふなち－あきのかはかせ
きりわたる－やまもとつつき－かすかにて

【永正年間百韻３４巻】／何人［ゆふつくよ］／永正 13(1516) 年 7 月 8 日

なみにあけたつ－あきのかはかせ
きりわたる－すゑののすすき－むらむらに

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

天の川（あまのがわ）

→吹く秋の初風（ふくあきのはつかぜ）

けふとしる－ならひはかりの－あまのかは
ふくにおとろく－あきのはつかせ

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

かよひけむ－うききよいかに－あまのかは
ふきつたへくる－あきのはつかせ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何人［やまみつは］／成立時不詳

川音（かわおと）

→月のさやけさ

かはおとも－おほゐのさとは－かきくもり
いりえにくるる－つきのさやけさ

【太神宮法楽千句】／玉何［あきとほし］／長享 2(1488) 年 7 月

かはおとも－はるかにかせの－ふきおくり
せせにうつろふ－つきのさやけさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねふかきや］／慶長 4(1599) 年 2 月 8 日

川沿いの道

→暁

みつうちけふる－かはそひのみち
あかつきの－つきのこるえに－ふねさして

【河越千句】／二字反音［はるみても］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

かすかにのこる－かはそひのみち
あかつきの－やまにかかれる－よはのつき

【文明年間百韻３４巻】／何木［うめかかを］／文明 15(1483) 年 2 月 19 日

→渡し舟

くたれはあさき－かはそひのみち
はやきせに－おとさていその－わたしふね

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［はるやたつ］／存疑／成立時不詳

つつくともなき－かはそひのみち
くれぬれは－ひとりふたりの－わたしふね

【天正年間百韻５７巻】／何人［みれはみし］／天正 12(1584) 年 9 月 13 日

川沿い舟

→岸の呉竹

さしいつる－かはそひふねに－かせふきぬ
すゑうちなひく－きしのくれたけ

【永原千句】／何袋［たかそめし］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

なみもなき－かはそひふねに－さをとりて
をのえてきらむ－きしのくれたけ

【文明十四年万句５２巻】／何色［はるなつを］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

川面の里

→遥か

ありともしらぬ－かはつらのさと
はるかにも－ふねよはふよの－こたへして

【永正十花千句】／何田［はなにこひ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

きをきるをのの－かはつらのさと
はるかにも－おもひわたせる－はしはしら

【紹巴亡父追善千句】／初何［たまたれの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

近い川音

→涼しさ

なみたかかれや－ちかきかはおと
すすしさは－またぬにうかふ－あきのくも

【石山四吟千句】／薄何［うつせみの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

あめのうちより－ちかきかはおと
すすしさは－なつのほかなる－やなきかけ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

月の川上

→鐘の音

かけはしとほき－つきのかはかみ
かねのおと－くるるもなみの－まかひにて

【永禄年間百韻２８巻】／何人［ふちかえや］／永禄 7(1564) 年 3 月 15 日

さやかにうつる－つきのかはかみ
きりはるる－ゆふへのそらの－かねのおと

【天正年間百韻５７巻】／何路［たちそひて］／天正 6(1578) 年 1 月 3 日

涙河

→水上の紅葉散る

かけをたに－うつさむせせの－なみたかは
なとみなかみの－もみちちるらむ

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

いろにさへーあさくはみえぬーなみたかは
なにみなかみのーもみちちるらむ

【親当関係２種】／親当句集／赤木文庫本／

淀の川舟（よどのかわぶね）

→村雨（むらさめ）

みつのにつなけーよとのかはふね
むらさめのーあとはみかさやーまさるらむ

【文明十四年万句５２巻】／一字霧顕［ちあきふる］／文明 14(1482) 年７月４日～９月 14 日

ともにおくるるーよとのかはふね
むらさめのーまたふるましはーほしわひて

【文明十四年万句５２巻】／何路［かみやしる］／文明 14(1482) 年７月４日～9 月 14 日

→時鳥（ほととぎす）

なこりなかむるーよとのかはふね
なきすつるーつきはすむよのーほととぎす

【永原千句】／何色［うつろはぬ］／明応 9(1500) 年７月 17 日

はやあけすくるーよとのかはふね
ほととぎすーたひたつあとにーやまみえて

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

さすかにはやきーよとのかはふね
ほととぎすーひとこゑをたにーききやらて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／夏／永正 6(1509) 年以前

かわす

交わす言の葉（かわすことのは）

→時鳥（ほととぎす）

きくやいかにとーかはすことのは
しるしらすーかりねのやまのーほととぎす

【新撰菟玖波集／実隆本】／夏／明応 4(1495) 年９月 26 日

ことわりなれやーかはすことのは
うくひすにーしたしきこゑのーほととぎす

【園塵第四／早稲田大学本】／夏／永正 6、7 年

かわず

蛙鳴く（かわずなく）

→鶯（うぐいす）

をりをえかほにーかはつなくなり
うくひすのーこゑよりはるやーさそふらむ

【天文十八年梅千句】／何人［みしいろは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

おのかつまとふーかはつなくなり
うくひすのーあめうちそそくーはなにねて

【大永四年月並千二百韻】／□□［としなみの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 12 月 23 日

→五月雨（さみだれ）

ときもわすれすーかはつなくなり
さみたれはーはれてもおなしーにはたつみ

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月７日

かはつなくなりーをたのまちまち
さみたれはーさかひもみえすーみちとほみ

【宗牧追善千句】／ｘｘ［くもるなよ］／永禄 4(1561) 年９月 14 日・15 日

ふりたるいけにーかはつなくなり
さみたれはーなこりつきせぬーにはたつみ

【永享年間百韻４巻】／山何［くちてけり］／永享 12(1440) 年 10 月 16 日

→庭水（にわたづみ）

ときもわすれすーかはつなくなり
さみたれはーはれてもおなしーにはたつみ

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月７日

ふりたるいけにーかはつなくなり
さみたれはーなこりつきせぬーにはたつみ

【永享年間百韻４巻】／山何［くちてけり］／永享 12(1440) 年 10 月 16 日

かわる

色変わる（いろかわる）

→松虫の声（まつむしのこえ）

いろかはるーころをたにしれーおもひくさ
ちきりしままやーまつむしのこゑ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［はつはなや］／成立時不詳

いろかはるーのへにこてふのーゆめやうき
みしあとはたたーまつむしのこゑ

【永正年間百韻３４巻】／何木［いろはふちの］／永正 8(1511) 年 4 月 6 日

色変わる頃（いろかわるころ）

→花咲く（はなさく）

みとりなるのもーいろかはるころ
さはみつに―くさのむらむらーはなさきて

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

このもとまてもーいろかはるころ
ひとしれぬーこくさあはれにーはなさきて

【明応年間百韻２２巻】／何路［うつろはて］／明応 3(1494) 年 10 月 30 日

人の心が変わる（ひとのこころがかわる）

→海山（うみやま）

ひとのこころの―かはりやすさよ
うみやまの―つきみてあかすーすまのうら

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきのはな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひとのこころの―かはるよのなか
うみやまの―なあるところもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心の変わる世の中（ひとのこころのかわるよのなか）

→秋の暮れ（あきのくれ）

ひとのこころの―かはるよのなか
やまさとをーうかれいてめやーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
いまをなほーとへやよしののーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→秋が来る（あきがくる）

ひとのこころの―かはるよのなか
うつせみの―はやまおろしにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
しるしらぬーひとつなみたにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→哀れ（あわれ）

ひとのこころの―かはるよのなか
よもきふを―かれぬあるしはーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
なきあとはーにくかりしたにーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→色見える（いろみえる）

ひとのこころのーかはるよのなか
まちをしむーはなにほとなきーいろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
たけはその―こをおもふともーいろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→憂い身の時（ういみのとき）

ひとのこころのーかはるよのなか
うきみさへ―ときにやあふとーはるたちて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うきみさへーいまはのときやーをしからむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年
2 月以前

→衰(おとろ)える

ひとのこころのーかはるよのなか
そのいへはーのこれとみちのーおとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
あかむれはーかみのしるしはーおとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→袖濡(そでぬ)れる

ひとのこころのーかはるよのなか
ききわひぬーしくれこのはにーそてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
おいかみはーわかなつむにもーそてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→旅(たび)

ひとのこころのーかはるよのなか
うきにあひーなさけをみるもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うみやまのーなあるところもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→契(ちぎ)り

ひとのこころのーかはるよのなか
なへてうきーあきなとほしのーちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
むかしたれーはなよりまつをーちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→月を見(つきをみ)る

ひとのこころのーかはるよのなか
よつのときーいつれまさるとーつきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
すさましとーいひししはすのーつきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→とりどり

ひとのこころのーかはるよのなか
さむきひはーみつにいるてふーとりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
すてかたきーわかふたみちのーとりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→儚い羽根を並べる鳥部山(はかないはねをならべるとりべやま)

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年
2 月以前

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはをもならへしーとりへやま

【老葉／書陵部宗訊筆本】／旅／

→花咲(はなさ)く

ひとのこころのーかはるよのなか
のへをわけーやまちをたとるーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みやまきをーかたはらになすーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→花もない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれへあるーみはなかめつるーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うたのみちーまことをうるはーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→羽根を並べる鳥部山

ひとのこころのーかはるよのなか
とりへやまーはねをならへしーすゑたえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年
2 月以前

→一つ

ひとのこころのーかはるよのなか
つきはたたーみやもわらやもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
こをおもふーみちのみたれもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→時鳥

ひとのこころのーかはるよのなか
ほとときすーはななきころをーなくさめて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
またしよもーなきかやまちのーほとときす

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ほとときすーかへるやまちはーともならて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知らない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれしさもーうきもゆめなるーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ときをえはーなほおそるへきーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知る

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーわれとさためむーやともなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーいはむうらみもーなきものを

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→我が上

ひとのこころのーかはるよのなか
わかうへにーおもはてたれをーそしるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
わかうへにーほしのひとよのーあきもかな

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

かんなづき

神無月（かんなづき）

→九重の内（ここのえのうち）

かみなつき－はるふくかせの－けしきにて
さひしさしらぬ－ここのへのうち

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

わすれては－あきかとおもふ－かみなつき
かせまたさえぬ－ここのへのうち

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何路［はなおそし］／成立時不詳

かんなび

神奈備の森（かんなびのもり）

→秋の三室山（あきのみむろやま）

もみちちりしく－かみなひのもり
あきふけて－つきもしくるる－みむろやま

【名所句集／静嘉堂文庫本】／秋／（大永前後）

みつつすきゆく－かみなひのもり
あきのいろ－いたるやたつた－みむろやま

【成立不詳・心敬以前１４巻】／朝何［したみつに］／成立時不詳

がた

潟ばかり（かたばかり）

→宮の内（みやのうち）

かたはかりなる－にはのおはしま
みやのうち－ひとけもあらす－ものさひし

【天正年間百韻５７巻】／□□［ききわくや］／天正 18(1590) 年 10 月 8 日

すめるもさとは－かたはかりなる
かりにたに－たちいてまうき－みやのうち

【元和年間百韻２４巻】／□□［うくひすの］／裏白／元和 9(1623) 年 1 月 3 日

き

木々の色々（きぎのいろいろ）

→秋暮れる（あきくれる）

しもおくころの－ききのいろいろ
たちのほる－きりのやまもと－あきくれて

【明応年間百韻２２巻】／何路［こそたちし］／明応 6(1497) 年 1 月 1 日

まつはみさをの－ききのいろいろ
ありあけの－つれなきかけも－あきくれて

【天正四年万句７０巻】／何船［なかきよの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

木の下露（このしたつゆ）

→夕べ（ゆうべ）

このしたつゆに－かをるひめゆり
なつのひは－やまのすそのを－ゆふへにて

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

このしたつゆに－くさそふしたる
みやきのの－あきはしかなく－ゆふへにて

【菟玖波集／広島大学本】／秋下／文和 5(1356) 年 3 月 26 日

木の下道（このもとみち）

→片敷く（かたしく）

ゆふへすすしき－このもとのみち
しつかなる－かせのさゆりは－かたしきて

【宗牧追善千句】／山何［ちるちらぬ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

あくるもしはし－このもとのみち
さよころも－はなのにほひに－かたしきて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

夏木立（なつこだち）

→山時鳥（やまほととぎす）

しらかしの－ゆきまやみねの－なつこたち
くもよりいつる－やまほとときす

【永禄石山千句】／初何［しらかしの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

はなはきのふーもみちもあすかーなつこたち
またはつねきくーやまほとときす

【園塵第二／続群書類従本】／夏／明応4(1495) 年早春

花の木の下（はなのこのもと）

→鶯（うぐいす）

いそくこころのーはなのこのもと
うくひすのーはるおとろかすーねになきて

【羽柴千句】／千何［あくるよを］／天正6(1578) 年 5 月 18・19 日

いろにいろそふーはなのこのもと
うくひすのーはかせをみるもーのとかにて

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7月 19 日

→音がする（おとがする）

たかかへるらむーはなのこのもと
ふるさともーはるのみひとのーおとはして

【聖廟千句】／何田［のこるひに］／明応3(1494) 年 2 月 10 日〜12 日

やまちひくるるーはなのこのもと
さくらちるーみねのあらしのーおとはして

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

→山桜（やまざくら）

たちもはなれぬーはなのこのもと
おもかけにーなほもむかひのーやまさくら

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

しるしらぬあふーはなのこのもと
やまさくらーさけはみやこをーあくかれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

きえる

消える煙（きえるけむり）

→藻塩汲む（もしおくむ）

きえむけふりのーはてもはかなや
もしほくむーうらにとしふるーさすらへに

【伊勢千句】／何衣［そめてほす］／大永2(1522) 年 8 月 4 日〜8 日

きえむけふりのーゆくへをそまつ
もしほくむーそてさへつきをーたのむよに

【明応年間百韻２２巻】／何人［かきりさへ］／明応 8(1499) 年 3 月 20 日

消えるなら消えるべき思い（きえるならきえるおもい）

→身を秋近く飛ぶ蛍（みをあきちかくとぶほたる）

きえはきゆへきーおもひならはや
みるもうしーみをあきちかくーとふほたる

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明8(1476) 年 5 月頃

きえはきゆへきーおもひならはや
はかなくもーみをあきちかくーとふほたる

【論書４種】／宗長／

遠消え（とおぎえ）

→松の一群（まつのひとむら）

いそやまもーしほひのあとはーとほきえに
くもこそかかれーまつのひとむら

【飯盛千句】／初何［このまもる］／永禄4(1561) 年 5 月 27 日〜29 日

かけさむくーいさりひきえてーとほきえに
しもにけふれるーまつのひとむら

【文亀年間百韻４巻】／何衣［たをるなと］／文亀 2(1502) 年 4 月 25 日

雪消える（ゆききえる）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

たきつせのーまさるはおくのーゆききえて
ふるすをいつるーうくひすのこゑ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

ふりつつもーのやまをわかつーゆききえて
みきりにちかしーうくひすのこゑ

【天正年間百韻５７巻】／何垣［ゆくそてに］／天正 11(1583) 年閏 1 月 1 日

→氷流れる（こおりながれる）

はるのひの－かすみののやま－ゆききえて
こほりなかるる－さほのかはなみ

【永享年間百韻４巻】／何木［ささのはの］／永享 6(1434) 年 6 月 18 日

うくひすの－こゑのかよひち－ゆききえて
こほりなかるる－たきのゆくすゑ

【寛正年間百韻２０巻】／何水［をるひとを］／寛正 5(1464) 年 3 月 29 日

きく

菊の一本（きくのひともと）

→山人（やまびと）

しものそこなる－きくのひともと
やまひとの－すむあといかに－たつねまし

【天文廿年断簡千句】／□□［つけのこせ］／天文 20(1551) 年 6 月 10 日～12 日

ちくさしをれて－きくのひともと
やまひとの－すみかはここと－ものふるく

【長禄三年千句１１巻】／何鳥［ふかくふる］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

はやちりそむる－きくのひともと
やまひとの－すさみいかなる－ころならむ

【天正四年万句７０巻】／朝何［なみよする］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

聞くのも珍しい（きくのもめずらしい）

→時鳥（ほととぎす）

きくもめつらし－このみやことり
ほととぎす－けさはおとはの－やまこえて

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

まれのみゆきは－きくもめつらし
ゆふかけて－かみまつるよの－ほととぎす

【萱草／伊地知本】／夏／文明 6(1474) 年 2 月以前

聞く時鳥（きくほととぎす）

→有明の空（ありあけのそら）

ききあへぬ－ゆめのたたちの－ほととぎす
のこるほとなき－ありあけのそら

【文安月千句】／何鳥［なにめてて］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

さみたれに－またいつきかむ－ほととぎす
ねぬよほとふる－ありあけのそら

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［つきをかせ］／文明 12(1480) 年 8 月

露の音聞く庭（つゆのおときくにわ）

→玉垂の霧（たまだれのきり）

つゆのおときく－にはのゆふかけ
たまたれの－きりのなこりや－はれさらむ

【伊勢千句】／何人［ふかくいりて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

つゆのおときく－にはのしたをき
たまたれの－そとものきりの－かたよりて

【天正年間百韻５７巻】／何船［すましみは］／天正 13(1585) 年閏 8 月 12 日

初風と昨日は聞いて秋更ける（はつかぜときのうはきいてあきふける）

→人は残らない紅葉（ひとはのこらないもみじ）

はつかせと－きのふはききし－あきふけて
ひとはのこらす－もろきもみちは

【三島千句】／何人［しるしらす］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

はつかせと－きのふはききし－あきふけて
ひとはのこらす－もみちちるかけ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

木綿付け鳥を聞く（ゆうつけどりをきく）

→深い夜（ふかいよる）

ゆふつけとりを－うらみてそきく
いましはし－うちもねぬへく－ふかきよに

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

ゆふつけとりを－なこりにそきく
ゆめひとの－あとはかもなく－ふかきよに

【住吉千句】／何木［つきはふゆ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

きし

岸の山吹（きしのやまぶき）

→蛙鳴く（かわずなく）

こてふとひかふーきしのやまふき
かはつなくーはるのみつたにーとりおりて

【文安月千句】／朝何［ひかりをも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

かつうつろへるーきしのやまふき
かはつなくーさとのかはつらーすきやらて

【永正十花千句】／何木［ひかすたに］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

はるをのこせるーきしのやまふき
かはつなくーこゑさへうもれーみつさひて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何路［あひにあき］／成立時不詳

きじ

雉鳴き立つ（きぎすなきたつ）

→駒止める（こまとめる）

ききすなきたつーこゑのさひしさ
あらしふくーかすみのすゑにーこまとめて

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

ききすなきたつーありあけのつき
さくらかりーはなのしたはにーこまとめて

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

きぬぎぬ

後朝（きぬぎぬ）

→有明の月（ありあけのつき）

きぬきぬのーもすそはつゆにーうちぬれて
みれはみにしむーありあけのつき

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

きぬきぬのーなみたをたにもーかたみとや
なみたをのこすーありあけのつき

【菟玖波集／広島大学本】／恋中／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

→袖の移り香（そでのうつりが）

きぬきぬのーつらきかきはのーしたのおひ
のこりもふかきーそてのうつりか

【元亀二年千句】／何木［たきなみの］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

きぬきぬのーおもかけのこるーけさのつき
ともにやとまるーそてのうつりか

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつちかし］／応永 32(1425) 年 6 月 25 日

きぬきぬのーおもかけかすむーあさほらけ
きゆるもをしやーそてのうつりか

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［しかそなく］／天文 24(1555) 年 9 月 19 日

後朝の後（きぬぎぬのあと）

→形見（かたみ）

ひとりうちぬるーきぬきぬのあと
なみたのみーひかたきそてのーかたみにて

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

おもかけとまれーきぬきぬのあと
たまくらをーおのかものなるーかたみにて

【集百句之連歌／天理本】／集百句之連歌／不明

なみたにむかふーきぬきぬのあと
なくさめぬーものからつきをーかたみにて

【老葉／吉川本】／恋下／文明 13(1481) 年夏頃

後朝の袖（きぬぎぬのそで）

→東雲（しののめ）

なみたにむせふーきぬきぬのそて
しののめのーそらきりわたりーつきおちて

【頸証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

ぬれにそぬるるーきぬきぬのそて
しののめのーころしもあめのーふりいてて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

きぬた

砧の音（きぬたのおと）

→玉鉾の行方（たまぼこのゆくえ）

きぬたのおとはーむらのをちこち
たまほこのーゆくへもわかすーくれそめて

【嵯峨千句】／初何［はなのこと］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

きぬたのおとはーかせのまにまに
たまほこのーゆくへやきりのーへたつらむ

【元亀年間百韻 6 巻】／何船［むさしのも］／元亀 3(1572) 年 3 月 18 日

きのう

昨日の雲（きのうのくも）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

きのふのくもをーわくるむさしの
かりねせしーかややのゆきのーあさほらけ

【萱草／伊地知本】／冬／文明 6(1474) 年 2 月以前

きのふのくもをーまたとなかむる
はるといへとーかすみたにせぬーあさほらけ

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正 6(1509) 年以前

初風と昨日は聞いて秋更ける（はつかぜときのうはきいてあきふける）

→人は残らない紅葉（ひとはのこらないもみじ）

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもろきもみちは

【三島千句】／何人［しるしらす］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもみちちるかけ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

きみ

君の言の葉（きみのことのは）

→偽り（いつわり）

しらぬなかれのーきみかことのは
いつはりのーなきはなみたにーあらはれて

【享徳二年千句】／何玉［くらからぬ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

みになほたのめーきみかことのは
いつはりのーすゑをはかなきーいのちにて

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋上／文明 8(1476) 年 5 月頃

きみがよ

君が代（きみがよ）

→逢う（あう）

ことのはのーみちさかえたるーきみかよに
あふかさらめやーをさまれるとき

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

ひらけこしーみそらのままのーきみかよに
すめるこころをーあふかさらめや

【永正年間百韻 3 4 巻】／何人［すすしさや］／永正 7(1510) 年 7 月 5 日

きょう

今日毎（きょうごと）

→入相の鐘（いりあいのかね）

けふことのーゆふへやはるをーさそふらむ
さとつつきなるーいりあひのかね

【紫野千句】／何人［しけるきの］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

けふことのーしくれやあきをーおくるらむ
みにしむころのーいりあひのかね

【永正十花千句】／何袋［つきをゆき］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

今日ばかり（きょうばかり）

→狩衣（かりごろも）

けふはかりとやーほしまつるらむ
あまのかはーかたののあきのーかりころも

【宗砌関係９種】／宗砌句集／大阪天満宮本／

けふはかりとやーはなもちりなむ
おもひたてーとほやまさくらーかりころも

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

きよまわり

清まわり（きよまわり）

→野々宮の道（ののみやのみち）

ひかすをやーさためおきたるーきよまはり
いるかたふかきーののみやのみち

【五吟一日千句】／山何［むかしやは］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

かりそめとーおもふほとふるーきよまはり
わけいりにたるーののみやのみち

【毛利千句】／白何［うすゆきの］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

きり

霧に霜（きりにしも）

→月は出でても暗い（つきはいでてもくらい）

きりにしもーこきまよひぬるーふねのうへ
つきはいててもーくらきやまかけ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふつゆも］／天正 16(1588) 年 8 月 10 日

きりにしもーゆふへのひかりーへたたりて
つきはいててもーまたくらきそら

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ゆきなから］／裏白／寛永 21(1644) 年 1 月 3 日

霧の上（きりのうえ）

→夕まぐれ（ゆうまぐれ）

きりのうへなる―たかまとのみや
ゆふまくれ―ろうはあつさやーしらさらむ

【大原野十花千句】／初何［こからしを］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

きりのうへなるーやまのしつけさ
ひとこゑのーかねよりあきのーゆふまくれ

【平松文庫本千句】／□□［かきおこせ］／

霧残る（きりのこる）

→月ほのか（つきほのか）

あきのしもーきりのまかきにーのこるらむ
やまをそともの―つきほのかなり

【天文年間百韻３８巻】／何人［さくふちの］／天文 18(1549) 年 3 月 24 日

のわきせしーそともにきりやーのこるらむ
たけのはこしのーつきほのかなり

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

霧の下道（きりのしたみち）

→音がする（おとがする）

ましるそてみぬーきりのしたみち
たれとしもーわかすつきまつーおとはして

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

あふひともなき―きりのしたみち
さととほき―みやまにたきのーおとはして

【心敬関係１０種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／

霧の籬（きりのまがき）

→明け離れる（あけはなれる）

きりのまかきの―ひまそひにけり
のきちかきーやまはみるみるーあけはなれ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あつまやの］／文禄 2(1593) 年 5 月 6 日

きりのまかきのーあらはなりけり
みつおつるーかとたのつきのーあけはなれ

【元和年間百韻２４巻】／□□［むかしにや］／元和 5(1619) 年 7 月 24 日

霧晴れ昇る（きりはれのぼる）

→朝日影（あさひかげ）

きりはれのほるーなかのかけはし
かすかなるーのわきせしよのーあさひかけ

【出陣千句】／朝何［きりもやは］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日〜27 日

きりはれのほるーまつのこたかさ
あさひかけーいろつくみねにーさしそひて

【文明年間百韻３４巻】／□□［したつゆは］／文明 12(1480) 年 7 月 4 日

霧晴れる（きりはれる）

→一筋白い（ひとすじしろい）

かりのこすーすすきをこめしーきりはれて
ひとすちしろしーしもをふむみち

【弘治三年春雪千句】／初何［けさみれは］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

ゆくゆくもーはまへつたひのーきりはれて
ひとすちしろしーつきのかはみつ

【天正年間百韻５７巻】／何人［ときはいま］／天正 10(1582) 年 5 月 24 日

仄かな霧（ほのかなきり）

→衣打つ音（ころもうつおと）

ほのかにもーふしみのかたはーきりこめて
たえたえさひしーころもうつおと

【称名院追善千句】／何路［いるかたの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

ほのかにもーへたてしさとのーきりはれて
そともあらはにーころもうつおと

【寛正年間百韻２０巻】／何船［はなおもき］／寛正 2(1461) 年 11 月 22 日

きりぎりす

蟋蟀（きりぎりす）

→浅茅生の奥（あさじうのおく）

きりきりすーなれかなくねにーまけむやは
たへてをすめるーあさちふのおく

【弘治年間百韻８巻】／何人［うめひとき］／裏白／弘治 3(1557) 年 1 月 3 日

あはれたたーこゑたえたえのーきりきりす
さひしさいかにーあさちふのおく

【慶長年間百韻２７巻】／□□［よつのとき］／裏白／慶長 18(1613) 年 1 月 3 日

→月のさ筵（つきのさむしろ）

かなしけにーはひいててなくーきりきりす
いねかてになるーつきのさむしろ

【宮島千句】／何袋［さきこすか］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日〜11 日

のわきたつーかせをかなしむーきりきりす
しきわひにたるーつきのさむしろ

【寛永年間百韻１５巻】／□□［まつにこまつ］／裏白／寛永 19(1642) 年 1 月 3 日

さりとものーゆめちもはかなーきりきりす
ものわひしらにーつきのさむしろ

【月村抜句／書陵部本】／永正十三年／

→露の世の中（つゆのよのなか）

われならてーあきをうらむるーきりきりす
おもひやひとつーつゆのよのなか

【表佐千句】／何船［はなやちる］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜〜8 日＞

すみかたきーかへなたのみそーきりきりす
いつまてくさのーつゆのよのなか

【老葉／書陵部宗訊筆本】／秋／

→残る大和撫子（のこるやまとなでしこ）

きりきりすーしもにかかりしーねもかれて
いつかとのこるーやまとなてしこ

【池田千句】／何田［をとめこか］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

きりきりすーしけみかくれにーかたよりて
のわきにのこるーやまとなてしこ

【壁草／書陵部本】／秋／永正 9 年

鳴く蟋蟀（なくきりぎりす）

→明かし果てる（あかしはてる）

あきふけけりとーなくきりきりす
なからふるーみをなけきつつーあかしはて

【元和年間百韻２４巻】／□□［ちちのはるを］／裏白／元和 4(1618) 年 1 月 3 日

ゆかにちかより－なくきりきりす
ものおもふ－まくらなからに－あかしはて

【元和年間百韻２４巻】／□□［とししとしに］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

→暮れつ方

なくきりきりす－こゑやそふらむ
なかつきの－なかきおもひの－くれつかた

【初瀬千句】／何木［ほとときす］／享徳元・2(1452) 年、4 月

こゑよわりつつ－なくきりきりす
ふゆされは－いとともの－うき－くれつかた

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

→身に限らない

けなけやなけ－ふてのなこりの－きりきりす
おもひすてしは－みにもかきらし

【浅間千句】／唐何［はなといはは］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

つひにねぬ－よすかなくなり－きりきりす
あきのつらさは－みにもかきらし

【文明十二年千句８巻】／何人［ひとはさへ］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

→耳に満ちる

なけやなけ－よしうれふとも－きりきりす
みみにみちたる－せみのもろこゑ

【飯盛千句】／何衣［つきいてて］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

ねになくは－おもひあれはや－きりきりす
みみにみちたる－かせそみにしむ

【至徳以前百韻７巻】／何路［ゆきませの］／至徳 4(1387) 年以前

きる

打ち着せたい

→遠方人

おもふにし－うちきせはやの－からころも
をちかたひとの－そてやつゆけき

【天正年間百韻５７巻】／何垣［ゆくそてに］／天正 11(1583) 年閏 1 月 1 日

うちきせはやの－きぬたあやなき
あきさへも－をちかたひとの－つてたえて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長 6(1601) 年 1 月 3 日

きわめる

楽しみを極める

→仮のこの世

たのしみを－きはめよとのみ－とくのりに
かりのこのよは－すみもわひめや

【飯盛千句】／何路［しけるきに］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

たのしみを－きはむるくには－たのもしや
かりのこのよは－とにもかくにも

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

くき

鵙の草茎

→端紅葉

しもにあとなき－もすのくさくき
ちりにけり－きりにかせふく－はしもみち

【壁草／続群書類従本】／秋／永正 3(1506) 年 3 月頃

ちきりはかなや－もすのくさくき
はしもみち－かたえにのこる－かせたちて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

くさ

秋草（あきくさ）

→鳴く蟋蟀（なくきりぎりす）

よもきふにーあらぬはなあるーあきのくさ
なくきりきりすーねをなつくしそ

【文安月千句】／何田［ほしのなも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

こころとやーつゆをもうくるーあきのくさ
なくきりきりすーものなおもひそ

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

掻く藻塩草（かくもしおぐさ）

→海の汀に松の花落ちる（うみのなぎさにまつのはなおちる）

かくてふなるはーたたもしほくさ
みつうみのーみきはにまつのーははおちて

【論書 4 種】／宗長／

かきあつむるはーたたもしほくさ
にほのうみのーみきはにまつのーははおちて

【論書 4 種】／宗牧／

枯れた草が萌え出る（かれたくさがもえでる）

→駒祝う声（こまいわうこえ）

ふゆかれしーみちのしはくさーもえいてて
のへのかすみにーこまいはふこゑ

【聖廟千句】／何田［のこるひに］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

こそかれしーくさはつゆけくーもえいてて
のはあさまたきーこまいはふこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何水［あけほのを］／明応 8(1499) 年 2 月 19 日

草の庵（くさのいお）

→山時鳥（やまほととぎす）

さみたれのーつゆにうもるるーくさのいほ
いててやきかむーやまほととぎす

【熊野千句】／山何［おとなしの］／文正元 (1466) 年 3 月以前

ふくかせのーたえまもあれなーくさのいほ
くもにまきるるーやまほととぎす

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

よはさのみーなけかしものそーくさのいほ
はなのあととふーやまほととぎす

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

草の露（くさのつゆ）

→虫の鳴く声（むしのなくこえ）

つきかけにーはなのやとかすーくさのつゆ
かせいとふらしーむしのなくこゑ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

ゆふつきのーかけははことのーくさのつゆ
おもひのあるかーむしのなくこゑ

【文明十五年千句１１巻】／何風［たきなみや］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

草の戸の内（くさのとのうち）

→待ち侘びる（まちわびる）

ひとりねつらしーくさのとのうち
うちすさふーころもかたしきーまちわひて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

すみうかるるやーくさのとのうち
すてしみもーいまはのゆふへーまちわひて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑下／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

草は残らない雪の下折（くさはのこらないゆきのしたおれ）

→野分する庭に月（のわきするにわにつき）

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはのつきかけーよるさえて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはをしつかにーつきふけて

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

草原（くさはら）

→誰を訪おうか（だれをとおうか）

ゆくゆくも－かすみをしのの－くさのはら
たれにとはまし－はるのわかれち

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

みちそなき－はなのゆきまの－くさのはら
たれにとはまし－やまとことのは

【文安年間百韻 9 巻】／朝何［さかきはに］／文安 4(1447) 年 10 月 18 日

草葉の露（くさばのつゆ）

→化野（あだしの）

くさはのつゆも－おなしなみたか
あたしのや－おくれさきたち－いろつきて

【飯盛千句】／千何［こぬあきや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

くさはのつゆも－かせにみたれぬ
あたしのや－たれもさこそと－そてぬれて

【新撰菟玖波集／実隆本】／哀傷／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

草枕（くさまくら）

→標置き出る道（しるべおきいづるみち）

くさまくら－ゆめのつてさへ－あくるよに
かねこそしるへ－おきいつるみち

【天文年間百韻 3 8 巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

にはとりの－こゑはきこえぬ－くさまくら
つきをしるへに－おきいつるみち

【天正四年万句 7 0 巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→聞けば嵐（きけばあらし）

くさまくら－あくへきころも－よをこめて
きけはあらしの－さはるまきのと

【寛正年間百韻 2 0 巻】／何船［とりねむる］／寛正 6(1465) 年 12 月 14 日

くさまくら－かれのにそてを－しきわひて
きけはあらしの－しもをふくそら

【文明年間百韻 3 4 巻】／□□［はなにくも］／文明 14(1482) 年 2 月 27 日

→長き夜の夢（ながきよのゆめ）

さらしなや－つゆけきさとの－くさまくら
われをはすてつ－なかきよのゆめ

【河越千句】／何路［ひそさむき］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

わかやとは－はるかにあきの－くさまくら
かよふやいかか－なかきよのゆめ

【宮島千句】／玉何［はるといへは］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

→古里の夢（ふるさとのゆめ）

たゆますも－あらしふくよの－くさまくら
いつむすはまし－ふるさとのゆめ

【永正年間百韻 3 4 巻】／玉何［ちりてわか］／永正 2(1505) 年 8 月 22 日

くさまくら－むすひかねての－あさかすみ
なこりはわかぬ－ふるさとのゆめ

【永正年間百韻 3 4 巻】／ｘｘ［なつころも］／永正 7(1510) 年 4 月 1 日

→夢の面影（ゆめのおもかげ）

あふひとも－あらののはらの－くさまくら
つきをなこりの－ゆめのおもかけ

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

さきたつや－あかつきちかき－くさまくら
したふもあはれ－ゆめのおもかけ

【天正年間百韻 5 7 巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

忍草（しのぶぐさ）

→古き軒端（ふるきのきば）

はるあきに－かれてはもゆる－しのふくさ
ふるきのきはの－ゆきのむらきえ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

ものおもふーこころひとつのーしのふくさ
ふるきのきはのーあきのさひしさ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

露時雨の草（つゆしぐれのくさ）

→渡る雁（わたるかりがね）

つゆしくれーよものくさきのーいろつきて
たのもにちかくーわたるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しくれても］／応永 26(1419) 年 9 月 25 日

つゆしくれーききのしたくさーそめわけて
たたひととほりーわたるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／山何［とよとしを］／応永 32(1426) 年 12 月 6 日

鵙の草茎（もずのくさぐき）

→端紅葉（はしもみじ）

しもにあとなきーもすのくさくき
ちりにけりーきりにかせふくーはしもみち

【壁草／続群書類従本】／秋／永正 3(1506) 年 3 月頃

ちきりはかなやーもすのくさくき
はしもみちーかたえにのこるーかせたちて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

森の下草（もりのしたくさ）

→放れ駒（はなれごま）

うらかれわたるーもりのしたくさ
つなかるるーしつかたなれのーはなれこま

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かけふかくなるーもりのしたくさ
たつぬへきーあともなつののーはなれこま

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

若草枕（わかくさまくら）

→秋更ける（あきふける）

わかくさまくらーうつらふすこゑ
とこさむきーたひにしあれはーあきふけて

【紫野千句】／何船［はれてたに］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

わかくさまくらーつきややつさむ
いたつらにーあかすよおほくーあきふけて

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

忘れ訪う草原（わすれとうくさはら）

→古里（ふるさと）

わするなよーとはむとちきるーくさのはら
たよりはかりにーかかるふるさと

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］／長享 2(1488) 年 7 月

わすれすもーとほきあととふーくさのはら
なれこしたれそーかかるふるさと

【永正十花千句】／二字反音［こまなへて］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

忘れるなよ（わすれるなよ）

→別れである（わかれである）

はなはまたーなれしをわれもーわするなよ
はるこころなきーわかれならすや

【紫野千句】／何目［いつもみむ］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

なくさむるーひとにうきよをーわするなよ
そふともつひのーわかれならすや

【永正十花千句】／何路［ゆくつきも］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

→程は雲居（ほどはくもい）

わするなよーたひねにかすむーよはのつき
ほとはくもゐのーはつほとときす

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

とほくなるーやとのわかれもーわするなよ
ほとはくもゐのーふるさとのやま

【菟玖波集／広島大学本】／羇旅／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

くに

国に従う（くににしたがう）

→大和言の葉（やまとことのは）

きみかよにーえひすのくにもーしたかひて
こころやはらくーやまとことのは

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何草［よにおほふ］／成立時不詳

くにもたたーみちしあるよりーしたかひて
よろつよまてのーやまとことのは

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［はなさかり］／天正 6(1578) 年 3 月 10 日

くむ

夜汲む杯（よるくむさかずき）

→月の下（つきのもと）

よさむわすれてーくめるさかつき
もろともにーなかめあかせるーつきのもと

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

よるはすからにーくめるさかつき
あくるをもーしらてともなふーつきのもと

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］／

くめ

久米の岩橋（くめのいわはし）

→ただ一言（ただひとこと）

てらにたれーくめのいははしーつつくらむ
たたひとことも—すくにをしへよ

【享徳二年千句】／唐何［こころひく］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

わたしもはてぬーくめのいははし
つきみてはーたたひとことも—おもはぬに

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

くも

曙の雲（あけぼののくも）

→後朝の面影をしたう（きぬぎぬのおもかげをしたう）

なつものこらぬーあけほののくも
きぬきぬのーおもかけをなほーしたひわひ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ちりうせぬ］／天正 17(1589) 年 4 月 2 日

ひきすてにたる—あけほののくも
きぬきぬの—おもかけしたふーさよまくら

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめかえや］／文禄 4(1595) 年 7 月 21 日

遠方の雲（おちかたのくも）

→鳥鳴く（とりなく）

つきはほのめくーをちかたのくも
しくれせしーみねよりいつるーとりなきて

【飯盛千句】／ｘｘ［かけすすし］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日〜29 日

ゆきをもよほすーをちかたのくも
そことなくーすゑののあしたーとりなきて

【明応年間百韻２２巻】／何人［あさかすみ］／明応 4(1495) 年 1 月 6 日

→一群（ひとむら）

かはなみしろきーをちかたのくも
ひとむらのーたけのはわけのーよはあけて

【称名院追善千句】／何木［とし ことの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

くるるいろなるーをちかたのくも
ひとむらのーつはさならへてーとふからす

【永禄年間百韻２８巻】／何路［あらたまの］／裏白／永禄 10(1567) 年 1 月 3 日

昨日の雲（きのうのくも）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

きのふのくもをーわくるむさしの
かりねせしーかややのゆきのーあさほらけ

【萱草／伊地知本】／冬／文明 6(1474) 年 2 月以前

きのふのくもをーまたとなかむる
はるといへとーかすみたにせぬーあさほらけ

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正6(1509) 年以前

雲かかる峰（くもかかるみね）

→花盛り（はなざかり）

みるかうちよりーくもかかるみね
はなさかりーかすみはるれはーあらはれて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

きゆるとみしもーくもかかるみね
かつらきや―さきつつきてのーはなさかり

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめかえや］／文禄 4(1595) 年 7 月 21 日

雲の遠方（くものおちかた）

→時雨れる（しぐれる）

ゆふひみえすくーくものをちかた
いくたひかーつきまつあきのーしくるらむ

【応仁年間百韻６巻】／何人［ときはきを］／応仁元 (1467) 年 10 月 17 日

つきもかたふくーくものをちかた
わかれゆく―そてにやつゆのーしくるらむ

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋上／明応4(1495) 年 9 月 26 日

雲の掛橋（くものかけはし）

→鵲（かささぎ）

あきかせわたるーくものかけはし
かささきの―つはさもかはすーあまのかは

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

みるもすさましーくものかけはし
かささきのーやまとひこゆるーゆふしもに

【宗碩関係２種】／宗碩百句／太田本／

雲の絶え間（くものたえま）

→峰の嵐（みねのあらし）

くものたえまにーほのくるるやま
ふきおくる―みねのあらしのーはつしくれ

【天文年間百韻３８巻】／何木［やまかけて］／天文 21(1552) 年 3 月 11 日

くれそむるーくものたえまにーつきみえて
みねのあらしのーむかふしはのと

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑上／文明 8(1476) 年 5 月頃

雲の一群（くものひとむら）

→捨てる時鳥（すてるほととぎす）

ゆくかたいつちーくものひとむら
ほとときすーのこれるはなをーとひすてて

【天文年間百韻３８巻】／何路［あきよたた］／天文 12(1543) 年 8 月 19 日

うかふあしたのーくものひとむら
なきすつるーあとしたはるるーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／□□［ことのはも］／天正 13(1585) 年 1 月 4 日

棚引く横雲の空（たなびくよこぐものそら）

→月残る（つきのこる）

やまにたなひくーよこくものそら
つきのよやーあくるとみえてーのこるらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

みねにたなひくーよこくものそら
つきやまたーかすみかくれにーのこるらむ

【文明十二年千句８巻】／何田［あめのよは］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

月の群雲（つきのむらくも）

→夜に雁鳴く（よるにかりなく）

はるくれかたのーつきのむらくも
かへるよのーあまとひかくれーかりなきて

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

あきふけわたるーつきのむらくも
かりなきて―よはいねかてのーたまくらに

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文9(1541) 年 12 月 25 日

中空の雲（なかぞらのくも）

→見え隠れする

はつあきなれやーなかそらのくも
ふしはそのーきりよりうへにーみえかくれ

【文明十四年万句５２巻】／山何［なほさこそ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

こころさわかすーなかそらのくも
ふるさとにーちかつくやまのーみえかくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

峰の雲

→山時鳥

あらましにーこよひもあけぬーみねのくも
かならすいつのーやまほととぎす

【永正十花千句】／何船［ねぬるよを］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

なかめつつーかたみもつらきーみねのくも
いつらはこえしーやまほととぎす

【成立不詳・宗養以前８巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

夕暮れの雲

→時雨れる

をのへにのこるーゆふくれのくも
やまさとやーはるるともなくーしくるらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［はなやあらぬ］／延徳 2(1490) 年 2 月 25 日

へたつるかたのーゆふくれのくも
やまとりのーをのへのまつやーしくるらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

→時鳥

なかめこそやれーゆふくれのくも
きのふかもーなきつときしーほととぎす

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

わかやまのはのーゆふくれのくも
こころとやーなくねをしまぬーほととぎす

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

→峰越える

それもともなるーゆふくれのそら
くもにけふーはなちりはつるーみねこえて

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

すすしきやまのーゆふくれのそら
かせさそふーひとむらさめのーみねこえて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きたにみる］／成立時不詳

横雲霞む

→夢の浮橋

よこくものーわかるるかたやーかすむらむ
よるちるはなのーゆめのうきはし

【熊野千句】／何路［かさなるや］／文正元 (1466) 年 3 月以前

よこくものーのこれるよももーかすむひに
さめてそなほもーゆめのうきはし

【文明十二年千句８巻】／白何［まつりする］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

横雲の空

→春の夜

かすみのまよふーよこくものそら
はるのよのーゆめのわかれはーたとたとし

【文明十四年万句５２巻】／手何［はふつたに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひきわかれゆくーよこくものそら
はるのよのーつきにひとすちーかりとひて

【論書４種】／宗長／

くもどり

雲鳥の跡（くもどりのあと）

→綾織る水（あやおるみず）

ゆくかたきゆる－くもとりのあと
かけあをく－あやおるみつの－かすむひに

【天正四年万句７０巻】／何物［きくやいかに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

かへるはいつこ－くもとりのあと
かすみつつ－あやおるみつの－しろきのに

【老葉／吉川本】／春／文明 13(1481) 年夏頃

くる

秋が来る（あきがくる）

→月出る（つきいでる）

かせはをきふく－あきはきにけり
くれぬまは－またかけかくす－つきいてて

【永正十花千句】／何田［はなにこひ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

くものゆきかひ－あきはきにけり
あさかほに－そらさへみゆる－つきいてて

【享禄年間百韻８巻】／懐旧［ゆふたちの］／享禄 5(1532) 年 6 月 8 日

→萩咲く（はぎさく）

をきのかせふく－あきはきにけり
つきかけも－いろなるつゆに－はきさきて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

なほふるさとの－あきはきにけり
うゑおきし－あさちましりに－はきさきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／秋／永正 6(1509) 年以前

→稲負鳥（いなおおせどり）

やなきかけ－それともなしに－あきはきて
かせうちなひき－いなおほせとり

【宗長追善千句】／片何［やまさくら］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

しはのとの－こころもしらす－あきはきて
こひちをみする－いなおほせとり

【基佐集／静嘉堂文庫本】／雑／永正 6(1509) 年以前

秋来る（あきくる）

→蜩が鳴く（ひぐらしがなく）

あききぬと－かせもおとはの－みねこえて
たきよりうへに－ひくらしそなく

【大永年間百韻１４巻】／何船［うめかかや］／大永 3(1523) 年 1 月 9 日

あききぬと－おもひそむるや－いろならむ
あめうちそそき－ひくらしそなく

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

朝来る鶯（あさくるうぐいす）

→玉簾（たますだれ）

あさけしつかに－きぬるうくひす
たますたれ－まけはそともの－うちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほととぎす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

あさとあくれは－きぬるうくひす
たますたれ－ひま□のとかに－ひのさして

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

徒と掛かり来る（あだとかかりくる）

→玉の緒の末（たまのおのすえ）

あたなりと－おもひなからも－かかりきて
いのらはちよも－たまのをのすゑ

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

ちかひたた－あたしよなから－かかりきて
ひとひひとひの－たまのをのすゑ

【弘治年間百韻８巻】／何人［ときはなる］／弘治 3(1557) 年 8 月 28 日

来ないで音する（こないでおとする）

→鶯

こすにおとする－つゆのあをやき
うくひすの－はねうちはふき－あめすきて

【永正十花千句】／何船［ねぬるよを］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

こすにおとする－かせのとかなり
うくひすの－つはさにもろき－はなちりて

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

遠く来た

→沖の舟

かへりみすれは－とほくきにけり
ほともへす－こきもてつるる－おきつふね

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

ひなかきころは－とほくきにけり
くるるまて－つなてうちはへ－おきつふね

【壁草／続群書類従本】／旅／永正 3(1506) 年 3 月頃

春が来る

→鶯が鳴く

やまさとの－みちのなきたに－はるのきて
けさをはつねの－うくひすそなく

【紫野千句】／唐何［かせやこれ］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

のちのちに－はなのさくへき－はるのきて
やとのあしたに－うくひすそなく

【文明十四年万句５２巻】／何寺［きりうすみ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ふるとしの－ゆきのこなたに－はるはきて
おくるあしたに－うくひすそなく

【享徳二年千句】／何船［よもにちる］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

たれかはと－おもふさとにも－はるはきて
わかみのともと－うくひすそなく

【延徳年間百韻１６巻】／山何［ふきもこぬ］／延徳 2(1490) 年 9 月 20 日

→うち霞む

このあけほのの－はるはきにけり
まきのとを－いてぬるにはの－うちかすみ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何袋［またしかし］／成立時不詳

かけひのすゑに－はるはきにけり
くれたけの－ひとよあくれは－うちかすみ

【園塵第一／続群書類従本】／春／長享 2 年

→梅咲く

このさとまても－はるはきにけり
ひとしれぬ－しはのまかきも－うめさきて

【園塵第一／続群書類従本】／春／長享 2 年

こころうれしき－はるはきにけり
あひにあふ－にひまくらかに－うめさきて

【論書４種】／宗長／

くるしい

山が苦しい

→老の坂

ちかきかよひも－やまそくるしき
こしをおし－てをひくほとの－おいのさか

【河越千句】／何路［ひそさむき］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

こえてまたある－やまそくるしき
かさなれる－としにかむかふ－おいのさか

【文明十四年万句５２巻】／山何［ことたるは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

くるま

小車の音

→夕顔

めくらすみちの－をくるまのおと
ゆふかほの－はなのかきほに－さくとみて

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

わかれをつくるーをくるまのおと
ゆふかほのーやとかりそめのーちきりにて

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつしけり］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

くれ

秋の暮れ方（あきのくれがた）

→初時雨（はつしぐれ）

やまかけすこきーあきのくれかた
ふるよりもーあとはみえけるーはつしくれ

【延徳年間百韻１６巻】／山何［ふきもこぬ］／延徳 2(1490) 年 9 月 20 日

をしまぬもやはーあきのくれかた
つゆはかりーさととひわふるーはつしくれ

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

雨霞む暮れ（あめかすむくれ）

→春風（はるかぜ）

まさるみきはやーあめかすむくれ
はるかせのーふねのはつきもーくちけらし

【天正年間百韻５７巻】／何船［あをやきは］／天正 13(1585) 年 1 月 28 日

をのへのくもにーあめかすむくれ
はるかせのーよわるにとほきーかねのこゑ

【永正年間百韻１巻】／何人［こゑとほく］／永正元 (1505) 年 12 月 10 日

→時鳥（ほととぎす）

ふるのをとほみーあめかすむくれ
さたかにもーいつかはなかむーほとときす

【永原千句】／何木［おとそなき］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

ふちかをりつつーあめかすむくれ
はつこゑやーやよひなからのーほとときす

【平松文庫本千句】／□□［おちはして］／

雨の暮れ（あめのくれ）

→山時鳥（やまほととぎす）

あめのくれーあしたのくもにーうかれきて
はつねをきくやーやまほとときす

【天正四年万句７０巻】／白何［はつはるや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

われそすむーみねのいほりのーあめのくれ
やまほとときすーおとつれてゆけ

【新撰菟玖波集／実隆本】／夏／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

影暮れる（かげくれる）

→五月雨の頃（さみだれのころ）

はなれそのーまつはひときのーかけくれて
なかれもふかしーさみたれのころ

【弘治三年春雪千句】／何舟［きえてたに］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

ゆくみつはーやまもととろにーかけくれて
こりしくくものーさみたれのころ

【享禄年間百韻８巻】／何人［あさかすみ］／享禄 5(1532) 年 1 月 3 日

霞む夕暮れ（かすむゆうぐれ）

→月の出（つきので）

あけほののみかーかすむゆふくれ
いりあひのーかねにをのへのーつきいてて

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

つまきのみちのーかすむゆふくれ
しつかすむーまかきのそともーつきいてて

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

暮れごとの空（くれごとのそら）

→時鳥（ほととぎす）

ふるきをしのふーくれことのそら
ほとときすーあれたるさとをーかれやらて

【永正十花千句】／山何［けふそみな］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日〜14 日

いつかとまつはーくれことのそら
ほとときすーあやめひくひもーはやすきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

暮れゆく方

→帰る

くれゆくかたのーはるのしらくも
とりのねやーほのかになりてーかへるらむ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

くれゆくかたのーやまきはのみち
つきにしもーましはとりてやーかへるらむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［にはくさの］／文禄 2(1593) 年 1 月 10 日

暮れる

→帰る舟人

くれぬれはーあらいそなみにーふねとめて
うらかせさむみーかへるふなひと

【太神宮法楽千句】／何船［とこよにや］／長享 2(1488) 年 7 月

くれぬれはーかせやはるともーわかさらむ
さをさしすててーかへるふなひと

【羽柴千句】／何人［すくにゆく］／天正6(1578) 年 5 月 18・19 日

春の暮れ

→霞む入相の鐘

あらしたつーはつせのやまのーはるのくれ
かすみてとほきーいりあひのこゑ

【応仁年間百韻６巻】／ｘｘ［えたふりぬ］／応仁 2(1469) 年 12 月

はかなくてーをしみなれこしーはるのくれ
かすみはてたるーいりあひのこゑ

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

春の暮れ方

→藤咲く

やよひのすゑのーはるのくれかた
ものふかきーまつのひまひまーふちさきて

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

はなをそつくすーはるのくれかた
やまふきのーひとつかきねにーふちさきて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文9(1541) 年 12 月 25 日

春の夕暮れ

→月出る

まさこちとほきーはるのゆふくれ
とけわたるーみきはもこほるーつきいてて

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

こけふむやまのーはるのゆふくれ
しつかなるーはなのおくよりーつきいてて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文9(1541) 年 12 月 25 日

日が暮れる

→ふる雪

ゆくふねとめよーひこそくれぬれ
ふるゆきにーやまもかくるるーみちのすゑ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

かはかせさむみーひこそくれぬれ
ふるゆきにーつまきこるをのーたにのみち

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

→入相の鐘

ものふかきーたけよりおくにーひはくれて
とよらのにしのーいりあひのかね

【顕証院会千句】／唐何［みたれけり］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

みちのへのーゆききかきたえーひはくれて
とほくそきこゆーいりあひのかね

【伊予千句】／何路［さみたれの］／天文6(1537) 年 5 月 22 日

→吹く風

つきさしいつる－ひはくれにけり
きりはるる－おきついそさき－ふくかせに

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

はれみくもりみ－ひはくれにけり
たけのはの－おきふすのきは－ふくかせに

【因幡千句】／何船［そらやゆき］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

日暮れに伴う

→歌う声々

くるるひに－かへるきこりの－ともなひて
ふしもひとつに－うたふこゑこゑ

【因幡千句】／何木［ゆきとふる］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

くるひとの－ひのくるるまて－ともなひて
むかひてつきに－うたふこゑこゑ

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

蛍訪う暮れ

→月はまだ

かはかみよりや－ほたるとふくれ
つきはまた－いてぬひかりの－みねこえて

【永禄年間百韻２８巻】／何路［なつくさの］／永禄 9(1566) 年 5 月 9 日

たのものはらに－ほたるとふくれ
つきはまた－おそき□やまの－あめ□□□

【寛永年間百韻１５巻】／□□［まつにこまつ］／裏白／寛永 19(1642) 年 1 月 3 日

宿の夕暮れ

→花の陰

くさかるをかの－やとのゆふくれ
たちよらむ－こまつかれゆく－はなのかけ

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

あらしさひしき－やとのゆふくれ
たかためか－ゆきをはらはむ－はなのかけ

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

夕暮れの雲

→時雨れる

をのへにのこる－ゆふくれのくも
やまさとや－はるるともなく－しくるらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［はなやあらぬ］／延徳 2(1490) 年 2 月 25 日

へたつるかたの－ゆふくれのくも
やまとりの－をのへのまつや－しくるらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

→時鳥

なかめこそやれ－ゆふくれのくも
きのふかも－なきつときき し－ほととぎす

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

わかやまのはの－ゆふくれのくも
こころとや－なくねをしまぬ－ほととぎす

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

→峰越える

それもともなる－ゆふくれのそら
くもにけふ－はなちりはつる－みねこえて

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

すすしきやまの－ゆふくれのそら
かせさそふ－ひとむらさめの－みねこえて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きたにみる］／成立時不詳

夕暮れの空

→なる

やますみふかき―ゆふくれのそら
いつしかも―まなくしくれに―なりぬらむ

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

つくつくむかふ―ゆふくれのそら
きえにしは―いつれのくもと―なりぬらむ

【園塵第三／続群書類従本】／雑下／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→時鳥（ほととぎす）

あつきひしのく―ゆふくれのそら
ひとこゑも―まれになりたる―ほととぎす

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

そことなにはの―ゆふくれのそら
ほととぎす―あしのしのひに―なきすきて

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

うらみをかくる―ゆふくれのそら
ほととぎす―またせてもたた―ひとこゑに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑上／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

→山里（やまざと）

なくさめかねつ―ゆふくれのそら
やまさとは―ことわりよりも―さひしくて

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑上／文明 8(1476) 年 5 月頃

あしたのかすみ―ゆふくれのそら
やまさとは―はなのにほひに―とりのこゑ

【論書４種】／宗長／

→我が心（わがこころ）

なかめわひぬる―ゆふくれのそら
さりともと―おもひなれそ―わかこころ

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋下／文明 8(1476) 年 5 月頃

おもひなつけそ―ゆふくれのそら
こひしさも―たかなすことそ―わかこころ

【北畠家連歌合／書陵部本】／北畠家連歌合／文明 2(1470) 年正月 6 日

夕暮れの山（ゆうぐれのやま）

→一曇り（ひとぐもり）

ゆきふりむかふ―ゆふくれのやま
ひとくもり―しくれしそらは―はるるひに

【顕証院会千句】／白何［にはにさせ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

ほともまちかき―ゆふくれのやま
ひとくもり―あらしのあとの―ゆきはれて

【称名院追善千句】／山何［ことつてむ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

→峰の雲（みねのくも）

ひもさむけなる―ゆふくれのやま
みねのくも―かへるやゆきを―さそふらむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つきをはいそけ―ゆふくれのやま
あらましの―こころにかかる―みねのくも

【文明年間百韻３４巻】／夕何［みつみえぬ］／千句第□／文明 17(1485) 年 6 月 26 日

くれない

紅の梅（くれないのうめ）

→鶯（うぐいす）

しろきかのちの―くれなゐのうめ
うくひすの―しもにあさひを―まちとりて

【大原野十花千句】／何船［ひときつつ］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

あかぬなかめや―くれなゐのうめ
うくひすの―みきりはなれす―こゑはして

【元和年間百韻２４巻】／□□［やつかほの］／元和 6(1620) 年 8 月 23 日

ゆきをやそむる―くれなゐのうめ
うくひすの―のきはのみねに―なきそめて

【文明十四年万句５２巻】／何水［たまやとる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

そでのくれない
袖の紅

→たつたがわ
立田川

みせはやふかきーそてのくれなゐ
たつたかはーあきのなこりにーおりたちて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

なみたのいろはーそてのくれなゐ
なにゆゑにーかかるうきなのーたつたかは

【菟玖波集／広島大学本】／恋下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

みせはやふかきーそてのくれなゐ
たつたかはーあきのかきりにーおりたちて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

けむり

うすけむり
薄煙

→まつのひともと
松の一本

うすけふりーあともさひしきーたにのおく
こけふむいはのーまつのひともと

【河越千句】／白何［はるかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

のへのくれ―たけもなひけるーうすけふり
たかすむのきそーまつのひともと

【文明十四年万句５２巻】／何国［ほとときす］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

おもいのけむり
思いの煙

→あきのくれ
秋の暮れ

おもひのけふりーそれとたにみよ
ふねとむるーなたのしほやのーあきのくれ

【老葉／書陵部宗訊筆本】／秋／

おもひのけふりーふしはかりかは
つきさひしーむろのやしまのーあきのくれ

【名所句集／静嘉堂文庫本】／秋／（大永前後）

きえるけむり
消える煙

→もしおくむ
藻塩汲む

きえむけふりのーはてもはかなや
もしほくむーうらにとしふるーさすらへに

【伊勢千句】／何衣［そめてほす］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

きえむけふりのーゆくへをそまつ
もしほくむ―そてさへつきをーたのむよに

【明応年間百韻２２巻】／何人［かきりさへ］／明応 8(1499) 年 3 月 20 日

けむりひとすじ
煙一筋

→だれかがうえたまつのこる
誰かが植えた松残る

かせふきはらふーけふりひとすち
たれうゑてーまつのしるしのーのこるらむ

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

とほさとをのの―けふりひとすち
たかうゑてーまつはかりかはーのこるらむ

【文明十四年万句５２巻】／何色［はるなつを］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

こいしい

いもがこいしくて
妹が恋しくて

→まくらにかたしく
枕に片敷く

いもこひしらにーみるゆめもなし
よるなみをーいそのまくらにーかたしきて

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

いもこひしらにーかりふしのそら
つきやとるーもしほのまくらーかたしきて

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

いもにこいつつ
妹に恋いつつ

→くさまくら
草枕

のやまもつらしーいもにこひつつ
くさまくらーよるはゆめちもーいくわかれ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／ｘｘ［さみたれや］／成立時不詳

いもにこひつつーそてそさえゆく
くさまくらーゆふしもはらひーたれとねむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

都が恋しい（みやこがこいしい）

→鳴く時鳥（なくほととぎす）

むかしにならのーみやここひしも
つきそすむーなきてきつらむーほととぎす

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

いやとほくなるーみやここひしも
なきすてしーくさのまくらのーほととぎす

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

こえ

秋風の声（あきかぜのこえ）

→影寂しい（かげさびしい）

やなきにたかきーあきかせのこゑ
かけさひしーかりなきわたるーゆふつくよ

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

このくれよりのーあきかせのこゑ
みにしみてーいくたのもりのーかけさひし

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

→身にしみる（みにしみる）

なみたすすむるーあきかせのこゑ
ものおもへはーくものはたてもーみにしみて

【難波田千句】／□□［あくるよを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

このくれよりのーあきかせのこゑ
みにしみてーいくたのもりのーかけさひし

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

天彦の声（あまひこのこえ）

→時鳥（ほととぎす）

いふことおくるーあまひこのこゑ
ほととぎすーなくとつくるをーなへてきけ

【宝徳四年千句】／何鳥［あくるよは］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

たれかこたへそーあまひこのこゑ
ほととぎすーまたきくもりをーすきやらて

【享徳二年千句】／何木［はきにつゆ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

鶯の声（うぐいすのこえ）

→谷の戸は明けても遅い日の光（たにのとはあけてもおそいひのひかり）

かすみにもるるーうくひすのこゑ
たにのとはーあけてもおそきーひのひかり

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

みきりをよそのーうくひすのこゑ
たにのとはーあけてもおそきーひのひかり

【文禄年間百韻１２巻】／□□［けさのまに］／文禄 2(1593) 年 1 月 14 日

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

かけ□みやまのーうくひすのこゑ
あさほらけーかすむかたよりーしもとけて

【元亀二年千句】／何路［はなにつきに］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

はかせもゆるきーうくひすのこゑ
こすのとはーさえさえしよのーあさほらけ

【天文年間百韻３８巻】／何人［うつせよに］／天文 21(1552) 年 2 月 23 日

→霞む朝まだき（かすむあさまだき）

よそにうつろふーうくひすのこゑ
なかめわひぬーかすむのかみのーあさまたき

【永正年間百韻３４巻】／白何［さみたれや］／千句第五／永正 15(1518) 年 5 月 14 日

ほのかにきぬるーうくひすのこゑ
やまのはのーかすみよふかきーあさまたき

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

いつくかねくらーうくひすのこゑ
あさまたきーけふのきちかくーかすむらむ

【文明十五年千句１１巻】／二字返音［はなははの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

→うち霞む

なれてひさしきーうくひすのこゑ
くれたけのーかけもちひろにーうちかすみ

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いまこそなけなーうくひすのこゑ
すゑなひくーひとむらたけのーうちかすみ

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［まつうきて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かきねをしたふーうくひすのこゑ
のきはさへーはるけきみねにーうちかすみ

【天正四年万句７０巻】／何路［やまかはも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→枝に梅咲く

すのうちになくーうくひすのこゑ
まつにほふーみなみのえたにーうめさきて

【至徳以前百韻７巻】／何所［ちりぬるか］／至徳 4(1387) 年以前

かすみにならすーうくひすのこゑ
しもはかつーきえしかたえのーうめさきて

【天文年間百韻３８巻】／何人［こよひまつ］／天文 20(1551) 年 9 月 12 日

やとからさひしーうくひすのこゑ
あさちふにーひともとたてるーうめさきて

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

→霞みつつ

わかやととはぬーうくひすのこゑ
かすみつつーありあけのこるーやまにねて

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

いつちこつたふーうくひすのこゑ
かすみつつーしものしつくのーおとはして

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何人［やまみつは］／成立時不詳

→霞む野

うめかかなれやーうくひすのこゑ
なくさめとーあれたるむらもーかすむのに

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

うめかかとむるーうくひすのこゑ
しもふかきーあけかたとほみーかすむのに

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

→霞む

はるまたさむきーうくひすのこゑ
たにのとやーけしきはかりにーかすむらむ

【伊予千句】／山何［やとりとへ］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

いつくかねくらーうくひすのこゑ
あさまたきーけふのきちかくーかすむらむ

【文明十五年千句１１巻】／二字返音［はなははの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

のこりおほかるーうくひすのこゑ
のへやなほーくれゆくままにーかすむらむ

【文禄二年千句１０巻】／山何［まつとしる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

→そことなく霞む

やなきやうきねーうくひすのこゑ
そことなくーかすみたなひきーあくるよに

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

はねうちかはすーうくひすのこゑ
そことなくーかすむのもせのーむらすすめ

【天正四年万句７０巻】／初何［そてくちか］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→水絶え絶え

やまかけつたふーうくひすのこゑ
たけをゆくーさとのかけみつーたえたえに

【熊野千句】／何船［のとかなる］／文正元(1466)年3月以前

のきはにちかきーうくひすのこゑ
こほりとくーにはのやりみつーたえたえに

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治3(1557)年正月7日～9日

→春残る

ききてやすらふーうくひすのこゑ
あけほのやーはるゆくひとにーのこるらむ

【秋津洲千句】／唐何［うめかかの］／天文15(1546)年8月25日

はなちるさとのーうくひすのこゑ
はるやたたーたけひとむらにーのこるらむ

【天正四年万句70巻】／何風［ふちなみに］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→時鳥

したひもてゆくーうくひすのこゑ
きかはやもーやよひのすゑのーほとときす

【羽柴千句】／朝何［よもにふく］／天正6(1578)年5月18・19日

またほのかなるーうくひすのこゑ
なつきてもーいかにつれなきーほとときす

【文禄年間百韻12巻】／□□［わかたけを］／文禄2(1593)年5月20日

なかぬほとまつーうくひすのこゑ
なつちかきーみやまのさとのーほとときす

【天正四年万句70巻】／何鳥［かせにしるき］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→雪消える

けさのきちかきーうくひすのこゑ
やまかすむーかけにきのふのーゆききえて

【美濃千句】／何船［ひとやいつ］／文明4(1473)年12月16日～21日

かりねのやまはーうくひすのこゑ
はらひゆくーたもとにはるのーゆककえて

【天文廿四年梅千句】／何人［うめいつく］／天文24(1555)年正月7日

かすみのうちのーうくひすのこゑ
ありあけのーつきにうちちるーゆककえて

【天文年間百韻38巻】／何人［かせみえて］／千句第四／天文13(1545)年閏11月25日

→夜半の月

かすむあしたのーうくひすのこゑ
のとかにもーねやのとをしきーよはのつき

【天文廿四年梅千句】／山何［うちなひき］／天文24(1555)年正月7日

あくれはちかきーうくひすのこゑ
まきのとのーそともはうすきーよはのつき

【天正年間百韻57巻】／何木［ひとへつつ］／裏白／天正18(1590)年1月3日

→春の野

たれすきかてのーうくひすのこゑ
はるののにーこころもみゆるーこまとめて

【永正年間百韻34巻】／何船［うらかせの］／永正14(1517)年6月

たつねてゆかむーうくひすのこゑ
たれとなくーいへゐゆかしきーはるののに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

牡鹿鳴く声

→寝覚めれば月

あかつきさひしーをしかなくこゑ
ねさむれはーつきすむあきのーこからしに

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文24(1555)年3月26日～晦日

かすかなりけりーをしかなくこゑ
ねさむれはーつきはありあけのーまくらにて

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正9(1581)年11月19日

かえりにこまいわうこえ
帰りに駒祝う声

→都人（みやこびと）

ひくれてかへるーこまいはふこゑ
あふさかをーつきもこゆるやーみやこひと

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

たかかへるさそーこまいはふこゑ
みやこひとーうちむれけふのーせきむかへ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

かえるかりのこえ
帰る雁の声

→哀れを言う（あわれをいう）

ひとつらやーかへりおくるるーかりのこゑ
あはれをいはは－わかたひのそて

【表佐千句】／何年［はなにいる］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日<～8 日>

かへるさやーきぬるにかはるーかりのこゑ
あはれをいはは－はるのしののめ

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

かりのこえ
雁の声

→霞こめる（かすみこめる）

やまたかみーきたにたなひくーかりのこゑ
はるのふもとはーかすみこめつつ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なこりもやーおほよとのなみにーかりのこゑ
かすみこめつつーうらのつりふね

【成立不詳・宗養以前８巻】／□□［つゆはそての］／成立時不詳

かりのこえごえ
雁の声々

→移ろう（うつろう）

くもまにおつるーかりのこゑこゑ
あきのたのーほのかにつきもーうつろひて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

おくれさきたつーかりのこゑこゑ
すゑのつゆーもとあらのこはきーうつろひて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

かりのひとこえ
雁の一声

→秋更ける（あきふける）

なこりもさむきーかりのひとこゑ
それとなくーよはのけしきもーあきふけて

【文亀年間百韻４巻】／何人［きえしよの］／文亀 2(1502) 年 8 月 6 日

まくらおとろくーかりのひとこゑ
いなむしろーつゆしきあへすーあきふけて

【大永四年月並千二百韻】／何色［うめのはな］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 1 月 23 日

こえする
声する

→囲い捨てる（かこいすてる）

のをとほみーつきにすかるのーこゑすなり
かこひすてたるーつゆのふるあと

【五吟一日千句】／何路［いそのなみ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

あさほらけーさへつるとりのーこゑすなり
かこひすてたるーしつかなはしろ

【天正年間百韻５７巻】／何船［かはらめや］／天正 18(1590) 年 1 月 9 日

こえのさむさ
声の寒さ

→秋の風（あきのかぜ）

とわたるかりのーこゑのさむけさ
ふけにけりーしもよのつきにーあきのかせ

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

あさはむとりのーこゑのさむけさ
ぬさちらしーたひたつせきのーあきのかせ

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／松平文庫本／

さおじかのこえ
さ牡鹿の声

→如何ばかり（いかばかり）

ちしほとこむる－さをしかのこゑ
ささのはの－みやまはおくも－いかはかり

【永正年間百韻３４巻】／経文［しもにさめて］／永正 4(1507) 年 11 月 3 日

さそふかつきに－さをしかのこゑ
おきいてむ－やまちのつゆの－いかはかり

【永正年間百韻３４巻】／何人［すすしさや］／ 1510(1510) 年 8 月 9 日

→月の小夜更ける

ふもとにくたる－さをしかのこゑ
つきのこる－くもにあらしの－さよふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

あとなるみねの－さをしかのこゑ
つきははや－いるさのやまの－さよふけて

【大永三年月並千三百韻】／□□［こほるなよ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 7 月 23 日

→露落ちる

みやまのあきの－さをしかのこゑ
わけまよふ－みちはきりふり－つゆおちて

【石山四吟千句】／何木［おくつゆの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

かりほにちかき－さをしかのこゑ
もるをたの－いなはしとろに－つゆおちて

【称名寺連歌３巻】／ｘｘ［つきはあき］／正慶元 (1332) 年 9 月 13 夜

→なる

わかゆふへまつ－さをしかのこゑ
くもそある－いつよりつきに－なりぬらむ

【文安雪千句】／初何［ふりしける］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ふけゆくつきに－さをしかのこゑ
くさまくら－いくよさむきに－なりぬらむ

【浅間千句】／唐何［はなといはは］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

→野が遠い

をりしりかほの－さをしかのこゑ
かりすてて－ひとものこらぬ－のをとほみ

【出陣千句】／何木［しもなから］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

まちけるよはの－さをしかのこゑ
をたもりの－あかしかねたる－のをとほみ

【天正四年万句７０巻】／何船［とふとりの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→群薄

きりのうちなる－さをしかのこゑ
むらすすき－みたれあひてや－ちりぬらむ

【飯盛千句】／何船［ありあけや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

ふしとしらるる－さをしかのこゑ
あれわたる－たなかはしけき－むらすすき

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あめのひの］／文禄 2(1593) 年 5 月

猿叫ぶ声

→秋寒い

つきはさやかに－さるさけふこゑ
あきさむき－いりえのふねに－めはさめて

【美濃千句】／山何［けふみすは］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

やまかけふかく－さるさけふこゑ
あきさむき－みねのしひしは－ふきかせに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

鈴虫の声

→振延える

たつねいるのの－すすむしのこゑ
つきにはと－ちきりしかたに－ふりはへて

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

すすきかもとの－すすむしのこゑ
ふりはへて－ゆくやたもとの－かせならし

【永禄元年花千句】／□□［たきなみも］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

せみのもろごえ
蝉の諸声

→唐衣（からごろも）

やまやさつきの―せみのもろこゑ
すすしさは―たたあきかせの―からころも

【永正十花千句】／二字反音［こまなへて］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

さよのしくれか―せみのもろこゑ
からころも―もすそもそても―うちぬれて

【文明十四年万句５２巻】／何木［あきのひも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

たけをうつこえ
竹を打つ声

→夜が更ける

あられときとき―たけをうつこゑ
ねぬとりよ―あなかまよはも―ふけぬらむ

【伊庭千句】／三字中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

ゆふへのあめの―たけをうつこゑ
いつのまに―あられふるよの―ふけぬらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

ちどりなくこえ
千鳥鳴く声

→思いかねる

ゆくかたをなみ―ちとりなくこゑ
おもひかね―たつぬるみちに―さよふけて

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

よふねにきくは―ちとりなくこゑ
おもひかね―いもねぬたひを―しるままに

【至徳以前百韻７巻】／何木［かみかきの］／至徳 4(1387) 年以前

とりのこえ
鳥の声

→雨の名残（あめのなごり）

とりのこゑ―のきはにかすむ―あさほらけ
あめのなこりの―ひはのとかなり

【天正年間百韻５７巻】／□□［すたれまけ］／天正 15(1587) 年 1 月 10 日

しらくもか―はなかあらぬか―とりのこゑ
あめのなこりの―をちかたのはる

【天正四年万句７０巻】／朝何［さみたれに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

とりのこえごえ
鳥の声々

→暮れる

さるかたしらぬ―とりのこゑこゑ
くれぬれは―あたりのやまも―きりこめて

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほととぎす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

ねくらもとむる―とりのこゑこゑ
くれぬれは―つきになるかと―よをまちて

【文明十四年万句５２巻】／山何［なほさこそ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→月落ちる（つきおちる）

またいつかはの―とりのこゑこゑ
あふさかや―せきちこゆれは―つきおちて

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

あくるをつくる―とりのこゑこゑ
たちさわき―からすなくよの―つきおちて

【文安頃千句４巻】／二字返音［はなをりて］／

→野が遠い（のがとおい）

あけわたるよの―とりのこゑこゑ
かりまくら―つきにおきゆく―のをとほみ

【石山四吟千句】／何船［もろひとの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

かへるささそふ―とりのこゑこゑ
あめはるる―あとはひのさす―のをとほみ

【永禄年間百韻２８巻】／何人［いへはえに］／永禄 6(1563) 年 2 月 23 日

とりのなくこえ
鳥の鳴く声

→関の戸（せきのと）

よなかさいつら―とりのなくこゑ
せきのとの―もみちむしろを―しきすてて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

いつくのそらそーとりのなくこゑ
せきのとのーまつあけわたるーゆきはれて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

鳥の一声（とりのひとこえ）

→明ける（あける）

はるかにすくるーとりのひとこゑ
しつかなるーよはのけしきやーあけぬらむ

【天文年間百韻３８巻】／何人［なやここに］／天文 4(1535) 年 5 月 1 日

はつかになりぬーとりのひとこゑ
またれつるーねさめのそらやーあけぬらむ

【天文年間百韻３８巻】／何路［あさかほの］／天文 10(1541) 年 7 月 29 日

→時鳥（ほととぎす）

しはしなくさむーとりのひとこゑ
ねさめてはーそれかあらぬかーほとときす

【天正四年万句７０巻】／何船［なかきよの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

こすゑはるけきーとりのひとこゑ
むかしおもふーたちはなてらのーほとときす

【園塵第四／早稲田大学本】／夏／永正 6、7 年

涙争う声（なみだあらそうこえ）

→雁鳴く（かりなく）

なみたあらそふーさをしかのこゑ
つきにいまーさそはれわたるーかりなきて

【明応年間百韻２２巻】／何人［としにありて］／明応 9(1500) 年 7 月 7 日

なみたあらそふーむしのこゑこゑ
こはきはらーうつろふゆふへーかりなきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

塒の春の鳥の声（ねぐらのはるのとりのね）

→静か（しずか）

しはしねくらのーはるのとりのね
しつかなるーあしたのほとはーおそきひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

たけをねくらのーはるのとりのね
しつかなるーかきほやのへにーつつくらむ

【平松文庫本千句】／□□［おちはして］／

初雁の声（はつかりのこえ）

→海人小舟（あまおぶね）

たたひとつらのーはつかりのこゑ
ゆふくれはーつりにといつるーあまをふね

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

あけゆくくももーはつかりのこゑ
なかめやるーうみへしつけきーあまをふね

【弘治年間百韻８巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

蜩の声（ひぐらしのこえ）

→山の陰（やまのかげ）

うちおとろけるーひくらしのこゑ
あきにさへーなりぬとおくるーやまのかけ

【伊庭千句】／御何［うくひすや］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

つゆにしをるるーひくらしのこゑ
むらさめやーすくるまもなきーやまのかけ

【天正四年万句７０巻】／□何［□□□□□］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→夕月夜（ゆうづくよ）

はやしらつゆにーひくらしのこゑ
ゆふつくよーあきかせふかぬーやまもなし

【永原千句】／何色［うつろはぬ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

ややものさひしーひくらしのこゑ
やまのはにーまたかけうすきーゆふつくよ

【東山千句】／何色［しかのねは］／永正15(1518)年8月10日〜12日

ほととぎすのひとこえ
時鳥の一声

→春の鶯（はるのうぐいす）

かへるさをーいまひとこゑのーほとときす
なこりやをしむーはるのうくひす

【皇学館文庫本千句】／□□［はなにいそき］／永禄6(1563)年11月18日以前

ほとときすーひとこゑをさへーまたせきて
ももさへつりはーはるのうくひす

【永禄年間百韻２８巻】／何垣［ねにかへる］／永禄4(1561)年3月22日

まつかぜのこえ
松風の声

→月を見る（つきをみる）

しつこころなきーまつかせのこゑ
つゆふかきーこはきかうへのーつきをみて

【文安月千句】／何船［つきはなを］／文安2(1445)年8月15日

またおとろくやーまつかせのこゑ
ふくるよのーねやにもりくるーつきをみて

【文明年間百韻３４巻】／□□［はたはりや］／文明14(1482)年9月

→花散る（はなちる）

さひしきやまのーまつかせのこゑ
みはやすをーまちあへぬまのーはなちりて

【天文年間百韻３８巻】／何木［あすのなを］／天文17(1548)年8月14日

よにとほやまのーまつかせのこゑ
たつねこしーひともあとなくーはなちりて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正6(1509)年以前

まつむしのこえ
松虫の声

→嵐の山（あらしのやま）

あきといふあきはーまつむしのこゑ
たへてやはーあらしのやまのーつきのもと

【永正年間百韻３４巻】／述懐［なけくかな］／永正8(1511)年1月21日

したくさかるるーまつむしのこゑ
なにしおふーあらしのやまのーくれわたり

【文安頃千句４巻】／朝何［すゑとほき］／

→月の夜（つきのよ）

なれもたれをかーまつむしのこゑ
ふたりみしーかけもわすれぬーつきのよに

【文明十四年万句５２巻】／一字露顕［ちあきふる］／文明14(1482)年7月4日〜9月14日

えらひかねたるーまつむしのこゑ
いつよりもーひかりさやけきーつきのよに

【天正四年万句７０巻】／何船［そらにまつ］／天正4(1576)年5月6日〜7月19日

→なる

いかなるときをーまつむしのこゑ
ちきりしもーいまやかれのとーなりぬらむ

【聖廟千句】／山何［ぬるとりの］／明応3(1494)年2月10日〜12日

はしゐになるるーまつむしのこゑ
うらかれのーのはらやさむくーなりぬらむ

【天正四年万句７０巻】／二字返音［かせやいろ］／天正4(1576)年5月6日〜7月19日

→群薄（むらすすき）

なほふるさとのーまつむしのこゑ
さらてたにーたとりしみちのーむらすすき

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

いろいろなれやーまつむしのこゑ
いつしかにーしけきそとものーむらすすき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永8(1631)年1月3日

むしのこえ
虫の声

→秋更ける（あきふける）

むしのこゑーのこるまかきのーはなおちて
こすゑうつろひーあきはふけけり

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

たつねても－あかすよほそき－むしのこゑ
あさなあさなに－あきはふけけり

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路［しろたへの］／成立時不詳

→露が乱れる

むしのこゑ－きけはいまはた－をりはへて
ゆふくれふかき－つゆそみたるる

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 12 月 23 日

みちのへに－なきよわりたる－むしのこゑ
ゆけはもすそに－つゆそみたるる

【文明十四年万句５２巻】／錦何［つきひとつ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→一群薄

かれのにも－なほかけたのむ－むしのこゑ
ひとむらすすき－ちりなつくしそ

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

わひしきは－かれのこりたる－むしのこゑ
ひとむらすすき－うちなひくかけ

【五吟一日千句】／何路［いそのなみ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

虫の声々

→小萩原

なみたあらそふ－むしのこゑこゑ
こはきはら－うつろふゆふへ－かりなきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

あきのゆふへの－むしのこゑこゑ
あかすしも－なかむるはなの－こはきはら

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

→吹く風

つゆもあたなる－むしのこゑこゑ
かりまくら－よさむのつきを－ふくかせに

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

あきはすゑのの－むしのこゑこゑ
しもかれの－をはなくすはな－ふくかせに

【宗碩関係２種】／宗碩百句／太田本／

こえる

岩越す浪

→滝落ちる

いはこすなみは－まつのあらしか
ちるをみる－やまにははなの－たきおちて

【菟玖波集／広島大学本】／春下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

いはこすなみは－かはかせそふく
あらいその－うへなるやまに－たきおちて

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

宇津の山越え

→秋の風

つきにもまよふ－うつのやまこえ
しもはらふ－みちのゆくての－あきのかせ

【延徳年間百韻１６巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳 4(1492) 年 3 月 3 日

あはれはおなし－うつのやまこえ
ふるさとの－ゆふへなりけり－あきのかせ

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

越える逢坂の関

→木隠れる

いつこえつらむ－あふさかのせき
しけくなる－なけきにわかみ－こかくれて

【住吉千句】／何木［つきはふゆ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

けふこえそむるーあふさかのせき
すきのはにーいりひのかけのーこかくれて

【文明十四年万句５２巻】／何船［みつとりか］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

越える逢坂の山（こえるおうさかのやま）

→都の春霞（みやこのはるがすみ）

こゆるそつらきーあふさかのやま
へたつなよーかへりみやこのーはるかすみ

【文安雪千句】／何路［なほつもれ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

こゆるなこりやーあふさかのやま
みやこよりーあらたまりゆくーはるかすみ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

年越える（としこえる）

→霞む曙（かすむあけぼの）

きのふよりーかせさへよわるーとしこえて
いりあひのかねのーかすむあけほの

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

たかさともーけふあらたまるーとしこえて
やまのあさまのーかすむあけほの

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

水越える（みずこえる）

→浪の浮橋（なみのうきはし）

のをめくるーよとのかはきしーみつこえて
うへにゆきふるーなみのうきはし

【紫野千句】／何物［したくさの］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

さみたれにーさはへのなかれーみつこえて
ふめはあやふきーなみのうきはし

【因幡千句】／山何［ふるゆきは］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

峰越える（みねこえる）

→春の雁（はるのかりがね）

くもにけふーはなちりはつるーみねこえて
きけはいまはのーはるのかりかね

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

ゆきおくれーひとりかすみのーみねこえて
よはあけかたのーはるのかりかね

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

こおり

氷初める（こおりそめる）

→霜ふる（しもふる）

あらしよりまつーこほりそめけり
ころもてにーしみつくはかりーしもふりて

【天文廿四年梅千句】／山何［うちなひき］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いはねやたよりーこほりそめけり
うちわたすーまへのたなはしーしもふりて

【明応年間百韻２２巻】／何人［くもはれて］／明応 5(1496) 年 8 月 22 日

袖の氷（そでのこおり）

→知らない（しらない）

そてのこほりはーわれそくるしき
よかれしやーわふるまくらもーしらさらむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［たちはなに］／永正 18(1521) 年 5 月 7 日

そてのこほりはーいつとけてまし
ものおもふーこころやはるもーしらさらむ

【天正年間百韻５７巻】／何船［なひきそはむ］／天正 10(1582) 年 1 月 5 日

月が氷る（つきがこおる）

→虫の音（むしのね）

ちはらかつゆのーつきそこほるる
むしのねをーたもとにかくるーよはふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

みなからつゆの－つきそこほるる
むしのねを－まそてにえらふ－よはふけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

→夜が更ける

ちはらかつゆの－つきそこほるる
むしのねを－たもとにかくる－よはふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10〜12 日

みなからつゆの－つきそこほるる
むしのねを－まそてにえらふ－よはふけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

こがらし

木枯しの風

→笛の音

ふきもたゆまぬ－こからしのかせ
ふえのねは－さそはれかへる－をちこちに

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

ろうにふきいる－こからしのかせ
ふえのねは－ととめもあへぬ－をくるまに

【天文年間百韻３８巻】／何人［ゆふかけて］／天文 11(1542) 年 5 月 7 日

→山の秋暮れる

ひとりさひしき－こからしのかせ
よにとほく－こもるみやまの－あきくれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

いととはけしき－こからしのかせ
しをれゆく－ふかくさやまに－あきくれて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

こころ

同じ心

→よしや

おなしこころに－たのむはかなさ
よしやとて－またすはひとの－とひやせむ

【基佐集／静嘉堂文庫本】／恋／永正 6(1509) 年以前

おなしこころに－おもはぬそうき
よしやとて－うらみすつれは－ゆふまくれ

【基佐集／静嘉堂文庫本】／恋／永正 6(1509) 年以前

愚かな心

→思い初める

おろかなる－こころのすゑも－いかにせむ
おもはぬものを－おもひそめつつ

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

おろかなる－こころよりこそ－まよひつれ
つれなきひとを－おもひそめつつ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬〜翌年の春

変わる世の中

→夏衣

ひとのこころの－かはるよのなか
なつころも－はるのはなそめ－ぬきすてて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

さめてむちうに－かはるよのなか
なつころも－ついたちきたる－よはあけて

【新続犬筑波集】／夏／万治 3(1660) 年正月

心争う歌

→鶯の声々

こころあらそふ－うたのくちくち
はるされは－うくひすかはつ－こゑこゑに

【初瀬千句】／何衣［しけるとも］／享徳元・2(1452) 年、4 月

こころあらそふーうたのかちまけ
こゑこゑにーなくうくひすをーこにいれて

【文明十四年万句５２巻】／栗何［あけてみむ］／文明 14(1482) 年７月４日～9 月 14 日

心浮かれる（こころうかれる）

→帰る（かえる）

こころうかるるーゆきのあけほの
わかれつるーひとはいつくにーかへるらむ

【文明十四年万句５２巻】／扇何［かせのほり］／文明 14(1482) 年７月４日～9 月 14 日

ゆめのあとにそーこころうかるる
よひのまのーひとやあたねにーかへるらむ

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

心恨めしい（こころうらめしい）

→連れなく見る（つれなくみる）

おもひたえよのーこころうらめし
つれなくはーみえぬものからーとにかくに

【老葉／毛利本】／恋下／（文明 17(1485) 年７月 23 日頃）

ひるますくせのーこころうらめし
つれなくはーたれあさかほのーはなもみむ

【園塵第四／早稲田大学本】／秋／永正６、７年

心が窓の内（こころがまどのうち）

→灯の影（ともしびのかげ）

しつかなれーこころをしむるーまとのうち
かせふくよるのーともしひのかけ

【寛正年間百韻２０巻】／何人［ひはなかく］／寛正 3(1462) 年１月 25 日

いつおもひーたえむこころそーまとのうち
かかけてはまつーともしひのかけ

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

心尽くし（こころづくし）

→浪の音（なみのおと）

こころつくしのーふなていそくな
なみのおとーとまやにちかきーまくらして

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

こころつくしのーおきつふなひと
なみのおとーつきにあれゆくーあきはきて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

心である（こころである）

→知らない（しらない）

ひとさわかすもーこころなりけり
しらさらむーことをはいかてーかこつらむ

【太神宮法楽千句】／何木［いつそめし］／長享 2(1488) 年７月

たのむはかなきーこころなりけり
さけはちるーはなとはたれかーしらさらむ

【東山千句】／何路［のわきせし］／永正 15(1518) 年８月 10 日～12 日

心ではない（こころではない）

→長らえる（ながらえる）

こころともなきーおいのうたたね
うくつらきーよにつれなくもーながらへて

【永原千句】／何船［はるのそらは］／明応 9(1500) 年７月 17 日

みはなともとのーこころともなき
ながらへてーすむよのなかはーかはらぬに

【文明年間百韻３４巻】／何船［そめよなほ］／文明 14(1482) 年９月 20 日

心長く待て（こころながくまて）

→綱引く渡し舟（つなひくわたしぶね）

こころなかくもーわれにまてとや
わたしふねーむかひにつなをーひきすてて

【新撰菟玖波集／実隆本】／羇旅下／明応 4(1495) 年９月 26 日

こころなかくもーひとをこそまて
くるるまてーつなひきはふるーわたしふね

【北畠家連歌合／書陵部本】／北畠家連歌合／文明 2(1470) 年正月 6 日

心にて（こころにて）

→霞む朝露（かすみあさつゆ）

かへるへきーみやこのはるをーこころにて
かりのなみたやーかすむあさつゆ

【天正四年万句７０巻】／竹何［うつらなく］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7月 19 日

はかなきはーひとよをちきるーこころにて
すみれさくのにーかすむあさつゆ

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

心を尽す雨の夜（こころをつくすあめのよる）

→身が老いた時鳥（みがおいたほととぎす）

ねられぬこころーつくすあめのよ
まつうちにーみもおいぬへきーほとときす

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

まつにこころをーつくすあめのよ
つれなきにーみもおいぬへきーほとときす

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

人の心（ひとのこころ）

→涙落ちる（なみだおちる）

たひのやとーかすはまれなるーひとこころ
なさけのなきにーなみたおちけり

【文明十四年万句５２巻】／手何［はふったに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

たまさかにーちきりおきつるーひとこころ
かたみのふみにーなみたおちけり

【文明十四年万句５２巻】／何水［たまやとる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→傷い（はかない）

ひとのこころのーあやしうつしゑ
はかなくもーすきにしとものーおもはれて

【天正年間百韻５７巻】／何木［けふかへよ］／天正 9(1581) 年 4 月 1 日

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなくもーおとろふるをはーともにせて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心が変わる（ひとのこころがかわる）

→海山（うみやま）

ひとのこころのーかはりやすさよ
うみやまのーつきみてあかすーすまのうら

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきのはな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひとのこころのーかはるよのなか
うみやまのーなあるところもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心の変わる世の中（ひとのこころのかわるよのなか）

→秋の暮れ（あきのくれ）

ひとのこころのーかはるよのなか
やまさとをーうかれいてめやーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
いまをなほーとへやよしののーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→秋が来る（あきがくる）

ひとのこころのーかはるよのなか
うつせみのーはやまおろしにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
しるしらぬーひとつなみたにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→哀れ（あわれ）

ひとのこころの－かはるよのなか
よもきふを－かれぬあるしは－あはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
なきあとは－にくかりしたに－あはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→色見える（いろみえる）

ひとのこころの－かはるよのなか
まちをしむ－はなにほとなき－いろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
たけはその－こをおもふとも－いろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→憂い身の時（ういみのとき）

ひとのこころの－かはるよのなか
うきみさへ－ときにやあふと－はるたちて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
うきみさへ－いまはのときや－をしからむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→衰える（おとろえる）

ひとのこころの－かはるよのなか
そのいへは－のこれとみちの－おとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
あかむれは－かみのしるしは－おとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→袖濡れる（そでぬれる）

ひとのこころの－かはるよのなか
ききわひぬ－しくれこのはに－そてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
おいかみは－わかなつむにも－そてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→旅（たび）

ひとのこころの－かはるよのなか
うきにあひ－なさけをみるも－たひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
うみやまの－なあるところも－たひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→契り（ちぎり）

ひとのこころの－かはるよのなか
なへてうき－あきなとほしの－ちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
むかしたれ－はなよりまつを－ちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→月を見る（つきをみる）

ひとのこころの－かはるよのなか
よつのとき－いつれまさると－つきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
すさましと－いひししはすの－つきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→とりどり

ひとのこころの－かはるよのなか
さむきひは－みつにいるてふ－とりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
すてかたき－わかふたみちの－とりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→儚い羽根を並べる鳥部山

ひとのこころの－かはるよのなか
はかなしや－はねをならへし－とりへやま

【菫草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年
2 月以前

ひとのこころの－かはるよのなか
はかなしや－はをもならへし－とりへやま

【老葉／書陵部宗訊筆本】／旅／

→花咲く

ひとのこころの－かはるよのなか
のへをわけ－やまちをたとる－はなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
みやまきを－かたはらになす－はなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→花もない

ひとのこころの－かはるよのなか
うれへある－みはなかめつる－はなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
うたのみち－まことをうるは－はなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→羽根を並べる鳥部山

ひとのこころの－かはるよのなか
とりへやま－はねをならへし－すゑたえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
はかなしや－はねをならへし－とりへやま

【菫草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年
2 月以前

→一つ

ひとのこころの－かはるよのなか
つきはたた－みやもわらやも－ひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
こをおもふ－みちのみたれも－ひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→時鳥

ひとのこころの－かはるよのなか
ほとときす－はななきころを－なくさめて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
またしよも－なきかやまちの－ほとときす

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
ほとときす－かへるやまちは－ともならて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知らない

ひとのこころの－かはるよのなか
うれしさも－うきもゆめなる－みをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
ときをえは－なほおそるへき－みをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知る

ひとのこころの－かはるよのなか
みをしれは－われとさためむ－やともなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
みをしれは－いはむうらみも－なきものを

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→我が上

ひとのこころの－かはるよのなか
わかうへに－おもはてたれを－そしるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
わかうへに－ほしのひとよの－あきもかな

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心の世の中

→花を恨む

ひとのこころの－あたしよのなか
はなをたれ－うつろふものと－うらむらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

ひとのこころの－かはるよのなか
なつやまと－みなすをはなや－うらむらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

こし

越の白雪

→帰る雁

はるふかきまて－こしのしらゆき
ありあけの－つきもなこりと－かへるかり

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

きゆるひもなき－こしのしらゆき
かへるかり－いつかたこえて－またはこむ

【享禄年間百韻８巻】／白何［あさみとり］／享禄 3(1530) 年 3 月 2 日

こずえ

梢の秋

→鹿の声

こすゑのあきの－をちのひとむら
しかのこゑ－きりのいつくに－かへるらむ

【大永年間百韻１４巻】／山何［いやましに］／大永 5(1525) 年 1 月 17 日

こすゑのあきの－かけあさきみち
なれきつる－さととほくなる－しかのこゑ

【弘治年間百韻８巻】／何路［ゆくみつや］／弘治 2(1556) 年 3 月 24 日

花の梢に現れる

→古寺の道

くもまより－はなのこすゑの－あらはれて
まつにふちさく－ふるてらのみち

【永禄年間百韻２８巻】／何路［きえしその］／永禄 7(1564) 年 1 月 22 日

すきむらの－こすゑははなに－あらはれて
おくにそつつく－ふるてらのみち

【天正年間百韻５７巻】／□□［ことのはも］／天正 13(1585) 年 1 月 4 日

こたえる

答えようか

→言の葉にする

やまさとの－うきをとへかし－こたへまし
まつかせをわか－ことのはにせむ

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

なにゆゑと－とはれはいかか－こたへまし
ぬるるそてをや－ことのはにせむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

こちょう

胡蝶(こちょう)という

→露(つゆ)の草群(くさむら)

こてふとふーのはわけすてむーみちならて
あまそそきせしーつゆのくさむら

【天正年間百韻５７巻】／□□〔ひきのこせ〕／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

こてふとふーまかきののへのーくれわたり
おきそふままのーつゆのくさむら

【慶長年間百韻２７巻】／□□〔あらしにも〕／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

胡蝶(こちょう)の喩(たとえ)え

→百年(ももとせ)

こてふのたとへーけにもあたしみ
ももとせもーすくれはかりのーいのちにて

【看聞日記紙背５０巻】／何路〔うのはなの〕／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

こてふのたとへーけにもあたしみ
ももとせもーちかつくよはひーおもはす□

【看聞日記紙背５０巻】／何船〔ゆきにみて〕／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

こと

飽(あき)きない琴(こと)の音(ね)

→松風(まつかぜ)の月(つき)

なほゆふかけにーあかぬことのね
まつかせのーさそははつきはーおそからし

【秋津洲千句】／何路〔まつなくを〕／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

あまたのうちにーあかぬことのね
まつかせのーふきすさひたるーよはのつき

【文禄年間百韻１２巻】／□□〔はなのいろや〕／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

ことのは

思(おも)う人(ひと)の言(こと)の葉(のは)

→我(われ)のみ一人(ひとり)袖(そで)を濡(をぬ)らす

おもふてふーひとのことのはーたのみなや
われのみひとりーそてはぬらしつ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

おもふてふーひとのことはのーことならは
われのみひとりーそてはぬらさし

【菟玖波集／広島大学本】／恋下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

交(かわ)わす言(こと)の葉(のは)

→時鳥(ほととぎす)

きくやいかにとーかはすことのは
しるしらすーかりねのやまのーほとときす

【新撰菟玖波集／実隆本】／夏／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

ことわりなれやーかはすことのは
うくひすにーしたしきこゑのーほとときす

【園塵第四／早稲田大学本】／夏／永正 6、7 年

君(きみ)の言(こと)の葉(のは)

→偽(いつわ)り

しらぬなかれのーきみかことのは
いつはりのーなきはなみたにーあらはれて

【享徳二年千句】／何玉〔くらからぬ〕／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

みになほたのめーきみかことのは
いつはりのーすゑをはかなきーいのちにて

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋上／文明 8(1476) 年 5 月頃

言(こと)の葉(のは)がない

→霞(かすむ)む玉津島(たまつしま)

はるをうれしとーことのはそなき
たまつしまーかすみやそてにーつつむらむ

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

のこしおくへきーことのはそなき
あけほのや―かすむしほひのーたまつしま

【萱草／伊地知本】／春／文明 6(1474) 年 2 月以前

法の言の葉（のりのことのは）

→駒止める（こまとめる）

たまたまあへるーのりのことのは
こまとめてーおなしやとかれーたひのとも

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

みみにもふれよーのりのことのは
わたりえぬーこたかかりはにーこまとめて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／秋／永正 6(1509) 年以前

大和言の葉（やまとことのは）

→唐土（もろこし）

みちこそたかきーやまとことのは
もろこしの―ふみをよろつのーうへにみて

【延徳年間百韻１６巻】／何船［さよかせも］／延徳 2(1490) 年 7 月 23 日

いのらはいたれーやまとことのは
もろこしのーたひのひとまつーあさゆふに

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

こぼれる

零れる竹の葉の露（こぼれるたけのはのつゆ）

→片敷の枕（かたしきのまくら）

こほれてつたふーたけのはのつゆ
かたしきのーまくらのうへのーあきのかせ

【弘治三年春雪千句】／何舟［きえてたに］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

こほれきにけりーたけのはのつゆ
かたしきのーそてもまくらもーひややかに

【元和年間百韻２４巻】／□□［くにくにの］／元和 6(1620) 年 9 月 15 日

露の月が零れる（つゆのつきがこぼれる）

→虫の音に夜が更ける（むしのねによがふける）

ちはらかつゆのーつきそこほるる
むしのねをーたもとにかくるーよはふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

みなからつゆのーつきそこほるる
むしのねをーまそてにえらふーよはふけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

こま

帰りに駒祝う声（かえりにこまいわうこえ）

→都人（みやこびと）

ひくれてかへるーこまいはふこゑ
あふさかをーつきもこゆるやーみやこひと

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

たかかへるさそーこまいはふこゑ
みやこひとーうちむれけふのーせきむかへ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

こめる

霞こめる（かすみこめる）

→覚束ない（おぼつかない）

やまちゆくゆくーかすみこめたり
おほつかなーくれぬるかたのーよふことり

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

はなにさくらも―かすみこめたり
よふことりーしるへはせしもーおほつかな

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

→呼子鳥（よぶこどり）

やまちゆくゆくーかすみこめたり
おほつかな―くれぬるかたのーよふことり

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

はなにさくらも－かすみこめたり
よふことり－しるへはせしも－おほつかな

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

霞にこもる（かすみにこもる）

→鶯（うぐいす）

かすみにこもる－さとはふりにき
うくひすの－つまとふのへの－ゆきのうち

【文安月千句】／何田［ほしのなも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

かすみにこもる－かけのふるてら
うくひすの－のきはにきゐる－こゑすなり

【成立不詳・宗養以前８巻】／山何［かせやしる］／成立時不詳

→鐘の音（かねのおと）

かすみにこもる－てらのさしいり
はるもたた－けふにくれぬる－かねのおと

【天正年間百韻５７巻】／□□［けふひくや］／天正 12(1584) 年 1 月 10 日

かすみにこもる－みねのまつかせ
かねのおと－ほのかにはるの－ひはおちて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ひめおきし］／慶長 4(1599) 年 3 月 25 日

→春の雨（はるのあめ）

かすみにこもる－みきりさひしも
やまちかき－しつくにのこる－はるのあめ

【天正年間百韻５７巻】／□□［すたれまけ］／天正 15(1587) 年 1 月 10 日

かすみにこもる－おくのふるてら
つねよりも－ともしひしめる－はるのあめ

【元和年間百韻２４巻】／□□［ちちのはるを］／裏白／元和 4(1618) 年 1 月 3 日

こもる

憂い冬籠り（ういふゆごもり）

→朝な朝な（あさなあさな）

うきふゆこもり－いつかかるらむ
しつかなる－なにはのうみの－あさなあさな

【伊勢千句】／山何［みるめかれ］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

うきふゆこもり－なといそくらむ
ふくかせも－またさむからぬ－あさなあさな

【天正四年万句７０巻】／何物［きくやいかに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

冬籠もる頃（ふゆこもるころ）

→梅が春待つ（うめがはるまつ）

ゆきよりさきと－ふゆこもるころ
はなにかつ－つほめるうめの－はるまちて

【住吉千句】／白何［あられのみ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

かせもあたらす－ふゆこもるころ
かめにさす－はなのうめかえ－はるまちて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何袋［またしかし］／成立時不詳

ころ

色変わる頃（いろかわるころ）

→花咲く（はなさく）

みとりなるのも－いろかはるころ
さはみつに－くさのむらむら－はなさきて

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

このもとまても－いろかはるころ
ひとしれぬ－こくさあはれに－はなさきて

【明応年間百韻２２巻】／何路［うつろはて］／明応 3(1494) 年 10 月 30 日

桜咲く頃（さくらさくころ）

→霞む（かすむ）

をちこちかけて－さくらさくころ
もろこしの－よしのもはるや－かすむらむ

【皇学館文庫本千句】／□□［いろみえて］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

よはみなそらを－さくらさくころ
あさなあさな－うすくもるひや－かすむらむ

【永正年間百韻３４巻】／何船［かへるかり］／永正 16(1519) 年 2 月 19 日

五月雨の頃（さみだれのころ）

→田に植えやらない（たにうえやらない）

なにはわたりの－さみたれのころ
ひとかたは－ひろきたのもを－うゑやらて

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

みきはまされる－さみたれのころ
すゑとほき－さとのふかたは－うゑやらて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ゆきとけて］／裏白／寛永 3(1626) 年 1 月 3 日

→時鳥（ほととぎす）

おほゐもわかぬ－さみたれのころ
ほとときす－おとはのみねを－こえすてて

【浅間千句】／何人［すすしさを］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

うらのとまやの－さみたれのころ
ほとときす－おのかなのりそ－かすかにて

【宗長追善千句】／何色［うくひすの］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

ふるきのきはの－さみたれのころ
ほとときす－わすれはくさの－なもつらし

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

→寝覚めの時鳥（ねざめのほととぎす）

いもせのかはの－さみたれのころ
ねさめして－われもたひよそ－ほとときす

【文明十四年万句５２巻】／何人［よにひろく］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

つれつれのみの－さみたれのころ
ねさめして－きくはむかしの－ほとときす

【天正四年万句７０巻】／何風［ふちなみに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

篠にふる頃（しのにふるころ）

→衣が干難い（ころもがひがたい）

あしやのゆきの－しのにふるころ
たくひにも－わかころもては－ひかたくて

【文安雪千句】／何田［あとそある］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ひとむらしくれ－しのにふるころ
おりかくる－くものころもは－ひかたくて

【初瀬千句】／何水［うのはなの］／享徳元・2(1452) 年、4 月

冬籠もる頃（ふゆこもるころ）

→梅が春待つ（うめがはるまつ）

ゆきよりさきと－ふゆこもるころ
はなにかつ－つほめるうめの－はるまちて

【住吉千句】／白何［あられのみ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

かせもあたらす－ふゆこもるころ
かめにさす－はなのうめかえ－はるまちて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何袋［またしかし］／成立時不詳

物思う頃（ものおもうころ）

→如何なる（いかなる）

こころくたけて－ものおもふころ
ひとはうし－ゆきてとはむも－いかならむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つゆのみたれに－ものおもふころ
よしやとの－ゆふへよあきよ－いかならむ

【永正年間百韻３４巻】／何人［みちしあれや］／永正 2(1505) 年 1 月 1 日

→誰が憂い（だれがうい）

つゆもわかみの－ものおもふころ
あちきなや－たれゆゑそらも－うかるらむ

【太神宮法楽千句】／白何［つゆなから］／長享 2(1488) 年 7 月

なみたすすろにーものおもふころ
ちきらすよーたれにゆふへのーうかるらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋上／文明 8(1476) 年 5 月頃

ころも

麻衣打つ（あさごろもうつ）

→人は訪い来ない（ひとはといこない）

うらみをもーうちそへかましーあさころも
あさましきまてーひとはとひこす

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／山何［めつらしき］／成立時不詳

あさころもーうつなるこゑのーふくるよに
かはるこころかーひとはとひこす

【文明十四年万句５２巻】／何緑［あさかはや］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

麻の狭衣（あさのさごろも）

→山賤（やまがつ）

たけのはわくるーあさのさころも
やまかつのーつまきのはやしーふゆかれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

うつつちたかきーあさのさころも
やまかつのーそはのふるみちーあとみえて

【論書４種】／宗牧／

唐衣（からごろも）

→袖の移り香（そでのうつりが）

かさねてもーむなしきひとのーからころも
わすれむものかーそてのうつりか

【天正年間百韻５７巻】／何船［みちみちを］／天正 13(1585) 年 5 月 27 日

けふこそとーかへてうれしきーからころも
わかはのはなのーそてのうつりか

【天正四年万句７０巻】／二字返音［かせやいろ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

→夜が更ける（よがふける）

かすかのやーそのかみひとのーからころも
さかきはうたふーよはふけにけり

【紫野千句】／片何［かせかとよ］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

からころもーたちわかれにしーつきのもと
しみつにあきのーよはふけにけり

【天文年間百韻３８巻】／山何［のきにおふる］／天文 19(1550) 年 4 月 24 日

→秋の蓬生の里（あきのよもぎうのさと）

からころもーそてとふつきのー□□□□□
あきはたさひしーよもきふのやと

【文安年間百韻９巻】／山何［あきのいろ］／文安 4(1447) 年 9 月 6 日

わかなみたーいくへのいろをーからころも
あきはむしなくーよもきふのやと

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みったまり］／成立時不詳

墨の衣手（すみのころもで）

→形見（かたみ）

こごろをそめよーすみのころもて
そのままのーふてのあとこそーかたみなれ

【文和千句】／何物［さみたれは］／文和 5 年

やつれいとはしーすみのころもて
わかれてのーなみたたにこそーかたみなれ

【弘治年間百韻８巻】／何人［ときはなる］／弘治 3(1557) 年 8 月 28 日

たつ日の夏衣（たつひのなつごろも）

→山時鳥（やまほとときす）

つゆそおくーたちていくかのーなつころも
たひにはつれよーやまほとときす

【池田千句】／何路［はなはしるや］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

なつころもーたちかふるひかすーほともなし
うへなくときかーやまほとときす

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

旅衣（たびごろも）

→野は遥か（のははるか）

たひころも－たちやすらはむ－かけもなし
のるこまなつむ－のははるかなり

【天文年間百韻３８巻】／何路［ひとこゑや］／天文 14(1545) 年 5 月 8 日

たひころも－ひもなかあめの－そほふりて
かすみわけこし－のははるかなり

【天和年間百韻２巻】／□□［おいかみに］／天和 2(1682) 年 4 月 3 日

旅の衣手（たびのころもで）

→里もない（さともない）

しくれそぬるる－たひのころもて
めにかけて－いそくこかくれ－さともなし

【聖廟千句】／山何［ぬるとりの］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

つゆけささそな－たひのころもて
やとるへき－のはくれそめて－さともなし

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

ごと

今日毎（きょうごと）

→入相の鐘（いりあいのかね）

けふことの－ゆふへやはるを－さそふらむ
さとつつきなる－いりあひのかね

【紫野千句】／何人［しけるきの］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

けふことの－しくれやあきを－おくるらむ
みにしむころの－いりあひのかね

【永正十花千句】／何袋［つきをゆき］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

花の春毎（はなのはるごと）

→鶯の声（うくいすのこえ）

うゑおきて－またるるはなの－はることに
わかやととはぬ－うくひすのこゑ

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

ほともなく－うつろふはなの－はることに
みをあくからす－うくひすのこゑ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

物毎（ものごと）

→春秋の空（はるあきのそら）

ものことに－こころのとまる－としたけて
ゆくすゑいかに－はるあきのそら

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

ものことに－みやこをこふる－かたゐなか
おくるもつらし－はるあきのそら

【文明年間百韻３４巻】／□□［ゆきのかけ］／文明 5(1473) 年 12 月 5 日

さえずる

鳥が囀る（とりがさえずる）

→返し置く（かえしおく）

いまをはるとや－とりのさへつる
かへしおく－なはしろをたに－ひとはなし

【文明十四年万句５２巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

とりのさへつる－のへのあさあけ
かへしおく－たつらにたみの－かけもなし

【文明十四年万句５２巻】／玉何［ゆきならは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

鳥の囀り（とりのさえずり）

→霞（かすみ）

ふるすわかなく－とりのさへつり
かすみこそ－きみかめくみの－そらならめ

【天文十八年梅千句】／何袋［かそうめを］／天文 18(1549) 年正月 11 日

あつまりきぬるーとりのさへつり
かすみこそーひろきめくりのーまかきなれ

【天正年間百韻５７巻】／□□［いるそてに］／天正 18(1590) 年 1 月 7 日

→谷の戸の鶯（たにのとのうぐいす）

ふるすなからやーとりのさへつり
うくひすのーくるとしつくるーたにのとに

【寛文年間百韻２２巻】／□□［しらきくの］／寛文 11(1671) 年 9 月 29 日

はるのしるへのーとりのさへつり
たにのとにーのこるうくひすーなつかけて

【天正四年万句７０巻】／何帋［いろそふや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→日の影（ひのかげ）

こゑつむけなるーとりのさへつり
ひのかけのーめくるもうときーたにかくれ

【元和年間百韻２４巻】／□□［あさなあさな］／元和 8(1622) 年 2 月 29 日

きくもたへなるーとりのさへつり
ひのかけのーうつるかきほはーうららかに

【寛永年間百韻１５巻】／□□［あさひかけ］／裏白／寛永 11(1634) 年 1 月 3 日

さえる

月冴える（つきさえる）

→千鳥鳴く声（ちどりなくこえ）

おほそらにーこよひみちたるーつきさえて
ゆふしほさひしーちとりなくこゑ

【出陣千句】／薄何［ちきりきや］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

かはみつのーともにこほれるーつきさえて
よふねにきくはーちとりなくこゑ

【至徳以前百韻７巻】／何木［かみかきの］／至徳 4(1387) 年以前

さかずき

夜汲む杯（よるくむさかずき）

→月の下（つきのもと）

よさむわすれてーくめるさかつき
もろともにーなかめあかせるーつきのもと

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

よるはすからにーくめるさかつき
あくるをもーしらてともなふーつきのもと

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］／

さかり

花盛り（はなざかり）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

うちむれてーひとのなかむるーはなさかり
いつくのさとそーうくひすのこゑ

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

おくやまとーいへともあらぬーはなさかり
ひとにけちかきーうくひすのこゑ

【文亀年間百韻４巻】／千何［うつろはぬ］／文亀 3(1503) 年 7 月 25 日

をしめともーさきみたれたるーはなさかり
こすゑにたかきーうくひすのこゑ

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→掛かる藤浪（かかるふじなみ）

さきそひてーまつこそみえねーはなさかり
よそのこすゑにーかかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

たておくもーううるもにはのーはなさかり
いはかきつつきーかかるふちなみ

【永禄年間百韻２８巻】／何路［のこりなく］／永禄 3(1560) 年 11 月 10 日

→春の杉群（はるのすぎむら）

くももきをーうつむはかりのーはなさかり
せきのとあくるーはるのすきむら

【弘治三年春雪千句】／初何［けさみれは］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

いはかねのーこけにこたかきーはなさかり
かたはらさひしーはるのすきむら

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

さく

梅咲く（うめさく）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

いつはともーわかきにまちしーうめさきて
ほのかにきぬるーうくひすのこゑ

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

わかなつむーのをなつかしみーうめさきて
ふりにしあとにーうくひすのこゑ

【成立不詳・宗養以前 8 巻】／山何［ひとこゑや］／成立時不詳

咲く春の花（さくはるのはな）

→桜と宿の梅の枝（さくらとやどのうめのえだ）

ちれはさくーちきりもはかなーはるのはな
さくらにかはすーやとのうめかえ

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 5 月 23 日

さくことも－ちらむためかはーはるのはな
さくらほのめくーやとのうめかえ

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

桜咲く（さくらさく）

→春雨の空（はるさめのそら）

さくらさくーこすゑのくもをーふくかせに
ほのくれわたるーはるさめのそら

【成立不詳・宗祇以前 1 5 巻】／何船［きりのはに］／成立時不詳

さくらさくーこのまのゆふひーかすかにて
けふはれけりなーはるさめのそら

【宗長関係 8 種】／老耳／天理本／

桜咲く頃（さくらさくころ）

→霞む（かすむ）

をちこちかけてーさくらさくころ
もろこしのーよしのもはるやーかすむらむ

【皇学館文庫本千句】／□□［いろみえて］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

よはみなそらをーさくらさくころ
あさなあさなーうすくもるひやーかすむらむ

【永正年間百韻 3 4 巻】／何船［かへるかり］／永正 16(1519) 年 2 月 19 日

花咲く（はなさく）

→薄霞（うすがすみ）

やへくもとーみゆるよかはのーはなさきて
うすきがすみはーつきそすみよき

【宝徳年間百韻 3 巻】／以呂波［いをねぬや］／宝徳 3(1451) 年 8 月 15 日

おくやまもーよそめしけきのーはなさきて
うすきかすみはーたつとしもなし

【文明十二年千句 8 巻】／一字露顕［わかはもて］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日〜＊日

→鶯が鳴く（うぐいすがなく）

くれたけの－はやしつつきにーはなさきて
ねくらさためす－うくひすそなく

【延徳年間百韻 1 6 巻】／何路［かすみさへ］／延徳 4(1492) 年 1 月 22 日

はるやまのーみねのいほりにーはなさきて
たにをわかよとーうくひすそなく

【宗砌関係 9 種】／宗砌発句並付句抜書／小松天満宮本／

→松に藤の黄昏（まつにふじのたそがれ）

はなさけはーやまのなかはもーなみこえて
まつのこすゑのーふちのたそかれ

【毛利千句】／一字露顕［なつのひも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

はなさけはーこのまにうときーはるのつき
まつにかかれるーふちのたそかれ

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

さくら

遅桜（おそざくら）

→松の藤浪（まつのふじなみ）

したふとやーさきかへるはなのーおそさくら
なつをかけたるーまつのふちなみ

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

やよやよひーのこるもひさしーおそさくら
はるちよかけよーまつのふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

おそさくらーなほこたかくてーはもあをし
はなまちえたるーまつのふちなみ

【文安年間百韻１巻】／夢想［おそさくら］／文安 2(1445) 年 3 月 18 日

桜咲く（さくらさく）

→春雨の空（はるさめのそら）

さくらさくーこすゑのくもをーふくかせに
ほのくれわたるーはるさめのそら

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きりのはに］／成立時不詳

さくらさくーこのまのゆふひーかすかにて
けふはれけりなーはるさめのそら

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

桜咲く頃（さくらさくころ）

→霞む（かすむ）

をちこちかけてーさくらさくころ
もろこしのーよしのもはるやーかすむらむ

【皇学館文庫本千句】／□□［いろみえて］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

よはみなそらをーさくらさくころ
あさなあさなーうすくもるひやーかすむらむ

【永正年間百韻３４巻】／何船［かへるかり］／永正 16(1519) 年 2 月 19 日

桜散る陰（さくらちるかげ）

→春ながら（はるながら）

なこりもとめすーさくらちるかけ
はるなからーいはなみはやきーよしのかは

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

ひはらさひしくーさくらちるかけ
はるなからーなほふるゆきのーさえさえて

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

桜の上（さくらのうえ）

→鐘鳴る（かねなる）

さくらかうへのーやまのはのつき
はるふかきーふもとのさとにーかねなりて

【三島千句】／初何［うつろふか］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

さくらかうへのーあけほののいろ
かすみよりーよしののみたけーかねなりて

【応仁年間百韻６巻】／何人［つきのあき］／応仁 2(1468) 年 1 月 1 日

桜の葛城の山（さくらのかつらぎのやま）

→朝霞立つ（あさがすみたつ）

おくもさくらのーかつらきのやま
あさかすみーたつたやとほくーへたつらむ

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

さくらさくなるーかつらきのやま
あさかすみーたつたやはなにーなりぬらむ

【園塵第二／続群書類従本】／春／明応 4(1495) 年早春

山桜（やまざくら）

→霞む曙

くもとのみーみゆるやとほきーやまさくら
こすゑひとつにーかすむあけほの

【因幡千句】／何人［みるたひに］／文明7(1475)年11月26日<～28日>

のこるともーのちはあらしのーやまさくら
つきをもをしめーかすむあけほの

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きりのはに］／成立時不詳

→春の松の枝

をりそへてーつまきにましるーやまさくら
みとりたちそふーはるのまつかえ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつころの］／応永32(1425)年10月15日

たかこころーやすらふいそのーやまさくら
をのへしつけきーはるのまつかえ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路［こころあらは］／存疑／成立時不詳

→行く末の春

もみちさへーもろくうつろふーやまさくら
たのむもはかなーゆくすゑのはる

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／文明14(1482)年10月前後

みやまにやーさきもならひしーやまさくら
はなのさかりのーゆくすゑのはる

【永正十花千句】／何路［みやまにや］／永正13(1516)年3月11日～14日

さけぶ

猿叫ぶ声

→秋寒い

つきはさやかにーさるさけふこゑ
あきさむきーいりえのふねにーめはさめて

【美濃千句】／山何［けふみすは］／文明4(1473)年12月16日～21日

やまかけふかくーさるさけふこゑ
あきさむきーみねのしひしはーふきかせに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

さす

月差し出る

→秋風

つきさしいつるーふねのしらなみ
あきかせにーあまのいさりひーよるきえて

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元(1487)年10月9日<～11日>

つきさしいつるーをちかたのやま
あきかせにーしのひゆくよはーやすからて

【延徳年間百韻１６巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳4(1492)年3月3日

さそう

誘う

→心浮かれる

つきそうきーひとをいそくにーさそふらむ
こころうかるるーやまさとのあき

【文明年間百韻３４巻】／何木［きのふより］／文明6(1474)年1月5日

ゆくみつのーみをいつくとかーさそふらむ
こころうかるるーくれことのそら

【延徳年間百韻１６巻】／何人［まつみよと］／延徳4(1492)年2月8日

→道の方々

あらかりしーあめやあくたをーさそふらむ
はらひきよむる―みちのかたかた

【天正年間百韻５７巻】／何木［けふかへよ］／天正9(1581)年4月1日

くさかりやーこころこころにーさそふらむ
かのをかこえのーみちのかたかた

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめさきて］／文禄2(1593)年2月12日

誘われる

→月の行く末

さそはれてーかりかねかへるーあまのはら
かけもはるかにーつきのゆくすゑ

【紹巴亡父追善千句】／玉何［はるよたた］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

うくひすのーこゑにまくらをーさそはれて
かすみにあくるーつきのゆくすゑ

【天正年間百韻５７巻】／□□［すたれまけ］／天正 15(1587) 年 1 月 10 日

→水の浮草（みずのうきくさ）

したはちるーやなきはなみにーさそはれて
たたよひいつるーみつのうきくさ

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

さそはれてーけふやみやこにーいてぬらむ
あやめにましるーみつのうきくさ

【園塵第二／続群書類従本】／夏／明応 4(1495) 年早春

さだめる

方も定めない（かたもさだめない）

→標（しるべ）

ふきかふかせはーかたもさためす
とふほたるーつきなきやみをーしるへにて

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

おくるるふねはーかたもさためす
もしほたくーうらはほかけをーしるへにて

【享徳年間百韻４巻】／何路［さくふちの］／享徳 2(1453) 年 3 月 15 日

定めない（さだめない）

→変わる世の中（かわるよのなか）

さためなきーしくれもをりはーしるものを
ひとのこころのーかはるよのなか

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

さためなきーうきよにけふもーすくしきて
ふちせあすかのーかはるよのなか

【名所句集／静嘉堂文庫本】／恋上／（大永前後）

枕定めない（まくらさだめない）

→月を見る（つきをみる）

まくらさためぬーなつのうたたね
うかれめはーおもはぬかたのーつきをみて

【看聞日記紙背５０巻】／片何［まつはあめ］／応永 32(1425) 年 7 月 25 日

まくらさためぬーあきのさひしさ
うたたねはーつらき□□□□ーつきをみて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何木［ゆくみつの］／成立時不詳

さと

帰る里人（かえるさとびと）

→方（かた）

をのへをとほみーかへるさとひと
かねのこゑーいつくきこえぬーかたならむ

【出陣千句】／初何［けふたつや］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

ふねひきすてて―かへるさとひと
くれそむるーすゑやふしみのーかたならむ

【元和年間百韻２４巻】／□□［えそすきぬ］／元和 8(1622) 年 4 月 13 日

川面の里（かわつらのさと）

→遥か（はるか）

ありともしらぬーかはつらのさと
はるかにも―ふねよはふよの―こたへして

【永正十花千句】／何田［はなにこひ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

きをきるをのーかはつらのさと
はるかにもーおもひわたせるーはしはしら

【紹巴亡父追善千句】／初何［たまたれの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

里の遥かさ（さとのはるかさ）

→小田の原（おだのはら）

やなきかくれのーさとのはるけさ
すゑはなほーかへしのこせるーをたのはら

【天正年間百韻５７巻】／□□［うくひすも］／天正 14(1586) 年 1 月 4 日

かすみわけゆくーさとのはるけさ
すきわたしーかへれはくるるーをたのはら

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

里の一群（さとのひとむら）

→草枕（くさまくら）

とひよるやとのーさとのひとむら
くさまくらーつきをよすかにーこよひねむ

【文明十二年千句８巻】／夢想［うしとしの］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

うちけふりたるーさとのひとむら
くさまくらーたつきもしらすーあくるのに

【文明十四年万句５２巻】／何船［みつとりか］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

里離れた道（さとはなれたみち）

→重なる（かさなる）

さとはなれなるーまつかけのみち
おちはなほーくつるかうへにーかさなりて

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

さとはなれなるーみちのたえたえ
かひすつるーまくさはみとりーかさなりて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

誰が里（たがさと）

→有明方（ありあけがた）

うめのはなーたかさとまてかーにほふらむ
ありあけかたのーはるのよのつき

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

たかさとまてかーしくれゆくらむ
かみなつきーありあけかたのーねさめして

【大永三年月並千三百韻】／□□［つゆもをし］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 9 月 23 日

近い山里（ちかいやまざと）

→思いやる（おもいやる）

めさますかねのーちかきやまさと
おもひやるーみやこのつきにーまくらして

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

ゆきのつまきのーちかきやまさと
おもひやるーひなのすまひのーふゆこもり

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

春の山里（はるのやまざと）

→鶯（うぐいす）

さくらのことをーはるのやまさと
うくひすのーこゑはかすみのーのきはにて

【太神宮法楽千句】／玉何［あきとほし］／長享 2(1488) 年 7 月

やかてもとへやーはるのやまさと
うくひすのーふるすのたにのーゆききえて

【東山千句】／何路［のわきせし］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

山里（やまざと）

→暁の雨（あかつきのあめ）

やまさとのーはるをさひしくーなしはてて
かすめるかねにーあかつきのあめ

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

やまさとのーかせひややかにーめはさめて
はなによふかきーあかつきのあめ

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

山本の里（やまもとのさと）

→掛橋（かけはし）

なかはかすみのーやまもとのさと
かけはしはーのきはのみねにーよこたはり

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正7(1510)年春以前＜永正5年春＞

いつくなるらむーやまもとのさと
かけはしはーふむあともなくーくちはてて

【慶長年間百韻27巻】／□□［つゆにみを］／慶長9(1604)年6月28日

さびしい

秋の寂しさ

→朝霧

ふるきみきりのーあきのさひしさ
あさきりにーのわきのこすゑーうちしをれ

【延徳年間百韻16巻】／山何［ふきもこぬ］／延徳2(1490)年9月20日

みつもかれののーあきのさひしさ
やまかつのーまへゆくさはのーあさきりに

【天文年間百韻38巻】／何人［つきによる］／天文5(1536)年6月15日

→霧の内

まつをとなりのーあきのさひしさ
ゆふまくれーさとなきやまのーきりのうち

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享2(1488)年7月

なにはあたりのーあきのさひしさ
いりあひのーこゑさへしめるーきりのうち

【元和年間百韻24巻】／□□［はなになして］／元和8(1622)年3月19日

→夕まぐれ

わかものかほのーあきのさひしさ
たれもこそーなかめわふらめーゆふまくれ

【熊野千句】／何路［かさなるや］／文正元(1466)年3月以前

まつをとなりのーあきのさひしさ
ゆふまくれーさとなきやまのーきりのうち

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享2(1488)年7月

月の寂しさ

→映る

ほのかにすめるーつきのさひしさ
あきのよもーいくねさめにかーうつるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永4(1524)年3月23日

□もきにましるーつきのさひしさ
まつむしのーなくねにさよやーうつるらむ

【天正四年万句70巻】／何木［さくはなの］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→秋の空

あかつきちかきーつきのさひしさ
あきのそらーくもはいつくにーわかるらむ

【文明年間百韻34巻】／何船［ことのはの］／文明8(1476)年4月23日

すみたかはらのーつきのさひしさ
あきのそらーひとりかもねむーよはもうし

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

なお寂しい

→山の奥

かせのおとこそーなほさひしけれ
あさちふのーやとりにかはるーやまのおく

【因幡千句】／初何［ゆきはなほ］／文明7(1475)年11月26日＜～28日＞

まつひとりこそーなほさひしけれ
すまれむとーおもひしことよーやまのおく

【聖廟千句】／二字返音［よにひとき］／明応3(1494)年2月10日～12日

名残り寂しい

→冬籠り

なこりさひしきーとりのひとこゑ
はるきてもーつれなきはなのーふゆこもり

【伊予千句】／山何［やとりとへ］／天文6(1537)年5月22日

かれののはらそーなこりさひしき
くさのとをーすむかけにするーふゆこもり

【明応年間百韻２２巻】／何人［としにありて］／明応 9(1500) 年 7 月 7 日

春の寂しさ

→花咲く

やとからなれやーはるのさひしさ
にはうつむーこけにひともとーはなさきて

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

あめふりすさふーはるのさひしさ
やまふかみーくもゆくみねのーはなさきて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

水影の寂しさ

→帰る

かはへのみつのーかけのさひしさ
うちむれてーみそきせしもやーかへるらむ

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

いたゐのしみつーかけのさひしさ
ゆふくれやーすすみしひともーかへるらむ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

物寂しい

→声が聞こえる

つねならぬーともしひのかけーものさひし
のりのふみよむーこゑそきこゆる

【浜宮千句】／□□［くれかたき］／

ねられすよーあまよのこころーものさひし
なくふくろふのーこゑそきこゆる

【長禄三年千句１１巻】／何田［まつちるや］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

さみだれ

五月雨

→鳴く時鳥

たまほこのーみちやすからぬーさみたれに
なくほとときすーなにとすくらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［まつみよと］／延徳 4(1492) 年 2 月 8 日

さみたれにーかけひのみつはーおともなし
のきはをちかみーなくほとときす

【天正四年万句７０巻】／何鳥［さみたれに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→雲に鳴く時鳥

さみたれのーはれましられてーうちいてて
くもゐるかたやーなくほとときす

【宗長追善千句】／夕何［はるのひに］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

さみたれのーふらすはつきのーころそかし
くもくらしとやーなくほとときす

【諸尊法紙背３巻】／旧何［あきまてと］／建武 4(1337) 年 6 月 29 日

→山時鳥

さみたれのーつゆにうもるるーくさのいほ
いててやきかむーやまほとときす

【熊野千句】／山何［おとなしの］／文正元 (1466) 年 3 月以前

さみたれのーふるののねさめーおもひやれ
わかさとうときーやまほとときす

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

五月雨の後

→軒端傾く

なみはなきぬるーさみたれのあと
あしのやのーのきはまはらにーかたふきて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［しつけさの］／裏白／寛永 10(1633) 年 1 月 3 日

あやめなかるるーさみたれのあと
ふるさとのーのきはにはまてーかたふきて

【園塵第二／続群書類従本】／雑／明応 4(1495) 年早春

五月雨の内

→時鳥

かけはしいつこーさみたれのうち
ひとこゑはーくもにとわたるーほとときす

【永禄年間百韻２８巻】／何船［あととふを］／永禄 3(1560) 年 11 月 9 日

とふひとまれのーさみたれのうち
ゆめにしもーおとつれてなけーほとときす

【文禄二年千句１０巻】／何船［あめかした］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

五月雨の頃（さみだれのころ）

→田に植えやらない（たにうえやらない）

なにはわたりのーさみたれのころ
ひとかたはーひろきたのもをーうゑやらて

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

みきはまされるーさみたれのころ
すゑとほきーさとのふかたはーうゑやらて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ゆきとけて］／裏白／寛永 3(1626) 年 1 月 3 日

→時鳥（ほととぎす）

おほゐもわかぬーさみたれのころ
ほとときすーおとはのみねをーこえすてて

【浅間千句】／何人［すすしさを］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

うらのとまやのーさみたれのころ
ほとときすーおのかなのりそーかすかにて

【宗長追善千句】／何色［うくひすの］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

ふるきのきはのーさみたれのころ
ほとときすーわすれはくさのーなもつらし

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

→寝覚めの時鳥（ねざめのほととぎす）

いもせのかはのーさみたれのころ
ねさめしてーわれもたひよそーほとときす

【文明十四年万句５２巻】／何人［よにひろく］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

つれつれのみのーさみたれのころ
ねさめしてーきくはむかしのーほとときす

【天正四年万句７０巻】／何風［ふちなみに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

五月雨の露（さみだれのつゆ）

→時鳥（ほととぎす）

こほるるあともーさみたれのつゆ
なきかはすーなみたやしけきーほとときす

【元亀二年千句】／何木［たきなみの］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

もすそもそてもーさみたれのつゆ
ほとときすーこゑまつやまのーかけにきて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［まつやしる］／成立時不詳

さむい

秋寒い（あきさむい）

→打つ麻衣（うつあさごろも）

うらかれのーささのいほりのーあきさむみ
たえやらすしもーうつあさころも

【五吟一日千句】／何垣［つきもなほ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

ねさめするーくさのいほりのーあきさむみ
つきのよるよるーうつあさころも

【元和年間百韻２４巻】／□□［やつかほの］／元和 6(1620) 年 8 月 23 日

声の寒さ（こえのさむさ）

→秋の風（あきのかぜ）

とわたるかりのーこゑのさむけさ
ふけにけりーしもよのつきにーあきのかせ

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

あさはむとりのーこゑのさむけさ
ぬさちらしーたひたつせきのーあきのかせ

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／松平文庫本／

寒い日（さむいひ）

→旅の衣手（たびのころもで）

このねぬるーあさなあさなのーさむきひに
かさねまほしきーたひのころもて

【浅間千句】／薄何［ほとときす］／永正11(1514) 年 5 月 13 日〜19 日

さむきひにーかはてやこまのーなつむらむ
あらしをしのくーたひのころもて

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なれてこし］／寛文 10(1670) 年 2 月 27 日

ややさむいそで
やや寒い袖

→秋の霜（あきのしも）

かりねのゆめもーややさむきそて
おけはたたーつきにまかへるーあきのしも

【大原野十花千句】／何衣［つきはなに］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日〜7 日

はまへたとれはーややさむきそて
つきになほーまさこちしろきーあきのしも

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年 8 月 14 日

よざむおぼえる
夜寒おぼえる

→唐衣（からごろも）

よさむおほゆるーひとのかたらひ
あはれみてーとはるるなかのーからころも

【嵯峨千句】／何木［ちへにみし］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日〜11 日

よさむおほゆるーかせのたえたえ
をちこちにーうちいてけりなーからころも

【永禄年間百韻２８巻】／懐旧［はつゆきの］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日

さめる

ねざめする
寝覚めする

→夜が長い（よがながい）

つきもはやーかたふくそらにーねさめして
こしかたおもふーよこそなかけれ

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

いろいろにーあきはこころのーねさめして
あらましつくすーよこそなかけれ

【大永年間百韻１４巻】／山何［うめやなき］／大永 7(1527) 年 1 月 19 日

ねざめするよ
寝覚めする夜

→枕（まくら）

ねさめするよのーうつるたにをし
おときけはーよそのしくれをーまくらにて

【延徳年間百韻１６巻】／夢想［すみよしの］／延徳 2(1490) 年 9 月

ねさめするよのーさをしかのこゑ
つきにもるーいなはのかせをーまくらにて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

ゆめさめる
夢覚める

→山風が吹く（やまかぜがふく）

ものうかるーをののかりねにーゆめさめて
ふかきよかはのーやまかせそふく

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

いにしへのーたたちかなしきーゆめさめて
みはならはしのーやまかせそふく

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

さやか

さやか
さやか

→秋風の空（あきかぜのそら）

ひとはみなーぬるよのつきのーさやかにて
ひとりそむかふーあきかせのそら

【聖廟千句】／何木［きえぬるか］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日〜12 日

しもはらふーこゑこゑかりのーさやかにて
たつなきわたるーあきかせのそら

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

→春が見える

こほりとくーいけのかかみはーさやかにて
もちゐらるへきーはるはみえけり

【東山千句】／唐何［つきこよひ］／永正15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

あまのとやーあくるひかりのーさやかにて
よもにあまねきーはるはみえけり

【永禄年間百韻２８巻】／何船［うたふよの］／永禄 5(1563) 年 12 月 9 日

さやかな星

→百敷の庭

さやかなるーほしやまよひをーてらすらむ
つかさつかさにーももしきのには

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

さやかなるーほしのひかりのーうすくもり
はるあらたまるーももしきのには

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

月がさやか

→霧晴れる

やまよりほかのーつきそさやけき
やりみつにーまかきとみえしーきりはれて

【因幡千句】／何路［たけにこゑ］／文明7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

てらすくもゐのーつきそさやけき
きりはれてーかすこそみゆれーあまつかり

【応仁年間百韻６巻】／何人［ときはきを］／応仁元 (1467) 年 10 月 17 日

月のさやけさ

→秋の風

ときならぬゆきかーつきのさやけさ
あきのかせーたけのはすさふ－そらふけて

【浅間千句】／何路［ゆくほたる］／永正11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

くもよりうへのーつきのさやけさ
ひととほりーふきてすくるやーあきのかせ

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いしのおもてもーつきのさやけさ
あけわたるーかかみのみやのーあきのかせ

【大永三年月並千三百韻】／□□［つゆもをし］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 9 月 23 日

→冷ややか

よひよひことのーつきのさやけさ
うたたねのーつゆのかたしきーひややかに

【永正年間百韻３４巻】／山何［とこなつに］／永正 15(1518) 年 4 月 23 日

なみよりいつるーつきのさやけさ
とふほたるーよをまつかけのーひややかに

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ふくやいかに］／永禄 5(1562) 年 3 月 7 日

→更け更ける

のきにもりいる－つきのさやけさ
いなつまの－かけせしまくらーふけふけて

【天正年間百韻５７巻】／何船［なはしろの］／天正 3(1575) 年 3 月 8 日

いたまもりいるーつきのさやけさ
ゆめをたにーむすはぬよはのーふけふけて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はなちれは］／慶長 4(1599) 年閏 3 月 21 日

→秋更ける

しつかにむかふーつきのさやけさ
とふひともーはやよもきふにーあきふけて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応4(1495) 年 9 月 26 日

よなかになりぬーつきのさやけさ
なみのおとーいやたかしまのーあきふけて

【壁草／書陵部本】／秋／永正 9 年

→鳴き初める

きりのうへなるーつきのさやけさ
むしのねもーいまひとしほにーなきそめて

【天正四年万句７０巻】／薄何［やまとほみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

なかそらになるーつきのさやけさ
あきはいまーわさたかりかねーなきそめて

【宗碩関係２種】／宗碩連歌合／静嘉堂文庫本／

月もさやか
→暁方

はるのよのーつきもさやけきーみねのいほ
あかつきかたのーかせのさひしさ

【天正四年万句７０巻】／何馬［あをやきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

しもよそみつのーつきもさやけき
ふねよはふーあかつきかたのーよとのさと

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

さよのなかやま

月の小夜の中山
→秋更ける

みるみるつきはーさよのなかやま
たひころもーあらしをそてにーあきふけて

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

つきもなこりのーさよのなかやま
うらかれのーみちのしはくさーあきふけて

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年 8 月 14 日

さる

猿叫ぶ声
→秋寒い

つきはさやかにーさるさけふこゑ
あきさむきーいりえのふねにーめはさめて

【美濃千句】／山何［けふみすは］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日〜21 日

やまかけふかくーさるさけふこゑ
あきさむきーみねのしひしはーふきかせに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

さわ

秋の沢水
→鴫鳴く

をふねさをさすーあきのさはみつ
やまかけのーとこさたまらぬーしきなきて

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

しはふかくれのーあきのさはみつ
ゆふまくれーきりふるつきにーしきなきて

【文安年間百韻９巻】／何人［なもしらぬ］／文安 4(1447) 年 8 月 19 日

沢水の音
→舟下す伏見

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【心敬関係１０種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／文明 7(1475) 年 4 月 16 日以前

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【名所句集／静嘉堂文庫本】／秋／（大永前後）

つきもさひしきーさはみつのおと
ふねくたすーひともふしみのーえはふけて

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

しか

牡鹿鳴く声
→寝覚めれば月

あかつきさひしーをしかなくこゑ
ねさむれはーつきすむあきのーこからしに

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

かすかなりけりーをしかなくこゑ
ねさむれは―つきはありあけのーまくらにて

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

さおじかのこえ
さ牡鹿の声

→いかばかり
如何ばかり

ちしほとこむるーさをしかのこゑ
ささのはのーみやまはおくもーいかはかり

【永正年間百韻３４巻】／経文［しもにさめて］／永正 4(1507) 年 11 月 3 日

さそふかつきにーさをしかのこゑ
おきいてむーやまちのつゆのーいかはかり

【永正年間百韻３４巻】／何人［すすしさや］／ 1510(1510) 年 8 月 9 日

→つきのさよふける
月の小夜更ける

ふもとにくたるーさをしかのこゑ
つきのこるーくもにあらしのーさよふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

あとなるみねのーさをしかのこゑ
つきははや―いるさのやまのーさよふけて

【大永三年月並千三百韻】／□□［こほるなよ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 7 月 23 日

→つゆおちる
露落ちる

みやまのあきのーさをしかのこゑ
わけまよふーみちはきりふりーつゆおちて

【石山四吟千句】／何木［おくつゆの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

かりほにちかきーさをしかのこゑ
もるをたのーいなはしとろにーつゆおちて

【称名寺連歌３巻】／ｘｘ［つきはあき］／正慶元 (1332) 年 9 月 13 夜

→なる
なる

わかゆふへまつーさをしかのこゑ
くもそあるーいつよりつきにーなりぬらむ

【文安雪千句】／初何［ふりしける］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ふけゆくつきにーさをしかのこゑ
くさまくらーいくよさむきにーなりぬらむ

【浅間千句】／唐何［はなといはは］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

→のがとおい
野が遠い

をりしりかほのーさをしかのこゑ
かりすてて―ひとものこらぬーのをとほみ

【出陣千句】／何木［しもなから］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

まちけるよはのーさをしかのこゑ
をたもりのーあかしかねたるーのをとほみ

【天正四年万句７０巻】／何船［とふとりの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→むらすすき
群薄

きりのうちなるーさをしかのこゑ
むらすすき―みたれあひてやーちりぬらむ

【飯盛千句】／何船［ありあけや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

ふしとしらるるーさをしかのこゑ
あれわたるーたなかはしけきーむらすすき

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あめのひの］／文禄 2(1593) 年 5 月

しが

しがのうらぶね
志賀の浦舟

→かみまつり
神祭

よもあけかたのーしかのうらふね
かみまつりーもよほすそてのーいさなひに

【天文十八年梅千句】／山何［うめさけは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

なみたにかすむーしかのうらふね
たひひとにーあくるやけふのーかみまつり

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

しぎ

憂い鴫の羽掻き

→儚い

かそふるもうきーしきのはねかき
あきならてーかよふこころのーはかなしや

【元和年間百韻２４巻】／□□［あさなあさな］／元和 8(1622) 年 2 月 29 日

うきはまくらのーしきのはねかき
すむつきに―おとろくゆめはーはかなしや

【寛永年間百韻１５巻】／□□［とよとしの］／裏白／寛永 20(1643) 年 1 月 3 日

鴫の羽音

→秋の霜

たつかたしるきーしきのはねおと
あかつきにーなりにけらしなーあきのしも

【浜宮千句】／□□［つきのいろと］／

とほさかりぬるーしきのはねおと
よなよなにーつきにふりしくーあきのしも

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あとをすゑに］／裏白／慶長 15(1610) 年 1 月 3 日

鴫の羽掻き

→一つ庵

あはれなそへそーしきのはねかき
すむもたたーちかきのさはのーひとついほ

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

みにしめてゆくーしきのはねかき
はかなきはーかれののすゑのーひとついほ

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

しく

敷き侘ぶ

→払う衣手の露

しきわひてーつきにいくよのーかりまくら
はらひつくさぬ―ころもてのつゆ

【天正年間百韻５７巻】／何船［なはしろの］／天正 3(1575) 年 3 月 8 日

ちりつもるーあきのさむしろーしきわひて
いつかはらはむーころもてのつゆ

【文明十五年千句１１巻】／三字中略［かたいとを］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

しぐれ

秋時雨

→色付く

あきのしくれはーぬるるまもなし
よなよなのーつきのこすゑはーいろつきて

【太神宮法楽千句】／何木［いつそめし］／長享 2(1488) 年 7 月

あきのしくれはーたけのはのおと
しつかすむーかきほのまくすーいろつきて

【称名院追善千句】／初何［したふなよ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

秋に時雨れる

→風に露が零れる

あきのそらーたかあかつきもーしくるらむ
のきはのかせにーつゆそこほるる

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

あきさむきーはれてもまたやーしくるらむ
かせのたひたひーつゆそこほるる

【天文廿四年梅千句】／何袋［ふたあゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

時雨れる

→思う古里

つゆやなほ―くさのまくらにーしくるらむ
たひなるひとをーおもふふるさと

【長享年間百韻６巻】／ｘｘ［やまのはの］／長享 3(1489) 年 8 月 2 日

なかめやるーそらよりあきやーしくるらむ
はつかりかねにーおもふふるさと

【永禄年間百韻２８巻】／山何［かきつはた］／永禄 10(1567) 年 4 月 28 日

露時雨の草（つゆしぐれのくさ）

→渡る雁（わたるかりがね）

つゆしくれーよものくさきのーいろつきて
たのもにちかくーわたるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しくれても］／応永 26(1419) 年 9 月 25 日

つゆしくれーききのしたくさーそめわけて
たたひととほりーわたるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／山何［とよとしを］／応永 32(1426) 年 12 月 6 日

一時雨（ひとしぐれ）

→木の葉散る音（このはちるおと）

ゆめよりはーあとあるさよのーひとしくれ
ことしもいまはーこのはちるおと

【秋津洲千句】／一字露顕［わかはより］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

ふるもたたーかせのまかひのーひとしくれ
まくらのうへはーこのはちるおと

【弘治三年春雪千句】／何衣［なくきしの］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

夕時雨（ゆうしぐれ）

→雲の群々（くものむらむら）

きほふかとーおもへはよそのーゆふしくれ
はれてもさむきーくものむらむら

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

はるるかとーみれはあとよりーゆふしくれ
こすゑにのこるーくものむらむら

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

しげる

繁き虫の音（しげきむしのね）

→夜半の月（よわのつき）

かへのうちにもーしけきむしのね
みえこしもーゆめとほさかるーよはのつき

【大原野十花千句】／何墻［かをりきて］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

かせややさむきーしけきむしのね
やとれとはーすみやはあらすーよはのつき

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

しず

賤の苧環（しずのおだまき）

→古（いにしえ）

いかにおもひをーしつのをたまき
いにしへのーなみたにまさるーあきはきぬ

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

はかなのすちやーしつのをたまき
いにしへのーゆゑうきかみやーみわのすき

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／永正 14(1517) 年冬

しずか

朝明け静か（あさけしずか）

→玉簾（たますだれ）

あさけしつかにーかせわたるみゆ
ともしひのーかけはよふかきーたますたれ

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

あさけしつかにーきぬるうくひす
たますたれーまけはそとものーうちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほとときす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

雨過ぎた後の静けさ（あめすぎたあとのしずけさ）

→山の端（やまのは）

あめふりはるるーあとのしつけさ
きえやらてーくもはかせまつーやまのはに

【永原千句】／何船［はるのそらは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

さみたれすくるーあとのしつけさ
くもきえてーつきたちのほるーやまのはに

【下草／金子本】／雑上／延徳 4(1492) 年頃

風の静けさ（かぜのしずけさ）

→匂う（におう）

ふきまよひゆくーかせのしつけさ
うめのはなーたかさとまてかーにほふらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

すたれにふるるーかせのしつけさ
ことのねもーたかころもてにーにほふらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 12 月 23 日

静か（しずか）

→浮いて寝る鴎（ういてねるかもめ）

しつかなるーはるのいそきはーふねさして
うきてかもめのーねむるゆふなみ

【永禄石山千句】／何路［ときはきも］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

しつかなるーしかつのあきのーうらのなみ
うきてかもめのーねむるかたはら

【平松文庫本千句】／□□［くれてゆく］／

→氷の涼しさ（みずのすずしさ）

しつかなるーゆふへやあきをーふかむらむ
いはになかるるーみつのすすしさ

【東山千句】／薄何［つゆをいろ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

しつかなるーなかれをとほみーふねさして
なかめをうつすーみつのすすしさ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

→暁深い（あかつきふかい）

くもかかるーみねのいはやはーしつかにて
あかつきふかきーさるのひとこゑ

【三島千句】／御何［はるとほし］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

しのふまにーはやねやのとのーしつかにて
あかつきふかきーをきのはのつゆ

【石山四吟千句】／初何［くれてなほ］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

→明け離れる（あけはなれる）

かちをたえーつなきしふねのーしつかにて
あけはなれてもーのちそゆめみる

【永禄年間百韻２８巻】／懐旧［はつゆきの］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日

おくつゆもーはるのみきりはーしつかにて
あけはなれてもーかすみぬるそら

【慶長年間百韻２７巻】／□□［よつのとき］／裏白／慶長 18(1613) 年 1 月 3 日

した

幾重豊浦の竹の下道（いくえとよらのたけのしたみち）

→また月ある雪の晴れる（またつきあるゆきのはれる）

いくへとよらのーたけのしたみち
にしにまたーつきあるゆきのーけさはれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

いくへとよらのーたけのしたかけ
あめにまたーつきあるゆきのーよるはれて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

霧の下道（きりのしたみち）

→音がする（おとがする）

ましるそてみぬーきりのしたみち
たれとしもーわかすつきまつーおとはして

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

あふひともなきーきりのしたみち
さととほきーみやまにたきのーおとはして

【心敬関係１０種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／

草は残らない雪の下折（くさはのこらないゆきのしたおれ）

→野分する庭に月（のわきするにわにつき）

くさはのこらぬ―ゆきのしたをれ
のわきせし―にはのつきかけーよるさえて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応4(1495) 年 9 月 26 日

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはをしつかにーつきふけて

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

木の下露（このしたつゆ）

→夕べ（ゆうべ）

このしたつゆにーかをるひめゆり
なつのひはーやまのすそのをーゆふへにて

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

このしたつゆにーくさそふしたる
みやきののーあきはしかなくーゆふへにて

【菟玖波集／広島大学本】／秋下／文和5(1356) 年 3 月 26 日

木の下道（このもとみち）

→片敷く（かたしく）

ゆふへすすしきーこのもとのみち
しつかなるーかせのさゆりはーかたしきて

【宗牧追善千句】／山何［ちるちらぬ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

あくるもしはし―このもとのみち
さよころも―はなのにほひにーかたしきて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文9(1541) 年 12 月 25 日

月の下（つきのもと）

→衣手の露（ころもでのつゆ）

しのひよるーとほそしつけきーつきのもと
ゆきかへりてのーころもてのつゆ

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

あくるをもーしらてともなふーつきのもと
いつのまにかはーころもてのつゆ

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］／

萩の下露（はぎのしたつゆ）

→薄霧の籬（うすぎりのまがき）

うらかれてゆくーはきのしたつゆ
うすきりのーまかきのこたちーむらむらに

【皇学館文庫本千句】／□□［はなにいそき］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

のほるはかりのーはきのしたつゆ
うすきりのーまかきのゆふへーいつかみむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

花の木の下（はなのこのもと）

→鶯（うぐいす）

いそくこころのーはなのこのもと
うくひすの―はるおとろかすーねになきて

【羽柴千句】／千何［あくるよを］／天正6(1578) 年 5 月 18・19 日

いろにいろそふーはなのこのもと
うくひすのーはかせをみるもーのとかにて

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→音がする（おとがする）

たかかへるらむ―はなのこのもと
ふるさともーはるのみひとのーおとはして

【聖廟千句】／何田［のこるひに］／明応3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

やまちひくるるーはなのこのもと
さくらちるーみねのあらしのーおとはして

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

→山桜（やまざくら）

たちもはなれぬ－はなのこのもと
おもかけに－なほもむかひの－やまさくら

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

しるしらぬあふ－はなのこのもと
やまさくら－さけはみやこを－あくかれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

森の下草（もりのしたくさ）

→放れ駒（はなれごま）

うらかれわたる－もりのしたくさ
つなかるる－しつかたなれの－はなれこま

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

かけふかくなる－もりのしたくさ
たつぬへき－あともなつのの－はなれこま

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明8(1476) 年 5 月頃

山の下陰（やまのしたかげ）

→そよぐ秋風（そよぐあきかぜ）

ましはわけゆく－やまのしたかけ
ならのはに－そよきもてくる－あきのかせ

【文安月千句】／何水［つきぬなは］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

いろにすすしき－やまのしたかけ
うゑしたも－そよきいてたる－あきのかせ

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

山の下道（やまのしたみち）

→時鳥（ほとときす）

むらさめすくる－やまのしたみち
まちてみよ－なかてはあらし－ほとときす

【文明年間百韻３４巻】／何人［ゆきのやま］／文明 14(1482) 年 1 月 16 日

とふにならはぬ－やまのしたみち
またときく－たひのゆくての－ほとときす

【永正年間百韻３４巻】／何人［みやまきに］／永正 14(1517) 年 3 月 22 日

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

そよくたのもは－やまのしたみち
さをしかの－たちとしらるる－こゑすなり

【天正年間百韻５７巻】／何路［なみこえて］／天正 9(1581) 年 2 月 3 日

きりのあしたの－やまのしたみち
さをしかの－いまひとこゑは－かすかにて

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文9(1541) 年 12 月 25 日

→鹿鳴く（しかなく）

きこりたたすむ－やまのしたみち
くさかりの－ふえにはよらぬ－しかなきて

【親当関係２種】／親当自連歌合／早稲田大学本／

ゆふきりふかき－やまのしたみち
いりあひの－こゑしつまれは－しかなきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／秋／永正6(1509) 年以前

したう

慕われる（したわれる）

→帰る雁（かえるかりがね）

このはるも－こそみしはなの－したはれて
をしめやなこり－かへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつちかし］／応永 32(1425) 年 6 月 25 日

むかしより－ひとになこりを－したはれて
おのかこころと－かへるかりかね

【菟玖波集／広島大学本】／春上／文和5(1356) 年冬～翌年の春

したがう

国に従う（くににしたがう）

→大和言の葉（やまとことのは）

きみかよに－えひすのくにも－したかひて
こころやはらく－やまとことのは

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何草［よにおほふ］／成立時不詳

くにもたたーみちしあるよりーしたかひて
よろつよまてのーやまとことのは

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［はなさかり］／天正 6(1578) 年 3 月 10 日

しな

歌の品々（うたのしなじな）

→花の木の下（はなのこのもと）

あはれにもーうたのしなしなーよみかはし
しるもしらぬもーはなのこのもと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

すちかへすーうたのしなしなーたたならす
いつれとめつるーはなのこのもと

【元和年間百韻２４巻】／□□［さほひめや］／元和 6(1620) 年 1 月 24 日

しの

篠にふる頃（しのにふるころ）

→衣が干難い（ころもがひがたい）

あしやのゆきのーしのにふるころ
たくひにもーわかころもてはーひかたくて

【文安雪千句】／何田［あとそある］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ひとむらしくれーしのにふるころ
おりかくるーくものころもはーひかたくて

【初瀬千句】／何水［うのはなの］／享徳元・2(1452) 年、4 月

しののめ

夜は東雲（よはしののめ）

→別れる（わかれる）

よはしののめにーしくれてそゆく
わかれてのーそてのけしきをーひともみよ

【永正十花千句】／何船［ねぬるよを］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

よはしののめにーはるのたまくら
わかれてのーきはやはとほきーわするなよ

【永正年間百韻３４巻】／何衣［あひにあひぬ］／永正 10(1513) 年 2 月 16 日

しのぶ

忍びかねる（しのびかねる）

→過ぎる夕暮れ（すぎるゆうくれ）

しのひかねーなとひとなつとーたのむらむ
つれなきにのみ―すくるゆふくれ

【宗牧追善千句】／山何［ちるちらぬ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

しのひかね―われとわかなやーもらすらむ
ほとときすとて―すくるゆふくれ

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

忍草（しのぶぐさ）

→古き軒端（ふるきのきば）

はるあきにーかれてはもゆるーしのふくさ
ふるきのきはの―ゆきのむらきえ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

ものおもふーこころひとつのーしのふくさ
ふるきのきはの―あきのさひしさ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

しば

柴の庵（しばのいお）

→古の夢（いにしえのゆめ）

しはのいほーたのむかけとやーたつぬらむ
いとふもしらぬーいにしへのゆめ

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

とひくるをーいとふはかりのーしはのいほ
わすれむとするーいにしへのゆめ

【弘治三年春雪千句】／山何［はなそとも］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

→花の散る頃

うしとみはーたれかはとはむーしはのいほ
まつふくかせにーはなのちるころ

【天文年間百韻３８巻】／何路［あきよたた］／天文 12(1543) 年 8 月 19 日

やまかせもーふかはふかなむーしはのいほ
ありあけのつきにーはなのちるころ

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

柴の戸の内

→思う

すめはのとけきーしはのとのうち
ならはしのーみをなとつらくーおもふらむ

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

なほたちかへるーしはのとのうち
みをすてはーいつくもとなとーおもふらむ

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

なれる柴人

→烏飛ぶ

ひとりひとりにーなれるしはひと
からすとふーいちちのむらにーひはおちて

【池田千句】／何人［はるのはな］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

いりひかくれにーなれるしはひと
からすとふーすそののさとのーうすけふり

【永正年間百韻３４巻】／何人［すすしさや］／永正 7(1510) 年 7 月 5 日

しぼむ

萎む朝顔

→人も見る

まかきのもとにーしほむあさかほ
あきのひにーにたるあはれをーひともみよ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［またもなき］／成立時不詳

あきよりしもにーしほむあさかほ
てなれぬるーあふきのうへをーひともみよ

【集百句之連歌／天理本】／集百句之連歌／不明

しみる

風が身にしみる

→秋の空

なみたしくれてーかせそみにしむ
なほさりとーおもふなひとのーあきのそら

【三島千句】／何木［やまかせに］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

よふかきやまのーかせそみにしむ
しくれせぬーねさめはいかにーあきのそら

【葉守千句】／何木［あらかりし］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

身にしみる

→袖に掛ける

みにしめてーおもふきよみかーいそまくら
なみのおとをもーそてにかけつつ

【紹巴亡父追善千句】／何木［おとろけと］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

みにしめてーわすれぬこそはーかたみなれ
ひとのなみたをーそてにかけつつ

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

→月さやか

ことのねのーあかぬしらへをーみにしめて
おきゐてみれはーつきさやかなり

【飯盛千句】／何木［かすかのの］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

みつのえやーゆふへのあはれーみにしめて
よさのみなとのーつきさやかなり

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ふたよあけて］／裏白／寛永 5(1628) 年 1 月 3 日

しめる

所を占める（とこをしめる）

→静か（しずか）

くれてうつらそ－とこをしめたる
ひとかへる－あとのつきかけ－しつかにて

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［まつうきて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

いけのかはつそ－とこをしめたる
ひとすまぬ－こやのはるさめ－しつかにて

【萱草／伊地知本】／春／文明 6(1474) 年 2 月以前

しも

霧に霜（きりにしも）

→月は出でても暗い（つきはいでてもくらい）

きりにしも－こきまよひぬる－ふねのうへ
つきはいてても－くらきやまかけ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふつゆも］／天正 16(1588) 年 8 月 10 日

きりにしも－ゆふへのひかり－へたたりて
つきはいてても－またくらきそら

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ゆきなから］／裏白／寛永 21(1644) 年 1 月 3 日

霜凄まじい山（しもすさまじいやま）

→松現れる（まつあらわれる）

しもすさましく－からすなくやま
かはきりに－ふもとのまつは－あらはれて

【葉守千句】／何船［うゑしうゑは］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

しもすさましく－まよふやまもと
けふりより－いろなきまつの－あらはれて

【元和年間百韻２４巻】／□□［うくひすの］／裏白／元和 9(1623) 年 1 月 3 日

霜の片敷（しものかたしき）

→月を見る（つきをみる）

かせもいとはぬ－しものかたしき
さめすはと－ゆめちふけゆく－つきをみて

【天文廿四年梅千句】／何人［うめいつく］／天文 24(1555) 年正月 7 日

おくつゆのみか－しものかたしき
くさまくら－そてにくちゆく－つきをみて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

月に霜（つきにしも）

→近い雁（ちかいかりがね）

つきにしも－いそきてこゆる－やまたかみ
くもゐのいつち－ちかきかりかね

【五吟一日千句】／何路［いそのなみ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

つきにしも－さはたのすゑの－みつおちて
きりのひまより－ちかきかりかね

【慶長年間百韻２７巻】／□□［うめかかは］／裏白／慶長 11(1606) 年 1 月 3 日

長月の霜（ながつきのしも）

→有明（ありあけ）

あらしはけしき－なかつきのしも
ありあけに－ころもうつよの－そらさえて

【美濃千句】／何心［つゆにきえ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

かしらそしろき－なかつきのしも
ありあけに－なくやよなかの－やまからす

【宗砌関係９種】／宗砌発句並付句抜書／小松天満宮本／

しらかわのせき

白河の関（しらかわのせき）

→道の奥（みちのおく）

とほくもきぬる－しらかはのせき
おとにのみ－ききつつけふそ－みちのおく

【大永年間百韻１４巻】／何路［はままつの］／大永 4(1524) 年 5 月 1 日

こえしをしのふ－しらかはのせき
みるふみや－なほつらきめを－みちのおく

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

こえしをしのふーしらかはのせき
いしふみやーなほつらきめをーみちのおく

【宗碩関係２種】／宗碩連歌合／静嘉堂文庫本／

しる

哀れ知る（あわれしる）

→古の後（いにしえのあと）

あはれしれーひとひひとひのーわかよはひ
かへらぬみちやーいにしへのあと

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

よはたれもーつひにはのへのーあはれしれ
つくりみかきしーいにしへのあと

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

知る（しる）

→鳴く時鳥（なくほととぎす）

すきぬとも－みしかきねとはーしるらめや
われこそねにはーなくほとときす

【伊庭千句】／何船［やまさむみ］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

ものおもふーわかゆふくれをーしるらめや
なくほとときす－なくさめてゆけ

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

程が知られる（ほどがしられる）

→言いしばかりに秋（いいしばかりにあき）

さひしさなれぬーほとそしらるる
つきはたたーいひしはかりにーあきくれて

【宗長追善千句】／何色［うくひすの］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

はるにつれなきーほとそしらるる
このくれとーいひしはかりにーあきかけて

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

しろ

沖の白浪（おきのしらなみ）

→立田山の秋（たつたやまのあき）

かせにまかするーおきつしらなみ
たつたやまーみねのこのはにーあきくれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

しくれつはれつーおきつしらなみ
たつたやま－あきふかくなるーほとみえて

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

越の白雪（こしのしらゆき）

→帰る雁（かえるかりがね）

はるふかきまてーこしのしらゆき
ありあけのーつきもなこりとーかへるかり

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

きゆるひもなきーこしのしらゆき
かへるかりーいつかたこえてーまたはこむ

【享禄年間百韻８巻】／白何［あさみとり］／享禄 3(1530) 年 3 月 2 日

白露（しらつゆ）

→面影ばかり（おもかげばかり）

くれてよりーあふきのいろもーしらつゆに
おもかけはかり－あさかほのはな

【弘治三年春雪千句】／何人［ゆきにうめ］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

うつしゑの－つきはくもらぬーしらつゆに
おもかけはかり－のこすいにしへ

【天文年間百韻３８巻】／何人［かすむよは］／天文 23(1554) 年 3 月 26 日

峰の白雪（みねのしらゆき）

→残る（のこる）

のはしもかれのーみねのしらゆき
さとふりぬ－たかかよひちのーのこるらむ

【紫野千句】／何路［あふちさく］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

それとはかりのーみねのしらゆき
いつおきてーかれののしもはーのこるらむ

【紫野千句】／山何［ゆふたちは］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

ふりそめけりなーみねのしらゆき
まつたかくーしくれのくもやーのこるらむ

【熊野千句】／何色［なみしけし］／文正元 (1466) 年 3 月以前

すえ

小山田の末（おやまだのすえ）

→霜枯れ（しもがれ）

かへしすてたるーをやまたのすゑ
しもかれのーくすはにかはるーあきのかせ

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

かりのこしぬるーをやまたのすゑ
しもかれのーひとむらすすきーほのかにて

【天正年間百韻５８巻】／□□［あさなあさな］／天正 15(1587) 年 1 月 3 日

竹の末々（たけのすえずえ）

→微か（かすか）

ゆきをれふかきーたけのすゑすゑ
かすかにもーしはけふらせてーひともなし

【永禄年間百韻２８巻】／何船［うたふよの］／永禄 5(1563) 年 12 月 9 日

ふくかせしるきーたけのすゑすゑ
かすかにもーみちあるかたやーさとならむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

流れの末（ながれのすえ）

→田の面の原（たのものはら）

たちさわくーなかれのすゑのーむらちとり
たのものはらのーいりひさむけし

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

うろくつはーなかれのすゑのーかたよりに
たのものはらのーひかりさやけし

【元和年間百韻２４巻】／□□［やつかほの］／元和 6(1620) 年 8 月 23 日

水の末見える（みずのすえみえる）

→暮れる橋の一筋（くれるはしのひとすじ）

たききとりーみつをむすひしーすゑみえて
やまくれかかるーはしのひとすち

【秋津洲千句】／何木［ひとさかり］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

こほりとくーみつをつつみのーすゑみえて
たえたえくるるーはしのひとすち

【元亀年間百韻６巻】／何船［むさしのも］／元亀 3(1572) 年 3 月 18 日

道の末（みちのすえ）

→立ち安らう（たちやすらう）

なつころもーはるはるきぬるーみちのすゑ
みつゆくはしにーたちそやすらふ

【天文年間百韻３８巻】／何人［さくふちの］／天文 18(1549) 年 3 月 24 日

くれかかるーものみくるまのーみちのすゑ
やとりさためすーたちそやすらふ

【天正四年万句７０巻】／何鳥［まつむしの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

すぎ

杉の群立ち（すぎのむらだち）

→末に散る花（すえにちるはな）

いらかさひしきーすきのむらたち
かすかなるーこけちのすゑはーちるはなに

【弘治年間百韻８巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

あらしにあくるーすきのむらたち
さきかくすーこすゑわかれてーちるはなに

【成立不詳・宗養以前８巻】／何人［あをやきや］／成立時不詳

すぎる

雨過ぎた後の静けさ

→山の端

あめふりはるるーあとのしつけさ
きえやらてーくもはかせまつーやまのはに

【永原千句】／何船［はるのそらは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

さみたれすくるーあとのしつけさ
くもきえてーつきたちのほるーやまのはに

【下草／金子本】／雑上／延徳 4(1492) 年頃

過ぎる村雨

→時鳥

くもるとすれはーすくるむらさめ
したふともーいらはやいかてーほとときす

【長享年間百韻 6 巻】／朝何［はるくさは］／長享 2(1488) 年 4 月

むらくもとほくーすくるむらさめ
ひとこゑのーほかにはきかぬーほとときす

【天正四年万句７０巻】／三字中略［かせたえて］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

春過ぎる

→日が長い

おのつからーとはれしころのーはるすきて
まつひとはこすーひこそなかけれ

【紫野千句】／山何［ゆふたちは］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

はなにわれーこころつくしのーはるすきて
のとかにくらすーひこそなかけれ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

時鳥枕のいずち過ぎる

→静かな雨

ほとときすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーうちそそくそら

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ほとときすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーはるるくさふき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ききはみな］／裏白／寛永 4(1627) 年 1 月 3 日

村雨過ぎる

→時鳥

むらさめすくるーをちのかけはし
さたかにはーたれかききけむーほとときす

【平松文庫本千句】／□□［したみつの］／

むらさめすくるーやまのしたみち
まちてみよーなかてはあらしーほとときす

【文明年間百韻３４巻】／何人［ゆきのやま］／文明 14(1482) 年 1 月 16 日

すごい

凄い秋風

→野の一つ松

とふかひなしやーすこきあきかせ
くれぬとてーかけたのむのの－ひとつまつ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

ふきとしふくはーすこきあきかせ
かるるのーひともとすすきーひとつまつ

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

すさまじい

風が凄まじい

→蟋蟀

いたまみえたるーかせはすさまし
こゑちかきーまくらのつきにーきりきりす

【天文廿四年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

よるのとほそのーかせはすさまし
きりきりすーなきよるとこをーしきわひて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

霜凄まじい山（しもすさまじいやま）

→松現れる（まつあらわれる）

しもすさましくーからすなくやま
かはきりにーふもとのまつはーあらはれて

【葉守千句】／何船［うゑしうゑは］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

しもすさましくーまよふやまもと
けふりよりーいろなきまつのーあらはれて

【元和年間百韻２４巻】／□□［うくひすの］／裏白／元和 9(1623) 年 1 月 3 日

凄まじい空（すさまじいそら）

→旅衣（たびごろも）

ふけゆくままにーすさましきそら
たひころもーかさねまほしきーきぬたにて

【嵯峨千句】／花之何［うめかかは］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

しもふるはかりーすさましきそら
たひころもーたかうつさとにーいそくらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

すじ

煙一筋（けむりひとすじ）

→誰かが植えた松残る（だれかがうえたまつのこる）

かせふきはらふーけふりひとすち
たれうゑてーまつのしるしのーのこるらむ

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

とほさとをのの－けふりひとすち
たかうゑてーまつはかりかはーのこるらむ

【文明十四年万句５２巻】／何色［はるなつを］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

一筋（ひとすじ）

→煙吹きやる風（けむりふきやるかぜ）

ひとすちのーかはみつしろくーあらはれて
けふりふきやるーさとのあさかせ

【大原野十花千句】／何路［けふこそは］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

ひとすちのーなかれのすゑにーはしみえて
けふりふきやるーをちのかはかせ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

水の一筋（みずのひとすじ）

→滝（たき）

そそくはかりのーみつのひとすち
ふりにけるーあとやなみたのーたきならむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

みなかみしらぬーみつのひとすち
そてやたたーうきおとなしのーたきならむ

【名所句集／静嘉堂文庫本】／恋下／（大永前後）

道の一筋（みちのひとすじ）

→放れ駒（はなれごま）

たなかにつつくーみちのひとすち
はなれこまーいはふかたにしーゆきつれて

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

さとはみえぬもーみちのひとすち
つななからーいつくよりかはーはなれこま

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あつまやの］／文禄 2(1593) 年 5 月 6 日

→行き連れる（ゆきつれる）

たなかにつつくーみちのひとすち
はなれこまーいはふかたにしーゆきつれて

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

かよふをのへのーみちのひとすち
このかたはーたききしはとりーゆきつれて

【文明十五年千句１１巻】／何路［ひめもの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

すすき

枯れ花薄（かれはなすすき）

→弱る虫の音（よわるむしのね）

はなすすきーかれゆくしもにーあきふけて
のにはおしなひーよわるむしのね

【顕証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日〜21 日

つきのこるーかれののすゑのーはなすすき
ほのかになりぬーよわるむしのね

【因幡千句】／薄何［かきはらふ］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日<〜28 日>

花薄（はなすすき）

→松虫の声（まつむしのこえ）

ほのめくやーたかたまくらのーはなすすき
ふけゆくまてにーまつむしのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

ひともとやーかれののうちのーはなすすき
したはにすたくーまつむしのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［たちならせ］／永禄元 (1558) 年 7 月 18 日

一群薄（ふとむらすすき）

→霜迷う山田（しもまよう やまだ）

ひとむらすすきーそてふるるかけ
しもまよふーやまたのおしねーかりすてて

【永正年間百韻３４巻】／何路［はやみのに］／永正 12(1515) 年 11 月 10 日

ひとむらすすきーひともかけせす
しもまよふーやまたのこいへーかたふきて

【合点之句／神宮文庫本】／冬／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

すずしい

風の涼しさ（かぜのすずしさ）

→安らう（やすらう）

そてふきおくるーかせのすすしさ
たまほこのーゆくへにしはしーやすらひて

【天正年間百韻５７巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

たたすかはらのーかせのすすしさ
みそきするーみつのほとりにーやすらひて

【文明十五年千句１１巻】／三字中略［かたいとを］／文明 15(1483) 年＊月＊日〜3 月 2 日

涼しい（すずしい）

→蛍飛び交う（ほたるとびかう）

すすしくもーくさはにむすふーつゆちりて
みるみるたかしーほたるとひかふ

【天文年間百韻３８巻】／山何［ふむあとも］／天文 13(1544) 年 10 月 15 日

すすしくもーまとのくれたけーうちそよき
ほたるとひかふーかけかすかなり

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ひめおきし］／慶長 4(1599) 年 3 月 25 日

涼しさに秋立つ（すずしさにあきたつ）

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

すすしくもーゆふひのくもにーあきたちて
こすゑしらるるーひくらしのこゑ

【永禄元年花千句】／□□［あたりまて］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日〜25 日

すすしさのーけふよりしるきーあきたちて
やまはくもまのーひくらしのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

露の涼しさ（つゆのすずしさ）

→夕立（ゆうだち）

わくるのやまのーつゆのすすしさ
ゆふたちのーくもはかたへのーみねこえて

【天正年間百韻５７巻】／何船［みちみちを］／天正 13(1585) 年 5 月 27 日

ちりなきにはのーつゆのすすしさ
ゆふたちのーあとのやまみつーいはこえて

【園塵第二／続群書類従本】／夏／明応4(1495) 年早春

夕涼み（ゆうすずみ）

→秋風が吹く（あきかぜがふく）

すきたてるーいくきのもとのーゆふすすみ
ここにすみけるーあきかせそふく

【伊勢千句】／何木［すめるよの］／大永2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

なつ□たたーいはゐにちきるーゆふすすみ
そてにをりをりーあきかせそふく

【文明年間百韻３４巻】／何船［かへれとて］／文明 18(1486) 年 3 月 27 日

すずむし

鈴虫の声（すずむしのこえ）

→振延える（ふりはえる）

たつねいるのの－すすむしのこゑ
つきにはと－ちきりしかたに－ふりはへて

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

すすきかもとの－すすむしのこゑ
ふりはへて－ゆくやたもとの－かせならし

【永禄元年花千句】／□□［たきなみも］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

すだれ

簾を巻けば雪（すだれをまけばゆき）

→夜もすがら（よもすがら）

すたれをまけは－ゆきしろきやま
よもすから－しくれしつきの－けさすみて

【弘治年間百韻８巻】／何船［たくそてに］／弘治 2(1557) 年 12 月 2 日

すたれをまけは－けさのうすゆき
よもすから－あらしをそてに－かたしきて

【成立不詳・宗養以前８巻】／朝何［なひくよや］／成立時不詳

玉簾（たますだれ）

→静かな灯の影（しずかなともしびのかげ）

くれかかる－ひまほのかなる－たますたれ
しつかにみゆる－ともしひのかけ

【大永四年月並千二百韻】／何色［うめのはな］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 1 月 23 日

あめそそく－かすみのつゆの－たますたれ
しつかにあくる－ともしひのかけ

【天文年間百韻３８巻】／何人［みれはみし］／天文 13(1545) 年 12 月 25 日

玉簾あける（たますだれあける）

→月のさ筵（つきのさむしろ）

たますたれ－ひまひまみえて－あくるよに
しもにかけさす－つきのさむしろ

【石山四吟千句】／玉何［こゑやまつ］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

たますたれ－あくるまつまの－なかめして
くもりかちなる－つきのさむしろ

【永正年間百韻３４巻】／何船［あきはそてに］／永正 10(1513) 年 7 月 29 日

すてる

捨てて帰る（すててかえる）

→遠方の一村（おちのひとむら）

さすふねも－つなきすててや－かへるらむ
ましはのみちは－をちのひとむら

【五吟一日千句】／薄何［あけほのの］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

ふえのねや－すなとりすてて－かへるらむ
つきになるよの－をちのひとむら

【大永年間百韻１４巻】／何人［つきやふね］／大永 2(1522) 年 8 月

捨てる世の中（すてるよのなか）

→佗ぬれば思う（わびぬればおもう）

なほいかならむ－すつるよのなか
わひぬれは－おもひしことの－まさるみに

【表佐千句】／何人［はなそくも］／文明8(1476)年3月6日<～8日>

まよふうちにもーすつるよのなか
わひぬれはーおもふこにさへーちかつかて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／雑／永正6(1509)年以前

すま

須磨の浦（すまのうら）

→浪此処許（なみここもと）

よもすからーつきのかけのみーすまのうら
なみここもとに―□□□□□なる

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永19(1412)年1月14日

うみつらのーかすみそめたるーすまのうら
なみここもとにーちかきしほとき

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［ひそをしき］／応永30(1423)年3月29日

ほとちかしーいくたのかはせーすまのうら
なみここもとに―よするとまやか

【文安頃千句４巻】／何路［やへひとへ］／

→妻訪う千鳥しば鳴く（つまとうちどりしばなく）

すまのうらやーわひつつおくるーあけくれに
つまとふちとりーかせにしはなく

【弘治年間百韻８巻】／何路［ゆくみつや］／弘治2(1556)年3月24日

すまのうらやーあかつきかたのーそらのつき
つまとふちとりーきりにしはなく

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀4(1573)年6月6日

須磨の浦浪（すまのうらなみ）

→藻塩焼く煙（もしおやくけむり）

ふなちにあらきーすまのうらなみ
もしほやくーけふりにうみもーかきくれて

【表佐千句】／唐何［つきはたた］／文明8(1476)年3月6日<～8日>

みのうきふしにーすまのうらなみ
もしほやくーけふりはあさなーゆふなにて

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正6(1578)年2月18日

→淡路潟（あわじがた）

ふねさしとむるーすまのうらなみ
あはちかたーうしほのむかふーせとをみて

【宝徳四年千句】／何人［はなそころ］／宝徳4(1452)年3月12日

つきをみるよのーすまのうらなみ
あはちかたーせとのあきかせーみにしみて

【菟玖波集／広島大学本】／秋上／文和5(1356)年冬～翌年の春

須磨人（すまびと）

→若木の桜（わかぎのさくら）

すまひとのーよかたりになるーはなうゑて
わかきのさくらーはるそひさしき

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつかねに］／応永32(1425)年3月25日

すまひとのーうゑけるはなにーなくさみて
わかきのさくらーさかりいつころ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ひととせに］／応永32(1426)年12月11日

なお須磨の浦（なおすまのうら）

→友千鳥（ともちどり）

うくともたへてーなほすまのうら
をりをりはーたえすこととへーともちとり

【飯盛千句】／ｘｘ［かけすすし］／永禄4(1561)年5月27日～29日

なれなむほともーなほすまのうら
きくたにもーへたてさそなのーともちとり

【五吟一日千句】／何袋［さくはなの］／天正9(1581)年11月19日

すみ

墨染の袖（すみぞめのそで）

→雨の暮れ（あめのくれ）

いろかをすつるーすみそめのそて
やとりかせーえくちのさとのーあめのくれ

【難波田千句】／□□［ゆくはるに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つゆなこほれそーすみそめのそて
すみかともーこかけをたのむーあめのくれ

【明応年間百韻２２巻】／何木［やまはゆき］／明応 7(1498) 年 11 月 4 日

→柴の庵（しばのいお）

よしせはくともーすみそめのそて
かくすみもーいくほとならむーしはのいほ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［さよかせも］／延徳 2(1490) 年 7 月 23 日

あれはやまとやーすみそめのそて
はなにのみーむすふににたるーしはのいほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

→涙（なみだ）

うきよにやなほーすみそめのそて
いまはみにーのそみのなきもーなみたにて

【菟玖波集／広島大学本】／雑五／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

こころならすのーすみそめのそて
こほるるもーおほえぬものはーなみたにて

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

墨の衣手（すみのころもで）

→形見（かたみ）

こころをそめよーすみのころもて
そのままのーふてのあとこそーかたみなれ

【文和千句】／何物［さみたれは］／文和 5 年

やつれいとはしーすみのころもて
わかれてのーなみたたにこそーかたみなれ

【弘治年間百韻８巻】／何人［ときはなる］／弘治 3(1557) 年 8 月 28 日

すみだがわ

隅田川（すみだがわ）

→越える井関（こえるいせき）

ふねとむるーなみのまかひのーすみたかは
こゆるゐせきのーみつしろきくれ

【皇学館文庫本千句】／□□［きてかへる］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

なくとりもーはなのはるしるーすみたかは
こゆるゐせきの－なみののとけさ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［あととふを］／永禄 3(1560) 年 11 月 9 日

すみよし

住吉（すみよし）

→言の葉の道（ことのはのみち）

すみよしの－かみにいのりをーかけおきて
すなほならはの－ことのはのみち

【天正年間百韻５７巻】／□□［こすゑをも］／天正 11(1583) 年閏 1 月 27 日

すみよしのーにはのまつかせーものさひて
かみもうくらむーことのはのみち

【文明十四年万句５２巻】／何国［ほととぎす］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

住吉の浦（すみよしのうら）

→淡路島（あわじしま）

なみにはるたつーすみよしのうら
あさみとりーかすみにうかふーあはちしま

【大永四年月並千二百韻】／□□［そよとしも］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 10 月 23 日

あくれはかすむーすみよしのうら
つきもたたーみるみるとほきーあはちしま

【慶長年間百韻２７巻】／□□［いなつまも］／慶長 9(1604) 年 7 月 6 日

住吉の松（すみよしのまつ）

→垣の八幡山（かきのやはたやま）

かけとちきるやーすみよしのまつ
みつかきのーひさしくなりぬーやはたやま

【伊庭千句】／三字中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

おひやかはれるーすみよしのまつ
かみかきにーすきのこたかきーやはたやま

【成立（しゐ）不詳・心敬以前１４巻】／何路［かすみかは］／成立時不詳

住吉の松と頼む（すみよしのまつとたのむ）

→徒浪が袖濡らす（あだなみがそでぬらす）

すみよしのーまつとたのめしーかひもなく
なにあたなみのーそてぬらすらむ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

すみよしのーまつとたのめしーほかにまた
なにあたなみのーそてぬらすらむ

【菟玖波集／広島大学本】／恋中／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

住める古里（すめるふるさと）

→思う（おもう）

なほあらましとーすめるふるさと
たひゆくやーあとをいかにとーおもふらむ

【表佐千句】／唐何［つきはたた］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

あはれかくてもーすめるふるさと
つれもなきーわかみやまつもーおもふらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［そよとしも］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 10 月 23 日

すむ

住み所（すみどころ）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

ひをへつつーのやまをはるはーすみところ
やよひのすゑのーうくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／懐旧［みなそこの］／慶長 4(1599) 年 5 月 2 日

みよしのやーはなをよすかのーすみところ
ともとこそなれーうくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［みつのうへに］／裏白／慶長 17(1612) 年 1 月 3 日

月影澄む（つきかげすむ）

→露寒い袖（つゆさむいそで）

ふりにけるーのてらのつきのーかけすみて
あかつきおきのーつゆさむきそて

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

やとりとるーつきはゆふへにーかけすみて
むしのねみたれーつゆさむきそて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

月澄む（つきすむ）

→秋風が吹く（あきかぜがふく）

かみよよりーたましまかはのーつきすみて
かきりもなみにーあきかせそふく

【弘治三年春雪千句】／何衣［なくきしの］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

つゆしものーふ□□□やとはーつきすみて
かれののあさちーあきかせそふく

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

→天つ雁（あまつかりがね）

かけもみにーさしやとほるとーつきすみて
ねぬめもさむるーあまつかりかね

【池田千句】／唐何［つゆかけて］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

おほろけにーかたへよふかきーつきすみて
まくらにちかしーあまつかりかね

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

→衣打つ声（ころもうつこえ）

ことさらにーおもふはしらむーつきすみて
ひひきはわかすーころもうつこゑ

【浅間千句】／一字露顕［にほふひは］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

やまかせのーふきそふよはのーつきすみて
いくさとさとのーころもうつこゑ

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

中々市は住み良い（なかなかいちはすみよい）

→三輪の杉群（みわのすぎむら）

ましはりのーなかなかいちはーすみよきに
たちならひたるーみわのすきむら

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

やまよりもーなかなかいちはーすみよきに
たれたつねこむーみわのすきむら

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［あすはさけ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

水は澄む（みずはすむ）

→明け方（あけがた）

あかてみなせのーみつはすみけり
あけかたのーたきよりうへもーつきなれや

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

くむにいはまのーみつはすみけり
あけかたのーつきにいてぬるーそてみえて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［けふことに］／裏白／慶長 8(1603) 年 1 月 3 日

せみ

蝉の諸声（せみのもろごえ）

→唐衣（からごろも）

やまやさつきのーせみのもろこゑ
すすしさは―たたあきかせのーからころも

【永正十花千句】／二字反音［こまなへて］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

さよのしくれかーせみのもろこゑ
からころもーもすそもそてもーうちぬれて

【文明十四年万句５２巻】／何木［あきのひも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

そう

川沿いの道（かわぞいのみち）

→暁（あかつき）

みつうちけふるーかはそひのみち
あかつきのーつきのこるえにーふねさして

【河越千句】／二字反音［はるみても］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

かすかにのこるーかはそひのみち
あかつきのーやまにかかれるーよはのつき

【文明年間百韻３４巻】／何木［うめかかを］／文明 15(1483) 年 2 月 19 日

→渡し舟（わたしぶね）

くたれはあさきーかはそひのみち
はやきせにーおとさていそのーわたしふね

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［はるやたつ］／存疑／成立時不詳

つつくともなきーかはそひのみち
くれぬれは―ひとりふたりのーわたしふね

【天正年間百韻５７巻】／何人［みれはみし］／天正 12(1584) 年 9 月 13 日

川沿い舟（かわぞいぶね）

→岸の呉竹（きしのくれたけ）

さしいつるーかはそひふねにーかせふきぬ
すゑうちなひくーきしのくれたけ

【永原千句】／何袋［たかそめし］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

なみもなきーかはそひふねにーさをとりて
をのえてきらむーきしのくれたけ

【文明十四年万句５２巻】／何色［はるなつを］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

添うは面影（そうはおもかげ）

→花の跡（はなのあと）

なみたのあるもーそふはおもかけ
まつならてーあをはのゆきやーはなのあと

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

そなたはいかかーそふはおもかけ
はなのあとーかせよりゆきをーふきためて

【看聞日記紙背５０巻】／何物［いつれみむ］／応永 32(1425) 年 9 月 17 日

そこ

霞の底（かすみのそこ）

→蛙鳴く（かわずなく）

やまかくれーかすみのそこのーみちわけて
とくるこほりにーかはつなくなり

【文明十二年千句８巻】／一字露顕［わかはもて］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

きこえきつーかすみのそこのーみつのおと
かはつなくなりーはるふかきころ

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

そで

遠方人の袖（おちかたびとのそで）

→送る（おくる）

をちかたひとのーそてほのかなり
よこくもやーわかれしゆめをーおくるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

をちかたひとのーそてのむらさめ
ほとときすーなれもたひとやーおくるらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

片敷の袖（かたしきのそで）

→夜半の月（よわのつき）

をれすはひとりーかたしきのそて
さりとものーうさはならひぬーよはのつき

【秋津洲千句】／唐何［うめかかの］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

ゑひのまくらのーかたしきのそて
かけはなほーおほろけならぬーよはのつき

【天正年間百韻５７巻】／初何［すすしさを］／天正 2(1574) 年 6 月 10 日

後朝の袖（きぬぎぬのそで）

→東雲（しののめ）

なみたにむせふーきぬきぬのそて
しののめのーそらきりわたりーつきおちて

【顕証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

ぬれにそぬるるーきぬきぬのそて
しののめのーころしもあめのーふりいてて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

墨染の袖（すみぞめのそで）

→雨の暮れ（あめのくれ）

いろかをすつるーすみそめのそて
やとりかせーえくちのさとのーあめのくれ

【難波田千句】／□□［ゆくはるに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つゆなこほれそーすみそめのそて
すみかともーこかけをたのむーあめのくれ

【明応年間百韻２２巻】／何木［やまはゆき］／明応 7(1498) 年 11 月 4 日

→柴の庵（しばのいお）

よしせはくともーすみそめのそて
かくすみもーいくほとならむーしはのいほ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［さよかせも］／延徳 2(1490) 年 7 月 23 日

あれはやまとやーすみそめのそて
はなにのみーむすふにたるーしはのいほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

→涙（なみだ）

うきよにやなほーすみそめのそて
いまはみにーのそみのなきもーなみたにて

【菟玖波集／広島大学本】／雑五／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

こころならすのーすみそめのそて
こほるるもーおほえぬものはーなみたにて

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文9(1541)年12月25日

袖が露っぽい（そでがつゆっぽい）

→憂い（うい）

のをわけころもーそてそつゆけき
いととなほーあきそふたひやーうかるらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永30(1423)年4月4日

こころつくしのーそてそつゆけき
いくたひかーかのひとゆゑにーうかるらむ

【文明十四年万句５２巻】／何人［ちくさみな］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

→物思い（ものおもい）

たえぬしくれにーそてそつゆけき
いかにともーとふひとあれなーものおもひ

【熊野千句】／何路［かさなるや］／文正元(1466)年3月以前

くさをわけゆくーそてそつゆけき
しのひちはーこころをつくすーものおもひ

【文明十四年万句５２巻】／何寺［きりうすみ］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

→物思う（ものおもう）

はらふもおなしーそてのつゆけさ
ものおもふーこころをいつちーやりてねむ

【出陣千句】／何木［しもなから］／永正元(1504)年10月25日～27日

こひするのみかーそてのつゆけさ
ものおもふーわれやはつきにーはちさらむ

【伊予千句】／唐何［うつせみの］／天文6(1537)年5月22日

袖濡れる（そでぬれる）

→草の原（くさのはら）

おほろつきよにーそてそぬれぬる
つゆをたにーわするなきえむーくさのはら

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋下／文明8(1476)年5月頃

ゆくへもしらすーそてそぬれぬる
みしひとをーとへはかせふくーくさのはら

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

→暁（あかつき）

たのまぬよはもーそてはぬれけり
あかつきのーつきにおちくるーかねのおと

【大永年間百韻１４巻】／山何［うめやなき］／大永7(1527)年1月19日

おとろくほとにーそてはぬれけり
あかつきのーかねこそゆめのーわかれなれ

【菟玖波集／広島大学本】／恋中／文和5(1356)年冬～翌年の春

袖の色々（そでのいろいろ）

→月に帰る（つきにかえる）

あきはもみちのーそてのいろいろ
たけかりやーつきになりてはーかへるらむ

【永享年間百韻４巻】／山何［おいまつは］／万句巻頭／永享9(1437)年3月21日

つゆはらふのーそてのいろいろ
はきかえをーつきにやをりもーかへるらむ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長6(1601)年1月3日

袖の移り香（そでのうつりが）

→菖蒲草（あやめぐさ）

のこりもふかきーそてのうつりか
ふきすてしーきのふのつまのーあやめくさ

【元亀二年千句】／何木［たきなみの］／元亀2(1571)年3月5日

なにはかなしやーそてのうつりか
あやめくさーかくるよとのはーあれまさり

【浜宮千句】／□□［ときもよも］／

→面影（おもかげ）

これそかたみのーそてのうつりか
おもかけはーてにもたまらすーまたきえて

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

わかれしきみかーそてのうつりか
おもかけはーなかなかつらきーなこりにて

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

わすれむものかーそてのうつりか
おもかけはーくれしものこるーきくのあき

【天正年間百韻５７巻】／何船［みちみちを］／天正 13(1585) 年 5 月 27 日

→形見（かたみ）

また□□□□□ーそてのうつりか
ありあけはーあふ□□□□のーかたみにて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

きゆるもをしやーそてのうつりか
たまくらはーみをはなたれぬーかたみにて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［しかそなく］／天文 24(1555) 年 9 月 19 日

→橘（たちばな）

ともにやとまるーそてのうつりか
たちはなは―むかしのつまのーゆかりにて

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつちかし］／応永 32(1425) 年 6 月 25 日

ちきりはかなきーそてのうつりか
たちはなは―かけたにみえすーくつるのに

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはらも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

袖の梅の香（そでのうめのか）

→鶯（うぐいす）

かすみもあへぬ―そてのうめかか
うくひすの―こゑもゆくゆくーとほきのに

【天文年間百韻３８巻】／何人［みれはみし］／天文 13(1545) 年 12 月 25 日

もるるかたやはーそてのうめかか
うくひすのーそともにうつるーこゑすなり

【永禄年間百韻２８巻】／何船［あととふを］／永禄 3(1560) 年 11 月 9 日

袖の紅（そでのくれない）

→立田川（たつたがわ）

みせはやふかきーそてのくれなゐ
たつたかはーあきのなこりにーおりたちて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

なみたのいろはーそてのくれなゐ
なにゆゑにーかかるうきなのーたつたかは

【菟玖波集／広島大学本】／恋下／文和5(1356) 年冬～翌年の春

みせはやふかきーそてのくれなゐ
たつたかはーあきのかきりにーおりたちて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

袖の氷（そでのこおり）

→知らない（しらない）

そてのこほりはーわれそくるしき
よかれしやーわふるまくらもーしらさらむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［たちはなに］／永正 18(1521) 年 5 月 7 日

そてのこほりはーいつとけてまし
ものおもふーこころやはるもーしらさらむ

【天正年間百韻５７巻】／何船［なひきそはむ］／天正 10(1582) 年 1 月 5 日

袖吹きおくる風（そでふきおくるかぜ）

→玉鉾（たまぼこ）

そてふきおくるーみねのこからし
たまほこのーすゑはゆふしもーさえさえて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［かめにさす］／天文 21(1552) 年 2 月 20 日

そてふきおくるーかせのすすしさ
たまほこのーゆくへにしはしーやすらひて

【天正年間百韻５７巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

そでをぬらす
袖を濡らす

→立ち別れ

ゆめにみえてもーそてぬらしけり
なこりさへーゆゆしきはかりーたちわかれ

【出陣千句】／薄何［ちきりきや］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

ゆふへのかすみーそてぬらしけり
まくらかるーあしたのくもにーたちわかれ

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

→草の仮庵

よのなかにーあるかすならすーそてぬれて
いつをかきりそーくさのかりいほ

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

なかなかのーなさけおもへはーそてぬれて
ゆきにやとかすーくさのかりいほ

【文明十四年万句５２巻】／夢想［そのしなも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

なみだがわがそでのうえ
涙が我が袖の上

→思う

つゆもなみたもーわかそてのうへ
ひとしれぬーみにはなにをかーおもふらむ

【文安年間百韻９巻】／山何［ふたたひの］／文安 5(1448) 年 11 月 12 日

いつもなみたのーわかそてのうへ
とふひとやーこよひはかりとーおもふらむ

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

まいのそで
舞の袖

→欄干の奥

あしふみもーさすかよしあるーまひのそて
なこりをおもふーおはしまのおく

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

いりあやもーしたはれてまたーまひのそて
おもかけさたかーおはしまのおく

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［はなさかり］／天正 6(1578) 年 3 月 10 日

ややさむいそで
やや寒い袖

→秋の霜

かりねのゆめもーややさむきそて
おけはたたーつきにまかへるーあきのしも

【大原野十花千句】／何衣［つきはなに］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

はまへたとれはーややさむきそて
つきになほーまさこちしろきーあきのしも

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年 8 月 14 日

その

そののあさがお
園の朝顔

→光りさえ隔たる

うつろひやらぬーそののあさかほ
ひかりさへーかこふあたりはーへたたりて

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

さきそめけりなーそののあさかほ
ひかりさへーきりのまかきにーへたたりて

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

そのまま

そのまま

→ただ面影

みにつるるーたひのなみたのーそのままに
たたおもかけはーあとのふるさと

【文和千句】／何木［なにしるし］／文和 5 年

そのままにーしきもすてたるーしとねにて
たたおもかけはーありあけのゆめ

【永禄年間百韻２８巻】／何路［なつくさの］／永禄 9(1566) 年 5 月 9 日

そば

傍の掛橋（そばのかけはし）

→霜はただ（しもはただ）

たえたえなれやーそはのかけはし
しもはたたーむすふかうへのーあさほらけ

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

くちてあやうきーそはのかけはし
しもはたたーふるかうへにもーかさなりて

【永禄元年花千句】／□□［をりのこす］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

そめる

墨染の袖（すみぞめのそで）

→雨の暮れ（あめのくれ）

いろかをすつるーすみそめのそて
やとりかせーえくちのさとのーあめのくれ

【難波田千句】／□□［ゆくはるに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つゆなこほれそーすみそめのそて
すみかともーこかけをたのむーあめのくれ

【明応年間百韻２２巻】／何木［やまはゆき］／明応 7(1498) 年 11 月 4 日

→柴の庵（しばのいお）

よしせはくともーすみそめのそて
かくすみもーいくほとならむーしはのいほ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［さよかせも］／延徳 2(1490) 年 7 月 23 日

あれはやまとやーすみそめのそて
はなにのみーむすふににたるーしはのいほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

→涙（なみだ）

うきよにやなほーすみそめのそて
いまはみにーのそみのなきもーなみたにて

【菟玖波集／広島大学本】／雑五／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

こころならすのーすみそめのそて
こほるるもーおほえぬものはーなみたにて

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

そら

暁の空（あかつきのそら）

→草枕（くさまくら）

わかるるかりやーあかつきのそら
にはとりのーこゑはきこえぬーくさまくら

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

みしゆめしたふーあかつきのそら
くさまくらーまたうきみちにーおきいてて

【行助関係４種】／行助句／伊地地本／

秋の空（あきのそら）

→月の夕暮れ（つきのゆうぐれ）

われそゆくーかりはこしちのーあきのそら
たましひかよふーつきのゆふくれ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路［しろたへの］／成立時不詳

とはれすはーみをいかにせむーあきのそら
たのめおきつるーつきのゆふくれ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／山何［ほとときす］／成立時不詳

明け方の空（あけがたのそら）

→月は猶（つきはなお）

あめすくるよのーあけかたのそら
つきはなほーおちてすすしきーたまくらに

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

いそのまくらのーあけかたのそら
つきはなほーかたふくままにーかけすみて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるはたた］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年閏 3 月 23 日

あけぼののそら
曙の空

→別れを急ぐ

よこくものこるーあけほののそら
うたてなと－とてものわかれーいそくらむ

【応永年間百韻７巻】／何路［やまみつの］／応永 15(1408) 年 3 月 11 日

うちかすみたるーあけほののそら
いつくにと－わかれをさてもーいそくらむ

【文明十四年万句５２巻】／夢想［たにみつの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→消えない

なほなかきよのーあけほののそら
すさましくーくものひとむらーきえやらて

【難波田千句】／□□［にしきにて］／文明 14(1482) 年 10 月前後

やまこそわかねーあけほののそら
しらゆきはーかさなるみねにーきえやらて

【永正年間百韻３４巻】／白何［さみたれや］／千句第五／永正 15(1518) 年 5 月 14 日

→鐘鳴る

いりえのつきにーあけほののそら
やまこゆるーかりかねまかふーかねなりて

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年 8 月 14 日

さくらかうへのーあけほののそら
かすみよりーよしののみたけーかねなりて

【萱草／伊地知本】／春／文明 6(1474) 年 2 月以前

さくらかうへのーあけほののそら
かすみよりーよしののみたけーかねなりて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

あめのこるそら
雨残る空

→時鳥

てるひもなつのーあめのこるそら
ほとときすーゆくゆくわかぬーこゑききて

【永禄石山千句】／三字中略［こすゑまて］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

やまはみとりにーあめのこるそら
ほとときすーあしたのくもにーなきすてて

【合点之句／神宮文庫本】／夏／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

ありあけのそら
有明の空

→秋の風

つきもなこりのーありあけのそら
いつまてかーききてうらみむーあきのかせ

【表佐千句】／薄何［ゆきてみむ］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

さたかにのこるーありあけのそら
なほふくや－よふねのすゑのーあきのかせ

【文明年間百韻３４巻】／□□［したつゆは］／文明 12(1480) 年 7 月 4 日

→草枕

ねぬよほとふるーありあけのそら
くさまくらーうかれとあきやーふけぬらむ

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［つきをかせ］／文明 12(1480) 年 8 月

つきにねしのはーありあけのそら
くさまくら－いくよともなきーあきくれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

いねがてのそら
寝ねがての空

→月を枕に

おしあけかたのーいねかてのそら
しはのとはーみやまのつきをーまくらにて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

さらてもよははーいねかてのそら
たのめしはーうつろふつきを－まくらにて

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

くれごとのそら
暮れごとの空

→時鳥

ふるきをしのふーくれことのそら
ほとときすーあれたるさとをーかれやらて

【永正十花千句】／山何［けふそみな］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

いつかとまつはーくれことのそら
ほとときすーあやめひくひもーはやすきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

凄まじい空（すさまじいそら）

→旅衣（たびごろも）

ふけゆくままにーすさましきそら
たひころもーかさねまほしきーきぬたにて

【嵯峨千句】／花之何［うめかかは］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

しもふるはかりーすさましきそら
たひころもーたかうつさとにーいそくらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

棚引く横雲の空（たなびくよこぐものそら）

→月残る（つきのこる）

やまにたなひくーよこくものそら
つきのよやーあくるとみえてーのこるらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

みねにたなひくーよこくものそら
つきやまたーかすみかくれにーのこるらむ

【文明十二年千句８巻】／何田［あめのよは］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

旅の空（たびのそら）

→草の枕（くさのまくら）

なくさめとーつきはさやけきーたひのそら
くさのまくらのーあかつきのつゆ

【聖廟千句】／何木［きえぬるか］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かへるさのーあととほさかるーたひのそら
くさのまくらのーよなよなのつき

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

月に有明の空（つきにありあけのそら）

→夜をこめる（よをこめる）

つきにかすみのーありあけのそら
かへるかりーおもひたつ□□ーよをこめて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［はなそあをは］／成立時不詳

つきはきりまにーありあけのそら
あきちかきーをちのかはおとーよをこめて

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

中空（なかぞら）

→秋の初風（あきのはつかぜ）

なかそらにーくるれはつきのーほのかにて
ふきたちけりなーあきのはつかせ

【毛利千句】／何船［みてもおもふ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

ゆくすゑもーおなしみやこのーなかそらに
ふなちにおもふーあきのはつかせ

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

中空の雲（なかぞらのくも）

→見え隠れする（みえかくれする）

はつあきなれやーなかそらのくも
ふしはそのーきりよりうへにーみえかくれ

【文明十四年万句５２巻】／山何［なほさこそ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

こころさわかすーなかそらのくも
ふるさとにーちかつくやまのーみえかくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

長雨の空（ながあめのそら）

→時鳥（ほとときす）

ふりみふらすみーなかあめのそら
ほととぎすーつきになくよやーいつならむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［とふひとや］／永正 18(1521) 年 8 月

なほはれかたきーなかあめのそら
ほととぎすーわかうたかひにーききわひて

【下草／金子本】／夏／延徳 4(1492) 年頃

深い夜の空（ふかいよるのそら）

→有明（ありあけ）

かへすもまつもーふかきよのそら
をくるまのーつきさへにほふーありあけに

【永正年間百韻３４巻】／何色［うゑてみぬ］／永正 6(1509) 年閏 8 月 29 日

とりのなくねはーふかきよのそら
あふさかや―すきのはしろきーありあけに

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

蛍飛ぶ空（ほたるとぶそら）

→秋が来る（あきがくる）

たとるみちをやーほたるとふそら
うすものの―そてにおほゆるーあきのきて

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かせのよるよるーほたるとふそら
あしかきのーすまひはかなきーあきのきて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

村雨の空（むらさめのそら）

→山の端（やまのは）

たたくはかりのーむらさめのそら
やまのはのーくもにいりひのーかたわけて

【天正年間百韻５７巻】／追悼［としをふる］／天正 5(1577) 年 9 月 22 日

なこりしはしのーむらさめのそら
やまのはのーきりまにうすきーよはのつき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

→時鳥（ほととぎす）

すすしくなりぬーむらさめのそら
ほととぎすーあきまつころやーかへるらむ

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

すくるもはやきーむらさめのそら
ほととぎすーいつれのくもにーやとるらむ

【専順関係２種】／夏／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

夕暮れの空（ゆうぐれのそら）

→なる（なる）

やますみふかきーゆふくれのそら
いつしかもーまなくしくれにーなりぬらむ

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

つくつくむかふーゆふくれのそら
きえにしはーいつれのくもとーなりぬらむ

【園塵第三／続群書類従本】／雑下／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→時鳥（ほととぎす）

あつきひしのくーゆふくれのそら
ひとこゑもーまれになりたるーほととぎす

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

そことなにはのーゆふくれのそら
ほととぎすーあしのしのひにーなきすきて

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

うらみをかくるーゆふくれのそら
ほととぎす―またせてもたたーひとこゑに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑上／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

→山里（やまざと）

なくさめかねつーゆふくれのそら
やまさとはーことわりよりもーさひしくて

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑上／文明 8(1476) 年 5 月頃

あしたのかすみーゆふくれのそら
やまさとはーはなのにほひにーとりのこゑ

【論書４種】／宗長／

→我が心（わがこころ）

なかめわひぬるーゆふくれのそら
さりともとーおもひなれそーわかこころ

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋下／文明 8(1476) 年 5 月頃

おもひなつけそーゆふくれのそら
こひしさもーたかなすことそーわかこころ

【北畠家連歌合／書陵部本】／北畠家連歌合／文明 2(1470) 年正月 6 日

雪の中空（ゆきのなかぞら）

→ふきと吹く

くれわたりたるーゆきのなかそら
ふきとふくーあらしのおとはーしつかにて

【羽柴千句】／何人［すくにゆく］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

のはちりきゆるーゆきのなかそら
ふきとふくーかせよりのちのーあさつくひ

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［わけゆかは］／天正 4(1576) 年 8 月 19 日

行く末の空（ゆくすえのそら）

→帰るさ

こたへかたしやーゆくすゑのそら
ことのはもーおよはぬはなのーかへるさに

【葉守千句】／唐何［したをれを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

おもへはやすきーゆくすゑのそら
かへるさにーなるをのふなちーやまみえて

【大永四年月並千二百韻】／□□［かけきゆる］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 8 月 23 日

→植え置く（うえおく）

□□□□□□□ーゆくすゑのそら
とくおそきーはなをかすかすーうゑおきて

【天正四年万句７０巻】／何鳥［はつしもは］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

まかひやせましーゆくすゑのそら
しらゆきのーほとをとはなをーうゑおきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正 6(1509) 年以前

横雲の空（よこぐものそら）

→春の夜（はるのよ）

かすみのまよふーよこくものそら
はるのよのーゆめのわかれはーたとたとし

【文明十四年万句５２巻】／手何［はふったに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひきわかれゆくーよこくものそら
はるのよのーつきにひとすちーかりとひて

【論書４種】／宗長／

た

植える田（うえるた）

→晴れた五月雨の空（はれたさみだれのそら）

さなへとりーみつせきいれてーううるたに
いつをはれまそーさみたれのそら

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

ううるたにーよそのかけひをーせきいれて
はれてくもあるーさみたれのそら

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

打ち返す田（うちかえすた）

→蛙鳴く（かわずなく）

うちかへすーたのものなかれーあめはれて
をりをえかほにーかはつなくなり

【天文十八年梅千句】／何人［みしいろは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

うちかへすーこそのあらたはーさひしきに
ときもわすれすーかはつなくなり

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

おやまだのすえ
小山田の末

→霜枯れ

かへしすてたるーをやまたのすゑ
しもかれのーくすはにかはるーあきのかせ

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

かりのこしぬるーをやまたのすゑ
しもかれのーひとむらすすきーほのかにて

【天正年間百韻５８巻】／□□［あさなあさな］／天正 15(1587) 年 1 月 3 日

おやまだのはら
小山田の原

→秋更ける

やへにきりふるーをやまたのはら
ひとはたたーかりにたにこぬーあきふけて

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日〜8 日

かりのゆくへのーをやまたのはら
みねたかみーふきこすかせのーあきふけて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正元 (1504) 年 7 月

たえだえ

みずのたえだえ
水の絶え絶え

→朝氷

むすひすてたるーみつのたえたえ
ふゆはまたーあさかのぬまのーあさこほり

【園塵第一／続群書類従本】／冬／長享 2 年

かけひのいほにーみつのたえたえ
あさこほりーこよひはしめてーむすふらむ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

みちたえだえ
道絶え絶え

→雪ふる

みちたえたえのーみねのふるてら
あくれともーかとをとちたるーゆきふりて

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜〜8 日＞

みちたえたえの―すゑのふるはた
つまきこる―そはのいはかきーゆきふりて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

たえま

くものたえま
雲の絶え間

→峰の嵐

くものたえまにーほのくるるやま
ふきおくるーみねのあらしのーはつしくれ

【天文年間百韻３８巻】／何木［やまかけて］／天文 21(1552) 年 3 月 11 日

くれそむるーくものたえまにーつきみえて
みねのあらしのーむかふしはのと

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑上／文明 8(1476) 年 5 月頃

たえる

おもいたえる
思い耐える

→連れない

おもひたえよのーひとのこころか
つれなくはーやましといへはーとふもうし

【壁草／大東急記念文庫本】／恋上／永正 8(1512) 年 11 月 3 日〜永正 9 年

おもひたえよのーこころうらめし
つれなくはーみえぬものからーとにかくに

【老葉／毛利本】／恋下／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

たかい

かげたかくなる
影高くなる

→飛ぶ蛍

しけれはやまそーかけたかくなる
なつのよりーくものうへまてーとふほたる

【熊野千句】／何色［なみしけし］／文正元 (1466) 年 3 月以前

さはへのくさそーかけたかくなる
ひとつつつーやとりをいててーとふほたる

【園塵第一／続群書類従本】／夏／長享 2 年

峰高い（みねたかい）

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

みねたかみ―へたつるつきのーあきふけて
つまやいつくのーさをしかのこゑ

【宗長追善千句】／白何［みしやいつ］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

かたをかのーのへのむかひのーみねたかみ
あけはなれてもーさをしかのこゑ

【元亀年間百韻 6 巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

たき

滝の岩浪（たきのいわなみ）

→音羽川（おとわがわ）

こすゑにちるやーたきのいはなみ
おとはかはーおとはかりしてーくるるひに

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かすみかくれにーたきのいはなみ
やまとほくーなかれいてたるーおとはかは

【寛正年間百韻 2 0 巻】／何人［けふこすは］／寛正 3(1462) 年 2 月 27 日

たく

葦火焚く影（あしびたくかげ）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

おなしみなとのーあしひたくかけ
うちみたれーくるるかたよりーとふほたる

【天正年間百韻 5 7 巻】／山何［あをやきの］／天正 3(1575) 年 2 月 2 日

はなれこしまにーあしひたくかけ
とふほたるーゆくかたもなくーさよふけて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

たけ

幾重豊浦の竹の下道（いくえとよらのたけのしたみち）

→また月ある雪の晴れる（またつきあるゆきのはれる）

いくへとよらのーたけのしたみち
にしにまた―つきあるゆきのーけさはれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

いくへとよらのーたけのしたかけ
あめにまた―つきあるゆきのーよるはれて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

呉竹（くれたけ）

→雪の下庵（ゆきのしたいお）

くれたけにーいくたひあられーみたるらむ
けさこそつもる―ゆきのしたいほ

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

をりふしもーすきゆくとしのーくれたけに
いてむかたなき―ゆきのしたいほ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

をしめともーふゆもほとなくーくれたけに
つもりにけりなーゆきのしたいほ

【至徳以前百韻 7 巻】／ｘｘ［はなちりて］／存疑／至徳 4(1387) 年以前

→鳥の声々（とりのこえごえ）

くれたけのーよはのあらしにーめはさめて
かねもきこゆるーとりのこゑこゑ

【文明年間百韻 3 4 巻】／何船［そめよなほ］／文明 14(1482) 年 9 月 20 日

くれたけのーはやしやかせのーさわくらむ
やとりさためぬーとりのこゑこゑ

【元和年間百韻 2 4 巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

零れる竹の葉の露（こぼれるたけのはのつゆ）

→片敷の枕（かたしきのまくら）

こほれてつたふーたけのはのつゆ
かたしきのーまくらのうへのーあきのかせ

【弘治三年春雪千句】／何舟［きえてたに］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

こほれきにけりーたけのはのつゆ
かたしきのーそてもまくらもーひややかに

【元和年間百韻２４巻】／□□［くにくにの］／元和 6(1620) 年 9 月 15 日

竹打ち靡く（たけうちなびく）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

たけうちなひくーをちのかはきり
とふほたるーここにかしこにーくれそめて

【石山四吟千句】／何人［うめかえは］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

たけうちなひくーかけのすすしさ
ほのかにもーかせのまにまにーとふほたる

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

竹の末々（たけのすえずえ）

→微か（かすか）

ゆきをれふかきーたけのすゑすゑ
かすかにもーしはけふらせてーひともなし

【永禄年間百韻２８巻】／何船［うたふよの］／永禄 5(1563) 年 12 月 9 日

ふくかせしるきーたけのすゑすゑ
かすかにもーみちあるかたやーさとならむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

竹の一群（たけのひとむら）

→片岡野辺（かたおかのべ）

たくひのかけはーたけのひとむら
つつしさくーかたをかのへのーあめのうち

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いほのすさひやーたけのひとむら
ゆくひともーかたをかのへのーふゆかれに

【春夢草／書陵部本】／雑／永正 12(1516) 年、13 年

→山本（やまもと）

なひくやかせのーたけのひとむら
やまもとのーつゆのしたみちーくさかれて

【文明年間百韻３４巻】／何人［ちきりあれや］／文明 14(1482) 年 3 月 20 日

かすみになひくーたけのひとむら
やまもとのーはるのあさかはーゆきはれて

【老葉／吉川本】／春／文明 13(1481) 年夏頃

竹を打つ声（たけをうつこえ）

→夜が更ける（よがふける）

あられときときーたけをうつこゑ
ねぬとりよーあなかまよはもーふけぬらむ

【伊庭千句】／三字中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

ゆふへのあめのーたけをうつこゑ
いつのまにーあられふるよのーふけぬらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

靡き合う竹（なびきあうたけ）

→続く（つづく）

なひきあひたるーたけのすゑすゑ
つきうつるーたのもやさとにーつつくらむ

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

なひきあひたるーたけのむらむら
まつたてるーけふりやたえすーつつくらむ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふたちの］／天正 17(1589) 年 6 月 16 日

たける

年長ける（としたける）

→夢も現も（ゆめもうつつも）

いにしへをーおもひわすれすーとしたけて
ゆめもうつつもーおなしかりのよ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

つゆのみとーおもはぬほとにーとしたけて
ゆめもうつつもーあらましのうち

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しもやいと］／応永 31(1424) 年 10 月 26 日

たそがれ

藤の黄昏（ふじのたそがれ）

→春の時鳥（はるのほととぎす）

おほつかなきはーふちのたそかれ
はるとてやーしのひねならしーほとときす

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

まつのこすゑのーふちのたそかれ
はるこそとーはつねまたるれーほとときす

【毛利千句】／一字露顕［なつのひも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

たちばな

風に匂う橘（かぜにおうたちばな）

→玉簾（たますだれ）

かせのいつくかーにほふたちはな
ふかきよをーしらてまきつるーたますたれ

【天文廿四年梅千句】／山何［うちなひき］／天文 24(1555) 年正月 7 日

つゆちるかせにーにほふたちはな
たますたれーのきはのつきにーまきあけて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

匂う橘（におうたちばな）

→小簾の外（こすのと）

したかせとほくーにほふたちはな
こすのとにーくもますすしきーつきふけて

【天文年間百韻３８巻】／何路［ひとこゑや］／天文 14(1545) 年 5 月 8 日

くちきのかたえーにほふたちはな
こすのとにーたちすすみつつーはしゐして

【天正四年万句７０巻】／何文［しのひねに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→朝露（あさつゆ）

こかくれてのみーにほふやまふき
あさつゆにーぬれてやてふのーめくるらむ

【大永年間百韻１４巻】／何木［はなにたて］／大永 8(1528) 年 2 月 23 日

みちのへかけてーにほふやまふき
おきこほれーかすむまかきのーあさつゆに

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

軒の橘（のきのたちばな）

→時鳥（ほととぎす）

かけさしおほふーのきのたちはな
くれぬとてーこのさととふかーほとときす

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

うゑしをおもふーのきのたちはな
こゑたててーきなけみきりのーほとときす

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［あけほのや］／存疑／成立時不詳

ははかりのこるーのきのたちはな
いつくともーしらすなきゆくーほとときす

【文禄二年千句１０巻】／夕何［しくれても］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

たつ

杉の群立ち（すぎのむらだち）

→末に散る花（すえにちるはな）

いらかさひしきーすきのむらたち
かすかなるーこけちのすゑはーちるはなに

【弘治年間百韻８巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

あらしにあくるーすきのむらたち
さきかくすーこすゑわかれてーちるはなに

【成立不詳・宗養以前８巻】／何人［あをやきや］／成立時不詳

涼しさに秋立つ

→蜩の声

すすしくもーゆふひのくもにーあきたちて
こすゑしらるるーひくらしのこゑ

【永禄元年花千句】／□□［あたりまて］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

すすしさのーけふよりしるきーあきたちて
やまはくもまのーひくらしのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

立って浮かれる

→誘う

かすめるのへにーたちそうかるる
そらたかくーひはりやともをーさそふらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［ここのへの］／延徳 2(1490) 年 3 月 8 日

そこはかとなくーたちそうかるる
ものおもひーやとやこころもーさそふらむ

【明応年間百韻２２巻】／何路［こそたちし］／明応 6(1497) 年 1 月 1 日

たつ日の夏衣

→山時鳥

つゆそおくーたちていくかのーなつころも
たひにはつれよーやまほとときす

【池田千句】／何路［はなはしるや］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

なつころもーたちかふるひかすーほともなし
うへなくときかーやまほとときす

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

夏木立

→山時鳥

しらかしのーゆきまやみねのーなつこたち
くもよりいつるーやまほとときす

【永禄石山千句】／初何［しらかしの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

はなはきのふーもみちもあすかーなつこたち
またはつねきくーやまほとときす

【園塵第二／続群書類従本】／夏／明応 4(1495) 年早春

春立つ

→光長閑

ひさかたのーくもゐのにはのーはるたちて
すたれをまけはーひかりのとけし

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

うくひすのーこゑにちさとのーはるたちて
そともにうつるーひかりのとけし

【慶長年間百韻２７巻】／□□［まつやなほ］／裏白／慶長 10(1605) 年 1 月 3 日

村雨がたつ

→露に移ろう

むらさめのーけしきをそらにーさきたてて
のへのくさはそーつゆにうつろふ

【池田千句】／何田［をとめこか］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

むらさめのーあとはほのかにーきりたちて
つゆにうつろふーありあけのかけ

【大永四年月並千二百韻】／□□［としなみの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 12 月 23 日

たとえる

胡蝶の喩え

→百年

こてふのたとへーけにもあたしみ
ももとせもーすくれはかりのーいのちにて

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

こてふのたとへーけにもあたしみ
ももとせもーちかつくよはひーおもはす□

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ゆきにみて］／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

なににたとえよう
何に譬えよう

→吹く風

かかるうらみを－なににたとへむ
あつきひの－ころものすそを－ふくかせに

【宝徳四年千句】／何路［はなにほふ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

よのなかを－なににたとへむ
ふくかせに－とまりさためぬ－あまのつりふね

【菟玖波集／広島大学本】／雑体／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

たどる

かすみにたどるみち
霞にたどる道

→呼子鳥

かすみにたとる－いはのかけみち
よふことり－なきてこころの－しるへせよ

【葉守千句】／白何［こからしを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

かすみにたとる－みちのをちこち
よふことり－こゑするかたに－ひはくれて

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

たなばた

たなばた
七夕

→有明の空

たなはたの－まれのひとよも－よよはへぬ
まちえしあきの－ありあけのそら

【熊野千句】／何人［よろつとせ］／文正元 (1466) 年 3 月以前

たなはたの－いとよりけなる－はきのつゆ
かりなくつきは－ありあけのそら

【天文年間百韻３８巻】／何人［はなのいろも］／天文 14(1545) 年 2 月 25 日

たなびく

たなびくよこぐものそら
棚引く横雲の空

→月残る

やまにたなひく－よこくものそら
つきのよや－あくるとみえて－のこるらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

みねにたなひく－よこくものそら
つきやまた－かすみかくれに－のこるらむ

【文明十二年千句８巻】／何田［あめのよは］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

たに

たにのいお
谷の庵

→住む峰の古寺

ふくるよに－つきまちかぬる－たにのいほ
すまはやあきの－みねのふるてら

【河越千句】／二字反音［はるみても］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

ちきりても－ひとはとはめや－たにのいほ
みれはつきすむ－みねのふるてら

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

たのしむ

たのしみをきわめる
楽しみを極める

→仮のこの世

たのしみを－きはめよとのみ－とくのりに
かりのこのよは－すみもわひめや

【飯盛千句】／何路［しけるきに］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

たのしみを－きはむるくには－たのもしや
かりのこのよは－とにもかくにも

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

楽しむ（たのしむ）

→里の富草（さとのとみくさ）

たみまてもーをさまるよをはーたのしみて
ゆるすみつきはーさとのとみくさ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永 19(1412) 年 1 月 14 日

けふりたつーあきのかまとはーたのしみて
かりをさめたるーさとのとみくさ

【看聞日記紙背５０巻】／何木［としもはや］／応永 27(1421) 年 12 月 12 日

たのむ

住吉の松と頼む（すみよしのまつとたのむ）

→徒浪が袖濡らす（あだなみがそでぬらす）

すみよしのーまつとたのめしーかひもなく
なにあたなみのーそてぬらすらむ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

すみよしのーまつとたのめしーほかにまた
なにあたなみのーそてぬらすらむ

【菟玖波集／広島大学本】／恋中／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

何頼む（なにたのむ）

→朝顔の花（あさがおのはな）

わかよのつゆにーなにたのむらむ
あさかほのーはなにもみをはーおとろかて

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

はかなきこころーなにたのむらむ
あさかほのーはなに□□□のーうちみたれ

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

人頼み（ひとだのみ）

→訪れて（おとずれて）

みにしむかせそーひとたのめなる
いまこむとーゆふくれことにーおとつれて

【因幡千句】／初何［ゆきはなほ］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

はかなのゆめやーひとたのめなる
わすらるるーちきりになせはーおとつれて

【明応年間百韻２２巻】／何路［うつろはて］／明応 3(1494) 年 10 月 30 日

→慣れ慣れる（なれなれる）

そよきてをきのーひとたのめなる
さをしかのーきりのまかきにーなれなれて

【平松文庫本千句】／□□［ふゆはつき］／

ひとたのめなるーくれもあやなし
ささかにのーかねてしるきもーなれなれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

身を頼むな（みをたのむな）

→命（いのち）

いつくもかりのーみをなたのみそ
たれもよにーありははてしのーいのちにて

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

ゆふへのつゆのーみをなたのみそ
けさのまをーつきかけろふのーいのちにて

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本 a／

たび

出る旅人（いづるたびびと）

→仮枕（かりまくら）

まとろみあへすーいつるたひひと
かりまくらーかねややまちにーさそふらむ

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

やすらふのへをーいつるたひひと
かりまくらーむすへはつきのーおつるよに

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

旅衣（たびごろも）

→野は遥か（のははるか）

たひころもーたちやすらはむーかけもなし
のるこまなつむーのははるかなり

【天文年間百韻３８巻】／何路［ひとこゑや］／天文 14(1545) 年 5 月 8 日

たひころもーひもなかあめのーそほふりて
かすみわけこしーのははるかなり

【天和年間百韻２巻】／□□［おいかみに］／天和 2(1682) 年 4 月 3 日

旅にある（たびにある）

→草枕（くさまくら）

たひにしあれはーやとりとらなむ
いりひさすーあさちかもとのーくさまくら

【伊庭千句】／山何［たまたれの］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

たひにしあれはーはるそものうき
とほきのの―つきにゆふへのーくさまくら

【永享年間百韻４巻】／山何［くちてけり］／永享 12(1440) 年 10 月 16 日

旅の悲しさ（たびのかなしさ）

→時鳥（ほととぎす）

なくさめかねつーたひのかなしさ
ほとときすーまくらのうへにーなきすてて

【顕証院会千句】／唐何［みたれけり］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

とほくもなれるーたひのかなしさ
ききなるるーやまをいてゆくーほとときす

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

旅の衣手（たびのころもで）

→里もない（さともない）

しくれそぬるるーたひのころもて
めにかけてーいそくこかくれーさともなし

【聖廟千句】／山何［ぬるとりの］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

つゆけささそなーたひのころもて
やとるへきーのはくれそめてーさともなし

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

旅の空（たびのそら）

→草の枕（くさのまくら）

なくさめとーつきはさやけきーたひのそら
くさのまくらのーあかつきのつゆ

【聖廟千句】／何木［きえぬるか］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かへるさの―あととほさかるーたひのそら
くさのまくらの―よなよなのつき

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

旅は憂い（たびはうい）

→袖が露っぽい（そでがつゆっぽい）

たひそうき―こころはあきにーとまりふね
やとなきあまりーそてはつゆけし

【紫野千句】／何路［あふちさく］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

たひそうきーくさのまくらをーゆふまくれ
はらふともなくーそてはつゆけし

【太神宮法楽千句】／何路［ふきなかす］／長享 2(1488) 年 7 月

旅は悲しい（たびはかなしい）

→草枕（くさまくら）

あらましにさへーたひそかなしき
くさまくらーいもをおきてはーいかかねむ

【住吉千句】／何路［つきすめは］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

みやこにはにすーたひそかなしき
くさまくらーとふらふつきはーありなから

【文明十四年万句５２巻】／夢想［そのしなも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→仮枕（かりまくら）

ともはあれとも－たひそかなしき
かりまくら－くにかはりたる－かたらひに

【永原千句】／何人［みわたせは］／明応9(1500) 年 7 月 17 日

にたるをみるも－たひそかなしき
まよひきて－くもゐるみねの－かりまくら

【老葉／毛利本】／恋上／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

月の旅の道（つきのたびのみち）

→後の世の秋（のちのよのあき）

つきならは－いさとてゆかむ－たひのみち
まよふななけく－のちのよのあき

【文明十四年万句５２巻】／花何［みたすなよ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

はれよくも－つきこそたより－たひのみち
おもふもつらし－のちのよのあき

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ｂ／

別れる旅は悲しい（わかれるたびはかなしい）

→逢う人（あうひと）

わかれゆくゆく－たひそかなしき
あふひとも－かたみになこり－うちなきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／恋下／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

けふわかれしも－たひそかなしき
あふひとも－またふるさとの－なこりにて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

たましまがわ

玉島川（たましまがわ）

→水の鍖鮎（みずのさびあゆ）

なみにちる－たましまかはの－とまりふね
つきにひかるや－みつのさひあゆ

【応永年間百韻７巻】／□□［ｘｘはせて］／応永 24(1417) 年 3 月 16 日

よるひかる－たましまかはの－あきのつき
みしふかくれの－みつのさひあゆ

【文安年間百韻９巻】／何船［ときはなる］／文安元 (1444) 年 10 月 12 日

たまずさ

雁の玉章（かりのたまずさ）

→隔つ古里（へだつふるさと）

たかおとつれそ－かりのたまつさ
ふるさとの－そらをはきりや－へたつらむ

【文安雪千句】／何船［かせにとふ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

かりねにたのむ－かりのたまつさ
ふるさとは－いくくもゐちを－へたつらむ

【池田千句】／何ｘ［ゆきそちる］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

たまぼこ

玉鉾（たまぼこ）

→袖の色々（そでのいろいろ）

たまほこの－たそかれときを－ゆきすきて
あやめもわかぬ－そてのいろいろ

【紹巴亡父追善千句】／何袋［みつのあわの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

たまほこの－ゆくへわかれぬ－ひはくれて
かすみにかはす－そてのいろいろ

【大永三年月並千三百韻】／□□［こほるなよ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 7 月 23 日

たよる

松を頼りに（まつをたよりに）

→立ち返る（たちかえる）

まつをたよりに－すめるしはのと
たちかへる－やとははしらの－くちのこり

【天正年間百韻５７巻】／□□［うくひすも］／天正 14(1586) 年 1 月 4 日

まつをたよりに－かこふしはかき
たちかへる－はるもこころも－わかやかに

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［まつうきて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

だれ

誰が里（たがさと）

→有明方（ありあけがた）

うめのはなーたかさとまてかーにほふらむ
ありあけかたの―はるのよのつき

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

たかさとまてかーしくれゆくらむ
かみなつきーありあけかたのーねさめして

【大永三年月並千三百韻】／□□［つゆもをし］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 9 月 23 日

誰帰る（だれかえる）

→人もなし（ひともなし）

わかいへいへにーたれかへるらむ
やまさくらーちるこのもとはーひともなし

【初瀬千句】／何人［なつやまに］／享徳元・2(1452) 年、4 月

たれかへるらむーまつかけのさと
みちのへにーかせはおとしてーひともなし

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

誰なのか（だれなのか）

→心であればなあ（こころであればなあ）

おろそかのーすまひもゆかしーたれならむ
きよきをまなふーこころともかな

【永原千句】／薄何［ふきとちよ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

よにすみてーしをれぬそてよーたれならむ
うきにつれなき―こころともかな

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑下／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

誰に忘れる（だれにわすれる）

→辛い（つらい）

おもひなそへそーたれにわすれむ
つらしとて―うつるならひはーしらぬよに

【文明年間百韻３４巻】／山何［かせにたちし］／文明 18(1486) 年 9 月 30 日

こひしきことをーたれにわすれむ
つらしとてーまたいつかたにーうつらまし

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かけすすし］／延徳 4(1492) 年 6 月 1 日

誰を訪おうか（だれをとおうか）

→草の原（くさのはら）

たれをかとはむーしらぬゆふくれ
さきたたはーはなもあはれめーくさのはら

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

たれをかとはむーあはれともみし
ちきりてもーえやはなへてのーくさのはら

【明応年間百韻２２巻】／何人［かきりさへ］／明応 8(1499) 年 3 月 20 日

きえなむつゆをーたれにとはまし
よのつねのーあはれをたのむーくさのはら

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

あきになるかとーたれにとはまし
つきをたたーすむひとなれやーくさのはら

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

誰を待つ（だれをまつ）

→夕べ（ゆうべ）

たまゆらのよにーたれをまつらむ
いのちこそーものおもはするーゆふへなれ

【宝徳四年千句】／唐何［さすはなや］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

をきふくかせにーたれをまつらむ
うきあきもーきみこそしらむーゆふへなれ

【老葉／書陵部宗訊筆本】／恋下／

→呼子鳥（よぶこどり）

はるゆくまてにーたれをまつらむ
みをつくすーこゑのかなしきーよふことり

【享禄年間百韻８巻】／懐旧［ゆふたちの］／享禄 5(1532) 年 6 月 8 日

はなのあるしのーたれをまつらむ
こえくれはーなほはなふかくーよふことり

【下草／龍谷大学本】／春／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

誰を松虫の鳴く（だれをまつむしのなく）

→訪う人も嵐の山の秋の暮れ（とうひともあらしのやまのあきのくれ）

あかつきたれをーまつむしのなく
とふひともーあらしのやまのーあきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

いまはたれをかーまつむしのなく
とふひともーあらしのやまのーあきのくれ

【行助関係４種】／行助句／伊地地本／

ちかい

秋近くなる（あきちかくなる）

→心細い花落ちる頃（こころぼそいはなおちるころ）

おほつかなーあきもやちかくーなりぬらむ
こころほそしなーはなおつるころ

【心敬関係１０種】／芝草内岩橋／本能寺本／

くれそうきーあきもやちかくーなりぬらむ
こころほそしなーはなおつるころ

【河越千句】／山何［うくひすに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

近い川音（ちかいかわおと）

→涼しさ（すずしさ）

なみたかかれやーちかきかはおと
すすしさはーまたぬにうかふーあきのくも

【石山四吟千句】／薄何［うつせみの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

あめのうちよりーちかきかはおと
すすしさはーなつのほかなるーやなきかけ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

近い山里（ちかいやまざと）

→思いやる（おもいやる）

めさますかねのーちかきやまさと
おもひやるーみやこのつきにーまくらして

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

ゆきのつまきのーちかきやまさと
おもひやるーひなのすまひのーふゆこもり

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

野辺近い鶯（のべちかいうぐいす）

→雪の竹の末々（ゆきのたけのすえすえ）

のへちかきーやとのうくひすーねをたえて
ゆきをれふかきーたけのすゑすゑ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［うたふよの］／永禄 5(1563) 年 12 月 9 日

のへちかきーにはのうくひすーこゑそひて
ゆきのとけゆくーたけのすゑすゑ

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

山近い（やまちかい）

→花待ち遠い（はなまちどおい）

やまちかきーよしののさとはーかせさえて
はなまちとほにーおもふはつはる

【美濃千句】／何心［つゆにきえ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

やまちかきーいほのきたまとーひきとちて
はなまちとほにーおくるつれつれ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［つきやあらぬ］／寛文 13(1673) 年 7 月 19 日

ちぎり

ただ有り無しの契り（ただありなしのちぎり）

→内の形（うちのかたち）

たたありなしのーちきりなりけり
あめつちもーうらみのうちのーかたちにて

【文明年間百韻３４巻】／何路［みるままに］／文明 12(1480) 年 8 月

たたありなしの―ちきりなりけり
ひともよも―かかみのうちの―かたちにて

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

契り（ちぎり）

→人の面影（ひとのおもかげ）

またこぬは―ゆめにまさらぬ―ちきりにて
これになくさむ―ひとのおもかけ

【応永年間百韻７巻】／□□［ｘｘはせて］／応永 24(1417) 年 3 月 16 日

はかなきに―なしもはてぬは―ちきりにて
とことはにそふ―ひとのおもかけ

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

→夢の面影（ゆめのおもかげ）

かりそめに―みしをこのよの―ちきりにて
さむれはしたふ―ゆめのおもかけ

【宝徳四年千句】／何路［はなにほふ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

うらかたも―たのむもあたし―ちきりにて
みえこしもたた―ゆめのおもかけ

【羽柴千句】／山何［なきめくる］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

夕顔の契り（ゆうがおのちぎり）

→黄昏時（たそがれどき）

ゆふかほの―やともかりなる―ちきりにて
たそかれときそ―ひとはまたるる

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

ゆふかほの―はなはちきりの―しるへにて
たそかれときそ―こころうかるる

【看聞日記紙背５０巻】／何物［いつれみむ］／応永 32(1425) 年 9 月 17 日

ちどり

千鳥鳴く（ちどりなく）

→うち時雨れる（うちしくれる）

かせにたたよふ―ちとりなくなり
いくたひも―ねさめのまくら―うちしくれ

【天文廿四年梅千句】／何路［とりのねも］／天文 24(1555) 年正月 7 日

ゆけきになれは―ちとりなくなり
ふるさとの―さほのかはらの―うちしくれ

【壁草／書陵部本】／冬／永正 9 年

→帰る（かえる）

つきまつなみに―ちとりなくなり
あととめぬ―ゆめやよのまに―かへるらむ

【表佐千句】／何船［はなやちる］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

きけははるかに―ちとりなくなり
ふきくらす―あらしやまつに―かへるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

千鳥鳴く声（ちどりなくこえ）

→思いかねる（おもいかねる）

ゆくかたをなみ―ちとりなくこゑ
おもひかね―たつぬるみちに―さよふけて

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

よふねにきくは―ちとりなくこゑ
おもひかね―いもねぬたひを―しるままに

【至徳以前百韻７巻】／何木［かみかきの］／至徳 4(1387) 年以前

群千鳥（むらちどり）

→真砂路の末（まさごじのすえ）

ゆくかたは―いつこなるらむ―むらちとり
ゆふかけさむき―まさこちのすゑ

【羽柴千句】／千何［あくるよを］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

したゐるも―たちさわきぬる―むらちとり
かへるとまやは―まさこちのすゑ

【慶長年間百韻２７巻】／懐旧［みなそこの］／慶長 4(1599) 年 5 月 2 日

かたかたに―なきたちてゆく―むらちとり
おくしもふかき―まさこちのすゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［けふことに］／裏白／慶長 8(1603) 年 1 月 3 日

ちょう

蝶の哀れさ（ちょうのあわれさ）

→打ち交わす（うちかわす）

ほかよりきたる―てふのあはれさ
はるかせの―ふくのまにまに―うちかすみ

【住吉千句】／何人［ゆきはれて］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

そのにひとりの―てふのあはれさ
ひとみえぬ―のへのゆくへは―うちかすみ

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

ちる

風に花散る（かぜにはなちる）

→春の夢（はるのゆめ）

かせはなほ―あをはにのこる―はなちりて
はるのゆめこそ―ことにあたなれ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［のちやゆき］／応永 28(1421) 年 2 月 25 日

いつもふく―まつかせつらき―はなちりて
はるのゆめこそ―やかてさめぬれ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［あらしにも］／存疑／成立時不詳

桜散る陰（さくらちるかげ）

→春ながら（はるながら）

なこりもとめす―さくらちるかけ
はるなから―いはなみはやき―よしのかは

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正 2(1505) 年 9 月 13 日

ひはらさひしく―さくらちるかけ
はるなから―なほふるゆきの―さえさえて

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

散るのが惜しい（ちるのがおしい）

→鶉鳴く（うずらなく）

うすはなすすき―ちらまくもをし
うつらなく―かたやまくれて―さむきひに

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

なみよるをはな―ちらまくもをし
うつらなく―のへのふるみち―またやこむ

【大永年間百韻１４巻】／何人［つきやふね］／大永 2(1522) 年 8 月

散る花（ちるはな）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

ちるはなの―なみのしたくさ―かせみえて
やなきやうきね―うくひすのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

ちるはなの―やまちやきりに―まかふらむ
たにのといつる―うくひすのこゑ

【元亀年間百韻６巻】／何船［むさしのも］／元亀 3(1572) 年 3 月 18 日

→鶯が鳴く（うぐいすがなく）

ちるはなの―のちにはいかて―つけぬらむ
けさはつこゑの―うくひすそなく

【天正四年万句７０巻】／何船［そらにまつ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

ちるはなの―とかをはかせに―なしはてて
こつたひすてす―うくひすそなく

【下草／龍谷大学本】／春／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

花散る（はなちる）

→残り多い

やよひにもーまたなりやらぬーはなちりて
のこりおほくも―ひこそなかけれ

【伊勢千句】／薄何［たかための］／大永2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

みはやすをーまちあへぬまのーはなちりて
のこりおほくもーはるはいぬめり

【天文年間百韻３８巻】／何木［あすのなを］／天文 17(1548) 年 8 月 14 日

→春の暮れ方

とはぬをもーみれはわすれしーはなちりて
ふるさとさひしーはるのくれかた

【美濃千句】／何色［しくれつつ］／文明4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

したもえのーくさのいろともーはなちりて
のもあをみゆくーはるのくれかた

【天正四年万句７０巻】／何船［そらにまつ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→春の寂しさ

あめかせのーこころあはするーはなちりて
とりさへかへるーはるのさひしさ

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

うゑしよはーしるひともなきーはなちりて
ふるののおくのーはるのさひしさ

【宮島千句】／何袋［さきこすか］／天文20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

つかえる

仕え人

→家々の風

あふききてーきみにいくよをーつかへひと
いやさかえゆく―いへいへのかせ

【熊野千句】／初何［をるはなに］／文正元 (1466) 年 3 月以前

かりそめのーいとまもなみのーつかへひと
ほまれあるこそーいへいへのかせ

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

つき

暁月

→時雨

あかつきつきはーきりにかくれて
さむしろのーつゆのいくたひーしくるらむ

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

あかつきつきはーわれのみもみし
あやにくにーあきのそらなとーしくるらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かけすすし］／延徳 4(1492) 年 6 月 1 日

秋の月

→袖が露っぽい

きりはれてーかけすさましきーあきのつき
はらひもあへぬーそてのつゆけさ

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

しらしらとーすみかもりいるーあきのつき
むかしみさりし―そてのつゆけさ

【文明十四年万句５２巻】／花何［みたすなよ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

秋の夜の月

→身にしみる

ひとのかたみのーあきのよのつき
しもまよふーかれののすすきーみにしみて

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

あくかれてゆくーあきのよのつき
ものおもふーみちののかせはーみにしみて

【諸尊法紙背３巻】／手何［むすふにも］／建武 4(1337) 年 6 月 23 日

→野分する

あさちかやとをーあきのよのつき
かこはれしーつゆのたよりもーのわきして

【文亀年間百韻４巻】／何人［きえしよの］／文亀 2(1502) 年 8 月 6 日

むくらかおくのーあきのよのつき
いつこにもーさはるかけなくーのわきして

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

明けやすい月（あけやすいつき）

→逢う後朝は憂い（あうきぬぎぬはうい）

あけやすきーつきのゆくへのーをしまれて
まれにあふよのーきぬきぬはうし

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄3(1594) 年５月 12 日～16 日

あけやすきーつきのかりふしーおきいてて
あふひとからのーきぬきぬはうし

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年８月 14 日

有明の月（ありあけのつき）

→憂いものはない（ういものはない）

ありあけのーつれなきつきもーすめるよに
なほあきはかり―うきものはなし

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］／長享 2(1488) 年７月

ありあけのーつきもなこりとーかへるかり
こひよりほかに―うきものはなし

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏６月 25 日

→帰る雁（かえるかりがね）

ありあけのーつきやあらぬとーかすむよに
きけはくもゐをーかへるかりかね

【永享年間百韻４巻】／山何［おいまつは］／万句巻頭／永享 9(1437) 年３月 21 日

ありあけのーつきはかすみにーほのみえて
ゆめもまくらにーかへるかりかね

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501) 年３月 18 日

→雁の声（かりのこえ）

かすみなからもーありあけのつき
よもすから―かへるやとほきーかりのこゑ

【文明十二年千句８巻】／何木［なもしるし］／文明 12(1480) 年４月 10 日～＊日

あかつきかたのーありあけのつき
なかめやる―くももはつかのーかりのこゑ

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはらも］／天正 4(1576) 年５月６日～7月 19 日

→時鳥（ほととぎす）

なかめをしたふーありあけのつき
ほとときすーなきつるこゑはーとほさかり

【平松文庫本千句】／□□［ゆきはみちの］／

ふるきみやこのーありあけのつき
ほとときす―ねさめかたらふーよはふけて

【文明年間百韻３４巻】／何路［やまかせに］／文明 15(1483) 年３月２日

→武蔵野と草枕（むさしのとくさまくら）

はなのくもまにーありあけのつき
むさしのや―しのきしくさにーまくらして

【元亀二年千句】／朝何［あたにちる］／元亀 2(1571) 年３月５日

たひねいくよのーありあけのつき
むさしのやーわけもつくさぬーくさまくら

【天正年間百韻５７巻】／何垣［ゆくそてに］／天正 11(1583) 年閏１月１日

→暁（あかつき）

みれはみにしむーありあけのつき
あかつきのーあらしにゆめのーさめてのち

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明 14(1482) 年７月４日～９月 14 日

みよとやのこるーありあけのつき
あかつきのーかねよりのちもーよはなかし

【菟玖波集／広島大学本】／秋下／文和5(1356) 年冬～翌年の春

→秋の雲（あきのくも）

いるかけいそくーありあけのつき
ふくかせにーたかねはなるるーあきのくも

【天正四年万句７０巻】／何色［ちるはなも］／天正 4(1576) 年５月６日～7月 19 日

またもあはなむーありあけのつき
うちやまのーあかつきさひしーあきのくも

【下草／龍谷大学本】／秋／延徳 2(1490)年～3 年春頃

→秋更ける

ころはよさむの―ありあけのつき
さねこむとーいひしなからにーあきふけて

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

たもとにおつるーありあけのつき
やまもなきーのへのかりふしーあきふけて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／雑／永正 6(1509) 年以前

→風冴える

むしのねほそき―ありあけのつき
ふきとほす―かへのすきまのーかせさえて

【石山四吟千句】／三字中略［あさかほの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

みつのうへなるーありあけのつき
よこのうみーよころのあきのーかせさえて

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

→山越える

つゆももらさぬーありあけのつき
くもはけさーしくるるあきのーやまこえて

【文明十四年万句５２巻】／夢想［そのしなも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

たもとにかすむーありあけのつき
とりのこゑーはなのにほひにーやまこえて

【愚句老葉】／春／永正 17 年

古の月（いにしえのつき）

→憂い秋

みしはいつそのーいにしへのつき
うきあきにーよのことわりもーおほほえす

【享徳二年千句】／唐何［こころひく］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

おもかけはたたーいにしへのつき
とほからぬーよはのとたえも―うきあきに

【下草／龍谷大学本】／恋下／延徳 2(1490)年～3 年春頃

朧月夜（おぼろづきよ）

→長閑な枕

おほろつきよにーゆくそらもなき
のとかなる―まくらやゆめをーしたふらむ

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

おほろつきよにーしくあきもやは
のとかなる―まくらもとらてーあかしはて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

→時鳥の声

おほろつきよのーゆめをのこして
ほとときすーはるのまくらのーひとこゑに

【紹巴亡父追善千句】／何木［おとろけと］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

おほろつきよのーあけのこるやま
ほとときすーそれかいまやとーこゑすきて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きたにみる］／成立時不詳

朧に残る有明の月（おぼろにのこるありあけのつき）

→棚無し小舟の音

おほろにのこるーありあけのつき
ほそえこくーたななしをふねーおとすみて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

おほろにのこるーありあけのつき
はるのよの―たななしをふねーおとふけて

【論書４種】／宗長／

思う事と月（おもうことつき）

→秋の天橋立

おもふこと―なくてやつきにーむかふらむ
あきにもあかぬーあまのはしたて

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

おもふこと－それともわかぬ－つきをみて
いつくのあきか－あまのはしたて

【大永三年月並千三百韻】／□□［やまいくへ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 8 月 23 日

仮寝の月影（かりねのつきかげ）

→花打ち香る（はなうちかおる）

かけかすむ－かりねのつきの－あくるよに
はなうちかをり－とりのなくこゑ

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かりねのつきの－かけさむきそら
わくるのの－はなうちかをり－すゑくれて

【天正四年万句７０巻】／何風［ふりつもる］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

手枕の月（たまくらのつき）

→夢覚める（ゆめさめる）

なみたにかかる－たまくらのつき
ものうかる－をののかりねに－ゆめさめて

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

かたみかほなる－たまくらのつき
いにしへの－たたちかなしき－ゆめさめて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

月出やる（つきいでやる）

→稲妻の陰（いなずまのかげ）

つきにこそ－ちきりしものを－いてやらて
よひふけかたの－いなつまのかけ

【宗長追善千句】／夕何［はるのひに］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

みねたかみ－まちまつつきの－いてやらて
いくたひくもに－いなつまのかけ

【伊予千句】／ｘｘ［いつはとは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

月出る（つきいでる）

→秋の村雨（あきのむらさめ）

かけほそく－ゆふへのそらに－つきいてて
ひややかにふる－あきのむらさめ

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かせわたる－くものはやしに－つきいてて
いろもこすゑの－あきのむらさめ

【天文年間百韻３８巻】／何路［はなをおきて］／天文 20(1551) 年 3 月 26 日

→風渡る（かぜわたる）

かけやとす－つゆをたつぬる－つきいてて
のはうすきりに－かせわたるなり

【石山四吟千句】／薄何［うつせみの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

ますらをか－しけみのゆくて－つきいてて
ものすさましき－かせわたるなり

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

→真砂路の末（まさごじのすえ）

ふきわくる－まつはのかせに－つきいてて
しはしやすらふ－まさこちのすゑ

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

くれぬれは－みきはにしろく－つきいてて
なみのつゆちる－まさこちのすゑ

【文明十四年万句５２巻】／何霜［はつあきの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→夜が長い（よがながい）

ゆふやまの－いろあるくもに－つきいてて
しかなくころは－よこそなかけれ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［あきかせの］／応永 15(1408) 年 7 月 23 日

ふけてのちーやまち□□□はーつきいてて
かねきくまて□ーよこそなかけれ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

月落ちる

→秋の初霜

かきりあるーとりもなくなくーつきおちて
そらにみちゆくーあきのはつしも

【文安雪千句】／朝何［ゆきさそへ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ひきすつるーとやまのくもにーつきおちて
めくるのきはにーあきのはつしも

【伊予千句】／何人［たちはなは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かけきよきーまさこのうへにーつきおちて
ややさむからしーあきのはつしも

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

月影澄む

→露寒い袖

ふりにけるーのてらのつきのーかけすみて
あかつきおきのーつゆさむきそて

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

やとりとるーつきはゆふへにーかけすみて
むしのねみたれーつゆさむきそて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

月が霞む

→残る

さかののてらのーつきそかすめる
のとかなるーあらしのくもやーのこるらむ

【初瀬千句】／何水［うのはなの］／享徳元・2(1452) 年、4 月

あさとあくれはーつきそかすめる
かやりたくーねやにけふりやーのこるらむ

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

月が霞む夜

→雲居を帰る雁

ありあけのーつきやあらぬとーかすむよに
きけはくもゐをーかへるかりかね

【永享年間百韻４巻】／山何［おいまつは］／万句巻頭／永享 9(1437) 年 3 月 21 日

つきかけはーみえみみえすみーかすむよに
くもゐちたとりーかへるかりかね

【成立不詳・宗砌以前６巻】／ｘｘ［うめなれや］／成立時不詳

月が傾く

→古里に秋の風

むかしかたりにーつきそかたふく
ふるさとをーとへはをきふくーあきのかせ

【文明年間百韻３４巻】／何船［かへれとて］／文明 18(1486) 年 3 月 27 日

たひねのまくらーつきそかたふく
ふるさとにーなみたつたへよーあきのかせ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

→秋の夜

つきかたふきぬーたれをまつらむ
たのめねとーひとりはねしのーあきのよに

【葉守千句】／一字露顕［よやさむき］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かくれてくもにーつきかたふきぬ
あふきをもーおきわすれぬるーあきのよに

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

月が氷る

→虫の音

ちはらかつゆのーつきそこほるる
むしのねをーたもとにかくるーよはふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

みなからつゆのーつきそこほるる
むしのねをーまそてにえらふーよはふけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

→夜が更ける

ちはらかつゆの－つきそこほるる
むしのねを－たもとにかくる－よはふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

みなからつゆの－つきそこほるる
むしのねを－まそてにえらふ－よはふけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

月がさやか

→霧晴れる

やまよりほかの－つきそさやけき
やりみつに－まかきとみえし－きりはれて

【因幡千句】／何路［たけにこゑ］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

てらすくもゐの－つきそさやけき
きりはれて－かすこそみゆれ－あまつかり

【応仁年間百韻６巻】／何人［ときはきを］／応仁元 (1467) 年 10 月 17 日

月がほのめく

→秋風

やまをしみれは－つきそほのめく
あきかせに－くさのとほそを－たちいてて

【永原千句】／千何［ひととせは］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

ふかきみねより－つきそほのめく
いはかねわ－かりねのとこの－あきかせに

【大永四年月並千二百韻】／□□［うのはなの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 4 月 23 日

月冴える

→千鳥鳴く声

おほそらに－こよひみちたる－つきさえて
ゆふしほさひし－ちとりなくこゑ

【出陣千句】／薄何［ちきりきや］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

かはみつの－ともにこほれる－つきさえて
よふねにきくは－ちとりなくこゑ

【至徳以前百韻７巻】／何木［かみかきの］／至徳 4(1387) 年以前

月差し出る

→秋風

つきさしいつる－ふねのしらなみ
あきかせに－あまのいさりひ－よるきえて

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

つきさしいつる－をちかたのやま
あきかせに－しのひゆくよは－やすからて

【延徳年間百韻１６巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳 4(1492) 年 3 月 3 日

月澄む

→秋風が吹く

かみよより－たましまかはの－つきすみて
かきりもなみに－あきかせそふく

【弘治三年春雪千句】／何衣［なくきしの］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

つゆしもの－ふ□□□やとは－つきすみて
かれののあさち－あきかせそふく

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

→天つ雁

かけもみに－さしやとほると－つきすみて
ねぬめもさむる－あまつかりかね

【池田千句】／唐何［つゆかけて］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

おほろけに－かたへよふかき－つきすみて
まくらにちかし－あまつかりかね

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

→衣打つ声

ことさらにーおもふはしらむーつきすみて
ひひきはわかすーころもうつこゑ

【浅間千句】／一字露顕［にほふひは］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日〜19 日

やまかせのーふきそふよはのーつきすみて
いくさとさとのーころもうつこゑ

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

月に有明の空（つきにありあけのそら）

→夜をこめる（よをこめる）

つきにかすみのーありあけのそら
かへるかりーおもひたつ□□ーよをこめて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［はなそあをは］／成立時不詳

つきはきりまにーありあけのそら
あきちかきーをちのかはおとーよをこめて

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

月に霜（つきにしも）

→近い雁（ちかいかりがね）

つきにしもーいそきてこゆるーやまたかみ
くもゐのいつちーちかきかりかね

【五吟一日千句】／何路［いそのなみ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

つきにしもーさはたのすゑのーみつおちて
きりのひまよりーちかきかりかね

【慶長年間百韻２７巻】／□□［うめかかは］／裏白／慶長 11(1606) 年 1 月 3 日

月の明石潟（つきのあかしがた）

→岡辺の秋（おかべのあき）

すまよりもーよはなほつきにーあかしかた
をかへのあきのーすこきしはのや

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

ゆふきりもーはれゆくつきのーあかしかた
をかへのあきのーうらそさひしき

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

月の入方（つきのいりがた）

→秋の空（あきのそら）

あけなむとするーつきのいりかた
やまのはにーくもひきわたすーあきのそら

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

ひかりをさまるーつきのいりかた
なかめすやーおもひなくともーあきのそら

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

月の川上（つきのかわかみ）

→鐘の音（かねのおと）

かけはしとほきーつきのかはかみ
かねのおとーくるるもなみのーまかひにて

【永禄年間百韻２８巻】／何人［ふちかえや］／永禄 7(1564) 年 3 月 15 日

さやかにうつるーつきのかはかみ
きりはるるーゆふへのそらのーかねのおと

【天正年間百韻５７巻】／何路［たちそひて］／天正 6(1578) 年 1 月 3 日

月の寂しさ（つきのさびしさ）

→映る（うつる）

ほのかにすめるーつきのさひしさ
あきのよもーいくねさめにかーうつるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

□もきにましるーつきのさひしさ
まつむしのーなくねにさよやーうつるらむ

【天正四年万句７０巻】／何木［さくはなの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

→秋の空（あきのそら）

あかつきちかきーつきのさひしさ
あきのそらーくもはいつくにーわかるらむ

【文明年間百韻３４巻】／何船［ことのはの］／文明 8(1476) 年 4 月 23 日

すみたかはらの―つきのさひしさ
あきのそら―ひとりかもねむ―よはもうし

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

月のさやけさ

→秋の風

ときならぬゆきか―つきのさやけさ
あきのかせ―たけのはすさふ―そらふけて

【浅間千句】／何路［ゆくほたる］／永正11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

くもよりうへの―つきのさやけさ
ひととほり―ふきてすくるや―あきのかせ

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いしのおもても―つきのさやけさ
あけわたる―かかみのみやの―あきのかせ

【大永三年月並千三百韻】／□□［つゆもをし］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 9 月 23 日

→冷ややか

よひよひことの―つきのさやけさ
うたたねの―つゆのかたしき―ひややかに

【永正年間百韻３４巻】／山何［とこなつに］／永正 15(1518) 年 4 月 23 日

なみよりいつる―つきのさやけさ
とふほたる―よをまつかけの―ひややかに

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ふくやいかに］／永禄 5(1562) 年 3 月 7 日

→更け更ける

のきにもりいる―つきのさやけさ
いなつまの―かけせしまくら―ふけふけて

【天正年間百韻５７巻】／何船［なはしろの］／天正 3(1575) 年 3 月 8 日

いたまもりいる―つきのさやけさ
ゆめをたに―むすはぬよはの―ふけふけて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はなちれは］／慶長 4(1599) 年閏 3 月 21 日

→秋更ける

しつかにむかふ―つきのさやけさ
とふひとも―はやよもきふに―あきふけて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応4(1495) 年 9 月 26 日

よなかになりぬ―つきのさやけさ
なみのおと―いやたかしまの―あきふけて

【壁草／書陵部本】／秋／永正 9 年

→鳴き初める

きりのうへなる―つきのさやけさ
むしのねも―いまひとしほに―なきそめて

【天正四年万句７０巻】／薄何［やまとほみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

なかそらになる―つきのさやけさ
あきはいま―わさたかりかね―なきそめて

【宗碩関係２種】／宗碩連歌合／静嘉堂文庫本／

月の小夜の中山

→秋更ける

みるみるつきは―さよのなかやま
たひころも―あらしをそてに―あきふけて

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

つきもなこりの―さよのなかやま
うらかれの―みちのしはくさ―あきふけて

【延宝年間百韻３巻】／□□［おいかせの］／延宝 2(1674) 年 8 月 14 日

月の旅の道

→後の世の秋

つきならは―いさとてゆかむ―たひのみち
まよふななけく―のちのよのあき

【文明十四年万句５２巻】／花何［みたすなよ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

はれよくも―つきこそたより―たひのみち
おもふもつらし―のちのよのあき

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ｂ
／

月の群雲（つきのむらくも）

→夜に雁鳴く（よるにかりなく）

はるくれかたの―つきのむらくも
かへるよの―あまとひかくれ―かりなきて

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

あきふけわたる―つきのむらくも
かりなきて―よはいねかての―たまくらに

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文9(1541) 年 12 月 25 日

月の下（つきのもと）

→衣手の露（ころもでのつゆ）

しのひよる―とほそしつけき―つきのもと
ゆきかへりての―ころもてのつゆ

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

あくるをも―しらてともなふ―つきのもと
いつのまにかは―ころもてのつゆ

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］
／

月の行く末（つきのゆくすえ）

→時雨れる（しぐれる）

なみにかたふく―つきのゆくすゑ
をしかなく―あはちのやまや―しくるらむ

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

あかつきかたの―つきのゆくすゑ
つゆさむき―まくらのうへや―しくるらむ

【天正年間百韻５７巻】／何路［とふひとの］／天正 14(1586) 年 3 月 19 日

月は有明（つきはありあけ）

→時鳥（ほととぎす）

くもりしままの―つきはありあけ
ほととぎす―いまひとこゑは―つれなくて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

またとへかしの―つきはありあけ
ほととぎす―ゆめちをすきて―さむるよに

【合点之句／神宮文庫本】／夏／天文9(1541) 年 12 月 25 日

月更ける（つきふける）

→袖の露けさ（そでのつゆけさ）

たれならす―つきみるよはや―ふけぬらむ
なくさめかぬる―そてのつゆけさ

【大永年間百韻１４巻】／山何［うめやなき］／大永 7(1527) 年 1 月 19 日

かたるまの―つきはいつしか―ふけぬらむ
みえしこころも―そてのつゆけさ

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

月待つ（つきまつ）

→変わる世の中（かわるよのなか）

いててたに―くもの□□□□―つきまちて
さためなやけに―かはるよのなか

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

ともしする―やまにはいとふ―つきまちて
ひとのこころの―かはるよのなか

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

月もさやか（つきもさやか）

→暁方（あかつきがた）

はるのよの―つきもさやけき―みねのいほ
あかつきかたの―かせのさひしさ

【天正四年万句７０巻】／何馬［あをやきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7月 19 日

しもよそみつの―つきもさやけき
ふねよはふ―あかつきかたの―よとのさと

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明8(1476) 年 5 月頃

月夜な夜な（つきよなよな）

→さ筵の露（さむしろのつゆ）

しのふれは－つきもさはりの－よなよなに
はらふとするも－さむしろのつゆ

【元亀二年千句】／何船［はなにとふ］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

よなよなに－つきもうつろふ－あきさひし
みはかたはらの－さむしろのつゆ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

月を見る（つきをみる）

→秋風が吹く（あきかぜがふく）

たのむよに－またふけはてぬ－つきをみて
とふかときけは－あきかせそふく

【文明年間百韻３４巻】／何路［あさなけに］／文明 8(1476) 年 1 月 11 日

あらましの－いたつらふしに－つきをみて
ちきりしものを－あきかせそふく

【老葉／吉川本】／恋上／文明 13(1481) 年夏頃

露の月が零れる（つゆのつきがこぼれる）

→虫の音に夜が更ける（むしのねによがふける）

ちはらかつゆの－つきそこほるる
むしのねを－たもとにかくる－よはふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

みなからつゆの－つきそこほるる
むしのねを－まそてにえらふ－よはふけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

夏の夜の月（なつのよのつき）

→時鳥（ほととぎす）

ことかはすまも－なつのよのつき
きくもたた－それかあらぬか－ほとときす

【天正年間百韻５７巻】／山何［かせふけは］／天正 2(1574) 年 5 月 8 日

なかめあかせる－なつのよのつき
ほとときす－やはひとこゑに－まとろまて

【園塵第三／続群書類従本】／夏／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

閨の月影（ねやのつきかげ）

→蟋蟀（きりぎりす）

ほのかたらひし－ねやのつきかけ
うちしきり－いまはあなかま－きりきりす

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

よひすきぬらし－ねやのつきかけ
かたしきの－たもとにちかき－きりきりす

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

春の夜の月（はるのよのつき）

→声々（こえごえ）

いてたにやらす－はるのよのつき
あめはれて－かはつうるさき－こゑこゑに

【秋津洲千句】／一字露顕［わかはより］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

こころうかるる－はるのよのつき
うちわひて－なきゆくかりの－こゑこゑに

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

古里の月（ふるさとのつき）

→草枕（くさまくら）

すむもあはれは－ふるさとのつき
あかつきを－ゆめのなかはの－くさまくら

【天文年間百韻３８巻】／何木［やまかけて］／天文 21(1552) 年 3 月 11 日

そてにかたしく－ふるさとのつき
あしひきの－やまちくらして－くさまくら

【永禄年間百韻２８巻】／何路［きえしその］／永禄 7(1564) 年 1 月 22 日

→鳴く虫（なくむし）

なみたにむかふ－ふるさとのつき
なくむしも－しるへきものを－わかおもひ

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

ゆくへなほうきーふるさとのつき
なくむしもーなれしともをやーしたふらむ

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきのはな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

短夜の月（みじかよのつき）

→時鳥（ほととぎす）

ありあけになる―みしかよのつき
ほとときすーなほしのひねのーつれなくて

【宝徳四年千句】／山何［みにしむは］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

こころをすますーみしかよのつき
ほとときすーまたるるそらにーかねなりて

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なつなきは］／寛文 13(1673) 年 6 月 12 日

あまりみしかきーみしかよのつき
なつかりのーあしのしのひのーほとときす

【天正四年万句７０巻】／何心［やまかけや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

都の月に帰る（みやこのつきにかえる）

→草枕（くさまくら）

みやこのつきにーたれかへるらむ
しらぬのにーひとりつゆけきーくさまくら

【応仁年間百韻６巻】／ｘｘ［そてにみな］／応仁 2(1468) 年 10 月 22 日

みやこのつきにーわれやかへらむ
ゆめもみをーさそひてさめねーくさまくら

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

山の端の月（やまのはのつき）

→秋風（あきかぜ）

くれてまちとるーやまのはのつき
あきかせにーよふねこたふるーかちのおと

【河越千句】／山何［うくひすに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

しはしはのこれーやまのはのつき
あきかせにーつゆのいのちもーをしまれて

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

うきをはすてのーやまのはのつき
あきかせにーふせやといへとーまとろまて

【伊庭千句】／三字中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

→秋更ける（あきふける）

ねさめにむかふーやまのはのつき
みをすてむ―ほともいまはのーあきふけて

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

まつひとさへそーやまのはのつき
さととほき―しはのいほりにーあきふけて

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

いるかけのこるーやまのはのつき
いねかての―しはのとほそのーあきふけて

【大永年間百韻１４巻】／山何［そめしつゆ］／大永 3(1523) 年 9 月 2 日

いてしはいつのーやまのはのつき
たひころも―さむさおほゆるーあきふけて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［みつのうへに］／裏白／慶長 17(1612) 年 1 月 3 日

夕月夜（ゆうづくよ）

→覚束ない（おぼつかない）

まつかけはーみえてすくなきーゆふつくよ
おほつかなしやーあきのくるみち

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

かすみけりーさらてたにもとーゆふつくよ
おほつかなしや―なによふことり

【永正年間百韻３４巻】／ｘｘ［なつころも］／永正 7(1510) 年 4 月 1 日

夜半の月（よわのつき）

→秋風の空（あきかぜのそら）

くもはれてーさたまりけりなーよはのつき
しくれつくせるーあきかせのそら

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

ひとはいさーみしはわすれぬーよはのつき
たのむるすゑはーあきかせのそら

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

→鐘微か（かねかすか）

さしこもるーとほやまてらのーよはのつき
きりまもれたるーかねかすかなり

【宗牧追善千句】／山何［ちるちらぬ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

まつかせのーふきすさひたるーよはのつき
ふけゆくあきのーかねかすかなり

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

→袖の秋風（そでのあきかぜ）

よはのつきーまたあるやとをーたひたちて
せきちこえゆくーそてのあきかせ

【宝徳四年千句】／唐何［さすはなや］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

やまのはのーすすしさそふるーよはのつき
うたたねしまのーそてのあきかせ

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

→牡鹿鳴く山（おじかなくやま）

うかるへきーあきのそらかはーよはのつき
すみてやみましーをしかなくやま

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

なかめすはーうらみやせましーよはのつき
まつかせふきてーをしかなくやま

【論書４種】／宗長／

つく

色付く（いろづく）

→露と今朝の初霜（つゆとけさのはつしも）

あきのたのーかりしほちかくーいろつきて
ゆふへのつゆよーけさのはつしも

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かせおつるーとはたいまはたーいろつきて
つゆにかへたるーけさのはつしも

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

→衣打つ声（ころもうつこえ）

さとちかきーやまはむかひにーいろつきて
まつひとむらにーころもうつこゑ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

つゆふかきーくさもこすゑもーいろつきて
なほこのころはーころもうつこゑ

【文安頃千句４巻】／青何［はなのかの］／

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

きりのほるーそとものこすゑーいろつきて
さひしくのこるーひくらしのこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

つゆにはやーみねのくすはもーいろつきて
あきものかなしーひくらしのこゑ

【文亀年間百韻４巻】／何人［きえしよの］／文亀 2(1502) 年 8 月 6 日

つくす

心尽くし（こころづくし）

→浪の音（なみのおと）

こころつくしのーふなていそくな
なみのおとーとまやにちかきーまくらして

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

こころつくしのーおきつふなひと
なみのおとーつきにあれゆくーあきはきて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

心を尽す雨の夜（こころをつくすあめのよる）

→身が老いた時鳥

ねられぬこころーつくすあめのよ
まつうちにーみもおいぬへきーほとときす

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

まつにこころをーつくすあめのよ
つれなきにーみもおいぬへきーほとときす

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

つじ

道の辻占

→待ち侘びる

ききもさためぬーみちのつしうら
はるかなるーたひのかへさをーまちわひて

【永禄石山千句】／青何［わくらはの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

こひにまよへるーみちのつしうら
まちわひてーわれとははやとーおもふみに

【文安頃千句４巻】／二字返音［はなをりて］／

つたう

垣根伝い

→絶え絶え

かきねつたひのーをたのさひしさ
かはそひのーしものしははしーたえたえに

【葉守千句】／何船［うゑしうゑは］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かきねつたひのーみつみとりなり
もりいつるーかけひのしつくーたえたえに

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

伝う

→傍の掛橋

あつきひはーあせもそてをやーつたふらむ
やすきかたなきーそはのかけはし

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

やまかけのーみちとやゆきをーつたふらむ
くもにつつけるーそはのかけはし

【文安頃千句４巻】／朝何［すゑとほき］／

浜伝う

→帰る釣舟

なみのおとーかはるやあきのーはまつたひ
きりにみたれてーかへるつりふね

【毛利千句】／何人［せせにすむ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

はまつたひーゆふしほときにーなりけらし
かせにつれつつーかへるつりふね

【元和年間百韻２４巻】／□□［くにくにの］／元和 6(1620) 年 9 月 15 日

つな

舟の綱手縄

→塩釜の浦

ふねにすむーあまのしわさのーつなてなは
なみもたたならぬーしほかまのうら

【大永年間百韻１４巻】／何船［うめかかや］／大永 3(1523) 年 1 月 9 日

あさほらけーいそくやふねのーつなてなは
あまそかひなきーしほかまのうら

【園塵第二／続群書類従本】／雑／明応 4(1495) 年早春

つばさ

飛ぶ雁の翼

→明け渡る空

とふかりのーつはさやつきをーかけつらむ
なみのうへよりーあけわたるそら

【紹巴亡父追善千句】／何人［なきあとは］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

とふかりのーつはさもつゆにーしをるらむ
よさむのつきのーあけわたるそら

【文明十四年万句５２巻】／何木［まつはみとり］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

つゆ

浅茅生の露（あさじうのつゆ）

→耐えない（たえない）

しのにこほるるーあさちふのつゆ
かせをいたみーたひなるそてやーたへさらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［ひとこゑや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 4 月 23 日

そてにくたくるーあさちふのつゆ
くすのはのーうらみにわれやーたへさらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 12 月 23 日

草の露（くさのつゆ）

→虫の鳴く声（むしのなくこえ）

つきかけにーはなのやとかすーくさのつゆ
かせいとふらしーむしのなくこゑ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

ゆふつきのーかけははことのーくさのつゆ
おもひのあるかーむしのなくこゑ

【文明十五年千句１１巻】／何風［たきなみや］／文明 15(1483) 年＊月＊日〜3 月 2 日

草葉の露（くさばのつゆ）

→化野（あだしの）

くさはのつゆもーおなしなみたか
あたしのやーおくれさきたちーいろつきて

【飯盛千句】／千何［こぬあきや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日〜29 日

くさはのつゆもーかせにみたれぬ
あたしのやーたれもさこそとーそてぬれて

【新撰菟玖波集／実隆本】／哀傷／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

木の下露（このしたつゆ）

→夕べ（ゆうべ）

このしたつゆにーかをるひめゆり
なつのひはーやまのすそのをーゆふへにて

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

このしたつゆにーくさそふしたる
みやきののーあきはしかなくーゆふへにて

【菟玖波集／広島大学本】／秋下／文和 5(1356) 年 3 月 26 日

零れる竹の葉の露（こぼれるたけのはのつゆ）

→片敷の枕（かたしきのまくら）

こほれてつたふーたけのはのつゆ
かたしきのーまくらのうへのーあきのかせ

【弘治三年春雪千句】／何舟［きえてたに］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

こほれきにけりーたけのはのつゆ
かたしきのーそてもまくらもーひややかに

【元和年間百韻２４巻】／□□［くにくにの］／元和 6(1620) 年 9 月 15 日

五月雨の露（さみだれのつゆ）

→時鳥（ほととぎす）

こほるるあともーさみたれのつゆ
なきかはすーなみたやしけきーほとときす

【元亀二年千句】／何木［たきなみの］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

もすそもそてもーさみたれのつゆ
ほとときすーこゑまつやまのーかけにきて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［まつやしる］／成立時不詳

白露（しらつゆ）

→面影ばかり（おもかげばかり）

くれてよりーあふきのいろもーしらつゆに
おもかけはかりーあさかほのはな

【弘治三年春雪千句】／何人［ゆきにうめ］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

うつし忞の－つきはくもらぬ－しらつゆに
おもかけはかり－のこすいにしへ

【天文年間百韻３８巻】／何人［かすむよは］／天文 23(1554) 年 3 月 26 日

袖が露っぽい（そでがつゆっぽい）

→憂い（うい）

のをわけころも－そてそつゆけき
いととなほ－あきそふたひや－うかるらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

こころつくしの－そてそつゆけき
いくたひか－かのひとゆ忞に－うかるらむ

【文明十四年万句５２巻】／何人［ちくさみな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

→物思い（ものおもい）

たえぬしくれに－そてそつゆけき
いかにとも－とふひとあれな－ものおもひ

【熊野千句】／何路［かさなるや］／文正元 (1466) 年 3 月以前

くさをわけゆく－そてそつゆけき
しのひちは－こころをつくす－ものおもひ

【文明十四年万句５２巻】／何寺［きりうすみ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

→物思う（ものおもう）

はらふもおなし－そてのつゆけさ
ものおもふ－こころをいつち－やりてねむ

【出陣千句】／何木［しもなから］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日〜27 日

こひするのみか－そてのつゆけさ
ものおもふ－われやはつきに－はちさらむ

【伊予千句】／唐何［うつせみの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

露が乱れる（つゆがみだれる）

→朝霧（あさぎり）

つゆそみたるる－にはのたまささ
あさきりの－まかきにつきの－さしのこり

【浜宮千句】／□□［くれかたき］／

あめにもまさり－つゆそみたるる
あさきりの－みのしろころも－しをれきて

【壁草／続群書類従本】／秋／永正 3(1506) 年 3 月頃

露時雨の草（つゆしぐれのくさ）

→渡る雁（わたるかりがね）

つゆしくれ－よものくさきの－いろつきて
たのもにちかく－わたるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しくれても］／応永 26(1419) 年 9 月 25 日

つゆしくれ―ききのしたくさ－そめわけて
たたひととほり―わたるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／山何［とよとしを］／応永 32(1426) 年 12 月 6 日

露に乱れる（つゆにみだれる）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

つゆにみたるる－あしのひとむら
くれぬれは－きりのひまひま－とふほたる

【浜宮千句】／□□［ときもよも］／

ねにこそなかれ－つゆにみたるる
したもえを－しのふのののきに－とふほたる

【心敬関係１０種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／

露の曙（つゆのあけぼの）

→草枕（くさまくら）

いたつらふしの－つゆのあけほの
くさまくら－あきふくかせに－ゆめもみす

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［まつかせは］／成立時不詳

さくらかうへの－つゆのあけほの
くさまくら－はるのかりねの－すきかてに

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

露の音聞く庭（つゆのおときくにわ）

→玉垂の霧（たまだれのきり）

つゆのおときくーにはのゆふかけ
たまたれのーきりのなこりやーはれさらむ

【伊勢千句】／何人［ふかくいりて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日〜8 日

つゆのおときくーにはのしたをき
たまたれのーそとものきりのーかたよりて

【天正年間百韻５７巻】／何船［すましみは］／天正 13(1585) 年閏 8 月 12 日

露の涼しさ（つゆのすずしさ）

→夕立（ゆうだち）

わくるのやまのーつゆのすすしさ
ゆふたちのーくもはかたへのーみねこえて

【天正年間百韻５７巻】／何船［みちみちを］／天正 13(1585) 年 5 月 27 日

ちりなきにはのーつゆのすすしさ
ゆふたちのーあとのやまみつ―いはこえて

【園塵第二／続群書類従本】／夏／明応 4(1495) 年早春

露の手枕（つゆのたまくら）

→女郎花（おみなえし）

おきあかしたるーつゆのたまくら
なつかしやーやとかるのへのーをみなへし

【文安雪千句】／朝何［ゆきさそへ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

くるれはいととーつゆのたまくら
をみなへしーまねくをはなにーうちみたれ

【天文十八年梅千句】／何路［ふきよわる］／天文 18(1549) 年正月 11 日

露の月が零れる（つゆのつきがこぼれる）

→虫の音に夜が更ける（むしのねによがふける）

ちはらかつゆのーつきそこほるる
むしのねをーたもとにかくるーよはふけて

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10〜12 日

みなからつゆのーつきそこほるる
むしのねをーまそてにえらふーよはふけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

露のふる里（つゆのふるさと）

→秋風（あきかぜ）

かたるにおつるーつゆのふるさと
あきかせのーならのかれはにーそよめきて

【太神宮法楽千句】／何船［とこよにや］／長享 2(1488) 年 7 月

たひねさそなのーつゆのふるさと
あきかせのーふきいてぬれはーうつころも

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

露のふる道（つゆのふるみち）

→夜半の月（よわのつき）

わけはやたゆるーつゆのふるみち
ひとはいさーみしはわすれぬーよはのつき

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

ぬれてみなせのーつゆのふるみち
しらきくにーうつろひふくるーよはのつき

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかっ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

露吹く風（つゆふくかぜ）

→虫鳴く（むしなく）

つゆふくかせはーにしよりそたつ
みやきののーはなのさかりはーむしなきて

【宝徳四年千句】／何衣［はなもはも］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

つゆふくかせはーすすのかりいほ
なつころもーひもくれかたはーむしなきて

【永正年間百韻３４巻】／何衣［あひにあひぬ］／永正 10(1513) 年 2 月 16 日

露も涙も（つゆもなみだも）

→思い草（おもいぐさ）

つゆもなみたもーそてのみそしる
のはいまたーいろこそみえねーおもひくさ

【浜宮千句】／□□［ちりうせぬ］／

つゆもなみたもーたれをうらみむ
こころよりーねをさすものそーおもひくさ

【園塵第一／続群書類従本】／恋／長享 2 年

萩の下露（はぎのしたつゆ）

→薄霧の籬（うすぎりのまがき）

うらかれてゆくーはきのしたつゆ
うすきりのーまかきのこたちーむらむらに

【皇学館文庫本千句】／□□［はなにいそき］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

のほるはかりのーはきのしたつゆ
うすきりのーまかきのゆふへーいつかみむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

吹く風に秋の露（ふくかぜのあきのつゆ）

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

かせはまたーふかぬになつもーあきのつゆ
せみにましるやーひくらしのこゑ

【平松文庫本千句】／□□［なてしこの］／

まつにふくーかせのしたはのーあきのつゆ
またかけうすきーひくらしのこゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［しくれのあめ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 10 月 23 日

つら

川面の里（かわつらのさと）

→遥か（はるか）

ありともしらぬーかはつらのさと
はるかにもーふねよはふよのーこたへして

【永正十花千句】／何田［はなにこひ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

きをきるをののーかはつらのさと
はるかにもーおもひわたせるーはしはしら

【紹巴亡父追善千句】／初何［たまたれの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

春の海面（はるのうみつら）

→長閑（のどか）

かりもかへるなーはるのうみつら
のとかなるーしほひのをちにーやまをみて

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

まつみえわたるーはるのうみつら
のとかなるーなみにうかはぬーふねもなし

【明応年間百韻２２巻】／何木［やまはゆき］／明応 7(1498) 年 11 月 4 日

つらい

憂く辛い（うくつらい）

→花の山風（はなのやまかぜ）

うくつらきーほとこそせめてーたのみなれ
きそひそめにしーはなのやまかせ

【東山千句】／何草［つきにかり］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

うくつらきーちきりならすやーゆめになせ
うらむもはかなーはなのやまかせ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

つり

海人の釣舟（あまのつりぶね）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

はなれこしまにーあまのつりふね
うなはらやーくももはれたるーあさほらけ

【聖廟千句】／何船［ねにそなく］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

うらつたひするーあまのつりふね
やまかすむーみきはのまつのーあさほらけ

【天正四年万句７０巻】／何衣［うのはなの］／天正4(1576)年5月6日〜7月19日

→浪に時雨れる

おきにかかれるーあまのつりふね
そことしもーなみにいりひやーしくるらむ

【宮島千句】／何木［ほかにやは］／天文20(1551)年5月9日〜11日

ゆふへにいてしーあまのつりふね
たかさとのーうらわのなみにーしくるらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→松立てる

かつかつうかふーあまのつりふね
まつたてるーいそのかくれやーさとならむ

【成立不詳・宗養以前８巻】／山何［ひとこゑや］／成立時不詳

はるともしらしーあまのつりふね
まつたてるーかけにふちえのーうらさひて

【老葉／毛利本】／雑上／（文明17(1485)年7月23日頃）

沖の釣舟

→浪の上

かすみはかりのーおきのつりふね
やまのははーほのかにたにもーなみのうへ

【永正十花千句】／何木［ひかすたに］／永正13(1516)年3月11日〜14日

のとかにうかふーおきのつりふね
あけほのの－つきをひたせるーなみのうへ

【慶長年間百韻２７巻】／何人［わかくさの］／慶長4(1599)年1月22日

かすみにうかふーおきのつりふね
とふとりもーそれかあらぬかーなみのうへ

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［わかくさも］／天正4(1576)年5月6日〜7月19日

つれない

上は連れない

→色付く

うへはつれなきーまつのしたつゆ
ひさきちるーはまちのしらすーいろつきて

【文安年間百韻９巻】／山何［はなはひも］／文安5(1448)年2月5日

うへはつれなきーあらいそのまつ
なみよするーいはねのこくさーいろつきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永3(1523)年12月23日

連れない

→鳴く山時鳥

つれなきにーなとつれなくてーすくさまし
まつにはなかぬーやまほとときす 、

【天正四年万句７０巻】／何路［みそきする］／天正4(1576)年5月6日〜7月19日

つれなきにーなほまつかせはーきくもうし
やまほとときすーみねこえてなけ

【下草／続群書類従本】／夏／不明

→有明の月

つれなきもーつゐのよるへとーなりやせむ
あかつきかたのーありあけのつき

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはらも］／天正4(1576)年5月6日〜7月19日

つれなきもーまたつれなきやーうらむらむ
まつのはさはるーありあけのつき

【園塵第一／続群書類従本】／秋／長享2年

連れなさを恨む

→有明の月

つれなきをーさのみはいかてーうらむらむ
あはてこよひもーありあけのつき

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明2(1470)年正月10〜12日

つれなきもーまたつれなきやーうらむらむ
まつのはさはるーありあけのつき

【園塵第一／続群書類従本】／秋／長享2年

て

秋の手枕（あきのたまくら）

→花薄（はなすすき）

かたはらさひしーあきのたまくら
ましるのの－くすはかれはの－はなすすき

【文亀年間百韻４巻】／何人［まつこえし］／文亀 3(1503) 年 4 月 29 日

つゆこそのこれ－あきのたまくら
やまとほく－つきはいるのの－はなすすき

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

新手枕（にいたまくら）

→恥交わす（はじかわす）

にひたまくらはーゆめかうつつか
はちかはすーなかこそのちはーしのはれめ

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

にひたまくらはーあくるたひたひ
はちかはす－こころふかさをーうらみわひ

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

舟の綱手縄（ふねのつなでなわ）

→塩釜の浦（しおがまのうら）

ふねにすむーあまのしわさのーつなてなは
なみもたたならぬーしほかまのうら

【大永年間百韻１４巻】／何船［うめかかや］／大永 3(1523) 年 1 月 9 日

あさほらけーいそくやふねのーつなてなは
あまそかひなきーしほかまのうら

【園塵第二／続群書類従本】／雑／明応 4(1495) 年早春

てら

春の山寺（はるのやまでら）

→如月の別れを訪う（きさらぎのわかれをとう）

しきみにとほきーはるのやまてら
きさらきのーわかれのにはをーとひすてて

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

かねさたかなるーはるのやまてら
きさらきの－わかれをたれもーとひいてて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［とよとしの］／裏白／寛永 20(1643) 年 1 月 3 日

古寺（ふるでら）

→灯の下（ともしびのもと）

ふるてらにーたのむはやしのーかけふかみ
かりねめさますーともしひのもと

【河越千句】／初何［ゆふつくよ］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

かたらはむーとももなみたのーふるてらに
ほととときすきつーともしひのもと

【行助関係４種】／行助句集／大阪天満宮本／

→灯の影（ともしびのかげ）

いりあひのーかねちかくなるーふるてらに
ややくれそむるーともしひのかけ

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

よもすからーまつはかせふくーふるてらに
つきこそまとのーともしひのかけ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

→入相の鐘（いりあいのかね）

ふるてらのーにははしもよりーうつろひて
としもすゑののーいりあひのかね

【永原千句】／山何［うすくこく］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

ふるてらのーみのりにとほきーみをわひて
こゑかすかなりーいりあひのかね

【文明年間百韻３４巻】／□□［はたはりや］／文明 14(1482) 年 9 月

峰の古寺（みねのふるでら）

→花咲く

くものなかはのーみねのふるてら
まつたてるーはやしのおくにーはなさきて

【因幡千句】／何人［みるたひに］／文明7(1475) 年 11 月 26 日<～28 日>

かさなるのきのーみねのふるてら
をはつせやーちるあともなほーはなさきて

【天正年間百韻５７巻】／何木［こころあてに］／天正 3(1575) 年 1 月 7 日

てん

天乙女

→雲の通い路

いかにしてーあかるをとめむーあまをとめ
かせはしるらしーくものかよひち

【文明年間百韻３４巻】／何木［うめかかを］／文明 15(1483) 年 2 月 19 日

あらはれしーそのよはさそなーあまをとめ
あとたにとほきーくものかよひち

【明応年間百韻２２巻】／何船［やなきふく］／明応 9(1500) 年 7 月 6 日

天の川

→吹く秋の初風

けふとしるーならひはかりのーあまのかは
ふくにおとろくーあきのはつかせ

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

かよひけむーうききよいかにーあまのかは
ふきつたへくるーあきのはつかせ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何人［やまみつは］／成立時不詳

落ちる天つ雁

→月の出潮

あまつかりーふかるるかせにーなきおちて
あしまはくらきーつきのいてしほ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［あきかせの］／応永 15(1408) 年 7 月 23 日

やまとほきーいりえにおつるーあまつかり
ゆふひにむかふーつきのいてしほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

でる

出る旅人

→仮枕

まとろみあへすーいつるたひひと
かりまくらーかねややまちにーさそふらむ

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

やすらふのへをーいつるたひひと
かりまくらーむすへはつきのーおつるよに

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

出る舟人

→明け渡る

みなとのはるにーいつるふなひと
あけわたるーうらのかすみにーなみこえて

【宗砌関係９種】／百番連歌／赤木文庫本／享徳 2() 年 8 月 13 日以後-寛正 6 年 3 月以前

こころやとむるーいつるふなひと
あけわたるーいりえのゆきのーとまやかた

【専順関係２種】／冬／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

枯れた草が萌え出る

→駒祝う声

ふゆかれしーみちのしはくさーもえいてて
のへのかすみにーこまいはふこゑ

【聖廟千句】／何田［のこるひに］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

こそかれしーくさはつゆけくーもえいてて
のはあさまたきーこまいはふこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何水［あけほのを］／明応 8(1499) 年 2 月 19 日

月出やる（つきいでやる）

→稲妻の陰（いなづまのかげ）

つきにこそーちきりしものをーいてやらて
よひふけかたのーいなつまのかけ

【宗長追善千句】／夕何［はるのひに］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

みねたかみーまちまつつきのーいてやらて
いくたひくもにーいなつまのかけ

【伊予千句】／ｘｘ［いつはとは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

月出る（つきいでる）

→秋の村雨（あきのむらさめ）

かけほそくーゆふへのそらにーつきいてて
ひややかにふる－あきのむらさめ

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かせわたるーくものはやしにーつきいてて
いろもこすゑの－あきのむらさめ

【天文年間百韻３８巻】／何路［はなをおきて］／天文 20(1551) 年 3 月 26 日

→風渡る（かぜわたる）

かけやとすーつゆをたつぬるーつきいてて
のはうすきりに－かせわたるなり

【石山四吟千句】／薄何［うつせみの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

ますらをかーしけみのゆくてーつきいてて
ものすさましきーかせわたるなり

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

→真砂路の末（まさごじのすえ）

ふきわくるーまつはのかせにーつきいてて
しはしやすらふ－まさこちのすゑ

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

くれぬれはーみきはにしろくーつきいてて
なみのつゆちる－まさこちのすゑ

【文明十四年万句５２巻】／何霜［はつあきの］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→夜が長い（よがながい）

ゆふやまの－いろあるくもにーつきいてて
しかなくころはーよこそなかけれ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［あきかせの］／応永 15(1408) 年 7 月 23 日

ふけてのちーやまち□□□は－つきいてて
かねきくまて□－よこそなかけれ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

月差し出る（つきさしいでる）

→秋風（あきかぜ）

つきさしいつるーふねのしらなみ
あきかせにーあまのいさりひ－よるきえて

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

つきさしいつるーをちかたのやま
あきかせにーしのひゆくよはーやすからて

【延徳年間百韻１６巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳 4(1492) 年 3 月 3 日

と

草の戸の内（くさのとのうち）

→待ち侘びる（まちわびる）

ひとりねつらしーくさのとのうち
うちすさふ－ころもかたしきーまちわひて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

すみうかるるやーくさのとのうち
すてしみも－いまはのゆふへーまちわひて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑下／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

柴の戸の内（しばのとのうち）

→思う（おもう）

すめはのとけきーしはのとのうち
ならはしのーみをなとつらくーおもふらむ

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

なほたちかへるーしはのとのうち
みをすてはーいつくもとなとーおもふらむ

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正6、7 年

とう

後をだに訪う（あとをだにとう）

→雪と花の陰（ゆきとはなのかげ）

またれしものをーあとをたにとへ
やまさとのーゆきをかきりのーはなのかけ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

あすやはあらむーあとをたにとへ
ゆきそふるーそれもきえなむーはなのかけ

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

誰を訪おうか（だれをとおうか）

→草の原（くさのはら）

たれをかとはむーしらぬゆふくれ
さきたたはーはなもあはれめーくさのはら

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

たれをかとはむーあはれともみし
ちきりてもーえやはなへてのーくさのはら

【明応年間百韻２２巻】／何人［かきりさへ］／明応 8(1499) 年 3 月 20 日

きえなむつゆをーたれにとはまし
よのつねのーあはれをたのむーくさのはら

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

あきになるかとーたれにとはまし
つきをたたーすむひとなれやーくさのはら

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明8(1476) 年 5 月頃

訪われる（とわれる）

→一人住む（ひとりすむ）

いまははるへとーとはれもやせむ
ひとりすむーみやまのゆふへーうちかすみ

【文安雪千句】／何木［しらくもの］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

いのちのうちにーとはれもやせむ
ひとりすむーかたやまさとにーはなさきて

【文明十四年万句５２巻】／何寺［きりうすみ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月14 日

→花咲く（はなさく）

いのちのうちにーとはれもやせむ
ひとりすむーかたやまさとにーはなさきて

【文明十四年万句５２巻】／何寺［きりうすみ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月14 日

とひもやせましーとはれもやせむ
わかやともーよそのいほりもーはなさきて

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

蛍訪う暮れ（ほたるとうくれ）

→月はまだ（つきはまだ）

かはかみよりやーほたるとふくれ
つきはまたーいてぬひかりのーみねこえて

【永禄年間百韻２８巻】／何路［なつくさの］／永禄 9(1566) 年 5 月 9 日

たのものはらにーほたるとふくれ
つきはまたーおそき□やまのーあめ□□□

【寛永年間百韻１５巻】／□□［まつにこまつ］／裏白／寛永 19(1642) 年 1 月 3 日

宿を訪う（やどをとう）

→面影（おもかげ）

ゆきすきかたきーやとやとはまし
おもかけのーひかふるあたりーこまとめて

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

をしへすてたるーやとやとはまし
おもかけのーさきたつはかりーしるへして

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

忘れ訪う草原（わすれとうくさはら）

→古里（ふるさと）

わするなよーとはむとちきるーくさのはら
たよりはかりにーかかるふるさと

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］／長享 2(1488) 年 7 月

わすれすもーとほきあととふーくさのはら
なれこしたれそーかかるふるさと

【永正十花千句】／二字反音［こまなへて］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日〜14 日

とおい

遠方の雲（おちかたのくも）

→鳥鳴く（とりなく）

つきはほのめくーをちかたのくも
しくれせしーみねよりいつるーとりなきて

【飯盛千句】／ｘｘ［かけすすし］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日〜29 日

ゆきをもよほすーをちかたのくも
そことなくーすゑののあしたーとりなきて

【明応年間百韻２２巻】／何人［あさかすみ］／明応 4(1495) 年 1 月 6 日

→一群（ひとむら）

かはなみしろきーをちかたのくも
ひとむらのーたけのはわけのーよはあけて

【称名院追善千句】／何木［としことの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

くるるいろなるーをちかたのくも
ひとむらのーつはさならへてーとふからす

【永禄年間百韻２８巻】／何路［あらたまの］／裏白／永禄 10(1567) 年 1 月 3 日

遠方の山（おちかたのやま）

→わたの原（わたのはら）

つきのひかりにーをちこちのやま
あけわたるーきりのたえまのーわたのはら

【紹巴亡父追善千句】／唐何［はなのかに］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

かねはかすみのーをちこちのやま
わたのはらーいつくのかたにーとまりふね

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

遠方人の袖（おちかたびとのそで）

→送る（おくる）

をちかたひとのーそてほのかなり
よこくもやーわかれしゆめをーおくるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

をちかたひとのーそてのむらさめ
ほととぎすーなれもたひとやーおくるらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

遠方の遠山（おちのとおやま）

→雁鳴く（かりなく）

みつつかすみのーをちのとほやま
わかれしもーおなしゆくへのーかりなきて

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

あすやこえましーをちのとほやま
わたりかねーふかきせうらにーかりなきて

【心敬関係１０種】／苔莚／赤木文庫本／文明 3(1471) 年秋

霞む春の遠山（かすむはるのとおやま）

→有明の月（ありあけのつき）

かすみかくれのーはるのとほやま
ありあけのーつきもわかれのーかりなきて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

かすみにのこるーはるのとほやま
ありあけのーつきのひかりのーさえかへり

【天正四年万句７０巻】／何鳥［かせにしるき］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

雲の遠方（くものおちかた）

→時雨れる（しぐれる）

ゆふひみえすくーくものをちかた
いくたひかーつきまつあきのーしくるらむ

【応仁年間百韻６巻】／何人［ときはきを］／応仁元 (1467) 年 10 月 17 日

つきもかたふくーくものをちかた
わかれゆくーそてにやつゆのーしくるらむ

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

遠き古里（とおきふるさと）

→旅衣（たびごろも）

さていくひかすーとほきふるさと
たひころもーせきちかさなる―あつまかた

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ひととせに］／応永 32(1426) 年 12 月 11 日

かへらむほとのーとほきふるさと
あめののちーいそきてゆかむーたひころも

【成立不詳・心敬以前１４巻】／朝何［したみつに］／成立時不詳

遠き武蔵野（とおきむさしの）

→草枕（くさまくら）

ゆけともいまたーとほきむさしの
くさまくらーゆめもみなからーあはれにて

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

わけてもすゑのーとほきむさしの
おのつからーやとかるかやのーくさまくら

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつちかし］／応永 32(1425) 年 6 月 25 日

遠消え（とおぎえ）

→松の一群（まつのひとむら）

いそやまもーしほひのあとはーとほきえに
くもこそかかれーまつのひとむら

【飯盛千句】／初何［このまもる］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

かけさむくーいさりひきえてーとほきえに
しもにけふれる―まつのひとむら

【文亀年間百韻４巻】／何衣［たをるなと］／文亀 2(1502) 年 4 月 25 日

遠く来た（とおくきた）

→沖の舟（おきのふね）

かへりみすれはーとほくきにけり
ほともへすーこきもてつるるーおきつふね

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

ひなかきころはーとほくきにけり
くるるまてーつなてうちはへーおきつふね

【壁草／続群書類従本】／旅／永正 3(1506) 年 3 月頃

遠山の秋（とおやまのあき）

→紀伊海（きのうみ）

いまつきにみるーとほやまのあき
きのうみやーふねをきりまにーこきいたし

【文明十四年万句５２巻】／何木［すゑのつゆ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

なかめわひぬるーとほやまのあき
きのうみやーたまつしままつーきりこめて

【専順関係２種】／秋／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

野が遠い（のがとおい）

→安らい（やすらい）

ゆくゆくくらすーのこそとほけれ
ほとはたたーむかひのさとにーやすらひに

【浅間千句】／山何［ここよりや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

けしきもはるのーのこそとほけれ
やすらひにーなかきひくらしーあかさらむ

【天文廿年断簡千句】／□□［やまかせや］／天文 20(1551) 年 6 月 10 日～12 日

→入相(いりあいの)の鐘(かね)

のをとほみーわけくらしてのーたひまくら
さとはありとやーいりあひのかね

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきうう
る］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

のをとほみ―ゆきかふみちのーやすらひに
かへさをつくる―いりあひのかね

【文禄二年千句１０巻】／何人［はなにあ
くる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

都(みやこ)が遠(とお)い

→明日香風(あすかかぜ)

みやこをとほみーわかれぬるみち
あすかかせーたつねてふかむーそてもなし

【表佐千句】／薄何［ゆきてみむ］／文明
8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

みやこをとほみーすめるわひしさ
あすかかせーいたつらにのみーみのふりて

【永正十花千句】／初何［はなはたた］／
永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

とおり

ただ一通(ひとと)り(おり)

→なる

たたひととほりーわたるかりかね
ありあけやーつきのよかすにーなりぬらむ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［とよとし
を］／応永 32(1426) 年 12 月 6 日

たたひととほりーしらむよこくも
しくれつるーあとやゆきけにーなりぬらむ

【応永年間百韻７巻】／何木［ちよまてと］
／応永 15(1408) 年 3 月 21 日

一通(ひとと)り(おり)

→道(みち)の方々(かたがた)

ひととほりーそこはとしるきーみなせかは
くれかかりたるーみちのかたかた

【羽柴千句】／何人［すくにゆく］／天正
6(1578) 年 5 月 18・19 日

ひととほりーふりとほりたるーあきのあめ
つゆはかりなるーみちのかたかた

【羽柴千句】／薄何［たちはなの］／天正
6(1578) 年 5 月 18・19 日

とこ

所(とこ)を占(しめ)る

→静(しずか)か

くれてうつらそーとこをしめたる
ひとかへるーあとのつきかけーしつかにて

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［ま
つうきて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～
9 月 14 日

いけのかはつそーとこをしめたる
ひとすまぬーこやのはるさめーしつかにて

【萱草／伊地知本】／春／文明 6(1474) 年
2 月以前

ところ

住(すみ)み所(どころ)

→鶯(うぐいす)の声(こえ)

ひをへつつーのやまをはるはーすみところ
やよひのすゑのーうくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／懐旧［みなそこ
の］／慶長 4(1599) 年 5 月 2 日

みよしのや―はなをよすかのーすみところ
ともとこそなれ―うくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［みつのう
へに］／裏白／慶長 17(1612) 年 1 月 3 日

ところどころ

所々(ところどころ)

→分(わか)かつ

ところところのーまこもかるあと
なかれにやーむらのさかひをーわかつらむ

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのとき
も］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

ところところのーひとにあひつつ
ぬるかうちのーゆめにもみをやーわかつらむ

【菟玖波集／広島大学本】／雑二／文和5(1356) 年冬〜翌年の春

→鳴き出る

ところところにーうもれきのえた
やまからすーくものそこよりーなきいてて

【称名院追善千句】／初何［したふなよ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

ところところにーなれるうめその
しろたへのーゆきにうくひすーなきいてて

【大原野十花千句】／二字返音［つゆなら て］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日〜7 日

→掛橋

ところところのーしもしろきいろ
かけはしのーくちたるかたはーこすなみに

【天正年間百韻５７巻】／何路［とふひと の］／天正 14(1586) 年 3 月 19 日

ところところのーこけのいはかね
かけはしのーとたえもかりにーうちわたし

【天正年間百韻５７巻】／□□［ききわく や］／天正 18(1590) 年 10 月 8 日

とし

年越える

→霞む曙

きのふよりーかせさへよわるーとしこえて
いりあひのかねのーかすむあけほの

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10〜12 日

たかさともーけふあらたまるーとしこえて
やまのあさまのーかすむあけほの

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日〜11 日

年長ける

→夢も現も

いにしへをーおもひわすれすーとしたけて
ゆめもうつつもーおなしかりのよ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

つゆのみとーおもはぬほとにーとしたけて
ゆめもうつつもーあらましのうち

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しもやいと］／応永 31(1424) 年 10 月 26 日

年々の花

→ふる山桜

みしにかはらぬーとしとしのはな
すゑもなほーいくよをふるのーやまさくら

【顕証院会千句】／何人［えたわけの］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日〜21 日

あかれぬものをーとしとしのはな
みやすてむーふるきいほりのーやまさくら

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜〜8 日＞

となえる

仏唱える

→籠り居る

よをしるひとやーほとけとなふる
こもりゐてーむすふもなつのーものならし

【皇学館文庫本千句】／□□［たきいつこ］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

ほとけとなふるーみこそふりぬれ
ひとしれぬーかたやまてらにーこもりゐて

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

とにかく

とにかくに

→明かし暮らす

あらましのーこころひとつをーとにかくに
うちまとろまてーあかしくらしつ

【東山千句】／薄何［つゆをいろ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日〜12 日

すてかたきーよのましはりのーとにかくに
あかしくらしつー□□□あらまし

【応永年間百韻７巻】／□□［ｘｘはせて］／応永 24(1417) 年 3 月 16 日

とぶ

飛ぶ雁の翼（とぶかりのつばさ）

→明け渡る空（あけわたるそら）

とふかりのーつはさやつきをーかけつらむ
なみのうへよりーあけわたるそら

【紹巴亡父追善千句】／何人［なきあとは］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

とふかりのーつはさもつゆにーしをるらむ
よさむのつきのーあけわたるそら

【文明十四年万句５２巻】／何木［まつはみとり］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

飛ぶ蛍（とぶほたる）

→風の涼しさ（かぜのすずしさ）

はるはるとーかはのほとりをーとふほたる
なかれふきくるーかせのすすしさ

【元亀二年千句】／山何［はなのかの］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

ゆふなきにーきえてはもえてーとふほたる
むらくさたかくーかせのすすしさ

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

かけとほくーあしやのさとにーとふほたる
つきにくれゆくーかせのすすしさ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／ｘｘ［さみたれや］／成立時不詳

→袖の涼しさ（そでのすずしさ）

むしのなくーかたへはくれてーとふほたる
なつをわするるーそてのすすしさ

【皇学館文庫本千句】／□□［きてかへる］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

くれぬれはーみたれあひつつーとふほたる
やすらひいつるーそてのすすしさ

【天正年間百韻５７巻】／□□［すたれまけ］／天正 15(1587) 年 1 月 10 日

蛍飛ぶ空（ほたるとぶそら）

→秋が来る（あきがくる）

たとるみちをやーほたるとふそら
うすものの―そてにおほゆるーあきのきて

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かせのよるよるーほたるとふそら
あしかきのーすまひはかなきーあきのきて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

乱れて飛ぶ蛍（みだれてとぶほたる）

→水の涼しさ（みずのすずしさ）

とふほたるーつゆにみたれてーくるるのに
ひともかけするーみつのすすしさ

【葉守千句】／初何［わかこゑを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜〜11 日＞

かたしきのーそてにみたれてーとふほたる
なかるるおともーみつのすすしさ

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日〜19 日

とまる

泊まり舟（とまりぶね）

→沖の白浪（おきのしらなみ）

うらかせもーあまけありとやーとまりふね
いくしほあひのーおきつしらなみ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［たちならせ］／永禄元 (1558) 年 7 月 18 日

よをこめてーつきにそいてしーとまりふね
かたへきりふるーおきつしらなみ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

→松風の音（まつかぜのおと）

のとかなるーなみをまくらのーとまりふね
さそあらいそのーまつかせのおと

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応3(1494)年2月10日～12日

さしよせてーいそのあたりにーとまりふね
まくらにちかきーまつかせのおと

【文明十四年万句52巻】／何紙［つゆはけさ］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

泊まり舟音していずち（とまりぶねおとしていずち）

→旅の国々の人（たびのくにぐにのひと）

とまりふねーおとしていつちーわたるらむ
たれたひならぬーくにくにのひと

【東山千句】／一字露顕［つきみつつ］／永正15(1518)年8月10日～12日

とまりふねーおとしていつちーわかるらむ
あはれのたひやーくにくにのひと

【宗長関係8種】／興津宛／書陵部本／

ともしび

灯の影（ともしびのかげ）

→釣舟（つりぶね）

つねにしらるるーともしひのかけ
つりふねやーはかなさいつとーささささらむ

【秋津洲千句】／初何［はなならし］／天文15(1546)年8月25日

かすかなりけるーともしひのかけ
つりふねやーをちのしまねをーめくるらむ

【慶長年間百韻27巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長13(1608)年1月3日

→秋蛍と夕枕（あきぼたるとゆうまくら）

つきこそまとのーともしひのかけ
あききぬとーほたるすくなきーゆふまくれ

【延徳年間百韻16巻】／何船［はるすきぬ］／延徳4(1492)年4月8日

きりのうちなるーともしひのかけ
あきくさにーほたるののこるーゆふまくれ

【文明十四年万句52巻】／何路［あさうみに］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

灯の下（ともしびのもと）

→釣舟（つりぶね）

よるもおほえぬーともしひのもと
つりふねのーうらふくかせにーひとりきて

【明応年間百韻22巻】／何路［つゆやにほひ］／明応5(1496)年8月5日

こころをよするーともしひのもと
つりふねのーふけてさひしきーなみのうへ

【享禄年間百韻8巻】／追善［あきのこゑ］／享禄5(1532)年7月29日

ともなう

春の伴い（はるのともない）

→夕霞（ゆうがすみ）

おくれつつうきーはるのともなひ
ことのはにーあらそふあさなーゆふかすみ

【永禄年間百韻28巻】／山何［かきつはた］／永禄10(1567)年4月28日

かたみにうときーはるのともなひ
てふとりのーやとりへたつるーゆふかすみ

【文禄年間百韻12巻】／□□［うめかえや］／文禄4(1595)年7月21日

日暮れに伴う（ひぐれにともなう）

→歌う声々（うたうこえごえ）

くるるひにーかへるきこりのーともなひて
ふしもひとつにーうたふこゑこゑ

【因幡千句】／何木［ゆきとふる］／文明7(1475)年11月26日<～28日>

くるひとのーひのくるるまてーともなひて
むかひてつきにーうたふこゑこゑ

【文明十四年万句52巻】／初何［をるそてに］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

とようら

幾重豊浦の竹の下道

→また月ある雪の晴れる

いくへとよらの－たけのしたみち
にしにまた－つきあるゆきの－けさはれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明8(1476) 年 5 月頃

いくへとよらの－たけのしたかけ
あめにまた－つきあるゆきの－よるはれて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

とり

帰る鳥の音

→暮れ渡る

かすみのうちに－かへるとりのね
まよひゆく－はるのやまちの－くれわたり

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

やとりさためす－かへるとりのね
こてふとふ－まかきののへの－くれわたり

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

鳥が囀る

→返し置く

いまをはるとや－とりのさへつる
かへしおく－なはしろをたに－ひとはなし

【文明十四年万句５２巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

とりのさへつる－のへのあさあけ
かへしおく－たつらにたみの－かけもなし

【文明十四年万句５２巻】／玉何［ゆきならは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

鳥鳴く

→片岡の道

あはゆきを－□□□□はらふ－とりなきて
あさまたきゆく－かたをかのみち

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

くれわたる－たのもつつきに－とりなきて
ひかりほのめく－かたをかのみち

【天正年間百韻５７巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

鳥の声

→雨の名残

とりのこゑ－のきはにかすむ－あさほらけ
あめのなこりの－ひはのとかなり

【天正年間百韻５７巻】／□□［すたれまけ］／天正 15(1587) 年 1 月 10 日

しらくもか－はなかあらぬか－とりのこゑ
あめのなこりの－をちかたのはる

【天正四年万句７０巻】／朝何［さみたれに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

鳥の声々

→暮れる

さるかたしらぬ－とりのこゑこゑ
くれぬれは－あたりのやまも－きりこめて

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほととぎす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

ねくらもとむる－とりのこゑこゑ
くれぬれは－つきになるかと－よをまちて

【文明十四年万句５２巻】／山何［なほさこそ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→月落ちる

またいつかはの－とりのこゑこゑ
あふさかや－せきちこゆれは－つきおちて

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文 12(1543) 年 7 月 29 日

あくるをつくる－とりのこゑこゑ
たちさわき－からすなくよの－つきおちて

【文安頃千句４巻】／二字返音［はなをりて］／

→野が遠い

あけわたるよのーとりのこゑこゑ
かりまくらーつきにおきゆくーのをとほみ

【石山四吟千句】／何船［もろひとの］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

かへるささそふーとりのこゑこゑ
あめはるるーあとはひのさすーのをとほみ

【永禄年間百韻２８巻】／何人［いへはえに］／永禄 6(1563) 年 2 月 23 日

鳥の囀り

→霞

ふるすわかなくーとりのさへつり
かすみこそーきみかめくみのーそらならめ

【天文十八年梅千句】／何袋［かそうめを］／天文 18(1549) 年正月 11 日

あつまりきぬるーとりのさへつり
かすみこそーひろきめくりのーまかきなれ

【天正年間百韻５７巻】／□□［いるそてに］／天正 18(1590) 年 1 月 7 日

→谷の戸の鶯

ふるすなからやーとりのさへつり
うくひすのーくるとしつくるーたにのとに

【寛文年間百韻２２巻】／□□［しらきくの］／寛文 11(1671) 年 9 月 29 日

はるのしるへのーとりのさへつり
たにのとにーのこるうくひすーなつかけて

【天正四年万句７０巻】／何帋［いろそふや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→日の影

こゑつむけなるーとりのさへつり
ひのかけのーめくるもうときーたにかくれ

【元和年間百韻２４巻】／□□［あさなあさな］／元和 8(1622) 年 2 月 29 日

きくもたへなるーとりのさへつり
ひのかけのーうつるかきほはーうららかに

【寛永年間百韻１５巻】／□□［あさひかけ］／裏白／寛永 11(1634) 年 1 月 3 日

鳥の鳴く声

→関の戸

よなかさいつらーとりのなくこゑ
せきのとのーもみちむしろをーしきすてて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

いつくのそらそーとりのなくこゑ
せきのとのーまつあけわたるーゆきはれて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

鳥の一声

→明ける

はるかにすくるーとりのひとこゑ
しつかなるーよはのけしきやーあけぬらむ

【天文年間百韻３８巻】／何人［なやここに］／天文 4(1535) 年 5 月 1 日

はつかになりぬーとりのひとこゑ
またれつるーねさめのそらやーあけぬらむ

【天文年間百韻３８巻】／何路［あさかほの］／天文 10(1541) 年 7 月 29 日

→時鳥

しはしなくさむーとりのひとこゑ
ねさめてはーそれかあらぬかーほとときす

【天正四年万句７０巻】／何船［なかきよの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

こすゑはるけきーとりのひとこゑ
むかしおもふーたちはなてらのーほとときす

【園塵第四／早稲田大学本】／夏／永正 6、7 年

塒の春の鳥の声

→静か

しはしねくらのーはるのとりのね
しつかなるーあしたのほとはーおそきひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

たけをねくらのーはるのとりのね
しつかなるーかきほやのへにーつつくらむ

【平松文庫本千句】／□□［おちはして］／

群鳥が寝る（むらどりがねる）

→我驚く（われおどろく）

むらとりのーねにゆくかねやーくれぬらむ
けふもすきぬとーわれそおとろく

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日〜21 日

むらとりのーねくらのたけのーゆきをれに
われそおとろくーさむきよのゆめ

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ない

有るか無きか（あるかなきか）

→蜻蛉の岩垣（かげろうのいわがき）

あるかなきかのーよもきふのやと
かけろふのーいはかきかくれーにはふりて

【長享年間百韻 6 巻】／何路［あらぬなを］／長享 2(1488) 年 4 月 5 日

あるかなきかのーやまかけのみち
かけろふのーいはかきしみつーくさしけみ

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

あるかなきかのーみねのはつゆき
かけろふのーいはかきみつはーおとさえて

【園塵第一／続群書類従本】／冬／長享 2 年

隠れ家はない（かくれがはない）

→み吉野の奥（みよしののおく）

たたあらましにーかくれかはなし
みよしののーまたみぬおくをーたつねはや

【看聞日記紙背 5 0 巻】／何路［ふりかつけ］／応永 29(1422) 年【B】3 月 15 日

うきよのほかのーかくれかはなし
みよしののーおくもやはなにーとはるらむ

【看聞日記紙背 5 0 巻】／唐何［あすはさけ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

ただ有り無しの契り（ただありなしのちぎり）

→内の形（うちのかたち）

たたありなしのーちきりなりけり
あめつちもーうらみのうちのーかたちにて

【文明年間百韻 3 4 巻】／何路［みるままに］／文明 12(1480) 年 8 月

たたありなしのーちきりなりけり
ひともよもーかかみのうちのーかたちにて

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

無き物（なきもの）

→古里の春（ふるさとのはる）

たひにしてーいつくもさためーなきものを
いそくやかへるーふるさとのはる

【寛正年間百韻 2 0 巻】／□□［なかつきと］／寛正 2(1461) 年 9 月

むかしにはーかへるにならひーなきものを
あはれのときやーふるさとのはる

【大永年間百韻 1 4 巻】／何木［うめかかを］／大永 7(1527) 年 1 月 18 日

人影もしない（ひとかげもしない）

→なる

まつとはすれとーひとかけもせす
たのめしやーよそのゆふへにーなりぬらむ

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

まはきかもとのーひとかけもせす
いつすみてーとほさとをのとーなりぬらむ

【下草／東山御文庫本】／雑上／明応 5(1496) 年 11 月 18 日

宮事もない（みやごともない）

→花が衰える

かすみのほらはーみやこともなし
ときすくるーこころのはなのーおとろへて

【三島千句】／三字中略［はるよまて］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

うきときはまたーみやこともなし
あきふかみーはなのきとももーおとろへて

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

なか

捨てる世の中

→侘ぬれば思う

なほいかならむーすつるよのなか
わひぬれはーおもひしことのーまさるみに

【表佐千句】／何人［はなそくも］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日<～8 日>

まよふうちにもーすつるよのなか
わひぬれはーおもふこにさへーちかつかて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／雑／永正 6(1509) 年以前

中空

→秋の初風

なかそらにーくるれはつきのーほのかにて
ふきたちけりなーあきのはつかせ

【毛利千句】／何船［みてもおもふ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

ゆくすゑもーおなしみやこのーなかそらに
ふなちにおもふーあきのはつかせ

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

中空の雲

→見え隠れする

はつあきなれやーなかそらのくも
ふしはそのーきりよりうへにーみえかくれ

【文明十四年万句５２巻】／山何［なほさこそ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

こころさわかすーなかそらのくも
ふるさとにーちかつくやまのーみえかくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

人の心の変わる世の中

→秋の暮れ

ひとのこころのーかはるよのなか
やまさとをーうかれいてめやーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
いまをなほーとへやよしののーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→秋が来る

ひとのこころのーかはるよのなか
うつせみのーはやまおろしにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
しるしらぬーひとつなみたにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→哀れ

ひとのこころのーかはるよのなか
よもきふをーかれぬあるしはーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
なきあとはーにくかりしたにーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→色見える

ひとのこころの－かはるよのなか
まちをしむ－はなにほとなき－いろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
たけはその－こをおもふとも－いろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→憂い身の時（ういみのとき）

ひとのこころの－かはるよのなか
うきみさへ－ときにやあふと－はるたちて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
うきみさへ－いまはのときや－をしからむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年
2 月以前

→衰える（おとろえる）

ひとのこころの－かはるよのなか
そのいへは－のこれとみちの－おとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
あかむれは－かみのしるしは－おとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→袖濡れる（そでぬれる）

ひとのこころの－かはるよのなか
ききわひぬ－しくれこのはに－そてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
おいかみは－わかなつむにも－そてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→旅（たび）

ひとのこころの－かはるよのなか
うきにあひ－なさけをみるも－たひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
うみやまの－なあるところも－たひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→契り（ちぎり）

ひとのこころの－かはるよのなか
なへてうき－あきなとほしの－ちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
むかしたれ－はなよりまつを－ちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→月を見る（つきをみる）

ひとのこころの－かはるよのなか
よつのとき－いつれまさると－つきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
すさましと－いひししはすの－つきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→とりどり（とりどり）

ひとのこころの－かはるよのなか
さむきひは－みつにいるてふ－とりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
すてかたき－わかふたみちの－とりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→儚い羽根を並べる鳥部山（はかないはねをならべるとりべやま）

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年 2 月以前

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはをもならへしーとりへやま

【老葉／書陵部宗訊筆本】／旅／

→花咲く

ひとのこころのーかはるよのなか
のへをわけーやまちをたとるーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みやまきをーかたはらになすーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→花もない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれへあるーみはなかめつるーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの―かはるよのなか
うたのみち―まことをうるはーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→羽根を並べる鳥部山

ひとのこころの―かはるよのなか
とりへやま―はねをならへしーすゑたえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしや―はねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年 2 月以前

→一つ

ひとのこころのーかはるよのなか
つきはたたーみやもわらやもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
こをおもふーみちのみたれもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→時鳥

ひとのこころのーかはるよのなか
ほととぎすーはななきころをーなくさめて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
またしよもーなきかやまちのーほととぎす

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ほととぎすーかへるやまちはーともならて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知らない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれしさもーうきもゆめなるーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ときをえはーなほおそるへきーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知る

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーわれとさためむーやともなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーいはむうらみもーなきものを

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→我が上

ひとのこころの－かはるよのなか
わかうへに－おもはてたれを－そしるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころの－かはるよのなか
わかうへに－ほしのひとよの－あきもかな

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心の世の中

→花を恨む

ひとのこころの－あたしよのなか
はなをたれ－うつろふものと－うらむらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

ひとのこころの－かはるよのなか
なつやまと－みなすをはなや－うらむらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

雪の中空

→ふきと吹く

くれわたりたる－ゆきのなかそら
ふきとふく－あらしのおとは－しつかにて

【羽柴千句】／何人［すくにゆく］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

のはちりきゆる－ゆきのなかそら
ふきとふく－かせよりのちの－あさつくひ

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［わけゆかは］／天正 4(1576) 年 8 月 19 日

世の中

→身を安く

たのむこと－あれはなほうき－よのなかに
おいてやひとは－みをやすくせむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［うすゆきに］／延徳 3(1491) 年 10 月 20 日

をくるまの－くるしくめくる－よのなかに
うしやいつかは－みをやすくせむ

【延徳年間百韻１６巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳 4(1492) 年 3 月 3 日

なかなか

中々市は住み良い

→三輪の杉群

ましはりの－なかなかいちは－すみよきに
たちならひたる－みわのすきむら

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永 26(1419) 年 3 月 29 日

やまよりも－なかなかいちは－すみよきに
たれたつねこむ－みわのすきむら

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［あすはさけ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

ながい

秋の夜長

→蟋蟀

はしゐにあかぬ－あきのよなかさ
ききすてて－たれかいをぬる－きりきりす

【大永年間百韻１４巻】／何人［つきやふね］／大永 2(1522) 年 8 月

おもひをつくす－あきのよなかさ
きりきりす－なれかなくねに－まけむやは

【弘治年間百韻８巻】／何人［うめひとき］／裏白／弘治 3(1557) 年 1 月 3 日

心長く待て

→綱引く渡し舟

こころなかくも－われにまてとや
わたしふね－むかひにつなを－ひきすてて

【新撰菟玖波集／実隆本】／羇旅下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

こころなかくも－ひとをこそまて
くるるまて－つなひきはふる－わたしふね

【北畠家連歌合／書陵部本】／北畠家連歌合／文明 2(1470) 年正月 6 日

長雨の空（ながあめのそら）

→時鳥（ほととぎす）

ふりみふらすみーなかあめのそら
ほととぎすーつきになくよやーいつならむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［とふひとや］／永正 18(1521) 年 8 月

なほはれかたきーなかあめのそら
ほととぎすーわかうたかひにーききわひて

【下草／金子本】／夏／延徳 4(1492) 年頃

夜が長い（よがながい）

→思い侘びる（おもいわびる）

ゆめいくたひのーよこそなかけれ
こひそうきーあきはものかはーおもひわひ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永 19(1412) 年 1 月 14 日

ひとりはなつもーよこそなかけれ
おもひわひーみしかきこころーいかかせむ

【文明年間百韻３４巻】／何人［ゆきのやま］／文明 14(1482) 年 1 月 16 日

→月を見る（つきをみる）

はつしもふれるーよこそなかけれ
まとろますーかりねののへのーつきをみて

【熊野千句】／何田［おそさくら］／文正元 (1466) 年 3 月以前

ねさめののちもーよこそなかけれ
ふるさとにーをはすてやまのーつきをみて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

世に長らえる（よにながらえる）

→花の一本（はなのひともと）

あるはみなーなきよかなしきーなからへに
えたももききのーはなのひともと

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日〜25 日

あたなりしーよはけふのみのーなからへに
くちきにのこるーはなのひともと

【天正四年万句７０巻】／何路［うすきりに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

ながつき

長月の霜（ながつきのしも）

→有明（ありあけ）

あらしはけしきーなかつきのしも
ありあけにーころもうつよのーそらさえて

【美濃千句】／何心［つゆにきえ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日〜21 日

かしらそしろきーなかつきのしも
ありあけにーなくやよなかのーやまからす

【宗砌関係９種】／宗砌発句並付句抜書／小松天満宮本／

ながめる

眺める（ながめる）

→淡路島山（あわじしまやま）

あかしかたーふねのゆくへのーなかめして
なみにうかへるーあはちしまやま

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふつゆも］／天正 16(1588) 年 8 月 10 日

ゆきになるーなにはわたりのーなかめして
たなひくくもやーあはちしまやま

【寛文年間百韻２２巻】／□□［くるかりも］／寛文 12(1672) 年 8 月 23 日

ながれる

流れの末（ながれのすえ）

→田の面の原（たのものはら）

たちさわくーなかれのすゑのーむらちとり
たのものはらのーいりひさむけし

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

うろくつはーなかれのすゑのーかたよりに
たのものはらのーひかりさやけし

【元和年間百韻２４巻】／□□［やつかほの］／元和 6(1620) 年 8 月 23 日

流れる（ながれる）

→行方知れない

よとかはのーよとますきりやーなかるらむ
ふなちもあきもーゆくへしられぬ

【浜宮千句】／□□［つきのいろと］／

とほさかるーほとやさかひもーなかるらむ
めわたるとりそーゆくへしられぬ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／山何［うのはなや］／成立時不詳

流れる水

→吉野川

なかるるみつのーととまらしとや
なみにはなーそをたにのこせーよしのかは

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

なかるるみつのーゆくへしらすや
かたとこそーはなもきゆらめーよしのかは

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正 6、7 年

なかるるみつのーゆくへしらはや
あわとこそーはなもきゆらめーよしのかは

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

なく

鶯が鳴く

→明け方

ねくらもしるくーうくひすそなく
つきかすむーにひたまくらのーあけかたに

【享徳二年千句】／何路［くまもなき］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

はねならはしのーうくひすそなく
さそはれむーはるをちさとのーあけかたに

【池田千句】／唐何［はなにあけて］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

またふるゆきをーうくひすそなく
たけあめるーとほそはまたきーあけかたに

【永正年間百韻３４巻】／山家［ひとめさへ］／永正 8(1511) 年 11 月 3 日

→花と朝ぼらけ

あはれをそへてーうくひすそなく
あかすねしーつきとはなとのーあさほらけ

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

さそふひかけにーうくひすそなく
さきいてぬーはなのにほひやーあさほらけ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

→霞むこの朝

はねならはせるーうくひすそなく
このあしたーほのほのかすむーのにいてて

【出陣千句】／何袋［はなさかり］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

たけをはやしとーうくひすそなく
うちなひきーかすみにけりなーこのあした

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

→朝ぼらけ

うくひすのなくーこゑのしつけさ
うちなひくーのへはかすみのーあさほらけ

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

きけはかすかにーうくひすのなく
かけひろきーたけのはやしのーあさほらけ

【元和年間百韻２４巻】／□□［とけゆけは］／裏白／元和 8(1622) 年 1 月 3 日

→時鳥

なつもかへらてーうくひすのなく
はつこゑをーいつしかとまつーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／□□［かみがきの］／天正 17(1589) 年 5 月 24 日

ゆくをやしたふーうくひすのなく
ほとときすーすをたつこゑもーきかまほし

【春夢草／書陵部本】／夏／永正 12(1516) 年、13 年

牡鹿鳴く声（おじかなくこえ）

→寝覚めれば月（ねざめればつき）

あかつきさひしーをしかなくこゑ
ねさむれはーつきすむあきのーこからしに

【紹巴亡父追善千句】／二字反音［かけたかき］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

かすかなりけりーをしかなくこゑ
ねさむれはーつきはありあけのーまくらにて

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

雁鳴く（かりなく）

→秋が更ける（あきがふける）

くもまよりーほのめくつきにーかりなきて
そらもみにしむーあきはふけけり

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［はつはなや］／成立時不詳

あらしのみーふくやときけはーかりなきて
をのへのまつも－あきはふけけり

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

→伏見の夢（ふしみのゆめ）

つきうつるーまくらのをちにーかりなきて
ふしみのゆめそーなこりつゆけき

【成立不詳・宗養以前８巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

みつしろきーたのものうへにーかりなきて
ふしみのゆめそーつきにあとなき

【春夢草／書陵部本】／秋／永正 12(1516) 年、13 年

蛙鳴く（かわずなく）

→鶯（うぐいす）

をりをえかほにーかはつなくなり
うくひすのーこゑよりはるやーさそふらむ

【天文十八年梅千句】／何人［みしいろは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

おのかつまとふーかはつなくなり
うくひすの－あめうちそそくーはなにねて

【大永四年月並千二百韻】／□□［としなみの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 12 月 23 日

→五月雨（さみだれ）

ときもわすれすーかはつなくなり
さみたれはーはれてもおなしーにはたつみ

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かはつなくなりーをたのまちまち
さみたれはーさかひもみえすーみちとほみ

【宗牧追善千句】／ｘｘ［くもるなよ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

ふりたるいけにーかはつなくなり
さみたれはーなこりつきせぬーにはたつみ

【永享年間百韻４巻】／山何［くちてけり］／永享 12(1440) 年 10 月 16 日

→庭水（にわたづみ）

ときもわすれすーかはつなくなり
さみたれは－はれてもおなしーにはたつみ

【天文廿四年梅千句】／花之何［かみかきの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

ふりたるいけにーかはつなくなり
さみたれはーなこりつきせぬーにはたつみ

【永享年間百韻４巻】／山何［くちてけり］／永享 12(1440) 年 10 月 16 日

雉鳴き立つ（きぎすなきたつ）

→駒止める（こまとめる）

ききすなきたつーこゑのさひしさ
あらしふくーかすみのすゑにーこまとめて

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

ききすなきたつーありあけのつき
さくらかり－はなのしたはにーこまとめて

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

誰を松虫の鳴く（だれをまつむしのなく）

→訪う人も嵐の山の秋の暮れ（とうひともあらしのやまのあきのくれ）

あかつきたれを－まつむしのなく
とふひとも－あらしのやまの－あきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明8(1476) 年 5 月頃

いまはたれをか－まつむしのなく
とふひとも－あらしのやまの－あきのくれ

【行助関係 4 種】／行助句／伊地地本／

千鳥鳴く（ちどりなく）

→うち時雨れる（うちしぐれる）

かせにたたよふ－ちとりなくなり
いくたひも－ねさめのまくら－うちしくれ

【天文廿四年梅千句】／何路［とりのねも］／天文 24(1555) 年正月 7 日

ゆけきになれは－ちとりなくなり
ふるさとの－さほのかはらの－うちしくれ

【壁草／書陵部本】／冬／永正 9 年

→帰る（かえる）

つきまつなみに－ちとりなくなり
あととめぬ－ゆめやよのまに－かへるらむ

【表佐千句】／何船［はなやちる］／文明8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

きけははるかに－ちとりなくなり
ふきくらす－あらしやまつに－かへるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

千鳥鳴く声（ちどりなくこえ）

→思いかねる（おもいかねる）

ゆくかたをなみ－ちとりなくこゑ
おもひかね－たつぬるみちに－さよふけて

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

よふねにきくは－ちとりなくこゑ
おもひかね－いもねぬたひを－しるままに

【至徳以前百韻 7 巻】／何木［かみかきの］／至徳 4(1387) 年以前

鳥鳴く（とりなく）

→片岡の道（かたおかのみち）

あはゆきを－□□□□はらふ－とりなきて
あさまたきゆく－かたをかのみち

【永禄年間百韻 2 8 巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

くれわたる－たのもつつきに－とりなきて
ひかりほのめく－かたをかのみち

【天正年間百韻 5 7 巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正 19(1591) 年 1 月 3 日

鳥の鳴く声（とりのなくこえ）

→関の戸（せきのと）

よなかさいつら－とりのなくこゑ
せきのとの－もみちむしろを－しきすてて

【文禄年間百韻 1 2 巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

いつくのそらそ－とりのなくこゑ
せきのとの－まつあけわたる－ゆきはれて

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

鳴く蟋蟀（なくきりぎりす）

→明かし巣てる（あかしはてる）

あきふけけりと－なくきりきりす
なからふる－みをなけきつつ－あかしはて

【元和年間百韻 2 4 巻】／□□［ちちのはるを］／裏白／元和 4(1618) 年 1 月 3 日

ゆかにちかより－なくきりきりす
ものおもふ－まくらなからに－あかしはて

【元和年間百韻 2 4 巻】／□□［とししとしに］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

→暮れつ方（くれつかた）

なくきりきりす－こゑやそふらむ
なかつきの－なかきおもひの－くれつかた

【初瀬千句】／何木［ほとときす］／享徳元・2(1452) 年、4 月

こゑよわりつつーなくきりきりす
ふゆされはーいとともものうきーくれつかた

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

→身に限らない

けなけやなけーふてのなこりのーきりきりす
おもひすてしはーみにもかきらし

【浅間千句】／唐何［はなといはは］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

つひにねぬーよすかなくなりーきりきりす
あきのつらさはーみにもかきらし

【文明十二年千句８巻】／何人［ひとはさへ］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

→耳に満ちる

なけやなけーよしうれふともーきりきりす
みみにみちたるーせみのもろこゑ

【飯盛千句】／何衣［つきいてて］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

ねになくはーおもひあれはやーきりきりす
みみにみちたるーかせそみにしむ

【至徳以前百韻７巻】／何路［ゆきませの］／至徳 4(1387) 年以前

鳴く時鳥

→有明の月

やまよりやまにーなくほとときす
ありあけのーつきはくもまにーかけみえて

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

くさのまくらにーなくほとときす
ありあけのーつきをなこりのーよはのゆめ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

→月は有明

ほとときすーはなのなかはにーきてもなけ
つきはありあけのーおほろなるころ

【弘治三年春雪千句】／何衣［なくきしの］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

たかかたのーあめになくらむーほとときす
つきはありあけのーなつのよのそら

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→花盛り

まくらのくもにーなくほとときす
のをひろみーやとかるかけのーはなさかり

【紹巴亡父追善千句】／玉何［はるよたた］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

なくほとときすーほのかなるそら
くももきをーうつむはかりのーはなさかり

【弘治三年春雪千句】／初何［けさみれは］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

→雨注ぎ

はるはよのまをーなくほとときす
やよひはたーけふにつきぬるーあまそそき

【嵯峨千句】／山何［いけみつの］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

くもよりをちにーなくほとときす
はなにそへーたそかれをしきーあまそそき

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

鳴け時鳥

→雨過ぎる

なけほとときすーよをまたすとも
くもふかきーなつやまかけにーあめすきて

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うのはなは］／永享 9(1437) 年 4 月 25 日

つきかたふきぬーなけほとときす
たちいつるーくさのいほりのーあめすきて

【永禄年間百韻２８巻】／何木［きりのはの］／永禄 5(1562) 年 7 月 4 日

→雲迷う

ひもゆふかけにーなけほとときす
くもまよふーかたはあめにやーむかふらむ

【因幡千句】／何草［ふるゆきは］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

なけほととぎすーすきのひとむら
くもまよふーこすゑのうへにーあめみえて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→短夜（みじかよ）

なけほととぎすーひとこゑの□□
にしにゆくーこころのつきのーみしかよに

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

かかるをりふしーなけほととぎす
うたたねの―ゆめのうきはしーみしかよに

【春夢草／書陵部本】／夏／永正 12(1516) 年、13 年

時鳥鳴く（ほととぎすなく）

→なる

ほととぎすなくーくものをちかた
みしかよもーたれかねさめにーなりぬらむ

【文明十四年万句５２巻】／朝何［ひにそひて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ほととぎすなくーあとをこそみれ
むかしたかーうゑきのもりとーなりぬらむ

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

松虫が鳴く（まつむしがなく）

→草の原（くさのはら）

つゆのやとりにーまつむしのなく
くさのはら―あたなるいろにーうつろひて

【美濃千句】／何色［しくれつつ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

なにをまてとかーまつむしのなく
つきもはやーかけさすつゆのーくさのはら

【永原千句】／何木［おとそなき］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

→秋の暮れ（あきのくれ）

なれしはしるやーまつむしのなく
かりころもーいくつゆしものーあきのくれ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

あかつきたれをーまつむしのなく
とふひともーあらしのやまのーあきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

虫鳴く（むしなく）

→霧の下道（きりのしたみち）

をかのへのーかきほはまたきーむしなきて
ゆふかけふかきーきりのしたみち

【飯盛千句】／何衣［つきいてて］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

あさほらけーわけゆくかたにーむしなきて
そてさむくなるーきりのしたみち

【文明十四年万句５２巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

なぐさめる

憂きをただ慰める（うきをただなぐさめる）

→一筆の跡（ひとふでのあと）

うきをたたーわすれかたみにーなくさめよ
それさへたゆるーひとふてのあと

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

うきをたたーこころとしはしーなくさめて
しのへはのこすーひとふてのあと

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

うちが慰める（うちがなぐさめる）

→草枕（くさまくら）

ひなのなかちもーうちそなくさむ
おもひおくーみやこをゆめのーくさまくら

【永正年間百韻３４巻】／何人［かせなから］／永正 7(1510) 年 10 月 20 日

のをなつかしみーうちそなくさむ
くさまくらーいもにむすひしーゆめさめて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

なごり

名残り（なごり）

→松虫の声（まつむしのこえ）

あさちふをーふかきみやこのーなこりにて
ききすてかたきーまつむしのこゑ

【永正年間百韻３４巻】／白何［さみたれや］／千句第五／永正 15(1518) 年 5 月 14 日

もみちするーあとはくもゐのーなこりにて
すゑかれにけりーまつむしのこゑ

【文明十四年万句５２巻】／何人［よにひろく］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

名残り寂しい（なごりさびしい）

→冬籠り（ふゆごもり）

なこりさひしきーとりのひとこゑ
はるきてもーつれなきはなのーふゆこもり

【伊予千句】／山何［やとりとへ］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かれののはらそーなこりさひしき
くさのとをーすむかけにするーふゆこもり

【明応年間百韻２２巻】／何人［としにありて］／明応 9(1500) 年 7 月 7 日

なつ

たつ日の夏衣（たつひのなつごろも）

→山時鳥（やまほととぎす）

つゆそおくーたちていくかのーなつころも
たひにはつれよーやまほとときす

【池田千句】／何路［はなはしるや］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

なつころもーたちかふるひかすーほともなし
うへなくときかーやまほとときす

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

夏かけて（なつかけて）

→岸の卯の花（きしのうのはな）

なつかけてーふちさくかはへーまたもみむ
なみにあらすなーきしのうのはな

【熊野千句】／何田［おそさくら］／文正元 (1466) 年 3 月以前

さかりすくるーゐてのやまふきーなつかけて
はやほころふるーきしのうのはな

【寛文年間百韻２２巻】／□□［むかしおもふ］／寛文 10(1670) 年 2 月 7 日

夏木立（なつこだち）

→山時鳥（やまほととぎす）

しらかしのーゆきまやみねのーなつこたち
くもよりいつるーやまほとときす

【永禄石山千句】／初何［しらかしの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

はなはきのふーもみちもあすかーなつこたち
またはつねきくーやまほとときす

【園塵第二／続群書類従本】／夏／明応 4(1495) 年早春

夏の日（なつのひ）

→村雨の雲（むらさめのくも）

なつのひはーかたふくそらもーさやかにて
めくりもあへぬーむらさめのくも

【永正年間百韻３４巻】／何人［ゆふつくよ］／永正 13(1516) 年 7 月 8 日

なつのひはーやまのあなたにーへたたりて
ふもとにめくるーむらさめのくも

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ふたよあけて］／裏白／寛永 5(1628) 年 1 月 3 日

夏の夜の月（なつのよのつき）

→時鳥（ほととぎす）

ことかはすまもーなつのよのつき
きくもたたーそれかあらぬかーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／山何［かせふけは］／天正 2(1574) 年 5 月 8 日

なかめあかせるーなつのよのつき
ほとときすーやはひとこゑにーまとろまて

【園塵第三／続群書類従本】／夏／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

なでしこ

撫子（なでしこ）

→蜩の声（ひぐらしのこえ）

なてしこのーおひゆくすゑをーまちかねて
あきのこなたのーひくらしのこゑ

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 5 月 23 日

なてしこのーつゆはまそてのーいろそめて
ゆきすきかてのーひくらしのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／何人［なやここに］／天文 4(1535) 年 5 月 1 日

なに

何思う（なにおもう）

→世の中（よのなか）

くさのいほりにーなにおもふらむ
よのなかにーかかつらふこそーはかなけれ

【宗牧追善千句】／何路［のこるなは］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

としへてのちをーなにおもふらむ
けさみしもーゆふへはかはるーよのなかに

【文明年間百韻３４巻】／□□［ゆきのかけ］／文明 5(1473) 年 12 月 5 日

何頼む（なにたのむ）

→朝顔の花（あさがおのはな）

わかよのつゆにーなにたのむらむ
あさかほのーはなにもみをはーおとろかて

【明応年間百韻２２巻】／何人［たますたれ］／明応 5(1496) 年 6 月 7 日

はかなきこころーなにたのむらむ
あさかほのーはなに□□□のーうちみたれ

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

何に譬えよう（なににたとえよう）

→吹く風（ふくかぜ）

かかるうらみをーなににたとへむ
あつきひのーころものすそをーふくかせに

【宝徳四年千句】／何路［はなにほふ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

よのなかをーなににたとへむ
ふくかせにーとまりさためぬーあまのつりふね

【菟玖波集／広島大学本】／雑体／文和 5(1356) 年冬〜翌年の春

なびく

打ち靡く（うちなびく）

→露も溜まらない（つゆもたまらない）

かりわくるーかとたのいなはーうちなひき
あしのまろやはーつゆもたまらす

【顕証院会千句】／何鳥［みたれあふ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日〜21 日

うちなひきーそとものきりのーあさほらけ
たけのさえたのーつゆもたまらす

【天文廿四年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

→人は音しない（ひとはおとしない）

かせかよふーのへのなつくさーうちなひき
ひとはおとせぬーやまのしたいほ

【初瀬千句】／何船［はなはなほ］／享徳元・2(1452) 年、4 月

ふねうかふーきしのくれたけーうちなひき
ひとはおとせぬーつきのゆふかせ

【明応年間百韻２２巻】／何船［みやことし］／明応 8(1499) 年 1 月 4 日

竹打ち靡く（たけうちなびく）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

たけうちなひくーをちのかはきり
とふほたるーここにかしこにーくれそめて

【石山四吟千句】／何人［うめかえは］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日〜19 日

たけうちなひくーかけのすすしさ
ほのかにもーかせのまにまにーとふほたる

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

靡き合う竹（なびきあうたけ）

→続（つづく）く

なひきあひたるーたけのすゑすゑ
つきうつるーたのもやさとにーつつくらむ

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

なひきあひたるーたけのむらむら
まつたてるーけふりやたえすーつつくらむ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふたちの］／天正 17(1589) 年 6 月 16 日

靡く青柳（なびくあおやぎ）

→霞（かすむ）む

かせよりさきもーなひくあをやき
ありあけやーなかそらたかくーかすむらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

はるのしるしにーなひくあをやき
かつらきやーくものよそめにーかすむらむ

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

→残（のこる）る

くちきなからもーなひくあをやき
みちのへのーゆきはうすくやーのこるらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ひととせに］／応永 32(1426) 年 12 月 11 日

しつえしけりてーなひくあをやき
かせやまたーちりしさくらにーのこるらむ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［たのもしな］／寛文 9(1669) 年 10 月 2 日

なみ

岩越す浪（いわこすなみ）

→滝落（たきおちる）ちる

いはこすなみはーまつのあらしか
ちるをみるーやまにははなのーたきおちて

【菟玖波集／広島大学本】／春下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

いはこすなみはーかはかせそふく
あらいそのーうへなるやまにーたきおちて

【老葉／吉川本】／雑上／文明 13(1481) 年夏頃

沖の白浪（おきのしらなみ）

→立田山の秋（たつたやまのあき）

かせにまかするーおきつしらなみ
たつたやまーみねのこのはにーあきくれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

しくれつはれつーおきつしらなみ
たつたやまーあきふかくなるーほとみえて

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

沖の浪（おきのなみ）

→立田の山（たつたのやま）

はるかにもーからくそみゆるーおきつなみ
たつたのやまのーよはのかよひち

【永正十花千句】／何人［かせをのみ］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

ひとにさてーいかかかたらむーおきつなみ
たつたのやまのーあきのいろいろ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

掛かる藤浪（かかるふじなみ）

→田子の長き日（たこのながきひ）

よそのこすゑにーかかるふちなみ
たこのうらーあひきのなはもーなかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

まつにことさらーかかるふちなみ
ひまもなきーたこのしほくみーなかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

→霞む三笠山（かすむみかさやま）

あをはのころにーかかるふちなみ
あけにけりーかすみのひまにーみかさやま

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

まつほのほのとーかかるふちなみ
かすみてはーなほみねたかしーみかさやま

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

志賀の浦舟（しがのうらぶね）

→神祭（かみまつり）

よもあけかたのーしかのうらふね
かみまつりーもよほすそてのーいさなひに

【天文十八年梅千句】／山何［うめさけは］／天文 18(1549) 年正月 11 日

なみたにかすむーしかのうらふね
たひひとにーあくるやけふのーかみまつり

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

須磨の浦浪（すまのうらなみ）

→藻塩焼く煙（もしおやくけむり）

ふなちにあらきーすまのうらなみ
もしほやくーけふりにうみもーかきくれて

【表佐千句】／唐何［つきはたた］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

みのうきふしにーすまのうらなみ
もしほやくーけふりはあさなーゆふなにて

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

→淡路潟（あわじがた）

ふねさしとむるーすまのうらなみ
あはちかたーうしほのむかふーせとをみて

【宝徳四年千句】／何人［はなそころ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

つきをみるよのーすまのうらなみ
あはちかたーせとのあきかせーみにしみて

【菟玖波集／広島大学本】／秋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

滝の岩浪（たきのいわなみ）

→音羽川（おとわがわ）

こすゑにちるやーたきのいはなみ
おとはかはーおとはかりしてーくるるひに

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かすみかくれにーたきのいはなみ
やまとほくーなかれいてたるーおとはかは

【寛正年間百韻２０巻】／何人［けふこすは］／寛正 3(1462) 年 2 月 27 日

浪の上（なみのうえ）

→藻塩の煙（もしおのけむり）

なくさむるーつきはあかしのーなみのうへ
もしほのけふりーあきふかくみゆ

【伊庭千句】／何人［うすくもり］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

うみやまのーあさゆふかはるーなみのうへ
もしほのけふりーをちのしらくも

【享禄年間百韻８巻】／白何［あさみとり］／享禄 3(1530) 年 3 月 2 日

→舟の内（ふねのうち）

なみのうへなるーあまのいへしま
いてぬひもーこころやうかふーふねのうち

【伊庭千句】／何文［たかはるの］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

まつらのやまそーなみのうへなる
ほとときすーききてやすらふーふねのうち

【文明年間百韻３４巻】／夕何［みつみえぬ］／千句第□／文明 17(1485) 年 6 月 26 日

浪の浮舟（なみのうきふね）

→手習い（てならい）

よるへはいつくーなみのうきふね
てならひはーまたいとけなきーころそかし

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

ことにこきいるーなみのうきふね
てならひは－にはのをしへのーほとなるに

【看聞日記紙背５０巻】／何人［かみにうめ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

浪の間に間に（なみのまにまに）

→寝覚めがち（ねざめがち）

おとはたたーなみのまにまにーしくれきて
ねさめかちなるーとまふきのうち

【嵯峨千句】／何路［あけほのの］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

なみのまにまにーちとりむれたつ
とまふきにーねさめかちなるーさよあらし

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なつなきは］／寛文 13(1673) 年 6 月 12 日

吹く浪の浦風（ふくなみのうらかぜ）

→鳥の鳴き立つ（とりのなきたつ）

ふきまとはせるーなみのうらかせ
さよふかきーうきねのとりのーなきたちて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

ふきこそかはれーなみのうらかせ
なかそらにーまさこのちとりーなきたちて

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

松の藤浪（まつのふじなみ）

→月出る（つきいでる）

はるちよかけよーまつのふちなみ
なかきひもーくるれはやかてーつきいてて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

はなまちえたるーまつのふちなみ
はるのよのーひかりをそふるーつきいてて

【文安年間百韻１巻】／夢想［おそさくら］／文安 2(1445) 年 3 月 18 日

→時鳥（ほととぎす）

なつをかけたるーまつのふちなみ
ほとときすーこのゆふつくよーほのめきて

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

こえてやたかきーまつのふちなみ
ここになくーこゑもくもゐのーほとときす

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

ところところのーまつのふちなみ
またれぬるーこゑはやよひのーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［かすみけり］／天正 10(1582) 年 3 月 1 日

なみだ

露も涙も（つゆもなみだも）

→思い草（おもいぐさ）

つゆもなみたもーそてのみそしる
のはいまたーいろこそみえねーおもひくさ

【浜宮千句】／□□［ちりうせぬ］／

つゆもなみたもーたれをうらみむ
こころよりーねをさすものそーおもひくさ

【園塵第一／続群書類従本】／恋／長享 2 年

涙（なみだ）

→袖の眉墨（そでのまゆずみ）

したひわひーおもひあまるはーなみたにて
かたみにのこすーそてのまゆすみ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［おちはまて］／応永 25(1418) 年 10 月 25 日

くろかみのーまくらのつきはーなみたにて
うつりやすさよーそてのまゆすみ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ゆきにみて］／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

涙争う声（なみだあらそうこえ）

→雁鳴く（かりなく）

なみたあらそふーさをしかのこゑ
つきにいまーさそはれわたるーかりなきて

【明応年間百韻２２巻】／何人［としにありて］／明応 9(1500) 年 7 月 7 日

なみたあらそふーむしのこゑこゑ
こはきはらーうつろふゆふへーかりなきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

涙落ちる（なみだおちる）

→人もない（ひともない）

ゆふへのくもにーなみたおちけり
なかむなよーそらにはおもふーひともなし

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋中／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

あはれをしるやーなみたおちけり
ことわりをーうらむるにうきーひともなし

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

→古里（ふるさと）

しのふものからーなみたおちけり
とふひともーおもかけかはるーふるさとに

【弘治三年春雪千句】／薄何［そらにあめ］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

なこりかなしくーなみたおちけり
ふるさとにーまたわかれぬるーゆめさめて

【園塵第三／続群書類従本】／雑下／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→夢覚める（ゆめさめる）

つきにむかふもーなみたおちけり
ひとにそふーこころはかなくーゆめさめて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋中／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

なこりかなしくーなみたおちけり
ふるさとにーまたわかれぬるーゆめさめて

【園塵第三／続群書類従本】／雑下／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

涙河（なみだがわ）

→水上の紅葉散る（みなかみのもみじちる）

かけをたにーうつさむせせのーなみたかは
なとみなかみのーもみちちるらむ

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

いろにさへーあさくはみえぬーなみたかは
なにみなかみのーもみちちるらむ

【親当関係２種】／親当句集／赤木文庫本／

涙が我が袖の上（なみだがわがそでのうえ）

→思う（おもう）

つゆもなみたもーわかそてのうへ
ひとしれぬーみにはなにをかーおもふらむ

【文安年間百韻９巻】／山何［ふたたひの］／文安 5(1448) 年 11 月 12 日

いつもなみたのーわかそてのうへ
とふひとやーこよひはかりとーおもふらむ

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

昔を思う涙（むかしをおもうなみだ）

→秋は悲しい（あきはかなしい）

むかしおもふーなみたにつきやーくもるらむ
いととねさめのーあきそかなしき

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［またもなき］／成立時不詳

むかしおもふーなみたもつゆもーそてのうへ
ひとのこころのーあきそかなしき

【文禄年間百韻１２巻】／□□［けさのまに］／文禄 2(1593) 年 1 月 14 日

→草の庵（くさのいお）

むかしおもふーこよひはなみたーもよほして
くさのいほりのーあめのさひしさ

【初瀬千句】／何人［なつやまに］／享徳元・2(1452) 年、4 月

むかしおもふーなみたにかすむーよはのつき
くさのいほりのーゆふくれのはる

【文明十四年万句５２巻】／何木［あきのひも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

向って涙落ちる（むかってなみだおちる）

→なる（なる）

むかへはつきにーなみたおちけり
おいさりしーあきはたかよにーなりぬらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑下／文明 8(1476) 年 5 月頃

むかふくさきにーなみたおちけり
たかさとのーよもきかそまとーなりぬらむ

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

ならう

世の習い（よのならい）

→蓬生の影（よもぎうのかげ）

おとろへもーさかえもおなしーよのならひ
さそふにいてぬーよもきふのかけ

【元和年間百韻２４巻】／□□［よにおほへ］／元和 7(1621) 年 1 月 19 日

しのふるもーかくれかたしよーよのならひ
けふりとともーよもきふのかけ

【天正四年万句７０巻】／手何［はつあられ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

なる

秋近くなる（あきちかくなる）

→心細い花落ちる頃（こころぼそいはなおちるころ）

おほつかなーあきもやちかくーなりぬらむ
こころほそしなーはなおつるころ

【心敬関係１０種】／芝草内岩橋／本能寺本／

くれそうきーあきもやちかくーなりぬらむ
こころほそしなーはなおつるころ

【河越千句】／山何［うくひすに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

鐘鳴る（かねなる）

→暁の空（あかつきのそら）

はるふかきーふもとのさとにーかねなりて
しらぬふねゆくーあかつきのそら

【三島千句】／初何［うつろふか］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

かたやまのーゆふへのあめにーかねなりて
つきまちいてむーあかつきのそら

【美濃千句】／山何［けふみすは］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

→杉の群立ち（すぎのむらだち）

くれわたるーみねよりおくにーかねなりて
いらかさひしきーすきのむらたち

【弘治年間百韻８巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

かはかみはーくもゐるいらかーかねなりて
あらしにあくるーすきのむらたち

【成立不詳・宗養以前８巻】／何人［あをやきや］／成立時不詳

→月が傾く（つきがかたむく）

やまふかくーすむひとしるきーかねなりて
よをおとろけとーつきそかたふく

【明応年間百韻２２巻】／何人［あさかすみ］／明応 4(1495) 年 1 月 6 日

たちまよふーそらのおくよりーかねなりて
あかつきさむみーつきそかたふく

【明応年間百韻２２巻】／何水［あけほのを］／明応 8(1499) 年 2 月 19 日

→峰の古寺（みねのふるでら）

われゆかぬーこひちのやまにーかねなりて
こころのかよふーみねのふるてら

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

なほくらきーまつのかけにもーかねなりて
たれかとひこむーみねのふるてら

【文明十四年万句５２巻】／何路［ぬしやたれ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→山の端の月（やまのはのつき）

あかつきはーまたいりあひのーかねなりていつるににたる－やまのはのつき

【宗長追善千句】／薄何［くもとりや］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

このよころーたのむゆめたにーかねなりてはなのなこりのーやまのはのつき

【伊予千句】／三字中略［たけのはの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

なる（なる）

→霧立ち上る（きりたちのぼる）

くもそあるーいつよりつきにーなりぬらむきりたちのほるーしくれふるそら

【文安雪千句】／初何［ふりしける］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

あききてやーそてもなみたとーなりぬらむきりたちのほるーあとのをすすき

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→筏を下す川（いかだをくだすかわ）

みなかみやーあめのひまにもーなりぬらむくたすいかたのーたきつかはなみ

【宮島千句】／何人［うらとほく］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

たきつせのーすゑやあさみにーなりぬらむくたすいかたの－さはるかはきし

【長禄三年千句１１巻】／何舟［しほかれて］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

→所々（ところどころ）

いつすみてーとほさとをのとーなりぬらむところところに－けふるいへいへ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［まつみよと］／延徳 4(1492) 年 2 月 8 日

さはみつのーすゑやすくなくーなりぬらむところところに－つくるをやまた

【天正四年万句７０巻】／何路［うすきりに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→古塚の松（ふるづかのまつ）

たままつるーのちはなににかーなりぬらむさひしくたてる－ふるつかのまつ

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきのはな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

みしひとやーおもかけにのみーなりぬらむうゑしはいつそーふるつかのまつ

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→雪の山本（ゆきのやまもと）

とほきののーはらもやさとに－なりぬらむひとすちけふるーゆきのやまもと

【長享年間百韻６巻】／何路［あらぬなを］／長享 2(1488) 年 4 月 5 日

かりそなくーたひひといかにーなりぬらむさととたえたるーゆきのやまもと

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

→有明の月（ありあけのつき）

にはにたくーひかりやうすくーなりぬらむいまみえそめしーありあけのつき

【天文十八年梅千句】／何路［ふきよわる］／天文 18(1549) 年正月 11 日

ときのまのーはるやむかしにーなりぬらむおもかけかすむーありあけのつき

【菟玖波集／広島大学本】／春上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

なれる柴人（なれるしばびと）

→烏飛ぶ（からすとぶ）

ひとりひとりにーなれるしはひとからすとふーいちちのむらにーひはおちて

【池田千句】／何人［はるのはな］／永正7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

いりひかくれにーなれるしはひと
からすとふーすそののさとのーうすけふり

【永正年間百韻３４巻】／何人［すすしさや］／永正 7(1510) 年 7 月 5 日

我でなくなるのが憂い（われでなくなるのがうい）

→苔の戸の夕嵐（こけのとのゆうあらし）

うしやわれにもーあらすなりゆく
はなをふくーこけのとほそのーゆふあらし

【春夢草／書陵部本】／春／永正 12(1516) 年、13 年

うしやわれにもーあらすなりゆく
こけのとのーはなにふきたつーゆふあらし

【論書４種】／宗牧／

なわ

舟の綱手縄（ふねのつなでなわ）

→塩釜の浦（しおがまのうら）

ふねにすむーあまのしわさのーつなてなは
なみもたたならぬーしほかまのうら

【大永年間百韻１４巻】／何船［うめかかや］／大永 3(1523) 年 1 月 9 日

あさほらけ―いそくやふねのーつなてなは
あまそかひなき―しほかまのうら

【園塵第二／続群書類従本】／雑／明応 4(1495) 年早春

におう

梅匂う（うめにおう）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

かたえほのほのーうめにほふなり
うくひすのーはふきにあくるーあさほらけ

【称名院追善千句】／何人［せめてさは］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

ふゆきなからにーうめにほふなり
かせはまたーかすむともなきーあさほらけ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

→鶯（うぐいす）

かたえほのほのーうめにほふなり
うくひすのーはふきにあくるーあさほらけ

【称名院追善千句】／何人［せめてさは］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

つつくかきねのーうめにほふなり
うくひすの―こゑするかたのーこすまきて

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

梅匂う頃（うめにおうころ）

→鶯（うぐいす）

たけのさえたもーうめにほふころ
うくひすのーはふきにつゆやーこほるらむ

【天文年間百韻３８巻】／何路［あさかほの］／天文 10(1541) 年 7 月 29 日

かすめるつきにーうめにほふころ
うくひすのーはなにねぬよのーこゑもかな

【心敬関係１０種】／心玉集／陽明文庫本／

風に匂う橘（かぜにおうたちばな）

→玉簾（たますだれ）

かせのいつくかーにほふたちはな
ふかきよをーしらてまきつるーたますたれ

【天文廿四年梅千句】／山何［うちなひき］／天文 24(1555) 年正月 7 日

つゆちるかせにーにほふたちはな
たますたれーのきはのつきにーまきあけて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

匂う梅の香（におううめのか）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

とへとやつけしーにほふうめかか
はるとしもーあらてゆきふるーあさほらけ

【大永年間百韻１４巻】／何人［あきのつき］／大永 6(1526) 年 9 月 13 日

こすふくかせにーにほふうめかか
いととさへーこころうかるーあさほらけ

【天正四年万句７０巻】／何路［ちりとのみ］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

匂う橘（におうたちばな）

→小簾の外（こすのと）

したかせとほくーにほふたちはな
こすのとにーくもますすしきーつきふけて

【天文年間百韻３８巻】／何路［ひとこゑや］／天文14(1545)年5月8日

くちきのかたえーにほふたちはな
こすのとにーたちすすみつつーはしゐして

【天正四年万句７０巻】／何文［しのひねに］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→朝露（あさつゆ）

こかくれてのみーにほふやまふき
あさつゆにーぬれてやてふのーめくるらむ

【大永年間百韻１４巻】／何木［はなにたて］／大永8(1528)年2月23日

みちのへかけてーにほふやまふき
おきこほれーかすむまかきのーあさつゆに

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

水に匂う山吹（みずににおうやまぶき）

→雨晴れた春の暮れ（あめはれたはるのくれ）

こふかきみつにーにほふやまふき
なかあめのーひをうつすまにーはるくれて

【三島千句】／二字反音［いけすみて］／文明3(1471)年3月21日～23日

いしはしるみつにーにほふやまふき
あめはるるーせせのしらなみーはるくれて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

にしき

紅葉の錦（もみじのにしき）

→古里（ふるさと）

もみちのにしきーかさねきるころ
ふたたひはーいなしとおもふーふるさとに

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

もみちのにしきーきてやゆかまし
ぬれぬれもーあきはしくれのーふるさとに

【菟玖波集／広島大学本】／雑一／文和5(1356)年冬～翌年の春

にち

朝日影（あさひかげ）

→海人の釣舟（あまのつりぶね）

をちかたのーまつにいさよふーあさひかけ
さしてそいつるーあまのつりふね

【永正年間百韻３４巻】／何人［つきはなを］／永正2(1505)年9月13日

あさひかけーみつにみるみるーうつろひて
ゆふしほまてのーあまのつりふね

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

入り日影（いりひかげ）

→里に人帰る見ゆ（さとにひとかえるみゆ）

うつろふかーまつのはこしのーいりひかけ
すゑののさとにーひとかへるみゆ

【三島千句】／二字反音［いけすみて］／文明3(1471)年3月21日～23日

くれたけのーみとりのうへのーいりひかけ
たなかのさとにーひとかへるみゆ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うらかせの］／永正14(1517)年6月

霞む日（かすむひ）

→雪の斑消え（ゆきのむらぎえ）

かすむひにーとしのこえぬるーほとをみて
ふりかさぬれとーゆきのむらきえ

【表佐千句】／何年［はなにいる］／文明8(1476)年3月6日<～8日>

はしたかのーをこしのとたちーかすむひに
いこまかたのーゆきのむらきえ

【親当関係２種】／親当句集／赤木文庫本／

寒い日（さむいひ）

→旅の衣手（たびのころもで）

このねぬるーあさなあさなのーさむきひに
かさねまほしきーたひのころもて

【浅間千句】／薄何［ほととぎす］／永正11(1514) 年 5 月 13 日〜19 日

さむきひにーかはてやこまのーなつむらむ
あらしをしのくーたひのころもて

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なれてこし］／寛文 10(1670) 年 2 月 27 日

たつ日の夏衣（たつひのなつころも）

→山時鳥（やまほととぎす）

つゆそおくーたちていくかのーなつころも
たひにはつれよーやまほととぎす

【池田千句】／何路［はなはしるや］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

なつころもーたちかふるひかすーほともなし
うへなくときかーやまほととぎす

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

夏の日（なつのひ）

→村雨の雲（むらさめのくも）

なつのひはーかたふくそらもーさやかにて
めくりもあへぬーむらさめのくも

【永正年間百韻３４巻】／何人［ゆふつくよ］／永正 13(1516) 年 7 月 8 日

なつのひはーやまのあなたにーへたたりて
ふもとにめくるーむらさめのくも

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ふたよあけて］／裏白／寛永 5(1628) 年 1 月 3 日

春の入日（はるのいりひ）

→絶え絶え（たえだえ）

はるのいりひのーかけかすかなり
たえたえにーかねのひひきのーきこえきて

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

はるのいりひのーまつにかかれる
かへりみるーあとはかすみのーたえたえに

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

日が暮れる（ひがくれる）

→ふる雪（ふるゆき）

ゆくふねとめよーひこそくれぬれ
ふるゆきに―やまもかくるるーみちのすゑ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

かはかせさむみーひこそくれぬれ
ふるゆきにーつまきこるをのーたにのみち

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

→入相の鐘（いりあいのかね）

ものふかきーたけよりおくにーひはくれて
とよらのにしの―いりあひのかね

【顕証院会千句】／唐何［みたれけり］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日〜21 日

みちのへのーゆききかきたえーひはくれて
とほくそきこゆ―いりあひのかね

【伊予千句】／何路［さみたれの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

→吹く風（ふくかぜ）

つきさしいつるーひはくれにけり
きりはるる―おきついそさきーふくかせに

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

はれみくもりみーひはくれにけり
たけのはのーおきふすのきはーふくかせに

【因幡千句】／何船［そらやゆき］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日<〜28 日>

日暮れに伴う（ひぐれにともなう）

→歌う声々（うたうこえごえ）

くるるひにーかへるきこりのーともなひて
ふしもひとつにーうたふこゑこゑ

【因幡千句】／何木［ゆきとふる］／文明7(1475)年11月26日<～28日>

くるひとのーひのくるるまてーともなひて
むかひてつきにーうたふこゑこゑ

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

にわ

露の音聞く庭（つゆのおときくにわ）

→玉垂の霧（たまだれのきり）

つゆのおときくーにはのゆふかけ
たまたれのーきりのなこりやーはれさらむ

【伊勢千句】／何人［ふかくいりて］／大永2(1522)年8月4日～8日

つゆのおときくーにはのしたをき
たまたれのーそとものきりのーかたよりて

【天正年間百韻５７巻】／何船［すましみは］／天正13(1585)年閏8月12日

庭の曙（にわのあけぼの）

→秋の水（あきのみず）

つきはかりあるーにはのあけほの
きりはれてーいけすみわたるーあきのみつ

【文安雪千句】／朝何［ゆきさそへ］／文安2(1445)年10月18日

のわきしつけきーにはのあけほの
あきのみつーそらにかなるるーつきをみて

【文明十四年万句５２巻】／何桶［はなとつゆ］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

ぬれる

袖濡れる（そでぬれる）

→草の原（くさのはら）

おほろつきよにーそてそぬれぬる
つゆをたにーわするなきえむーくさのはら

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋下／文明8(1476)年5月頃

ゆくへもしらすーそてそぬれぬる
みしひとをーとへはかせふくーくさのはら

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

→ 暁（あかつき）

たのまぬよはもーそてはぬれけり
あかつきのーつきにおちくるーかねのおと

【大永年間百韻１４巻】／山何［うめやなき］／大永7(1527)年1月19日

おとろくほとにーそてはぬれけり
あかつきのーかねこそゆめのーわかれなれ

【菟玖波集／広島大学本】／恋中／文和5(1356)年冬～翌年の春

袖を濡らす（そでをぬらす）

→立ち別れ（たちわかれ）

ゆめにみえてもーそてぬらしけり
なこりさへーゆゆしきはかりーたちわかれ

【出陣千句】／薄何［ちきりきや］／永正元(1504)年10月25日～27日

ゆふへのかすみーそてぬらしけり
まくらかるーあしたのくもにーたちわかれ

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永2(1522)年8月4日～8日

→草の仮庵（くさのかりいお）

よのなかにーあるかすならすーそてぬれて
いつをかきりそーくさのかりいほ

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明18(1486)年2月6日

なかなかのーなさけおもへはーそてぬれて
ゆきにやとかすーくさのかりいほ

【文明十四年万句５２巻】／夢想［そのしなも］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

ね

岩が根

→橋の一筋

いはかねに－をかはのなみの－つららゐて
あさしもふかき－はしのひとすち

【三島千句】／朝何［やまとほく］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

たまささも－かしけてたてる－いはかねに
まつはのへふす－はしのひとすち

【聖廟千句】／何路［うめかかに］／明応3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

岩が根の松

→磯に舟に日暮れ

しつえなみよる－いはかねのまつ
あらいその－ふねひきつなく－ひはくれて

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

ひとりかせふく－いはかねのまつ
いそつたひ－あまのふねさす－ひはくれて

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

ねぐら

塒の春の鳥の声

→静か

しはしねくらの－はるのとりのね
しつかなる－あしたのほとは－おそきひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

たけをねくらの－はるのとりのね
しつかなる－かきほやのへに－つつくらむ

【平松文庫本千句】／□□［おちはして］／

ねや

閨の月影

→蟋蟀

ほのかたらひし－ねやのつきかけ
うちしきり－いまはあなかま－きりきりす

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

よひすきぬらし－ねやのつきかけ
かたしきの－たもとにちかき－きりきりす

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

ねる

如何に寝て

→昨日を去年の

いかにねて－こよひはきかむ－ほとときす
きのふをこその－ゆめかうつつか

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

いかにねて－いかにみやこの－ゆめならむ
きのふをこその－はるのやまのは

【大永四年月並千二百韻】／何色［うめのはな］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 1 月 23 日

寝ねがての空

→月を枕に

おしあけかたの－いねかてのそら
しはのとは－みやまのつきを－まくらにて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

さらてもよはは－いねかてのそら
たのめしは－うつろふつきを－まくらにて

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

うたた寝

→灯(ともしび)の影(かげ)

うたたねの－ほとなくあくる－はるのよに
みしかくのこる－ともしひのかけ

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年 7 月

うたたねの－なこりしらるる－よひすきて
ほのかになれる－ともしひのかけ

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

仮寝(かりね)の月影(つきかげ)

→花打(はなうち)ち香(かお)る

かけかすむ－かりねのつきの－あくるよに
はなうちかをり－とりのなくこゑ

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かりねのつきの－かけさむきそら
わくるのの－はなうちかをり－すゑくれて

【天正四年万句７０巻】／何風［ふりつもる］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

仮寝(かりね)をする

→深(ふか)い夜(よる)

そてうちしをれ－かりねをやせむ
ひとかへる－あとにもいまた－ふかきよに

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

おもひのほかの－かりねをやせむ
やととほき－のへにいつれは－ふかきよに

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

寝覚(ねざ)めする

→夜(よ)が長(なが)い

つきもはや－かたふくそらに－ねさめして
こしかたおもふ－よこそなかけれ

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

いろいろに－あきはこころの－ねさめして
あらましつくす－よこそなかけれ

【大永年間百韻１４巻】／山何［うめやなき］／大永 7(1527) 年 1 月 19 日

寝覚(ねざ)めする夜(よる)

→枕(まくら)

ねさめするよの－うつるたにをし
おときけは－よそのしくれを－まくらにて

【延徳年間百韻１６巻】／夢想［すみよしの］／延徳 2(1490) 年 9 月

ねさめするよの－さをしかのこゑ
つきにもる－いなはのかせを－まくらにて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

一人(ひとり)寝(ね)と影(かげ)

→片敷(かたしく)く

ひとりやねなむ－まきたてるかけ
はなにほふ－やまちのこけを－かたしきて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

ひとりやねなむ－つきほそきかけ
むしのねも－よわるあらしを－かたしきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

一人(ひとり)寝(ね)る

→恨(うらみ)み侘(わび)る

かせみにしみぬ－ひとりかもねむ
いつはりの－なかたちをのみ－うらみわひ

【天文年間百韻３８巻】／山何［なとりかは］／天文 19(1550) 年 6 月 16 日

まちよわりつつ－ひとりかもねむ
ちかひしに－かはるこころを－うらみわひ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［きゆるものと］／寛文 12(1672) 年 8 月 11 日

群鳥(むらどり)が寝(ねる)

→我驚(われおどろ)く

むらとりのーねにゆくかねやーくれぬらむ
けふもすきぬとーわれそおとろく

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明4(1473)年12月16日～21日

むらとりのーねくらのたけのーゆきをれに
われそおとろくーさむきよのゆめ

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文6(1537)年5月22日

の

野が遠い（のがとおい）

→安らい（やすらい）

ゆくゆくくらすーのこそとほけれ
ほとはたたーむかひのさとにーやすらひに

【浅間千句】／山何［ここよりや］／永正11(1514)年5月13日～19日

けしきもはるのーのこそとほけれ
やすらひにーなかきひくらしーあかさらむ

【天文廿年断簡千句】／□□［やまかせや］／天文20(1551)年6月10日～12日

→入相の鐘（いりあいのかね）

のをとほみーわけくらしてのーたひまくら
さとはありとやーいりあひのかね

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきうう る］／裏白／永禄5(1562)年1月3日

のをとほみーゆきかふみちのーやすらひに
かへさをつくるーいりあひのかね

【文禄二年千句１０巻】／何人［はなにあ くる］／文禄2(1593)年4月8日～10日

野に仮枕（のにかりまくら）

→片敷の夢（かたしきのゆめ）

かりまくらーすそののかたにーかへなまし
いかにねてかはーかたしきのゆめ

【五吟一日千句】／初何［やまもいさ］／天正9(1581)年11月19日

はかなしやーのかみのさとのーかりまくら
いふきおろしをーかたしきのゆめ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

野の下萌え（ののしたもえ）

→駒祝う（こまいわう）

あめすくるーよこののはらのーしたもえに
みきはのつつみーこまいはふなり

【石山四吟千句】／何人［うめかえは］／天文24(1555)年8月15日～19日

のへはいまーところところのーしたもえに
かすみのあさけーこまいはふなり

【永禄石山千句】／何草［そらにあけて］／永禄7(1564)年5月12日

野辺近い鶯（のべちかいうぐいす）

→雪の竹の末々（ゆきのたけのすえずえ）

のへちかきーやとのうくひすーねをたえて
ゆきをれふかきーたけのすゑすゑ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［うたふよ の］／永禄5(1563)年12月9日

のへちかきーにはのうくひすーこゑそひて
ゆきのとけゆくーたけのすゑすゑ

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもか も］／裏白／天正14(1586)年1月3日

野辺の曙（のべのあけぼの）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

ことしともなきーのへのあけほの
うくひすのーこゑはかりしてーふかきよに

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享2(1488)年7月

ゆきとけそむるーのへのあけほの
うくひすのーこゑにちさとのーはるたちて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［まつやな ほ］／裏白／慶長10(1605)年1月3日

野辺の哀れさ（のべのあわれさ）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

なくやとりへのーのへのあはれさ
やまかすむーかりはのはるのーあさほらけ

【文安年間百韻９巻】／山何［はなはひも］／文安 5(1448) 年 2 月 5 日

のわきのあとの－のへのあはれさ
あさほらけ－うすきりわたり－ひのいてて

【園塵第一／続群書類従本】／秋／長享 2 年

野辺の色々（のべのいろいろ）

→唐衣（からごろも）

ちくさにをしき－のへのいろいろ
そめてみは－いつれともなし－からころも

【東山千句】／薄何［つゆをいろ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

そてもさなから－のへのいろいろ
からころも－きりのしつくに－しをれきて

【石山四吟千句】／初何［くれてなほ］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

野辺の遠近（のべのおちこち）

→現れる（あらわれる）

いろになりたる－のへのをちこち
たちそへは－まつさへはなに－あらはれて

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

かすむたもとの－のへのをちこち
たまほこの－みちはゆきまに－あらはれて

【天正年間百韻５７巻】／□□［けふひくや］／天正 12(1584) 年 1 月 10 日

野辺の仮臥（のべのかりふし）

→旅枕（たびまくら）

ゆめちをたとる－のへのかりふし
たひまくら－ふかきもしらす－いつるよに

【住吉千句】／何田［このはちる］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

ねられぬとこは－のへのかりふし
たひまくら－ゆめさへとひや－たえつらむ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きりのはに］／成立時不詳

→旅の空（たびのそら）

ところさためぬ－のへのかりふし
うきものと－いひしそまこと－たひのそら

【明応年間百韻２２巻】／十三仏名号［なかつきも］／明応 4(1495) 年 9 月 30 日

みやこわすれぬ－のへのかりふし
たちしよの－とりかまたなく－たひのそら

【宗碩関係２種】／宗碩連歌合／静嘉堂文庫本／

のき

軒の橘（のきのたちばな）

→時鳥（ほととぎす）

かけさしおほふ－のきのたちはな
くれぬとて－このさととふか－ほとときす

【成立不詳・宗砌以前６巻】／唐何［なてしこの］／成立時不詳

うゑしをおもふ－のきのたちはな
こゑたてて－きなけみきりの－ほとときす

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［あけほのや］／存疑／成立時不詳

ははかりのこる－のきのたちはな
いつくとも－しらすなきゆく－ほとときす

【文禄二年千句１０巻】／夕何［しくれても］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

のこる

雨残る空（あめのこるそら）

→時鳥（ほととぎす）

てるひもなつの－あめのこるそら
ほとときす－ゆくゆくわかぬ－こゑききて

【永禄石山千句】／三字中略［こすゑまて］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

やまはみとりに－あめのこるそら
ほとときす－あしたのくもに－なきすてて

【合点之句／神宮文庫本】／夏／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

おぼろにのこるありあけのつき
朧に残る有明の月

→たななしおぶねのおと
棚無し小舟の音

おほろにのこるーありあけのつき
ほそえこくーたななしをふねーおとすみて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

おほろにのこるーありあけのつき
はるのよのーたななしをふねーおとふけて

【論書４種】／宗長／

きりのこる
霧残る

→つきほのか
月仄か

あきのしもーきりのまかきにーのこるらむ
やまをそともの一つきほのかなり

【天文年間百韻３８巻】／何人［さくふちの］／天文 18(1549) 年 3 月 24 日

のわきせしーそともにきりやーのこるらむ
たけのはこしのーつきほのかなり

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

くさはのこらないゆきのしたおれ
草は残らない雪の下折

→のわきするにわにつき
野分する庭に月

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはのつきかけーよるさえて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはをしつかにーつきふけて

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

のこる
残る

→そでのうつりが
袖の移り香

いつまてかーひとにわかれてーのこるらむ
これそかたみの―そてのうつりか

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

おもかけやーこひしきかたにーのこるらむ
おもひとめたる―そてのうつりか

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

→ほのかなそら
仄かな空

とはれてはーなににうらみのーのこるらむ
なくほとときす―ほのかなるそら

【弘治三年春雪千句】／初何［けさみれは］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

むらさめのーあともあつさやーのこるらむ
くもにいりひのーほのかなるそら

【天正年間百韻５７巻】／何垣［ゆくそてに］／天正 11(1583) 年閏 1 月 1 日

→うくいすのこえ
鶯の声

ありあけやーかすみのうへにーのこるらむ
けさもまたなく―うくひすのこゑ

【文明十四年万句５２巻】／何船［ゆくみつに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

うめかかやーそのよのそてにーのこるらむ
あけほのしたふーうくひすのこゑ

【心敬関係１０種】／芝草内岩橋／本能寺本／

のこるありあけ
残る有明

→あさぼらけ
朝ぼらけ

かけもすくなくーのこるありあけ
やまのはに―よこくもきゆるーあさほらけ

【文明十二年千句８巻】／一字露顕［わかはもて］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

それかとはかりーのこるありあけ
あさほらけーわけゆくかたにーむしなきて

【文明十四年万句５２巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

のこるやまかげ
残る山影

→かえる
帰る

おほゐのにしひーのこるやまかけ
みそれせし―あととやくもはーかへるらむ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

ほのほのつきの－のこるやまかけ
のにいてし－しかやよをこめ－かへるらむ

【天正四年万句７０巻】／花何［うくひすの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

のどか

雨の長閑さ（あめののどけさ）

→何処に霞む（いずこにかすむ）

にはにけさふる－あめののとけさ
まとすくる－かせはいつくに－かすむらむ

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

みれともみえす－あめののとけさ
いつこにか－ありあけのつきの－かすむらむ

【享禄年間百韻８巻】／白何［あさみとり］／享禄 3(1530) 年 3 月 2 日

長閑（のどか）

→海人の釣舟（あまのつりぶね）

うみすこし－あらしもなみも－のとかにて
おのかともよふ－あまのつりふね

【文明十四年万句５２巻】／玉何［ゆきならは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

けふはなほ－そらのけしきも－のとかにて
いさなひいつる－あまのつりふね

【天正四年万句７０巻】／何色［ちるはなも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

光長閑（ひかりのどか）

→解ける（とける）

にははあさけの－ひかりのとけし
いけみつや－とちしこほりの－とけぬらむ

【寛永年間百韻１５巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永 8(1631) 年 1 月 3 日

かきほへたてぬ－ひかりのとけし
たけのはの－ゆきやのこらす－とけぬらむ

【寛永年間百韻１５巻】／□□［しつけさの］／裏白／寛永 10(1633) 年 1 月 3 日

ののみや

野々宮（ののみや）

→黒木の鳥居（くろきのとりい）

ののみやの－わかれのあとの－つゆけきに
くろきのとりゐ－きりやたつらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何木［としもはや］／応永 27(1421) 年 12 月 12 日

ののみやの－にはあれまさる－あきくれて
くろきのとりゐ－なにそのこれる

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつころの］／応永 32(1425) 年 10 月 15 日

のぼる

霧晴れ昇る（きりはれのぼる）

→朝日影（あさひかげ）

きりはれのほる－なかのかけはし
かすかなる－のわきせしよの－あさひかけ

【出陣千句】／朝何［きりもやは］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

きりはれのほる－まつのこたかさ
あさひかけ－いろつくみねに－さしそひて

【文明年間百韻３４巻】／□□［したつゆは］／文明 12(1480) 年 7 月 4 日

のり

法の言の葉（のりのことのは）

→駒止める（こまとめる）

たまたまあへる－のりのことのは
こまとめて－おなしやとかれ－たひのとも

【竹林抄／新古典文学大系本】／旅／文明 8(1476) 年 5 月頃

みみにもふれよ－のりのことのは
わたりえぬ－こたかかりはに－こまとめて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／秋／永正 6(1509) 年以前

のわき

野分の後（のわきのあと）

→虫の声（むしのこえ）

のわきのあとの－まつのつれなさ
なきたゆる－なかにゆふへの－むしのこゑ

【平松文庫本千句】／□□［なきてたつ］／

のわきのあとの－くれわたるには
ほのかにも－なきこそいつれ－むしのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるさめも］／慶長 9(1604) 年 10 月 6 日

野分の風（のわきのかぜ）

→朱のそほ舟（あけのそほぶね）

のわきのかせの－かよふやまもと
きりまより－あけのそほふね－あらはれて

【享徳二年千句】／何人［つきとたか］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

やまもとは－のわきのかせの－ふきたえて
みきはにとむる－あけのそほふね

【文明十四年万句５２巻】／何水［たまやとる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

は

山の端の月（やまのはのつき）

→秋風（あきかぜ）

くれてまちとる－やまのはのつき
あきかせに－よふねこたふる－かちのおと

【河越千句】／山何［うくひすに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

しはしはのこれ－やまのはのつき
あきかせに－つゆのいのちも－をしまれて

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

うきをはすての－やまのはのつき
あきかせに－ふせやといへと－まとろまて

【伊庭千句】／三字中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

→秋更ける（あきふける）

ねさめにむかふ－やまのはのつき
みをすてむ－ほともいまはの－あきふけて

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

まつひとさへそ－やまのはのつき
さととほき－しはのいほりに－あきふけて

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

いるかけのこる－やまのはのつき
いねかての－しはのとほその－あきふけて

【大永年間百韻１４巻】／山何［そめしつゆ］／大永 3(1523) 年 9 月 2 日

いてしはいつの－やまのはのつき
たひころも－さむさおほゆる－あきふけて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［みつのうへに］／裏白／慶長 17(1612) 年 1 月 3 日

はぎ

小萩移ろう（こはぎうつろう）

→秋の風（あきのかぜ）

こはきうつろふ－いねかてのころ
しをるなよ－みにいまよりの－あきのかせ

【延徳年間百韻１６巻】／夢想［すみよしの］／延徳 2(1490) 年 9 月

こはきうつろふ－ふるあとのには
とふひとも－あらぬすみかの－あきのかせ

【天正年間百韻５７巻】／何木［けふかへよ］／天正 9(1581) 年 4 月 1 日

小萩原（こはぎはら）

→後の旅人（のちのたびひと）

こはきはら－をりたちかほに－さきやらて
すきかてにゆく－のちのたひひと

【池田千句】／御何［こころあひの］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

たちかへりーみるやいろこきーこはきはら
たまかはすくるーのちのたひひと

【論書４種】／宗長／

萩の下露（はぎのしたつゆ）

→薄霧の籬（うすぎりのまがき）

うらかれてゆくーはきのしたつゆ
うすきりのーまかきのこたちーむらむらに

【皇学館文庫本千句】／□□［はなにいそき］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

のほるはかりのーはきのしたつゆ
うすきりのーまかきのゆふへーいつかみむ

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

はげしい

風の激しさ（かぜのはげしさ）

→時雨来る（しぐれくる）

たもとにさゆるーかせのはけしさ
あきのそらーまたかきくもりーしくれきて

【文明年間百韻３４巻】／薄何［さくをみよ］／文明 14(1482) 年 3 月 7 日

たにはふかきもーかせのはけしさ
つまきをるーみちははるかにーしくれきて

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かすみさへ］／延徳 4(1492) 年 1 月 22 日

→秋暮れる（あきくれる）

うちいつるのーかせのはけしさ
したひゆくーなこりもとめすーあきくれて

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

なるとふきこすーかせのはけしさ
まきのやもーすみうきはかりーあきくれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

はこぶ

運ぶ貢（はこぶみつぎ）

→国に従う（くににしたがう）

はこふみつきのーおほきしなしな
このくににーよもの□□□□ーしたかひて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

はこふみつきのーふねそひまなき
わかくににーもろこしまてもーしたかひて

【看聞日記紙背５０巻】／［やまもとは］／文安 5(1448) 年以前

→唐土までも従う（もろこしまでもしたがう）

たまこかねーはこふみつきのーかすかすに
もろこしまてもーいまそしたかふ

【看聞日記紙背５０巻】／何物［かみとうめ］／応永 29(1422) 年 2 月 25 日

はこふみつきのーふねそひまなき
わかくににーもろこしまてもーしたかひて

【看聞日記紙背５０巻】／［やまもとは］／文安 5(1448) 年以前

はし

掛橋（かけはし）

→松の一本（まつのひともと）

かけはしのーくちてなかははーたえけらし
よこたはりたるーまつのひともと

【天正年間百韻５７巻】／何垣［ゆくそてに］／天正 11(1583) 年閏 1 月 1 日

かけはしのーあ□□□かせのーふきおくり
こけにかたふくーまつのひともと

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［やまのはに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

久米の岩橋（くめのいわはし）

→ただ一言（ただひとこと）

てらにたれーくめのいははしーつつくらむ
たたひとことも一すくにをしへよ

【享徳二年千句】／唐何［こころひく］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

わたしもはてぬーくめのいははし
つきみてはーたたひとことも一おもはぬに

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

雲の掛橋（くものかけはし）

→鵲（かささぎ）

あきかせわたるーくものかけはし
かささきの一つはさもかはす一あまのかは

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

みるもすさまし一くものかけはし
かささきの一やまとひこゆる一ゆふしもに

【宗碩関係２種】／宗碩百句／太田本／

傍の掛橋（そばのかけはし）

→霜はただ（しもはただ）

たえたえなれや一そはのかけはし
しもはたた一むすふかうへの一あさほらけ

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

くちてあやうき一そはのかけはし
しもはたた一ふるかうへにも一かさなりて

【永禄元年花千句】／□□［をりのこす］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

橋柱（はしばしら）

→五月雨の頃（さみだれのころ）

ふるかはの一なかれのうちの一はしはしら
つつみもみえぬ一さみたれのころ

【大原野十花千句】／何衣［つきはなに］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

のこるさへ一なほふりわたる一はしはしら
みかはなからの一さみたれのころ

【永禄年間百韻２８巻】／何路［はなにかり］／永禄 3(1560) 年 2 月 25 日

みつふかく一なるやなからの一はしはしら
あしのすゑはの一さみたれのころ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

道の掛橋（みちのかけはし）

→寺の角（てらのかど）

とほくみえぬる一みちのかけはし
とひよるも一ひとけまれなる一てらのかと

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

ゆきとけはつる一みちのかけはし
とひよるも一おくものふかき一てらのかと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

→訪い寄る（とい よる）

とほくみえぬる一みちのかけはし
とひよるも一ひとけまれなる一てらのかと

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

ゆきとけはつる一みちのかけはし
とひよるも一おくものふかき一てらのかと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

峰の掛橋（みねのかけはし）

→猿叫ぶ（さるさけぶ）

かははそこなる一みねのかけはし
さるさけふ一こゑさへさむき一たきのもと

【顕証院会千句】／何人［えたわけの］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

こすゑのあきの一みねのかけはし
さるさけふ一やまちのつきの一ありあけに

【永禄年間百韻２８巻】／□□［つゆはそてに］／永禄 4(1561) 年 9 月 19 日

夢の浮橋（ゆめのうきはし）

→古（いにしえ）

ねぬよにくつる一ゆめのうきはし
いにしへの一なからのみやに一つきをみて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

うつつともかなーゆめのうきはし
いにしへのーふてのまきまきーほのかにて

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

→御幸する

そをたにかけよーゆめのうきはし
みゆきせしーあとはしたふもーとほきよに

【明応年間百韻２２巻】／山何［ほととぎす］／明応 9(1500) 年 4 月 9 日

あとものこらぬーゆめのうきはし
みゆきせしーそのよこひしきーふるてらに

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

→涙河

つくやまくらのーゆめのうきはし
とこのうへのーうたかたやみのーなみたかは

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

はかなくかよふーゆめのうきはし
わたるせはーいつくなるらむーなみたかは

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［わかくさも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

→春の夜

とたえかちなるーゆめのうきはし
ねぬるまのーほとはみしかきーはるのよに

【永禄石山千句】／何人［つきやかる］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

たえはてけりなーゆめのうきはし
いとはやもーあけなむとするーはるのよに

【寛正年間百韻２０巻】／□□［なかつきと］／寛正 2(1461) 年 9 月

→峰に分かれる

たたつゆのまのーゆめのうきはし
つきいれはーみねにわかるるーよるのくも

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日〜21 日

はしら

橋柱

→五月雨の頃

ふるかはのーなかれのうちのーはしはしら
つつみもみえぬーさみたれのころ

【大原野十花千句】／何衣［つきはなに］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日〜7 日

のこるさへーなほふりわたるーはしはしら
みかはなからのーさみたれのころ

【永禄年間百韻２８巻】／何路［はなにかり］／永禄 3(1560) 年 2 月 25 日

みつふかくーなるやなからのーはしはしら
あしのすゑはのーさみたれのころ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

はじ

岡辺の櫨の一群

→夕日隠れ

をかへいろこきーはしのひとむら
つゆやなほーゆふひかくれにーのこるらむ

【出陣千句】／何袋［はなさかり］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日〜27 日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【応仁年間百韻６巻】／何人［つきのあき］／応仁 2(1468) 年 1 月 1 日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【萱草／伊地知本】／秋／文明 6(1474) 年 2 月以前

はじめる

氷初める

→霜ふる

あらしよりまつーこほりそめけり
ころもてにーしみつくはかりーしもふりて

【天文廿四年梅千句】／山何［うちなひき］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いはねやたより－こほりそめけり
うちわたす－まへのたなはし－しもふりて

【明応年間百韻２２巻】／何人［くもはれて］／明応 5(1496) 年 8 月 22 日

はす

蓮の上（はちすのうえ）

→蜩（ひぐらし）

はちすのうへの－たのみたかふな
ひくらしの－こゑにすすしき－いけのおも

【五吟一日千句】／薄何［あけほのの］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

はちすのうへの－つゆもみたるな
ひくらしの－なくゆふかせに－つきいてて

【萱草／伊地知本】／秋／文明 6(1474) 年 2 月以前

はつ

秋の初風（あきのはつかぜ）

→月出る（つきいでる）

にしよりむかふ－あきのはつかせ
かみのます－かのをかきよく－つきいてて

【宝徳四年千句】／何船［いろそそふ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

あかつきしるき－あきのはつかせ
きよからむ－かけほのめかす－つきいてて

【永正年間百韻３４巻】／何路［ひとはいさ］／永正 17(1520) 年 2 月 4 日

ふなちにおもふ－あきのはつかせ
くまもなく－なきたるなみに－つきいてて

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

→残る暑さに端居する（のこるあつさにはしいする）

ふくとしもなき－あきのはつかせ
ふくるまて－のこるあつさに－はしゐして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長 6(1601) 年 1 月 3 日

おともしつけき－あきのはつかせ
しはしたた－のこるあつさに－はしゐして

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

→虫鳴く（むしなく）

たひたつそらも－あきのはつかせ
かへるさの－やまちいまはた－むしなきて

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

ふきつたへくる－あきのはつかせ
このさとも－さなからのへの－むしなきて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何人［やまみつは］／成立時不詳

→誘う（さそう）

こすゑよりこそ－あきのはつかせ
ひくらしに－まつむしのねや－さそふらむ

【住吉千句】／白何［あられのみ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

またこぬくれの－あきのはつかせ
したはちる－やなきやかりを－さそふらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

→七夕（たなばた）

けふめつらしき－あきのはつかせ
たなはたの－いかにまちみし－くれならむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［うのはなの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 4 月 23 日

またそてぬらす－あきのはつかせ
たなはたの－まとほのうらみ－いかはかり

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

→一葉より（ひとはより）

たえたえなりし－あきのはつかせ
ひとはより－のちはきことに－ちるをみて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明8(1476) 年 5 月頃

このよをおもふーあきのはつかせ
ひとはよりーかろきはおいのーゆくへにて

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑下／文明 8(1476) 年 5 月頃

今朝(けさ)の初雪(はつゆき)

→冴(さえ)え冴(さえ)える

ふるきいほりのーけさのはつゆき
おきゐつつ－しはたくよはのーさえさえて

【寛正年間百韻２０巻】／何人［けふこすは］／寛正 3(1462) 年 2 月 27 日

むらむらのこるーけさのはつゆき
ふきたゆむーかせもしはしはーさえさえて

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

→埋火(うずみび)

やまのはまてのーけさのはつゆき
うつみひにーよるのあらしやーかへるらむ

【下草／東山御文庫本】／冬／明応 5(1496) 年 11 月 18 日

ふゆともしらしーけさのはつゆき
うつみひにーさむさわすれしーとをあけて

【園塵第四／早稲田大学本】／冬／永正 6、7 年

初(はじ)め

→言(こと)の葉(のは)の道(みち)

ひくことはーいつつのしらへーはしめにて
むくさにしけるーことのはのみち

【聖廟千句】／何路［うめかかに］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かみのよをーなにはのことのーはしめにて
まねひつたふるーことのはのみち

【成立不詳・宗砌以前６巻】／ｘｘ［うめなれや］／成立時不詳

初風(はつかぜ)と昨日(きのう)は聞(き)いて秋(あき)更(ふ)ける

→人(ひと)は残(のこ)らない紅葉(もみじ)

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもろきもみちは

【三島千句】／何人［しるしらす］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもみちちるかけ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

初雁(はつかり)の声(こえ)

→海人小舟(あまおぶね)

たたひとつらのーはつかりのこゑ
ゆふくれはーつりにといつるーあまをふね

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

あけゆくくもものーはつかりのこゑ
なかめやるーうみへしつけきーあまをふね

【弘治年間百韻８巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

はつせかぜ

初瀬風(はつせかぜ)

→余所(よそ)の夕暮(ゆうぐれ)れ

あかつきのーかねもみにしむーはつせかせ
とははやつゆに－よそのゆふくれ

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

ふきすさふーなこりもはけしーはつせかせ
こころのはてやーよそのゆふくれ

【大永三年月並千三百韻】／□□［まつかせや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 6 月 23 日

はつせでら

初瀬寺(はつせでら)

→与喜(よき)の神垣(かみがき)

あゆみをはーこころにはこふーはつせてら
たれもねかひのーよきのかみかき

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［あすはさけ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

くれにけりーいりあひとほきーはつせてら
いのることのみーよきのかみかき

【看聞日記紙背５０巻】／何目［ゆふはえは］／応永 32(1425) 年 2 月 29 日

おこなひのーいつもたえせぬーはつせてら
わきてちかひもーよきのかみかき

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ゆきにみて］／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

はてる

明け果てる（あけはてる）

→如何なる（いかなる）

あけはつるまてーいねかてにして
おもふことーかすはふみにもーいかならむ

【宮島千句】／白何［ゆふへより］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

あけはつるまてーゆめはみえこす
わするなよ―わすれはせしもーいかならむ

【元亀年間百韻６巻】／何人［あきかせの］／元亀 3(1572) 年 7 月 13 日

弱り果てる（よわりはてる）

→蟋蟀（きりぎりす）

ものおもふにやーよわりはつらむ
わひぬるもーわれそまされるーきりきりす

【伊勢千句】／何田［かすやてる］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

われからわれやーよわりはつらむ
つゆになれーしもにやとかるーきりきりす

【園塵第四／早稲田大学本】／秋／永正 6、7 年

はな

青葉の花の後（あおばのはなのあと）

→掛かる藤浪（かかるふじなみ）

まつならてーあをはのゆきやーはなのあと
ことときのかたにーかかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

をしめともーあをはになりぬーはなのあと
まつにことさら―かかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

朝顔の花（あさがおのはな）

→松虫の声（まつむしのこえ）

あさかほの―はなに□□□のーうちみたれ
すすきかもとは―まつむしのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

あさかほのーはなをみるからーなみたおち
つひにはかれむーまつむしのこゑ

【文明十四年万句５２巻】／何路［あさうみに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

惜しんで花を見る（おしんではなをみる）

→袖の梅の香（そでのうめのか）

みなひとのーをしむによらぬーはなをみて
をりてかへさはーそてのうめかか

【飯盛千句】／何路［しけるきに］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

をしみかねーちるにまかするーはなをみて
をらすすきぬるーそてのうめかか

【大永四年月並千二百韻】／□□［うくひすの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 2 月 23 日

尾上の花を見る（おのえのはなをみる）

→霞に暮れる（かすみにくれる）

あすはみむーをのへのはなのーいかならむ
かすみにくるるーたかまとのみや

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ゆきにしも］／裏白／慶長 9(1604) 年 1 月 3 日

くもとみしーをのへのはなのーあともなし
かすみにくるるーかねのさひしさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［うめかかは］／裏白／慶長 11(1606) 年 1 月 3 日

風に花散る（かぜにはなちる）

→春の夢（はるのゆめ）

かせはなほーあをはにのこるーはなちりて
はるのゆめこそーことにあたなれ

【看聞日記紙背５０巻】／何船［のちやゆき］／応永 28(1421) 年 2 月 25 日

いつもふくーまつかせつらきーはなちりて
はるのゆめこそーやかてさめぬれ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［あらしにも］／存疑／成立時不詳

枯れ花薄（かれはなすすき）

→弱る虫の音（よわるむしのね）

はなすすきーかれゆくしもにーあきふけて
のにはおしなひーよわるむしのね

【顕証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

つきのこるーかれののすゑのーはなすすき
ほのかになりぬーよわるむしのね

【因幡千句】／薄何［かきはらふ］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

咲く春の花（さくはるのはな）

→桜と宿の梅の枝（さくらとやどのうめのえだ）

ちれはさくーちきりもはかなーはるのはな
さくらにかはすーやとのうめかえ

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 5 月 23 日

さくことも－ちらむためかは－はるのはな
さくらほのめくーやとのうめかえ

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

散る花（ちるはな）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

ちるはなのーなみのしたくさーかせみえて
やなきやうきねーうくひすのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文 9(1540) 年 4 月 25 日

ちるはなのーやまちやきりにーまかふらむ
たにのといつるーうくひすのこゑ

【元亀年間百韻６巻】／何船［むさしのも］／元亀 3(1572) 年 3 月 18 日

→鶯が鳴く（うぐいすがなく）

ちるはなのーのちにはいかてーつけぬらむ
けさはつこゑの－うくひすそなく

【天正四年万句７０巻】／何船［そらにまつ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

ちるはなのーとかをはかせにーなしはてて
こつたひすてす－うくひすそなく

【下草／龍谷大学本】／春／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

年々の花（としどしのはな）

→ふる山桜（ふるやまざくら）

みしにかはらぬーとしとしのはな
すゑもなほーいくよをふるのーやまさくら

【顕証院会千句】／何人［えたわけの］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

あかれぬものをーとしとしのはな
みやすてむーふるきいほりのーやまさくら

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

花植える（はなうえる）

→若木の桜（わかぎのさくら）

うきよにもーいのちのをしきーはなうゑて
わかきのさくらーたのむいくはる

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［ひそをしき］／応永 30(1423) 年 3 月 29 日

すまひとのーよかたりになるーはなうゑて
わかきのさくらーはるそひさしき

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつかねに］／応永 32(1425) 年 3 月 25 日

花打ち香る（はなうちかおる）

→木隠れる（こがくれる）

はなうちかをり―とりのなくこゑ
さくうめに―すみかのたけの―こかくれて

【文明十四年万句５２巻】／初何［をるそてに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

はなうちかをり―のはかすみつつ
ゆふつくよ―うめさくやまに―こかくれて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

花咲く（はなさく）

→薄霞（うすがすみ）

やへくもと―みゆるよかはの―はなさきて
うすきかすみは―つきそすみよき

【宝徳年間百韻３巻】／以呂波〔いをねぬや］／宝徳 3(1451) 年 8 月 15 日

おくやまも―よそめしけきの―はなさきて
うすきかすみは―たつとしもなし

【文明十二年千句８巻】／一字露顕［わかはもて］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

→鶯が鳴く（うぐいすがなく）

くれたけの―はやしつつきに―はなさきて
ねくらさためす―うくひすそなく

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かすみさへ］／延徳 4(1492) 年 1 月 22 日

はるやまの―みねのいほりに―はなさきて
たにをわかよと―うくひすそなく

【宗砌関係９種】／宗砌発句並付句抜書／小松天満宮本／

→松に藤の黄昏（まつにふじのたそがれ）

はなさけは―やまのなかはも―なみこえて
まつのこすゑの―ふちのたそかれ

【毛利千句】／一字露顕［なつのひも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

はなさけは―このまにうとき―はるのつき
まつにかかれる―ふちのたそかれ

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

花盛り（はなざかり）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

うちむれて―ひとのなかむる―はなさかり
いつくのさとそ―うくひすのこゑ

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

おくやまと―いへともあらぬ―はなさかり
ひとにけちかき―うくひすのこゑ

【文亀年間百韻４巻】／千何［うつろはぬ］／文亀 3(1503) 年 7 月 25 日

をしめとも―さきみたれたる―はなさかり
こすゑにたかき―うくひすのこゑ

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→掛かる藤浪（かかるふじなみ）

さきそひて―まつこそみえね―はなさかり
よそのこすゑに―かかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

たておくも―ううるもにはの―はなさかり
いはかきつつき―かかるふちなみ

【永禄年間百韻２８巻】／何路［のこりなく］／永禄 3(1560) 年 11 月 10 日

→春の杉群（はるのすぎむら）

くももきを―うつむはかりの―はなさかり
せきのとあくる―はるのすきむら

【弘治三年春雪千句】／初何［けさみれは］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

いはかねの―こけにこたかき―はなさかり
かたはらさひし―はるのすきむら

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

花薄（はなすすき）

→松虫の声（まつむしのこえ）

ほのめくやーたかたまくらのーはなすすき
ふけゆくまてにーまつむしのこゑ

【天文年間百韻３８巻】／何船［あさかほに］／天文12(1543)年7月29日

ひともとやーかれののうちのーはなすすき
したはにすたくーまつむしのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［たちならせ］／永禄元(1558)年7月18日

花散る（はなちる）

→残り多い（のこりおおい）

やよひにもーまたなりやらぬーはなちりて
のこりおほくもーひこそなかけれ

【伊勢千句】／薄何［たかための］／大永2(1522)年8月4日～8日

みはやすをーまちあへぬまのーはなちりて
のこりおほくもーはるはいぬめり

【天文年間百韻３８巻】／何木［あすのなを］／天文17(1548)年8月14日

→春の暮れ方（はるのくれがた）

とはぬをもーみれはわすれしーはなちりて
ふるさとさひしーはるのくれかた

【美濃千句】／何色［しくれつつ］／文明4(1473)年12月16日～21日

したもえのーくさのいろともーはなちりて
のもあをみゆくーはるのくれかた

【天正四年万句７０巻】／何船［そらにまつ］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→春の寂しさ（はるのさびしさ）

あめかせのーこころあはするーはなちりて
とりさへかへるーはるのさひしさ

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明3(1471)年3月21日～23日

うゑしよはーしるひともなきーはなちりて
ふるののおくのーはるのさひしさ

【宮島千句】／何袋［さきこすか］／天文20(1551)年5月9日～11日

花ならで（はなならで）

→春の古里（はるのふるさと）

みこそあれーおもひすつへきーはなならて
たれにとはれむーはるのふるさと

【明応年間百韻２２巻】／何人［あさかすみ］／明応4(1495)年1月6日

ひとえたもーはなにをるへきーはなならて
あはれにかすむーはるのふるさと

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正6(1509)年以前

花の色（はなのいろ）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

あをはよりーあらはれそむるーはなのいろ
したひもてゆくーうくひすのこゑ

【羽柴千句】／朝何［よもにふく］／天正6(1578)年5月18・19日

いまもなほ―あをはにのこるーはなのいろ
みきりになるる―うくひすのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／□□［つゆはそてに］／永禄4(1561)年9月19日

さかりそとーみれはうつろふーはなのいろ
みきりをよそのーうくひすのこゑ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［けさのまに］／文禄2(1593)年1月14日

花の陰（はなのかげ）

→躑躅山吹（つつじやまぶき）

ちるあともーみすはうらみむーはなのかけ
さくらのみやはーつつしやまふき

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正7(1510)年春以前<永正5年春>

やまさととーさもこそならめーはなのかけ
みちもせにさくーつつしやまふき

【享禄年間百韻８巻】／懐旧［ゆふたちの］／享禄5(1532)年6月8日

→鳥の囀り（とりのさえずり）

さきぬへき－ころもちかつく－はなのかけ
かこふみきりの－とりのさへつり

【元和年間百韻２４巻】／□□［かせにつもり］／元和 7(1622) 年 11 月 28 日

このめさへ－またみえやらぬ－はなのかけ
はるのしるへの－とりのさへつり

【天正四年万句７０巻】／何帋［いろそふや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→鳥の一声（とりのひとこえ）

ひとかへる－あとしつかなる－はなのかけ
かすむゆふへの－とりのひとこゑ

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

ちるまてと－おもふやまれの－はなのかけ
かへりつくして－とりのひとこゑ

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

→春の杯（はるのさかずき）

くれぬれは－そてをかたしく－はなのかけ
かへさわするる－はるのさかつき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねふかきや］／慶長 4(1599) 年 2 月 8 日

いつれにか－まくらをからむ－はなのかけ
こころうかるる－はるのさかつき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ききはみな］／裏白／寛永 4(1627) 年 1 月 3 日

→山霞む暮れ（やまかすむくれ）

ひとよをも－あかさてかへる－はなのかけ
まきたつみちに－やまかすむくれ

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

かりねして－いろみまほしき－はなのかけ
うちわたすのに－やまかすむくれ

【明応年間百韻２２巻】／何路［つゆやにほひ］／明応 5(1496) 年 8 月 5 日

→み吉野の春（みよしののはる）

ゆきそふる－それもきえなむ－はなのかけ
やまかせさひし－みよしののはる

【長享年間百韻６巻】／何木［わかみつの］／長享 2(1488) 年 1 月 1 日

さきちるも－おとつれきかぬ－はなのかけ
いりにしままの－みよしののはる

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑上／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

花の陰に安らう（はなのかげにやすらう）

→春の帰るさ（はるのかえるさ）

みるままに－やすらふききの－はなのかけ
おもへはとほし－はるのかへるさ

【宝徳四年千句】／何人［はなそころ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

やすらへは－ときこそうつれ－はなのかけ
かねのつけこす－はるのかへるさ

【寛正年間百韻２０巻】／何路［ひととせに］／寛正 5(1465) 年 12 月 9 日

花の梢に現れる（はなのこずえにあらわれる）

→古寺の道（ふるでらのみち）

くもまより－はなのこすゑの－あらはれて
まつにふちさく－ふるてらのみち

【永禄年間百韻２８巻】／何路［きえしその］／永禄 7(1564) 年 1 月 22 日

すきむらの－こすゑははなに－あらはれて
おくにそつつく－ふるてらのみち

【天正年間百韻５７巻】／□□［ことのはも］／天正 13(1585) 年 1 月 4 日

花の木の下（はなのこのもと）

→鶯（うぐいす）

いそくこころの－はなのこのもと
うくひすの－はるおとろかす－ねになきて

【羽柴千句】／千何［あくるよを］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

いろにいろそふ－はなのこのもと
うくひすの－はかせをみるも－のとかにて

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正4(1576)年5月6日〜7月19日

→音がする

たかかへるらむーはなのこのもと
ふるさともーはるのみひとのーおとはして

【聖廟千句】／何田［のこるひに］／明応3(1494)年2月10日〜12日

やまちひくるるーはなのこのもと
さくらちるーみねのあらしのーおとはして

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

→山桜

たちもはなれぬーはなのこのもと
おもかけにーなほもむかひのーやまさくら

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

しるしらぬあふーはなのこのもと
やまさくらーさけはみやこをーあくかれて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

花の春

→桜咲く頃

かくてこそーちよもといはめーはなのはる
やとりはかなやーさくらさくころ

【初瀬千句】／何衣［しけるとも］／享徳元・2(1452)年、4月

ちりすきはーよしやよしののーはなのはる
たたよのなかはーさくらさくころ

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉3(1443)年10月23日

→躑躅山吹

ふたもとのーすきしはいくかーはなのはる
なつともみえぬーつつしやまふき

【初瀬千句】／唐何［ふたもとの］／享徳元・2(1452)年、4月

□□をさへーわすれかたみのーはなのはる
つゆなからをるーつつしやまふき

【天文廿四年梅千句】／何人［うめいつく］／天文24(1555)年正月7日

花の春風

→山桜

とはむといひしーはなのはるかせ
おくはまたーおそきもあれやーやまさくら

【弘治年間百韻８巻】／何船［たくそてに］／弘治2(1557)年12月2日

くもをはらふはーはなのはるかせ
やまさくらーよのまのあめにーさきいてて

【愚句老葉】／春／永正17年

にはのくちきのーはなのはるかせ
やまさくらーかけひのみつにーなかれきて

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正6、7年

花の春毎

→鶯の声

うゑおきてーまたるるはなのーはることに
わかやととはぬーうくひすのこゑ

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応3(1494)年2月10日〜12日

ほともなくーうつろふはなのーはることに
みをあくからすーうくひすのこゑ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

花の一枝

→山桜

をるをはゆるせーはなのひとえた
ひとをこそーととむるせきのーやまさくら

【文和千句】／手何［はにしける］／文和5年

このかけもののーはなのひとえた
やまさくらーてをもゆるさすーをりもちて

【専順関係２種】／春／応仁元(1467)年5月10日

花の一本

→春暮れる

おそきものこるーはなのひともと
しらさりしーみやまをとへはーはるくれて

【文明年間百韻３４巻】／何人［ちきりあれや］／文明 14(1482) 年 3 月 20 日

まきのはしのくーはなのひともと
とりのねもーそこはかとなくーはるくれて

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆきふかき］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 11 月 23 日

花の山風（はなのやまかぜ）

→春になる（はるになる）

くもあるつきのーはなのやまかせ
あけほのはーゆふへわかれしーはるなれや

【至徳以前百韻７巻】／□□［くれなゐの］／至徳 4(1387) 年以前

うらみははてしーはなのやまかせ
くれてしもーなほうとまれぬーはるなれや

【大永三年月並千三百韻】／□□［ひとこゑや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 4 月 23 日

花見える（はなみえる）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

ものふかきーしけみをゆけはーはなみえて
やとりをしむるーうくひすのこゑ

【文安年間百韻９巻】／朝何［さかきはに］／文安 4(1447) 年 10 月 18 日

かくしおくーのきはのおくにーはなみえて
はるやしるへ□ーうくひすのこゑ

【天正四年万句７０巻】／何木［さくはなの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

花よ紅葉よ（はなよもみじよ）

→大和歌（やまとうた）

かさしてもみむーはなよもみちよ
あはれさのーこころしらるるーやまとうた

【五吟一日千句】／薄何［あけほのの］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

ひとのこころはーはなよもみちよ
あらそふもーさすかゆゑあるーやまとうた

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめさきて］／文禄 2(1593) 年 2 月 12 日

春の花（はるのはな）

→青柳の陰（あおやぎのかげ）

いくもとそーやとにたえせぬーはるのはな
かともこたかしーあをやきのかけ

【永原千句】／何船［いくもとそ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

わかきにもーいろかのふかきーはるのはな
かせふきなひくーあをやきのかけ

【永原千句】／唐何［とりのねに］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

かせふかぬーよになまたれそーはるのはな
めくみのつゆのーあをやきのかけ

【文明年間百韻３４巻】／何船［かせふかぬ］／文明 9(1477) 年 1 月 22 日

→鶯の声（うぐいすのこえ）

またるるやーねこしてうゑしーはるのはな
のやまをここにーうくひすのこゑ

【永禄石山千句】／初何［しらかしの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

たれをよのーまつひとにせむーはるのはな
さくらになれよーうくひすのこゑ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［たれをよの］／成立時不詳

もるかけはーたをらむもやはーはるのはな
そのふにさらぬーうくひすのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

いにしへのーあとはかはらぬーはるのはな
そのふはなれすーうくひすのこゑ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

かけはしのーおくしるへせよーはるのはな
とほくなりぬるーうくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

さきつかはーきのふけふかのーはるのはな
あさとあくれはーうくひすのこゑ

【永正年間百韻１巻】／何人［こゑとほく］／永正元 (1505) 年 12 月 10 日

たちよりて―あらくなをりそーはるのはな
なかぬほとまつーうくひすのこゑ

【天正四年万句７０巻】／何鳥［かせにしるき］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→鶯が鳴く

ひときさへーあはれをしたふーはるのはな
そのふをちかみーうくひすのなく

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［わけゆかは］／天正 4(1576) 年 8 月 19 日

もるひとも―なきやおいきのーはるのはな
うくひすのなく―こゑのしつけさ

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

→谷の鶯

わかはにも―おもかけのこせーはるのはな
かへりはつるか―たにのうくひす

【天文年間百韻３８巻】／何船［かはおとも］／天文 23(1554) 年 6 月 1 日

とまふきのーあるしもまつやーはるのはな
ききこそそむれ―たにのうくひす

【寛文年間百韻２２巻】／□□［くるかりも］／寛文 12(1672) 年 8 月 23 日

み吉野の花

→鶯の声

みよしのやーはなよりおくにーひきこもり
かすみにもるるーうくひすのこゑ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

みよしのやーはなをよすかのーすみところ
ともとこそなれ―うくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［みつのうへに］／裏白／慶長 17(1612) 年 1 月 3 日

山梨の花

→麻生の浦浪

やまなしの―みのとしきりをーはなにみて
はるはありけりーをふのうらなみ

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

やまなしのーはなにかつかつーとひよりて
なほはるしるきーをふのうらなみ

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［わかくさも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

吉野川の花

→春過ぎる

よしのかはーひとひもちらぬーはなもなし
みゆききえつつーはるもすきけり

【伊庭千句】／何木［うつりきて］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

やまふきのーはなさきつつくーよしのかは
せかれぬみつとーはるもすきけり

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

はなれる

明け離れる

→雁が鳴き交わす空

たえたえに―をちのかはきりーあけはなれ
おりゐるかりのーなきかはすそら

【称名院追善千句】／白何［かねのこゑ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

つきにしもーしたふわかれのーあけはなれ
たのものかりのーなきかはすそら

【天正年間百韻５７巻】／□□［いるそてに］／天正 18(1590) 年 1 月 7 日

里離れた道

→重なる

さとはなれなるーまつかけのみち
おちはなほーくつるかうへにーかさなりて

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日〜18 日

さとはなれなる―みちのたえたえ
かひすつる―まくさはみとり―かさなりて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

はね

憂い鴫の羽掻き（ういしぎのはねがき）

→儚い（はかない）

かそふるもうき―しきのはねかき
あきならて―かよふこころの―はかなしや

【元和年間百韻２４巻】／□□［あさなあさな］／元和 8(1622) 年 2 月 29 日

うきはまくらの―しきのはねかき
すむつきに―おとろくゆめは―はかなしや

【寛永年間百韻１５巻】／□□［とよとしの］／裏白／寛永 20(1643) 年 1 月 3 日

鴫の羽音（しぎのはねおと）

→秋の霜（あきのしも）

たつかたしるき―しきのはねおと
あかつきに―なりにけらしな―あきのしも

【浜宮千句】／□□［つきのいろと］／

とほさかりぬる―しきのはねおと
よなよなに―つきにふりしく―あきのしも

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あとをすゑに］／裏白／慶長 15(1610) 年 1 月 3 日

鴫の羽掻き（しぎのはねかき）

→一つ庵（ひとついお）

あはれなそへそ―しきのはねかき
すむもたた―ちかきのさはの―ひとついほ

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

みにしめてゆく―しきのはねかき
はかなきは―かれののすゑの―ひとついほ

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

はま

浜伝う（はまつたう）

→帰る釣舟（かえるつりぶね）

なみのおと―かはるやあきの―はまつたひ
きりにみたれて―かへるつりふね

【毛利千句】／何人［せせにすむ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

はまつたひ―ゆふしほときに―なりけらし
かせにつれつつ―かへるつりふね

【元和年間百韻２４巻】／□□［くにくにの］／元和 6(1620) 年 9 月 15 日

はやい

朝まだき（あさまだき）

→道の遥け さ（みちのはるけさ）

きえぬるか―しもうすくもる―あさまたき
おきいててゆく―みちのはるけさ

【河越千句】／薄何［はるもきて］／文明 2(1470) 年正月 10〜12 日

いちのとも―いそくやあきの―あさまたき
きりのへたての―みちのはるけさ

【元和年間百韻２４巻】／□□［とし とし に］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

はら

小山田の原（おやまだのはら）

→秋更ける（あきふける）

やへにきりふる―をやまたのはら
ひとはたた―かりにたにこぬ―あきふけて

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日〜8 日

かりのゆくへの―をやまたのはら
みねたかみ―ふきこすかせの―あきふけて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正元 (1504) 年 7 月

草原（くさはら）

→誰を訪おうか

ゆくゆくも－かすみをしのの－くさのはら
たれにとはまし－はるのわかれち

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

みちそなき－はなのゆきまの－くさのはら
たれにとはまし－やまとことのは

【文安年間百韻 9 巻】／朝何［さかきはに］／文安 4(1447) 年 10 月 18 日

小萩原

→後の旅人

こはきはら－をりたちかほに－さきやらて
すきかてにゆく－のちのたひひと

【池田千句】／御何［こころあひの］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

たちかへり－みるやいろこき－こはきはら
たまかはすくる－のちのたひひと

【論書 4 種】／宗長／

真砂原

→言の葉の道

いてふねの－あとしつかなる－まさこはら
ひとりたねなき－ことのはのみち

【文明十四年万句 5 2 巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

しらさきの－はをならへたる－まさこはら
なにをおもふも－ことのはのみち

【文明十四年万句 5 2 巻】／唐何［はなあはせ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

忘れ訪う草原

→古里

わするなよ－とはむとちきる－くさのはら
たよりはかりに－かかるふるさと

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］／長享 2(1488) 年 7 月

わすれすも－とほきあととふ－くさのはら
なれこしたれそ－かかるふるさと

【永正十花千句】／二字反音［こまなへて］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

忘れるなよ

→別れである

はなはまた－なれしをわれも－わするなよ
はるこころなき－わかれならすや

【紫野千句】／何目［いつもみむ］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

なくさむる－ひとにうきよを－わするなよ
そふともつひの－わかれならすや

【永正十花千句】／何路［ゆくつきも］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

→程は雲居

わするなよ－たひねにかすむ－よはのつき
ほとはくもゐの－はつほとときす

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

とほくなる－やとのわかれも－わするなよ
ほとはくもゐの－ふるさとのやま

【菟玖波集／広島大学本】／羇旅／文和5(1356) 年冬～翌年の春

はらう

払う

→月のさやけさ

かりころも－すそののつゆや－はらふらむ
かせわたりつつ－つきのさやけさ

【寛文年間百韻 2 2 巻】／□□［みるくもに］／寛文 10(1670) 年 10 月 14 日

ねしとりや－きえやらぬゆきを－はらふらむ
ゆふへをかへす－つきのさやけさ

【天正四年万句 7 0 巻】／何鳥［さみたれに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

はる

霞む春の遠山（かすむはるのとおやま）

→有明の月（ありあけのつき）

かすみかくれのーはるのとほやま
ありあけのーつきもわかれのーかりなきて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

かすみにのこるーはるのとほやま
ありあけのーつきのひかりのーさえかへり

【天正四年万句７０巻】／何鳥［かせにしるき］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

咲く春の花（さくはるのはな）

→桜と宿の梅の枝（さくらとやどのうめのえだ）

ちれはさくーちきりもはかなーはるのはな
さくらにかはすーやとのうめかえ

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 5 月 23 日

さくことも－ちらむためかはーはるのはな
さくらほのめくーやとのうめかえ

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

塒の春の鳥の声（ねぐらのはるのとりのね）

→静か（しずか）

しはしねくらのーはるのとりのね
しつかなるーあしたのほとはーおそきひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

たけをねくらのーはるのとりのね
しつかなるーかきほやのへにーつつくらむ

【平松文庫本千句】／□□［おちはして］／

花の春（はなのはる）

→桜咲く頃（さくらさくころ）

かくてこそーちよもといはめーはなのはる
やとりはかなやーさくらさくころ

【初瀬千句】／何衣［しけるとも］／享徳元・2(1452) 年、4 月

ちりすきはーよしやよしののーはなのはる
たたよのなかはーさくらさくころ

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

→躑躅山吹（つつじやまぶき）

ふたもとのーすきしはいくかーはなのはる
なつともみえぬーつつしやまふき

【初瀬千句】／唐何［ふたもとの］／享徳元・2(1452) 年、4 月

□□をさへーわすれかたみのーはなのはる
つゆなからをるーつつしやまふき

【天文廿四年梅千句】／何人［うめいつく］／天文 24(1555) 年正月 7 日

花の春風（はなのはるかぜ）

→山桜（やまざくら）

とはむといひしーはなのはるかせ
おくはまたーおそきもあれやーやまさくら

【弘治年間百韻８巻】／何船［たくそてに］／弘治 2(1557) 年 12 月 2 日

くもをはらふはーはなのはるかせ
やまさくらーよのまのあめにーさきいてて

【愚句老葉】／春／永正 17 年

にはのくちきのーはなのはるかせ
やまさくらーかけひのみつにーなかれきて

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正 6、7 年

花の春毎（はなのはるごと）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

うゑおきてーまたるるはなのーはることに
わかやととはぬーうくひすのこゑ

【聖廟千句】／初何［きのふより］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

ほともなくーうつろふはなのーはることに
みをあくからすーうくひすのこゑ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

春秋の色（はるあきのいろ）

→移ろう（うつろう）

みしはしはしのーはるあきのいろ
やまふきのーつゆはもみちにーうつろひて

【美濃千句】／何馬［まつやしる］／文明4(1473) 年 12 月 16 日〜21 日

けにはかなしやーはるあきのいろ
ひとはたたーときなるかたにーうつろひて

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

春帰る（はるかえる）

→若葉の葛の掛かる埋もれ木（わかばのくずのかかるうもれぎ）

としとしのーはるはいつくにーかへるらむ
わかはのくすのーかかるうもれき

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明8(1476) 年 5 月頃

はるはさてーいくとしとしかーかへるらむ
わかはのくすのーかかるうもれき

【専順関係２種】／法眼専順連歌／赤木文庫本／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

春風が吹く（はるかぜがふく）

→霞む（かすむ）

あしたのはらにーはるかせそふく
さしのほるーひもほのかにやーかすむらむ

【葉守千句】／朝何［しもふけて］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<〜11 日>

かれしはやしもーはるかせそふく
やまはけさーいくしもよにかーかすむらむ

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

春が来る（はるがくる）

→鶯が鳴く（うぐいすがなく）

やまさとのーみちのなきたにーはるのきて
けさをはつねのーうくひすそなく

【紫野千句】／唐何［かせやこれ］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

のちのちにーはなのさくへきーはるのきて
やとのあしたにーうくひすそなく

【文明十四年万句５２巻】／何寺［きりうすみ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

ふるとしのーゆきのこなたにーはるはきて
おくるあしたにーうくひすそなく

【享徳二年千句】／何船［よもにちる］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

たれかはとーおもふさとにもーはるはきて
わかみのともとーうくひすそなく

【延徳年間百韻１６巻】／山何［ふきもこぬ］／延徳 2(1490) 年 9 月 20 日

→うち霞む（うちかすむ）

このあけほののーはるはきにけり
まきのとをーいてぬるにはのーうちかすみ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何袋［またしかし］／成立時不詳

かけひのすゑにーはるはきにけり
くれたけのーひとよあくれはーうちかすみ

【園塵第一／続群書類従本】／春／長享 2 年

→梅咲く（うめさく）

このさとまてもーはるはきにけり
ひとしれぬーしはのまかきもーうめさきて

【園塵第一／続群書類従本】／春／長享 2 年

こころうれしきーはるはきにけり
あひにあふーにひまくらかにーうめさきて

【論書４種】／宗長／

春過ぎる（はるすぎる）

→日が長い（ひがながい）

おのつからーとはれしころのーはるすきて
まつひとはこすーひこそなかけれ

【紫野千句】／山何［ゆふたちは］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

はなにわれーこころつくしのーはるすきて
のとかにくらすーひこそなかけれ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

春立つ（はるたつ）

→光長閑（ひかりのどか）

ひさかたのーくもゐのにはのーはるたちて
すたれをまけはーひかりのとけし

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

うくひすのーこゑにちさとのーはるたちて
そともにうつるーひかりのとけし

【慶長年間百韻２７巻】／□□［まつやなほ］／裏白／慶長 10(1605) 年 1 月 3 日

春の曙（はるのあけぼの）

→鶯（うぐいす）

おくつゆふかきーはるのあけほの
うくひすのーつはさにのこるーゆきおちて

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

いまいくかかはーはるのあけほの
うくひすのーかへるふるすやーたとるらむ

【至徳以前百韻７巻】／ｘｘ［はなちりて］／存疑／至徳 4(1387) 年以前

こころつくしのーはるのあけほの
うくひすのーこゑにまくらをーそはたてて

【天正四年万句７０巻】／何物［きくやいかに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→霞む夜（かすむよ）

こころにとまるーはるのあけほの
かすむよのーつきをなこりのーかりなきて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

はなにほひくるーはるのあけほの
かすむよのーともしひうすきーまとにねて

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

→霞む（かすむ）

よをものこさぬーはるのあけほの
つきそなきーむかふうちにやーかすむらむ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［またもなき］／成立時不詳

ふるきみやこのーはるのあけほの
ひさかたのーつきのいくよかーかすむらむ

【下草／龍谷大学本】／春／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

春の入日（はるのいりひ）

→絶え絶え（たえだえ）

はるのいりひのーかけかすかなり
たえたえにーかねのひひきのーきこえきて

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

はるのいりひのーまつにかかれる
かへりみるーあとはかすみのーたえたえに

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

春の海面（はるのうみつら）

→長閑（のどか）

かりもかへるなーはるのうみつら
のとかなるーしほひのをちにーやまをみて

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

まつみえわたるーはるのうみつら
のとかなるーなみにうかはぬーふねもなし

【明応年間百韻２２巻】／何木［やまはゆき］／明応 7(1498) 年 11 月 4 日

春の帰るさ（はるのかえるさ）

→天つ雁（あまつかり）

ほとなくおもふーはるのかへるさ
あまつかりーこそのなこりのーねをなきて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［ちりしえぬ］／成立時不詳

おもへはしらぬーはるのかへるさ
ゆきさゆるーこしちにむかふーあまつかり

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何椿［かせきよし］／成立時不詳

春の雁（はるのかりがね）

→此方彼方（こなたかなた）

ともまちつれぬ－はるのかりかね
ちきりしは－こなたかなたに－なりはてて

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明 12(1480) 年 9 月 28 日

またたちかへる－はるのかりかね
たまつさは－こなたかなたに－かよひつつ

【菟玖波集／広島大学本】／恋下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

春の暮れ（はるのくれ）

→霞む入相の鐘（かすむいりあいのかね）

あらしたつ－はつせのやまの－はるのくれ
かすみてとほき－いりあひのこゑ

【応仁年間百韻６巻】／ｘｘ［えたふりぬ］／応仁 2(1469) 年 12 月

はかなくて－をしみなれこし－はるのくれ
かすみはてたる－いりあひのこゑ

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

春の暮れ方（はるのくれがた）

→藤咲く（ふじさく）

やよひのすゑの－はるのくれかた
ものふかき－まつのひまひま－ふちさきて

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

はなをそつくす－はるのくれかた
やまふきの－ひとつかきねに－ふちさきて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

春の寂しさ（はるのさびしさ）

→花咲く（はなさく）

やとからなれや－はるのさひしさ
にはうつむ－こけにひともと－はなさきて

【宗祇関係２種】／心敬専順点宗祇付句／

あめふりすさふ－はるのさひしさ
やまふかみ－くもゆくみねの－はなさきて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

春の伴い（はるのともない）

→夕霞（ゆうがすみ）

おくれつつうき－はるのともなひ
ことのはに－あらそふあさな－ゆふかすみ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［かきつはた］／永禄 10(1567) 年 4 月 28 日

かたみにうとき－はるのともなひ
てふとりの－やとりへたつる－ゆふかすみ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめかえや］／文禄 4(1595) 年 7 月 21 日

春の花（はるのはな）

→青柳の陰（あおやぎのかげ）

いくもとそ－やとにたえせぬ－はるのはな
かともこたかし－あをやきのかけ

【永原千句】／何船［いくもとそ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

わかきにも－いろかのふかき－はるのはな
かせふきなひく－あをやきのかけ

【永原千句】／唐何［とりのねに］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

かせふかぬ－よになまたれそ－はるのはな
めくみのつゆの－あをやきのかけ

【文明年間百韻３４巻】／何船［かせふかぬ］／文明 9(1477) 年 1 月 22 日

→鶯の声（うぐいすのこえ）

またるるや－ねこしてうゑし－はるのはな
のやまをここに－うくひすのこゑ

【永禄石山千句】／初何［しらかしの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

たれをよの－まつひとにせむ－はるのはな
さくらになれよ－うくひすのこゑ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［たれをよの］／成立時不詳

もるかけはーたをらむもやはーはるのはな
そのふにさらぬーうくひすのこゑ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

いにしへのーあとはかはらぬーはるのはな
そのふはなれすーうくひすのこゑ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

かけはしのーおくしるへせよーはるのはな
とほくなりぬるーうくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

さきつかはーきのふけふかのーはるのはな
あさとあくれはーうくひすのこゑ

【永正年間百韻１巻】／何人［こゑとほく］／永正元 (1505) 年 12 月 10 日

たちよりてーあらくなをりそーはるのはな
なかぬほとまつーうくひすのこゑ

【天正四年万句７０巻】／何鳥［かせにしるき］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→鶯が鳴く（うぐいすがなく）

ひときさへーあはれをしたふーはるのはな
そのふをちかみーうくひすのなく

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［わけゆかは］／天正 4(1576) 年 8 月 19 日

もるひともーなきやおいきのーはるのはな
うくひすのなくーこゑのしつけさ

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

→谷の鶯（たにのうぐいす）

わかはにもーおもかけのこせーはるのはな
かへりはつるかーたにのうくひす

【天文年間百韻３８巻】／何船［かはおとも］／天文 23(1554) 年 6 月 1 日

とまふきのーあるしもまつやーはるのはな
ききこそそむれーたにのうくひす

【寛文年間百韻２２巻】／□□［くるかりも］／寛文 12(1672) 年 8 月 23 日

春の光（はるのひかり）

→霞む（かすむ）

はるのひかりもーなきたにのいほ
みねたかみーありあけまてやーかすむらむ

【飯盛千句】／何木［かすかのの］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

はるのひかりもーみえぬおくやま
うくひすのーさへつるのへやーかすむらむ

【享徳年間百韻４巻】／何船［をさまれる］／享徳 2(1453) 年 1 月 25 日

春の古里（はるのふるさと）

→長き日（ながきひ）

とはれむものかーはるのふるさと
あめのうちーゆふへもわかすーなかきひに

【文明年間百韻３４巻】／何路［かせやくも］／文明 4(1472) 年 10 月 26 日

さひしくなりぬーはるのふるさと
なかきひにーなととひすててーかへるらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［まつみよと］／延徳 4(1492) 年 2 月 8 日

春の物の音（はるのものねね）

→霰走りの夜の月（あらればしりのよるのつき）

ひくてもゆかしーはるのものねね
あけのこるーあられはしりのーつきのよに

【住吉千句】／何田［このはちる］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

しらへえならぬーはるのものねね
しつけさやーあられはしりのーよはのつき

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

春の山里（はるのやまざと）

→鶯（うぐいす）

さくらのことをーはるのやまさと
うくひすのーこゑはかすみのーのきはにて

【太神宮法楽千句】／玉何［あきとほし］／長享 2(1488) 年 7 月

やかてもとへや－はるのやまさと
うくひすの－ふるすのたにの－ゆききえて

【東山千句】／何路［のわきせし］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

春の山寺（はるのやまでら）

→如月の別れを訪う（きさらぎのわかれをとう）

しきみにとほき－はるのやまてら
きさらきの－わかれのにはを－とひすてて

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

かねさたかなる－はるのやまてら
きさらきの－わかれをたれも－とひいてて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［とよとしの］／裏白／寛永 20(1643) 年 1 月 3 日

春の夕暮れ（はるのゆうぐれ）

→月出る（つきいでる）

まさこちとほき－はるのゆふくれ
とけわたる－みきはもこほる－つきいてて

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

こけふむやまの－はるのゆふくれ
しつかなる－はなのおくより－つきいてて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

春の夜の月（はるのよのつき）

→声々（こえごえ）

いてたにやらす－はるのよのつき
あめはれて－かはつうるさき－こゑこゑに

【秋津洲千句】／一宇露顕［わかはより］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

こころうかるる－はるのよのつき
うちわひて－なきゆくかりの－こゑこゑに

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

春の夜の夢（はるのよのゆめ）

→草枕（くさまくら）

みえこしやたた－はるのよのゆめ
つきもいつ－のとかになれむ－くさまくら

【伊予千句】／何垣［なつくさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かへるともなき－はるのよのゆめ
おもはすよ－すみれつむのの－くさまくら

【専順関係２種】／法眼専順連歌／赤木文庫本／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

春は曙（はるはあけぼの）

→横雲（よこぐも）

かすみはゆふへ－はるはあけほの
よこくもに－よるのうすゆき－きえやらて

【皇学館文庫本千句】／□□［ちらははな］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

いつはありとも－はるはあけほの
のこるかと－ゆめをもたとる－よこくもに

【永正年間百韻３４巻】／何人［みやまきに］／永正 14(1517) 年 3 月 22 日

春より後（はるよりのち）

→長き日（ながきひ）

はるよりのちの－うくひすのこゑ
おくらすも－つれつれはなほ－なかきひに

【嵯峨千句】／花之何［うめかかは］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

はるよりのちの－とももこそあれ
たかさこや－むかしいまはの－なかきひに

【天正四年万句７０巻】／薄何［はつかりの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

古き都の春（ふるきみやこのはる）

→うち霞む（うちかすむ）

ふるきみやこの－はるのはかなさ
しほかまや－けふりしなこり－うちかすみ

【明応年間百韻２２巻】／山何［つきもひとに］／明応 5(1496) 年 8 月 15 日

ふるきみやこの－はなのひともと
つゆかかる－みちのしはくさ－うちかすみ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

はるか

里の遥かさ（さとのはるかさ）

→小田の原（おだのはら）

やなきかくれのーさとのはるけさ
すゑはなほーかへしのこせるーをたのはら

【天正年間百韻５７巻】／□□［うくひすも］／天正 14(1586) 年 1 月 4 日

かすみわけゆくーさとのはるけさ
すきわたしーかへれはくるるーをたのはら

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年 1 月 3 日

はるばる

遥々（はるばる）

→海人の釣舟（あまのつりぶね）

はるはるとーわかすむかたはーうちかすみ
おきにかかれるーあまのつりふね

【宮島千句】／何木［ほかにやは］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

はるはるとーあしへをさしてーみつしほに
みるみるちかきーあまのつりふね

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

はれる

霧晴れ昇る（きりはれのぼる）

→朝日影（あさひかげ）

きりはれのほるーなかのかけはし
かすかなるーのわきせしよのーあさひかけ

【出陣千句】／朝何［きりもやは］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

きりはれのほるーまつのこたかさ
あさひかけーいろつくみねにーさしそひて

【文明年間百韻３４巻】／□□［したつゆは］／文明 12(1480) 年 7 月 4 日

霧晴れる（きりはれる）

→一筋白い（ひとすじしろい）

かりのこすーすすきをこめしーきりはれて
ひとすちしろしーしもをふむみち

【弘治三年春雪千句】／初何［けさみれは］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

ゆくゆくもーはまへつたひのーきりはれて
ひとすちしろしーつきのかはみつ

【天正年間百韻５７巻】／何人［ときはいま］／天正 10(1582) 年 5 月 24 日

晴れる村雨（はれるむらさめ）

→一声の時鳥（ひとこえのほとぎす）

ふくるまくらにーはるるむらさめ
ひとこゑは―ききこそわかねーほとときす

【表佐千句】／初何［はなみよと］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

そそきもあへす―はるるむらさめ
ひとこゑは―それかあらぬかーほとときす

【元和年間百韻２４巻】／□□［とششとともに］／裏白／元和 2(1616) 年 1 月 3 日

水晴れる（みずはれる）

→朱のそほ舟（あけのそほぶね）

かけおそきーゆふひのいりえーみつはれて
なみもよりくるーあけのそほふね

【皇学館文庫本千句】／□□［きてかへる］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

はるはるとーやまもといつるーみつはれて
たひねするよのーあけのそほふね

【壁草／書陵部本】／旅／永正 9 年

村雨の晴れゆく後は嵐（むらさめのはれゆくあとはあらし）

→日に渡る舟の寒さ（ひにわたるふねのさむさ）

むらさめのーはれゆくあとはーふくあらし
ゆふひにわたるーふねのさむけさ

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

むらさめのーはれゆくあとはーゆふあらし
いりひをわたるーふねのさむけさ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

雪がふり晴れる（ゆきがふりはれる）

→寒ゆる夕風（さゆるゆうかぜ）

まさこちにーまきるるゆきのーふりはれて
ふきあけののにーさゆるゆふかせ

【文安頃千句４巻】／何路［やへひとへ］／

ふりはれてーつきにもなれるーゆきのかな
くさきのうへにーさゆるゆふかせ

【長禄三年千句１１巻】／初何［ふりはれて］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

ば

青葉の花の後（あおばのはなのあと）

→掛かる藤浪（かかるふじなみ）

まつならてーあをはのゆきやーはなのあと
ことときのかたにーかかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［かせやくも］／応永 26(1419) 年 10 月 25 日

をしめともーあをはになりぬーはなのあと
まつにことさらーかかるふちなみ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

垣の本つ葉（かきのもとつば）

→御溝水（みかわみず）

あきにいろつくーかきのもとつは
おもふことーかきやなかさむーみかはみつ

【看聞日記紙背５０巻】／何目［いろつきぬ］／応永 28 日 5 月 29 日

いろみしそむるーかきのもとつは
はきのとのーはなさへうつるーみかはみつ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつころの］／応永 32(1425) 年 10 月 15 日

草葉の露（くさばのつゆ）

→化野（あだしの）

くさはのつゆもーおなしなみたか
あたしのやーおくれさきたちーいろつきて

【飯盛千句】／千何［こぬあきや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

くさはのつゆもーかせにみたれぬ
あたしのやーたれもさこそとーそてぬれて

【新撰菟玖波集／実隆本】／哀傷／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

零れる竹の葉の露（こぼれるたけのはのつゆ）

→片敷の枕（かたしきのまくら）

こほれてつたふーたけのはのつゆ
かたしきのーまくらのうへのーあきのかせ

【弘治三年春雪千句】／何舟［きえてたに］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

こほれきにけりーたけのはのつゆ
かたしきのーそてもまくらもーひややかに

【元和年間百韻２４巻】／□□［くにくにの］／元和 6(1620) 年 9 月 15 日

紅葉葉（もみじば）

→汲む杯（くむさかずき）

もみちははーいろこきよりもーをりかさし
よさむわすれてーくめるさかつき

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

もみちははーたくあとよりもーかきあつめ
つきになるまてーくめるさかつき

【天正年間百韻５７巻】／□□［しろたへの］／天正 16(1588) 年 1 月 4 日

ひ

葦火焚く影（あしひたくかげ）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

おなしみなとのーあしひたくかけ
うちみたれーくるるかたよりーとふほたる

【天正年間百韻５７巻】／山何［あをやきの］／天正 3(1575) 年 2 月 2 日

はなれこしまにーあしひたくかけ
とふほたるーゆくかたもなくーさよふけて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

ひかり

春の光（はるのひかり）

→霞む（かすむ）

はるのひかりもーなきたにのいほ
みねたかみーありあけまてやーかすむらむ

【飯盛千句】／何木［かすかのの］／永禄4(1561)年5月27日～29日

はるのひかりもーみえぬおくやま
うくひすのーさへつるのへやーかすむらむ

【享徳年間百韻4巻】／何船［をさまれる］／享徳2(1453)年1月25日

光の影（ひかりのかげ）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

ひかりのかけをーあはれとやみむ
いにしへの―いかなるたまそーとふほたる

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安2(1445)年10月18日

ひかりのかけをーをしみとめはや
くれわたる―まとよりをちにーとふほたる

【成立不詳・心敬以前14巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

光長閑（ひかりのどか）

→解ける（とける）

にははあさけのーひかりのとけし
いけみつやーとちしこほりのーとけぬらむ

【寛永年間百韻15巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永8(1631)年1月3日

かきほへたてぬ―ひかりのとけし
たけのはの―ゆきやのこらすーとけぬらむ

【寛永年間百韻15巻】／□□［しつけさの］／裏白／寛永10(1633)年1月3日

ひぐらし

蜩の声（ひぐらしのこえ）

→山の陰（やまのかげ）

うちおとろけるーひくらしのこゑ
あきにさへーなりぬとおくるーやまのかけ

【伊庭千句】／御何［うくひすや］／大永4(1524)年3月17日～21日

つゆにしをるるーひくらしのこゑ
むらさめや―すくるまもなきーやまのかけ

【天正四年万句70巻】／□何［□□□□□］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

→夕月夜（ゆうづくよ）

はやしらつゆにーひくらしのこゑ
ゆふつくよーあきかせふかぬーやまもなし

【永原千句】／何色［うつろはぬ］／明応9(1500)年7月17日

ややものさひしーひくらしのこゑ
やまのはにーまたかけうすきーゆふつくよ

【東山千句】／何色［しかのねは］／永正15(1518)年8月10日～12日

ひだり

左右（ひだりみぎ）

→心争う歌（こころあらそううた）

ふくふえにーあはするまひのーひたりみき
こころあらそふーうたのくちくち

【初瀬千句】／何衣［しけるとも］／享徳元・2(1452)年、4月

ゆるさるはーおなしくるまのーひたりみき
こころあらそふーうたのかちまけ

【文明十四年万句52巻】／栗何［あけてみむ］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

ひと

出る旅人（いづるたびびと）

→仮枕（かりまくら）

まとろみあへすーいつるたひひと
かりまくらーかねややまちにーさそふらむ

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

やすらふのへをーいつるたひひと
かりまくらーむすへはつきのーおつるよに

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

出る舟人（いづるふなびと）

→明け渡る（あけわたる）

みなとのはるにーいつるふなひと
あけわたるーうらのかすみにーなみこえて

【宗砌関係９種】／百番連歌／赤木文庫本／享徳 2() 年 8 月 13 日以後-寛正 6 年 3 月以前

こころやとむるーいつるふなひと
あけわたるーいりえのゆきのーとまやかた

【専順関係２種】／冬／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

遠方人の袖（おちかたびとのそで）

→送る（おくる）

をちかたひとのーそてほのかなり
よこくもやーわかれしゆめをーおくるらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

をちかたひとのーそてのむらさめ
ほとときすーなれもたひとやーおくるらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

思う人の言の葉（おもうひとのことのは）

→我のみ一人袖を濡らす（われのみひとりそでをぬらす）

おもふてふーひとのことのはーたのみなや
われのみひとりーそてはぬらしつ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

おもふてふーひとのことはのーことならは
われのみひとりーそてはぬらさし

【菟玖波集／広島大学本】／恋下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

帰る里人（かえるさとびと）

→方（かた）

をのへをとほみーかへるさとひと
かねのこゑーいつくきこえぬーかたならむ

【出陣千句】／初何［けふたつや］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

ふねひきすててーかへるさとひと
くれそむるーすゑやふしみのーかたならむ

【元和年間百韻２４巻】／□□［えそすきぬ］／元和 8(1622) 年 4 月 13 日

変わる世の中（かわるよのなか）

→夏衣（なつごろも）

ひとのこころのーかはるよのなか
なつころもーはるのはなそめーぬきすてて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

さめてむちうにーかはるよのなか
なつころもーついたちきたるーよはあけて

【新続犬筑波集】／夏／万治 3(1660) 年正月

須磨人（すまびと）

→若木の桜（わかぎのさくら）

すまひとのーよかたりになるーはなうゑて
わかきのさくらーはるそひさしき

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつかねに］／応永 32(1425) 年 3 月 25 日

すまひとのーうゑけるはなにーなくさみて
わかきのさくらーさかりいつころ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ひととせに］／応永 32(1426) 年 12 月 11 日

仕え人（つかえびと）

→家々の風

あふききてーきみにいくよをーつかへひと
いやさかえゆくーいへいへのかせ

【熊野千句】／初何［をるはなに］／文正元 (1466) 年 3 月以前

かりそめのーいとまもなみのーつかへひと
ほまれあるこそーいへいへのかせ

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

なれる柴人

→烏飛ぶ

ひとりひとりにーなれるしはひと
からすとふーいちちのむらにーひはおちて

【池田千句】／何人［はるのはな］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

いりひかくれにーなれるしはひと
からすとふーすそののさとのーうすけふり

【永正年間百韻３４巻】／何人［すすしさや］／永正 7(1510) 年 7 月 5 日

人帰る

→野辺の一村

ひとかへるーたけのしたみちーくれやらて
たのもにつつくーのへのひとむら

【永禄石山千句】／何路［ときはきも］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

ひとかへるーあとはしつけきーはるならむ
とりのねかすむーのへのひとむら

【天文年間百韻３８巻】／山何［なくやいつれ］／天文 24(1555) 年 5 月 14 日

人影もしない

→なる

まつとはすれとーひとかけもせす
たのめしやーよそのゆふへにーなりぬらむ

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

まはきかもとのーひとかけもせす
いつすみてーとほさとをのとーなりぬらむ

【下草／東山御文庫本】／雑上／明応 5(1496) 年 11 月 18 日

人が恨めしい

→訪う

ふりはへてこぬーひとはうらめし
いつかたのーたよりにわれをーとひつらむ

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年 2 月以前

とほさかりぬるーひとはうらめし
おほつかなーたかこころにてーとひつらむ

【下草／龍谷大学本】／恋下／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

人が待たれる

→恋しさ

かへさいそきしーひとそまたるる
こひしさはーうらみにこりぬーこころにて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［まつかせは］／成立時不詳

ちきりおかねとーひとそまたるる
こひしさはーみのならはしのーゆふへにて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

人頼み

→訪れて

みにしむかせそーひとたのめなる
いまこむとーゆふくれことにーおとつれて

【因幡千句】／初何［ゆきはなほ］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日<～28 日>

はかなのゆめやーひとたのめなる
わすらるるーちきりになせはーおとつれて

【明応年間百韻２２巻】／何路［うつろはて］／明応 3(1494) 年 10 月 30 日

→慣れ慣れる

そよきてをきのーひとたのめなる
さをしかのーきりのまかきにーなれなれて

【平松文庫本千句】／□□［ふゆはつき］／

ひとたのめなるーくれもあやなし
ささかにのーかねてしるきもーなれなれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

人の訪れ（ひとのおとずれ）

→桜散る（さくらちる）

いまはおもはしーひとのおとつれ
さくらちるーやまはかさなるーおくにして

【東山千句】／何色［しかのねは］／永正15(1518)年8月10日～12日

きのふはありしーひとのおとつれ
さくらちるーはるのやまさとーくれやらて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春下／明応4(1495)年9月26日

人の面影（ひとのおもかげ）

→別れ路（わかれじ）

ゆめかうつつかーひとのおもかけ
しはしたにーとりとめはやのーわかれちに

【天文廿四年梅千句】／何垣［あさきりに］／天文24(1555)年正月7日

これになくさむーひとのおもかけ
けふやかてーこひしかるへきーわかれちに

【応永年間百韻7巻】／□□［ｘｘはせて］／応永24(1417)年3月16日

→秋更ける（あきふける）

つきにみしよのーひとのおもかけ
のこりなくーよもきかすゑにーあきふけて

【永正十花千句】／何路［ゆくつきも］／永正13(1516)年3月11日～14日

ぬきおくきぬのーひとのおもかけ
つきすめるーよこのうらかせーあきふけて

【萱草／伊地知本】／秋／文明6(1474)年2月以前

つきにみしよのーひとのおもかけ
のこれなくーあさちかすゑのーあきふけて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

→慰める（なぐさめる）

まつとはしるやーひとのおもかけ
うきをたたーこころとしはしーなくさめて

【天文年間百韻３８巻】／朝何［またてきく］／天文9(1540)年4月25日

わすれむとすれはーひとのおもかけ
あはぬまもーありつるみそとーなくさめて

【老葉／吉川本】／恋下／文明13(1481)年夏頃

→涙（なみだ）

わすれもやらぬーひとのおもかけ
うらみをはーいはぬにもしるーなみたにて

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［としふりて］／応永24(1417)年11月23日

あさちかはらのーひとのおもかけ
つゆはたたーゆふへのおとすーなみたにて

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明8(1476)年5月頃

人の豫言（ひとのかねごと）

→契り（ちぎり）

かはるかいか□ーひとのかねこと
ちきりてもーこころのおくのーゆかしきに

【看聞日記紙背５０巻】／山何［なつかけよ］／応永26(1419)年3月29日

いつはりなれやーひとのかねこと
ちきりてもーふたりはしなすーのこるみに

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／文正元(1466)年4月

人の心（ひとのこころ）

→涙落ちる（なみだおちる）

たひのやとーかすはまれなるーひとこころ
なさけのなきにーなみたおちけり

【文明十四年万句５２巻】／手何［はふつたに］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

たまさかにーちきりおきつるーひとこころ
かたみのふみにーなみたおちけり

【文明十四年万句５２巻】／何水［たまやとる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→儚(はかない)い

ひとのこころのーあやしうつしゑ
はかなくもーすきにしとものーおもはれて

【天正年間百韻５７巻】／何木［けふかへよ］／天正 9(1581) 年 4 月 1 日

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなくもーおとろふるをはーともにせて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心が変わる(ひとのこころがかわる)

→海山(うみやま)

ひとのこころのーかはりやすさよ
うみやまのーつきみてあかすーすまのうら

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきのはな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひとのこころのーかはるよのなか
うみやまのーなあるところもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心の変わる世の中(ひとのこころのかわるよのなか)

→秋の暮れ(あきのくれ)

ひとのこころのーかはるよのなか
やまさとをーうかれいてめやーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
いまをなほーとへやよしののーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→秋が来る(あきがくる)

ひとのこころのーかはるよのなか
うつせみのーはやまおろしにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
しるしらぬーひとつなみたにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→哀れ(あわれ)

ひとのこころのーかはるよのなか
よもきふをーかれぬあるしはーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
なきあとはーにくかりしたにーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→色見える(いろみえる)

ひとのこころのーかはるよのなか
まちをしむーはなにほとなきーいろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
たけはそのーこをおもふともーいろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→憂い身の時(ういみのとき)

ひとのこころのーかはるよのなか
うきみさへ―ときにやあふとーはるたちて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うきみさへーいまはのときやーをしからむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→衰える(おとろえる)

ひとのこころのーかはるよのなか
そのいへは―のこれとみちのーおとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
あかむれはーかみのしるしはーおとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→袖濡れる

ひとのこころのーかはるよのなか
ききわひぬーしくれこのはにーそてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
おいかみはーわかなつむにもーそてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→旅

ひとのこころのーかはるよのなか
うきにあひーなさけをみるもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うみやまのーなあるところもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→契り

ひとのこころのーかはるよのなか
なへてうきーあきなとほしのーちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
むかしたれーはなよりまつをーちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→月を見る

ひとのこころのーかはるよのなか
よつのときーいつれまさるとーつきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
すさましとーいひししはすのーつきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→とりどり

ひとのこころのーかはるよのなか
さむきひはーみつにいるてふーとりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
すてかたきーわかふたみちのーとりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→儚い羽根を並べる鳥部山

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年
2 月以前

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはをもならへしーとりへやま

【老葉／書陵部宗訊筆本】／旅／

→花咲く

ひとのこころのーかはるよのなか
のへをわけーやまちをたとるーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みやまきをーかたはらになすーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→花もない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれへあるーみはなかめつるーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うたのみちーまことをうるはーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→羽根を並べる鳥部山

ひとのこころのーかはるよのなか
とりへやまーはねをならへしーすゑたえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年 2 月以前

→一つ

ひとのこころのーかはるよのなか
つきはたたーみやもわらやもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
こをおもふーみちのみたれもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→時鳥

ひとのこころのーかはるよのなか
ほととぎすーはななきころをーなくさめて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
またしよもーなきかやまちのーほととぎす

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ほととぎすーかへるやまちはーともならて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知らない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれしさもーうきもゆめなるーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ときをえはーなほおそるへきーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知る

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーわれとさためむーやともなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーいはむうらみもーなきものを

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→我が上

ひとのこころのーかはるよのなか
わかうへにーおもはてたれをーそしるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
わかうへにーほしのひとよのーあきもかな

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心の世の中

→花を恨む

ひとのこころのーあたしよのなか
はなをたれーうつろふものとーうらむらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

ひとのこころのーかはるよのなか
なつやまとーみなすをはなやーうらむらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人もある（ひともある）

→数添う（かずそう）

こころかしこきーひともこそあれ
ことのははーすゑのよになほーかすそひて

【永原千句】／何色〔うつろはぬ〕／明応9(1500)年7月17日

なをきききかぬーひともこそあれ
かなしくもーにひしまもりのーかすそひて

【下草／金子本】／雑上／延徳4(1492)年頃

一人寝と影（ひとりねとかげ）

→片敷く（かたしく）

ひとりやねなむーまきたてるかけ
はなにほふーやまちのこけをーかたしきて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応4(1495)年9月26日

ひとりやねなむーつきほそきかけ
むしのねもーよわるあらしをーかたしきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

一人寝る（ひとりねる）

→恨み侘びる（うらみわびる）

かせみにしみぬーひとりかもねむ
いつはりのーなかたちをのみーうらみわひ

【天文年間百韻３８巻】／山何〔なとりかは〕／天文19(1550)年6月16日

まちよわりつつーひとりかもねむ
ちかひしにーかはるこころをーうらみわひ

【寛文年間百韻２２巻】／□□〔きゆるものと〕／寛文12(1672)年8月11日

古里人（ふるさとびと）

→旅の空（たびのそら）

ふるさとひとにーゆくへきかせし
ここにうらみーかしこになけくーたひのそら

【新撰菟玖波集／実隆本】／羇旅上／明応4(1495)年9月26日

ふるさとひとにーあへるうれしさ
ゆくとくとーなみたはひとりーたひのそら

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

侘人（わびびと）

→麻の狭衣（あさのさごろも）

わひひとのーむねやすからぬーあさゆふに
きてもやせはきーあさのさころも

【享禄年間百韻８巻】／何人〔あさかすみ〕／享禄5(1532)年1月3日

わひひとのーはたへはいかにーさむからむ
うちしきりぬるーあさのさころも

【文禄年間百韻１２巻】／□□〔にはくさの〕／文禄2(1593)年1月10日

ひま

霞のひま（かすみのひま）

→春浅い（はるあさい）

かすみのひまのーあさあけのやま
はるあさきーのかせやしもにーくもるらむ

【永享年間百韻４巻】／山何〔くちてけり〕／永享12(1440)年10月16日

かすみのひまのーなかそらのゆき
はるあさきーひかけやさすもーうすからむ

【天正年間百韻５７巻】／□□〔ひきのこせ〕／天正19(1591)年1月3日

ひややか

冷ややか（ひややか）

→秋の蛍（あきのほたる）

ここかしこーなかるるみつのーひややかに
あきのほたるやーくれいそくらむ

【天正年間百韻５７巻】／何人〔ときはいま〕／天正10(1582)年5月24日

いはねこすーいけのしらなみーひややかに
あきのほたるやーみつのうきくさ

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

→水の浮草（みずのうきくさ）

さそふへきーつきのやまかせーひややかに
いろにみたるるーみつのうきくさ

【弘治年間百韻８巻】／何船［たくそてに］／弘治 2(1557) 年 12 月 2 日

いはねこすーいけのしらなみーひややかに
あきのほたるやーみつのうきくさ

【天正年間百韻５７巻】／□□［まつならぬ］／天正 17(1589) 年 1 月 4 日

水冷ややか（みずひややか）

→滝の浪（たきのなみ）

みつひややかにーおつるかはつら
あしのはもーたたかれわたるーたきつなみ

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

みつひややかにーすみわたるこゑ
おちつくすーはなのこのまのーたきつなみ

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはらも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

ひよし

賀茂日吉（かもひよし）

→葵桂（あおいかつら）

かもひよしーみやこにちかきーやまとして
あふひかつらはーまつりにそとる

【宝徳四年千句】／二字反音［はなにかけ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

□□さけふーかみかき□□しーかもひよし
あふひかつらはーおなし□□□□

【応永年間百韻７巻】／□□［ｘｘはせて］／応永 24(1417) 年 3 月 16 日

ひらく

窓を開く（まどをひらく）

→夏衣（なつごろも）

まとをひらけはーつきのありあけ
なつころもーいとひしもまたーみにふれて

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

まとをひらけはーかよふあきかせ
なつころもーうすきさへみにーいとはれて

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふたちの］／天正 17(1589) 年 6 月 16 日

ふかい

深い夜の空（ふかいよるのそら）

→有明（ありあけ）

かへすもまつもーふかきよのそら
をくるまのーつきさへにほふーありあけに

【永正年間百韻３４巻】／何色［うゑてみぬ］／永正 6(1509) 年閏 8 月 29 日

とりのなくねはーふかきよのそら
あふさかやーすきのはしろきーありあけに

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

山深い（やまぶかい）

→谷の細道（たにのほそみち）

しもにかねーさゆるいりあひーやまふかみ
すきむらとほきーたにのほそみち

【壁草／大東急記念文庫本】／雑上／永正 8(1512) 年 11 月 3 日～永正 9 年

やまふかみーとひくるもまたーなになれや
ひとかかせきかーたにのほそみち

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

夜が深い（よがふかい）

→草枕（くさまくら）

かねたにならすーよこそふかけれ
くさまくらーしらぬいつくのーつきなれや

【東山千句】／何色［しかのねは］／永正15(1518)年8月10日～12日

かねにたひたつーよこそふかけれ
たかさともーしつけきのへのーくさまくら

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／山何［めつらしき］／成立時不詳

ふく

秋風が吹く（あきかぜがふく）

→鳴く蟋蟀（なくきりぎりす）

ここにすみけるーあきかせそふく
たれとなくーふりにしあとのーきりきりす

【伊勢千句】／何木［すめるよの］／大永2(1522)年8月4日～8日

かれののあさちーあきかせそふく
くれぬれはーなくねもかはるーきりきりす

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［あきふけぬ］／文明12(1480)年9月28日

→露ふる（つゆふる）

まきのいたまはーあきかせそふく
みのむしのーこゑあはれにもーつゆふりて

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文6(1537)年5月22日

とへはののみやーあきかせそふく
かきりなくーそてのわかれちーつゆふりて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［ちれはいさ］／成立時不詳

→浅茅が原（あさじがはら）

さひしきものとーあきかせそふく
あさちはらーこころをそむるーつゆなから

【専順関係２種】／秋／応仁元(1467)年5月10日

つきはふけつつーあきかせそふく
あさちはらーむしのねよりもーわれなきて

【園塵第三／続群書類従本】／秋／文亀元(1501)年3月18日

→花薄（はなすすき）

とふかときけはーあきかせそふく
はなすすきーきみかうゑしやーしのふらむ

【文明年間百韻３４巻】／何路［あさなけに］／文明8(1476)年1月11日

むかしこひしきーあきかせそふく
ひとすまぬーをのへのみやのーはなすすき

【愚句老葉】／秋／永正17年

嵐吹く山（あらしふくやま）

→大井川霞む（おおいがわかすむ）

のとかにすめはーあらしふくやま
おほゐかはーかすめるみつのーたえたえに

【享禄年間百韻８巻】／何人［からころも］／享禄3(1530)年1月28日

はなにとゆけはーあらしふくやま
おほゐかはーかすみのそこにーおとはして

【文安頃千句４巻】／何路［やへひとへ］／

袖吹きおくる風（そでふきおくるかぜ）

→玉鉾（たまぼこ）

そてふきおくるーみねのこからし
たまほこのーすゑはゆふしもーさえさえて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［かめにさす］／天文21(1552)年2月20日

そてふきおくるーかせのすすしさ
たまほこのーゆくへにしはしーやすらひて

【天正年間百韻５７巻】／□□［うめかえの］／裏白／天正19(1591)年1月3日

露吹く風（つゆふくかぜ）

→虫鳴く（むしなく）

つゆふくかせはーにしよりそたつ
みやきののーはなのさかりはーむしなきて

【宝徳四年千句】／何衣［はなもはも］／宝徳4(1452)年3月12日

つゆふくかせはーすすのかりいほ
なつころもーひもくれかたはーむしなきて

【永正年間百韻３４巻】／何衣［あひにあひぬ］／永正 10(1513) 年 2 月 16 日

春風が吹く

→霞む

あしたのはらにーはるかせそふく
さしのほるーひもほのかにやーかすむらむ

【葉守千句】／朝何［しもふけて］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かれしはやしも―はるかせそふく
やまはけさ―いくしもよにかーかすむらむ

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

吹く風に秋の露

→蜩の声

かせはまたーふかぬになつもーあきのつゆ
せみにましるやーひくらしのこゑ

【平松文庫本千句】／□□［なてしこの］／

まつにふくーかせのしたはのーあきのつゆ
またかけうすきーひくらしのこゑ

【大永三年月並千三百韻】／□□［しくれのあめ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 10 月 23 日

吹く浪の浦風

→鳥の鳴き立つ

ふきまとはせるーなみのうらかせ
さよふかきーうきねのとりのーなきたちて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

ふきこそかはれーなみのうらかせ
なかそらに―まさこのちとりーなきたちて

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

松風が吹く

→雲浮く

こえむをのへはーまつかせそふく
くれわたるーそらにひとむらーくもうきて

【三島千句】／朝何［やまとほく］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こえくるみねはーまつかせそふく
むらさめのーなこりにしはしーくもうきて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

→憂い

みちくるしほにーまつかせそふく
とまりても―ふねやこころのーうかるらむ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

こころもしらす―まつかせそふく
ゆふくれや―こけのしたにもーうかるらむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→頼む

あらうみきはは―まつかせそふく
あまをふねーなとこのきしをーたのむらむ

【三島千句】／山何［うくひすの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こころもしらすーまつかせそふく
ふけいつるーつきはくもをもーたのむらむ

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

松吹く風

→散る花

まつふくかせもーかすみはてけり
ちるはなのーにほひをはるのーなこりにて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

まつふくかせも―ゆめはみせけり
ちるはなの―かをるまくらにーめもあはて

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

ふける

秋更ける（あきふける）

→木々の下露（きぎのしたつゆ）

かせわたるーあさちかすゑもーあきふけて
いろつきそむるーききのしたつゆ

【出陣千句】／朝何［きりもやは］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

やまとほきーいそのまつかせーあきふけて
しくれはのこるーききのしたつゆ

【至徳以前百韻７巻】／何所［ちりぬるか］／至徳 4(1387) 年以前

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

みねたかみーへたつるつきのーあきふけて
つまやいつくのーさをしかのこゑ

【宗長追善千句】／白何［みしやいつ］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

はやたよりーおしねもるまてーあきふけて
あらしにかよふーさをしかのこゑ

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

→弱る虫の音（よわるむしのね）

はなすすきーかれゆくしもにーあきふけて
のにはおしなひーよわるむしのね

【顕証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

たひはまたーはるけきみちにーあきふけて
わくるくさはにーよわるむしのね

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

→衣打つ音（ころもうつおと）

あきやいまーこからしふきてーふけぬらむ
のこるかたなくーころもうつおと

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

くさまくらーうかれとあきやーふけぬらむ
みにしむかせにーころもうつおと

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［つきをかせ］／文明 12(1480) 年 8 月

→有明の月（ありあけのつき）

ひとはたたーかりにたにこぬーあきふけて
うらみにむかふーありあけのつき

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ゆふつゆにーやとかすかのーあきふけて
こむよもてらせーありあけのつき

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

秋更け渡る（あきふけわたる）

→雁鳴く（かりなく）

あきふけわたるーきりのうみつら
ゆふなみのーまつのはこしにーかりなきて

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

あきふけわたるーつきのむらくも
かりなきてーよはいねかてのーたまくらに

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

月更ける（つきふける）

→袖の露けさ（そでのつゆけさ）

たれならすーつきみるよはやーふけぬらむ
なくさめかぬるーそてのつゆけさ

【大永年間百韻１４巻】／山何［うめやなき］／大永 7(1527) 年 1 月 19 日

かたるまのーつきはいつしかーふけぬらむ
みえしこころもーそてのつゆけさ

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

初風と昨日は聞いて秋更ける（はつかぜときのうはきいてあきふける）

→人は残らない紅葉（ひとはのこらないもみじ）

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもろきもみちは

【三島千句】／何人［しるしらす］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

はつかせとーきのふはききしーあきふけて
ひとはのこらすーもみちちるかけ

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

夜が更ける

→まどろまない

ひさしくなりぬーよやふけぬらむ
いまこむのーちきりはかなくーまとろまて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［たれをよの］／成立時不詳

こひしさうたふーよやふけぬらむ
おもひいつるーむかしにおいのーまとろまて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

ふじ

掛かる藤浪

→田子の長き日

よそのこすゑにーかかるふちなみ
たこのうらーあひきのなはもーなかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

まつにことさらーかかるふちなみ
ひまもなきーたこのしほくみーなかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

→霞む三笠山

あをはのころにーかかるふちなみ
あけにけりーかすみのひまにーみかさやま

【看聞日記紙背５０巻】／何人［はなのひも］／応永 27(1420) 年閏 1 月 13 日

まつほのほのとーかかるふちなみ
かすみてはーなほみねたかしーみかさやま

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

藤の黄昏

→春の時鳥

おほつかなきはーふちのたそかれ
はるとてやーしのひねならしーほとときす

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

まつのこすゑのーふちのたそかれ
はるこそとーはつねまたるれーほとときす

【毛利千句】／一字露顕［なつのひも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

松の藤浪

→月出る

はるちよかけよーまつのふちなみ
なかきひもーくるれはやかてーつきいてて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

はなまちえたるーまつのふちなみ
はるのよのーひかりをそふるーつきいてて

【文安年間百韻１巻】／夢想［おそさくら］／文安 2(1445) 年 3 月 18 日

→時鳥

なつをかけたるーまつのふちなみ
ほとときすーこのゆふつくよーほのめきて

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正 11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

こえてやたかきーまつのふちなみ
ここになくーこゑもくもゐのーほとときす

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

ところところのーまつのふちなみ
またれぬるーこゑはやよひのーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［かすみけり］／天正 10(1582) 年 3 月 1 日

ふす

仮臥の夢

→鐘の声

いつちさめゆくーかりふしのゆめ
かねのこゑーきこえてのちのーふかきよに

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年７月 26 日

むすひもあへぬーかりふしのゆめ
かねのこゑ―そこともしらすーあけはてて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［しかそなく］／天文 24(1555) 年９月 19 日

野辺の仮臥（のべのかりふし）

→旅枕（たびまくら）

ゆめちをたとるーのへのかりふし
たひまくらーふかきもしらすーいつるよに

【住吉千句】／何田［このはちる］／大永元 (1521) 年 11 月１日～14 日

ねられぬとこはーのへのかりふし
たひまくら―ゆめさへとひやーたえつらむ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きりのはに］／成立時不詳

→旅の空（たびのそら）

ところさためぬーのへのかりふし
うきものとーいひしそまことーたひのそら

【明応年間百韻２２巻】／十三仏名号［なかつきも］／明応 4(1495) 年９月 30 日

みやこわすれぬ―のへのかりふし
たちしよの―とりかまたなくーたひのそら

【宗碩関係２種】／宗碩連歌合／静嘉堂文庫本／

ふで

筆の跡（ふでのあと）

→霞む朱のそほ舟（かすむあけのそほぶね）

たをりくるーさくらのみかはーふてのあと
かすみにくたす―あけのそほふね

【天文廿四年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 24(1555) 年正月７日

くらへみよーこすゑのはなにーふてのあと
かすむみきりの―あけのそほふね

【毛利千句】／白何［うすゆきの］／文禄 3(1594) 年５月 12 日～16 日

ふね

海人小舟（あまおぶね）

→荒磯の浪（あらいそのなみ）

うらかけてーはるかによるのーあまをふね
もしほひさひしーあらいそのなみ

【永正年間百韻３４巻】／何船［かへるかり］／永正 16(1519) 年２月 19 日

あけくれをーうきてのみこそーあまをふね
よるとかへるとーあらいそのなみ

【大永年間百韻１４巻】／山何［いやましに］／大永 5(1525) 年１月 17 日

→わづかに見える沖の島（わずかにみえるおきのしま）

なみのうへにーなかきひくらすーあまをふね
わつかにみゆるーおきつしまやま

【池田千句】／何人［はるのはな］／永正 7(1510) 年春以前<永正５年春>

ゆふくれはーつりにといつるーあまをふね
わつかにみゆるーおきのとほしま

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

海人の釣舟（あまのつりぶね）

→朝ぼらけ（あさぼらけ）

はなれこしまにーあまのつりふね
うなはらやーくももはれたるーあさほらけ

【聖廟千句】／何船［ねにそなく］／明応 3(1494) 年２月 10 日～12 日

うらつたひするーあまのつりふね
やまかすむーみきはのまつのーあさほらけ

【天正四年万句７０巻】／何衣［うのはなの］／天正 4(1576) 年５月６日～7月 19 日

→浪に時雨れる（なみにしぐれる）

おきにかかれるーあまのつりふね
そことしもーなみにいりひやーしくるらむ

【宮島千句】／何木［ほかにやは］／天文 20(1551) 年５月９日～11 日

ゆふへにいてしーあまのつりふね
たかさとのーうらわのなみにーしくるらむ

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→松立てる

かつかつうかふーあまのつりふね
まつたてる―いそのかくれやーさとならむ

【成立不詳・宗養以前８巻】／山何［ひとこゑや］／成立時不詳

はるともしらしーあまのつりふね
まつたてるーかけにふちえのーうらさひて

【老葉／毛利本】／雑上／（文明 17(1485) 年７月 23 日頃）

出る舟人

→明け渡る

みなとのはるにーいつるふなひと
あけわたるーうらのかすみにーなみこえて

【宗砌関係９種】／百番連歌／赤木文庫本／享徳 2() 年８月 13 日以後-寛正６年３月以前

こころやとむるーいつるふなひと
あけわたるーいりえのゆきのーとまやかた

【専順関係２種】／冬／応仁元 (1467) 年５月 10 日

沖の釣舟

→浪の上

かすみはかりのーおきのつりふね
やまのはーほのかにたにもーなみのうへ

【永正十花千句】／何木［ひかすたに］／永正 13(1516) 年３月 11 日～14 日

のとかにうかふーおきのつりふね
あけほのの―つきをひたせるーなみのうへ

【慶長年間百韻２７巻】／何人［わかくさの］／慶長 4(1599) 年１月 22 日

かすみにうかふーおきのつりふね
とふとりもーそれかあらぬかーなみのうへ

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［わかくさも］／天正 4(1576) 年５月６日～７月 19 日

沖の舟

→浦の朝明け

おきつふねーのとけきなみにーこききえて
つきになきたるーうらのあさあけ

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年７月

おきつふねーつきをともとやーいてぬらむ
あきかせさむきーうらのあさあけ

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年７月４日～9 月 14 日

川沿い舟

→岸の呉竹

さしいつるーかはそひふねにーかせふきぬ
すゑうちなひくーきしのくれたけ

【永原千句】／何袋［たかそめし］／明応 9(1500) 年７月 17 日

なみもなきーかはそひふねにーさをとりて
をのえてきらむ―きしのくれたけ

【文明十四年万句５２巻】／何色［はるなつを］／文明 14(1482) 年７月４日～9 月 14 日

泊まり舟

→沖の白浪

うらかせもーあまけありとやーとまりふね
いくしほあひのーおきつしらなみ

【永禄年間百韻２８巻】／何船［たちならせ］／永禄元 (1558) 年７月 18 日

よをこめてーつきにそいてしーとまりふね
かたへきりふるーおきつしらなみ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年１月８日

→松風の音

のとかなるーなみをまくらのーとまりふね
さそあらいそのーまつかせのおと

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年２月 10 日～12 日

さしよせてーいそのあたりにーとまりふね
まくらにちかきーまつかせのおと

【文明十四年万句５２巻】／何紙［つゆはけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

泊まり舟音していずち（とまりぶねおとしていずち）

→旅の国々の人（たびのくにぐにのひと）

とまりふねーおとしていつちーわたるらむ
たれたひならぬーくにくにのひと

【東山千句】／一字露顕［つきみつつ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

とまりふねーおとしていつちーわかるらむ
あはれのたひやーくにくにのひと

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

浪の浮舟（なみのうきふね）

→手習い（てならい）

よるへはいつくーなみのうきふね
てならひはーまたいとけなきーころそかし

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

ことにこきいるーなみのうきふね
てならひはーにはのをしへのーほとなるに

【看聞日記紙背５０巻】／何人［かみにうめ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

舟の綱手縄（ふねのつなでなわ）

→塩釜の浦（しおがまのうら）

ふねにすむーあまのしわさのーつなてなは
なみもたたならぬーしほかまのうら

【大永年間百韻１４巻】／何船［うめかかや］／大永 3(1523) 年 1 月 9 日

あさほらけーいそくやふねのーつなてなは
あまそかひなきーしほかまのうら

【園塵第二／続群書類従本】／雑／明応 4(1495) 年早春

舟曳き上る（ふねひきのぼる）

→帰り見る（かえりみる）

ふねひきのほる―そてそくれゆく
かへりみる―はなのこすゑはーしろたへに

【永禄元年花千句】／□□［よしさらは］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

ふねひきのほる―あとはるかなり
かへりみる―みちのひとむらーうちかすみ

【元亀年間百韻６巻】／何人［とめゆけは］／元亀 3(1572) 年 9 月 28 日

唐土舟（もろこしぶね）

→松浦潟（まつらがた）

もろこしふねのーなみのはけしさ
かへるひをーさらにいつとかーまつらかた

【天正四年万句７０巻】／二字返音［かせやいろ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

もろこしふねのーあとさきのうさ
いさりひにーゆふやみふかきーまつらかた

【春夢草／書陵部本】／雑／永正 12(1516) 年、13 年

淀の川舟（よどのかわぶね）

→村雨（むらさめ）

みつのにつなけ―よとのかはふね
むらさめの―あとはみかさやーまさるらむ

【文明十四年万句５２巻】／一字露顕［ちあきふる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ともにおくるるーよとのかはふね
むらさめのーまたふるましはーほしわひて

【文明十四年万句５２巻】／何路［かみやしる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→時鳥（ほととぎす）

なこりなかむるーよとのかはふね
なきすつるーつきはすむよのーほとときす

【永原千句】／何色［うつろはぬ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

はやあけすくるーよとのかはふね
ほとときす―たひたつあとにーやまみえて

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

さすかにはやき－よとのかはふね
ほとときす－ひとこゑをたに－ききやらて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／夏／永正6(1509) 年以前

渡し舟（わたしぶね）

→真柴に混じる躑躅山吹（ましばにまじるつつじやまぶき）

わたしふね－はなのゆききも－はるくれて
ましはにましる－つつしやまふき

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永4(1524) 年5月23日

やまもとの－はなをよそめの－わたしふね
ましはにましる－つつしやまふき

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［ちりうせぬ］／天文19(1550) 年2月17日

ふみ

文の巻々（ふねのまきまき）

→如何しよう（いかがしよう）

なほおくふかき－ふみのまきまき
とひよるも－したしからぬは－いかかせむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄4(1595) 年1月30日

あたらやきぬる－ふみのまきまき
すめらきの－さかなきよをは－いかかせむ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［よもにうつ］／寛文10(1670) 年8月29日

ふゆ

憂い冬籠り（ういふゆごもり）

→朝な朝な（あさなあさな）

うきふゆこもり－いつかかるらむ
しつかなる－なにはのうみの－あさなあさな

【伊勢千句】／山何［みるめかれ］／大永2(1522) 年8月4日～8日

うきふゆこもり－なといそくらむ
ふくかせも－またさむからぬ－あさなあさな

【天正四年万句７０巻】／何物［きくやいかに］／天正4(1576) 年5月6日～7月19日

冬枯れ（ふゆがれ）

→我が思い草（わがおもいぐさ）

ふゆかれに－かけなきのこそ－とほくみれ
いつまてのこる－わかおもひくさ

【永原千句】／唐何［とりのねに］／明応9(1500) 年7月17日

むさしのも－かきりしらるる－ふゆかれに
いかなるたねそ－わかおもひくさ

【老葉／吉川本】／恋下／文明13(1481) 年夏頃

冬籠もる頃（ふゆこもるころ）

→梅が春待つ（うめがはるまつ）

ゆきよりさきと－ふゆこもるころ
はなにかつ－つほめるうめの－はるまちて

【住吉千句】／白何［あられのみ］／大永元 (1521) 年11月1日～14日

かせもあたらす－ふゆこもるころ
かめにさす－はなのうめかえ－はるまちて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何袋［またしかし］／成立時不詳

ふる

雨がふる（あめがふる）

→三輪崎（みわがさき）

やとりもかなや－あめそふりくる
うちくもり－いりひをすゑに－みわかさき

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［はなはみな］／文明14(1482) 年7月4日～9月14日

はつせのかはへ－あめそふりくる
みわかさき－おつるあらしの－のをすきて

【専順関係２種】／雑／応仁元 (1467) 年5月10日

池ふる（いけふる）

→天の香具山（あまのかぐやま）

いけふりてーほのかにうつるーよはのつき
あきいくあきそーあまのかくやま

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［みつさむし］／成立時不詳

なかむらむーみきりははるのーいけふりて
みやちたえせぬーあまのかくやま

【永正年間百韻３４巻】／何人［みやまきに］／永正 14(1517) 年 3 月 22 日

篠にふる頃（しのにふるころ）

→衣が干難い（ころもがひがたい）

あしやのゆきのーしのにふるころ
たくひにもーわかころもてはーひかたくて

【文安雪千句】／何田［あとそある］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

ひとむらしくれーしのにふるころ
おりかくるーくものころもはーひかたくて

【初瀬千句】／何水［うのはなの］／享徳元・2(1452) 年、4 月

露のふる道（つゆのふるみち）

→夜半の月（よわのつき）

わけはやたゆるーつゆのふるみち
ひとはいさーみしはわすれぬーよはのつき

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

ぬれてみなせのーつゆのふるみち
しらきくにーうつろひふくるーよはのつき

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

ふる（ふる）

→積もる白雪（つもるしらゆき）

はつしももーふゆをまちてやーふりぬらむ
けしきなからにーつもるしらゆき

【天正四年万句７０巻】／朝何［なみよする］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

いつのまにーかくまてさとはーふりぬらむ
やまのはつかにーつもるしらゆき

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

→五月雨の頃（さみだれのころ）

さくふちのーかかれはまつはーふりはてて
かせもたえたるーさみたれのころ

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

のきくつるーかさりのはたもーふりはてて
ぬのおるいとのーさみたれのころ

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

古き都の春（ふるきみやこのはる）

→うち霞む（うちかすむ）

ふるきみやこのーはるのはかなさ
しほかまやーけふりしなこりーうちかすみ

【明応年間百韻２２巻】／山何［つきもひとに］／明応 5(1496) 年 8 月 15 日

ふるきみやこのーはなのひともと
つゆかかるーみちのしはくさーうちかすみ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

古寺（ふるでら）

→灯の下（ともしびのもと）

ふるてらにーたのむはやしのーかけふかみ
かりねめさますーともしひのもと

【河越千句】／初何［ゆふつくよ］／文明 2(1470) 年正月 10〜12 日

かたらはむーとももなみたのーふるてらに
ほとときすきつーともしひのもと

【行助関係４種】／行助句集／大阪天満宮本／

→灯の影（ともしびのかげ）

いりあひのーかねちかくなるーふるてらに
ややくれそむるーともしひのかけ

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／天文6(1537) 年 5 月 22 日

よもすからーまつはかせふくーふるてらに
つきこそまとのーともしひのかけ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

→入相(いりあい)の鐘(かね)

ふるてらのーにははしもよりーうつろひて
としもすゑののーいりあひのかね

【永原千句】／山何［うすくこく］／明応9(1500) 年 7 月 17 日

ふるてらのーみのりにとほきーみをわひて
こゑかすかなりーいりあひのかね

【文明年間百韻３４巻】／□□［はたはりや］／文明 14(1482) 年 9 月

古宮(ふるみや)の内(のうち)

→燕(つばくらめ)

すたれやつるるーふるみやのうち
つはくらめーいているのきのーひましけく

【寛正年間百韻２０巻】／何人［うめおくる］／寛正 6(1465) 年 1 月 16 日

はるをわすれぬーふるみやのうち
おなしすにーこころやかくるーつはくらめ

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

峰(みね)の古寺(ふるでら)

→花咲(はなさく)く

くものなかはのーみねのふるてら
まつたてるーはやしのおくにーはなさきて

【因幡千句】／何人［みるたひに］／文明7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

かさなるのきのーみねのふるてら
をはつせやーちるあともなほーはなさきて

【天正年間百韻５７巻】／何木［こころあてに］／天正 3(1575) 年 1 月 7 日

雪(ゆき)がふり晴(はれ)れる

→寒ゆる夕風(さゆるゆうかぜ)

まさこちにーまきるるゆきのーふりはれて
ふきあけののにーさゆるゆふかせ

【文安頃千句４巻】／何路［やへひとへ］／

ふりはれてーつきにもなれるーゆきのかな
くさきのうへにーさゆるゆふかせ

【長禄三年千句１１巻】／初何［ふりはれて］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

ふるさと

思(おもう)古里(ふるさと)

→旅(たび)の空(そら)

ふなちにいととーおもふふるさと
なくさめとーつきはさやけきーたひのそら

【聖廟千句】／何木［きえぬるか］／明応3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

かへらむのみをーおもふふるさと
やとりをもーさためぬままのーたひのそら

【文禄二年千句１０巻】／何船［あめかした］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

帰(かえる)る古里(ふるさと)

→春暮(はるぐれ)れる

よもきになりぬーかへるふるさと
みつつこしーはなの□□□□ーはるくれて

【延徳年間百韻１６巻】／何人［うめいつこ］／延徳元 (1489) 年 9 月 27 日

みちさへいつこ―かへるふるさと
たまさかの―ひとのゆききもーはるくれて

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

→旅衣(たびごろも)

のくれやまくれーかへるふるさと
たひころも―はなのにしきをーかけにきて

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ａ／

ひをふるままにーかへるふるさと
はるさめに―ぬれぬれかりのーたひころも

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

住める古里（すめるふるさと）

→思（おもう）

なほあらましと－すめるふるさと
たひゆくや－あとをいかにと－おもふらむ

【表佐千句】／唐何［つきはたた］／文明8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

あはれかくても－すめるふるさと
つれもなき－わかみやまつも－おもふらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［そよとしも］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 10 月 23 日

露のふる里（つゆのふるさと）

→秋風（あきかぜ）

かたるにおつる－つゆのふるさと
あきかせの－ならのかれはに－そよめきて

【太神宮法楽千句】／何船［とこよにや］／長享 2(1488) 年 7 月

たひねさそなの－つゆのふるさと
あきかせの－ふきいてぬれは－うつころも

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

遠き古里（とおきふるさと）

→旅衣（たびごろも）

さていくひかす－とほきふるさと
たひころも－せきちかさなる－あつまかた

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ひととせに］／応永 32(1426) 年 12 月 11 日

かへらむほとの－とほきふるさと
あめののち－いそきてゆかむ－たひころも

【成立不詳・心敬以前１４巻】／朝何［したみつに］／成立時不詳

春の古里（はるのふるさと）

→長き日（ながきひ）

とはれむものか－はるのふるさと
あめのうち－ゆふへもわかす－なかきひに

【文明年間百韻３４巻】／何路［かせやくも］／文明 4(1472) 年 10 月 26 日

さひしくなりぬ－はるのふるさと
なかきひに－なととひすてて－かへるらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［まつみよと］／延徳 4(1492) 年 2 月 8 日

古里（ふるさと）

→旅の悲しさ（たびのかなしさ）

うみかはを－へたてておもふ－ふるさとに
とほくもなれる－たひのかなしさ

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

ふるさとに－しかしとかりや－かへるらむ
みはいつまての－たひのかなしさ

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［ちれはいさ］／成立時不詳

→花の一枝（はなのひとえだ）

ふるさとに－ことつてやらむ－ひともかな
かへしてたをる－はなのひとえた

【熊野千句】／何船［のとかなる］／文正元 (1466) 年 3 月以前

またよとは－かはすも□たの－ふるさとに
みれはくちきの－はなのひとえた

【天正四年万句７０巻】／何物［ほととき す］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→思いやるにも袖（おもいやるにもそで）

ふるさとの－ひといかならむ－たひのみち
おもひやるにも－そてそしをるる

【因幡千句】／何船［そらやゆき］／文明7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

ふるさとの－あきはいつしか－□□ぬらむ
おもひやるにも－そてそぬれける

【天正四年万句７０巻】／何木［さくはなの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

古里の秋（ふるさとのあき）

→形見（かたみ）

とへはなみたのーふるさとのあき
つきをのみーここらみしよのーかたみにて

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

いつかへりこむーふるさとのあき
わすれしのーつきのみひとのーかたみにて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

古里の月（ふるさとのつき）

→草枕（くさまくら）

すむもあはれはーふるさとのつき
あかつきをーゆめのなかはのーくさまくら

【天文年間百韻３８巻】／何木［やまかけて］／天文 21(1552) 年 3 月 11 日

そてにかたしくーふるさとのつき
あしひきのーやまちくらしてーくさまくら

【永禄年間百韻２８巻】／何路［きえしその］／永禄 7(1564) 年 1 月 22 日

→鳴く虫（なくむし）

なみたにむかふーふるさとのつき
なくむしもーしるへきものをーわかおもひ

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

ゆくへなほうきーふるさとのつき
なくむしもーなれしともをやーしたふらむ

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきのはな］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

古里人（ふるさとびと）

→旅の空（たびのそら）

ふるさとひとにーゆくへきかせし
ここにうらみーかしこになけくーたひのそら

【新撰菟玖波集／実隆本】／羇旅上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

ふるさとひとにーあへるうれしさ
ゆくとくとーなみたはひとりーたひのそら

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

へだたる

隔たる（へだたる）

→籬である（まがきである）

うくつらきーわかなかやまのーへたたりて
くもやゆふへのーまかきなるらむ

【永享年間百韻４巻】／何木［ささのはの］／永享 6(1434) 年 6 月 18 日

うくひすのーこゑもみきりにーへたたりて
いくへかすみのーまかきなるらむ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちひろある］／慶長 4(1599) 年 5 月 10 日

ほし

さやかな星（さやかなほし）

→百敷の庭（ももしきのにわ）

さやかなるーほしやまよひをーてらすらむ
つかさつかさにーももしきのには

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

さやかなるーほしのひかりのーうすくもり
はるあらたまるーももしきのには

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

星を頂く（ほしをいただく）

→武士が兜着る（もののふがかぶとをきる）

ほしをいたたくーきぬきぬのそら
もののふはーとののほろかけーかふときて

【宗砌関係９種】／連歌百句／小松天満宮本／

ほしをいたたくーたそかれのとき
おのかなをーなのるもののふーかふときて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

ほそい

道が細い（みちがほそい）

→橋の一筋（はしのひとすじ）

さしおほふーいはゐのもとのーみちほそみ
ひとやはかよふ－はしのひとすち

【成立不詳・宗長以前１５巻】／ｘｘ［さみたれや］／成立時不詳

おしねもるーたのもにかよふ－みちほそみ
しもうすこほるーはしのひとすち

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

ほたる

秋の蛍（あきのほたる）

→端居する袖冷ややか（はしいするそでひややか）

あきのほたるのーほのかなるかけ
はしゐするーそてひややかにーつきいてて

【飯盛千句】／一字露顕［つきのこる］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

あきのほたるのーいつちきゆらむ
はしゐするーそてひややかにーあけはなれ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［こからしも］／慶長 3(1598) 年 10 月 19 日

飛ぶ蛍（とぶほたる）

→風の涼しさ（かぜのすずしさ）

はるはると－かはのほとりをーとふほたる
なかれふきくる－かせのすすしさ

【元亀二年千句】／山何［はなのかの］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

ゆふなきに－きえてはもえてーとふほたる
むらくさたかく－かせのすすしさ

【永正年間百韻３４巻】／山何［まちこしや］／永正 12(1515) 年 11 月 11 日

かけとほくーあしやのさとにーとふほたる
つきにくれゆくーかせのすすしさ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／ｘｘ［さみたれや］／成立時不詳

→袖の涼しさ（そでのすずしさ）

むしのなくーかたへはくれてーとふほたる
なつをわするる－そてのすすしさ

【皇学館文庫本千句】／□□［きてかへる］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

くれぬれはーみたれあひつつーとふほたる
やすらひいつるーそてのすすしさ

【天正年間百韻５７巻】／□□［すたれまけ］／天正 15(1587) 年 1 月 10 日

蛍訪う暮れ（ほたるとうくれ）

→月はまだ（つきはまだ）

かはかみよりやーほたるとふくれ
つきはまたーいてぬひかりのーみねこえて

【永禄年間百韻２８巻】／何路［なつくさの］／永禄 9(1566) 年 5 月 9 日

たのものはらに－ほたるとふくれ
つきはまたーおそき□やまのーあめ□□□

【寛永年間百韻１５巻】／□□［まつにこまつ］／裏白／寛永 19(1642) 年 1 月 3 日

蛍飛ぶ空（ほたるとぶそら）

→秋が来る（あきがくる）

たとるみちをやーほたるとふそら
うすものの－そてにおほゆるーあきのきて

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

かせのよるよるーほたるとふそら
あしかきのーすまひはかなきーあきのきて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

乱れて飛ぶ蛍（みだれてとぶほたる）

→水の涼しさ（みずのすずしさ）

とふほたるーつゆにみたれてーくるるのに
ひともかけするーみつのすすしさ

【葉守千句】／初何［わかこゑを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

かたしきのーそてにみたれてーとふほたる
なかるるおともーみつのすすしさ

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

ほとけ

仏唱える（ほとけとなえる）

→籠り居る（こもりいる）

よをしるひとやーほとけとなふる
こもりゐてーむすふもなつのーものならし

【皇学館文庫本千句】／□□［たきいつこ］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

ほとけとなふるーみこそふりぬれ
ひとしれぬーかたやまてらにーこもりゐて

【行助関係 4 種】／行助連歌／天理本／

ほととぎす

聞く時鳥（きくほととぎす）

→有明の空（ありあけのそら）

ききあへぬーゆめのたたちのーほとときす
のこるほとなきーありあけのそら

【文安月千句】／何鳥［なにめてて］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

さみたれにーまたいつきかむーほとときす
ねぬよほとふるーありあけのそら

【文明年間百韻３４巻】／ｘｘ［つきをかせ］／文明 12(1480) 年 8 月

鳴く時鳥（なくほととぎす）

→有明の月（ありあけのつき）

やまよりやまにーなくほとときす
ありあけのーつきはくもまにーかけみえて

【天正年間百韻５７巻】／何路［かすむよの］／天正 6(1578) 年 2 月 18 日

くさのまくらにーなくほとときす
ありあけのーつきをなこりのーよはのゆめ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

→月は有明（つきはありあけ）

ほとときすーはなのなかはにーきてもなけ
つきはありあけのーおほろなるころ

【弘治三年春雪千句】／何衣［なくきしの］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

たかかたのーあめになくらむーほとときす
つきはありあけのーなつのよのそら

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→花盛り（はなざかり）

まくらのくもにーなくほとときす
のをひろみーやとかるかけのーはなさかり

【紹巴亡父追善千句】／玉何［はるよたた］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日〜晦日

なくほとときすーほのかなるそら
くももきをーうつむはかりのーはなさかり

【弘治三年春雪千句】／初何［けさみれは］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

→雨注ぎ（あまそそぎ）

はるはよのまをーなくほとときす
やよひはたーけふにつきぬるーあまそそき

【嵯峨千句】／山何［いけみつの］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日〜11 日

くもよりをちにーなくほとときす
はなにそへーたそかれをしきーあまそそき

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

鳴け時鳥（なけほととぎす）

→雨過ぎる（あめすぎる）

なけほとときすーよをまたすとも
くもふかきーなつやまかけにーあめすきて

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うのはなは］／永享 9(1437) 年 4 月 25 日

つきかたふきぬーなけほとときす
たちいつるーくさのいほりのーあめすきて

【永禄年間百韻２８巻】／何木［きりのはの］／永禄 5(1562) 年 7 月 4 日

→雲迷う（くもまよう）

ひもゆふかけにーなけほとときす
くもまよふーかたはあめにやーむかふらむ

【因幡千句】／何草［ふるゆきは］／文明7(1475) 年 11 月 26 日<～28 日>

なけほととぎすーすきのひとむら
くもまよふーこすゑのうへにーあめみえて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

→短夜（みじかよ）

なけほととぎすーひとこゑの□□
にしにゆくーこころのつきのーみしかよに

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

かかるをりふしーなけほととぎす
うたたねの―ゆめのうきはしーみしかよに

【春夢草／書陵部本】／夏／永正 12(1516) 年、13 年

時鳥（ほととぎす）

→暁の空（あかつきのそら）

ほととぎすーくもをしはしのーやとりにて
くさのまくらのーあかつきのそら

【文明十四年万句５２巻】／玉何［ゆきならは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひとこゑとーききしはかへるーほととぎす
われもたひよそ―あかつきのそら

【文明十四年万句５２巻】／何木［すゑのつゆ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→曙の空（あけぼののそら）

つきのこるーかたのやゆくへーほととぎす
さみたれすくるーあけほののそら

【飯盛千句】／一宇露顕［つきのこる］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

ほととぎすーなくかたちかきーはるのくれ
あめになりたるーあけほののそら

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄 2(1593) 年 5 月 27 日

→明けやすい頃（あけやすいころ）

あつまちやーかりねにききしーほととぎす
くさのまくらもーあけやすきころ

【浜宮千句】／□□［いつのまに］／

ほととぎすーいつくのさともーまたるへし
そらゆくつきのーあけやすきころ

【寛正年間百韻２０巻】／何人［とほくきて］／寛正 6(1465) 年 3 月 6 日

→雨の寂しさ（あめのさびしさ）

ひとこゑはーつれなくつらきーほととぎす
すきのこすゑのーあめのさひしさ

【永正年間百韻３４巻】／何色［うゑてみぬ］／永正 6(1509) 年閏 8 月 29 日

やよひこそ―なへてまつなれーほととぎす
このさとのみかーあめのさひしさ

【弘治年間百韻８巻】／何人［うのはなの］／弘治 2(1556) 年 4 月 27 日

→雨の徒然（あめのつれづれ）

ひとこゑをーいくつてならしーほととぎす
かたれはかたるーあめのつれつれ

【宮島千句】／何路［つきやけさ］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

ほととぎすーゆふへのはるにーおとつれて
かすむいほりの―あめのつれつれ

【毛利千句】／何路［はなにふく］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

→月の有明の頃（つきのありあけのころ）

まちまちてーこゑめつらしきーほととぎす
みやこのつきのーありあけのころ

【称名院追善千句】／白何［かねのこゑ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

ほととぎすーみやこのそらにーききそめて
つきこそあらめーありあけのころ

【天文年間百韻３８巻】／何人［かりなきて］／天文 21(1552) 年 9 月 2 日

→有明の空（ありあけのそら）

しのひねもーなかはやよひのーほとときす
かすみにひとりーありあけのそら

【永正年間百韻３４巻】／何船［かへるかり］／永正 16(1519) 年 2 月 19 日

うきなみたーいさくらへてむーほとときす
つれなきをまつーありあけのそら

【寛文年間百韻２２巻】／□□［たれもきけ］／寛文 13(1673) 年 6 月 29 日

→有明の月（ありあけのつき）

やよひよりーまちこそならへーほとときす
はなのくもまにーありあけのつき

【元亀二年千句】／朝何［あたにちる］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

またれてはーよをもかさねよーほとときす
つれなくのこるーありあけのつき

【菟玖波集／広島大学本】／夏／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

→池の藤浪（いけのふじなみ）

ほとときすーはるくれぬとやーいそくらむ
こすゑにほふーいけのふちなみ

【太神宮法楽千句】／玉何［あきとほし］／長享 2(1488) 年 7 月

ほとときすーむかしにかへるーねをなきて
うゑしこかけのーいけのふちなみ

【永禄年間百韻２８巻】／何路［はなにかり］／永禄 3(1560) 年 2 月 25 日

→面影に立つ（おもかげにたつ）

ひとこゑのーなこりたになきーほとときす
ゆめのゆくゑはーおもかけにたつ

【太神宮法楽千句】／何木［いつそめし］／長享 2(1488) 年 7 月

あまひこやーこすゑのはるのーほとときす
かすみそにはのーおもかけにたつ

【皇学館文庫本千句】／□□［まつかせに］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

→片敷の袖（かたしきのそで）

はるのよもーまたぬにはあらぬーほとときす
のはわかくさをーかたしきのそて

【永禄元年花千句】／□□［あたりまて］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

ほとときすーなきていつくのーそらならむ
あやめにかをるーかたしきのそて

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

→帰るさの道（かへるさのみち）

ほとときすーたれかいそかぬーこゑならむ
わかおもふかたのーかへるさのみち

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

はるこそとーはつねまたるれーほとときす
みなみまつりのーかへるさのみち

【毛利千句】／一字露顕［なつのひも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

→香る橘（かおるたちばな）

ひとこゑをーみやこのそらのーほとときす
たかのきはよりーかをるたちはな

【毛利千句】／何船［みてもおもふ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

ほとときすーさそはぬあめのーくものまに
ぬるとしもなくーかをるたちはな

【永正年間百韻３４巻】／何木［いろはふちの］／永正 8(1511) 年 4 月 6 日

ひとこゑやーこのまのつきのーほとときす
ゆめのなこりにーかをるたちはな

【大永三年月並千三百韻】／□□［ひとこゑや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 4 月 23 日

→草の庵（くさのいお）

さひしきはーとほくなりぬるーほとときす
くさのいほりにーきくはむらさめ

【文明十四年万句５２巻】／村何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひとつてもーたたにおもはしーほとときす
くさのいほりの―あめのさよなか

【天文年間百韻３８巻】／山何［ふむあとも］／天文 13(1544) 年 10 月 15 日

さみたれのーはれままちいてしーほとときす
くさのいほりのーとさしひらける

【天正年間百韻５７巻】／何船［すましみは］／天正 13(1585) 年閏 8 月 12 日

なつきてもーいかにつれなきーほとときす
くさのいほりのーゆふへあけほの

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかたけを］／文禄 2(1593) 年 5 月 20 日

→雲の遠方（くものおちかた）

ほとときすーよそにのきはのーくれもうし
やまほのかなるーくものをちかた

【表佐千句】／何木［くれかたき］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

しのひねにーこゑををしむかーほとときす
わかはになひくーくものをちかた

【天正四年万句７０巻】／何文［しのひねに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→五月雨の頃（さみだれのころ）

たちはなのーちきりわするなーほとときす
うちのこしまのーさみたれのころ

【享徳二年千句】／三字中略［はらへかせ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

おもひいててーふるきみやこのーほとときす
くらしかたくもーさみたれのころ

【住吉千句】／山何［そめさらは］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

やまとほくーこゑまきれゆくーほとときす
あとさきみえぬーさみたれのころ

【文明十四年万句５２巻】／何船［みつとりか］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

やすらはてーいつちゆくらむーほとときす
ひとりわひぬるーさみたれのころ

【文明十五年千句１１巻】／何舟［かけたかし］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

やまもりや―なれてきくらむーほとときす
かはのむかひのーさみたれのころ

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

おのつからーなくねまれなるーほとときす
おもへはひさしーさみたれのころ

【園塵第二／続群書類従本】／夏／明応 4(1495) 年早春

→茂る梢（しげるこずえ）

よこくものーわかれてとほきーほとときす
しけるこすゑのーつきかすかなり

【永禄元年花千句】／□□［みるままに］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

ほとときすーなけはみしよのーつきもなし
しけるこすゑの―あめはるるやま

【天文年間百韻３８巻】／何路［ほとときす］／天文 24(1555) 年 4 月 10 日

→杉の梢（すぎのこずえ）

ひとこゑはーつれなくつらきーほとときす
すきのこすゑのーあめのさひしさ

【永正年間百韻３４巻】／何色［うゑてみぬ］／永正 6(1509) 年閏 8 月 29 日

なやここにーとほきやまたのーほとときす
すきのこすゑの―みしかよのつき

【天文年間百韻３８巻】／何人［なやここに］／天文 4(1535) 年 5 月 1 日

→過ぎる村雨（すぎるむらさめ）

あかしかたーふねとめられしーほとときす
なみよりそらもーすくるむらさめ

【天文年間百韻３８巻】／何人［かすむよは］／天文 23(1554) 年 3 月 26 日

うたたねのーまくらやさそふーほとときす
こすのとちかみーすくるむらさめ

【天正年間百韻５７巻】／何人［みれはみし］／天正 12(1584) 年 9 月 13 日

ほとときすーまつよのしはしーのこれかしかりねのやとにーすくるむらさめ

【文明十二年千句８巻】／何路［よものなつ］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

ほとときすーつれなきよひのーそらたのめくもたちかへりーすくるむらさめ

【文明十五年千句１１巻】／何路［あさつゆの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

→注ぎ捨てる（そそぎすてる）

はるなからーなきいてけりなーほとときすそそきすてたるーあまりおとする

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［わけゆかは］／天正 4(1576) 年 8 月 19 日

ひとこゑをーまつにつれなきーほとときすそそきすてたるーあめのうきくも

【天正年間百韻５７巻】／何船［あをやきは］／天正 13(1585) 年 1 月 28 日

ひとこゑのーなこりもあらめーほとときすそそきすてたるーむらさめのそら

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なつはたた］／寛文 13(1673) 年 6 月 1 日

→今際と月が傾く（いまわとつきがかたむく）

しのひねをーかすみにもらせーほとときすいまはとまてはーつきそかたふく

【文安月千句】／何水［つきぬなは］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

みしかよにーこゑなをしみそーほとときすなこりいまはとーつきそかたふく

【文明年間百韻３４巻】／何人［よるはつき］／文明 18(1486) 年 2 月 6 日

→月の寂しさ（つきのさびしさ）

とほやまのーくもをわかるるーほとときすあかつきかたのーつきのさひしさ

【聖廟千句】／二字返音［よにひとき］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

はつこゑをーやとにまたるるーほとときすうちむかひぬるーつきのさひしさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［つゆにみを］／慶長 9(1604) 年 6 月 28 日

→匂う橘（におうたちばな）

さとわけてーここにやすらへーほとときすひときもとほしーにほふたちはな

【文明年間百韻３４巻】／□□［はたはりや］／文明 14(1482) 年 9 月

ひとこゑやーはやましけやまーほとときすしたかせとほくーにほふたちはな

【天文年間百韻３８巻】／何路［ひとこゑや］／天文 14(1545) 年 5 月 8 日

ほとときすーなれもたひなるーしのひねにさきそめつつもーにほふたちはな

【天和年間百韻２巻】／□□［つきになほ］／天和 2(1682) 年 3 月 27 日

→軒の橘（のきのたちばな）

またてみよーまつにはつらきーほとときすとはさらめやのーのきのたちはな

【宮島千句】／玉何［はるといへは］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

ことつてむーこたへもかもなーほとときすむかしをしのふーのきのたちはな

【称名院追善千句】／山何［ことつてむ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

をちかへりーなかはみやこそーほとときすみすはみとりのーのきのたちはな

【明応年間百韻２２巻】／何人［あさかすみ］／明応 4(1495) 年 1 月 6 日

なくやいつれーこそのねさめのーほとときすかけをしのふのーのきのたちはな

【天文年間百韻３８巻】／山何［なくやいつれ］／天文 24(1555) 年 5 月 14 日

→軒の橘（のちのたちばな）

ほとときすーしのふのやまにーたへわひて
みるひとやたれーのきのたちはな

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

おもかけはーきのふのはなにーほとときす
むかしおほゆるーのきのたちはな

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

→花橘（はなたちばな）

むらさめのーそらそとたのむーほとときす
はなたちはなにーつゆかをるやと

【新撰菟玖波集／実隆本】／夏／明応4(1495) 年 9 月 26 日

なのらぬはーしふねきりやうかーほとときす
はなたちはなにーまとふくちなは

【正章千句１１巻】／正章千句　第四［なのらぬは］／正保 4(1647) 年 11 月

ほとときすーつれなきうちにーまたやねむ
はなたちはなのーうつろへるくれ

【河越千句】／白何［はるかせに］／文明2(1470) 年正月 10〜12 日

なきすつるーつきはすむよのーほとときす
はなたちはなのーつゆにほふやと

【永原千句】／何色［うつろはぬ］／明応9(1500) 年 7 月 17 日

きのふかも―なきつとききしーほとときす
はなたちはなの―あめかをるそら

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

こころとやーなくねをしまぬーほとときす
はなたちはなのーちりまかふさと

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

ききふりてーなほあかなくにーほとときす
はなたちはなのーやとをわするな

【菟玖波集／広島大学本】／夏／文和5(1356) 年冬〜翌年の春

→舟差し止める（ふねさしとめる）

ほとときすーこゑさたかにもーなきすてて
ふねさしとむるーよとのかはつら

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

つゆのまのーやとりにきなけーほとときす
ふねさしとむるーいそやまのかけ

【天正四年万句７０巻】／竹何［まつほとや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

→短夜の空（みじかよのそら）

たひひとのーやとをはしのへーほとときす
かりねのつきのーみしかよのそら

【天正年間百韻５７巻】／□□［たひひとの］／天正 17(1589) 年 4 月 7 日

まつとしる―たよりもかもなーほとときす
むらさめすくるーみしかよのそら

【文禄二年千句１０巻】／山何［まつとしる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日〜10 日

→村雨過ぎる（むらさめすぎる）

ほとときすーちこゑはあきのーみやまかな
むらさめすくるーまきのしたつゆ

【文明十四年万句５２巻】／何国［ほとときす］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

まつとしる―たよりもかもなーほとときす
むらさめすくるーみしかよのそら

【文禄二年千句１０巻】／山何［まつとしる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日〜10 日

→村雨がふる（むらさめがふる）

ほとときす―まてはつれなきーなつのよに
ころもてしめり―むらさめそふる

【顕証院会千句】／何田［あきくさは］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日〜21 日

はなのゆくへーおもひしをれはーほとときす
かはみつとほくーむらさめそふる

【浜宮千句】／□□［ちりうせぬ］／

→村雨の雲（むらさめのくも）

まつかたにーこのみねこえよーほととぎす
やまをはなれぬーむらさめのくも

【三島千句】／何衣［はなにつき］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

なこりをもーおもはてゆくかーほととぎす
のきのとやまのーむらさめのくも

【天文十八年梅千句】／一字露顕［にはをはるに］／天文 18(1549) 年正月 11 日

ほととぎすーたよりすくすなーとはかりに
やすらふそらはーむらさめのくも

【皇学館文庫本千句】／□□［はなさけは］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

たかかたにーききはそめけむーほととぎす
けしきはかりのーむらさめのくも

【天正年間百韻５７巻】／何路［いろもかも］／裏白／天正 14(1586) 年 1 月 3 日

→村雨の空（むらさめのそら）

ほととぎすーわかまつほとやーしらさらむ
やかてはれぬるーむらさめのそら

【文明年間百韻３４巻】／何船［とふひとに］／文明 13(1481) 年 2 月 24 日

なきわたれーみねのあなたのーほととぎす
くものゆくへやーむらさめのそら

【寛文年間百韻２２巻】／□□［むかしおもふ］／寛文 10(1670) 年 2 月 7 日

ひとこゑのーなこりもあらめーほととぎす
そそきすてたるーむらさめのそら

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なつはた］／寛文 13(1673) 年 6 月 1 日

→山の夕暮れの空（やまのゆうぐれのそら）

しるらめやーおもふむかしをーほととぎす
やますみふかきーゆふくれのそら

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

こととふはーこころやはなきーほととぎす
まちかねやまのーゆふくれのそら

【永正年間百韻３４巻】／山何［たちはなに］／永正 18(1521) 年 5 月 7 日

→眺める夕暮れの空（ながめるゆうぐれのそら）

ほととぎすーまたれぬはるのーつきいてて
なかめをうつすーゆふくれのそら

【弘治年間百韻８巻】／何路［ゆくみつや］／弘治 2(1556) 年 3 月 24 日

こころあらむーあたりにきなけーほととぎす
なかめなれたるーゆふくれのそら

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

→夢か現か（ゆめかうつつか）

まてしはしーみねこすくものーほととぎす
さむるまくらはーゆめかうつつか

【飯盛千句】／何衣［つきいてて］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

いかにねてーこよひはきかむーほととぎす
きのふをこそのーゆめかうつつか

【寛正年間百韻２０巻】／唐何［せみのはの］／寛正 4(1463) 年 6 月 23 日

わかこころーありあけかたのーほととぎす
ゆめかうつつかーいにしへのひと

【大永年間百韻１巻】／何路［いつのよも］／大永 5(1525) 年 4 月 15 日

まちてのみーなつをおくりしーほととぎす
ゆめかうつつかーさめてわひしき

【天正四年万句７０巻】／何水［むしのねや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→遠方の遠山（おちのとおやま）

ふなちにもーきくひはあれなーほととぎす
むらさめわたるーをちのとほやま

【享徳年間百韻４巻】／何路［さくふちの］／享徳 2(1453) 年 3 月 15 日

ほのかにてーうちすきましやーほととぎす
なかめおよはぬーをちのとほやま

【永正年間百韻３４巻】／何人［みちしあれや］／永正 2(1505) 年 1 月 1 日

→草の枕の暁（くさのまくらのあかつき）

ほととぎす―くもをしはしのーやとりにて
くさのまくらの―あかつきのそら

【文明十四年万句５２巻】／玉何［ゆきならは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ほととぎすーなれもたひとやーまよふらむ
くさのまくらのーあめのあかつき

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

→倉橋山（くらはしやま）

きかはやなーひとこゑなりとーほととぎす
くらはしやまにーまよふさみたれ

【文明十四年万句５２巻】／錦何［つきひとつ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ほととぎすーとへははるこそーわかれけれ
くらはしやまにーさくらちるころ

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

つきをみはーおもかけにせむーほととぎす
くらはしやまの―あきのむらさめ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路［かすみかは］／成立時不詳

ほととぎすー□□ははるこそーわかれけれ
くらはしやまのーさくらちるころ

【宗砌関係９種】／宗砌発句並付句抜書／小松天満宮本／

→梢の藤の黄昏（こずえのふじのたそがれ）

ほととぎすーもよほされてやーすきつらむ
こすゑのふちのーはるのたそかれ

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

ほととぎすーそれならぬかとーなきすてて
こすゑのふちのーたそかれのいろ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／春／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

→枕苦しい（まくらくるしい）

みしかよのーそらにつれなきーほととぎす
まくらくるしき―このとまりふね

【文禄二年千句１０巻】／何木［うすきりや］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

ほととぎすーこゑをなきけつーすきむらに
まくらくるしきーなつのよからす

【春夢草／書陵部本】／夏／永正 12(1516) 年、13 年

時鳥鳴く（ほととぎすなく）

→なる

ほととぎすなくーくものをちかた
みしかよもーたれかねさめにーなりぬらむ

【文明十四年万句５２巻】／朝何［ひにそひて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ほととぎすなくーあとをこそみれ
むかしたかーうゑきのもりとーなりぬらむ

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

時鳥の一声（ほととぎすのひとこえ）

→春の鶯（はるのうぐいす）

かへるさをーいまひとこゑのーほととぎす
なこりやをしむーはるのうくひす

【皇学館文庫本千句】／□□［はなにいそき］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

ほととぎすーひとこゑをさへーまたせきて
ももさへつりはーはるのうくひす

【永禄年間百韻２８巻】／何垣［ねにかへる］／永禄 4(1561) 年 3 月 22 日

時鳥枕のいずち過ぎる（ほととぎすまくらのいずちすぎる）

→静かな雨（しずかなあめ）

ほととぎすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーうちそそくそら

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ほととぎすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーはるるくさふき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ききはみな］／裏白／寛永 4(1627) 年 1 月 3 日

待つ時鳥（まつほととぎす）

→短夜の月（みじかよのつき）

みゆらめやーこころのまつにーほととぎす
あかつきすめるーみしかよのつき

【天文年間百韻３８巻】／何船［みゆらめや］／天文 14(1545) 年 4 月 16 日

まちまちてーいつかはきかむーほととぎす
つきはいててもーみしかよのつき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねふかきや］／慶長 4(1599) 年 2 月 8 日

山の時鳥（やまのほととぎす）

→短夜の月（みじかよのつき）

ほととぎすーはなもまちけるーみやまかな
くれなはいてよーみしかよのつき

【初瀬千句】／何木［ほととぎす］／享徳元・2(1452) 年、4 月

なやここにーとほきやまたのーほととぎす
すきのこす忍の―みしかよのつき

【天文年間百韻３８巻】／何人［なやここに］／天文 4(1535) 年 5 月 1 日

山時鳥（やまほととぎす）

→明けやらない（あけやらない）

いくよまたるるーやまほととぎす
あめきけはーあけやすきころのーあけやらて

【天文廿年断簡千句】／□□［まつのよを］／天文 20(1551) 年 6 月 10 日～12 日

くもよりいつるーやまほととぎす
すゑとほくーかりねせしののーあけやらて

【永禄石山千句】／初何［しらかしの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

→浅緑（あさみどり）

きくやおもかけーやまほととぎす
うつし忍のーあともこす忍のーあさみとり

【大永四年月並千二百韻】／□□［うくひすの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 2 月 23 日

うへなくときかーやまほととぎす
あさみとりーはるののこりのーはなさきて

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

→雨晴れる（あめはれる）

まかふやくもちーやまほととぎす
ゆふなみにーうらつたひするーあめはれて

【大永三年月並千三百韻】／□□［たちはなに］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 5 月 23 日

やまほととぎすーゆふへとふやと
こすまけは―つきはあらはすーあめはれて

【元和年間百韻２４巻】／□□［えそすきぬ］／元和 8(1622) 年 4 月 13 日

→有明（ありあけ）

はるををしめはーやまほととぎす
なこりなほーおほろつきよのーありあけに

【住吉千句】／初何［さよしくれ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

さつきすきゆくーやまほととぎす
みしかよのーくもまわかれぬーありあけに

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

まつにもなかぬ―やまほととぎす
ありあけに―なるへきつきはーおそくして

【称名寺連歌３巻】／ｘｘ［つきはあき］／正慶元 (1332) 年 9 月 13 夜

よふかきいほのーやまほととぎす
かりまくらーさそはれいつるーありあけに

【延徳年間百韻１６巻】／何路［うめかかの］／延徳 4(1492) 年 1 月 23 日

はるもおもはしーやまほととぎす
いるかたはーかすみもうすきーありあけに

【弘治年間百韻８巻】／何人［ときはなる］／弘治 3(1557) 年 8 月 28 日

→片岡の杜（かたおかのもり）

みやこはとほきーやまほとときす
かたをかのーもりくるあめにーたちぬれて

【難波田千句】／□□［あくるよを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

はつねめつらしーやまほとときす
かたをかのーもりのこかけにーたたすみて

【浜宮千句】／□□［こちふかは］／

→木の下（このもと）

たひにはつれよーやまほとときす
かへるやとーいふひとはなきーこのもとに

【池田千句】／何路［はなはしるや］／永正 7(1510) 年春以前<永正 5 年春>

みやこうつろふーやまほとときす
このもとにーはなたちはなのーかをとめて

【秋津洲千句】／初何［はなならし］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

ひとこゑまてやーやまほとときす
このもとにーいさやすすまむーなつのみち

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［うめかかの］／成立時不詳

→春過ぎる（はるすぎる）

やまほとときすーきなけこのころ
ときわかぬーたににははるやーすきぬらむ

【享徳二年千句】／何玉［くらからぬ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

あとはおとはのーやまほとときす
むらさめやーこすゑはるかにーすきぬらむ

【伊庭千句】／白何［けさやはる］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

→花橘（はなたちばな）

やまほとときすーあやなひとこゑ
さかりなるーはなたちはなのーあさゆふに

【伊予千句】／唐何［うつせみの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

みやこうつろふーやまほとときす
このもとにーはなたちはなのーかをとめて

【秋津洲千句】／初何［はなならし］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

くものむかひのーやまほとときす
ふきすくるーはなたちはなのーゆふかせに

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

→花散る（はなちる）

わかさとうときーやまほとときす
かへるにはーしかむかけなきーはなちりて

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

やまほとときすーなほそまたるる
かりそめにーやとるいほりのーはなちりて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

→短夜（みじかよ）

さつきすきゆくーやまほとときす
みしかよのーくもまわかれぬーありあけに

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かけたにとめよーやまほとときす
みしかよのーつきもいまはたーみねこえて

【宮島千句】／何船［ちかしてふ］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

→村雨（むらさめ）

わすれぬつてのーやまほとときす
むらさめにーたちよるさくらーまたをりて

【三島千句】／御何［はるとほし］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こゑはまくらのーやまほとときす
さそはれてーすきゆくかせのーむらさめに

【弘治三年春雪千句】／山何［はなそとも］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

しのひあまるやーやまほとときす
むらさめのーすきけるくもにーよひふけぬ

【天文十八年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

またもきなかむーやまほととぎす
むらさめのーはるるあとよりーうちそそき

【天正年間百韻５７巻】／□□［ききわくや］／天正 18(1590) 年 10 月 8 日

→夜半の月

ゆくやいつくのーやまほととぎす
あらましのーねさめをさそへーよはのつき

【大永三年月並千三百韻】／□□［しくれのあめ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 10 月 23 日

まつとやおもふーやまほととぎす
さらにたたーまくらもとらぬーよはのつき

【天正年間百韻５７巻】／何路［なみこえて］／天正 9(1581) 年 2 月 3 日

→舟に明石の泊

やまほととぎすーゆくもうらみし
ふねにこよひーあかしのとまりーこきわかれ

【東山千句】／何人［つきやしる］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

やまほととぎすーひとこゑのそら
ふねよせてーあかしのとまりーいてかてに

【名所句集／静嘉堂文庫本】／旅／（大永前後）

→鶯

たえにしのちのーやまほととぎす
うくひすのーこゑをへたつるーなつはきて

【天文年間百韻３８巻】／何路［ひもすし］／天文 11(1542) 年 6 月 12 日

いまはといつるーやまほととぎす
うくひすのーかへるたにのとーはるくれて

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

→橘

おとつれすてしーやまほととぎす
たちはなのーいくやとことにーにほふらむ

【元和年間百韻２４巻】／□□［としとしに］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

よかれかちなるーやまほととぎす
たちはなのーはなちるつきはーありあけに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

きけはほのかにーやまほととぎす
たちはなのーにほふまくらをーそはたてて

【合点之句／神宮文庫本】／夏／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→花咲く

うへなくときかーやまほととぎす
あさみとりーはるののこりのーはなさきて

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

やまほととぎすーくもになくなり
とほきののーひともとあさちーはなさきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／夏／永正 6(1509) 年以前

→花橘

やまほととぎすーこゑものこすな
そてかをるーはなたちはなにーかせすきて

【老葉／毛利本】／夏／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

やまほととぎすーこゑものこさす
そてかをるーはなたちはなにーかせすきて

【愚句老葉】／夏／永正 17 年

つきおちかかるーやまほととぎす
まくらかのーはなたちはなにーめはさめて

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→春暮れる

かたふくつきのーやまほととぎす
はなもいまーむかひのみねのーはるくれて

【天文年間百韻３８巻】／何木［あすのなを］／天文 17(1548) 年 8 月 14 日

かつこえきてのーやまほととぎす
あふさかのーおとはのこすゑーはるくれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

いまはといつるーやまほとときす
うくひすのーかへるたにのとーはるくれて

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

まつよつもれるーやまほとときす
はなはたたーきのふのゆめのーはるくれて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

→峰越(みねこえ)える

かけたにとめよーやまほとときす
みしかよのーつきもいまはたーみねこえて

【宮島千句】／何船［ちかしてふ］／天文20(1551) 年 5 月 9 日〜11 日

なけむらくものーやまほとときす
さみたれのーなこりすすしくーみねこえて

【園塵第三／続群書類従本】／夏／文亀元(1501) 年 3 月 18 日

行(ゆく)時鳥(ほととぎす)

→空(そら)

まつたれをわきーゆくほとときす
いつこかはーさみたれそめぬーそらならむ

【宮島千句】／白何［ゆふへより］／天文20(1551) 年 5 月 9 日〜11 日

おとつれそめてーゆくほとときす
ねさめはたーたれもひとしきーそらならむ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

別(わける)時鳥(ほととぎす)

→寝覚(ねざめ)めの暁(あかつきの)の山(やま)

ほとときすーひとをわかてやーすきぬらむ
ねさめひとりのーあかつきのやま

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜〜11 日＞

おもふをはーわきてかたらへーほとときす
ふかきねさめのーあかつきのやま

【東山千句】／何路［のわきせし］／永正15(1518) 年 8 月 10 日〜12 日

ほど

程(ほど)が知(しら)られる

→言(いい)いしばかり(しば)に秋(あき)

さひしさなれぬーほとそしらるる
つきはたたーいひしはかりにーあきくれて

【宗長追善千句】／何色［うくひすの］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

はるにつれなきーほとそしらるる
このくれとーいひしはかりにーあきかけて

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

ほのか

月(つき)がほのめく

→秋風(あきかぜ)

やまをしみれはーつきそほのめく
あきかせにーくさのとほそをーたちいてて

【永原千句】／千何［ひととせは］／明応9(1500) 年 7 月 17 日

ふかきみねよりーつきそほのめく
いはかねわーかりねのとこのーあきかせに

【大永四年月並千二百韻】／□□［うのはなの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 4 月 23 日

仄(ほのか)か

→秋の初風(あきのはつかぜ)

ゆふつくよーなかむるかけもーほのかにて
おほえぬはかりーあきのはつかせ

【池田千句】／唐何［つゆかけて］／永正7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

なかそらにーくるれはつきのーほのかにて
ふきたちけりなーあきのはつかせ

【毛利千句】／何船［みてもおもふ］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

→所々(ところどころ)

このしたのーはたやくかたはーほのかにて
ところところにーまきしあはれさ

【称名院追善千句】／山何［ことつてむ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

ふゆたにもーひつしのすゑの―ほのかにて
ところところにーしろきはつしも

【羽柴千句】／初何［ふしたては］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

仄かな霧（ほのかなきり）

→衣打つ音（ころもうつおと）

ほのかにもーふしみのかたはーきりこめて
たえたえさひしーころもうつおと

【称名院追善千句】／何路［いるかたの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

ほのかにもーへたてしさとのーきりはれて
そともあらはにーころもうつおと

【寛正年間百韻２０巻】／何船［はなおもき］／寛正 2(1461) 年 11 月 22 日

松虫ほのめく（まつむしほのめく）

→秋の涼しさ（あきのすずしさ）

まつむしのーゆふかけちかくーほのめきて
かせのまにまにーあきのすすしさ

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年 6 月 15 日

まつむしのーこゑほのめかすーのはくれて
つゆのみたれもーあきのすすしさ

【天文年間百韻３８巻】／何人［うつせよに］／天文 21(1552) 年 2 月 23 日

ほん

梅の一本（うめのひともと）

→鶯（うぐいす）

さきそめにけむーうめのひともと
うくひすのーうちはふきくるーそののうち

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

やつれてにほふ―うめのひともと
うくひすの―いくはるとなきーこゑおいて

【大永三年月並千三百韻】／□□［やまいくへ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 8 月 23 日

こしけきなかのーうめのひともと
うくひすのーうちはふきたるーこゑすなり

【天正年間百韻５７巻】／初何［はるたちて］／裏白／天正 12(1584) 年 1 月 3 日

菊の一本（きくのひともと）

→山人（やまびと）

しものそこなるーきくのひともと
やまひとのーすむあといかにーたつねまし

【天文廿年断簡千句】／□□［つけのこせ］／天文 20(1551) 年 6 月 10 日～12 日

ちくさしをれてーきくのひともと
やまひとの―すみかはここと―ものふるく

【長禄三年千句１１巻】／何鳥［ふかくふる］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

はやちりそむるーきくのひともと
やまひとの―すさみいかなるーころならむ

【天正四年万句７０巻】／朝何［なみよする］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

花の一本（はなのひともと）

→春暮れる（はるくれる）

おそきものこるーはなのひともと
しらさりし―みやまをとへはーはるくれて

【文明年間百韻３４巻】／何人［ちきりあれや］／文明 14(1482) 年 3 月 20 日

まきのはしのくーはなのひともと
とりのねも―そこはかとなくーはるくれて

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆきふかき］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 11 月 23 日

松の一本（まつのひともと）

→美濃の小山（みののおやま）

あきをふるやのーまつのひともと
つゆやもるーみののをやまのーふはのせき

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

たてるもさひし－まつのひともと
さきのけの－みののをやまの－ゆきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

たてるさひさし－まつのひともと
さきのけの－みののをやまの－ゆきのくれ

【宗砌関係 9 種】／宗砌句集／大阪天満宮本／

山本（やまもと）

→誰が越える（だれがこえる）

やまもとの－さともわかれす－きりこめて
くるるまかきを－たれかこゆらむ

【宝徳四年千句】／山何［みにしむは］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

やまもとの－のわきのあとの－しかのこゑ
をのへのみちは－たれかこゆらむ

【永正年間百韻 3 4 巻】／何人［はなのきも］／永正 7(1510) 年 4 月 1 日

山本の里（やまもとのさと）

→掛橋（かけはし）

なかはかすみの－やまもとのさと
かけはしは－のきはのみねに－よこたはり

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

いつくなるらむ－やまもとのさと
かけはしは－ふむあともなく－くちはてて

【慶長年間百韻 2 7 巻】／□□［つゆにみを］／慶長 9(1604) 年 6 月 28 日

ま

風のまにまに（かぜのまにまに）

→暮れる日（くれるひ）

ちりもあくたも－かせのまにまに
おくれゆく－うしのあゆみの－くるるひに

【大原野十花千句】／何船［ひときつつ］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

かせのまにまに－つゆみたるらし
なみかへる－みきはのみちの－くるるひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

→浪返る（なみかえる）

かせのまにまに－つゆみたるらし
なみかへる－みきはのみちの－くるるひに

【元亀二年千句】／何袋［ふるさとと］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

つゆのたまちる－かせのまにまに
なみかへる－まさこにうつる－つきのくれ

【寛文年間百韻 2 2 巻】／□□［さそなおく］／寛文 13(1673) 年 7 月 28 日

浪の間に間に（なみのまにまに）

→寝覚めがち（ねざめがち）

おとはたた－なみのまにまに－しくれきて
ねさめかちなる－とまふきのうち

【嵯峨千句】／何路［あけほのの］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

なみのまにまに－ちとりむれたつ
とまふきに－ねさめかちなる－さよあらし

【寛文年間百韻 2 2 巻】／□□［なつなきは］／寛文 13(1673) 年 6 月 12 日

待つ間（まつあいだ）

→時鳥（ほととぎす）

まつとせしまに－よもきふのかけ
ほととぎす－はなたちはなに－かれはてて

【太神宮法楽千句】／白何［つゆなから］／長享 2(1488) 年 7 月

まつとせしまに－おくるはるあき
ほととぎす－きかぬひとよに－としをへて

【心敬関係 1 0 種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

まい

まいのそで
舞の袖

→おばしまのおく
欄干の奥

あしふみもーさすかよしあるーまひのそて
なこりをおもふーおはしまのおく

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

いりあやもーしたはれてまたーまひのそて
おもかけさたかーおはしまのおく

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［はなさかり］／天正 6(1578) 年 3 月 10 日

まえ

まえわたり
前渡り

→さとのくさかり
里の草刈り

ふえのねにーそれとはしるきーまへわたり
ふねにのりたるーさとのくさかり

【嵯峨千句】／何船［はるはゆきに］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

かすかにもーふえのねもらすーまへわたり
すみかやをちのーさとのくさかり

【寛永年間百韻１５巻】／□□［あさひかけ］／裏白／寛永 11(1634) 年 1 月 3 日

まがき

きりのまがき
霧の籬

→あけはなれる
明け離れる

きりのまかきのーひまそひにけり
のきちかきーやまはみるみるーあけはなれ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あつまやの］／文禄 2(1593) 年 5 月 6 日

きりのまかきのーあらはなりけり
みつおつるーかとたのつきのーあけはなれ

【元和年間百韻２４巻】／□□［むかしにや］／元和 5(1619) 年 7 月 24 日

まき

ふねのまきまき
文の巻々

→いかがしよう
如何しよう

なほおくふかきーふみのまきまき
とひよるもーしたしからぬはーいかかせむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

あたらやきぬるーふみのまきまき
すめらきのーさかなきよをはーいかかせむ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［よもにうつ］／寛文 10(1670) 年 8 月 29 日

まぎれる

まぎれない
紛れない

→のこる
残る

すくなるみちはーまきれさりけり
かかるよもーかしこきかなやーのこるらむ

【難波田千句】／□□［にしきにて］／文明 14(1482) 年 10 月前後

わひぬるひとのーまきれさりけり
いにしへはーまことあるにやーのこるらむ

【宗長追善千句】／山何［こほるるや］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

まく

すだれをまけばゆき
簾を巻けば雪

→よもすがら
夜もすがら

すたれをまけはーゆきしろきやま
よもすからーしくれしつきのーけさすみて

【弘治年間百韻８巻】／何船［たくそてに］／弘治 2(1557) 年 12 月 2 日

すたれをまけはーけさのうすゆき
よもすからーあらしをそてにーかたしきて

【成立不詳・宗養以前８巻】／朝何［なひくよや］／成立時不詳

まくら

秋の手枕（あきのたまくら）

→花薄（はなすすき）

かたはらさひしーあきのたまくら
ましるののーくすはかれはのーはなすすき

【文亀年間百韻４巻】／何人［まつこえし］／文亀 3(1503) 年 4 月 29 日

つゆこそのこれーあきのたまくら
やまとほくーつきはいるののーはなすすき

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

仮枕（かりまくら）

→古里の夢（ふるさとのゆめ）

わけのこすーくさはをむすふーかりまくら
みるやとたのむーふるさとのゆめ

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

はるけさやーおなしやまちのーかりまくら
まとろむほとのーふるさとのゆめ

【称名院追善千句】／何路［いるかたの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

かりまくらーかたしくつゆのーふかきのに
むすひもとめよーふるさとのゆめ

【成立不詳・宗養以前８巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

草枕（くさまくら）

→標置き出る道（しるべおきいづるみち）

くさまくらーゆめのつてさへーあくるよに
かねこそしるへーおきいつるみち

【天文年間百韻３８巻】／何木［しくるるか］／天文 19(1550) 年 8 月 25 日

にはとりのーこゑはきこえぬーくさまくら
つきをしるへにーおきいつるみち

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→聞けば嵐（きけばあらし）

くさまくらーあくへきころもーよをこめて
きけはあらしのーさはるまきのと

【寛正年間百韻２０巻】／何船［とりねむる］／寛正 6(1465) 年 12 月 14 日

くさまくらーかれのにそてをーしきわひて
きけはあらしのーしもをふくそら

【文明年間百韻３４巻】／□□［はなにくも］／文明 14(1482) 年 2 月 27 日

→長き夜の夢（ながきよのゆめ）

さらしなやーつゆけきさとのーくさまくら
われをはすてつーなかきよのゆめ

【河越千句】／何路［ひそさむき］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

わかやとはーはるかにあきのーくさまくら
かよふやいかかーなかきよのゆめ

【宮島千句】／玉何［はるといへは］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

→古里の夢（ふるさとのゆめ）

たゆますもーあらしふくよのーくさまくら
いつむすはましーふるさとのゆめ

【永正年間百韻３４巻】／玉何［ちりてわか］／永正 2(1505) 年 8 月 22 日

くさまくらーむすひかねてのーあさかすみ
なこりはわかぬーふるさとのゆめ

【永正年間百韻３４巻】／ｘｘ［なつころも］／永正 7(1510) 年 4 月 1 日

→夢の面影（ゆめのおもかげ）

あふひともーあらののはらのーくさまくら
つきをなこりのーゆめのおもかけ

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

さきたつやーあかつきちかきーくさまくら
したふもあはれーゆめのおもかけ

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

手枕の月（たまくらのつき）

→夢覚める

なみたにかかるーたまくらのつき
ものうかるーをののかりねにーゆめさめて

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

かたみかほなるーたまくらのつき
いにしへのーたたちかなしきーゆめさめて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

露の手枕

→女郎花

おきあかしたるーつゆのたまくら
なつかしやーやとかるのへのーをみなへし

【文安雪千句】／朝何［ゆきさそへ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

くるれはいととーつゆのたまくら
をみなへしーまねくをはなにーうちみたれ

【天文十八年梅千句】／何路［ふきよわる］／天文 18(1549) 年正月 11 日

新手枕

→恥交わす

にひたまくらは―ゆめかうつつか
はちかはす―なかこそのちはーしのはれめ

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

にひたまくらは―あくるたひたひ
はちかはす―こころふかさをーうらみわひ

【五吟一日千句】／三字中略［くもらさぬ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

野に仮枕

→片敷の夢

かりまくらーすそののかたにーかへなまし
いかにねてかはーかたしきのゆめ

【五吟一日千句】／初何［やまもいさ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

はかなしやーのかみのさとのーかりまくら
いふきおろしをーかたしきのゆめ

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

時鳥枕のいずち過ぎる

→静かな雨

ほととぎすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーうちそそくそら

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

ほととぎすーまくらのいつちーすきぬらむ
しつかにあめのーはるるくさふき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ききはみな］／裏白／寛永 4(1627) 年 1 月 3 日

枕定めない

→月を見る

まくらさためぬーなつのうたたね
うかれめはーおもはぬかたのーつきをみて

【看聞日記紙背５０巻】／片何［まつはあめ］／応永 32(1425) 年 7 月 25 日

まくらさためぬーあきのさひしさ
うたたねはーつらき□□□□ーつきをみて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何木［ゆくみつの］／成立時不詳

枕の上

→月のさやけさ

なかむれはーまくらのうへのーみねのくも
かねにおちくるーつきのさやけさ

【皇学館文庫本千句】／□□［よははなに］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

おきそふやーまくらのうへのーあきのしも
いたまもりいるーつきのさやけさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はなちれは］／慶長 4(1599) 年閏 3 月 21 日

枕の夢

→雁の声

まくらのゆめをーさそふあきかせ
いつくともーおほえすとほきーかりのこゑ

【文明年間百韻３４巻】／□□［ゆきのかけ］／文明 5(1473) 年 12 月 5 日

まくらのゆめをーさますはるかせ
わかるるや―ありあけかたのーかりのこゑ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あめのひの］／文禄 2(1593) 年 5 月

→寝る時鳥（ねるほととぎす）

まくらのゆめにーさはるかのこゑ
ねぬるまをーうらみやすらむーほとときす

【行助関係４種】／行助句集／大阪天満宮本／

まくらのゆめにーつけやまつらむ
ぬるひとにーこゑをはをしめーほとときす

【萱草／伊地知本】／夏／文明 6(1474) 年 2 月以前

夢の仮枕（ゆめのかりまくら）

→月に幾度（つきにいくたび）

ならはすはーみえましゆめかーかりまくら
つきにいくたひーかけしふるさと

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何路［みねちかし］／成立時不詳

みしゆめのーのちもよなかきーかりまくら
つきにいくたひーとこのやまかせ

【天和年間百韻２巻】／□□［おいかみに］／天和 2(1682) 年 4 月 3 日

→武蔵野の原（むさしののはら）

ゆめちにもーゆきつつおなしーかりまくら
またみぬかたやーむさしののはら

【羽柴千句】／薄何［たちはなの］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

すゑいかにーみはてぬゆめのーかりまくら
あすもわくへきーむさしののはら

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

若草枕（わかくさまくら）

→秋更ける（あきふける）

わかくさまくらーうつらふすこゑ
とこさむきーたひにしあれはーあきふけて

【紫野千句】／何船［はれてたに］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

わかくさまくらーつきややつさむ
いたつらにーあかすよおほくーあきふけて

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

まさご

真砂原（まさごはら）

→言の葉の道（ことのはのみち）

いてふねのーあとしつかなるーまさこはら
ひとりたねなきーことのはのみち

【文明十四年万句５２巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

しらさきのーはをならへたるーまさこはら
なにをおもふもーことのはのみち

【文明十四年万句５２巻】／唐何［はなあはせ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

まつ

雨を待つ（あめをまつ）

→時過ぎる時鳥（ときすぎるほととぎす）

みなつきのそらのーあめやまつらむ
ときすきてーやすらふこゑのーほとときす

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

みなつきのそらのーあめやまつらむ
ときすくるーなこりやすらぬーほとときす

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

岩が根の松（いわがねのまつ）

→磯に舟に日暮れ

しつえなみよるーいはかねのまつ
あらいそのーふねひきつなくーひはくれて

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

ひとりかせふくーいはかねのまつ
いそつたひーあまのふねさすーひはくれて

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

心長く待て

→綱引く渡し舟

こころなかくもーわれにまてとや
わたしふねーむかひにつなをーひきすてて

【新撰菟玖波集／実隆本】／羇旅下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

こころなかくもーひとをこそまて
くるるまてーつなひきはふるーわたしふね

【北畠家連歌合／書陵部本】／北畠家連歌合／文明 2(1470) 年正月 6 日

住吉の松

→垣の八幡山

かけとちきるやーすみよしのまつ
みつかきのーひさしくなりぬーやはたやま

【伊庭千句】／三字中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

おひやかはれるーすみよしのまつ
かみかきにーすきのこたかきーやはたやま

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路〔かすみかは〕／成立時不詳

住吉の松と頼む

→徒浪が袖濡らす

すみよしのーまつとたのめしーかひもなく
なにあたなみのーそてぬらすらむ

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

すみよしのーまつとたのめしーほかにまた
なにあたなみのーそてぬらすらむ

【菟玖波集／広島大学本】／恋中／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

ただ松の風

→初時雨

ふりたるみやはーたたまつのかせ
さひしさはーかみなきつきのーはつしくれ

【河越千句】／何船［やまかせに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

あきのまくらはーたたまつのかせ
さをしかのーなくねにしるきーはつしくれ

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 5 月 23 日

誰を待つ

→夕べ

たまゆらのよにーたれをまつらむ
いのちこそ―ものおもはするーゆふへなれ

【宝徳四年千句】／唐何［さすはなや］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

をきふくかせにーたれをまつらむ
うきあきもーきみこそしらむーゆふへなれ

【老葉／書陵部宗訊筆本】／恋下／

→呼子鳥

はるゆくまてにーたれをまつらむ
みをつくすーこゑのかなしきーよふことり

【享禄年間百韻８巻】／懐旧［ゆふたちの］／享禄 5(1532) 年 6 月 8 日

はなのあるしのーたれをまつらむ
こえくれはーなほはなふかくーよふことり

【下草／龍谷大学本】／春／延徳 2(1490) 年～3 年春頃

月待つ

→変わる世の中

いててたにーくもの□□□□ーつきまちて
さためなやけに―かはるよのなか

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

ともしするーやまにはいとふーつきまちて
ひとのこころのーかはるよのなか

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人が待たれる

→恋しさ

かへさいそきしーひとそまたるる
こひしさはーうらみにこりぬーこころにて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［まつかせは］／成立時不詳

ちきりおかねとーひとそまたるる
こひしさはーみのならはしのーゆふへにて

【新撰菟玖波集／実隆本】／恋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

待つ間

→時鳥

まつとせしまにーよもきふのかけ
ほととぎすーはなたちはなにーかれはてて

【太神宮法楽千句】／白何［つゆなから］／長享 2(1488) 年 7 月

まつとせしまにーおくるはるあき
ほととぎすーきかぬひとよにーとしをへて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

松風が吹く

→雲浮く

こえむをのへはーまつかせそふく
くれわたるーそらにひとむらーくもうきて

【三島千句】／朝何［やまとほく］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こえくるみねはーまつかせそふく
むらさめのーなこりにしはしーくもうきて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

→憂い

みちくるしほにーまつかせそふく
とまりてもーふねやこころのーうかるらむ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

こころもしらすーまつかせそふく
ゆふくれやーこけのしたにもーうかるらむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→頼む

あらうみきははーまつかせそふく
あまをふねーなとこのきしをーたのむらむ

【三島千句】／山何［うくひすの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こころもしらすーまつかせそふく
ふけいつるーつきはくもをもーたのむらむ

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

松風の声

→月を見る

しつこころなきーまつかせのこゑ
つゆふかきーこはきかうへのーつきをみて

【文安月千句】／何船［つきはなを］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

またおとろくやーまつかせのこゑ
ふくるよのーねやにもりくるーつきをみて

【文明年間百韻３４巻】／□□［はたはりや］／文明 14(1482) 年 9 月

→花散る

さひしきやまのーまつかせのこゑ
みはやすをーまちあへぬまのーはなちりて

【天文年間百韻３８巻】／何木［あすのなを］／天文 17(1548) 年 8 月 14 日

よにとほやまのーまつかせのこゑ
たつねこしーひともあとなくーはなちりて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正 6(1509) 年以前

松の一群

→夜が明ける

しほひにたかきーまつのひとむら
とふかりのーかすもまきれすーよはあけて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［はるふかし］／成立時不詳

うらのとほきはーまつのひとむら
やまみえぬーなみのうへよりーよはあけて

【菟玖波集／広島大学本】／雑三／文和5(1356) 年 3 月 26 日

松の一本（まつのひともと）

→美濃の小山（みののおやま）

あきをふるやのーまつのひともと
つゆやもるーみののをやまのーふはのせき

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

たてるもさひしーまつのひともと
さきのけのーみののをやまのーゆきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明8(1476) 年 5 月頃

たてるさひさしーまつのひともと
さきのけのーみののをやまのーゆきのくれ

【宗砌関係９種】／宗砌句集／大阪天満宮本／

松の藤浪（まつのふじなみ）

→月出る（つきいでる）

はるちよかけよーまつのふちなみ
なかきひもーくるれはやかてーつきいてて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

はなまちえたるーまつのふちなみ
はるのよのーひかりをそふるーつきいてて

【文安年間百韻１巻】／夢想［おそさくら］／文安 2(1445) 年 3 月 18 日

→時鳥（ほととぎす）

なつをかけたるーまつのふちなみ
ほとときすーこのゆふつくよーほのめきて

【浅間千句】／何木［したふとや］／永正11(1514) 年 5 月 13 日〜19 日

こえてやたかきーまつのふちなみ
ここになくーこゑもくもゐのーほとときす

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［ちらぬより］／成立時不詳

ところところのーまつのふちなみ
またれぬるーこゑはやよひのーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［かすみけり］／天正 10(1582) 年 3 月 1 日

松吹く風（まつふくかぜ）

→散る花（ちるはな）

まつふくかせもーかすみはてけり
ちるはなのーにほひをはるのーなこりにて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

まつふくかせもーゆめはみせけり
ちるはなのーかをるまくらにーめもあはて

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

待つ時鳥（まつほととぎす）

→短夜の月（みじかよのつき）

みゆらめやーこころのまつにーほとときす
あかつきすめるーみしかよのつき

【天文年間百韻３８巻】／何船［みゆらめや］／天文 14(1545) 年 4 月 16 日

まちまちてーいつかはきかむーほとときす
つきはいててもーみしかよのつき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねふかきや］／慶長 4(1599) 年 2 月 8 日

松見える（まつみえる）

→帰る雁（かえるかりがね）

かすめともーつきまつやまはーまつみえて
くもちはるかにーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ふりかつけ］／応永 29(1422) 年【B】3 月 15 日

とほさとのーはなをへたつるーまつみえて
やまのはつかにーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

松を頼りに（まつをたよりに）

→立ち返る（たちかえる）

まつをたよりにーすめるしはのと
たちかへるーやとははしらのーくちのこり

【天正年間百韻５７巻】／□□［うくひすも］／天正 14(1586) 年 1 月 4 日

まつをたよりにーかこふしはかき
たちかへるーはるもこころもーわかやかに

【文明十四年万句５２巻】／二字反音［まつうきて］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

山の松風（やまのまつかぜ）

→柴の庵（しばのいお）

ふるさとよりのーやまのまつかせ
なかなかにーかこふそやすきーしはのいほ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なれてもさひしーやまのまつかせ
たれきてかーこころととめむーしはのいほ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→中々（なかなか）

ふるさとよりのーやまのまつかせ
なかなかにーかこふそやすきーしはのいほ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なれつつすめるーやまのまつかせ
なかなかにーこけのころもはーさむからて

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

まつむし

誰を松虫の鳴く（だれをまつむしのなく）

→訪う人も嵐の山の秋の暮れ（とうひともあらしのやまのあきのくれ）

あかつきたれをーまつむしのなく
とふひともーあらしのやまのーあきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

いまはたれをかーまつむしのなく
とふひともーあらしのやまのーあきのくれ

【行助関係４種】／行助句／伊地地本／

松虫が鳴く（まつむしがなく）

→草の原（くさのはら）

つゆのやとりにーまつむしのなく
くさのはらーあたなるいろにーうつろひて

【美濃千句】／何色［しくれつつ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

なにをまてとかーまつむしのなく
つきもはやーかけさすつゆのーくさのはら

【永原千句】／何木［おとそなき］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

→秋の暮れ（あきのくれ）

なれしはしるやーまつむしのなく
かりころもーいくつゆしものーあきのくれ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

あかつきたれをーまつむしのなく
とふひともーあらしのやまのーあきのくれ

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明 8(1476) 年 5 月頃

松虫の声（まつむしのこえ）

→嵐の山（あらしのやま）

あきといふあきはーまつむしのこゑ
たへてやはーあらしのやまのーつきのもと

【永正年間百韻３４巻】／述懐［なけくかな］／永正 8(1511) 年 1 月 21 日

したくさかるるーまつむしのこゑ
なにしおふーあらしのやまのーくれわたり

【文安頃千句４巻】／朝何［すゑとほき］／

→月の夜（つきのよ）

なれもたれをかーまつむしのこゑ
ふたりみしーかけもわすれぬーつきのよに

【文明十四年万句５２巻】／一字露顕［ちあきふる］／文明 14(1482) 年７月４日～９月 14 日

えらひかねたるーまつむしのこゑ
いつよりもーひかりさやけきーつきのよに

【天正四年万句７０巻】／何船［そらにまつ］／天正 4(1576) 年５月６日～7 月 19 日

→なる

いかなるときをーまつむしのこゑ
ちきりしもーいまやかれのとーなりぬらむ

【聖廟千句】／山何［ぬるとりの］／明応 3(1494) 年２月 10 日～12 日

はしゐになるるーまつむしのこゑ
うらかれのーのはらやさむくーなりぬらむ

【天正四年万句７０巻】／二字返音［かせやいろ］／天正 4(1576) 年５月６日～7 月 19 日

→群薄

なほふるさとのーまつむしのこゑ
さらてたにーたとりしみちのーむらすすき

【成立不詳・宗長以前１５巻】／名号［なかはひと］／成立時不詳

いろいろなれやーまつむしのこゑ
いつしかにーしけきそとものーむらすすき

【寛永年間百韻１５巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永 8(1631) 年１月３日

松虫ほのめく

→秋の涼しさ

まつむしのーゆふかけちかくーほのめきて
かせのまにまにーあきのすすしさ

【天文年間百韻３８巻】／何人［つきによる］／天文 5(1536) 年６月 15 日

まつむしのーこゑほのめかすーのはくれて
つゆのみたれもーあきのすすしさ

【天文年間百韻３８巻】／何人［うつせよに］／天文 21(1552) 年２月 23 日

まつり

大原祭り

→春の宮人

おほはらやーまつりのそてのーあまたにて
みゆきことなるーはるのみやひと

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるもこそ］／裏白／慶長 13(1608) 年１月３日

おほはらやーかみのまつりもーちかつきて
はなをりかさすーはるのみやひと

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年５月６日～7 月 19 日

祭りする神

→森の木隠れ

まつりせしーひもくれゆけはーかみさひて
みちはのこれるーもりのこかくれ

【永禄年間百韻２８巻】／追善［まれにとふ］／永禄元 (1558) 年 11 月５日

まつりせしーあとはいくかそーかみのまへ
くさうちしけるーもりのこかくれ

【文明十四年万句５２巻】／何紙［つゆはけさ］／文明 14(1482) 年７月４日～9 月 14 日

まど

心が窓の内

→灯の影

しつかなれーこころをしむるーまとのうち
かせふくよるのーともしひのかけ

【寛正年間百韻２０巻】／何人［ひはなかく］／寛正 3(1462) 年１月 25 日

いつおもひーたえむこころそーまとのうち
かかけてはまつーともしひのかけ

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

窓を開く

→夏衣

まとをひらけはーつきのありあけ
なつころもーいとひしもまたーみにふれて

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

まとをひらけはーかよふあきかせ
なつころもーうすきさへみにーいとはれて

【天正年間百韻５７巻】／□□［ゆふたちの］／天正 17(1589) 年 6 月 16 日

まどい

円居する（まどいする）

→袖の数々（そでのかずかず）

なかきひもーいりあやしたふーまとゐして
いろにくれぬるーそてのかすかす

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

ちれはさくーはなよりはなにーまとゐして
はるはこゆみのーそてのかすかす

【慶長年間百韻２７巻】／□□［あらしにも］／裏白／慶長 5(1600) 年 1 月 3 日

まぼろし

幻（まぼろし）

→心使い（こころづかい）

ゆきてとふなるーまほろしもかな
おもかけもーこころつかひにーなるかとよ

【文安雪千句】／花之何［ゆきふれは］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

おもひをつけむーまほろしもかな
こぬひとやーこころつかひにーかはるらむ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［このもとの］／成立時不詳

み

風が身にしみる（かぜがみにしみる）

→秋の空（あきのそら）

なみたしくれてーかせそみにしむ
なほさりとーおもふなひとのーあきのそら

【三島千句】／何木［やまかせに］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

よふかきやまのーかせそみにしむ
しくれせぬーねさめはいかにーあきのそら

【葉守千句】／何木［あらかりし］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

身にしみる（みにしみる）

→袖に掛ける（そでにかける）

みにしめてーおもふきよみかーいそまくら
なみのおとをもーそてにかけつつ

【紹巴亡父追善千句】／何木［おとろけと］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

みにしめてーわすれぬこそはーかたみなれ
ひとのなみたをーそてにかけつつ

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

→月さやか（つきさやか）

ことのねのーあかぬしらへをーみにしめて
おきゐてみれはーつきさやかなり

【飯盛千句】／何木［かすかのの］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

みつのえやーゆふへのあはれーみにしめて
よさのみなとのーつきさやかなり

【寛永年間百韻１５巻】／□□［ふたよあけて］／裏白／寛永 5(1628) 年 1 月 3 日

身の行方（みのゆくえ）

→明かし暮らす（あかしくらす）

いにしへにーまかせやせましーみのゆくへ
いたつらにやはーあかしくらさむ

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

たくふれはーかせまつつゆのーみのゆくへ
なかめてつきにーあかしくらさむ

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

身を思う（みをおもう）

→み吉野の奥（みよしののおく）

あれはあるーみともいつまてーおもふらむ
たえはやあとをーみよしののおく

【浅間千句】／白何［たますたれ］／永正11(1514) 年 5 月 13 日～19 日

すつるみもーはるはみやこやーおもふらむ
かすめはとほきーみよしののおく

【文明年間百韻３４巻】／何船［かせふかぬ］／文明 9(1477) 年 1 月 22 日

身を頼むな（みをたのむな）

→命（いのち）

いつくもかりのーみをなたのみそ
たれもよにーありははてしのーいのちにて

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

ゆふへのつゆのーみをなたのみそ
けさのまをーつきかけろふのーいのちにて

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ａ／

みぎ

左右（ひだりみぎ）

→心争う歌（こころあらそうた）

ふくふえにーあはするまひのーひたりみき
こころあらそふーうたのくちくち

【初瀬千句】／何衣［しけるとも］／享徳元・2(1452) 年、4 月

ゆるさるはーおなしくるまのーひたりみき
こころあらそふーうたのかちまけ

【文明十四年万句５２巻】／栗何［あけてみむ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

みじかい

短夜の月（みじかよのつき）

→時鳥（ほととぎす）

ありあけになるーみしかよのつき
ほとときすーなほしのひねのーつれなくて

【宝徳四年千句】／山何［みにしむは］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

こころをすますーみしかよのつき
ほとときすーまたるるそらにーかねなりて

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なつなきは］／寛文 13(1673) 年 6 月 12 日

あまりみしかきーみしかよのつき
なつかりのーあしのしのひのーほとときす

【天正四年万句７０巻】／何心［やまかけや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

短夜の夢（みじかよのゆめ）

→忍び妻（しのびづま）

むすふともなきーみしかよのゆめ
まちふけてーあふもほとなきーしのひつま

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

みるもすくなきーみしかよのゆめ
ふけてあふーわかれそはやきーしのひつま

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しもやいと］／応永 31(1424) 年 10 月 26 日

→難波の葦（なにわのあし）

とけてやはみるーみしかよのゆめ
かせそよくーなにはのあしのーかりまくら

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

おもかけをしきーみしかよのゆめ
あふほともーなにはのあしのーふしのまに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

みず

秋の沢水（あきのさわみず）

→鳴鳴く（しぎなく）

をふねさをさすーあきのさはみつ
やまかけのーとこさたまらぬーしきなきて

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／天文6(1537)年5月22日

しはふかくれのーあきのさはみつ
ゆふまくれーきりふるつきにーしきなきて

【文安年間百韻9巻】／何人［なもしらぬ］／文安4(1447)年8月19日

池水（いけみず）

→氷解け行く（こおりとけゆく）

いけみつのーつきかけあらふーやなきかな
こほりとけゆくーなみのあさかせ

【嵯峨千句】／山何［いけみつの］／（元亀4）天正元(1573)年正月9日～11日

いけみつのーささなみさそふーはるのかせ
いはまいはまのーこほりとけゆく

【慶長年間百韻27巻】／□□［はるさめも］／慶長9(1604)年10月6日

いさら井の水（いさらいのみず）

→明ける夜（あけるよ）

こほりのひまのーいさらゐのみつ
かはおとのーあめかときけはーあくるよに

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文24(1555)年正月7日

かすみにむせふーいさらゐのみつ
うくひすの―こゑするなかれーあくるよに

【大永四年月並千二百韻】／□□［うのはなの］／月並千二百韻／大永4(1524)年4月23日

懸樋に受ける水（かけいにうけるみず）

→ここかしこ

かけひにうくるーみつのまにまに
ここかしこーいはのはさまもーううるたに

【浜宮千句】／□□［ちりうせぬ］／

かけひにうくるーおほかはのみつ
ここかしこーなかれのすゑかーいせのうみ

【天正四年万句70巻】／下何［むらさきの］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

霞の内の水の水上（かすみのうちのみずのみなかみ）

→言問う（こととう）

かすみのうちのーみつのみなかみ
こととはむーいつくかはるのーみなとかは

【天文年間百韻38巻】／何人［はなのいろも］／天文14(1545)年2月25日

かすみにおつるーみつのみなかみ
はるくるるーうちのしはふねーこととはむ

【行助関係4種】／行助句集／書陵部本／文正元(1466)年（7月16日）

沢水の音（さわみずのおと）

→舟下す伏見（ふねくだすふしみ）

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【竹林抄／新古典文学大系本】／秋／文明8(1476)年5月頃

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【心敬関係10種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／文明7(1475)年4月16日以前

きけはさむけきーさはみつのおと
ふねくたすーふしみのつきのーふくるよに

【名所句集／静嘉堂文庫本】／秋／（大永前後）

つきもさひしきーさはみつのおと
ふねくたすーひともふしみのーえはふけて

【心敬関係10種】／吾妻辺云捨／天理本／

流れる水（ながれるみず）

→吉野川（よしのがわ）

なかるるみつのーととまらしとや
なみにはなーそをたにのこせーよしのかは

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元(1501)年3月18日

なかるるみつのーゆくへしらすや
かたとこそ－はなもきゆらめーよしのかは

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正6、7年

なかるるみつの－ゆくへしらはや
あわとこそーはなもきゆらめーよしのかは

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

水影の寂しさ（みずかげのさびしさ）

→帰る（かえる）

かはへのみつのーかけのさひしさ
うちむれてーみそきせしもやーかへるらむ

【天文年間百韻38巻】／xx［したみつも］／天文24(1555)年9月2日

いたゐのしみつーかけのさひしさ
ゆふくれやーすすみしひとも－かへるらむ

【宗長関係8種】／老耳／天理本／

水越える（みずこえる）

→浪の浮橋（なみのうきはし）

のをめくるーよとのかはきしーみつこえて
うへにゆきふるーなみのうきはし

【紫野千句】／何物［したくさの］／延文2(1357)年以後-応安3年6月以前

さみたれにーさはへのなかれーみつこえて
ふめはあやふきーなみのうきはし

【因幡千句】／山何［ふるゆきは］／文明7(1475)年11月26日<～28日>

水に匂う山吹（みずににおうやまぶき）

→雨晴れた春の暮れ（あめはれたはるのくれ）

こふかきみつにーにほふやまふき
なかあめのーひをうつすまにーはるくれて

【三島千句】／二字反音［いけすみて］／文明3(1471)年3月21日～23日

いしはしるみつにーにほふやまふき
あめはるるーせせのしらなみーはるくれて

【成立不詳・宗長以前15巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

水の音（みずのおと）

→何処にある（いずこにある）

うつみつるーたけはかけひのーみつのおと
いしまのこけはーいつくなるらむ

【天正年間百韻57巻】／何人［ときはいま］／天正10(1582)年5月24日

とめよれはーくるるいはまのーみつのおと
いつくなるらむ－たきつかはかみ

【慶長年間百韻27巻】／□□［さきつかむ］／裏白／慶長19(1614)年1月3日

水の錆鮎（みずのさびあゆ）

→柳陰（やなぎかげ）

つきにひかるやーみつのさひあゆ
えたかはすーもみちはいかにーやなきかけ

【応永年間百韻7巻】／□□［xxはせて］／応永24(1417)年3月16日

みしふかくれのーみつのさひあゆ
ちるとみてーそてにいろつくーやなきかけ

【文安年間百韻9巻】／何船［ときはなる］／文安元(1444)年10月12日

水の末見える（みずのすえみえる）

→暮れる橋の一筋（くれるはしのひとすじ）

たききとりーみつをむすひしーすゑみえて
やまくれかかるーはしのひとすち

【秋津洲千句】／何木［ひとさかり］／天文15(1546)年8月25日

こほりとくーみつをつつみのーすゑみえて
たえたえくるるーはしのひとすち

【元亀年間百韻6巻】／何船［むさしのも］／元亀3(1572)年3月18日

水の絶え絶え（みずのたえだえ）

→朝氷（あさごおり）

むすひすてたるーみつのたえたえ
ふゆはまたーあさかのぬまのーあさこほり

【園塵第一／続群書類従本】／冬／長享２年

かけひのいほにーみつのたえたえ
あさこほりーこよひはしめてーむすふらむ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

水の一筋（みずのひとすじ）

→滝（たき）

そそくはかりのーみつのひとすち
ふりにけるーあとやなみたのーたきならむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

みなかみしらぬーみつのひとすち
そてやたたーうきおとなしのーたきならむ

【名所句集／静嘉堂文庫本】／恋下／（大永前後）

水は澄む（みずはすむ）

→明け方（あけがた）

あかてみなせのーみつはすみけり
あけかたのーたきよりうへもーつきなれや

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

くむにいはまのーみつはすみけり
あけかたのーつきにいてぬるーそてみえて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［けふことに］／裏白／慶長 8(1603) 年 1 月 3 日

水晴れる（みずはれる）

→朱のそほ舟（あけのそほぶね）

かけおそきーゆふひのいりえーみつはれて
なみもよりくるーあけのそほふね

【皇学館文庫本千句】／□□［きてかへる］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日以前

はるはるとーやまもといつるーみつはれて
たひねするよのーあけのそほふね

【壁草／書陵部本】／旅／永正 9 年

水冷ややか（みずひややか）

→滝の浪（たきのなみ）

みつひややかに―おつるかはつら
あしのはも―たたかれわたるーたきつなみ

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

みつひややかにーすみわたるこゑ
おちつくすーはなのこのまのーたきつなみ

【天正四年万句７０巻】／玉何［まつはらも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

山の井の水（やまのいのみず）

→木の下（このもと）

むすふはつきぬーやまのゐのみつ
このもとにーひとつふたつのーこけのいほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／花之何［ふゆのいろに］／成立時不詳

むすこけふかしーやまのゐのみつ
すすしさはーきりのわかはのーこのもとに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

みだれる

露が乱れる（つゆがみだれる）

→朝霧（あさぎり）

つゆそみたるるーにはのたまささ
あさきりのーまかきにつきのーさしのこり

【浜宮千句】／□□［くれかたき］／

あめにもまさりーつゆそみたるる
あさきりのーみのしろころもーしをれきて

【壁草／続群書類従本】／秋／永正 3(1506) 年 3 月頃

露に乱れる（つゆにみだれる）

→飛ぶ蛍（とぶほたる）

つゆにみたるるーあしのひとむら
くれぬれはーきりのひまひまーとふほたる

【浜宮千句】／□□［ときもよも］／

ねにこそなかれーつゆにみたるる
したもえをーしのふののきにーとふほたる

【心敬関係１０種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／

みだれがみ
乱れ髪

→あおやぎのいと
青柳の糸

たはつけしーすちともあらぬーみたれかみ
つゆにぬれぬるーあをやきのいと

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなさけと］／文禄 2(1593) 年 2 月 18 日

かきやるはーつれなきかけのーみたれかみ
いているかとのーあをやきのいと

【園塵第四／早稲田大学本】／春／永正 6、7 年

みだれてとぶほたる
乱れて飛ぶ蛍

→みずのすずしさ
水の涼しさ

とふほたるーつゆにみたれてーくるるのに
ひともかけするーみつのすすしさ

【葉守千句】／初何［わかこゑを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

かたしきのーそてにみたれて―とふほたる
なかるるおともーみつのすすしさ

【石山四吟千句】／青何［つきやふね］／天文 24(1555) 年 8 月 15 日～19 日

みち

いくへとよらのたけのしたみち
幾重豊浦の竹の下道

→またつきあるゆきのはれる
また月ある雪の晴れる

いくへとよらのーたけのしたみち
にしにまたーつきあるゆきのーけさはれて

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

いくへとよらのーたけのしたかけ
あめにまたーつきあるゆきのーよるはれて

【心敬関係１０種】／心玉集／静嘉堂文庫本／

かえるさのみち
帰るさの道

→なる
なる

あさたかひとのーかへるさのみち
かきくもりーそらやゆきにもーなりつらむ

【天文十八年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

かすみこめたるーかへるさのみち
なみたにやーおほろつきよとーなりつらむ

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

かすみにたどるみち
霞にたどる道

→よぶこどり
呼子鳥

かすみにたとる―いはのかけみち
よふことり―なきてこころのーしるへせよ

【葉守千句】／白何［こからしを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<～11 日>

かすみにたとるーみちのをちこち
よふことりーこゑするかたにーひはくれて

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

かわぞいのみち
川沿いの道

→あかつき
暁

みつうちけふる―かはそひのみち
あかつきの―つきのこるえにーふねさして

【河越千句】／二字反音［はるみても］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

かすかにのこる―かはそひのみち
あかつきの―やまにかかれるーよはのつき

【文明年間百韻３４巻】／何木［うめかかを］／文明 15(1483) 年 2 月 19 日

→わたしぶね
渡し舟

くたれはあさきーかはそひのみち
はやきせにーおとさていその―わたしふね

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［はるやたつ］／存疑／成立時不詳

つつくともなきーかはそひのみち
くれぬれは―ひとりふたりのーわたしふね

【天正年間百韻５７巻】／何人［みれはみし］／天正 12(1584) 年 9 月 13 日

霧の下道（きりのしたみち）

→音がする（おとがする）

ましるそてみぬーきりのしたみち
たれとしもーわかすつきまつーおとはして

【伊勢千句】／三字中略［うめさきて］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

あふひともなきーきりのしたみち
さととほきーみやまにたきのーおとはして

【心敬関係１０種】／心敬僧都百句／岩瀬文庫本／

木の下道（このもとみち）

→片敷く（かたしく）

ゆふへすすしきーこのもとのみち
しつかなるーかせのさゆりはーかたしきて

【宗牧追善千句】／山何［ちるちらぬ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

あくるもしはしーこのもとのみち
さよころもーはなのにほひにーかたしきて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

里離れた道（さとはなれたみち）

→重なる（かさなる）

さとはなれなるーまつかけのみち
おちはなほーくつるかうへにーかさなりて

【称名院追善千句】／何牆［さかのやま］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

さとはなれなるーみちのたえたえ
かひすつるーまくさはみとりーかさなりて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

月の旅の道（つきのたびのみち）

→後の世の秋（のちのよのあき）

つきならはーいさとてゆかむーたひのみち
まよふななけくーのちのよのあき

【文明十四年万句５２巻】／花何［みたすなよ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

はれよくもーつきこそたよりーたひのみち
おもふもつらしーのちのよのあき

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ｂ／

露のふる道（つゆのふるみち）

→夜半の月（よわのつき）

わけはやたゆるーつゆのふるみち
ひとはいさーみしはわすれぬーよはのつき

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

ぬれてみなせのーつゆのふるみち
しらきくにーうつろひふくるーよはのつき

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

後の世の道（のちのよのみち）

→大和歌（やまとうた）

いかさまならむーのちのよのみち
かすかすにーかはりもてきぬーやまとうた

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［ちりしえぬ］／成立時不詳

くらきそうらみーのちのよのみち
たとたとしーこれよりさきのーやまとうた

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ｂ／

道が細い（みちがほそい）

→橋の一筋（はしのひとすじ）

さしおほふーいはゐのもとのーみちほそみ
ひとやはかよふーはしのひとすち

【成立不詳・宗長以前１５巻】／ｘｘ［さみたれや］／成立時不詳

おしねもるーたのもにかよふーみちほそみ
しもうすこほるーはしのひとすち

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

道絶え絶え（みちたえだえ）

→雪ふる（ゆきふる）

みちたえたえのーみねのふるてら
あくれともーかとをとちたるーゆきふりて

【表佐千句】／何路［みなかみの］／文明8(1476)年3月6日<～8日>

みちたえたえのーすゑのふるはた
つまきこるーそはのいはかきーゆきふりて

【宗長関係8種】／老耳／天理本／

道である

→掛橋の末

ひとすちやーこかけにつつくーみちならむ
いはまこけむすーかけはしのすゑ

【皇学館文庫本千句】／□□［いろみえて］／永禄6(1563)年11月18日以前

いつくにかーつたへのこせるーみちならむ
かたやまきしもーかけはしのすゑ

【天正年間百韻57巻】／xx［わけゆかは］／天正4(1576)年8月19日

道の掛橋

→寺の角

とほくみえぬるーみちのかけはし
とひよるもーひとけまれなるーてらのかと

【天正年間百韻57巻】／□□［まつならぬ］／天正17(1589)年1月4日

ゆきとけはつるーみちのかけはし
とひよるもーおくものふかきーてらのかと

【慶長年間百韻27巻】／□□［ちりてさへ］／慶長4(1599)年6月18日

→訪い寄る

とほくみえぬるーみちのかけはし
とひよるもーひとけまれなるーてらのかと

【天正年間百韻57巻】／□□［まつならぬ］／天正17(1589)年1月4日

ゆきとけはつるーみちのかけはし
とひよるもーおくものふかきーてらのかと

【慶長年間百韻27巻】／□□［ちりてさへ］／慶長4(1599)年6月18日

道の末

→立ち安らう

なつころもーはるはるきぬるーみちのすゑ
みつゆくはしにーたちそやすらふ

【天文年間百韻38巻】／何人［さくふちの］／天文18(1549)年3月24日

くれかかるーものみくるまのーみちのすゑ
やとりさためすーたちそやすらふ

【天正四年万句70巻】／何鳥［まつむしの］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

道の辻占

→待ち侘びる

ききもさためぬーみちのつしうら
はるかなるーたひのかへさをーまちわひて

【永禄石山千句】／青何［わくらはの］／永禄7(1564)年5月12日

こひにまよへるーみちのつしうら
まちわひてーわれとははやとーおもふみに

【文安頃千句4巻】／二字返音［はなをりて］／

道の一筋

→放れ駒

たなかにつつくーみちのひとすち
はなれこまーいはふかたにしーゆきつれて

【元亀年間百韻6巻】／何人［はなのときも］／元亀4(1573)年6月6日

さとはみえぬもーみちのひとすち
つななからーいつくよりかはーはなれこま

【文禄年間百韻12巻】／□□［あつまやの］／文禄2(1593)年5月6日

→行き連れる

たなかにつつくーみちのひとすち
はなれこまーいはふかたにしーゆきつれて

【元亀年間百韻6巻】／何人［はなのときも］／元亀4(1573)年6月6日

かよふをのへのーみちのひとすち
このかたはーたききしはとりーゆきつれて

【文明十五年千句１１巻】／何路［ひめもの］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

道の安らい（みちのやすらい）

→里の傍ら（さとのかたわら）

やなきちる－かきねのみちの－やすらひに
ややくれかかる－さとのかたはら

【天文年間百韻３８巻】／何人［かせみえて］／千句第四／天文 13(1545) 年閏 11 月 25 日

たまほこの－みちもすすしき－やすらひに
みやこにに－たる－さとのかたはら

【文禄二年千句１０巻】／夕何［しくれても］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

山の下道（やまのしたみち）

→時鳥（ほととぎす）

むらさめすくる－やまのしたみち
まちてみよ－なかてはあらし－ほととぎす

【文明年間百韻３４巻】／何人［ゆきのやま］／文明 14(1482) 年 1 月 16 日

とふにならはぬ－やまのしたみち
またときく－たひのゆくての－ほととぎす

【永正年間百韻３４巻】／何人［みやまきに］／永正 14(1517) 年 3 月 22 日

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

そよくたのもは－やまのしたみち
さをしかの－たちとしらるる－こゑすなり

【天正年間百韻５７巻】／何路［なみこえて］／天正 9(1581) 年 2 月 3 日

きりのあしたの－やまのしたみち
さをしかの－いまひとこゑは－かすかにて

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→鹿鳴く（しかなく）

きこりたたすむ－やまのしたみち
くさかりの－ふえにはよらぬ－しかなきて

【親当関係２種】／親当自連歌合／早稲田大学本／

ゆふきりふかき－やまのしたみち
いりあひの－こゑしつまれは－しかなきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／秋／永正 6(1509) 年以前

別れ路の跡（わかれじのあと）

→面影（おもかげ）

あくかれいつる－わかれちのあと
おもかけに－わかたましひや－つれぬらむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

くもこそかたみ－わかれちのあと
ゆふへには－あめともなれる－おもかけに

【難波田千句】／□□［にしきにて］／文明 14(1482) 年 10 月前後

みつぎ

運ぶ貢（はこぶみつぎ）

→国に従う（くににしたがう）

はこふみつきの－おほきしなしな
このくにに－よもの□□□□－したかひて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

はこふみつきの－ふねそひまなき
わかくにに－もろこしまても－したかひて

【看聞日記紙背５０巻】／［やまもとは］／文安 5(1448) 年以前

→唐土までも従う（もろこしまでもしたがう）

たまこかね－はこふみつきの－かすかすに
もろこしまても－いまそしたかふ

【看聞日記紙背５０巻】／何物［かみとうめ］／応永 29(1422) 年 2 月 25 日

はこふみつきの－ふねそひまなき
わかくにに－もろこしまても－したかひて

【看聞日記紙背５０巻】／［やまもとは］／文安 5(1448) 年以前

みね

雲かかる峰（くもかかるみね）

→花盛り（はなざかり）

みるかうちよりーくもかかるみね
はなさかりーかすみはるれはーあらはれて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

きゆるとみしもーくもかかるみね
かつらきやーさきつつきてのーはなさかり

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめかえや］／文禄 4(1595) 年 7 月 21 日

峰越える（みねこえる）

→春の雁（はるのかりがね）

くもにけふーはなちりはつるーみねこえて
きけはいまはのーはるのかりかね

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

ゆきおくれーひとりかすみのーみねこえて
よはあけかたのーはるのかりかね

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

峰高い（みねたかい）

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

みねたかみーへたつるつきのーあきふけて
つまやいつくのーさをしかのこゑ

【宗長追善千句】／白何［みしやいつ］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

かたをかのーのへのむかひのーみねたかみ
あけはなれてもーさをしかのこゑ

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

峰の秋風（みねのあきかぜ）

→雁鳴く（かりなく）

つきさやかなるーみねのあきかせ
かきつらねーみたれぬくもにーかりなきて

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

たもとふきすくーみねのあきかせ
さよころもーよさむのつきにーかりなきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

峰の庵（みねのいお）

→松風の声（まつかぜのこえ）

みねのいほーこのはののちもーすみあかて
さひしさならふーまつかせのこゑ

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

しつけさはーひとりかうへのーみねのいほ
ともとたのむもーまつかせのこゑ

【永正年間百韻３４巻】／何路［はやみのに］／永正 12(1515) 年 11 月 10 日

峰の掛橋（みねのかけはし）

→猿叫ぶ（さるさけぶ）

かははそこなるーみねのかけはし
さるさけふーこゑさへさむきーたきのもと

【顕証院会千句】／何人［えたわけの］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

こすゑのあきのーみねのかけはし
さるさけふーやまちのつきのーありあけに

【永禄年間百韻２８巻】／□□［つゆはそてに］／永禄 4(1561) 年 9 月 19 日

峰の雲（みねのくも）

→山時鳥（やまほととぎす）

あらましにーこよひもあけぬーみねのくも
かならすいつのーやまほとときす

【永正十花千句】／何船［ねぬるよを］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

なかめつつーかたみもつらきーみねのくも
いつらはこえしーやまほとときす

【成立不詳・宗養以前８巻】／何木［とこなつに］／成立時不詳

峰の白雪（みねのしらゆき）

→残(のこる)る

のはしもかれのーみねのしらゆき
さとふりぬーたかかよひちのーのこるらむ

【紫野千句】／何路［あふちさく］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

それとはかりのーみねのしらゆき
いつおきてーかれののしもはーのこるらむ

【紫野千句】／山何［ゆふたちは］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

ふりそめけりなーみねのしらゆき
まつたかくーしくれのくもやーのこるらむ

【熊野千句】／何色［なみしけし］／文正元 (1466) 年 3 月以前

峰の古寺(みねのふるでら)

→花咲(はなさく)く

くものなかはのーみねのふるてら
まつたてるーはやしのおくにーはなさきて

【因幡千句】／何人［みるたひに］／文明7(1475) 年 11 月 26 日<～28 日>

かさなるのきのーみねのふるてら
をはつせやーちるあともなほーはなさきて

【天正年間百韻５７巻】／何木［こころあてに］／天正 3(1575) 年 1 月 7 日

峰の雪(みねのゆき)

→年が暮(としがくれる)れる

みねのゆきーいくへともなくーふみならし
つまきこりつむーとしはくれけり

【出陣千句】／白何［あをやきや］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

あさなあさなーやへふりまかふーみねのゆき
はやのこりなくーとしはくれけり

【天文年間百韻３８巻】／何路［あさかほの］／天文 10(1541) 年 7 月 29 日

みや

古の宮(いにしえのみや)

→花咲(はなさく)く

はるのこころはーいにしへのみや
をかのへのーなきさのさくらーはなさきて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

たまをみかけるーいにしへのみや
よしのなるーたきつかはつらーはなさきて

【名所句集／静嘉堂文庫本】／春／（大永前後）

古宮の内(ふるみやのうち)

→燕(つばくらめ)

すたれやつるるーふるみやのうち
つはくらめーいているのきのーひましけく

【寛正年間百韻２０巻】／何人［うめおくる］／寛正 6(1465) 年 1 月 16 日

はるをわすれぬーふるみやのうち
おなしすにーこころやかくるーつはくらめ

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

みやこ

古き都の春(ふるきみやこのはる)

→うち霞(うちかすむ)む

ふるきみやこのーはるのはかなさ
しほかまやーけふりしなこりーうちかすみ

【明応年間百韻２２巻】／山何［つきもひとに］／明応 5(1496) 年 8 月 15 日

ふるきみやこのーはなのひともと
つゆかかるーみちのしはくさーうちかすみ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

都が恋しい(みやこがこいしい)

→鳴(なくほとと)く時鳥(ぎす)

むかしにならのーみやここひしも
つきそすむーなきてきつらむーほとときす

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

いやとほくなるーみやここひしも
なきすてしーくさのまくらのーほとときす

【天文年間百韻３８巻】／何人［にほへかつ］／天文 13(1544) 年 1 月 29 日

都が遠い（みやこがとおい）

→明日香風（あすかかぜ）

みやこをとほみーわかれぬるみち
あすかかせーたつねてふかむーそてもなし

【表佐千句】／薄何［ゆきてみむ］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

みやこをとほみーすめるわひしさ
あすかかせーいたつらにのみーみのふりて

【永正十花千句】／初何［はなはたた］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

都の月に帰る（みやこのつきにかえる）

→草枕（くさまくら）

みやこのつきにーたれかへるらむ
しらぬのに―ひとりつゆけきーくさまくら

【応仁年間百韻６巻】／ｘｘ［そてにみな］／応仁 2(1468) 年 10 月 22 日

みやこのつきにーわれやかへらむ
ゆめもみをーさそひてさめねーくさまくら

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

みやごと

宮事もない（みやごともない）

→花が衰える（はながおとろえる）

かすみのほらはーみやこともなし
ときすくるーこころのはなのーおとろへて

【三島千句】／三字中略［はるよまて］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

うきときはまたーみやこともなし
あきふかみーはなのきとももーおとろへて

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

みる

惜しんで花を見る（おしんではなをみる）

→袖の梅の香（そでのうめのか）

みなひとのーをしむによらぬーはなをみて
をりてかへさはーそてのうめかか

【飯盛千句】／何路［しけるきに］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

をしみかねーちるにまかするーはなをみて
をらすすきぬるーそてのうめかか

【大永四年月並千二百韻】／□□［うくひすの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 2 月 23 日

尾上の花を見る（おのえのはなをみる）

→霞に暮れる（かすみにくれる）

あすはみむーをのへのはなのーいかならむ
かすみにくるるーたかまとのみや

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ゆきにしも］／裏白／慶長 9(1604) 年 1 月 3 日

くもとみしーをのへのはなのーあともなし
かすみにくるる―かねのさひしさ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［うめかかは］／裏白／慶長 11(1606) 年 1 月 3 日

風見える（かぜみえる）

→初雁の声（はつかりのこえ）

はなすすきーなひくはかりにーかせみえて
つきにほのきく―はつかりのこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何人［ひかしけふ］／本式／明応 5(1496) 年 1 月 9 日

むらさめにーつゆふきみたすーかせみえて
すすきになひくーはつかりのこゑ

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

月を見る（つきをみる）

→秋風が吹く（あきかぜがふく）

たのむよにーまたふけはてぬーつきをみて
とふかときけはーあきかせそふく

【文明年間百韻３４巻】／何路［あさなけに］／文明 8(1476) 年 1 月 11 日

あらましのーいたつらふしにーつきをみて
ちきりしものをーあきかせそふく

【老葉／吉川本】／恋上／文明 13(1481) 年夏頃

花見える（はなみえる）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

ものふかきーしけみをゆけはーはなみえて
やとりをしむる―うくひすのこゑ

【文安年間百韻９巻】／朝何［さかきはに］／文安 4(1447) 年 10 月 18 日

かくしおくーのきはのおくにーはなみえて
はるやしるへ□―うくひすのこゑ

【天正四年万句７０巻】／何木［さくはなの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

松見える（まつみえる）

→帰る雁（かえるかりがね）

かすめともーつきまつやまはーまつみえて
くもちはるかに―かへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ふりかつけ］／応永 29(1422) 年【B】3 月 15 日

とほさとのーはなをへたつるーまつみえて
やまのはつかにーかへるかりかね

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ことはなに］／応永 31(1424) 年 9 月 27 日

水の末見える（みずのすえみえる）

→暮れる橋の一筋（くれるはしのひとすじ）

たककきとりーみつをむすひしーすゑみえて
やまくれかかるーはしのひとすち

【秋津洲千句】／何木［ひとさかり］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

こほりとくーみつをつつみのーすゑみえて
たえたえくるるーはしのひとすち

【元亀年間百韻６巻】／何船［むさしのも］／元亀 3(1572) 年 3 月 18 日

見るのも憂い（みるのもうい）

→紅葉散る頃（もみじちるころ）

さもあらぬーなきなになしてーみるもうし
あらしのやまの―もみちちるころ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［まつみよと］／延徳 4(1492) 年 2 月 8 日

なかなかにーふたつのかははーみるもうし
みむろたつたのーもみちちるころ

【竹林抄／新古典文学大系本】／冬／文明 8(1476) 年 5 月頃

むかう

語るばかりに向う面影（かたるばかりにむかうおもかげ）

→それでない声（それでないこえ）

かたるはかりにーむかふおもかけ
それならぬーこゑもむつましーみやことり

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

かたるはかりにーむかふおもかけ
それならぬーこゑもうらめしーほとときす

【論書４種】／宗長／

向って涙落ちる（むかってなみだおちる）

→なる

むかへはつきにーなみたおちけり
おいさりしーあきはたかよにーなりぬらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑下／文明 8(1476) 年 5 月頃

むかふくさきにーなみたおちけり
たかさとのーよもきかそまとーなりぬらむ

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

むかし

昔（むかし）

→蓬生の影（よもぎうのかげ）

かたるよもーおなしはてなるーむかしにて
あたりよりまつーよもきふのかけ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日〜9 日

はなさけはーおもひやらるるーむかしにて
はるともわかぬーよもきふのかけ

【天正年間百韻５７巻】／山何［あをやきの］／天正 3(1575) 年 2 月 2 日

昔を今の（むかしをいまの）

→時鳥（ほととぎす）

むかしをいまのーおもかけのゆめ
おもひいててーふるきみやこのーほとときす

【住吉千句】／山何［そめさらは］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日〜14 日

むかしをいまのーこころとやせむ
わすれすもーなつはきてなくーほとときす

【天正四年万句７０巻】／花何［うくひすの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

昔を思う涙（むかしをおもうなみだ）

→秋は悲しい（あきはかなしい）

むかしおもふーなみたにつきや―くもるらむ
いととねさめのーあきそかなしき

【成立不詳・宗長以前１５巻】／□□［またもなき］／成立時不詳

むかしおもふーなみたもつゆもーそてのうへ
ひとのこころのーあきそかなしき

【文禄年間百韻１２巻】／□□［けさのまに］／文禄 2(1593) 年 1 月 14 日

→草の庵（くさのいお）

むかしおもふーこよひはなみたーもよほして
くさのいほりのーあめのさひしさ

【初瀬千句】／何人［なつやまに］／享徳元・2(1452) 年、4 月

むかしおもふーなみたにかすむーよはのつき
くさのいほりのーゆふくれのはる

【文明十四年万句５２巻】／何木［あきのひも］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

むさしの

遠き武蔵野（とおきむさしの）

→草枕（くさまくら）

ゆけともいまたーとほきむさしの
くさまくらーゆめもみなからーあはれにて

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

わけてもすゑのーとほきむさしの
おのつからーやとかるかやのーくさまくら

【看聞日記紙背５０巻】／何人［まつちかし］／応永 32(1425) 年 6 月 25 日

むし

繁き虫の音（しげきむしのね）

→夜半の月（よわのつき）

かへのうちにもーしけきむしのね
みえこしもーゆめとほさかるーよはのつき

【大原野十花千句】／何墻［かをりきて］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日〜7 日

かせややさむきーしけきむしのね
やとれとはーすみやはあらすーよはのつき

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

虫鳴く（むしなく）

→霧の下道（きりのしたみち）

をかのへの―かきほはまたきーむしなきて
ゆふかけふかきーきりのしたみち

【飯盛千句】／何衣［つきいてて］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日〜29 日

あさほらけーわけゆくかたにーむしなきて
そてさむくなる―きりのしたみち

【文明十四年万句５２巻】／何船［あきのいろ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日〜9 月 14 日

虫の声（むしのこえ）

→秋更ける（あきふける）

むしのこゑーのこるまかきのーはなおちて
こすゑうつろひーあきはふけけり

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

たつねてもーあかすよほそきーむしのこゑ
あさなあさなにーあきはふけけり

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路［しろたへの］／成立時不詳

→露が乱れる（つゆがみだれる）

むしのこゑーきけはいまはたーをりはへて
ゆふくれふかきーつゆそみたるる

【大永三年月並千三百韻】／□□［あらたまの］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 12 月 23 日

みちのへにーなきよわりたるーむしのこゑ
ゆけはもすそにーつゆそみたるる

【文明十四年万句５２巻】／錦何［つきひとつ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→一群薄（ひとむらすすき）

かれのにもーなほかけたのむーむしのこゑ
ひとむらすすきーちりなつくしそ

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

わひしきはーかれのこりたるーむしのこゑ
ひとむらすすきーうちなひくかけ

【五吟一日千句】／何路［いそのなみ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

虫の声々（むしのこえごえ）

→小萩原（こはぎはら）

なみたあらそふーむしのこゑこゑ
こはきはらーうつろふゆふへーかりなきて

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるをまつ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 11 月 23 日

あきのゆふへのーむしのこゑこゑ
あかすしもーなかむるはなのーこはきはら

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

→吹く風（ふくかぜ）

つゆもあたなるーむしのこゑこゑ
かりまくらーよさむのつきをーふくかせに

【永禄年間百韻２８巻】／□□［ゆきにうめ］／永禄 5(1562) 年 2 月 1 日

あきはすゑののーむしのこゑこゑ
しもかれのーをはなくすはなーふくかせに

【宗碩関係２種】／宗碩百句／太田本／

虫の音（むしのね）

→衣手の露（ころもでのつゆ）

うたたねのーはしゐはちかきーむしのねに
おほえすしほるーころもてのつゆ

【称名院追善千句】／初何［したふなよ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

むしのねにーむかしのあとのーことひて
わけいるのへのーころもてのつゆ

【嵯峨千句】／花之何［うめかかは］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

→古里の秋（ふるさとのあき）

むしのねもーみたるるつゆのーしけきのに
とへはなみたのーふるさとのあき

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 2 月 23 日

むしのねもーきえわたるよのーありあけに
あはれなそへそーふるさとのあき

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

夜半の虫の音（よわのむしのね）

→月に仮枕（つきにかりまくら）

をささかもとのーよはのむしのね
ねられしなーつきにかせふくーかりまくら

【寛正年間百韻２０巻】／何人［うめおくる］／寛正 6(1465) 年 1 月 16 日

ところさためぬーよはのむしのね
さやかなるーつきをみるみるーかりまくら

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

むしろ

さ筵（さむしろ）

→鳴く蟋蟀（なくきりぎりす）

さむしろにーかれゆくよはのーつきもしれ
たのめはゆめにーなくきりきりす

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ふくやいかに］／永禄 5(1562) 年 3 月 7 日

わひしきはーひとりのあきのーさむしろに
なみたなそへそーなくきりきりす

【元和年間百韻２４巻】／□□［まつふくや］／元和 8(1622) 年 10 月 29 日

さ筵の月（さむしろのつき）

→軒の松（のきのまつ）

みをこからしのーさむしろのつき
とこふりてーひたすらひどはーのきのまつ

【宗長追善千句】／何色［うくひすの］／（享禄 5）天文元 (1532) 年 3 月 25 日

しももおきそふーさむしろのつき
くれてよりーこゑかしかましーのきのまつ

【永禄石山千句】／三字中略［こすゑまて］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

むね

胸の思い（むねのおもい）

→我が涙（わがなみだ）

むねのおもひそーとふにきえぬる
わかなみたーかさねておちはーいかかせむ

【弘治三年春雪千句】／何木［はなならて］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

むねのおもひそーしほしみてうき
わかなみたーいくへのいろをーからころも

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

むらさめ

秋の村雨（あきのむらさめ）

→露が憂い（つゆがうい）

うらつたひするーあきのむらさめ
ぬれとほる―わかたひころもーつゆもうし

【文安年間百韻９巻】／山何［はなはひも］／文安 5(1448) 年 2 月 5 日

やまのかけゆくーあきのむらさめ
ふりてすむ―いほりののきのーつゆもうし

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

風の村雨（かぜのむらさめ）

→時鳥（ほととぎす）

ふきおくらるるーかせのむらさめ
ほとときすーまきれはてやーすきぬらむ

【出陣千句】／何木［しもなから］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

あとよりふれるーかせのむらさめ
ほとときすーはなもちりあへすーはやなきて

【壁草／続群書類従本】／夏／永正 3(1506) 年 3 月頃

過ぎる村雨（すぎるむらさめ）

→時鳥（ほととぎす）

くもるとすれはーすくるむらさめ
したふともーいらはやいかてーほとときす

【長享年間百韻６巻】／朝何［はるくさは］／長享 2(1488) 年 4 月

むらくもとほくーすくるむらさめ
ひとこゑのーほかにはきかぬーほとときす

【天正四年万句７０巻】／三字中略［かせたえて］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

晴れる村雨（はれるむらさめ）

→一声の時鳥（ひとこえのほととぎす）

ふくるまくらにーはるるむらさめ
ひとこゑはーききこそわかねーほとときす

【表佐千句】／初何［はなみよと］／文明8(1476)年3月6日<～8日>

そそきもあへすーはるるむらさめ
ひとこゑはーそれかあらぬかーほとときす

【元和年間百韻２４巻】／□□［としととも に］／裏白／元和2(1616)年1月3日

一村雨（ひとむらさめ）

→鳴く時鳥（なくほととぎす）

ひとむらさめのーつきのこるやま
かへりなくーよはにききつるーほとときす

【寛永年間百韻１５巻】／□□［はるをうる］／裏白／寛永2(1625)年1月3日

ひとむらさめのーすくるをちかた
つゆのまのーやとりにきなけーほとときす

【天正四年万句７０巻】／竹何［まつほとや］／天正4(1576)年5月6日～7月19日

村雨（むらさめ）

→鳴け時鳥（なけほととぎす）

むらさめのーひとめくりまつーなかやとり
こそをわすれすーなけほとときす

【美濃千句】／何鳥［こころさへ］／文明4(1473)年12月16日～21日

むらさめのーなこりにしはしーくもうきて
なけほとときすーひとこゑの□□

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［はるはまた］／成立時不詳

→四緒の声（よつのおのこえ）

むらさめのーあともととめすーはれつらむ
しはしはかりのーよつのをのこゑ

【紹巴亡父追善千句】／何人［なきあとは］／天文24(1555)年3月26日～晦日

むらさめのーやまちにしはしーやすらひて
せきのわらやにーよつのをのこゑ

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正6、7年

村雨がたつ（むらさめがたつ）

→露に移ろう（つゆにうつろう）

むらさめのーけしきをそらにーさきたてて
のへのくさはそーつゆにうつろふ

【池田千句】／何田［をとめこか］／永正7(1510)年春以前<永正5年春>

むらさめの－あとはほのかにーきりたちて
つゆにうつろふ－ありあけのかけ

【大永四年月並千二百韻】／□□［としなみの］／月並千二百韻／大永4(1524)年12月23日

村雨過ぎる（むらさめすぎる）

→時鳥（ほととぎす）

むらさめすくるーをちのかけはし
さたかにはーたれかききけむーほとときす

【平松文庫本千句】／□□［したみつの］／

むらさめすくるーやまのしたみち
まちてみよーなかてはあらしーほとときす

【文明年間百韻３４巻】／何人［ゆきのやま］／文明14(1482)年1月16日

村雨の空（むらさめのそら）

→山の端（やまのは）

たたくはかりのーむらさめのそら
やまのはのーくもにいりひのーかたわけて

【天正年間百韻５７巻】／追悼［としをふる］／天正5(1577)年9月22日

なこりしはしのーむらさめのそら
やまのはのーきりまにうすきーよはのつき

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ちりてさへ］／慶長4(1599)年6月18日

→時鳥（ほととぎす）

すすしくなりぬーむらさめのそら
ほとときすーあきまつころやーかへるらむ

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

すくるもはやきーむらさめのそら
ほとときすーいつれのくもにーやとるらむ

【専順関係２種】／夏／応仁元 (1467) 年5月 10 日

村雨の晴れゆく後は嵐（むらさめのはれゆくあとはあらし）

→日に渡る舟の寒さ（ひにわたるふねのさむさ）

むらさめのーはれゆくあとはーふくあらし
ゆふひにわたるーふねのさむけさ

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

むらさめのーはれゆくあとはーゆふあらし
いりひをわたるーふねのさむけさ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

むれ

打ち群れる（うちむれる）

→袖の色々（そでのいろいろ）

はなのはるーしめのゆくひとーうちむれて
つむやすみれをーそてのいろいろ

【伊勢千句】／何船［あさひかけ］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

たれとなくーのとかなるのにーうちむれて
かすむやいつれーそてのいろいろ

【明応年間百韻２２巻】／何人［くもはれて］／明応 5(1496) 年 8 月 22 日

岡辺の櫨の一群（おかべのはじのひとむら）

→夕日隠れ（ゆうひがくれ）

をかへいろこきーはしのひとむら
つゆやなほーゆふひかくれにーのこるらむ

【出陣千句】／何袋［はなさかり］／永正元 (1504) 年 10 月 25 日～27 日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【応仁年間百韻６巻】／何人［つきのあき］／応仁 2(1468) 年 1 月 1 日

をかへになひくーはしのひとむら
うすきりのーゆふひかくれにーもすなきて

【萱草／伊地知本】／秋／文明 6(1474) 年 2 月以前

雲の一群（くものひとむら）

→捨てる時鳥（すてるほととぎす）

ゆくかたいつちーくものひとむら
ほととぎす―のこれるはなをーとひすてて

【天文年間百韻３８巻】／何路［あきよたた］／天文 12(1543) 年 8 月 19 日

うかふあしたのーくものひとむら
なきすつる―あとしたはるるーほととぎす

【天正年間百韻５７巻】／□□［ことのはも］／天正 13(1585) 年 1 月 4 日

里の一群（さとのひとむら）

→草枕（くさまくら）

とひよるやとのーさとのひとむら
くさまくらーつきをよすかにーこよひねむ

【文明十二年千句８巻】／夢想［うしとしの］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

うちけふりたるーさとのひとむら
くさまくらーたつきもしらすーあくるのに

【文明十四年万句５２巻】／何船［みつとりか］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

杉の群立ち（すぎのむらだち）

→末に散る花（すえにちるはな）

いらかさひしきーすきのむらたち
かすかなるーこけちのすゑはーちるはなに

【弘治年間百韻８巻】／ｘｘ［をりのこす］／弘治 2(1556) 年 9 月 10 日

あらしにあくる―すきのむらたち
さきかくす―こすゑわかれてーちるはなに

【成立不詳・宗養以前８巻】／何人［あをやきや］／成立時不詳

竹の一群（たけのひとむら）

→片岡野辺（かたおかのべ）

たくひのかけはーたけのひとむら
つつしさくーかたをかのへのーあめのうち

【天文廿四年梅千句】／何木［つみそへよ］／天文 24(1555) 年正月 7 日

いほのすさひやーたけのひとむら
ゆくひともーかたをかのへのーふゆかれに

【春夢草／書陵部本】／雑／永正 12(1516) 年、13 年

→山本（やまもと）

なひくやかせのーたけのひとむら
やまもとのーつゆのしたみちーくさかれて

【文明年間百韻３４巻】／何人［ちきりあれや］／文明 14(1482) 年 3 月 20 日

かすみになひくーたけのひとむら
やまもとのーはるのあさかはーゆきはれて

【老葉／吉川本】／春／文明 13(1481) 年夏頃

月の群雲（つきのむらくも）

→夜に雁鳴く（よるにかりなく）

はるくれかたのーつきのむらくも
かへるよのーあまとひかくれーかりなきて

【月村抜句／書陵部本】／永正十四年／

あきふけわたるーつきのむらくも
かりなきてーよはいねかてのーたまくらに

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

一群（ひとむら）

→靡く呉竹（なびくくれたけ）

ひとむらのーけふりのすゑのーはれわたり
そよきいてつつーなひくくれたけ

【毛利千句】／山何［きくのかは］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

ひとむらのーすゑにつつけるーのをとほみ
かこはぬかたはーなひくくれたけ

【天正年間百韻５７巻】／何木［うくひすの］／天正 11(1583) 年閏 1 月 8 日

一群薄（ふとむらすすき）

→霜迷う山田（しもまよう やまだ）

ひとむらすすきーそてふるるかけ
しもまよふーやまたのおしねーかりすてて

【永正年間百韻３４巻】／何路［はやみのに］／永正 12(1515) 年 11 月 10 日

ひとむらすすきーひともかけせす
しもまよふーやまたのこいへーかたふきて

【合点之句／神宮文庫本】／冬／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

松の一群（まつのひとむら）

→夜が明ける（よが あける）

しほひにたかきーまつのひとむら
とふかりのーかすもまきれすーよはあけて

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［はるふかし］／成立時不詳

うらのとほきはーまつのひとむら
やまみえぬーなみのうへよりーよはあけて

【菟玖波集／広島大学本】／雑三／文和 5(1356) 年 3 月 26 日

群千鳥（むらちどり）

→真砂路の末（まさごじのすえ）

ゆくかたはーいつこなるらむーむらちとり
ゆふかけさむきーまさこちのすゑ

【羽柴千句】／千何［あくるよを］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

したゐるもーたちさわきぬるーむらちとり
かへるとまやはーまさこちのすゑ

【慶長年間百韻２７巻】／懐旧［みなそこの］／慶長 4(1599) 年 5 月 2 日

かたかたにーなきたちてゆくーむらちとり
おくしもふかきーまさこちのすゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［けふことに］／裏白／慶長 8(1603) 年 1 月 3 日

群鳥が寝る（むらどりがねる）

→我驚く（われおどろく）

むらとりのーねにゆくかねやーくれぬらむ
けふもすきぬとーわれそおとろく

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

むらとりのーねくらのたけのーゆきをれに
われそおとろくーさむきよのゆめ

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

めずらしい

聞くのも珍しい（きくのもめずらしい）

→時鳥（ほととぎす）

きくもめつらしーこのみやことり
ほとときすーけさはおとはのーやまこえて

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明8(1476)年5月頃

まれのみゆきはーきくもめつらし
ゆふかけてーかみまつるよのーほとときす

【萱草／伊地知本】／夏／文明6(1474)年2月以前

もえる

枯れた草が萌え出る（かれたくさがもえでる）

→駒祝う声（こまいわうこえ）

ふゆかれしーみちのしはくさーもえいてて
のへのかすみにーこまいはふこゑ

【聖廟千句】／何田［のこるひに］／明応3(1494)年2月10日～12日

こそかれしーくさはつゆけくーもえいてて
のはあさまたきーこまいはふこゑ

【明応年間百韻２２巻】／何水［あけほのを］／明応8(1499)年2月19日

もしお

掻く藻塩草（かくもしおぐさ）

→海の汀に松の花落ちる（うみのなぎさにまつのはなおちる）

かくてふなるはーたたもしほくさ
みつうみのーみきはにまつのーははおちて

【論書４種】／宗長／

かきあつむるはーたたもしほくさ
にほのうみのーみきはにまつのーははおちて

【論書４種】／宗牧／

もず

鵙の草茎（もずのくさぐき）

→端紅葉（はしもみじ）

しもにあとなきーもすのくさくき
ちりにけりーきりにかせふくーはしもみち

【壁草／続群書類従本】／秋／永正3(1506)年3月頃

ちきりはかなやーもすのくさくき
はしもみちーかたえにのこるーかせたちて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

もつ

移り持て行く（うつりもてゆく）

→起き出でる（おきいでる）

うつりもてゆくーあきのかなしさ
いまこむとーなくさめつつもーおきいてて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［たかにはも］／文禄2(1593)年5月27日

うつりもてゆくーそてのつきかけ
つゆをしくーかりねののへをーおきいてて

【文明十四年万句５２巻】／山何［つゆやけさ］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

もと

垣の本つ葉（かきのもとつば）

→御溝水（みかわみず）

あきにいろつくーかきのもとつは
おもふことーかきやなかさむーみかはみつ

【看聞日記紙背５０巻】／何目［いろつきぬ］／応永28日5月29日

いろみしそむるーかきのもとつは
はきのとのーはなさへうつるーみかはみつ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつころの］／応永32(1425)年10月15日

霞む山本（かすむやまもと）

→水無瀬川（みなせがわ）

くるるまくさはーかすむやまもと
ところせきーわたりかねたるーみなせかは

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］／

あらしのすゑのーかすむやまもと
ゆきてしもーとははやはるのーみなせかは

【天文年間百韻３８巻】／何木［やまかけて］／天文 21(1552) 年 3 月 11 日

みれはほのかにーかすむやまもと
はるのよもーありあけかたのーみなせかは

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

そこともみえすーかすむやまもと
ほのかにもーあけのこりたるーみなせかは

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねのひして］／慶長 6(1601) 年 1 月 26 日

もの

無き物（なきもの）

→古里の春（ふるさとのはる）

たひにしてーいつくもさためーなきものを
いそくやかへるーふるさとのはる

【寛正年間百韻２０巻】／□□［なかつきと］／寛正 2(1461) 年 9 月

むかしにはーかへるにならひーなきものを
あはれのときやーふるさとのはる

【大永年間百韻１４巻】／何木［うめかかを］／大永 7(1527) 年 1 月 18 日

春の物の音（はるのものねね）

→霰走りの夜の月（あられはしりのよるのつき）

ひくてもゆかしーはるのものねね
あけのこるーあられはしりのーつきのよに

【住吉千句】／何田［このはちる］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

しらへえならぬーはるのものねね
しつけさやーあられはしりのーよはのつき

【元和年間百韻２４巻】／□□［そらにみつ］／元和 8(1622) 年 10 月 19 日

物思う頃（ものおもうころ）

→如何なる（いかなる）

こころくたけてーものおもふころ
ひとはうしーゆきてとはむもーいかならむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つゆのみたれにーものおもふころ
よしやとのーゆふへよあきよーいかならむ

【永正年間百韻３４巻】／何人［みちしあれや］／永正 2(1505) 年 1 月 1 日

→誰が憂い（だれがうい）

つゆもわかみのーものおもふころ
あちきなやーたれゆゑそらもーうかるらむ

【太神宮法楽千句】／白何［つゆなから］／長享 2(1488) 年 7 月

なみたすすろにーものおもふころ
ちきらすよーたれにゆふへのーうかるらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋上／文明 8(1476) 年 5 月頃

物悲しき（ものがなしき）

→暁月（あかつきづき）

ものかなしきのーしもはらふこゑ
ねさめするーあかつきつきのーくさのいほ

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

ふもとにはーものかなしきのーなきすてて
あかつきつきのーいろのさやけさ

【文禄二年千句１０巻】／山何［まつとしる］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

物毎（ものごと）

→春秋の空（はるあきのそら）

ものことにーこころのとまるーとしたけて
ゆくすゑいかにーはるあきのそら

【三島千句】／何船［とりのねは］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

ものことにーみやこをこふるーかたゐなか
おくるもつらしーはるあきのそら

【文明年間百韻３４巻】／□□［ゆきのかけ］／文明 5(1473) 年 12 月 5 日

物寂しい（ものさびしい）

→声が聞こえる（こえがきこえる）

つねならぬーともしひのかけーものさひし
のりのふみよむーこゑそきこゆる

【浜宮千句】／□□［くれかたき］／

ねられすよーあまよのこころーものさひし
なくふくろふのーこゑそきこゆる

【長禄三年千句１１巻】／何田［まつちるや］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日〜5 日

もみじ

花よ紅葉よ（はなよもみじよ）

→大和歌（やまとうた）

かさしてもみむーはなよもみちよ
あはれさのーこころしらるるーやまとうた

【五吟一日千句】／薄何［あけほのの］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

ひとのこころはーはなよもみちよ
あらそふもーさすかゆゑあるーやまとうた

【文禄年間百韻１２巻】／□□［うめさきて］／文禄 2(1593) 年 2 月 12 日

紅葉の錦（もみじのにしき）

→古里（ふるさと）

もみちのにしきーかさねきるころ
ふたたひはーいなしとおもふーふるさとに

【天正四年万句７０巻】／夕何［はるさめに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日〜7 月 19 日

もみちのにしきーきてやゆかまし
ぬれぬれもーあきはしくれのーふるさとに

【菟玖波集／広島大学本】／雑一／文和 5(1356) 年冬〜翌年の春

紅葉葉（もみじば）

→汲む杯（くむさかずき）

もみちははーいろこきよりもーをりかさし
よさむわすれてーくめるさかつき

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日〜16 日

もみちははーたくあとよりもーかきあつめ
つきになるまてーくめるさかつき

【天正年間百韻５７巻】／□□［しろたへの］／天正 16(1588) 年 1 月 4 日

もり

神奈備の森（かんなびのもり）

→秋の三室山（あきのみむろやま）

もみちちりしくーかみなひのもり
あきふけてーつきもしくるるーみむろやま

【名所句集／静嘉堂文庫本】／秋／（大永前後）

みつつすきゆくーかみなひのもり
あきのいろーいたるやたつたーみむろやま

【成立不詳・心敬以前１４巻】／朝何［したみつに］／成立時不詳

森の下草（もりのしたくさ）

→放れ駒（はなれごま）

うらかれわたるーもりのしたくさ
つなかるるーしつかたなれのーはなれこま

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日<〜11 日>

かけふかくなるーもりのしたくさ
たつぬへきーあともなつののーはなれこま

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

やしろ

与喜の御社（よきのみやしろ）

→何処にも（いずこにも）

かすまてつきのーよきのみやしろ
いつくにもーあまみつかみのーなはたかし

【看聞日記紙背５０巻】／片何［まつはあめ］／応永 32(1425) 年 7 月 25 日

かみのこころも－よきのみやしろ
いつくにも－おなしきたのの－あとたれて

【看聞日記紙背５０巻】／何物［いつれみむ］／応永 32(1425) 年 9 月 17 日

やすらう

花の陰に安らう（はなのかげにやすらう）

→春の帰るさ（はるのかえるさ）

みるままに－やすらふききの－はなのかけ
おもへはとほし－はるのかへるさ

【宝徳四年千句】／何人［はなそころ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

やすらへは－ときこそうつれ－はなのかけ
かねのつけこす－はるのかへるさ

【寛正年間百韻２０巻】／何路［ひととせに］／寛正 5(1465) 年 12 月 9 日

道の安らい（みちのやすらい）

→里の傍ら（さとのかたわら）

やなきちる－かきねのみちの－やすらひに
ややくれかかる－さとのかたはら

【天文年間百韻３８巻】／何人［かせみえて］／千句第四／天文 13(1545) 年閏 11 月 25 日

たまほこの－みちもすすしき－やすらひに
みやこににたる－さとのかたはら

【文禄二年千句１０巻】／夕何［しくれても］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

安らい（やすらい）

→何処に旅の宿り（いずこにたびのやどり）

みちのへは－はやしはくれの－やすらひに
いつくにたひの－やとりさためむ

【羽柴千句】／何船［ときはきも］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

そことなき－かたをかこえの－やすらひに
いつくにたひの－やとりからまし

【天正年間百韻５７巻】／何路［たちそひて］／天正 6(1578) 年 1 月 3 日

やど

宿の梅（やどのうめ）

→軒の鶯の声（のきのうぐいすのこえ）

ひとやいつ－はるのとひくる－やとのうめ
けさのきちかき－うくひすのこゑ

【美濃千句】／何船［ひとやいつ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

たをるなと－そてにやにほふ－やとのうめ
のきはにきなく－うくひすのこゑ

【文明年間百韻３４巻】／何人［たをるなと］／文明 15(1483) 年 1 月 16 日

宿の梅の香（やどのうめのか）

→鶯（うぐいす）

かこふにもるる－やとのうめかか
うくひすの－のへよりのへに－なきいてて

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

たちえかくれぬ－やとのうめかか
うくひすの－こゑするつきや－あけぬらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

なきひとしたへ－やとのうめかか
うくひすの－なくねもたれを－しのふらむ

【享禄年間百韻８巻】／追善［あきのこゑ］／享禄 5(1532) 年 7 月 29 日

つほみにこもる－やとのうめかか
うくひすの－かきほのゆきを－はらひきて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［よのはるを］／裏白／寛永 8(1631) 年 1 月 3 日

宿の夕暮れ（やどのゆうぐれ）

→花の陰（はなのかげ）

くさかるをかの－やとのゆふくれ
たちよらむ－こまつかれゆく－はなのかけ

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

あらしさひしきーやとのゆふくれ
たかためかーゆきをはらはむーはなのかけ

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

宿を借る

→村雨

せきのこなたにーやとやからまし
むらさめの－おとはのさとにーたちよりて

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

しはしのほとのーやとやからまし
むらさめのーあとよりすくるーこのもとに

【大原三吟／洒竹文庫本】／大原三吟／文明 14(1482) 年 10 月＜ 11 月＞

宿を訪う

→面影

ゆきすきかたきーやとやとはまし
おもかけのーひかふるあたりーこまとめて

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

をしへすてたるーやとやとはまし
おもかけのーさきたつはかりーしるへして

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

やなぎ

青柳

→葛城山

あをやきの－いととしつけきーあめみえて
こえむもいかかーかつらきのやま

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

あをやきの－ほかはふきぬるーかせもなし
よもはかすみのーかつらきのやま

【春夢草／書陵部本】／春／永正 12(1516) 年、13 年

青柳の糸

→打ち映える

たえぬをかけのーあをやきのいと
つゆなから－あさゆふかすみーうちはへて

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

はるにやさらす－あをやきのいと
えのみつにーかすみのころもーうちはへて

【文明年間百韻３４巻】／何人［わすれては］／文明 5(1473) 年 2 月 1 日

→川添い

のとかになひく－あをやきのいと
かはそひの－ふねのつなてのーなかきひに

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［うめはけふ］／応永 26(1419) 年 2 月 25 日

みたれあひたる－あをやきのいと
かはそひの－つつみやなみのーこえぬらむ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あめのひの］／文禄 2(1593) 年 5 月

青柳の陰

→花を見る

かせもかよはぬーあをやきのかけ
けふもまたーなかきひくらしーはなをみて

【新撰菟玖波集／実隆本】／春上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

しはしたたすむーあをやきのかけ
あふひとにーところせかるるーはなをみて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

靡く青柳

→霞む

かせよりさきも－なひくあをやき
ありあけや－なかそらたかくーかすむらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何人［うめのなの］／応永 30(1423) 年 5 月 27 日

はるのしるしにーなひくあをやき
かつらきや－くものよそめにーかすむらむ

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

→残(のこる)

くちきなからもーなひくあをやき
みちのへのーゆきはうすくやーのこるらむ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［ひととせに］／応永 32(1426) 年 12 月 11 日

しつえしけりてーなひくあをやき
かせやまたーちりしさくらにーのこるらむ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［たのもしな］／寛文 9(1669) 年 10 月 2 日

やま

秋の山(あきのやま)

→永久の布留宮(とわのふるみや)

おもひにはーみわかぬものをーあきのやま
ひとはかけせぬーとはのふるみや

【文明十四年万句５２巻】／何人［やまいかに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

むしそなくーまことにこれそーあきのやま
みよやかくなるーとはのふるみや

【文明十四年万句５２巻】／何路［あさうみに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

曙の山(あけぼののやま)

→鶯(うぐいす)

はるなりけりなーあけほののやま
うくひすのーなかすはこそのーゆきのうち

【文明年間百韻３４巻】／何船［そめよなほ］／文明 14(1482) 年 9 月 20 日

さくらにねぬるーあけほののやま
うくひすのーのへのあるしのーくさまくら

【大永年間百韻１４巻】／何路［はままつの］／大永 4(1524) 年 5 月 1 日

→なる(なる)

こよひのつきのーあけほののやま
あきさむしーふなちいくかにーなりぬらむ

【文安雪千句】／何田［あとそある］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

くものあとなるーあけほののやま
みしはなや―たひねのゆめにーなりぬらむ

【親当関係２種】／親当句集／赤木文庫本／

→時鳥(ほととぎす)

いくへかすみのーあけほののやま
とひすつる―はるのまくらのーほとときす

【嵯峨千句】／三字中略［まつはなの］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

くものほかなるーあけほののやま
ほとときす―ききあへぬそらにーつきおちて

【萱草／伊地知本】／夏／文明 6(1474) 年 2 月以前

→横雲(よこぐも)

ふるさとさひしーあけほののやま
よこくもにーをちかたひとやーわかるらむ

【老葉／毛利本】／恋上／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

かせもかすみもーあけほののやま
よこくもにーまほのふねゆくーなみのうへ

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

嵐吹く山(あらしふくやま)

→大井川霞む(おおいがわかすむ)

のとかにすめはーあらしふくやま
おほゐかはーかすめるみつのーたえたえに

【享禄年間百韻８巻】／何人［からころも］／享禄 3(1530) 年 1 月 28 日

はなにとゆけはーあらしふくやま
おほゐかはーかすみのそこにーおとはして

【文安頃千句４巻】／何路［やへひとへ］／

後ろの山(うしろのやま)

→南は長閑(みなみはのどか)

うしろのやまのーかせのはけしさ
たひのそらーみなみにゆけはーのとかにて

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正6、7年

うしろのやまのーあらしこからし
ふゆのひもーみねのみなみはーのとかにて

【宗長関係8種】／老耳／天理本／

宇津の山（うつのやま）

→蔦の下道（つたのしたみち）

うつのやまーあひみるひともーなみたにて
ふゆはかれぬるーつたのしたみち

【文明十四年万句52巻】／玉何［ゆきならは］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

わかかたへーふみことつくるーうつのやま
やすらひにけりーつたのしたみち

【文明十五年千句11巻】／何風［たきなみや］／文明15(1483)年＊月＊日～3月2日

宇津の山越え（うつのやまごえ）

→秋の風（あきのかぜ）

つきにもまよふーうつのやまこえ
しもはらふーみちのゆくてのーあきのかせ

【延徳年間百韻16巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳4(1492)年3月3日

あはれはおなしーうつのやまこえ
ふるさとのーゆふへなりけりーあきのかせ

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永4(1524)年3月23日

奥山の陰（おくやまのかげ）

→打ち解けて（うちとけて）

こころのほかのーおくやまのかけ
まつのとにーはらはぬゆきもーうちとけて

【秋津洲千句】／何人［しかのねに］／天文15(1546)年8月25日

さりとてはまたーおくやまのかけ
うちとけてーなかぬみやこのーほとときす

【園塵第一／続群書類従本】／夏／長享2年

遠方の山（おちかたのやま）

→わたの原（わたのはら）

つきのひかりにーをちこちのやま
あけわたるーきりのたえまのーわたのはら

【紹巴亡父追善千句】／唐何［はなのかに］／天文24(1555)年3月26日～晦日

かねはかすみのーをちこちのやま
わたのはらーいつくのかたにーとまりふね

【五吟一日千句】／何木［としのうちに］／天正9(1581)年11月19日

遠方の遠山（おちのとおやま）

→雁鳴く（かりなく）

みつつかすみのーをちのとほやま
わかれしもーおなしゆくへのーかりなきて

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文24(1555)年3月26日～晦日

あすやこえましーをちのとほやま
わたりかねーふかきせうらにーかりなきて

【心敬関係10種】／苔莚／赤木文庫本／文明3(1471)年秋

小山田の末（おやまだのすえ）

→霜枯れ（しもがれ）

かへしすてたるーをやまたのすゑ
しもかれのーくすはにかはるーあきのかせ

【天正年間百韻57巻】／何船［もしほくさ］／天正7(1579)年1月13日

かりのこしぬるーをやまたのすゑ
しもかれのーひとむらすすきーほのかにて

【天正年間百韻58巻】／□□［あさなあさな］／天正15(1587)年1月3日

小山田の原（おやまだのはら）

→秋更ける（あきふける）

やへにきりふるーをやまたのはら
ひとはたたーかりにたにこぬーあきふけて

【伊予千句】／何舟［わきてみむ］／大永2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

かりのゆくへのーをやまたのはら
みねたかみーふきこすかせのーあきふけて

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正元 (1504) 年 7 月

隠れ家の山（かくれがのやま）

→埋もれる（うずもれる）

はてはひとりの―かくれかのやま
ふみわけしーいはのかけちのーうつもれて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何木［たますたれ］／成立時不詳

はなみかてらのーかくれかのやま
みよしのやーふかきかすみにーうつもれて

【天正四年万句７０巻】／何垣［かけすすし］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→捨ててから（すててから）

くもはいくへそーかくれかのやま
すてしよりーみはしたひくるーひともなし

【難波田千句】／□□［うめかかの］／文明 14(1482) 年 10 月前後

ひともとひこぬーかくれかのやま
すてしよりーこのよのほかにーみをなして

【新撰菟玖波集／実隆本】／雑五／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

→み吉野（みよしの）

おくかおくなるーかくれかのやま
みよしのはーみねのかけちもーたえはてて

【太神宮法楽千句】／初何［ほのめくは］／長享 2(1488) 年 7 月

けふりもみえぬーかくれかのやま
みよしのはーさくらにくもるーよはのつき

【園塵第三／続群書類従本】／春／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

重なる山（かさなるやま）

→峰の雲（みねのくも）

かさなるやまのーみちはとほくて
かくれるはーいつこならましーみねのくも

【諸尊法紙背３巻】／旧何［あきまてと］／建武 4(1337) 年 6 月 29 日

かさなるやまのーおくそしつけき
みよしのにーいるあとかくせーみねのくも

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

霞む春の遠山（かすむはるのとおやま）

→有明の月（ありあけのつき）

かすみかくれのーはるのとほやま
ありあけのーつきもわかれのーかりなきて

【看聞日記紙背５０巻】／山何［まつそひて］／応永 26(1419) 年 2 月 6 日

かすみにのこるーはるのとほやま
ありあけのーつきのひかりのーさえかへり

【天正四年万句７０巻】／何鳥［かせにしるき］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

霞む山本（かすむやまもと）

→水無瀬川（みなせがわ）

くるるまくさはーかすむやまもと
ところせき―わたりかねたるーみなせかは

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］／

あらしのすゑのーかすむやまもと
ゆきてしもーとははやはるのーみなせかは

【天文年間百韻３８巻】／何木［やまかけて］／天文 21(1552) 年 3 月 11 日

みれはほのかにーかすむやまもと
はるのよもーありあけかたのーみなせかは

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

そこともみえすーかすむやまもと
ほのかにもーあけのこりたるーみなせかは

【慶長年間百韻２７巻】／□□［ねのひして］／慶長 6(1601) 年 1 月 26 日

葛城の山（かつらぎのやま）

→絶え絶え

ちるややなきのーかつらきのやま
かはそひのーみちのいははしーたえたえに

【初瀬千句】／何路［おそさくら］／享徳元・2(1452) 年、4 月

はなおそけなるーかつらきのやま
まつたかくーかかれるふちのーたえたえに

【諸家月次連歌抄】／諸家月次連歌抄／成立 () 年未詳

桜の葛城の山

→朝霞立つ

おくもさくらのーかつらきのやま
あさかすみーたつたやとほくーへたつらむ

【毛利千句】／何田［やまとりも］／文禄3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

さくらさくなるーかつらきのやま
あさかすみーたつたやはなにーなりぬらむ

【園塵第二／続群書類従本】／春／明応4(1495) 年早春

霜凄まじい山

→松現れる

しもすさましくーからすなくやま
かはきりにーふもとのまつはーあらはれて

【葉守千句】／何船［うゑしうゑは］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

しもすさましくーまよふやまもと
けふりよりーいろなきまつのーあらはれて

【元和年間百韻２４巻】／□□［うくひすの］／裏白／元和 9(1623) 年 1 月 3 日

近い山里

→思いやる

めさますかねのーちかきやまさと
おもひやるーみやこのつきにーまくらして

【表佐千句】／何衣［よるやあめ］／文明8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

ゆきのつまきのーちかきやまさと
おもひやるーひなのすまひのーふゆこもり

【明応年間百韻２２巻】／何人［ふきすてよ］／明応 7(1498) 年閏 10 月 6 日

遠山の秋

→紀伊海

いまつきにみるーとほやまのあき
きのうみやーふねをきりまにーこきいたし

【文明十四年万句５２巻】／何木［すゑのつゆ］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

なかめわひぬるーとほやまのあき
きのうみやーたまつしままつーきりこめて

【専順関係２種】／秋／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

残る山影

→帰る

おほゐのにしひーのこるやまかけ
みそれせしーあととやくもはーかへるらむ

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

ほのほのつきのーのこるやまかけ
のにいてしーしかやよをこめーかへるらむ

【天正四年万句７０巻】／花何［うくひすの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

花の山風

→春になる

くもあるつきのーはなのやまかせ
あけほのはーゆふへわかれしーはるなれや

【至徳以前百韻７巻】／□□［くれなゐの］／至徳 4(1387) 年以前

うらみははてしーはなのやまかせ
くれてしもーなほうとまれぬーはるなれや

【大永三年月並千三百韻】／□□［ひとこゑや］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 4 月 23 日

春の山里

→鶯

さくらのことをーはるのやまさと
うくひすのーこゑはかすみのーのきはにて

【太神宮法楽千句】／玉何［あきとほし］／長享 2(1488) 年 7 月

やかてもとへやーはるのやまさと
うくひすのーふるすのたにのーゆききえて

【東山千句】／何路［のわきせし］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

春の山寺（はるのやまでら）

→如月の別れを訪う（きさらぎのわかれをとう）

しきみにとほきーはるのやまてら
きさらきのーわかれのにはをーとひすてて

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

かねさたかなる―はるのやまてら
きさらきの―わかれをたれもーとひいてて

【寛永年間百韻１５巻】／□□［とよとしの］／裏白／寛永 20(1643) 年 1 月 3 日

み吉野の山（みよしののやま）

→長閑（のどか）

かすみやへたつーみよしののやま
やまふきのーせにゆくみつのーのとかにて

【文安雪千句】／何木［しらくもの］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

はなにのみいる―みよしののやま
しらくもの―をのへのまつもーのとかにて

【伊予千句】／何木［かせをてに］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

山が苦しい（やまがくるしい）

→老の坂（おいのさか）

ちかきかよひもーやまそくるしき
こしをおしーてをひくほとのーおいのさか

【河越千句】／何路［ひそさむき］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

こえてまたある―やまそくるしき
かさなれるーとしにかむかふーおいのさか

【文明十四年万句５２巻】／山何［ことたるは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

山桜（やまざくら）

→霞む曙（かすむあけぼの）

くもとのみーみゆるやとほきーやまさくら
こすゑひとつにーかすむあけほの

【因幡千句】／何人［みるたひに］／文明 7(1475) 年 11 月 26 日＜～28 日＞

のこるともーのちはあらしのーやまさくら
つきをもをしめーかすむあけほの

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きりのはに］／成立時不詳

→春の松の枝（はるのまつのえ）

をりそへてーつまきにましるーやまさくら
みとりたちそふーはるのまつかえ

【看聞日記紙背５０巻】／何路［まつころの］／応永 32(1425) 年 10 月 15 日

たかこころーやすらふいそのーやまさくら
をのへしつけきーはるのまつかえ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何路［こころあらは］／存疑／成立時不詳

→行く末の春（ゆくすえのはる）

もみちさへーもろくうつろふーやまさくら
たのむもはかなーゆくすゑのはる

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

みやまにやーさきもならひしーやまさくら
はなのさかりのーゆくすゑのはる

【永正十花千句】／何路［みやまにや］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

山里（やまざと）

→暁の雨（あかつきのあめ）

やまさとのーはるをさひしくーなしはてて
かすめるかねにーあかつきのあめ

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

やまさとの－かせひややかに－めはさめて
はなによふかき－あかつきのあめ

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文9(1541) 年 12 月 25 日

山近い（やまちかい）

→花待ち遠い（はなまちどおい）

やまちかき－よしののさとは－かせさえて
はなまちとほに－おもふはつはる

【美濃千句】／何心［つゆにきえ］／文明4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

やまちかき－いほのきたまと－ひきとちて
はなまちとほに－おくるつれつれ

【寛文年間百韻２２巻】／□□［つきやあらぬ］／寛文 13(1673) 年 7 月 19 日

山の井の水（やまのいのみず）

→木の下（このもと）

むすふはつきぬ－やまのゐのみつ
このもとに－ひとつふたつの－こけのいほ

【成立不詳・宗長以前１５巻】／花之何［ふゆのいろに］／成立時不詳

むすこけふかし－やまのゐのみつ
すすしさは－きりのわかはの－このもとに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／夏／永正2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

山の奥（やまのおく）

→峰の松風（みねのまつかぜ）

すみわひぬ－いつらとしふる－やまのおく
ともとはきくを－みねのまつかせ

【延徳年間百韻１６巻】／夢想［ものおもはて］／延徳元 (1489) 年 9 月 27 日

やまのおく－さひしくとても－いてはせし
こころしてふけ－みねのまつかせ

【大永年間百韻１巻】／何路［いつのよも］／大永 5(1525) 年 4 月 15 日

山の隠れ家（やまのかくれが）

→なる（なる）

むすひかへたる－やまのかくれか
のかれてや－ゆめのうきよと－なりぬらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

あらましちかき－やまのかくれか
つれなきや－のちのなさけと－なりぬらむ

【天正四年万句７０巻】／薄何［やまとほみ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

山の陰（やまのかげ）

→須磨の浦浪（すまのうらなみ）

こえわひぬ－あめにかみなる－やまのかけ
ふなちにあらき－すまのうらなみ

【表佐千句】／唐何［つきはたた］／文明8(1476) 年 3 月 6 日<～8 日>

つらかりし－うきよをかたる－やまのかけ
あはれなかけそ－すまのうらなみ

【永禄年間百韻２８巻】／山何［ゆふかほに］／永禄 2(1559) 年 5 月 20 日

→橋の一筋（はしのひとすじ）

ましはとる－みちのへちかき－やまのかけ
ふみならしたる－はしのひとすち

【明応年間百韻２２巻】／何路［こそたちし］／明応 6(1497) 年 1 月 1 日

すすしさに－しはしかたらふ－やまのかけ
ゆききのみちの－はしのひとすち

【天正年間百韻５７巻】／何路［とふひとの］／天正 14(1586) 年 3 月 19 日

→松風が吹く（まつかぜがふく）

そことなき－かねもすさまし－やまのかけ
こえむをのへは－まつかせそふく

【三島千句】／朝何［やまとほく］／文明3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

つきもたた－こころつくしの－やまのかけ
このはしくれて－まつかせそふく

【難波田千句】／□□［はるのよの］／文明 14(1482) 年 10 月前後

すまれすはーたちもかへらむーやまのかけ
たきのひひきもーまつかせそふく

【紹巴亡父追善千句】／何木［おとろけと］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

けふもまたーくもるいりひのーやまのかけ
みちくるしほにーまつかせそふく

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

→道の掛橋（みちのかけはし）

のるこまをーしはしひかふるーやまのかけ
すゑはあやふきーみちのかけはし

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきうう る］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

あきふけてーたれもかよはぬーやまのかけ
さとはなれなるーみちのかけはし

【天正年間百韻５７巻】／□□［あさなあ さな］／天正 15(1587) 年 1 月 3 日

山の下陰（やまのしたかげ）

→そよぐ秋風（そよぐあきかぜ）

ましはわけゆくーやまのしたかけ
ならのはにーそよきもてくるーあきのかせ

【文安月千句】／何水［つきぬなは］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

いろにすすしきーやまのしたかけ
うゑしたもーそよきいてたるーあきのかせ

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

山の下道（やまのしたみち）

→時鳥（ほととぎす）

むらさめすくるーやまのしたみち
まちてみよーなかてはあらしーほとときす

【文明年間百韻３４巻】／何人［ゆきのやま］／文明 14(1482) 年 1 月 16 日

とふにならはぬーやまのしたみち
またときくーたひのゆくてのーほとときす

【永正年間百韻３４巻】／何人［みやまきに］／永正 14(1517) 年 3 月 22 日

→さ牡鹿の声（さおじかのこえ）

そよくたのもはーやまのしたみち
さをしかのーたちとしらるるーこゑすなり

【天正年間百韻５７巻】／何路［なみこえて］／天正 9(1581) 年 2 月 3 日

きりのあしたのーやまのしたみち
さをしかのーいまひとこゑはーかすかにて

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→鹿鳴く（しかなく）

きこりたたすむーやまのしたみち
くさかりのーふえにはよらぬーしかなきて

【親当関係２種】／親当自連歌合／早稲田大学本／

ゆふきりふかきーやまのしたみち
いりあひのーこゑしつまれはーしかなきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／秋／永正 6(1509) 年以前

山の端の月（やまのはのつき）

→秋風（あきかぜ）

くれてまちとるーやまのはのつき
あきかせにーよふねこたふるーかちのおと

【河越千句】／山何［うくひすに］／文明 2(1470) 年正月 10～12 日

しはしはのこれーやまのはのつき
あきかせにーつゆのいのちもーをしまれて

【聖廟千句】／何人［つきならし］／明応 3(1494) 年 2 月 10 日～12 日

うきをはすてのーやまのはのつき
あきかせにーふせやといへとーまとろまて

【伊庭千句】／三字中略［ちりやすき］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

→秋更ける（あきふける）

ねさめにむかふーやまのはのつき
みをすてむーほともいまはのーあきふけて

【三島千句】／何路［なへてよの］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

まつひとさへそーやまのはのつき
さととほきーしはのいほりにーあきふけて

【長享年間百韻６巻】／何路［さみたれは］／長享 3(1489) 年 5 月 11 日

いるかけのこるーやまのはのつき
いねかてのーしはのとほそのーあきふけて

【大永年間百韻１４巻】／山何［そめしつゆ］／大永 3(1523) 年 9 月 2 日

いてしはいつのーやまのはのつき
たひころもーさむさおほゆるーあきふけて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［みつのうへに］／裏白／慶長 17(1612) 年 1 月 3 日

山の時鳥（やまのほととぎす）

→短夜の月（みじかよのつき）

ほととぎすーはなもまちけるーみやまかな
くれなはいてよーみしかよのつき

【初瀬千句】／何木［ほととぎす］／享徳元・2(1452) 年、4 月

なやここにーとほきやまたのーほととぎす
すきのこす忍のーみしかよのつき

【天文年間百韻３８巻】／何人［なやここに］／天文 4(1535) 年 5 月 1 日

山の松風（やまのまつかぜ）

→柴の庵（しばのいお）

ふるさとよりのーやまのまつかせ
なかなかにーかこふそやすきーしはのいほ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なれてもさひしーやまのまつかせ
たれきてかーこころととめむーしはのいほ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→中々（なかなか）

ふるさとよりのーやまのまつかせ
なかなかにーかこふそやすきーしはのいほ

【太神宮法楽千句】／何人［しかのねを］／長享 2(1488) 年 7 月

なれつつすめるーやまのまつかせ
なかなかにーこけのころもはーさむからて

【園塵第一／続群書類従本】／雑／長享 2 年

山深い（やまぶかい）

→谷の細道（たにのほそみち）

しもにかねーさゆるいりあひーやまふかみ
すきむらとほきーたにのほそみち

【壁草／大東急記念文庫本】／雑上／永正 8(1512) 年 11 月 3 日～永正 9 年

やまふかみーとひくるもまたーなになれや
ひとかかせきかーたにのほそみち

【那智篭／北野天満宮本】／永正十四年／

山時鳥（やまほととぎす）

→明けやらない（あけやらない）

いくよまたるるーやまほととぎす
あめきけはーあけやすきころのーあけやらて

【天文廿年断簡千句】／□□［まつのよを］／天文 20(1551) 年 6 月 10 日～12 日

くもよりいつるーやまほととぎす
す忍とほくーかりねせしののーあけやらて

【永禄石山千句】／初何［しらかしの］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

→浅緑（あさみどり）

きくやおもかけーやまほととぎす
うつし忍のーあともこす忍のーあさみとり

【大永四年月並千二百韻】／□□［うくひすの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 2 月 23 日

うへなくときかーやまほととぎす
あさみとりーはるののこりのーはなさきて

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

→雨晴れる（あめはれる）

まかふやくもちーやまほととぎす
ゆふなみにーうらつたひするーあめはれて

【大永三年月並千三百韻】／□□［たちはなに］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 5 月 23 日

やまほとときすーゆふへとふやと
こすまけはーつきはあらはすーあめはれて

【元和年間百韻２４巻】／□□［えそすきぬ］／元和 8(1622) 年 4 月 13 日

→有明（ありあけ）

はるををしめはーやまほとときす
なこりなほ―おほろつきよのーありあけに

【住吉千句】／初何［さよしくれ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

さつきすきゆくーやまほとときす
みしかよのーくもまわかれぬーありあけに

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

まつにもなかぬーやまほとときす
ありあけにーなるへきつきはーおそくして

【称名寺連歌３巻】／ｘｘ［つきはあき］／正慶元 (1332) 年 9 月 13 夜

よふかきいほのーやまほとときす
かりまくらーさそはれいつるーありあけに

【延徳年間百韻１６巻】／何路［うめかかの］／延徳 4(1492) 年 1 月 23 日

はるもおもはし―やまほとときす
いるかたは―かすみもうすきーありあけに

【弘治年間百韻８巻】／何人［ときはなる］／弘治 3(1557) 年 8 月 28 日

→片岡の杜（かたおかのもり）

みやこはとほきーやまほとときす
かたをかのーもりくるあめにーたちぬれて

【難波田千句】／□□［あくるよを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

はつねめつらしーやまほとときす
かたをかのーもりのこかけにーたたすみて

【浜宮千句】／□□［こちふかは］／

→木の下（このもと）

たひにはつれよーやまほとときす
かへるやとーいふひとはなきーこのもとに

【池田千句】／何路［はなはしるや］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

みやこうつろふーやまほとときす
このもとにーはなたちはなのーかをとめて

【秋津洲千句】／初何［はなならし］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

ひとこゑまてやーやまほとときす
このもとにーいさやすすまむーなつのみち

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何人［うめかかの］／成立時不詳

→春過ぎる（はるすぎる）

やまほとときすーきなけこのころ
ときわかぬーたににははるやーすきぬらむ

【享徳二年千句】／何玉［くらからぬ］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

あとはおとはのーやまほとときす
むらさめやーこすゑはるかにーすきぬらむ

【伊庭千句】／白何［けさやはる］／大永 4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

→花橘（はなたちばな）

やまほとときすーあやなひとこゑ
さかりなるーはなたちはなのーあさゆふに

【伊予千句】／唐何［うつせみの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

みやこうつろふーやまほとときす
このもとにーはなたちはなのーかをとめて

【秋津洲千句】／初何［はなならし］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

くものむかひのーやまほとときす
ふきすくるーはなたちはなのーゆふかせに

【大永四年月並千二百韻】／□□［わけくらし］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 7 月 23 日

→花散る（はなちる）

わかさとうときーやまほとときす
かへるにはーしかむかけなきーはなちりて

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

やまほとときすーなほそまたるる
かりそめにーやとるいほりのーはなちりて

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

→短夜（みじかよ）

さつきすきゆくーやまほとときす
みしかよのーくもまわかれぬーありあけに

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かけたにとめよーやまほとときす
みしかよのーつきもいまはたーみねこえて

【宮島千句】／何船［ちかしてふ］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

→村雨（むらさめ）

わすれぬつてのーやまほとときす
むらさめにーたちよるさくらーまたをりて

【三島千句】／御何［はるとほし］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

こゑはまくらのーやまほとときす
さそはれてーすきゆくかせのーむらさめに

【弘治三年春雪千句】／山何［はなそとも］／弘治 3(1557) 年正月 7 日～9 日

しのひあまるやーやまほとときす
むらさめのーすきけるくもにーよひふけぬ

【天文十八年梅千句】／何船［つきにうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

またもきなかむーやまほとときす
むらさめのーはるるあとよりーうちそそき

【天正年間百韻５７巻】／□□［ききわくや］／天正 18(1590) 年 10 月 8 日

→夜半の月（よわのつき）

ゆくやいつくのーやまほとときす
あらましのーねさめをさそへーよはのつき

【大永三年月並千三百韻】／□□［しくれのあめ］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 10 月 23 日

まつとやおもふーやまほとときす
さらにたたーまくらもとらぬーよはのつき

【天正年間百韻５７巻】／何路［なみこえて］／天正 9(1581) 年 2 月 3 日

→舟に明石の泊（ふねにあかしのとまり）

やまほとときすーゆくもうらみし
ふねにこよひーあかしのとまりーこきわかれ

【東山千句】／何人［つきやしる］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

やまほとときすーひとこゑのそら
ふねよせてーあかしのとまりーいてかてに

【名所句集／静嘉堂文庫本】／旅／（大永前後）

→鶯（うぐいす）

たえにしのちのーやまほとときす
うくひすのーこゑをへたつるーなつはきて

【天文年間百韻３８巻】／何路［ひもすすし］／天文 11(1542) 年 6 月 12 日

いまはといつるーやまほとときす
うくひすのーかへるたにのとーはるくれて

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

→橘（たちばな）

おとつれすてしーやまほとときす
たちはなのーいくやとことにーにほふらむ

【元和年間百韻２４巻】／□□［としとしに］／元和 6(1620) 年 12 月 5 日

よかれかちなるーやまほとときす
たちはなのーはなちるつきはーありあけに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

きけはほのかにーやまほとときす
たちはなのーにほふまくらをーそはたてて

【合点之句／神宮文庫本】／夏／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→花咲く

うへなくときかーやまほとときす
あさみとり―はるののこりのーはなさきて

【大永年間百韻１４巻】／名号［なつころも］／大永 8(1528) 年 4 月 12 日

やまほとときすーくもになくなり
とほきののーひともとあさちーはなさきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／夏／永正 6(1509) 年以前

→花橘

やまほとときすーこゑものこすな
そてかをるーはなたちはなにーかせすきて

【老葉／毛利本】／夏／（文明 17(1485) 年 7 月 23 日頃）

やまほとときすーこゑものこさす
そてかをるーはなたちはなにーかせすきて

【愚句老葉】／夏／永正 17 年

つきおちかかるーやまほとときす
まくらかのーはなたちはなにーめはさめて

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

→春暮れる

かたふくつきのーやまほとときす
はなもいまーむかひのみねのーはるくれて

【天文年間百韻３８巻】／何木［あすのなを］／天文 17(1548) 年 8 月 14 日

かつこえきてのーやまほとときす
あふさかのーおとはのこすゑーはるくれて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

いまはといつるーやまほとときす
うくひすのーかへるたにのとーはるくれて

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

まつよつもれるーやまほとときす
はなはたたーきのふのゆめのーはるくれて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

→峰越える

かけたにとめよーやまほとときす
みしかよのーつきもいまはたーみねこえて

【宮島千句】／何船［ちかしてふ］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

なけむらくものーやまほとときす
さみたれのーなこりすすしくーみねこえて

【園塵第三／続群書類従本】／夏／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

山本

→誰が越える

やまもとのーさともわかれすーきりこめて
くるるまかきをーたれかこゆらむ

【宝徳四年千句】／山何［みにしむは］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

やまもとのーのわきのあとのーしかのこゑ
をのへのみちはーたれかこゆらむ

【永正年間百韻３４巻】／何人［はなのきも］／永正 7(1510) 年 4 月 1 日

山本の里

→掛橋

なかはかすみのーやまもとのさと
かけはしはーのきはのみねにーよこたはり

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

いつくなるらむーやまもとのさと
かけはしはーふむあともなくーくちはてて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［つゆにみを］／慶長 9(1604) 年 6 月 28 日

夕暮れの山

→一曇り

ゆきふりむかふーゆふくれのやま
ひとくもりーしくれしそらはーはるるひに

【顕証院会千句】／白何［にはにさせ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

ほともまちかきーゆふくれのやま
ひとくもりーあらしのあとのーゆきはれて

【称名院追善千句】／山何［ことつてむ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

みねのくも
→峰の雲

ひもさむけなるーゆふくれのやま
みねのくもーかへるやゆきをーさそふらむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つきをはいそけーゆふくれのやま
あらましのーこころにかかるーみねのくも

【文明年間百韻３４巻】／夕何［みつみえぬ］／千句第□／文明 17(1485) 年 6 月 26 日

やまおろし

やまおろし
山颪

ふねにすまのうらなみ
→舟に須磨の浦浪

すさましきーさとのうしろのーやまおろし
ふねさしとむるーすまのうらなみ

【宝徳四年千句】／何人［はなそころ］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

おとはたたーあまりなるまてーやまおろし
よるふねいかにーすまのうらなみ

【東山千句】／何色［しかのねは］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

やまがつ

やまがつ
山賤

あさがおのはな
→朝顔の花

やまかつのーやとりにあたらーあきのつき
つゆをたよりのーあさかほのはな

【永原千句】／何船［いくもとそ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

やまかつのーひとむらううるーくれたけに
かかるかきほのーあさかほのはな

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

やまがつのいお
山賤の庵

けむりたてそえる
→煙立て添える

ひもゆふかけのーやまかつのいほ
こりかへるーましはのけふりーたてそへて

【永禄年間百韻２８巻】／何船［みのこすや］／永禄 2(1559) 年 7 月 16 日

かすみのおくのーやまかつのいほ
ほのかにもーはたやくけふりーたてそへて

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

やまと

やまとことのは
大和言の葉

もろこし
→唐土

みちこそたかき―やまとことのは
もろこしのーふみをよろつのーうへにみて

【延徳年間百韻１６巻】／何船［さよかせも］／延徳 2(1490) 年 7 月 23 日

いのらはいたれーやまとことのは
もろこしのーたひのひとまつーあさゆふに

【老葉／吉川本】／旅／文明 13(1481) 年夏頃

やまなし

やまなしのはな
山梨の花

おうのうらなみ
→麻生の浦浪

やまなしのーみのとしきりをーはなにみて
はるはありけり―をふのうらなみ

【享禄年間百韻８巻】／何船［はるのいろ］／享禄 5(1532) 年 1 月 18 日

やまなしのーはなにかつかつーとひよりて
なほはるしるきーをふのうらなみ

【天正四年万句７０巻】／一字露顕［わかくさも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

やまぶき

きしのやまぶき
岸の山吹

かわずなく
→蛙鳴く

こてふとひかふーきしのやまふき
かはつなくーはるのみつたにーとりおりて

【文安月千句】／朝何［ひかりをも］／文安 2(1445) 年 8 月 15 日

かつうつろへるーきしのやまふき
かはつなくーさとのかはつらーすきやらて

【永正十花千句】／何木［ひかすたに］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日〜14 日

はるをのこせるーきしのやまふき
かはつなくゃこゑさへうもれーみつさひて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何路［あひにあき］／成立時不詳

水に匂う山吹（みずにおうやまぶき）

→雨晴れた春の暮れ（あめはれたはるのくれ）

こふかきみつにーにほふやまふき
なかあめのーひをうつすまにーはるくれて

【三島千句】／二字反音［いけすみて］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日〜23 日

いしはしるみつにーにほふやまふき
あめはるるーせせのしらなみーはるくれて

【成立不詳・宗長以前１５巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

やよい

弥生の雨（やよいのあめ）

→時鳥（ほととぎす）

やよひのあめのーゆふくれのやま
なつまたてーなくをきかはやーほととぎす

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日〜13 日

やよひのあめのーつきくもるそら
いまよりやーしのひねならしーほととぎす

【天文年間百韻３８巻】／山何［ほたるとふ］／天文 6(1537) 年 5 月 10 日

ゆう

霞む夕暮れ（かすむゆうぐれ）

→月の出（つきので）

あけほののみかーかすむゆふくれ
いりあひのーかねにをのへのーつきいてて

【池田千句】／何船［おそくとく］／永正 7(1510) 年春以前＜永正 5 年春＞

つまきのみちのーかすむゆふくれ
しつかすむーまかきのそともーつきいてて

【大永四年月並千二百韻】／□□［しもやひぬ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 9 月 23 日

春の夕暮れ（はるのゆうぐれ）

→月出る（つきいでる）

まさこちとほきーはるのゆふくれ
とけわたるーみきはもこほるーつきいてて

【天正年間百韻５７巻】／何船［もしほくさ］／天正 7(1579) 年 1 月 13 日

こけふむやまのーはるのゆふくれ
しつかなるーはなのおくよりーつきいてて

【合点之句／神宮文庫本】／春／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

宿の夕暮れ（やどのゆうぐれ）

→花の陰（はなのかげ）

くさかるをかのーやとのゆふくれ
たちよらむーこまつかれゆくーはなのかけ

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

あらしさひしきーやとのゆふくれ
たかためかーゆきをはらはむーはなのかけ

【専順関係２種】／春／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

夕嵐（ゆうあらし）

→入相の鐘（いりあいのかね）

やまてらのーかへさをおくるーゆふあらし
ひとりのみきくーいりあひのかね

【大永四年月並千二百韻】／□□［ゆふたちは］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 6 月 23 日

ゆふあらしーもよほすやまのーむらくもに
つねよりさひしーいりあひのかね

【成立不詳・宗長以前１５巻】／初何［たてなから］／成立時不詳

夕暮れの雲（ゆうぐれのくも）

→時雨れる（しぐれる）

をのへにのこるーゆふくれのくも
やまさとやーはるるともなくーしくるらむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［はなやあらぬ］／延徳 2(1490) 年 2 月 25 日

へたつるかたのーゆふくれのくも
やまとりのーをのへのまつやーしくるらむ

【大永三年月並千三百韻】／□□［はなにつき］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 3 月 23 日

→時鳥（ほととぎす）

なかめこそやれーゆふくれのくも
きのふかもーなきつとききしーほとときす

【天文十八年梅千句】／何墻［しつくさへ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

わかやまのはのーゆふくれのくも
こころとやーなくねをしまぬーほとときす

【大永四年月並千二百韻】／□□［へたつなよ］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 3 月 23 日

→峰越える（みねこえる）

それもともなるーゆふくれのそら
くもにけふーはなちりはつるーみねこえて

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享 2(1488) 年 1 月 22 日

すすしきやまのーゆふくれのそら
かせさそふーひとむらさめのーみねこえて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きたにみる］／成立時不詳

夕暮れの空（ゆうぐれのそら）

→なる

やますみふかきーゆふくれのそら
いつしかもーまなくしくれにーなりぬらむ

【永正年間百韻３４巻】／何路［あきにかせ］／永正 8(1511) 年 7 月 14 日

つくつくむかふーゆふくれのそら
きえにしはーいつれのくもとーなりぬらむ

【園塵第三／続群書類従本】／雑下／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

→時鳥（ほととぎす）

あつきひしのくーゆふくれのそら
ひとこゑもーまれになりたるーほとときす

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日〜25 日

そことなにはのーゆふくれのそら
ほとときすーあしのしのひにーなきすきて

【竹林抄／新古典文学大系本】／夏／文明 8(1476) 年 5 月頃

うらみをかくるーゆふくれのそら
ほとときすーまたせてもたたーひとこゑに

【壁草／大阪天満宮文庫本】／雑上／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

→山里（やまざと）

なくさめかねつーゆふくれのそら
やまさとはーことわりよりもーさひしくて

【竹林抄／新古典文学大系本】／雑上／文明 8(1476) 年 5 月頃

あしたのかすみーゆふくれのそら
やまさとはーはなのにほひにーとりのこゑ

【論書４種】／宗長／

→我が心（わがこころ）

なかめわひぬるーゆふくれのそら
さりともとーおもひなれそーわかこころ

【竹林抄／新古典文学大系本】／恋下／文明 8(1476) 年 5 月頃

おもひなつけそーゆふくれのそら
こひしさもーたかなすことそーわかこころ

【北畠家連歌合／書陵部本】／北畠家連歌合／文明 2(1470) 年正月 6 日

夕暮れの山（ゆうぐれのやま）

→一曇り（ひとくもり）

ゆきふりむかふーゆふくれのやま
ひとくもりーしくれしそらはーはるるひに

【顕証院会千句】／白何［にはにさせ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

ほともまちかきーゆふくれのやま
ひとくもりーあらしのあとのーゆきはれて

【称名院追善千句】／山何［ことつてむ］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

→峰の雲（みねのくも）

ひもさむけなるーゆふくれのやま
みねのくもーかへるやゆきをーさそふらむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

つきをはいそけーゆふくれのやま
あらましの―こころにかかるーみねのくも

【文明年間百韻３４巻】／夕何［みつみえぬ］／千句第□／文明 17(1485) 年 6 月 26 日

夕時雨（ゆうしぐれ）

→雲の群々（くものむらむら）

きほふかとーおもへはよそのーゆふしくれ
はれてもさむきーくものむらむら

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

はるるかとーみれはあとよりーゆふしくれ
こすゑにのこるーくものむらむら

【紹巴亡父追善千句】／何船［すみそめの］／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

夕涼み（ゆうすずみ）

→秋風が吹く（あきかぜがふく）

すきたてるーいくきのもとのーゆふすすみ
ここにすみけるーあきかせそふく

【伊勢千句】／何木［すめるよの］／大永 2(1522) 年 8 月 4 日～8 日

なつ□たたーいはゐにちきるーゆふすすみ
そてにをりをりーあきかせそふく

【文明年間百韻３４巻】／何船［かへれとて］／文明 18(1486) 年 3 月 27 日

夕月夜（ゆうづくよ）

→覚束ない（おぼつかない）

まつかけはーみえてすくなきーゆふつくよ
おほつかなしやーあきのくるみち

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

かすみけりーさらてたにもとーゆふつくよ
おほつかなしやーなによふことり

【永正年間百韻３４巻】／ｘｘ［なつころも］／永正 7(1510) 年 4 月 1 日

夕べ（ゆうべ）

→入相の鐘（いりあいのかね）

たえぬとてーひとをまつへきーゆふへかは
はなはちるらむーいりあひのかね

【太神宮法楽千句】／朝何［つゆにたに］／長享 2(1488) 年 7 月

わするなよーまたてすくさむーゆふへかは
みをおとろかすーいりあひのかね

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

こころなくーたたにすくへきーゆふへかは
きけやちきりしーいりあひのかね

【永正年間百韻３４巻】／玉何［ちりてわか］／永正 2(1505) 年 8 月 22 日

夕べ限る（ゆうべかぎる）

→荻の上風（おぎのうわかぜ）

うきことやーゆふへゆふへにーかきるらむ
ほのかなりつる―をきのうはかせ

【天文廿四年梅千句】／二字反音［くれなゐの］／天文 24(1555) 年正月 7 日

さひしさや―わかゆふへにやーかきるらむ
うからはきかし―をきのうはかせ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［はるふかし］／成立時不詳

夕まぐれ（ゆうまぐれ）

→入相の鐘（いりあいのかね）

ゆふまくれ－さとなきやまの－きりのうち
そこともきかぬ－いりあひのかね

【太神宮法楽千句】／薄何［まきのはや］／長享 2(1488) 年 7 月

いつかたに－あきのこるらむ－ゆふまくれ
きりにこもれる－いりあひのかね

【文明年間百韻３４巻】／何人［ちきりあれや］／文明 14(1482) 年 3 月 20 日

ものおもふ－あすはいかかの－ゆふまくれ
こころをつくす－いりあひのかね

【文明年間百韻３４巻】／何路［やまかせに］／文明 15(1483) 年 3 月 2 日

→荻の上風（おぎのうわかぜ）

のをみれは－すすきかれたつ－ゆふまくれ
あきのなこりの－をきのうはかせ

【文安雪千句】／何船［かせにとふ］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

あきはいま－すすしきほとの－ゆふまくれ
うすきそてふく－をきのうはかせ

【美濃千句】／何路［ほとときす］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

ゆうがお

夕顔（ゆうがお）

→黄昏の空（たそがれのそら）

ゆふかほの－はなにくるまを－ひきいれて
けはひしられぬ－たそかれのそら

【天正四年万句７０巻】／何人［をらてみよ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

ゆふかほの－かきほのつゆに－やすらひて
はなにことと－ふたそかれのそら

【菟玖波集／広島大学本】／春下／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

夕顔の契り（ゆうがおのちぎり）

→黄昏時（たそがれどき）

ゆふかほの－やともかりなる－ちきりにて
たそかれときそ－ひとはまたるる

【看聞日記紙背５０巻】／唐何［いやとしに］／応永 31(1424) 年 1 月 25 日

ゆふかほの－はなはちきりの－しるへにて
たそかれときそ－こころうかるる

【看聞日記紙背５０巻】／何物［いつれみむ］／応永 32(1425) 年 9 月 17 日

ゆうだち

夕立（ゆうだち）

→浪の音が涼しい（なみのおとがすずしい）

ゆふたちの－すくるかたへの－たまりみつ
いはまのさなみ－おとそすすしき

【顕証院会千句】／山何［あさもよひ］／宝徳元 (1449) 年 8 月 19 日～21 日

ゆふたちの－ゆくへにつるる－おきつふね
よするやなみの－おとそすすしき

【伊予千句】／何馬［もろひとの］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

夕立の後（ゆうだちのあと）

→急ぐ（いそぐ）

ひはまたのこる－ゆふたちのあと
こぬあきを－ひくらしのねや－いそくらむ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［よつのとき］／裏白／慶長 18(1613) 年 1 月 3 日

いつるひきよき－ゆふたちのあと
□□□をも－くれぬ□□とや－いそくらむ

【天正四年万句７０巻】／山何［みかつきの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→雲の途絶えにほのめく（くものとだえにほのめく）

ひととほりせし－ゆふたちのあと
ひのかけは－くものとたえに－ほのめきて

【嵯峨千句】／何人［さきてちる］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

ふりめくりたる－ゆふたちのあと
むらくもの－たえまのひかり－ほのめきて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［はるにまつ］／裏白／慶長 6(1601) 年 1 月 3 日

ゆうつけどり

木綿付け鳥を聞く（ゆうつけどりをきく）

→深い夜（ふかいよる）

ゆふつけとりをーうらみてそきく
いましはしーうちもねぬへくーふかきよに

【葉守千句】／何路［しくるやと］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

ゆふつけとりをーなこりにそきく
ゆめひとのーあとはかもなくーふかきよに

【住吉千句】／何木［つきはふゆ］／大永元 (1521) 年 11 月 1 日～14 日

ゆき

内の雪（うちのゆき）

→浪の浮舟（なみのうきふね）

もろともにーひともわけけりーうちのゆき
よるへはいつくーなみのうきふね

【看聞日記紙背５０巻】／何路［うのはなの］／応永 30(1423) 年 4 月 4 日

あとみするーしのひかよひのーうちのゆき
ことにこきいるーなみのうきふね

【看聞日記紙背５０巻】／何人［かみにうめ］／応永 31(1424) 年 2 月 25 日

草は残らない雪の下折（くさはのこらないゆきのしたおれ）

→野分する庭に月（のわきするにわにつき）

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはのつきかけーよるさえて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋下／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

くさはのこらぬーゆきのしたをれ
のわきせしーにはをしつかにーつきふけて

【下草／金子本】／秋／延徳 4(1492) 年頃

今朝の初雪（けさのはつゆき）

→冴え冴える（さえさえる）

ふるきいほりのーけさのはつゆき
おきゐつつーしはたくよはのーさえさえて

【寛正年間百韻２０巻】／何人［けふこすは］／寛正 3(1462) 年 2 月 27 日

むらむらのこるーけさのはつゆき
ふきたゆむーかせもしはしはーさえさえて

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

→埋火（うずみび）

やまのはまてのーけさのはつゆき
うつみひにーよるのあらしやーかへるらむ

【下草／東山御文庫本】／冬／明応 5(1496) 年 11 月 18 日

ふゆともしらしーけさのはつゆき
うつみひにーさむさわすれしーとをあけて

【園塵第四／早稲田大学本】／冬／永正 6、7 年

越の白雪（こしのしらゆき）

→帰る雁（かえるかりがね）

はるふかきまてーこしのしらゆき
ありあけのーつきもなこりとーかへるかり

【看聞日記紙背５０巻】／山何［あつさなほ］／応永 32(1425) 年閏 6 月 25 日

きゆるひもなきーこしのしらゆき
かへるかりーいつかたこえてーまたはこむ

【享禄年間百韻８巻】／白何［あさみとり］／享禄 3(1530) 年 3 月 2 日

簾を巻けば雪（すだれをまけばゆき）

→夜もすがら（よもすがら）

すたれをまけはーゆきしろきやま
よもすからーしくれしつきのーけさすみて

【弘治年間百韻８巻】／何船［たくそてに］／弘治 2(1557) 年 12 月 2 日

すたれをまけはーけさのうすゆき
よもすからーあらしをそてにーかたしきて

【成立不詳・宗養以前８巻】／朝何［なひくよや］／成立時不詳

峰の白雪（みねのしらゆき）

→残(のこる)る

のはしもかれのーみねのしらゆき
さとふりぬーたかかよひちのーのこるらむ

【紫野千句】／何路［あふちさく］／延文2(1357)年以後-応安3年6月以前

それとはかりのーみねのしらゆき
いつおきてーかれののしもはーのこるらむ

【紫野千句】／山何［ゆふたちは］／延文2(1357)年以後-応安3年6月以前

ふりそめけりなーみねのしらゆき
まつたかくーしくれのくもやーのこるらむ

【熊野千句】／何色［なみしけし］／文正元(1466)年3月以前

峰の雪(みねのゆき)

→年が暮れる(としがくれる)

みねのゆきーいくへともなくーふみならし
つまきこりつむーとしはくれけり

【出陣千句】／白何［あをやきや］／永正元(1504)年10月25日～27日

あさなあさなーやへふりまかふーみねのゆき
はやのこりなくーとしはくれけり

【天文年間百韻38巻】／何路［あさかほの］／天文10(1541)年7月29日

雪がふり晴れる(ゆきがふりはれる)

→寒ゆる夕風(さゆるゆうかぜ)

まさこちにーまきるるゆきのーふりはれて
ふきあけののにーさゆるゆふかせ

【文安頃千句4巻】／何路［やへひとへ］／

ふりはれてーつきにもなれるーゆきのかな
くさきのうへにーさゆるゆふかせ

【長禄三年千句11巻】／初何［ふりはれて］／長禄3(1459)年12月2日～5日

雪消える(ゆききえる)

→鶯の声(うぐいすのこえ)

たきつせのーまさるはおくのーゆききえて
ふるすをいつるーうくひすのこゑ

【看聞日記紙背50巻】／山何［やよやよひ］／応永31(1424)年3月18日

ふりつつもーのやまをわかつーゆききえて
みきりにちかしーうくひすのこゑ

【天正年間百韻57巻】／何垣［ゆくそてに］／天正11(1583)年閏1月1日

→氷流れる(こおりながれる)

はるのひのーかすみののやまーゆききえて
こほりなかるるーさほのかはなみ

【永享年間百韻4巻】／何木［ささのはの］／永享6(1434)年6月18日

うくひすのーこゑのかよひちーゆききえて
こほりなかるるーたきのゆくすゑ

【寛正年間百韻20巻】／何水［をるひとを］／寛正5(1464)年3月29日

雪になる(ゆきになる)

→急がれる(いそがれる)

ゆきにやならむーそらそさむけき
のをとほみーつまきのみちのーいそかれて

【因幡千句】／何石［やまはたか］／文明7(1475)年11月26日<～28日>

ゆきにやならむーをちかたのくも
ふゆこもりーこころになほもーいそかれて

【文明十四年万句52巻】／初何［をるそてに］／文明14(1482)年7月4日～9月14日

雪の曙(ゆきのあけぼの)

→山高い(やまたかい)

すきむらうすきーゆきのあけほの
やまたかみーよるのあらしやーよわるらむ

【難波田千句】／□□［ゆくはるに］／文明14(1482)年10月前後

ふしにはれたるーゆきのあけほの
つくりてはーおとろくにはのーやまたかみ

【東山千句】／下何［てるつきに］／永正15(1518)年8月10日～12日

雪の朝明け(ゆきのあさあけ)

→薄霞（うすがすみ）

なかめにしかしーゆきのあさあけ
ふもとまてーこしのたかねのーうすかすみ

【文明十四年万句５２巻】／一字露顕［ちあきふる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

たつはるしるきーゆきのあさあけ
やまはまた―こそのままなるーうすかすみ

【論書４種】／宗長／

雪の内（ゆきのうち）

→冬籠もる頃（ふゆこもるころ）

むらとりのーたつたにみえぬーゆきのうち
たれとくらさむーふゆこもるころ

【三島千句】／御何［はるとほし］／文明 3(1471) 年 3 月 21 日～23 日

たくしはのーのこるともなきーゆきのうち
かせもあたらすーふゆこもるころ

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何袋［またしかし］／成立時不詳

雪の中空（ゆきのなかぞら）

→ふきと吹く（ふきとふく）

くれわたりたるーゆきのなかそら
ふきとふくーあらしのおとはーしつかにて

【羽柴千句】／何人［すくにゆく］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

のはちりきゆるーゆきのなかそら
ふきとふくーかせよりのちのーあさつくひ

【天正年間百韻５７巻】／ｘｘ［わけゆかは］／天正 4(1576) 年 8 月 19 日

ゆくえ

身の行方（みのゆくえ）

→明かし暮らす（あかしくらす）

いにしへにーまかせやせましーみのゆくへ
いたつらにやは―あかしくらさむ

【伊予千句】／御何［すすしさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

たくふれはーかせまつつゆのーみのゆくへ
なかめてつきにーあかしくらさむ

【文明十四年万句５２巻】／堀何［かるひとは］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ゆくすえ

老いの行く末（おいのゆくすえ）

→森の下草（もりのしたくさ）

あるにまかするーおいのゆくすゑ
たねさへにーもりのしたくさーよもかれし

【寛正年間百韻２０巻】／何人［いはかねに］／寛正 2(1461) 年 9 月 23 日

たのむもあるやーおいのゆくすゑ
ふゆかれのーもりのしたくさーはるまちて

【新撰菟玖波集／実隆本】／冬／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

風の行末（かぜのゆくすえ）

→植え置く（うえおく）

いかにふきそふーかせのゆくすゑ
うゑおきし―そのふのたけのーかけふかみ

【天正年間百韻５７巻】／何人［わかくさも］／天正 11(1583) 年 1 月 10 日

のとかになりぬーかせのゆくすゑ
うゑおきしーみきりのまつのーわかみとり

【文禄二年千句１０巻】／何木［うすきりや］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

月の行く末（つきのゆくすえ）

→時雨れる（しぐれる）

なみにかたふくーつきのゆくすゑ
をしかなくーあはちのやまやーしくるらむ

【大永年間百韻１４巻】／何人［ゆきのうちに］／大永 5(1525) 年 1 月 25 日

あかつきかたのーつきのゆくすゑ
つゆさむきーまくらのうへやーしくるらむ

【天正年間百韻５７巻】／何路［とふひとの］／天正 14(1586) 年 3 月 19 日

ゆくすえのそら
行く末の空

→帰るさ

こたへかたしやーゆくすゑのそら
ことのはもーおよはぬはなのーかへるさに

【葉守千句】／唐何［したをれを］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

おもへはやすきーゆくすゑのそら
かへるさにーなるをのふなちーやまみえて

【大永四年月並千二百韻】／□□［かけきゆる］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 8 月 23 日

→植え置く

□□□□□□□ーゆくすゑのそら
とくおそきーはなをかすかすーうゑおきて

【天正四年万句７０巻】／何鳥［はつしもは］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7月 19 日

まかひやせましーゆくすゑのそら
しらゆきのーほとをとはなをーうゑおきて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／春／永正 6(1509) 年以前

ゆめ

いにしえのゆめ
古の夢

→小夜枕

わかれしままのーいにしへのゆめ
さよまくらーかねよりのちはーまとろまて

【永原千句】／何木［おとそなき］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

みるもくやしきーいにしへのゆめ
つきひとりーかはらぬあきのーさよまくら

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

かりのよるのゆめ
仮の夜の夢

→朝の雲

はかなしなーかりにみたりしーよるのゆめ
あしたのくものーあともとまらす

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

かりそめにーなれてかへりしーよるのゆめ
あしたのくものーのこるやまのは

【専順関係２種】／雑／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

かりふしのゆめ
仮臥の夢

→鐘の声

いつちさめゆくーかりふしのゆめ
かねのこゑーきこえてのちのーふかきよに

【天文年間百韻３８巻】／山何［つきやけさ］／天文 21(1552) 年 7 月 26 日

むすひもあへぬーかりふしのゆめ
かねのこゑーそこともしらすーあけはてて

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［しかそなく］／天文 24(1555) 年 9 月 19 日

ただゆめのうち
ただ夢の内

→まどろむ

おとつれぬるやーたたゆめのうち
つきよよしーとはまちつるもーまとろみて

【永禄年間百韻２８巻】／何船［ひきううる］／裏白／永禄 5(1562) 年 1 月 3 日

ひかりのかけはーたたゆめのうち
ともしひのーふくるもしらすーまとろみて

【行助関係４種】／行助句集／書陵部本／

はるのよのゆめ
春の夜の夢

→草枕

みえこしやたたーはるのよのゆめ
つきもいつーのとかになれむーくさまくら

【伊予千句】／何垣［なつくさは］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

かへるともなきーはるのよのゆめ
おもはすよーすみれつむのの－くさまくら

【専順関係２種】／法眼専順連歌／赤木文庫本／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

まくらのゆめ
枕の夢

→雁の声（かりのこえ）

まくらのゆめを－さそふあきかせ
いつくとも－おほえすとほき－かりのこゑ

【文明年間百韻３４巻】／□□［ゆきのかけ］／文明 5(1473) 年 12 月 5 日

まくらのゆめを－さますはるかせ
わかるるや－ありあけかたの－かりのこゑ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［あめのひの］／文禄 2(1593) 年 5 月

→寝る時鳥（ねるほととぎす）

まくらのゆめに－さはるかのこゑ
ねぬるまを－うらみやすらむ－ほとときす

【行助関係４種】／行助句集／大阪天満宮本／

まくらのゆめに－つけやまつらむ
ぬるひとに－こゑをはをしめ－ほとときす

【萱草／伊地知本】／夏／文明 6(1474) 年 2 月以前

短夜の夢（みじかよのゆめ）

→忍び妻（しのびづま）

むすふともなき－みしかよのゆめ
まちふけて－あふもほとなき－しのひつま

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

みるもすくなき－みしかよのゆめ
ふけてあふ－わかれそはやき－しのひつま

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しもやいと］／応永 31(1424) 年 10 月 26 日

→難波の葦（なにわのあし）

とけてやはみる－みしかよのゆめ
かせそよく－なにはのあしの－かりまくら

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

おもかけをしき－みしかよのゆめ
あふほとも－なにはのあしの－ふしのまに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

夢覚める（ゆめさめる）

→山風が吹く（やまかぜがふく）

ものうかる－をののかりねに－ゆめさめて
ふかきよかはの－やまかせそふく

【享徳二年千句】／手何［なほみよと］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

いにしへの－たたちかなしき－ゆめさめて
みはならはしの－やまかせそふく

【大永三年月並千三百韻】／□□［はるとふく］／月並千三百韻／大永 3(1523) 年 1 月 23 日

夢の浮橋（ゆめのうきはし）

→古（いにしえ）

ねぬよにくつる－ゆめのうきはし
いにしへの－なからのみやに－つきをみて

【老葉／吉川本】／秋／文明 13(1481) 年夏頃

うつつともかな－ゆめのうきはし
いにしへの－ふてのまきまき－ほのかにて

【宗長関係８種】／興津宛／書陵部本／

→御幸する（みゆきする）

そをたにかけよ－ゆめのうきはし
みゆきせし－あとはしたふも－とほきよに

【明応年間百韻２２巻】／山何［ほとときす］／明応 9(1500) 年 4 月 9 日

あとものこらぬ－ゆめのうきはし
みゆきせし－そのよこひしき－ふるてらに

【園塵第四／早稲田大学本】／雑下／永正 6、7 年

→涙河（なみだがわ）

つくやまくらの－ゆめのうきはし
とこのうへの－うたかたやみの－なみたかは

【元亀年間百韻６巻】／何人［はなのときも］／元亀 4(1573) 年 6 月 6 日

はかなくかよふ－ゆめのうきはし
わたるせは－いつくなるらむ－なみたかは

【天正四年万句７０巻】／一宇露顕［わかくさも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

→春の夜（はるのよ）

とたえかちなるーゆめのうきはし
ねぬるまのーほとはみしかきーはるのよに

【永禄石山千句】／何人［つきやかる］／永禄 7(1564) 年 5 月 12 日

たえはてけりなーゆめのうきはし
いとはやもーあけなむとするーはるのよに

【寛正年間百韻２０巻】／□□［なかつきと］／寛正 2(1461) 年 9 月

→峰に分かれる（みねにわかれる）

たたつゆのまのーゆめのうきはし
つきいれはーみねにわかるるーよるのくも

【美濃千句】／何草［いつくにて］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

夢の面影（ゆめのおもかげ）

→床の上（とこのうえ）

うつつはかりのーゆめのおもかけ
まくらかもーあかてまたねのーとこのうへ

【称名院追善千句】／何路［いるかたの］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

つきをなこりのーゆめのおもかけ
ふたりねしーあとすさましきーとこのうへ

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

夢の仮枕（ゆめのかりまくら）

→月に幾度（つきにいくたび）

ならはすはーみえましゆめかーかりまくら
つきにいくたひーかけしふるさと

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何路［みねちかし］／成立時不詳

みしゆめのーのちもよなかきーかりまくら
つきにいくたひーとこのやまかせ

【天和年間百韻２巻】／□□［おいかみに］／天和 2(1682) 年 4 月 3 日

→武蔵野の原（むさしののはら）

ゆめちにもーゆきつつおなしーかりまくら
またみぬかたやーむさしののはら

【羽柴千句】／薄何［たちはなの］／天正 6(1578) 年 5 月 18・19 日

すゑいかにーみはてぬゆめのーかりまくら
あすもわくへきーむさしののはら

【文明十四年万句５２巻】／山何［あきかせに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

夜の夢（よるのゆめ）

→古の月（いにしえのつき）

とめもえぬーまくらのうへのーよるのゆめ
みしはいつそのーいにしへのつき

【享徳二年千句】／唐何［こころひく］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

はるかなるーところもかよふーよるのゆめ
あふとはしるやーいにしへのつき

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

よ

味気ない世（あじけないよ）

→頼み置く（たのみおく）

わかきもしらすーあちきなのよや
あととへとーたのめおきてもーいかならむ

【難波田千句】／□□［みつのおもに］／文明 14(1482) 年 10 月前後

なれこしとしもーあちきなのよや
しかはかりーたのめおきてもーわするらむ

【大永四年月並千二百韻】／□□［うくひすの］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 2 月 23 日

変わる世の中（かわるよのなか）

→夏衣（なつごろも）

ひとのこころのーかはるよのなか
なつころもーはるのはなそめーぬきすてて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

さめてむちうにーかはるよのなか
なつころもーついたちきたるーよはあけて

【新続犬筑波集】／夏／万治 3(1660) 年正月

捨てる世の中

→佗ぬれば思う

なほいかならむーすつるよのなか
わひぬれはーおもひしことのーまさるみに

【表佐千句】／何人［はなそくも］／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

まよふうちにもーすつるよのなか
わひぬれはーおもふこにさへーちかつかて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／雑／永正 6(1509) 年以前

後の世の道

→大和歌

いかさまならむーのちのよのみち
かすかすにーかはりもてきぬーやまとうた

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何船［ちりしえぬ］／成立時不詳

くらきそうらみーのちのよのみち
たとたとしーこれよりさきのーやまとうた

【宗砌関係９種】／宗砌句／静嘉堂文庫本ｂ／

人の心の変わる世の中

→秋の暮れ

ひとのこころのーかはるよのなか
やまさとをーうかれいてめやーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
いまをなほ―とへやよしののーあきのくれ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→秋が来る

ひとのこころのーかはるよのなか
うつせみのーはやまおろしにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
しるしらぬーひとつなみたにーあきはきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→哀れ

ひとのこころのーかはるよのなか
よもきふをーかれぬあるしはーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
なきあとはーにくかりしたにーあはれにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→色見える

ひとのこころのーかはるよのなか
まちをしむーはなにほとなきーいろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
たけはそのーこをおもふともーいろみえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→憂い身の時

ひとのこころのーかはるよのなか
うきみさへーときにやあふとーはるたちて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うきみさへーいまはのときやーをしからむ

【萱草／伊地知本】／雑／文明 6(1474) 年 2 月以前

→衰える

ひとのこころのーかはるよのなか
そのいへは―のこれとみちのーおとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
あかむれはーかみのしるしはーおとろへて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→袖濡れる

ひとのこころのーかはるよのなか
ききわひぬーしくれこのはにーそてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
おいかみはーわかなつむにもーそてぬれて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→旅

ひとのこころのーかはるよのなか
うきにあひーなさけをみるもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うみやまのーなあるところもーたひなれや

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→契り

ひとのこころのーかはるよのなか
なへてうきーあきなとほしのーちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
むかしたれーはなよりまつをーちきるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→月を見る

ひとのこころのーかはるよのなか
よつのときーいつれまさるとーつきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
すさましとーいひししはすのーつきをみて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→とりどり

ひとのこころのーかはるよのなか
さむきひはーみつにいるてふーとりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
すてかたきーわかふたみちのーとりとりに

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→儚い羽根を並べる鳥部山

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年
2 月以前

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはをもならへしーとりへやま

【老葉／書陵部宗訊筆本】／旅／

→花咲く

ひとのこころのーかはるよのなか
のへをわけーやまちをたとるーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みやまきをーかたはらになすーはなさきて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応
仁 2(1468) 年 5 月下旬

→花もない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれへあるーみはなかめつるーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
うたのみちーまことをうるはーはなもなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→羽根を並べる鳥部山

ひとのこころのーかはるよのなか
とりへやまーはねをならへしーすゑたえて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
はかなしやーはねをならへしーとりへやま

【萱草／伊地知本】／恋／文明 6(1474) 年 2 月以前

→一つ

ひとのこころのーかはるよのなか
つきはたたーみやもわらやもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
こをおもふーみちのみたれもーひとつにて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→時鳥

ひとのこころのーかはるよのなか
ほとときすーはななきころをーなくさめて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
またしよもーなきかやまちのーほとときす

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ほとときすーかへるやまちはーともならて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知らない

ひとのこころのーかはるよのなか
うれしさもーうきもゆめなるーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
ときをえはーなほおそるへきーみをしらて

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→身を知る

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーわれとさためむーやともなし

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
みをしれはーいはむうらみもーなきものを

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

→我が上

ひとのこころのーかはるよのなか
わかうへにーおもはてたれをーそしるらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

ひとのこころのーかはるよのなか
わかうへにーほしのひとよのーあきもかな

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

人の心の世の中

→花を恨む

ひとのこころのーあたしよのなか
はなをたれーうつろふものとーうらむらむ

【竹林抄／新古典文学大系本】／春／文明 8(1476) 年 5 月頃

ひとのこころのーかはるよのなか
なつやまとーみなすをはなやーうらむらむ

【専順宗祇百句付】／専順宗祇百句付／応仁 2(1468) 年 5 月下旬

世に長らえる（よにながらえる）

→花の一本（はなのひともと）

あるはみなーなきよかなしきーなからへに
えたももききのーはなのひともと

【永禄元年花千句】／□□［さそふなよ］／永禄元 (1558) 年 3 月 23 日～25 日

あたなりしーよはけふのみのーなからへに
くちきにのこるーはなのひともと

【天正四年万句７０巻】／何路［うすきりに］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

世の中（よのなか）

→身を安く（みをやすく）

たのむことーあれはなほうきーよのなかに
おいてやひとはーみをやすくせむ

【延徳年間百韻１６巻】／何人［うすゆきに］／延徳 3(1491) 年 10 月 20 日

をくるまのーくるしくめくるーよのなかに
うしやいつかはーみをやすくせむ

【延徳年間百韻１６巻】／初何［さけはさく］／千句第三／延徳 4(1492) 年 3 月 3 日

世の習い（よのならい）

→蓬生の影（よもぎうのかげ）

おとろへもーさかえもおなしーよのならひ
さそふにいてぬーよもきふのかけ

【元和年間百韻２４巻】／□□［よにおほへ］／元和 7(1621) 年 1 月 19 日

しのふるもーかくれかたしよーよのならひ
けふりとともの－よもきふのかけ

【天正四年万句７０巻】／手何［はつあられ］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

世ばかり掛かる（よばかりかかる）

→辛い玉の緒（つらいたまのお）

おなしよのーたのみはかりやーかかるらむ
かすならぬこそーつらきたまのを

【大原野十花千句】／何路［けふこそは］／元亀 2(1571) 年 2 月 5 日～7 日

いつのよのーむくひはかりにーかかるらむ
いとふ□□□□ーつらきたまのを

【大永四年月並千二百韻】／□□［かけきゆる］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 8 月 23 日

世を厭う（よをいとう）

→墨染の袖（すみぞめのそで）

うかりけりーよやたたひとをーいとふらむ
こころよりいつーすみそめのそて

【明応年間百韻２２巻】／何人［あきのいろに］／明応 9(1500) 年 7 月 11 日

みつをたにーぬるるはとよをーいとふらむ
あさくしもやはーすみそめのそて

【永正年間百韻３４巻】／山家［ひとめさへ］／永正 8(1511) 年 11 月 3 日

よき

与喜の御社（よきのみやしろ）

→何処にも（いずこにも）

かすまてつきのーよきのみやしろ
いつくにもーあまみつかみのーなはたかし

【看聞日記紙背５０巻】／片何［まつはあめ］／応永 32(1425) 年 7 月 25 日

かみのこころもーよきのみやしろ
いつくにもーおなしきたのの－あとたれて

【看聞日記紙背５０巻】／何物［いつれみむ］／応永 32(1425) 年 9 月 17 日

よこ

棚引く横雲の空（たなびくよこぐものそら）

→月残る（つきのこる）

やまにたなひくーよこくものそら
つきのよやーあくるとみえてーのこるらむ

【紫野千句】／何木［はにしける］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

みねにたなひくーよこくものそら
つきやまたーかすみかくれにーのこるらむ

【文明十二年千句８巻】／何田［あめのよは］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

横雲霞む（よこぐもかすむ）

→夢の浮橋（ゆめのうきはし）

よこくものーわかるるかたやーかすむらむ
よるちるはなのーゆめのうきはし

【熊野千句】／何路［かさなるや］／文正元 (1466) 年 3 月以前

よこくもの―のこれるよもも―かすむひに
さめてそなほもーゆめのうきはし

【文明十二年千句８巻】／白何［まつりする］／文明 12(1480) 年 4 月 10 日～＊日

横雲の空（よこぐものそら）

→春の夜（はるのよ）

かすみのまよふーよこくものそら
はるのよのーゆめのわかれはーたとたとし

【文明十四年万句５２巻】／手何［はふつたに］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ひきわかれゆくーよこくものそら
はるのよのーつきにひとすちーかりとひて

【論書４種】／宗長／

よしの

み吉野の奥（みよしののおく）

→影暮れる（かげくれる）

くもはいくへそーみよしののおく
たつねつるーはなにやすらふーかけくれて

【看聞日記紙背５０巻】／何物［かみとうめ］／応永 29(1422) 年 2 月 25 日

さとのほかなるーみよしののおく
かへらしよーたつぬるはなのーかけくれて

【看聞日記紙背５０巻】／何船［ゆきにみて］／応永 32(1426) 年 11 月 25 日

→花を見る（はなをみる）

みをすつへくはーみよしののおく
わかやととーたつねのみこしーはなをみて

【壁草／書陵部本】／春／永正 9 年

いりにしひとのーみよしののおく
しるへするーあとさへたゆるーはなをみて

【宗長関係８種】／宗長付句／「雑袋」所載本／

→呼子鳥（よぶこどり）

はなをたよりのーみよしののおく
ゆくゆくもーききこそわかねーよふことり

【東山千句】／何船［をきにかせ］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

よしひなかさもーみよしののおく
すつるみのーつれつれいつちーよふことり

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

み吉野の花（みよしののはな）

→鶯の声（うぐいすのこえ）

みよしのやーはなよりおくにーひきこもり
かすみにもるるーうくひすのこゑ

【天正年間百韻５７巻】／□□［ともなしに］／天正 18(1590) 年 11 月 21 日

みよしのや―はなをよすかのーすみところ
ともとこそなれ―うくひすのこゑ

【慶長年間百韻２７巻】／□□［みつのうへに］／裏白／慶長 17(1612) 年 1 月 3 日

み吉野の山（みよしののやま）

→長閑（のどか）

かすみやへたつーみよしののやま
やまふきのーせにゆくみつのーのとかにて

【文安雪千句】／何木［しらくもの］／文安 2(1445) 年 10 月 18 日

はなにのみいるーみよしののやま
しらくものーをのへのまつもーのとかにて

【伊予千句】／何木［かせをてに］／天文 6(1537) 年 5 月 22 日

よしのがわ

吉野川の花（よしのがわのはな）

→春過ぎる（はるすぎる）

よしのかはーひとひもちらぬーはなもなし
みゆききえつつーはるもすきけり

【伊庭千句】／何木［うつりきて］／大永4(1524) 年 3 月 17 日～21 日

やまふきのーはなさきつつくーよしのかは
せかれぬみつとーはるもすきけり

【成立不詳・宗長以前１５巻】／何船［しもしろき］／成立時不詳

よど

淀の川舟（よどのかわぶね）

→村雨（むらさめ）

みつのにつなけーよとのかはふね
むらさめの－あとはみかさやーまさるらむ

【文明十四年万句５２巻】／一字露顕［ちあきふる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

ともにおくるるーよとのかはふね
むらさめのーまたふるましはーほしわひて

【文明十四年万句５２巻】／何路［かみやしる］／文明 14(1482) 年 7 月 4 日～9 月 14 日

→時鳥（ほととぎす）

なこりなかむるーよとのかはふね
なきすつるーつきはすむよの－ほととぎす

【永原千句】／何色［うつろはぬ］／明応 9(1500) 年 7 月 17 日

はやあけすくるーよとのかはふね
ほととぎすーたひたつあとにーやまみえて

【行助関係４種】／行助連歌／天理本／

さすかにはやきーよとのかはふね
ほととぎすーひとこゑをたにーききやらて

【基佐集／静嘉堂文庫本】／夏／永正 6(1509) 年以前

よぶこどり

呼子鳥（よぶこどり）

→覚束ない（おぼつかない）

なつくれはーはるかへれとやーよふことり
おほつかなきは－ゆめのよのなか

【美濃千句】／何心［つゆにきえ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

よふことりーよふはたれをかーまちぬらむ
おほつかなきは－しののめのつき

【飯盛千句】／何船［ありあけや］／永禄 4(1561) 年 5 月 27 日～29 日

よもぎ

蓬生（よもぎう）

→垂乳根の跡（たらちねのあと）

よもきふのーかけとていてむーわかみかは
なけくそなこりーたらちねのあと

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

よもきふのーやとをしるへとーたとるらむ
たちいてかたし－たらちねのあと

【文禄二年千句１０巻】／玉何［かはかせに］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

蓬生の影（よもぎうのかげ）

→蟋蟀（きりぎりす）

のこるはまれのーよもきふのかけ
のわきせしーけさまてつきにーきりきりす

【弘治年間百韻８巻】／何路［ゆくみつや］／弘治 2(1556) 年 3 月 24 日

すみならひたるーよもきふのかけ
きりきりす－なくよのつきはーなほさひし

【天正年間百韻５７巻】／□□［うくひすも］／天正 14(1586) 年 1 月 4 日

みちわけわふるーよもきふのやと
きりきりすーのこるこゑするーよるのしも

【美濃千句】／何色［しくれつつ］／文明 4(1473) 年 12 月 16 日～21 日

つきのみすめるーよもきふのやと
きりきりすーゆくへはかなきーしもおきて

【大永四年月並千二百韻】／□□〔かけきゆる〕／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 8 月 23 日

よる

秋の夜すがら（あきのよすがら）

→寝られる（ねられる）

このはまたちるーあきのよすから
ねられめやーまくらにちかくーうつころも

【文安頃千句 4 巻】／朝何〔すゑとほき〕／

よひのまふくるーあきのよすから
ねられめやーのわきやまかせーふきそひて

【文明十五年千句１１巻】／二字返音〔はなははの〕／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

秋の夜長（あきのよなが）

→蟋蟀（きりぎりす）

はしゐにあかぬーあきのよなかさ
ききすてて－たれかいをぬるーきりきりす

【大永年間百韻１４巻】／何人〔つきやふね〕／大永 2(1522) 年 8 月

おもひをつくすーあきのよなかさ
きりきりすーなれかなくねにーまけむやは

【弘治年間百韻 8 巻】／何人〔うめひとき〕／裏白／弘治 3(1557) 年 1 月 3 日

秋の夜な夜な（あきのよなよな）

→草枕（くさまくら）

つきまつころのーあきのよなよな
ふるさともーさそなつゆけきーくさまくら

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ〔しかそなく〕／天文 24(1555) 年 9 月 19 日

おもひをそふるーあきのよなよな
ゆめにわれーみゆらむものをーくさまくら

【壁草／大阪天満宮文庫本】／旅／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

秋の夜の月（あきのよのつき）

→身にしみる（みにしみる）

ひとのかたみのーあきのよのつき
しもまよふーかれののすすきーみにしみて

【表佐千句】／何衣〔よるやあめ〕／文明 8(1476) 年 3 月 6 日＜～8 日＞

あくかれてゆくーあきのよのつき
ものおもふーみちののかせはーみにしみて

【諸尊法紙背 3 巻】／手何〔むすふにも〕／建武 4(1337) 年 6 月 23 日

→野分する（のわきする）

あさちかやとをーあきのよのつき
かこはれしーつゆのたよりもーのわきして

【文亀年間百韻 4 巻】／何人〔きえしよの〕／文亀 2(1502) 年 8 月 6 日

むくらかおくのーあきのよのつき
いつこにもーさはるかけなくーのわきして

【宗長関係 8 種】／老耳／天理本／

朧月夜（おぼろづきよ）

→長閑な枕（のどかなまくら）

おほろつきよにーゆくそらもなき
のとかなるーまくらやゆめをーしたふらむ

【難波田千句】／□□〔みつのおもに〕／文明 14(1482) 年 10 月前後

おほろつきよにーしくあきもやは
のとかなるーまくらもとらてーあかしはて

【慶長年間百韻２７巻】／□□〔ちりてさへ〕／慶長 4(1599) 年 6 月 18 日

→時鳥の声（ほととぎすのこえ）

おほろつきよのーゆめをのこして
ほとときすーはるのまくらのーひとこゑに

【紹巴亡父追善千句】／何木〔おとろけと〕／天文 24(1555) 年 3 月 26 日～晦日

おほろつきよのーあけのこるやま
ほとときすーそれかいまやとーこゑすきて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／何船［きたにみる］／成立時不詳

仮の夜の夢（かりのよるのゆめ）

→朝の雲（あしたのくも）

はかなしなーかりにみたりしーよるのゆめ
あしたのくものーあともとまらす

【成立不詳・宗砌以前６巻】／何人［みつたまり］／成立時不詳

かりそめにーなれてかへりしーよるのゆめ
あしたのくものーのこるやまのは

【専順関係２種】／雑／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

心を尽す雨の夜（こころをつくすあめのよる）

→身が老いた時鳥（みがおいたほととぎす）

ねられぬこころーつくすあめのよ
まつうちにーみもおいぬへきーほとときす

【心敬関係１０種】／芝草内連歌合／天理本／

まつにこころをーつくすあめのよ
つれなきにーみもおいぬへきーほとときす

【心敬関係１０種】／吾妻辺云捨／天理本／

月が霞む夜（つきがかすむよる）

→雲居を帰る雁（くもいをかえるかりがね）

ありあけのーつきやあらぬとーかすむよに
きけはくもゐをーかへるかりかね

【永享年間百韻４巻】／山何［おいまつは］／万句巻頭／永享 9(1437) 年 3 月 21 日

つきかけはーみえみみえすみーかすむよに
くもゐちたとりーかへるかりかね

【成立不詳・宗砌以前６巻】／ｘｘ［うめなれや］／成立時不詳

月夜な夜な（つきよなよな）

→さ筵の露（さむしろのつゆ）

しのふれはーつきもさはりのーよなよなに
はらふとするもーさむしろのつゆ

【元亀二年千句】／何船［はなにとふ］／元亀 2(1571) 年 3 月 5 日

よなよなにーつきもうつろふーあきさひし
みはかたはらのーさむしろのつゆ

【文禄年間百韻１２巻】／□□［わかなつみし］／文禄 2(1593) 年 1 月 8 日

夏の夜の月（なつのよのつき）

→時鳥（ほととぎす）

ことかはすまもーなつのよのつき
きくもたたーそれかあらぬかーほとときす

【天正年間百韻５７巻】／山何［かせふけは］／天正 2(1574) 年 5 月 8 日

なかめあかせるーなつのよのつき
ほとときすーやはひとこゑにーまとろまて

【園塵第三／続群書類従本】／夏／文亀元 (1501) 年 3 月 18 日

寝覚めする夜（ねざめするよ）

→枕（まくら）

ねさめするよのーうつるたにをし
おときけはーよそのしくれをーまくらにて

【延徳年間百韻１６巻】／夢想［すみよしの］／延徳 2(1490) 年 9 月

ねさめするよのーさをしかのこゑ
つきにもるーいなはのかせをーまくらにて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／秋／永正 2(1505) 年 8 月 23 日以後同 3 年 3 月以前

春の夜の月（はるのよのつき）

→声々（こえごえ）

いてたにやらすーはるのよのつき
あめはれてーかはつうるさきーこゑこゑに

【秋津洲千句】／一字露顕［わかはより］／天文 15(1546) 年 8 月 25 日

こころうかるるーはるのよのつき
うちわひてーなきゆくかりのーこゑこゑに

【明応年間百韻２２巻】／何船［はなそはる］／明応 2(1493) 年 3 月 25 日

春の夜の夢（はるのよのゆめ）

→草枕（くさまくら）

みえこしやたたーはるのよのゆめ
つきもいつーのとかになれむーくさまくら

【伊予千句】／何垣［なつくさは］／天文6(1537) 年 5 月 22 日

かへるともなきーはるのよのゆめ
おもはすよーすみれつむのの－くさまくら

【専順関係２種】／法眼専順連歌／赤木文庫本／応仁元 (1467) 年 5 月 10 日

深い夜の空（ふかいよるのそら）

→有明（ありあけ）

かへすもまつも－ふかきよのそら
をくるまの－つきさへにほふーありあけに

【永正年間百韻３４巻】／何色［うゑてみぬ］／永正 6(1509) 年閏 8 月 29 日

とりのなくねは－ふかきよのそら
あふさかや－すきのはしろきーありあけに

【永禄年間百韻２８巻】／何人［つきなから］／永禄 5(1562) 年 8 月 11 日

短夜の月（みじかよのつき）

→時鳥（ほととぎす）

ありあけになる－みしかよのつき
ほとときす－なほしのひねのーつれなくて

【宝徳四年千句】／山何［みにしむは］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

こころをすます－みしかよのつき
ほとときす－またるるそらにーかねなりて

【寛文年間百韻２２巻】／□□［なつなきは］／寛文 13(1673) 年 6 月 12 日

あまりみしかき－みしかよのつき
なつかりの－あしのしのひの－ほとときす

【天正四年万句７０巻】／何心［やまかけや］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

短夜の夢（みじかよのゆめ）

→忍び妻（しのびづま）

むすふともなきーみしかよのゆめ
まちふけてーあふもほとなきーしのひつま

【看聞日記紙背５０巻】／山何［やよやよひ］／応永 31(1424) 年 3 月 18 日

みるもすくなきーみしかよのゆめ
ふけてあふーわかれそはやきーしのひつま

【看聞日記紙背５０巻】／片何［しもやいと］／応永 31(1424) 年 10 月 26 日

→難波の葦（なにわのあし）

とけてやはみるーみしかよのゆめ
かせそよくーなにはのあしのーかりまくら

【那智篭／北野天満宮本】／永正十二年／

おもかけをしきーみしかよのゆめ
あふほともーなにはのあしのーふしのまに

【那智篭／北野天満宮本】／永正十三年／

夕月夜（ゆうづくよ）

→覚束ない（おぼつかない）

まつかけはーみえてすくなきーゆふつくよ
おほつかなしやーあきのくるみち

【嘉吉年間百韻１巻】／何木［たけのはに］／嘉吉 3(1443) 年 10 月 23 日

かすみけりーさらてたにもとーゆふつくよ
おほつかなしやーなによふことり

【永正年間百韻３４巻】／ｘｘ［なつころも］／永正 7(1510) 年 4 月 1 日

夜が明ける（よがあける）

→月残る（つきのこる）

あふちさくーやとのとくちにーよはあけて
かせふくそともーつきそのこれる

【伊予千句】／何路［さみたれの］／天文6(1537) 年 5 月 22 日

たひひとのーともをいさなふーよはあけて
あまのとやまのーつきそのこれる

【長禄三年千句１１巻】／何舟［しほかれて］／長禄 3(1459) 年 12 月 2 日～5 日

夜が長い（よがながい）

→思い侘びる（おもいわびる）

ゆめいくたひのーよこそなかけれ
こひそうきーあきはものかはーおもひわひ

【看聞日記紙背５０巻】／山何［ちよもみむ］／応永 19(1412) 年 1 月 14 日

ひとりはなつもーよこそなかけれ
おもひわひーみしかきこころーいかかせむ

【文明年間百韻３４巻】／何人［ゆきのやま］／文明 14(1482) 年 1 月 16 日

→月を見る

はつしもふれるーよこそなかけれ
まとろますーかりねののへのーつきをみて

【熊野千句】／何田［おそさくら］／文正元 (1466) 年 3 月以前

ねさめののちもーよこそなかけれ
ふるさとにーをはすてやまのーつきをみて

【新撰菟玖波集／実隆本】／秋上／明応 4(1495) 年 9 月 26 日

夜が深い

→草枕

かねたにならすーよこそふかけれ
くさまくらーしらぬいつくのーつきなれや

【東山千句】／何色［しかのねは］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

かねにたひたつーよこそふかけれ
たかさともーしつけきのへのーくさまくら

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／山何［めつらしき］／成立時不詳

夜が更ける

→まどろまない

ひさしくなりぬーよやふけぬらむ
いまこむのーちきりはかなくーまとろまて

【成立不詳・宗祇以前１５巻】／ｘｘ［たれをよの］／成立時不詳

こひしさうたふーよやふけぬらむ
おもひいつるーむかしにおいのーまとろまて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

夜寒おぼえる

→唐衣

よさむおほゆるーひとのかたらひ
あはれみてーとはるるなかのーからころも

【嵯峨千句】／何木［ちへにみし］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

よさむおほゆるーかせのたえたえ
をちこちにーうちいてけりなーからころも

【永禄年間百韻２８巻】／懐旧［はつゆきの］／永禄 6(1563) 年 11 月 18 日

夜は東雲

→別れる

よはしののめにーしくれてそゆく
わかれてのーそてのけしきをーひともみよ

【永正十花千句】／何船［ねぬるよを］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

よはしののめにーはるのたまくら
わかれてのーきはやはとほきーわするなよ

【永正年間百韻３４巻】／何衣［あひにあひぬ］／永正 10(1513) 年 2 月 16 日

夜もすがら

→灯の影

よもすからーこのはのたたくーとをとちて
はやきえかてのーともしひのかけ

【熊野千句】／何人［よろつとせ］／文正元 (1466) 年 3 月以前

よもすからーまつはかせふくーふるてらに
つきこそまとのーともしひのかけ

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

夜汲む杯

→月の下

よさむわすれてーくめるさかつき
もろともにーなかめあかせるーつきのもと

【毛利千句】／初何［よとともに］／文禄 3(1594) 年 5 月 12 日～16 日

よるはすからにーくめるさかつき
あくるをもーしらてともなふーつきのもと

【平松文庫本千句】／□□［ふくるよの］／

夜の夢（よるのゆめ）

→古の月（いにしえのつき）

とめもえぬーまくらのうへのーよるのゆめ
みしはいつその―いにしへのつき

【享徳二年千句】／唐何［こころひく］／享徳 2(1453) 年 8 月 11 日～13 日

はるかなるーところもかよふーよるのゆめ
あふとはしるや―いにしへのつき

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［したみつも］／天文 24(1555) 年 9 月 2 日

夜半の秋風（よわのあきかぜ）

→草枕（くさまくら）

すからにさひしーよはのあきかせ
あくるまのーはなのにおそきーくさまくら

【宮島千句】／山何［ことのはや］／天文 20(1551) 年 5 月 9 日～11 日

すすしさおくるーよはのあきかせ
くさまくらーしきもさためぬーいろにして

【五吟一日千句】／何舟［はなをさへ］／天正 9(1581) 年 11 月 19 日

夜半の月（よわのつき）

→秋風の空（あきかぜのそら）

くもはれてーさたまりけりなーよはのつき
しくれつくせるーあきかせのそら

【称名院追善千句】／一字露顕［くもはれて］／永禄 6(1563) 年 12 月 14 日～18 日

ひとはいさーみしはわすれぬーよはのつき
たのむるすゑは―あきかせのそら

【永正年間百韻３４巻】／何船［うちなひき］／永正 13(1516) 年 1 月

→鐘微か（かねかすか）

さしこもるーとほやまてらのーよはのつき
きりまもれたる―かねかすかなり

【宗牧追善千句】／山何［ちるちらぬ］／永禄 4(1561) 年 9 月 14 日・15 日

まつかせのーふきすさひたるーよはのつき
ふけゆくあきのーかねかすかなり

【文禄年間百韻１２巻】／□□［はなのいろや］／文禄 4(1595) 年 1 月 30 日

→袖の秋風（そでのあきかぜ）

よはのつきーまたあるやとをーたひたちて
せきちこえゆくーそてのあきかせ

【宝徳四年千句】／唐何［さすはなや］／宝徳 4(1452) 年 3 月 12 日

やまのはのーすすしさそふるーよはのつき
うたたねしまのーそてのあきかせ

【天文年間百韻３８巻】／夢想［ちりてなほ］／天文 10(1541) 年 3 月

→牡鹿鳴く山（おじかなくやま）

うかるへきーあきのそらかはーよはのつき
すみてやみましーをしかなくやま

【延徳年間百韻１６巻】／何船［はるすきぬ］／延徳 4(1492) 年 4 月 8 日

なかめすはーうらみやせましーよはのつき
まつかせふきてーをしかなくやま

【論書４種】／宗長／

夜半の虫の音（よわのむしのね）

→月に仮枕（つきにかりまくら）

をささかもとのーよはのむしのね
ねられしなーつきにかせふくーかりまくら

【寛正年間百韻２０巻】／何人［うめおくる］／寛正 6(1465) 年 1 月 16 日

ところさためぬーよはのむしのね
さやかなるーつきをみるみるーかりまくら

【大永年間百韻１４巻】／何人［ちあきをも］／大永 5(1525) 年 9 月 21 日

よわる

弱り果てる（よわりはてる）

→蟋蟀（きりぎりす）

ものおもふにやーよわりはつらむ
わひぬるもーわれそまされるーきりきりす

【伊勢千句】／何田［かすやてる］／大永2(1522)年8月4日～8日

われからわれやーよわりはつらむ
つゆになれーしもにやとかるーきりきりす

【園塵第四／早稲田大学本】／秋／永正6、7年

れつ

雁の幾列（かりのいくつら）

→遙々（はるばる）

なきてすくなるーかりのいくつら
はるはるとーあしへをさしてーみつしほに

【大永三年月並千三百韻】／□□［うめかかや］／月並千三百韻／大永3(1523)年2月23日

つはさみたれしーかりのいくつら
はるはるとーたのものすゑのーいろつきて

【慶長年間百韻２７巻】／□□［つゆにみを］／慶長9(1604)年6月28日

雁の一列（かりのひとつら）

→そことない

あとはかすめるーかりのひとつら
そことなくーなかめにのこるーはるのうみ

【明応年間百韻２２巻】／何人［あきのいろに］／明応9(1500)年7月11日

ゆくあとしたふーかりのひとつら
そことなくーきりのうなはらーふねうけて

【弘治年間百韻８巻】／何人［うめひとき］／裏白／弘治3(1557)年1月3日

わかい

若草枕（わかくさまくら）

→秋更ける（あきふける）

わかくさまくらーうつらふすこゑ
とこさむきーたひにしあれはーあきふけて

【紫野千句】／何船［はれてたに］／延文2(1357)年以後-応安3年6月以前

わかくさまくらーつきややつさむ
いたつらにーあかすよおほくーあきふけて

【長享年間百韻６巻】／何人［ゆきなから］／長享2(1488)年1月22日

わかれる

別れ路の跡（わかれじのあと）

→面影（おもかげ）

あくかれいつるーわかれちのあと
おもかけにーわかたましひやーつれぬらむ

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明14(1482)年10月前後

くもこそかたみーわかれちのあと
ゆふへには―あめともなれるーおもかけに

【難波田千句】／□□［にしきにて］／文明14(1482)年10月前後

別れる（わかれる）

→命である（いのちである）

つらきよやーすむうちにたにーわかるらむ
いとひをしむも―いのちなりけり

【成立不詳・心敬以前１４巻】／何人［はるふかし］／成立時不詳

いくたひかーこれをかきりとーわかるらむ
のちのちきりは―いのちなりけり

【菟玖波集／広島大学本】／恋上／文和5(1356)年冬～翌年の春

別れる旅は悲しい（わかれるたびはかなしい）

→逢う人（あうひと）

わかれゆくゆくーたひそかなしき
あふひともーかたみになこりーうちなきて

【壁草／大阪天満宮文庫本】／恋下／永正2(1505)年8月23日以後同3年3月以前

けふわかれしもーたひそかなしき
あふひとも―またふるさとのーなこりにて

【宗長関係８種】／老耳／天理本／

わけるほととぎす
別ける時鳥

→寝覚めの暁の山

ほとときすーひとをわかてやーすきぬらむ
ねさめひとりのーあかつきのやま

【葉守千句】／薄何［いはほにも］／長享元 (1487) 年 10 月 9 日＜～11 日＞

おもふをはーわきてかたらへーほとときす
ふかきねさめのーあかつきのやま

【東山千句】／何路［のわきせし］／永正 15(1518) 年 8 月 10 日～12 日

わすれる

だれにわすれる
誰に忘れる

→辛い

おもひなそへそーたれにわすれむ
つらしとてーうつるならひはーしらぬよに

【文明年間百韻３４巻】／山何［かせにたちし］／文明 18(1486) 年 9 月 30 日

こひしきことをーたれにわすれむ
つらしとてーまたいつかたにーうつらまし

【延徳年間百韻１６巻】／何路［かけすすし］／延徳 4(1492) 年 6 月 1 日

わすれとうくさはら
忘れ訪う草原

→古里

わするなよーとはむとちきるーくさのはら
たよりはかりにーかかるふるさと

【太神宮法楽千句】／山何［のははなに］／長享 2(1488) 年 7 月

わすれすもーとほきあととふーくさのはら
なれこしたれそーかかるふるさと

【永正十花千句】／二字反音［こまなへて］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

わすれもしない
忘れもしない

→古

わすれもやらぬーはるのおもかけ
いにしへのーてらをかすみのーたてこめて

【天正四年万句７０巻】／何色［ちるはなも］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

わすれもやらぬーここのへのうち
いにしへのーなこりもいまはーおほゐかは

【文禄二年千句１０巻】／白何［としなみの］／文禄 2(1593) 年 4 月 8 日～10 日

わすれようとする
忘れようとする

→我が心

わすれむとすれはーふるさとのゆめ
わかこころーちちになれとやーかかるらむ

【天文十八年梅千句】／青何［ゆけはうめ］／天文 18(1549) 年正月 11 日

わすれむとすれはーなみたなるころ
わかこころーきみかこころをーかつしりて

【大永四年月並千二百韻】／□□［そよとしも］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 10 月 23 日

わすれるなよ
忘れるなよ

→別れである

はなはまたーなれしをわれもーわするなよ
はるこころなきーわかれならすや

【紫野千句】／何目［いつもみむ］／延文 2(1357) 年以後-応安 3 年 6 月以前

なくさむるーひとにうきよをーわするなよ
そふともつひのーわかれならすや

【永正十花千句】／何路［ゆくつきも］／永正 13(1516) 年 3 月 11 日～14 日

→程は雲居

わするなよーたひねにかすむーよはのつき
ほとはくもゐのーはつほとときす

【難波田千句】／□□［あけほのを］／文明 14(1482) 年 10 月前後

とほくなるーやとのわかれもーわするなよ
ほとはくもゐの―ふるさとのやま

【菟玖波集／広島大学本】／羇旅／文和 5(1356) 年冬～翌年の春

わたす

打ち渡す（うちわたす）

→駒も進まない（こまもすすまない）

うちわたすーはしもとかけてーよるなみに
あさかせたてはーこまもすすます

【文明年間百韻３４巻】／何人［きえねよし］／文明 14(1482) 年 2 月 2 日

うちわたすーふゆたのはらはーあはれにて
ゆきのゆふへはーこまもすすます

【天正四年万句７０巻】／薄何［はつかりの］／天正 4(1576) 年 5 月 6 日～7 月 19 日

わたる

秋更け渡る（あきふけわたる）

→雁鳴く（かりなく）

あきふけわたるーきりのうみつら
ゆふなみのーまつのはこしにーかりなきて

【合点之句／神宮文庫本】／秋／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

あきふけわたるーつきのむらくも
かりなきてーよはいねかてのーたまくらに

【合点之句／神宮文庫本】／雑／天文 9(1541) 年 12 月 25 日

前渡り（まえわたり）

→里の草刈り（さとのくさかり）

ふえのねにーそれとはしるきーまへわたり
ふねにのりたるーさとのくさかり

【嵯峨千句】／何船［はるはゆきに］／（元亀 4）天正元 (1573) 年正月 9 日～11 日

かすかにもーふえのねもらすーまへわたり
すみかやをちのーさとのくさかり

【寛永年間百韻１５巻】／□□［あさひかけ］／裏白／寛永 11(1634) 年 1 月 3 日

渡し舟（わたしぶね）

→真柴に混じる躑躅山吹（ましばにまじるつつじやまぶき）

わたしふねーはなのゆききもーはるくれて
ましはにましるーつつしやまふき

【大永四年月並千二百韻】／□□［けふひくや］／月並千二百韻／大永 4(1524) 年 5 月 23 日

やまもとのーはなをよそめのーわたしふね
ましはにましるーつつしやまふき

【天文年間百韻３８巻】／ｘｘ［ちりうせぬ］／天文 19(1550) 年 2 月 17 日

渡る雁（わたるかりがね）

→長い夜（ながいよ）

ねさめのまくらーわたるかりかね
あかつきとーおもひてたにもーなかきよに

【応永年間百韻７巻】／何路［やまみつの］／応永 15(1408) 年 3 月 11 日

かすさへしるくーわたるかりかね
たつしきのーおのかはねかきーなかきよに

【宗長関係８種】／壬生宛／書陵部本／

わびる

敷き侘ぶ（しきわぶ）

→払う衣手の露（はらうころもでのつゆ）

しきわひてーつきにいくよのーかりまくら
はらひつくさぬーころもてのつゆ

【天正年間百韻５７巻】／何船［なはしろの］／天正 3(1575) 年 3 月 8 日

ちりつもるーあきのさむしろーしきわひて
いつかはらはむーころもてのつゆ

【文明十五年千句１１巻】／三字中略［かたいとを］／文明 15(1483) 年＊月＊日～3 月 2 日

侘人（わびびと）

→麻の狭衣（あさのさごろも）

わひひとのーむねやすからぬーあさゆふに
きてもやせはきーあさのさころも

【享禄年間百韻８巻】／何人［あさかすみ］／享禄 5(1532) 年 1 月 3 日

わひひとのーはたへはいかにーさむからむ
うちしきりぬるーあさのさころも

【文禄年間百韻１２巻】／□□［にはくさの］／文禄 2(1593) 年 1 月 10 日

われ

涙(なみだ)が我(わが)袖(そで)の上(のうえ)

→思(おもう)

つゆもなみたもーわかそてのうへ
ひとしれぬーみにはなにをかーおもふらむ

【文安年間百韻9巻】／山何［ふたたひの］／文安5(1448)年11月12日

いつもなみたのーわかそてのうへ
とふひとやーこよひはかりとーおもふらむ

【合点之句／神宮文庫本】／恋／天文9(1541)年12月25日

我(われ)でなくなるのが憂(うい)い

→苔(こけ)の戸(とのゆう)の夕嵐(あらし)

うしやわれにもーあらすなりゆく
はなをふくーこけのとほそのーゆふあらし

【春夢草／書陵部本】／春／永正12(1516)年、13年

うしやわれにもーあらすなりゆく
こけのとのーはなにふきたつーゆふあらし

【論書4種】／宗牧／

索 引

あう (逢う), 187
あうきぬぎぬはうい (逢う後朝は憂い), 69, 280
あうひと (逢う人), 168, 274, 464
あおいかつら (葵桂), 171, 370
あおばのはなのあと (青葉の花の後), 55, 75, 344, 361
あおやぎ (青柳), 55, 430
あおやぎのいと (青柳の糸), 55, 94, 171, 412, 430
あおやぎのかげ (青柳の陰), 55, 142, 350, 357, 430
あかしがた (明石潟), 55
あかしくらす (明かし暮らす), 304, 407, 449
あかしはてる (明かし果てる), 189, 317
あかつき (暁), 56, 83, 178, 256, 258, 280, 331, 412
あかつきがた (暁方), 237, 287
あかつきづき (暁月), 56, 131, 168, 279, 427
あかつきのあめ (暁の雨), 231, 435
あかつきのそら (暁の空), 56, 170, 261, 326, 385
あかつきふかい (暁深い), 241
あきがくる (秋が来る), 60, 180, 197, 216, 264, 305, 310, 366, 383, 453
あきかぜ (秋風), 56, 153, 229, 284, 289, 294, 299, 338, 381, 395, 437
あきかぜがふく (秋風が吹く), 59, 156, 252, 255, 284, 288, 371, 418, 445
あきかぜのこえ (秋風の声), 59, 156, 204
あきかぜのそら (秋風の空), 235, 289, 463
あきがふける (秋が更ける), 173, 316
あきくさ (秋草), 60, 191
あきくる (秋来る), 60, 197
あきくれる (秋暮れる), 100, 160, 183, 339
あきさむい (秋寒い), 60, 208, 229, 234, 237
あきしぐれ (秋時雨), 60, 239
あきちかくなる (秋近くなる), 61, 276, 326
あきないことのね (飽きない琴の音), 67, 125, 220
あきにしぐれる (秋に時雨れる), 61, 239
あきのあまのはしだて (秋の天橋立), 130, 281
あきのおもかげ (秋の面影), 61, 132
あきのかぜ (秋の風), 82, 113, 114, 207, 212, 234, 236, 262, 286, 338, 432
あきのかわかぜ (秋の川風), 61, 157, 177
あきのくも (秋の雲), 83, 280
あきのくれ (秋の暮れ), 130, 180, 203, 216, 310, 319, 366, 405, 453
あきのくれがた (秋の暮れ方), 61, 164, 199
あきのさびしさ (秋の寂しさ), 61, 232
あきのさわみず (秋の沢水), 62, 237, 409
あきのしも (秋の霜), 126, 235, 239, 260, 352
あきのすずしさ (秋の涼しさ), 396, 406
あきのそら (秋の空), 62, 99, 158, 165, 232, 245, 261, 285, 407
あきのたまくら (秋の手枕), 62, 297, 399
あきのつき (秋の月), 62, 279
あきのはつかぜ (秋の初風), 62, 123, 157, 263, 310, 342, 395
あきのはつしも (秋の初霜), 124, 283
あきのほたる (秋の蛍), 63, 369, 383
あきのみず (秋の水), 68, 331
あきのみむろやま (秋の三室山), 183, 428
あきのむらさめ (秋の村雨), 63, 282, 299, 422
あきのやま (秋の山), 63, 431
あきのゆうぐれ (秋の夕暮れ), 87, 153
あきのよ (秋の夜), 82, 103, 121, 143, 158, 167, 283
あきのよすがら (秋の夜すがら), 63, 459
あきのよなが (秋の夜長), 64, 313, 459
あきのよなよな (秋の夜な夜な), 64, 459
あきのよのつき (秋の夜の月), 64, 279, 459
あきのよもぎうのさと (秋の蓬生の里), 172, 224
あきはかなしい (秋は悲しい), 131, 325, 420
あきふける (秋更ける), 64, 83, 132, 174, 193, 207, 211, 236, 237, 266, 281, 286, 289, 338, 352, 365, 373, 401, 420, 432, 437, 464
あきふけわたる (秋更け渡る), 65, 373, 466
あきぼたるとゆうまくら (秋蛍と夕枕), 144, 306
あけがた (明け方), 108, 256, 315, 411
あけがたのそら (明け方の空), 69, 164, 261
あけのそほぶね (朱のそほ舟), 161, 338, 360, 411
あけのとりのこえごえ (明けの鳥の声々), 101
あけはてる (明け果てる), 69, 344
あけはなれる (明け離れる), 69, 188, 241, 351, 398
あけぼののくも (曙の雲), 67, 194
あけぼののそら (曙の空), 67, 262, 385
あけぼののやま (曙の山), 67, 431

あけやすいころ (明けやすい頃), 385
あけやすいつき (明けやすい月), 69, 280
あけやらない (明けやらない), 392, 438
あける (明ける), 70, 91, 210, 308
あけるよ (明ける夜), 89, 409
あけわたる (明け渡る), 298, 363, 376
あけわたるそら (明け渡る空), 174, 291, 305
あさあけのどか (朝明け長閑), 106
あさがおのいろ (朝顔の色), 73, 99
あさがおのはな (朝顔の花), 73, 272, 321, 344, 442
あさがすみ (朝霞), 70, 148
あさがすみたつ (朝霞立つ), 167, 228, 434
あさぎり (朝霧), 61, 232, 293, 411
あさくるうぐいす (朝来る鶯), 71, 106, 197
あさけしずか (朝明け静か), 70, 71, 240
あさごおり (朝氷), 266, 410
あさごろもうつ (麻衣打つ), 74, 113, 224
あさじう (浅茅生), 172
あさじうのおく (浅茅生の奥), 189
あさじうのつゆ (浅茅生の露), 172, 292
あさじがはら (浅茅が原), 59, 156, 371
あさつゆ (朝露), 269, 329
あさなあさな (朝な朝な), 102, 222, 378
あさのさごろも (麻の狭衣), 74, 224, 369, 466
あさひかげ (朝日影), 71, 142, 188, 329, 337, 360
あさぼらけ (朝ぼらけ), 71, 77, 84, 85, 108, 109, 115, 117, 135, 187, 194, 204, 295, 315, 328, 334, 336, 375
あさまだき (朝まだき), 72, 352
あさみどり (浅緑), 392, 438
あじけないよ (味気ない世), 74, 452
あした (朝), 72
あしたのくも (朝の雲), 175, 450, 460
あしびたくかげ (葦火焚く影), 74, 143, 267, 361
あすかかぜ (明日香風), 303, 418
あだしの (化野), 192, 292, 361
あだとかかりくる (徒と掛かり来る), 74, 139, 197
あだなみがそでぬらす (徒浪が袖濡らす), 255, 272, 402
あとをだにとう (後をだに訪う), 75, 300
あまおとめ (天乙女), 127, 298
あまおぶね (海人小舟), 77, 128, 174, 210, 343, 375
あまそそぎ (雨注ぎ), 318, 384
あまつおとめご (天つ乙女子), 128
あまつかり (天つ雁), 138, 356
あまつかりがね (天つ雁), 255, 284
あまのかぐやま (天の香具山), 88, 379
あまのがわ (天の川), 177, 298
あまのつりぶね (海人の釣舟), 71, 72, 77, 142, 295, 329, 337, 360, 375
あまひこのこえ (天彦の声), 78, 204
あめかすむくれ (雨霞む暮れ), 78, 153, 199
あめがふる (雨がふる), 78, 378
あめすぎたあとのしずけさ (雨過ぎた後の静けさ), 75, 78, 240, 249
あめすぎる (雨過ぎる), 318, 384
あめのうち (雨の内), 78, 112
あめのくれ (雨の暮れ), 79, 199, 254, 257, 261
あめのこるそら (雨残る空), 79, 262, 335
あめのさびしさ (雨の寂しさ), 385
あめのつれづれ (雨の徒然), 385
あめのなごり (雨の名残), 209, 307
あめののどけさ (雨の長閑さ), 79, 337
あめはれたはるのくれ (雨晴れた春の暮れ), 329, 410, 443
あめはれる (雨晴れる), 392, 438
あめをまつ (雨を待つ), 79, 401
あやおるみず (綾織る水), 76, 197
あやめぐさ (菖蒲草), 80, 114, 134, 258
あらいそのなみ (荒磯の浪), 77, 128, 375
あらしのやま (嵐の山), 211, 405
あらしふくやま (嵐吹く山), 80, 371, 431
あらまし (あらまし), 81, 97, 169
あらればしりのよるのつき (霰走りの夜の月), 126, 358, 427
あらわす (現す), 81
あらわれる (現れる), 81, 124, 137, 173, 335
ありあけ (有明), 81, 246, 264, 314, 370, 392, 439, 461
ありあけがた (有明方), 231, 275
ありあけのかげ (有明の影), 82, 143
ありあけのそら (有明の空), 82, 185, 262, 271, 384, 385
ありあけのつき (有明の月), 65, 71, 82, 107, 114, 119, 132, 151, 186, 280, 296, 301, 318, 327, 354, 373, 384, 386, 433
あるかなきか (有るか無きか), 84, 309
あるもの (あるもの), 84
あわじがた (淡路潟), 118, 253, 323
あわじしま (淡路島), 118, 254
あわじしまやま (淡路島山), 314
あわれ (哀れ), 85, 180, 216, 310, 366, 453
あわれしる (哀れ知る), 85, 247
あわれである (哀れである), 85
あわれをいう (哀れを言う), 137, 173, 207

いいしばかりにあき (言いしばかりに秋), 247, 395
いえいえのかぜ (家々の風), 279, 363
いかが (如何), 87

いかがしよう (如何しよう), 378, 398
いかだをくだすかわ (筏を下す川), 327
いかなる (如何なる), 69, 131, 223, 344, 427
いかにねて (如何に寝て), 88, 332
いかばかり (如何ばかり), 78, 153, 207, 238
いくえかすみ (幾重霞), 88, 149
いくえとよらのたけのしたみち (幾重豊浦の竹の下道), 88, 241, 267, 307, 412
いけのふじなみ (池の藤浪), 386
いけふる (池ふる), 88, 379
いけみず (池水), 88, 409
いさらいのみず (いさら井の水), 89, 409
いずこにある (何処にある), 127, 410
いずこにかすむ (何処に霞む), 79, 337
いずこにたびのやどり (何処に旅の宿り), 429
いずこにも (何処にも), 428, 456
いそがれる (急がれる), 89, 448
いそぐ (急ぐ), 76, 89, 446
いそぐかり (急ぐ雁), 124, 151
いそにふねにひぐれ (磯に舟に日暮れ), 101, 332, 401
いつかさて (何時かさて), 94
いづるたびびと (出る旅人), 272, 298, 363
いづるひかげ (出る日影), 72, 152, 159
いづるふなびと (出る舟人), 298, 363, 376
いつわり (偽り), 94, 187, 220
いなおおせどり (稲負鳥), 60, 94, 197
いなずまのかげ (稲妻の陰), 95, 143, 282, 299
いにしえ (古), 95, 106, 123, 240, 340, 451, 465
いにしえのあと (古の後), 75, 85, 95, 247
いにしえのつき (古の月), 95, 281, 452, 463
いにしえのみや (古の宮), 95, 417
いにしえのゆめ (古の夢), 87, 95, 244, 450
いねがてのそら (寝ねがての空), 262, 332
いのち (命), 272, 408
いのちであってほしい (命であってほしい), 95
いのちである (命である), 464
いのちにて (命にて), 96
いまわとつきがかたむく (今際と月が傾く), 388
いもがこいしくて (妹が恋しくて), 96, 203
いもにこいつつ (妹に恋いつつ), 96, 203
いりあいのかね (入相の鐘), 80, 97, 136, 168, 175, 187, 200, 225, 297, 302, 330, 334, 380, 443, 445
いりひかげ (入り日影), 98, 143, 329
いろかわる (色変わる), 99, 180
いろかわるころ (色変わる頃), 99, 180, 222
いろづく (色付く), 60, 99, 103, 239, 290, 296
いろみえる (色見える), 180, 217, 310, 366, 453
いわがね (岩が根), 100, 332
いわがねのまつ (岩が根の松), 101, 332, 401
いわこすなみ (岩越す浪), 101, 212, 322

うい (憂い), 101, 163, 258, 293, 372, 403
ういあき (憂い秋), 65, 95, 102, 281
ういしぎのはねがき (憂い鴫の羽掻き), 102, 141, 239, 352
ういてねるかもめ (浮いて寝る鴎), 241
ういふゆごもり (憂い冬籠り), 102, 222, 378
ういみのとき (憂い身の時), 180, 217, 311, 366, 453
ういものはない (憂いものはない), 82, 280
うえおく (植え置く), 160, 265, 449, 450
うえないならきかないおぎのうわかぜ (植えないなら聞かない荻の上風), 65, 102
うえはつれない (上は連れない), 103, 296
うえるた (植える田), 105, 265
うきをただなぐさめる (憂きをただ慰める), 102, 319
うぐいす (鶯), 67, 68, 90, 106, 115–117, 125, 135, 150, 179, 184, 197, 202, 222, 231, 242, 259, 316, 328, 348, 356, 358, 394, 396, 429, 431, 434, 440
うぐいすがなく (鶯が鳴く), 108, 198, 227, 278, 315, 345, 346, 351, 355, 358
うぐいすのこえ (鶯の声), 68, 71, 81, 100, 108, 115, 134, 148, 172, 184, 204, 225–227, 255, 278, 303, 334, 336, 345–347, 349–351, 354, 357, 419, 448, 457
うぐいすのこえごえ (鶯の声々), 80, 111, 214
うくつらい (憂く辛い), 102, 295
うしろのやま (後ろの山), 75, 431
うすがすみ (薄霞), 70, 73, 227, 346, 448
うすぎりのまがき (薄霧の籬), 242, 295, 339
うすけむり (薄煙), 111, 203
うずみび (埋火), 73, 343, 447
うずもれる (埋もれる), 86, 141, 433
うずらなく (鶉鳴く), 123, 278
うたうこえごえ (歌う声々), 201, 306, 330
うたたね (うたた寝), 332
うたのしなじな (歌の品々), 111, 244
うちかえすた (打ち返す田), 113, 135, 265
うちかすむ (うち霞む), 109, 149, 198, 205, 355, 359, 379, 417
うちがなぐさめる (うちが慰める), 319
うちかわす (打ち交わす), 85, 278
うちきせたい (打ち着せたい), 190
うちしぐれ (うち時雨), 97, 168
うちしぐれる (うち時雨れる), 277, 317
うちとけて (打ち解けて), 122, 143, 432
うちなびく (打ち靡く), 321

うちのかたち (内の形), 84, 276, 309
うちのゆき (内の雪), 112, 447
うちはえる (打ち映える), 55, 94, 430
うちむれる (打ち群れる), 424
うちわたす (打ち渡す), 466
うつあさごろも (打つ麻衣), 60, 234
うつのやま (宇津の山), 113, 432
うつのやまごえ (宇津の山越え), 113, 212, 432
うつりもてゆく (移り持て行く), 88, 114, 426
うつる (映る), 232, 285
うつろう (移ろう), 66, 100, 114, 174, 207, 355
うのはな (卯の花), 115
うみのなぎさにまつのはなおちる (海の汀に松の花落ちる), 141, 191, 426
うみやま (海山), 180, 216, 366
うめがはるまつ (梅が春待つ), 222, 223, 378
うめさく (梅咲く), 115, 198, 227, 355
うめにおう (梅匂う), 115, 328
うめにおうころ (梅匂う頃), 115, 328
うめのか (梅の香), 115, 134
うめのかがする (梅の香がする), 116, 134
うめのひともと (梅の一本), 90, 116, 396
うらなみのおと (浦浪の音), 136
うらのあさあけ (浦の朝明け), 121, 376
うらみわびる (恨み侘びる), 92, 333, 369

えだにうめさく (枝に梅咲く), 109, 205

おいのさか (老の坂), 198, 435
おいのゆくすえ (老いの行く末), 119, 449
おうさかのせき (逢坂の関), 119, 128, 159
おうさかのやま (逢坂の山), 120
おうのうらなみ (麻生の浦浪), 351, 442
おおいがわかすむ (大井川霞む), 80, 371, 431
おおはらまつり (大原祭り), 120, 406
おおよどのなみ (大淀の浪), 136
おかべのあき (岡辺の秋), 56, 285
おかべのはじのひとむら (岡辺の櫨の一群), 90, 120, 341, 424
おきいでる (起き出でる), 88, 114, 116, 134, 426
おぎにかぜ (荻に風), 121, 158
おぎのうわかぜ (荻の上風), 85, 103, 121, 141, 158, 445, 446
おきのしらなみ (沖の白浪), 120, 247, 305, 322, 376
おきのつりぶね (沖の釣舟), 120, 296, 376
おきのなみ (沖の浪), 121, 322
おきのふね (沖の舟), 121, 198, 302, 376
おくやまのかげ (奥山の陰), 122, 143, 432
おくる (送る), 122, 164, 257, 301, 363
おぐるまのおと (小車の音), 123, 125, 198
おじかなくこえ (牡鹿鳴く声), 206, 237, 316
おじかなくやま (牡鹿鳴く山), 290, 463
おしむ (惜しむ), 123
おしんではなをみる (惜しんで花を見る), 123, 344, 418
おそざくら (遅桜), 123, 228
おだのはら (小田の原), 230, 360
おちかたのくも (遠方の雲), 164, 194, 301
おちかたのやま (遠方の山), 164, 301, 432
おちかたびと (遠方人), 190
おちかたびとのそで (遠方人の袖), 164, 257, 301, 363
おちのとおやま (遠方の遠山), 165, 301, 390, 432
おちのひとむら (遠方の一村), 138, 252
おちるあまつかり (落ちる天つ雁), 124, 173, 298
おちるたきなみ (落ちる滝浪), 151
おとがする (音がする), 184, 188, 241, 242, 349, 413
おとずれて (訪れて), 272, 364
おとろえる (衰える), 128, 181, 217, 311, 366, 453
おとわがわ (音羽川), 101, 267, 323
おなじこころ (同じ心), 128, 214
おのえのはなをみる (尾上の花を見る), 128, 344, 418
おばしまのおく (欄干の奥), 260, 398
おぼつかない (覚束ない), 149, 221, 289, 445, 458, 461
おぼろづきよ (朧月夜), 129, 281, 459
おぼろにのこるありあけのつき (朧に残る有明の月), 83, 129, 281, 336
おみなえし (女郎花), 129, 294, 400
おもいかえす (思い返す), 130, 136
おもいかねる (思いかねる), 209, 277, 317
おもいぐさ (思い草), 294, 324
おもいそめる (思い初める), 133, 214
おもいたい (思いたい), 98, 169
おもいたえる (思い耐える), 130, 266
おもいのけむり (思いの煙), 130, 203
おもいやる (思いやる), 166, 231, 276, 434
おもいやるにもそで (思いやるにも袖), 381
おもいわびる (思い侘びる), 314, 461
おもう (思う), 103, 104, 112, 121, 158, 245, 255, 260, 299, 325, 381, 467
おもうことつき (思う事と月), 130, 281
おもうな (思うな), 130
おもうひとのことのは (思う人の言の葉), 130, 220, 363
おもうふるさと (思う古里), 130, 239, 380
おもかげ (面影), 77, 114, 132, 134, 258, 300, 415, 430, 464
おもかげにたつ (面影に立つ), 386
おもかげばかり (面影ばかり), 247, 292
おやまだのすえ (小山田の末), 248, 266, 432

おやまだのはら (小山田の原), 266, 352, 432
おろかなこころ (愚かな心), 133, 214

かえしおく (返し置く), 225, 307
かえりにこまいわうこえ (帰りに駒祝う声), 101, 136, 207, 221
かえりみる (帰り見る), 377
かえりをいそぐ (帰りを急ぐ), 89, 136
かえる (帰る), 97, 105, 136, 145, 146, 165, 168, 200, 215, 233, 277, 317, 336, 410, 434
かえるかりがね (帰る雁), 72, 81, 82, 129, 137, 151, 173, 219, 243, 247, 280, 404, 419, 447
かえるかりのこえ (帰る雁の声), 137, 173, 207
かえるさ (帰るさ), 137, 265, 450
かえるさとびと (帰る里人), 137, 230, 363
かえるさのみち (帰るさの道), 137, 386, 412
かえるつりぶね (帰る釣舟), 291, 352
かえるとりのね (帰る鳥の音), 125, 137, 307
かえるふなびと (帰る舟人), 200
かえるふるさと (帰る古里), 138, 380
かおるたちばな (香る橘), 386
かかる (掛かる), 139
かかるふじなみ (掛かる藤浪), 55, 75, 139, 226, 322, 344, 346, 361, 374
かきねづたい (垣根伝い), 140, 291
かきのもとつば (垣の本つ葉), 140, 361, 426
かきのやはたやま (垣の八幡山), 254, 402
かくもしおぐさ (掻く藻塩草), 141, 191, 426
かくれが (隠れ家), 86, 141
かくれがのやま (隠れ家の山), 86, 141, 433
かくれがはない (隠れ家はない), 86, 142, 309
かけいにうけるみず (懸樋に受ける水), 111, 142, 409
かげかすか (影かすか), 143, 148
かげくれる (影暮れる), 122, 143, 199, 457
かげさびしい (影寂しい), 59, 156, 204
かげたかくなる (影高くなる), 144, 266
かけはし (掛橋), 139, 231, 304, 339, 397, 441
かけはしのすえ (掛橋の末), 414
かげろうのいわがき (蜻蛉の岩垣), 84, 309
かこいすてる (囲い捨てる), 207
かささぎ (鵲), 140, 195, 340
かさなる (重なる), 231, 351, 413
かさなるやま (重なる山), 147, 433
かさのはのゆき (笠の端の雪), 137
かしこい (賢い), 147
かずあまた (数あまた), 78, 153
かすか (微か), 248, 268
かすかなかげ (微かな影), 144, 148
かずそう (数添う), 84, 369
かずならぬ (数ならぬ), 153
かすみ (霞), 149, 225, 308
かすみあさつゆ (霞む朝露), 216
かすみくみよる (霞くみよる), 149
かすみこめる (霞こめる), 149, 174, 207, 221
かすみつつ (霞みつつ), 109, 149, 205
かすみにくれる (霞に暮れる), 128, 344, 418
かすみにこもる (霞にこもる), 150, 222
かすみにたどるみち (霞にたどる道), 150, 271, 412
かすみのうちのみずのみなかみ (霞の内の水の水上), 104, 112, 150, 409
かすみのそこ (霞の底), 150, 257
かすみのひま (霞のひま), 150, 369
かすみより (霞より), 151
かすむ (霞む), 55, 69, 109, 151, 162, 205, 222, 227, 228, 322, 355, 356, 358, 362, 372, 430
かすむあけのそほぶね (霞む朱のそほ舟), 76, 375
かすむあけぼの (霞む曙), 107, 213, 228, 304, 435
かすむあさまだき (霞む朝まだき), 109, 204
かすむいりあいのかね (霞む入相の鐘), 200, 357
かすむおちこち (霞む遠近), 124, 151
かすむこのあした (霞むこの朝), 108, 315
かすむたまつしま (霞む玉津島), 220
かすむの (霞む野), 109, 205
かすむはるのとおやま (霞む春の遠山), 151, 301, 354, 433
かすむひ (霞む日), 151, 329
かすむみかさやま (霞む三笠山), 139, 323, 374
かすむやまもと (霞む山本), 152, 426, 433
かすむゆうぐれ (霞む夕暮れ), 152, 199, 443
かすむよ (霞む夜), 68, 356
かぜがすさまじい (風が凄まじい), 158, 249
かぜがみにしみる (風が身にしみる), 158, 245, 407
かぜさえる (風冴える), 83, 281
かぜとあさがすみ (風と朝霞), 72, 152, 159
かぜにつゆがおちる (風に露が落ちる), 129
かぜにつゆがこぼれる (風に露が零れる), 61, 239
かぜににおうたちばな (風に匂う橘), 159, 269, 328
かぜにはなちる (風に花散る), 159, 278, 345
かぜのおとわやま (風の音羽山), 128, 159
かぜのおりおり (風の折々), 133, 159
かぜのしずけさ (風の静けさ), 159, 241
かぜのすずしさ (風の涼しさ), 159, 251, 305, 383
かぜのはげしさ (風の激しさ), 160, 339
かぜのまにまに (風のまにまに), 160, 397
かぜのむらさめ (風の村雨), 160, 422
かぜのゆくすえ (風の行末), 160, 449
かぜみえる (風見える), 160, 418

かぜわたる (風渡る), 282, 299
かた (方), 137, 230, 363
かたおかのべ (片岡野辺), 91, 268, 424
かたおかのみち (片岡の道), 307, 317
かたおかのもり (片岡の杜), 393, 439
かたしきのそで (片敷の袖), 165, 257, 386
かたしきのまくら (片敷の枕), 221, 267, 292, 361
かたしきのゆめ (片敷の夢), 176, 334, 400
かたしく (片敷く), 92, 146, 166, 183, 242, 333, 369, 413
かたばかり (潟ばかり), 183
かたみ (形見), 66, 75, 114, 134, 166, 186, 224, 254, 259, 381
かたむく (傾く), 166
かたもさだめない (方も定めない), 165, 230
かたより (片寄), 167
かたるばかりにむかうおもかげ (語るばかりに向う面影), 132, 167, 419
かつらぎのやま (葛城の山), 167, 433
かつらぎやま (葛城山), 55, 430
かどさす (門さす), 97, 168
かどみえる (門見える), 98, 169
かねかすか (鐘微か), 290, 463
かねなる (鐘鳴る), 67, 104, 170, 228, 262, 326
かねのおと (鐘の音), 104, 150, 178, 222, 285
かねのこえ (鐘の声), 176, 374, 450
かねのひびき (鐘の響き), 88, 149
かみにただいのる (神にただ祈る), 96, 171
かみまつり (神祭), 117, 238, 323
かもひよし (賀茂日吉), 171, 370
からごろも (唐衣), 100, 128, 172, 209, 224, 235, 256, 335, 462
からすとぶ (烏飛ぶ), 245, 327, 364
かりがなきかわすそら (雁が鳴き交わす空), 69, 351
かりごろも (狩衣), 187
かりそめ (仮初め), 175
かりなく (雁鳴く), 65, 66, 80, 161, 163, 165, 173, 210, 301, 316, 324, 373, 416, 432, 466
かりねのつきかげ (仮寝の月影), 144, 175, 282, 333
かりねののべ (仮寝の野辺), 70
かりねをする (仮寝をする), 175, 333
かりのいくつら (雁の幾列), 173, 464
かりのこえ (雁の声), 82, 174, 207, 280, 400, 450
かりのこえごえ (雁の声々), 174, 207
かりのこのよ (仮のこの世), 190, 271
かりのたまずさ (雁の玉章), 174, 274
かりのなくこえ (雁の鳴く声), 71
かりのひとこえ (雁の一声), 174, 207
かりのひとつら (雁の一列), 174, 464
かりのよるのゆめ (仮の夜の夢), 175, 450, 460
かりふしのゆめ (仮臥の夢), 176, 374, 450
かりまくら (仮枕), 168, 176, 272, 273, 298, 363, 399
かれたくさがもえでる (枯れた草が萌え出る), 177, 191, 298, 426
かれはなすすき (枯れ花薄), 177, 251, 345
かわおと (川音), 125, 177
かわすことのは (交わす言の葉), 179, 220
かわずなく (蛙鳴く), 113, 135, 150, 179, 186, 257, 265, 316, 442
かわぞい (川添い), 55, 94, 430
かわぞいのみち (川沿いの道), 167, 178, 256, 412
かわぞいぶね (川沿い舟), 178, 256, 376
かわつらのさと (川面の里), 178, 230, 295
かわるよのなか (変わる世の中), 214, 230, 287, 363, 402, 452
かんなづき (神無月), 183
かんなびのもり (神奈備の森), 183, 428

きえない (消えない), 67, 262
きえるけむり (消える煙), 184, 203
きえるならきえるおもい (消えるなら消えるべき思い), 129, 184
きぎすなきたつ (雉鳴き立つ), 186, 316
きぎのいろいろ (木々の色々), 100, 183
きぎのしたつゆ (木々の下露), 64, 373
きくのひともと (菊の一本), 90, 185, 396
きくのもめずらしい (聞くのも珍しい), 185, 426
きくほととぎす (聞く時鳥), 185, 384
きけばあらし (聞けば嵐), 192, 399
きさらぎのわかれをとう (如月の別れを訪う), 297, 359, 435
きしのうのはな (岸の卯の花), 142, 320
きしのくれたけ (岸の呉竹), 178, 256, 376
きしのやまぶき (岸の山吹), 186, 442
きぬぎぬ (後朝), 186
きぬぎぬのあと (後朝の後), 57, 75, 154, 186
きぬぎぬのおもかげをしたう (後朝の面影をしたう), 67, 194
きぬぎぬのそで (後朝の袖), 56, 186, 257
きぬたのおと (砧の音), 125, 187
きのうのくも (昨日の雲), 187, 194
きのうみ (紀伊海), 66, 302, 434
きのうをこぞの (昨日を去年の), 88, 332
きみがよ (君が代), 187
きみのことのは (君の言の葉), 187, 220
きょうごと (今日毎), 187, 225
きょうばかり (今日ばかり), 187
きよまわり (清まわり), 188

きりぎりす (蟋蟀), 64, 145, 147, 158, 189, 249, 288, 313, 332, 344, 458, 459, 463
きりたちのぼる (霧立ち上る), 327
きりにしも (霧に霜), 188, 246
きりのうえ (霧の上), 104, 188
きりのうち (霧の内), 61, 232
きりのこる (霧残る), 188, 336
きりのしたみち (霧の下道), 188, 241, 319, 413, 420
きりのまがき (霧の籬), 188, 398
きりのみちのかたがた (霧の道の方々), 89
きりはれのぼる (霧晴れ昇る), 188, 337, 360
きりはれる (霧晴れる), 189, 236, 284, 360
きりわたる (霧わたる), 61, 157, 177

くさのいお (草の庵), 87, 131, 191, 325, 386, 420
くさのかりいお (草の仮庵), 260, 331
くさのつゆ (草の露), 191, 292
くさのとのうち (草の戸の内), 112, 191, 299
くさのはら (草の原), 258, 275, 300, 319, 331, 405
くさのまくら (草の枕), 263, 273
くさのまくらのあかつき (草の枕の暁), 391
くさはのこらないゆきのしたおれ (草は残らない雪の下折), 133, 191, 242, 336, 447
くさばのつゆ (草葉の露), 192, 292, 361
くさはら (草原), 192, 352
くさまくら (草枕), 56, 64, 66, 68, 82, 90, 96, 139, 164, 168, 192, 203, 231, 261, 262, 273, 288, 289, 293, 302, 319, 359, 370, 382, 399, 418, 420, 424, 450, 459, 460, 462, 463
くににしたがう (国に従う), 194, 243, 339, 415
くむさかずき (汲む杯), 361, 428
くめのいわはし (久米の岩橋), 101, 194, 339
くもいをかえるかりがね (雲居を帰る雁), 152, 283, 460
くもうく (雲浮く), 162, 372, 403
くもかかるみね (雲かかる峰), 139, 195, 416
くもどりのあと (雲鳥の跡), 76, 197
くもにありあけのつき (雲に有明の月), 70, 148
くもになくほととぎす (雲に鳴く時鳥), 233
くものうえ (雲の上), 84
くものおちかた (雲の遠方), 165, 195, 302, 387
くものかけはし (雲の掛橋), 140, 195, 340
くものかよいじ (雲の通い路), 127, 298
くものたえま (雲の絶え間), 195, 266
くものとだえにほのめく (雲の途絶えにほのめく), 77, 446
くものひとむら (雲の一群), 90, 195, 424
くものむらむら (雲の群々), 240, 445
くもまよう (雲迷う), 318, 384
くらはしやま (倉橋山), 391
くれごとのそら (暮れごとの空), 199, 262
くれたけ (呉竹), 267
くれつがた (暮れつ方), 190, 317
くれないのうめ (紅の梅), 116, 202
くれのはなすすき (暮れの花薄), 61, 132
くれゆくかた (暮れゆく方), 165, 200
くれる (暮れる), 200, 209, 307
くれるはしのひとすじ (暮れる橋の一筋), 248, 410, 419
くれるひ (暮れる日), 160, 397
くれわたる (暮れ渡る), 125, 137, 307
くろきのとりい (黒木の鳥居), 337

けさのはつゆき (今朝の初雪), 72, 343, 447
げにもあだしむ (げにも徒しむ), 75
けむりたてそえる (煙立て添える), 87, 442
けむりひとすじ (煙一筋), 90, 203, 250
けむりふきやるかぜ (煙吹きやる風), 92, 250

こいしさ (恋しさ), 364, 403
こえがきこえる (声が聞こえる), 132, 233, 428
こえごえ (声々), 288, 359, 460
こえする (声する), 207
こえのさむさ (声の寒さ), 207, 234
こえるいせき (越える井関), 254
こえるおうさかのせき (越える逢坂の関), 119, 212
こえるおうさかのやま (越える逢坂の山), 120, 213
こおりそめる (氷初める), 213, 341
こおりとけゆく (氷解け行く), 88, 409
こおりながれる (氷流れる), 184, 448
こがくれる (木隠れる), 119, 135, 212, 346
こがらしのかぜ (木枯しの風), 160, 214
こけのとのゆうあらし (苔の戸の夕嵐), 103, 328, 467
ここかしこ (ここかしこ), 111, 142, 409
ここのえのうち (九重の内), 183
こころあらそううた (心争う歌), 80, 111, 214, 362, 408
こころうかれる (心浮かれる), 105, 215, 229
こころうらめしい (心恨めしい), 118, 215
こころがまどのうち (心が窓の内), 215, 406
こころづかい (心使い), 407
こころづくし (心尽くし), 215, 290
こころである (心である), 130, 215
こころであればなあ (心であればなあ), 275
こころではない (心ではない), 215
こころながくまて (心長く待て), 215, 313, 402
こころにて (心にて), 216
こころぼそいはなおちるころ (心細い花落ちる頃), 61, 276, 326
こころをつくすあめのよる (心を尽す雨の夜), 79, 216, 290, 460

こしのしらゆき (越の白雪), 219, 247, 447
こずえのあき (梢の秋), 65, 219
こずえのふじのたそがれ (梢の藤の黄昏), 391
こすのと (小簾の外), 269, 329
こたえようか (答えようか), 219
こちょうという (胡蝶という), 220
こちょうのたとえ (胡蝶の喩え), 220, 270
こととう (言問う), 104, 112, 150, 409
ことのはがない (言の葉がない), 220
ことのはにする (言の葉にする), 219
ことのはのすえ (言の葉の末), 94
ことのはのみち (言の葉の道), 148, 254, 343, 353, 401
こないでおとする (来ないで音する), 125, 197
こなたかなた (此方彼方), 175, 357
このしたつゆ (木の下露), 183, 242, 292
このはちるおと (木の葉散る音), 92, 240
このもと (木の下), 85, 393, 411, 436, 439
このもとみち (木の下道), 183, 242, 413
こはぎうつろう (小萩移ろう), 114, 338
こはぎはら (小萩原), 212, 338, 353, 421
こぼれるたけのはのつゆ (零れる竹の葉の露), 221, 267, 292, 361
こまいわう (駒祝う), 334
こまいわうこえ (駒祝う声), 177, 191, 298, 426
こまとめる (駒止める), 186, 221, 316, 337
こまもすすまない (駒も進まない), 466
こもりいる (籠り居る), 304, 384
ころもうつ (衣打つ), 56, 153
ころもうつおと (衣打つ音), 65, 189, 373, 396
ころもうつこえ (衣打つ声), 57, 81, 99, 154, 255, 284, 290
ころもがひがたい (衣が干難い), 223, 244, 379
ころもでのつゆ (衣手の露), 127, 242, 287, 421

さえさえる (冴え冴える), 72, 343, 447
さおじかのこえ (さ牡鹿の声), 59, 64, 155, 207, 238, 243, 267, 373, 415, 416, 437
さくはるのはな (咲く春の花), 227, 345, 354
さくらさく (桜咲く), 227, 228
さくらさくころ (桜咲く頃), 222, 227, 228, 349, 354
さくらちる (桜散る), 127, 365
さくらちるかげ (桜散る陰), 144, 228, 278
さくらとやどのうめのえだ (桜と宿の梅の枝), 227, 345, 354
さくらのうえ (桜の上), 104, 228
さくらのかつらぎのやま (桜の葛城の山), 167, 228, 434
さすらうみ (流離う身), 85
さそう (誘う), 63, 105, 157, 229, 270, 342
さそわれる (誘われる), 229
さだめない (定めない), 230
さとにひとかえるみゆ (里に人帰る見ゆ), 98, 143, 329
さとのかたわら (里の傍ら), 415, 429
さとのくさかり (里の草刈り), 398, 466
さとのとみくさ (里の富草), 272
さとのはるかさ (里の遥かさ), 230, 360
さとのひとむら (里の一群), 90, 231, 424
さとはなれたみち (里離れた道), 231, 351, 413
さともない (里もない), 225, 273
さねかずら (真葛), 120
さみだれ (五月雨), 179, 233, 316
さみだれのあと (五月雨の後), 76, 233
さみだれのうち (五月雨の内), 112, 233
さみだれのころ (五月雨の頃), 143, 199, 223, 234, 340, 341, 379, 387
さみだれのつゆ (五月雨の露), 234, 292
さむいひ (寒い日), 234, 330
さむしろ (さ筵), 422
さむしろのつき (さ筵の月), 422
さむしろのつゆ (さ筵の露), 287, 460
さやか (さやか), 235
さやかなほし (さやかな星), 236, 382
さゆるゆうかぜ (寒ゆる夕風), 361, 380, 448
さよごろもとゆめ (小夜衣と夢), 130, 136
さよまくら (小夜枕), 95, 450
さるさけぶ (猿叫ぶ), 140, 340, 416
さるさけぶこえ (猿叫ぶ声), 208, 229, 237
さわみずのおと (沢水の音), 126, 237, 409

しおがまのうら (塩釜の浦), 291, 297, 328, 377
しかなく (鹿鳴く), 243, 415, 437
しがのうらぶね (志賀の浦舟), 117, 238, 323
しかのこえ (鹿の声), 65, 219
しぎなく (鴫鳴く), 62, 237, 409
しぎのはねおと (鴫の羽音), 126, 239, 352
しぎのはねがき (鴫の羽掻き), 58, 141, 154, 239, 352
しきわぶ (敷き侘ぶ), 239, 466
しぐれ (時雨), 56, 279
しぐれくる (時雨来る), 160, 339
しぐれる (時雨れる), 165, 195, 196, 201, 239, 287, 302, 444, 449
しげきむしのね (繁き虫の音), 126, 240, 420
しげるこずえ (茂る梢), 387
しずか (静か), 210, 241, 246, 303, 308, 332, 354
しずかなあめ (静かな雨), 89, 249, 391, 400
しずかなともしびのかげ (静かな灯の影), 252
しずのおだまき (賤の苧環), 123, 240
したうわかれじ (慕う別れ路), 72
したわれる (慕われる), 243

しのにふるころ (篠にふる頃), 223, 244, 379
しののめ (東雲), 186, 257
しのびかねる (忍びかねる), 244
しのびづま (忍び妻), 408, 451, 461
しのぶぐさ (忍草), 192, 244
しばのいお (柴の庵), 87, 163, 244, 254, 257, 261, 405, 438
しばのとのうち (柴の戸の内), 112, 245, 299
しばもつひと (柴持つ人), 89, 136
しぼむあさがお (萎む朝顔), 73, 245
しもがれ (霜枯れ), 248, 266, 432
しもすさまじいやま (霜凄まじい山), 246, 250, 434
しものかたしき (霜の片敷), 166, 246
しもはただ (霜はただ), 140, 261, 340
しもふる (霜ふる), 213, 341
しもまようやまだ (霜迷う山田), 93, 251, 425
しらかわのせき (白河の関), 246
しらつゆ (白露), 247, 292
しらない (知らない), 213, 215, 259
しる (知る), 247
しるべ (標), 165, 230
しるべおきいづるみち (標置き出る道), 192, 399

すえにちるはな (末に散る花), 248, 269, 424
すぎのこずえ (杉の梢), 387
すぎのむらだち (杉の群立ち), 170, 248, 269, 326, 424
すぎるむらさめ (過ぎる村雨), 249, 387, 422
すぎるゆうぐれ (過ぎる夕暮れ), 244
すごいあきかぜ (凄い秋風), 65, 161, 249
すさまじいそら (凄まじい空), 250, 263
すずしい (涼しい), 251
すずしさ (涼しさ), 126, 178, 276
すずしさにあきたつ (涼しさに秋立つ), 65, 251, 270
すずむしのこえ (鈴虫の声), 208, 252
すだれをまけばゆき (簾を巻けば雪), 252, 398, 447
すててかえる (捨てて帰る), 138, 252
すててから (捨ててから), 86, 141, 433
すてるほととぎす (捨てる時鳥), 90, 195, 424
すてるよのなか (捨てる世の中), 252, 310, 453
すまのうら (須磨の浦), 117, 253
すまのうらなみ (須磨の浦浪), 118, 146, 253, 323, 436
すまびと (須磨人), 253, 363
すみぞめのそで (墨染の袖), 94, 101, 254, 257, 261, 456
すみだがわ (隅田川), 254
すみどころ (住み所), 255, 303
すみのころもで (墨の衣手), 224, 254
すみよし (住吉), 254
すみよしのうら (住吉の浦), 118, 254
すみよしのまつ (住吉の松), 254, 402
すみよしのまつとたのむ (住吉の松と頼む), 255, 272, 402
すむみねのふるでら (住む峰の古寺), 87, 271
すめるふるさと (住める古里), 255, 381

せきのと (関の戸), 209, 308, 317
せみのもろごえ (蝉の諸声), 209, 256

そうはおもかげ (添うは面影), 132, 256
そことない (そことない), 174, 464
そことなくかすむ (そことなく霞む), 110, 205
そそぎすてる (注ぎ捨てる), 388
そでがつゆっぽい (袖が露っぽい), 62, 103, 258, 273, 279, 293
そでにかける (袖に掛ける), 245, 407
そでぬれる (袖濡れる), 181, 217, 258, 311, 331, 367, 454
そでのあきかぜ (袖の秋風), 290, 463
そでのいろいろ (袖の色々), 100, 258, 274, 424
そでのうつりが (袖の移り香), 114, 134, 172, 186, 224, 258, 336
そでのうめのか (袖の梅の香), 116, 123, 135, 259, 344, 418
そでのかずかず (袖の数々), 407
そでのくれない (袖の紅), 203, 259
そでのこおり (袖の氷), 213, 259
そでのすずしさ (袖の涼しさ), 305, 383
そでのつゆけさ (袖の露けさ), 287, 373
そでのまゆずみ (袖の眉墨), 324
そでふきおくるかぜ (袖吹きおくる風), 122, 161, 259, 371
そでをぬらす (袖を濡らす), 260, 331
そののあさがお (園の朝顔), 73, 260
そののうめのか (園の梅の香), 81
そののむらたけ (園の群竹), 107
そのまま (そのまま), 260
そばのかけはし (傍の掛橋), 140, 261, 291, 340
そよぐあきかぜ (そよぐ秋風), 147, 243, 437
そら (空), 88, 395
それでないこえ (それでない声), 132, 167, 419

たえだえ (絶え絶え), 99, 136, 140, 143, 148, 167, 291, 330, 356, 433
たえない (耐えない), 172, 292
たがさと (誰が里), 231, 275
たき (滝), 93, 250, 411
たきおちる (滝落ちる), 101, 212, 322
たきのいわなみ (滝の岩浪), 101, 267, 323
たきのしらなみ (滝の白浪), 151

たきのなみ (滝の浪), 370, 411
たけうちなびく (竹打ち靡く), 268, 321
たけのすえずえ (竹の末々), 248, 268
たけのひとむら (竹の一群), 91, 268, 424
たけをうつこえ (竹を打つ声), 113, 209, 268
たごのながきひ (田子の長き日), 139, 322, 374
たそがれどき (黄昏時), 277, 446
たそがれのそら (黄昏の空), 446
ただあきのかぜ (ただ秋の風), 65, 161
ただありなしのちぎり (ただ有り無しの契り), 84, 276, 309
ただおもかげは (ただ面影), 260
ただひとこと (ただ一言), 101, 194, 339
ただひととおり (ただ一通り), 91, 303
ただまつのかぜ (ただ松の風), 161, 402
ただゆめのうち (ただ夢の内), 112, 450
たちかえる (立ち返る), 274, 405
たちばな (橘), 114, 135, 259, 394, 440
たちやすらう (立ち安らう), 248, 414
たちわかれ (立ち別れ), 260, 331
たつたがわ (立田川), 203, 259
たつたのやま (立田の山), 121, 322
たつたやまのあき (立田山の秋), 120, 247, 322
たってうかれる (立って浮かれる), 105, 270
たつひのなつごろも (たつ日の夏衣), 224, 270, 320, 330
たななしおぶねのおと (棚無し小舟の音), 83, 129, 281, 336
たなばた (七夕), 63, 157, 271, 342
たなびくよこぐものそら (棚引く横雲の空), 195, 263, 271, 456
たにうえやらない (田に植えやらない), 223, 234
たにのいお (谷の庵), 87, 271
たにのうぐいす (谷の鶯), 351, 358
たにのとのうぐいす (谷の戸の鶯), 226, 308
たにのとのやま (谷の戸の山), 107
たにのとはあけてもおそいひのひかり (谷の戸は明けても遅い日の光), 108, 204
たにのほそみち (谷の細道), 370, 438
たのしみをきわめる (楽しみを極める), 190, 271
たのしむ (楽しむ), 272
たのみおく (頼み置く), 74, 452
たのむ (頼む), 163, 372, 403
たのむおなじよ (頼む同じ世), 96
たのものはら (田の面の原), 248, 314
たび (旅), 181, 217, 311, 367, 454
たびごろも (旅衣), 138, 225, 250, 263, 273, 302, 380, 381
たびにある (旅にある), 273
たびのかなしさ (旅の悲しさ), 168, 273, 381
たびのくにぐにのひと (旅の国々の人), 89, 126, 306, 377
たびのころもで (旅の衣手), 225, 234, 273, 330
たびのそら (旅の空), 130, 176, 263, 273, 335, 369, 375, 380, 382
たびはうい (旅は憂い), 103, 273
たびはかなしい (旅は悲しい), 168, 273
たびまくら (旅枕), 176, 335, 375
たまがわのなみ (多摩川の浪), 115
たまくらのつき (手枕の月), 282, 399
たましまがわ (玉島川), 274
たますだれ (玉簾), 70, 71, 106, 159, 197, 240, 252, 269, 328
たますだれあける (玉簾あける), 70, 252
たまだれのきり (玉垂の霧), 126, 185, 294, 331
たまのおのすえ (玉の緒の末), 74, 139, 197
たまぼこ (玉鉾), 122, 161, 259, 274, 371
たまぼこのゆくえ (玉鉾の行方), 125, 187
たらちねのあと (垂乳根の跡), 458
だれがうい (誰が憂い), 131, 223, 427
だれかえる (誰帰る), 138, 275
だれかがうえたまつのこる (誰かが植えた松残る), 90, 203, 250
だれがこえる (誰が越える), 397, 441
だれなのか (誰なのか), 275
だれにわすれる (誰に忘れる), 275, 465
だれをとおうか (誰を訪おうか), 192, 275, 300, 352
だれをまつ (誰を待つ), 275, 402
だれをまつむしのなく (誰を松虫の鳴く), 276, 317, 405

ちかいかりがね (近い雁), 246, 285
ちかいかわおと (近い川音), 126, 178, 276
ちかいやまざと (近い山里), 231, 276, 434
ちぎり (契り), 166, 171, 181, 217, 277, 311, 365, 367, 454
ちどりなく (千鳥鳴く), 277, 317
ちどりなくこえ (千鳥鳴く声), 209, 226, 277, 284, 317
ちょうのあわれさ (蝶の哀れさ), 85, 278
ちるのがおしい (散るのが惜しい), 123, 278
ちるはな (散る花), 163, 278, 345, 372, 404

つかえびと (仕え人), 279, 363
つきいでやる (月出やる), 282, 299
つきいでる (月出る), 60, 62, 157, 197, 200, 282, 299, 324, 342, 359, 374, 404, 443
つきおちる (月落ちる), 124, 209, 283, 307
つきがかすむ (月が霞む), 152, 283
つきがかすむよる (月が霞む夜), 152, 283, 460
つきがかたむく (月が傾く), 167, 170, 283, 326

つきかげすむ (月影澄む), 144, 255, 283
つきがこおる (月が氷る), 213, 283
つきがさやか (月がさやか), 236, 284
つきがのこる (月が残る), 71, 148
つきがほのめく (月がほのめく), 284, 395
つきさえる (月冴える), 226, 284
つきさしいでる (月差し出る), 229, 284, 299
つきさやか (月さやか), 245, 407
つきすむ (月澄む), 255, 284
つきにありあけのそら (月に有明の空), 83, 263, 285
つきにいくたび (月に幾度), 176, 401, 452
つきにかえる (月に帰る), 100, 258
つきにかりまくら (月に仮枕), 127, 421, 463
つきにしも (月に霜), 246, 285
つきのあかしがた (月の明石潟), 56, 285
つきのあかつき (月の暁), 166
つきのありあけのころ (月の有明の頃), 385
つきのいでしほ (月の出潮), 124, 173, 298
つきのいりがた (月の入方), 99, 165, 285
つきのかわかみ (月の川上), 104, 178, 285
つきのこる (月残る), 70, 195, 263, 271, 456, 461
つきのさびしさ (月の寂しさ), 232, 285, 388
つきのさむしろ (月のさ筵), 70, 189, 252
つきのさやけさ (月のさやけさ), 105, 125, 177, 236, 286, 353, 400
つきのさよのなかやま (月の小夜の中山), 237, 286
つきのさよふける (月の小夜更ける), 208, 238
つきのたびのみち (月の旅の道), 274, 286, 413
つきので (月の出), 152, 199, 443
つきのむらくも (月の群雲), 195, 287, 425
つきのもと (月の下), 194, 226, 242, 287, 462
つきのゆうぐれ (月の夕暮れ), 62, 261
つきのゆくすえ (月の行く末), 229, 287, 449
つきのよ (月の夜), 211, 405
つきはありあけ (月は有明), 84, 287, 318, 384
つきはいでてもくらい (月は出でても暗い), 188, 246
つきはなお (月は猶), 69, 164, 261
つきはまだ (月はまだ), 201, 300, 383
つきふける (月更ける), 287, 373
つきほのか (月仄か), 188, 336
つきまつ (月待つ), 287, 402
つきもさやか (月もさやか), 237, 287
つきよなよな (月夜な夜な), 287, 460
つきをまくらに (月を枕に), 262, 332
つきをみる (月を見る), 163, 166, 181, 211, 217, 230, 246, 288, 311, 314, 367, 400, 403, 418, 454, 462
つたう (伝う), 291
つたのしたみち (蔦の下道), 113, 432
つづく (続く), 98, 169, 268, 322
つづくおかごえのみち (続く岡越えの道), 56
つつじやまぶき (躑躅山吹), 145, 347, 349, 354
つなひくわたしぶね (綱引く渡し舟), 215, 313, 402
つばくらめ (燕), 112, 380, 417
つまとうちどりしばなく (妻訪う千鳥しば鳴く), 117, 253
つもるしらゆき (積もる白雪), 379
つゆおちる (露落ちる), 208, 238
つゆがうい (露が憂い), 63, 422
つゆがこぼれる (露が零れる), 58, 155
つゆがみだれる (露が乱れる), 212, 293, 411, 421
つゆさむいそで (露寒い袖), 144, 255, 283
つゆしぐれのくさ (露時雨の草), 193, 240, 293
つゆとけさのはつしも (露と今朝の初霜), 99, 290
つゆにうつろう (露に移ろう), 270, 423
つゆにみだれる (露に乱れる), 293, 411
つゆのあけぼの (露の曙), 68, 293
つゆのおときくにわ (露の音聞く庭), 126, 185, 294, 331
つゆのくさむら (露の草群), 220
つゆのすずしさ (露の涼しさ), 251, 294
つゆのたまくら (露の手枕), 294, 400
つゆのつきがこぼれる (露の月が零れる), 221, 288, 294
つゆのふるさと (露のふる里), 59, 156, 294, 381
つゆのふるみち (露のふる道), 294, 379, 413
つゆのよのなか (露の世の中), 189
つゆふくかぜ (露吹く風), 161, 294, 371
つゆふる (露ふる), 59, 156, 371
つゆもたまらない (露も溜まらない), 321
つゆもなみだも (露も涙も), 294, 324
つらい (辛い), 275, 465
つらいたまのお (辛い玉の緒), 140, 456
つりぶね (釣舟), 144, 306
つれない (連れない), 130, 266, 296
つれないなかににしきぎ (連れない仲に錦木), 81
つれなくみる (連れなく見る), 118, 215
つれなさをうらむ (連れなさを恨む), 119, 296

てならい (手習い), 106, 323, 377
てらのかど (寺の角), 140, 340, 414

といいかくいい (と言いかく言い), 85
といよる (訪い寄る), 140, 340, 414
とう (訪う), 119, 364
とうひともあらしのやまのあきのくれ (訪う人も嵐の山の秋の暮れ), 276, 317, 405
とおぎえ (遠消え), 184, 302
とおきふるさと (遠き古里), 302, 381
とおきむさしの (遠き武蔵野), 302, 420

とおくきた (遠く来た), 198, 302
とおやまのあき (遠山の秋), 66, 302, 434
ときすぎるほととぎす (時過ぎる時鳥), 79, 401
とける (解ける), 337, 362
とこのうえ (床の上), 133, 452
ところどころ (所々), 303, 327, 395
とこをしめる (所を占める), 246, 303
としがくれる (年が暮れる), 417, 448
としこえる (年越える), 213, 304
としたける (年長ける), 268, 304
としどしのはな (年々の花), 304, 345
とにかくに (とにかくに), 304
とぶかりのつばさ (飛ぶ雁の翼), 174, 291, 305
とぶほたる (飛ぶ蛍), 74, 143, 144, 146, 148, 266–268, 293, 305, 321, 361, 362, 383, 411
とまりぶね (泊まり舟), 305, 376
とまりぶねおとしていずち (泊まり舟音していずち), 89, 126, 306, 377
ともしびのかげ (灯の影), 144, 215, 297, 306, 332, 379, 406, 462
ともしびのもと (灯の下), 297, 306, 379
ともちどり (友千鳥), 118, 253
とりがさえずる (鳥が囀る), 225, 307
とりどり (とりどり), 181, 217, 311, 367, 454
とりなく (鳥鳴く), 164, 194, 301, 307, 317
とりのこえ (鳥の声), 209, 307
とりのこえごえ (鳥の声々), 209, 267, 307
とりのさえずり (鳥の囀り), 145, 225, 308, 348
とりのなきたつ (鳥の鳴き立つ), 118, 162, 324, 372
とりのなくこえ (鳥の鳴く声), 209, 308, 317
とりのひとこえ (鳥の一声), 91, 145, 210, 308, 348
とわのふるみや (永久の布留宮), 63, 431
とわれる (訪われる), 300

なおさびしい (なお寂しい), 232
なおすまのうら (なお須磨の浦), 118, 253
ながあめのそら (長雨の空), 79, 263, 314
ながいよ (長い夜), 175, 466
ながきひ (長き日), 76, 149, 358, 359, 381
ながきよのゆめ (長き夜の夢), 192, 399
なかぞら (中空), 263, 310
なかぞらのくも (中空の雲), 195, 263, 310
なかだち (媒), 85
ながつきのしも (長月の霜), 246, 314
なかなか (中々), 164, 405, 438
なかなかいちはすみよい (中々市は住み良い), 91, 256, 313
ながめる (眺める), 314
ながめるゆうぐれのそら (眺める夕暮れの空), 390
ながめわびる (眺め侘びる), 94
ながらえる (長らえる), 215
ながれのすえ (流れの末), 248, 314
ながれる (流れる), 314
ながれるみず (流れる水), 315, 409
なきいでる (鳴き出る), 304
なきそめる (鳴き初める), 236, 286
なきもの (無き物), 309, 427
なくきりぎりす (鳴く蟋蟀), 59, 60, 156, 189, 191, 317, 371, 422
なぐさめる (慰める), 133, 365
なくほととぎす (鳴く時鳥), 92, 204, 233, 247, 318, 384, 417, 423
なくむし (鳴く虫), 288, 382
なくやまほととぎす (鳴く山時鳥), 296
なけほととぎす (鳴け時鳥), 318, 384, 423
なごり (名残り), 320
なごりさびしい (名残り寂しい), 232, 320
なつかけて (夏かけて), 142, 320
なつこだち (夏木立), 183, 270, 320
なつごろも (夏衣), 214, 363, 370, 406, 452
なつのひ (夏の日), 320, 330
なつのよのつき (夏の夜の月), 288, 320, 460
なでしこ (撫子), 321
なにおもう (何思う), 130, 321
なにたのむ (何頼む), 272, 321
なににたとえよう (何に譬えよう), 72, 271, 321
なにわのあし (難波の葦), 408, 451, 461
なびきあうたけ (靡き合う竹), 268, 322
なびくあおやぎ (靡く青柳), 55, 322, 430
なびくくれたけ (靡く呉竹), 92, 425
なみかえる (浪返る), 160, 397
なみここもと (浪此処許), 117, 253
なみだ (涙), 133, 254, 257, 261, 324, 365
なみだあらそうこえ (涙争う声), 80, 210, 324
なみだおちる (涙落ちる), 124, 216, 325, 365
なみだがわ (涙河), 106, 178, 325, 341, 451
なみだがわがそでのうえ (涙が我が袖の上), 104, 260, 325, 467
なみにしぐれる (浪に時雨れる), 77, 296, 375
なみのうえ (浪の上), 104, 120, 296, 323, 376
なみのうきはし (浪の浮橋), 213, 410
なみのうきふね (浪の浮舟), 106, 112, 323, 377, 447
なみのおと (浪の音), 215, 290
なみのおとがすずしい (浪の音が涼しい), 446
なみのまにまに (浪の間に間に), 324, 397
なる (なる), 67, 75, 86, 91, 95, 125, 133, 137, 142, 146, 159, 201, 208, 211, 238, 264, 303, 309, 319,

326, 327, 364, 391, 406, 412, 419, 431, 436, 444
なれなれる (慣れ慣れる), 272, 364
なれるしばびと (なれる柴人), 245, 327, 364

にいたまくら (新手枕), 74, 297, 400
におう (匂う), 159, 241
におううめのか (匂う梅の香), 117, 135, 328
におうころもで (匂う衣手), 166
におうたちばな (匂う橘), 269, 329, 388
にわたづみ (庭水), 179, 316
にわのあけぼの (庭の曙), 68, 331
にわのつきかげ (庭の月影), 56, 153

ねぐらのはるのとりのね (塒の春の鳥の声), 210, 308, 332, 354
ねざめがち (寝覚めがち), 324, 397
ねざめする (寝覚めする), 235, 333
ねざめするよ (寝覚めする夜), 235, 333, 460
ねざめのあかつきのやま (寝覚めの暁の山), 395, 465
ねざめのほととぎす (寝覚めの時鳥), 223, 234
ねざめればつき (寝覚めれば月), 206, 237, 316
ねやのつきかげ (閨の月影), 145, 288, 332
ねられる (寝られる), 63, 459
ねるほととぎす (寝る時鳥), 401, 451

のがとおい (野が遠い), 208, 209, 238, 302, 308, 334
のきのうぐいすのこえ (軒の鶯の声), 117, 429
のきのたちばな (軒の橘), 269, 335, 388
のきのまつ (軒の松), 422
のきばかたむく (軒端傾く), 76, 233
のこりおおい (残り多い), 278, 347
のこる (残る), 55, 152, 247, 283, 322, 336, 398, 416, 430, 447
のこるあけぼの (残る曙), 107
のこるあつさにはしいする (残る暑さに端居する), 62, 157, 342
のこるありあけ (残る有明), 84, 336
のこるつきかげ (残る月影), 71, 148
のこるやまかげ (残る山影), 145, 336, 434
のこるやまとなでしこ (残る大和撫子), 189
のちのたちばな (軒の橘), 388
のちのたびびと (後の旅人), 338, 353
のちのよのあき (後の世の秋), 274, 286, 413
のちのよのみち (後の世の道), 76, 102, 413, 453
のどか (長閑), 115, 295, 337, 356, 435, 457
のどかなまくら (長閑な枕), 129, 281, 459
のにかりまくら (野に仮枕), 176, 334, 400
ののしたもえ (野の下萌え), 334
ののひとつまつ (野の一つ松), 65, 161, 249
ののみや (野々宮), 337
ののみやのみち (野々宮の道), 188
のははるか (野は遥か), 225, 273
のべちかいうぐいす (野辺近い鶯), 111, 276, 334
のべのあけぼの (野辺の曙), 68, 334
のべのあわれさ (野辺の哀れさ), 85, 334
のべのいろいろ (野辺の色々), 100, 335
のべのおちこち (野辺の遠近), 124, 335
のべのかりふし (野辺の仮臥), 176, 335, 375
のべのひとむら (野辺の一村), 138, 364
のべのむしのね (野辺の虫の音), 57, 154
のりのことのは (法の言の葉), 221, 337
のりのみち (法の道), 95
のわきする (野分する), 64, 73, 99, 279, 459
のわきするにわにつき (野分する庭に月), 133, 191, 242, 336, 447
のわきのあと (野分の後), 76, 338
のわきのかぜ (野分の風), 161, 338

はかない (儚い), 102, 141, 216, 239, 352, 366
はかないはねをならべるとりべやま (儚い羽根を並べる鳥部山), 181, 218, 311, 367, 454
はぎさく (萩咲く), 60, 197
はぎのしたつゆ (萩の下露), 242, 295, 339
はこぶみつぎ (運ぶ貢), 339, 415
はしいするそでひややか (端居する袖冷ややか), 63, 383
はじかわす (恥交わす), 74, 297, 400
はしのひとすじ (橋の一筋), 100, 146, 332, 383, 413, 436
はしばしら (橋柱), 340, 341
はじめ (初め), 343
はしもみじ (端紅葉), 190, 193, 426
はちすのうえ (蓮の上), 105, 342
はつかぜときのうはきいてあきふける (初風と昨日は聞いて秋更ける), 66, 162, 185, 187, 343, 373
はつかりのこえ (初雁の声), 57, 154, 160, 174, 210, 343, 418
はつしぐれ (初時雨), 61, 161, 164, 199, 402
はつせかぜ (初瀬風), 343
はつせでら (初瀬寺), 98, 170, 343
はつせやま (初瀬山), 98, 170
はつほととぎす (初時鳥), 81
はなうえる (花植える), 105, 345
はなうちかおる (花打ち香る), 135, 144, 175, 282, 333, 346
はながおとろえる (花が衰える), 309, 418
はなざかり (花盛り), 139, 195, 226, 318, 346, 384, 416
はなさく (花咲く), 95, 99, 180, 181, 218, 222, 227, 233, 297, 300, 312, 346, 357, 367, 380, 394, 417,

440, 454
はなすすき (花薄), 59, 62, 156, 251, 297, 347, 371, 399
はなたちばな (花橘), 389, 393, 394, 439, 441
はなちる (花散る), 163, 211, 278, 347, 393, 403, 439
はなとあさぼらけ (花と朝ぼらけ), 108, 315
はなならで (花ならで), 347
はなのあと (花の跡), 132, 256
はなのいろ (花の色), 100, 347
はなのかげ (花の陰), 97, 145, 169, 201, 347, 429, 443
はなのかげにやすらう (花の陰に安らう), 146, 348, 429
はなのこずえにあらわれる (花の梢に現れる), 81, 219, 348
はなのこのもと (花の木の下), 111, 184, 242, 244, 348
はなのちるころ (花の散る頃), 87, 245
はなのはる (花の春), 349, 354
はなのはるかぜ (花の春風), 162, 349, 354
はなのはるごと (花の春毎), 225, 349, 354
はなのひとえだ (花の一枝), 91, 119, 349, 381
はなのひともと (花の一本), 91, 314, 349, 396, 456
はなのやまかぜ (花の山風), 102, 162, 295, 350, 434
はなまちどおい (花待ち遠い), 276, 436
はなみえる (花見える), 350, 419
はなもない (花もない), 182, 218, 312, 367, 454
はなよもみじよ (花よ紅葉よ), 350, 428
はなれごま (放れ駒), 93, 193, 243, 250, 414, 428
はなをうらむ (花を恨む), 219, 313, 368, 455
はなをまつ (花を待つ), 107
はなをみる (花を見る), 55, 122, 142, 430, 457
はねをならべるとりべやま (羽根を並べる鳥部山), 182, 218, 312, 368, 455
はまつたう (浜伝う), 291, 352
はらう (払う), 353
はらうころもでのつゆ (払う衣手の露), 239, 466
はるあきのいろ (春秋の色), 66, 100, 355
はるあきのそら (春秋の空), 132, 225, 427
はるあさい (春浅い), 150, 369
はるか (遥か), 178, 230, 295
はるかえる (春帰る), 138, 355
はるがきた (春が来た), 153
はるがくる (春が来る), 198, 355
はるかぜ (春風), 78, 153, 199
はるかぜがふく (春風が吹く), 151, 162, 355, 372
はるかぜがゆるい (春風が緩い), 72
はるがみえる (春が見える), 236
はるくれる (春暮れる), 91, 138, 349, 380, 394, 396, 441
はるさめのそら (春雨の空), 227, 228
はるすぎる (春過ぎる), 249, 351, 355, 393, 439, 458
はるたつ (春立つ), 270, 356
はるながら (春ながら), 144, 228, 278
はるになる (春になる), 98, 162, 170, 350, 434
はるのあけぼの (春の曙), 68, 356
はるのあめ (春の雨), 150, 222
はるのいりひ (春の入日), 99, 330, 356
はるのうぐいす (春の鶯), 93, 211, 391
はるのうみつら (春の海面), 115, 295, 356
はるのかえるさ (春の帰るさ), 138, 146, 348, 356, 429
はるのかりがね (春の雁), 122, 149, 175, 213, 357, 416
はるのくれ (春の暮れ), 200, 357
はるのくれがた (春の暮れ方), 165, 200, 279, 347, 357
はるのこる (春残る), 110, 206
はるのさかずき (春の杯), 145, 348
はるのさびしさ (春の寂しさ), 233, 279, 347, 357
はるのすぎむら (春の杉群), 227, 346
はるのとおやま (春の遠山), 149
はるのともない (春の伴い), 306, 357
はるのの (春の野), 111, 206
はるのはな (春の花), 350, 357
はるのひかり (春の光), 358, 362
はるのふるさと (春の古里), 347, 358, 381
はるのほととぎす (春の時鳥), 269, 374
はるのまつのえ (春の松の枝), 229, 435
はるのみやびと (春の宮人), 120, 406
はるのもののね (春の物の音), 126, 358, 427
はるのやまざと (春の山里), 231, 358, 434
はるのやまでら (春の山寺), 297, 359, 435
はるのゆうぐれ (春の夕暮れ), 200, 359, 443
はるのゆめ (春の夢), 159, 278, 345
はるのよ (春の夜), 106, 196, 265, 341, 452, 457
はるのよのつき (春の夜の月), 288, 359, 460
はるのよのゆめ (春の夜の夢), 359, 450, 460
はるはあけぼの (春は曙), 69, 359
はるばる (遙々), 173, 360, 464
はるよりのち (春より後), 76, 359
はるをしる (春を知る), 116, 134
はれたさみだれのそら (晴れた五月雨の空), 105, 265
はれるむらさめ (晴れる村雨), 360, 422

ひがくれる (日が暮れる), 98, 170, 200, 330
ひかげさす (日影さす), 116, 134
ひがながい (日が長い), 249, 355
ひかりさえへだたる (光りさえ隔たる), 73, 260
ひかりのかげ (光の影), 146, 362
ひかりのどか (光長閑), 107, 270, 337, 356, 362
ひぐらし (蜩), 105, 342
ひぐらしがなく (蜩が鳴く), 60, 197
ひぐらしのこえ (蜩の声), 58, 65, 66, 100, 155, 162, 210, 251, 270, 290, 295, 321, 362, 372

ひぐれ (日暮れ), 175
ひぐれにともなう (日暮れに伴う), 201, 306, 330
ひだりみぎ (左右), 362, 408
ひとがうらめしい (人が恨めしい), 119, 364
ひとかえる (人帰る), 138, 364
ひとかげもしない (人影もしない), 146, 309, 364
ひとがまたれる (人が待たれる), 364, 403
ひとぐもり (一曇り), 202, 441, 445
ひとこえのほととぎす (一声の時鳥), 360, 422
ひとしぐれ (一時雨), 92, 240
ひとすじ (一筋), 92, 250
ひとすじしろい (一筋白い), 189, 360
ひとだのみ (人頼み), 272, 364
ひとつ (一つ), 182, 218, 312, 368, 455
ひとついお (一つ庵), 141, 239, 352
ひととおり (一通り), 92, 303
ひとのおとずれ (人の訪れ), 127, 365
ひとのおもかげ (人の面影), 132, 166, 277, 365
ひとのかねごと (人の豫言), 171, 365
ひとのこころ (人の心), 216, 365
ひとのこころがかわる (人の心が変わる), 180, 216, 366
ひとのこころのかわるよのなか (人の心の変わる世の中), 180, 216, 310, 366, 453
ひとのこころのよのなか (人の心の世の中), 219, 313, 368, 455
ひとはおとしない (人は音しない), 321
ひとはといこない (人は訪い来ない), 74, 113, 224
ひとはのこらないもみじ (人は残らない紅葉), 66, 162, 185, 187, 343, 373
ひとはより (一葉より), 63, 157, 342
ひとふでのあと (一筆の跡), 102, 319
ひとむら (一群), 92, 164, 194, 301, 425
ひとむらさめ (一村雨), 92, 423
ひとむらすすき (一群薄), 59, 156, 212, 421
ひともある (人もある), 84, 369
ひともない (人もない), 124, 325
ひともなし (人もなし), 138, 275
ひともみる (人も見る), 73, 245
ひとりすむ (一人住む), 300
ひとりねとかげ (一人寝と影), 92, 146, 333, 369
ひとりねる (一人寝る), 92, 333, 369
ひにわたるふねのさむさ (日に渡る舟の寒さ), 76, 80, 360, 424
ひのかげ (日の影), 226, 308
ひばりなくこえ (雲雀鳴く声), 149
ひややか (冷ややか), 236, 286, 369

ふえのね (笛の音), 160, 214
ふかいよる (深い夜), 175, 185, 333, 447
ふかいよるのそら (深い夜の空), 264, 370, 461
ふきとふく (ふきと吹く), 265, 313, 449
ふくあきのはつかぜ (吹く秋の初風), 177, 298
ふくかぜ (吹く風), 200, 212, 271, 321, 330, 421
ふくかぜのあきのつゆ (吹く風に秋の露), 66, 162, 295, 372
ふくなみのうらかぜ (吹く浪の浦風), 118, 162, 324, 372
ふけふける (更け更ける), 236, 286
ふじさく (藤咲く), 165, 200, 357
ふじのたそがれ (藤の黄昏), 269, 374
ふしみのゆめ (伏見の夢), 173, 316
ふでのあと (筆の跡), 76, 375
ふとむらすすき (一群薄), 93, 251, 425
ふねからきくなみがすさまじい (舟から聞く浪が凄まじい), 58, 155
ふねくだすふしみ (舟下す伏見), 126, 237, 409
ふねさしとめる (舟差し止める), 389
ふねにあかしのとまり (舟に明石の泊), 394, 440
ふねにすまのうらなみ (舟に須磨の浦浪), 442
ふねのうち (舟の内), 105, 323
ふねのつなでなわ (舟の綱手縄), 291, 297, 328, 377
ふねのまきまき (文の巻々), 378, 398
ふねひきのぼる (舟曳き上る), 377
ふゆがれ (冬枯れ), 177, 378
ふゆごもり (冬籠り), 232, 320
ふゆこもるころ (冬籠もる頃), 113, 222, 223, 378, 449
ふりはえる (振延える), 208, 252
ふる (ふる), 379
ふるきのきば (古き軒端), 192, 244
ふるきみやこのはる (古き都の春), 359, 379, 417
ふるさと (古里), 103, 121, 124, 137, 158, 173, 193, 301, 325, 329, 353, 381, 428, 465
ふるさとにあきのかぜ (古里に秋の風), 167, 283
ふるさとのあき (古里の秋), 66, 127, 381, 421
ふるさとのつき (古里の月), 288, 382
ふるさとのはる (古里の春), 309, 427
ふるさとのゆうべ (古里の夕べ), 57, 154
ふるさとのゆめ (古里の夢), 176, 192, 399
ふるさとびと (古里人), 103, 121, 158, 369, 382
ふるづかのまつ (古塚の松), 327
ふるでら (古寺), 297, 379
ふるでらのみち (古寺の道), 81, 219, 348
ふるみやのうち (古宮の内), 112, 166, 380, 417
ふるやまざくら (ふる山桜), 304, 345
ふるゆき (ふる雪), 200, 330

へだたる (隔たる), 382
へだつふるさと (隔つ古里), 174, 274

ほしをいただく (星を頂く), 382
ほたるとうくれ (蛍訪う暮れ), 201, 300, 383
ほたるとびかう (蛍飛び交う), 251
ほたるとぶそら (蛍飛ぶ空), 264, 305, 383
ほどがしられる (程が知られる), 247, 395
ほとけとなえる (仏唱える), 304, 384
ほととぎす (時鳥), 68, 78, 79, 82, 84, 91, 96, 108, 110, 112, 119, 153, 160, 168, 179, 182, 185, 196, 199, 201, 202, 204, 206, 210, 218, 220, 223, 233, 234, 243, 249, 262–264, 269, 273, 280, 287–289, 292, 308, 312, 314, 315, 320, 324, 335, 368, 374, 377, 385, 397, 403, 404, 408, 415, 420, 422, 423, 426, 431, 437, 443, 444, 455, 458, 460, 461
ほととぎすなく (時鳥鳴く), 319, 391
ほととぎすのこえ (時鳥の声), 129, 281, 459
ほととぎすのひとこえ (時鳥の一声), 93, 211, 391
ほととぎすまくらのいずちすぎる (時鳥枕のいずち過ぎる), 89, 249, 391, 400
ほどはくもい (程は雲居), 193, 353, 465
ほのか (仄か), 395
ほのかなきり (仄かな霧), 189, 396
ほのかなそら (仄かな空), 336

まいのそで (舞の袖), 260, 398
まえわたり (前渡り), 398, 466
まがきである (籬である), 382
まぎれない (紛れない), 398
まくら (枕), 235, 333, 460
まくらくるしい (枕苦しい), 391
まくらさだめない (枕定めない), 230, 400
まくらにかたしく (枕に片敷く), 96, 203
まくらにちどりなくこえ (枕に千鳥鳴く声), 55
まくらのうえ (枕の上), 105, 400
まくらのゆめ (枕の夢), 400, 450
まくらはいずこ (枕は何処), 58, 155
まさごじのすえ (真砂路の末), 277, 282, 299, 425
まさごはら (真砂原), 353, 401
ましばにまじるつつじやまぶき (真柴に混じる躑躅山吹), 378, 466
ませのうち (籬の内), 86
またつきあるゆきのはれる (また月ある雪の晴れる), 88, 241, 267, 307, 412
またはじらう (また恥じらう), 94
まちわびる (待ち侘びる), 112, 118, 191, 291, 299, 414
まつあいだ (待つ間), 397, 403
まつあらわれる (松現れる), 246, 250, 434
まつかぜがふく (松風が吹く), 147, 162, 372, 403, 436
まつかぜのおと (松風の音), 305, 376
まつかぜのこえ (松風の声), 87, 163, 211, 403, 416
まつかぜのつき (松風の月), 67, 125, 220
まつたてる (松立てる), 77, 296, 376
まつにふじのたそがれ (松に藤の黄昏), 227, 346
まつのひとむら (松の一群), 93, 184, 302, 403, 425
まつのひともと (松の一本), 93, 111, 139, 203, 339, 396, 404
まつのふじなみ (松の藤浪), 123, 228, 324, 374, 404
まつふくかぜ (松吹く風), 163, 372, 404
まつほととぎす (待つ時鳥), 392, 404
まつみえる (松見える), 404, 419
まつむしがなく (松虫が鳴く), 319, 405
まつむしのこえ (松虫の声), 57, 73, 99, 154, 180, 211, 251, 320, 344, 347, 405
まつむしほのめく (松虫ほのめく), 396, 406
まつらがた (松浦潟), 172, 377
まつりするかみ (祭りする神), 171, 406
まつをたよりに (松を頼りに), 274, 405
まどいする (円居する), 407
まどろまない (まどろまない), 374, 462
まどろむ (まどろむ), 112, 450
まどをひらく (窓を開く), 370, 406
まぼろし (幻), 407
まよう (迷う), 97, 169

みえかくれする (見え隠れする), 195, 263, 310
みがおいたほととぎす (身が老いた時鳥), 79, 216, 290, 460
みかわみず (御溝水), 140, 361, 426
みじかよ (短夜), 319, 385, 393, 440
みじかよのそら (短夜の空), 389
みじかよのつき (短夜の月), 289, 392, 404, 408, 438, 461
みじかよのゆめ (短夜の夢), 408, 451, 461
みずかげのさびしさ (水影の寂しさ), 146, 233, 410
みずこえる (水越える), 213, 410
みずたえだえ (水絶え絶え), 110, 205
みずににおうやまぶき (水に匂う山吹), 329, 410, 443
みずのうきくさ (水の浮草), 230, 370
みずのおと (水の音), 127, 410
みずのさびあゆ (水の錆鮎), 80, 274, 410
みずのすえみえる (水の末見える), 248, 410, 419
みずのすずしさ (水の涼しさ), 241, 305, 383, 412
みずのたえだえ (水の絶え絶え), 266, 410
みずのひとすじ (水の一筋), 93, 250, 411
みずはすむ (水は澄む), 256, 411
みずはれる (水晴れる), 360, 411
みずひややか (水冷ややか), 370, 411
みだれがみ (乱れ髪), 171, 412
みだれてとぶほたる (乱れて飛ぶ蛍), 305, 383, 412

みちがほそい (道が細い), 383, 413
みちたえだえ (道絶え絶え), 266, 413
みちである (道である), 414
みちのおく (道の奥), 246
みちのかけはし (道の掛橋), 140, 147, 340, 414, 437
みちのかたがた (道の方々), 92, 229, 303
みちのすえ (道の末), 248, 414
みちのつじうら (道の辻占), 118, 291, 414
みちのはるけさ (道の遥けさ), 72, 107, 352
みちのひとすじ (道の一筋), 93, 250, 414
みちのやすらい (道の安らい), 415, 429
みなかみのもみじちる (水上の紅葉散る), 178, 325
みなせがわ (水無瀬川), 152, 426, 433
みなみはのどか (南は長閑), 75, 431
みにかぎらない (身に限らない), 190, 318
みにしみる (身にしみる), 60, 64, 156, 204, 245, 279, 407, 459
みねこえる (峰越える), 196, 201, 213, 395, 416, 441, 444
みねたかい (峰高い), 267, 416
みねにわかれる (峰に分かれる), 106, 341, 452
みねのあきかぜ (峰の秋風), 66, 163, 416
みねのあらし (峰の嵐), 195, 266
みねのいお (峰の庵), 87, 416
みねのかけはし (峰の掛橋), 140, 340, 416
みねのくも (峰の雲), 147, 196, 202, 416, 433, 442, 445
みねのしらゆき (峰の白雪), 247, 416, 447
みねのふるでら (峰の古寺), 171, 297, 326, 380, 417
みねのまつかぜ (峰の松風), 122, 436
みねのゆき (峰の雪), 417, 448
みののおやま (美濃の小山), 93, 396, 404
みのゆくえ (身の行方), 407, 449
みみにみちる (耳に満ちる), 190, 318
みやこがこいしい (都が恋しい), 204, 417
みやこがとおい (都が遠い), 303, 418
みやごともない (宮事もない), 309, 418
みやこのつきにかえる (都の月に帰る), 139, 289, 418
みやこのはるがすみ (都の春霞), 120, 213
みやこびと (都人), 101, 136, 207, 221
みやのうち (宮の内), 183
みゆきする (御幸する), 106, 341, 451
みよしの (み吉野), 86, 142, 433
みよしののおく (み吉野の奥), 86, 122, 131, 141, 142, 309, 408, 457
みよしののはな (み吉野の花), 351, 457
みよしののはる (み吉野の春), 145, 348
みよしののやま (み吉野の山), 435, 457
みるのもうい (見るのも憂い), 103, 419
みわがさき (三輪崎), 78, 378
みわのすぎむら (三輪の杉群), 91, 256, 313
みをあきちかくとぶほたる (身を秋近く飛ぶ蛍), 129, 184
みをおもう (身を思う), 131, 408
みをしらない (身を知らない), 182, 218, 312, 368, 455
みをしる (身を知る), 182, 219, 312, 368, 455
みをたのむな (身を頼むな), 272, 408
みをやすく (身を安く), 313, 456

むかし (昔), 419
むかしをいまの (昔を今の), 96, 420
むかしをおもうなみだ (昔を思う涙), 131, 325, 420
むかってなみだおちる (向って涙落ちる), 125, 326, 419
むさしのとくさまくら (武蔵野と草枕), 83, 280
むさしののはら (武蔵野の原), 176, 401, 452
むしなく (虫鳴く), 63, 157, 161, 294, 319, 342, 371, 420
むしのこえ (虫の声), 76, 211, 338, 420
むしのこえごえ (虫の声々), 212, 421
むしのなくこえ (虫の鳴く声), 191, 292
むしのね (虫の音), 127, 213, 283, 421
むしのねによがふける (虫の音に夜が更ける), 221, 288, 294
むすぶちぎり (結ぶ契り), 96, 171
むねのおもい (胸の思い), 131, 422
むらさめ (村雨), 177, 179, 377, 393, 423, 430, 440, 458
むらさめがたつ (村雨がたつ), 270, 423
むらさめがふる (村雨がふる), 389
むらさめすぎる (村雨過ぎる), 249, 389, 423
むらさめのくも (村雨の雲), 320, 330, 389
むらさめのそら (村雨の空), 264, 390, 423
むらさめのはれゆくあとはあらし (村雨の晴れゆく後は嵐), 76, 80, 360, 424
むらすすき (群薄), 208, 211, 238, 406
むらちどり (群千鳥), 277, 425
むらどりがねる (群鳥が寝る), 309, 333, 425

もしおくむ (藻塩汲む), 184, 203
もしおのけむり (藻塩の煙), 104, 323
もしおやくけむり (藻塩焼く煙), 118, 253, 323
もずのくさぐき (鵙の草茎), 190, 193, 426
ものおもい (物思い), 258, 293
ものおもう (物思う), 258, 293
ものおもうころ (物思う頃), 121, 131, 158, 223, 427
ものがなしき (物悲しき), 131, 168, 427
ものごと (物毎), 132, 225, 427
ものさびしい (物寂しい), 132, 233, 428
もののふがかぶとをきる (武士が兜着る), 382
もみじちるころ (紅葉散る頃), 103, 419
もみじのにしき (紅葉の錦), 329, 428

もみじば (紅葉葉), 361, 428
ももしきのにわ (百敷の庭), 236, 382
ももとせ (百年), 75, 220, 270
もりのこがくれ (森の木隠れ), 171, 406
もりのしたくさ (森の下草), 119, 193, 243, 428, 449
もろこし (唐土), 221, 442
もろこしぶね (唐土舟), 172, 377
もろこしまでもしたがう (唐土までも従う), 339, 415

やすらい (安らい), 302, 334, 429
やすらう (安らう), 159, 251
やどのうめ (宿の梅), 117, 429
やどのうめのか (宿の梅の香), 117, 135, 429
やどのゆうぐれ (宿の夕暮れ), 201, 429, 443
やどをかる (宿を借る), 177, 430
やどをとう (宿を訪う), 300, 430
やなぎかげ (柳陰), 80, 410
やまおろし (山颪), 442
やまがおぼろ (山が朧), 129
やまがくるしい (山が苦しい), 198, 435
やまかすむくれ (山霞む暮れ), 145, 348
やまかぜがふく (山風が吹く), 95, 235, 451
やまがつ (山賤), 74, 224, 442
やまがつのいお (山賤の庵), 87, 442
やまこえる (山越える), 83, 281
やまざくら (山桜), 91, 119, 137, 162, 173, 184, 228, 242, 349, 354, 435
やまざと (山里), 202, 231, 264, 435, 444
やまたかい (山高い), 69, 448
やまちかい (山近い), 276, 436
やまとうた (大和歌), 76, 350, 413, 428, 453
やまとことのは (大和言の葉), 194, 221, 243, 442
やまなしのはな (山梨の花), 351, 442
やまのあきくれる (山の秋暮れる), 161, 214
やまのいのみず (山の井の水), 85, 411, 436
やまのおく (山の奥), 122, 232, 436
やまのかくれが (山の隠れ家), 86, 142, 436
やまのかげ (山の陰), 146, 210, 362, 436
やまのしたかげ (山の下陰), 147, 243, 437
やまのしたみち (山の下道), 243, 415, 437
やまのは (山の端), 75, 78, 240, 249, 264, 423
やまのはのいろ (山の端の色), 57, 154
やまのはのつき (山の端の月), 58, 155, 171, 289, 327, 338, 437
やまのほととぎす (山の時鳥), 392, 438
やまのまつかぜ (山の松風), 163, 405, 438
やまのゆうぐれのそら (山の夕暮れの空), 390
やまびと (山人), 90, 185, 396
やまぶかい (山深い), 97, 169, 370, 438
やまほととぎす (山時鳥), 78–80, 87, 89, 112, 183, 191, 196, 199, 224, 233, 270, 320, 330, 392, 416, 438
やまもと (山本), 91, 268, 397, 425, 441
やまもとのさと (山本の里), 231, 397, 441
ややさむいそで (やや寒い袖), 235, 260
やよいのあめ (弥生の雨), 79, 443

ゆうあらし (夕嵐), 80, 443
ゆうがお (夕顔), 123, 125, 198, 446
ゆうがおのちぎり (夕顔の契り), 277, 446
ゆうがすみ (夕霞), 306, 357
ゆうぐれのくも (夕暮れの雲), 196, 201, 444
ゆうぐれのそら (夕暮れの空), 201, 264, 444
ゆうぐれのやま (夕暮れの山), 202, 441, 445
ゆうしぐれ (夕時雨), 240, 445
ゆうすずみ (夕涼み), 252, 445
ゆうだち (夕立), 251, 294, 446
ゆうだちのあと (夕立の後), 76, 446
ゆうづくよ (夕月夜), 210, 289, 362, 445, 461
ゆうつけどりをきく (木綿付け鳥を聞く), 185, 447
ゆうひがくれ (夕日隠れ), 90, 120, 341, 424
ゆうべ (夕べ), 183, 242, 275, 292, 402, 445
ゆうべかぎる (夕べ限る), 141, 445
ゆうまぐれ (夕まぐれ), 62, 104, 122, 158, 188, 232, 445
ゆきがふりはれる (雪がふり晴れる), 361, 380, 448
ゆききえる (雪消える), 110, 184, 206, 448
ゆきつれる (行き連れる), 93, 250, 414
ゆきとはなのかげ (雪と花の陰), 75, 300
ゆきになる (雪になる), 448
ゆきのあけぼの (雪の曙), 69, 448
ゆきのあさあけ (雪の朝明け), 70, 73, 448
ゆきのうち (雪の内), 113, 449
ゆきのしたいお (雪の下庵), 267
ゆきのたけのすえずえ (雪の竹の末々), 111, 276, 334
ゆきのなかぞら (雪の中空), 265, 313, 449
ゆきのむらぎえ (雪の斑消え), 151, 329
ゆきのやまもと (雪の山本), 327
ゆきはふりつつ (雪はふりつつ), 108
ゆきふる (雪ふる), 266, 413
ゆくえしれない (行方知れない), 314
ゆくすえのそら (行く末の空), 265, 450
ゆくすえのはる (行く末の春), 229, 435
ゆくほととぎす (行く時鳥), 88, 395
ゆめかうつつか (夢か現か), 390
ゆめさめる (夢覚める), 124, 235, 282, 325, 399, 451
ゆめのうきはし (夢の浮橋), 106, 152, 196, 340, 451, 457
ゆめのおもかげ (夢の面影), 133, 192, 277, 399, 452
ゆめのかりまくら (夢の仮枕), 176, 401, 452

ゆめもうつつも (夢も現も), 268, 304

よいのま (宵の間), 95, 143
よがあける (夜が明ける), 70, 93, 403, 425, 461
よがおさまる (世が治まる), 147
よがながい (夜が長い), 235, 282, 299, 314, 333, 461
よがふかい (夜が深い), 370, 462
よがふける (夜が更ける), 113, 172, 209, 214, 224, 268, 284, 374, 462
よきのかみがき (与喜の神垣), 343
よきのみやしろ (与喜の御社), 428, 456
よこぐも (横雲), 68, 69, 359, 431
よこぐもかすむ (横雲霞む), 152, 196, 457
よこぐものそら (横雲の空), 196, 265, 457
よざむおぼえる (夜寒おぼえる), 128, 235, 462
よしのがわ (吉野川), 315, 409
よしのがわのはな (吉野川の花), 351, 458
よしや (よしや), 128, 214
よそのゆうぐれ (余所の夕暮れ), 343
よつのおのこえ (四緒の声), 423
よどのかわぶね (淀の川舟), 179, 377, 458
よにながらえる (世に長らえる), 314, 456
よのなか (世の中), 130, 313, 321, 456
よのならい (世の習い), 326, 456
よばかりかかる (世ばかり掛かる), 140, 456
よはしののめ (夜は東雲), 244, 462
よぶかいみち (夜深い道), 82
よぶこどり (呼子鳥), 122, 149, 150, 221, 271, 275, 402, 412, 457, 458
よもぎう (蓬生), 458
よもぎうのかげ (蓬生の影), 147, 326, 419, 456, 458
よもすがら (夜もすがら), 252, 398, 447, 462
よるくむさかずき (夜汲む杯), 194, 226, 462
よるにかりなく (夜に雁鳴く), 195, 287, 425
よるのゆめ (夜の夢), 452, 463
よわのあきかぜ (夜半の秋風), 66, 164, 463
よわのつき (夜半の月), 110, 126, 165, 206, 240, 257, 289, 294, 379, 394, 413, 420, 440, 463
よわのむしのね (夜半の虫の音), 127, 421, 463
よわりはてる (弱り果てる), 344, 463
よわるむしのね (弱る虫の音), 64, 177, 251, 345, 373
よをいとう (世を厭う), 94, 456
よをこめる (夜をこめる), 83, 263, 285

わがうえ (我が上), 182, 219, 313, 368, 455
わがおもいぐさ (我が思い草), 177, 378
わかぎのさくら (若木の桜), 105, 253, 345, 363
わかくさまくら (若草枕), 193, 401, 464
わがこころ (我が心), 202, 265, 444, 465
わかつ (分かつ), 303
わがなみだ (我が涙), 131, 422
わかばのくずのかかるうもれぎ (若葉の葛の掛かる埋もれ木), 138, 355
わからない (わからない), 97, 169
わかれじ (別れ路), 132, 365
わかれじのあと (別れ路の跡), 77, 415, 464
わかれである (別れである), 193, 353, 465
わかれる (別れる), 244, 462, 464
わかれるたびはかなしい (別れる旅は悲しい), 168, 274, 464
わかれをいそぐ (別れを急ぐ), 67, 262
わけるほととぎす (別ける時鳥), 395, 465
わずかにみえるおきのしま (わづかに見える沖の島), 77, 128, 375
わすれとうくさはら (忘れ訪う草原), 193, 301, 353, 465
わすれもしない (忘れもしない), 465
わすれようとする (忘れようとする), 465
わすれるなよ (忘れるなよ), 193, 353, 465
わたしぶね (渡し舟), 178, 256, 378, 412, 466
わたのはら (わたの原), 164, 301, 432
わたるかりがね (渡る雁), 175, 193, 240, 293, 466
わびぬればおもう (侘ぬれば思う), 252, 310, 453
わびびと (侘人), 369, 466
われおどろく (我驚く), 309, 333, 425
われでなくなるのがうい (我でなくなるのが憂い), 103, 328, 467
われのみひとりそでをぬらす (我のみ一人袖を濡らす), 130, 220, 363

編著者略歴

山田　奨治（やまだ　しょうじ）

一九六三年大阪府生まれ。筑波大学大学院修士課程医科学研究科修了。筑波技術短期大学視覚部情報処理学科助手を経て現在、国際日本文化研究センター研究部助教授、総合研究大学院大学文化科学研究科助教授。博士（工学）

著書『禅という名の日本丸』（弘文堂　二〇〇五年）
『情報のみかた』（弘文堂　二〇〇五年）
『日本文化の模倣と創造
　―オリジナリティとは何か―』（角川選書　二〇〇二年）など。

岩井　茂樹（いわい　しげき）

一九六九年奈良県生まれ。総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程修了。現在、国際日本文化研究センター研究部技術補佐員。博士（学術）

著書『茶道と恋の関係史』（思文閣出版　二〇〇六年）
『百人一首万華鏡』（白幡洋三郎編、共著、思文閣出版　二〇〇五年）
『日本文芸史』第八巻（現代Ⅱ）
　（鈴木貞美編、共著、河出書房新社　二〇〇五年）など。

日文研叢書38

連歌の発想
連想語彙用例辞典と、そのネットワークの解析

二〇〇六年一〇月二〇日発行

著編者　山田奨治・岩井茂樹
発行所　国際日本文化研究センター
　京都市西京区御陵大枝山町3-2
印刷所　創文堂印刷株式会社
　福井市問屋1-7

ISBN 4-901558-32-3　PRINTED IN JAPAN

連歌の発想

連想語彙用例辞典と、そのネットワークの解析

山田奨治・岩井茂樹 編著

日文研